SUBARU

FORESTER

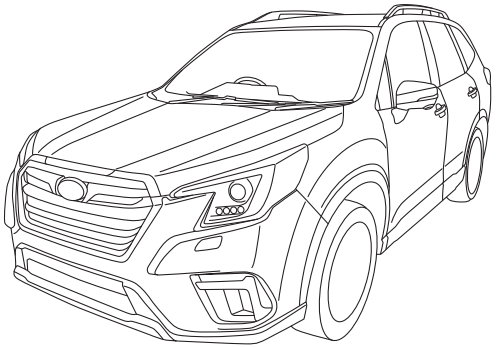
取扱説明書

スマートフォン用
アプリでもご覧い
ただけます。ダウ
ンロードはこちら

ご使用になる前に必ずお読みください。

このたびは「フォレスター」をお買い上げいただき、ありがとうございます。

本書は車両の取り扱いかたについて必要事項・重要事項をご説明しています。安全で快適にお使いいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。
また、法律で使用者に点検・整備の義務が規定されており、使用者の保守管理責任がうたわれています。別冊の「メンテナンスノート」と併せてお読みください。



- 交通ルール・マナーを守って運転しましょう。
- 自然環境保護にも気をくばりましょう。
- 「ナビゲーションシステム」の取り扱いについては、別冊または、付属の取扱説明書をお読みください。
- スバル販売店で取り付けられた装備（ディーラーオプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。
- 保証内容および点検整備については、別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。
- 取扱説明書は「メンテナンスノート」とともに、お車に保管してください。
- お車をゆずられるときは、次のオーナーのために保証の有無にかかわらず取扱説明書、メンテナンスノート、キーナンバープレートをお車につけておゆずりください。
- 装備については販売店でカタログをご請求ください。
- ご不明な点は担当営業スタッフにおたずねください。

車の仕様などの変更により、本書の内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

本書の見かた

表示やマークについて

安全に関する表示

車に乗っている人や歩行者を含めた他の人が傷害を受ける可能性のあることや、お車が損傷する可能性があることを、回避法とともに示しています。

⚠ 警 告	指示に従わないと、死亡、または重大な傷害につながるおそれがあります。
⚠ 注 意	指示に従わないと、傷害につながるおそれがあります。 また、お車が損傷する可能性があります。

禁止行為は禁止マークが入っています。

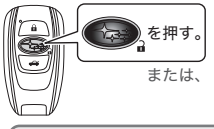
	禁止事項を示しています。

その他の表示

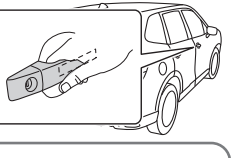
知 識	知っておくと便利なこと 知っておいていただきたいこと
	グレードやオプションなどにより異なる装備については よつばマークがついています。

クイックガイド

1 鍵を開ける P.245



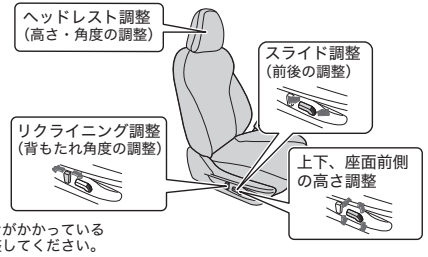
アクセスキーを携帯し、運転席または助手席のドアハンドルを握る。



アクセスキーが作動しないときは・・・

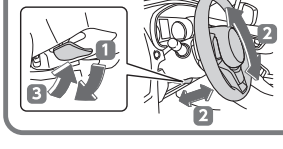
電波ノイズの影響または電池切れが考えられます。再度操作しても作動しないときは、メカニカルキーでの操作も可能です。アクセスキーの電池の消耗・故障の場合は、スバル販売店にご相談ください。詳細は「**アクセスキーが正常に作動しないとき**」(P.771) をご覧ください。

2 シートを調整する P.306



※エンジンがかかっているときに調整してください。

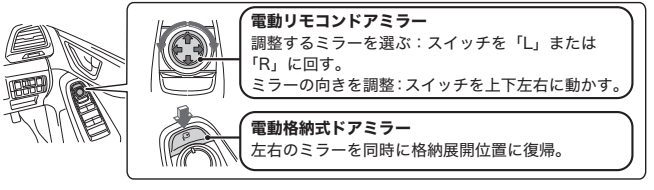
3 ハンドルの位置を調整する P.322



1. チルト／テレスコピックレバーを押し下げる。
2. ハンドル位置を合わせる。
3. チルト／テレスコピックレバーを引き上げる。
   ※ハンドルが固定されていることを確認してください。

4 ミラーの向きを調整する P.330

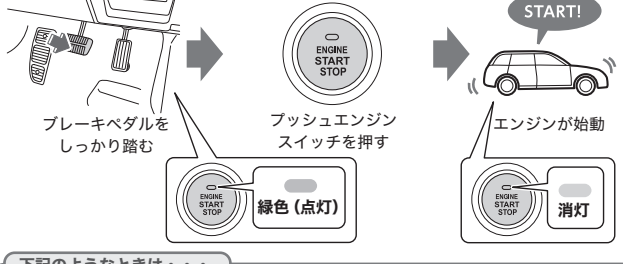
エンジンスイッチが ACC または ON のときに調整できます。



電動リモコンドアミラー
調整するミラーを選ぶ：スイッチを「L」または「R」に回す。
ミラーの向きを調整：スイッチを上下左右に動かす。

電動格納式ドアミラー
左右のミラーを同時に格納展開位置に復帰。

5 エンジンをかける P.369



ブレーキペダルをしっかり踏む

プッシュエンジンスイッチを押す

エンジンが始動

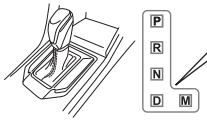
下記のようなときは・・・

橙色 (点滅) 車両の異常が考えられます。直ちにスバル販売店にご連絡ください。

緑色 (点滅) ステアリングロックが解除されていません。

6 セレクトレバーを操作する P.390

セレクトレバー



マニュアルモード
セレクトレバーを“D”から“M”に動かすとマニュアルモードになります。**パドルシフト**で変速できます。

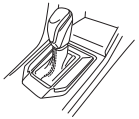
パドルシフト

1段下のギヤに変速

1段上のギヤに変速

7 エンジンを止める P.371

お車を完全に停止する



セレクトレバーを“P”の位置にする

プッシュエンジンスイッチを押す

駐車するときは、お車が動き出さないように**電動パーキングブレーキ**をかけてください。

確認してください！

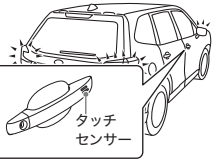
セレクトレバーが“P”以外でもエンジンは停止しますが、電源は**ACC**（橙色に点灯）になります。お車から離れるときは、電源が**OFF**（消灯）になっていることを確認してください。

8 鍵を閉める P.245

を押す。

または、

アクセスキーを携帯し、ドアハンドルのタッチセンサーに触れる。

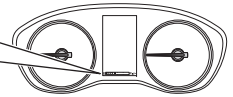


9 給油する P.275

フューエルリッドの位置 P.275

メーター表示部の燃料計にフューエルリッド（燃料給油口）の位置を示す表示があります。

右側



フューエルリッドを開ける P.276

解錠後に**フューエルリッド**を押す。

MEMO

目次

イラスト目次

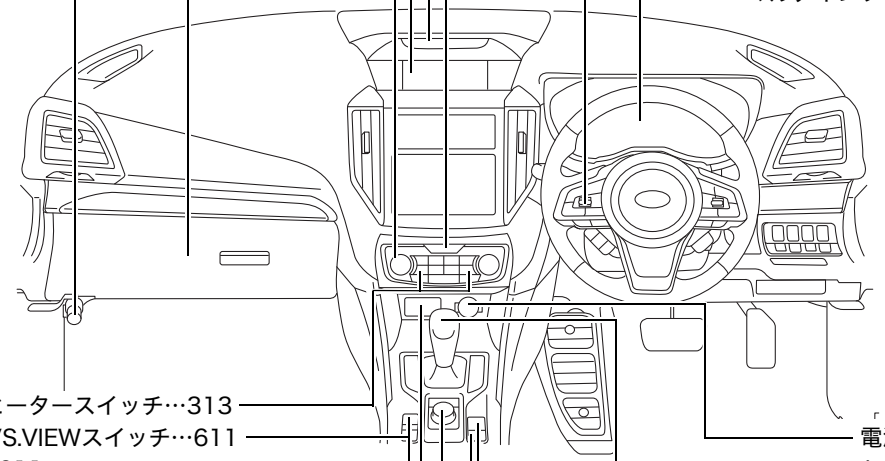
必読！安全で快適な運転のポイント

1. 安全ドライブ	● シートベルト…38 ● SRSエアバッグシステム…53	● 歩行者保護エアバッグ…72	● お子さまの安全…85
2. メーターの見かた	● コンビネーションメーター …108	● マルチファンクションディスプレイ…165	
3. 各部の操作	● 各部の開閉…238 ● セキュリティシステム…295	● 運転前の調整…303	● スイッチの使いかた…340
4. 運転するとき	● AWD車の特長…362 ● エンジン始動…365 ● ハンドル…375	● ブレーキ…376 ● シフト操作…390	● EyeSight…415 ● 運転支援機能…574
5. 室内装備	● エアコン…644	● 室内装備…662	
6. メンテナンス	● お車の手入れ…688 ● 点検整備…698	● 寒冷地での使いかた…738 ● 雪や霜の除去…745	● 日常点検…748
7. 万一の場合	● 車載工具…754 ● パンクしたとき…757 ● 発炎筒…761	● 故障したとき…763 ● けん引のとき…781 ● オーバーヒートしたとき…789	● 事故が起きたとき…792 ● 水没したとき…794
8. 仕様一覧	● 仕様一覧…796	● カスタマイズ機能…801	

困ったときのQ&A、故障と思う前に、さくいん

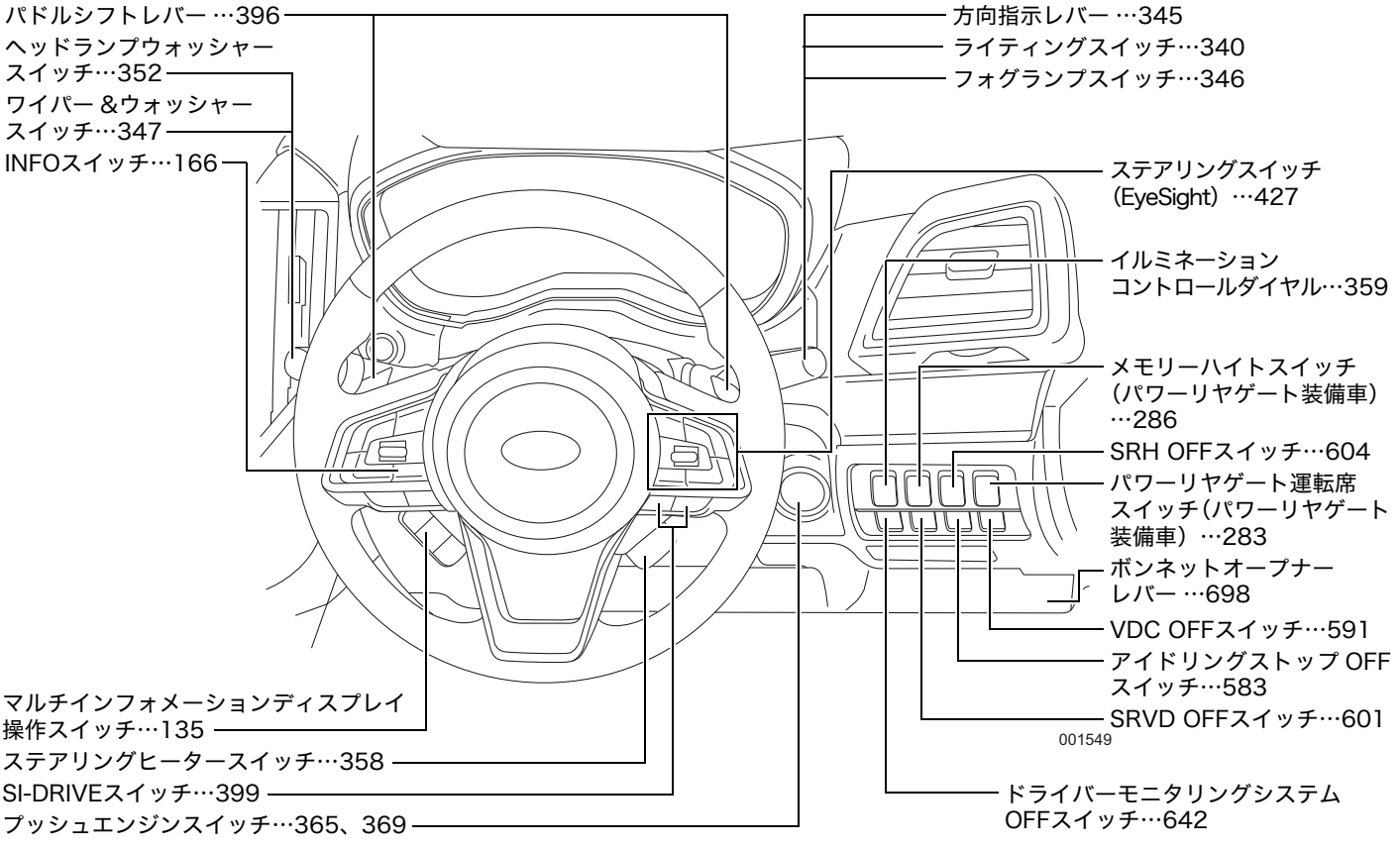
イラスト目次

インストルメントパネル周辺



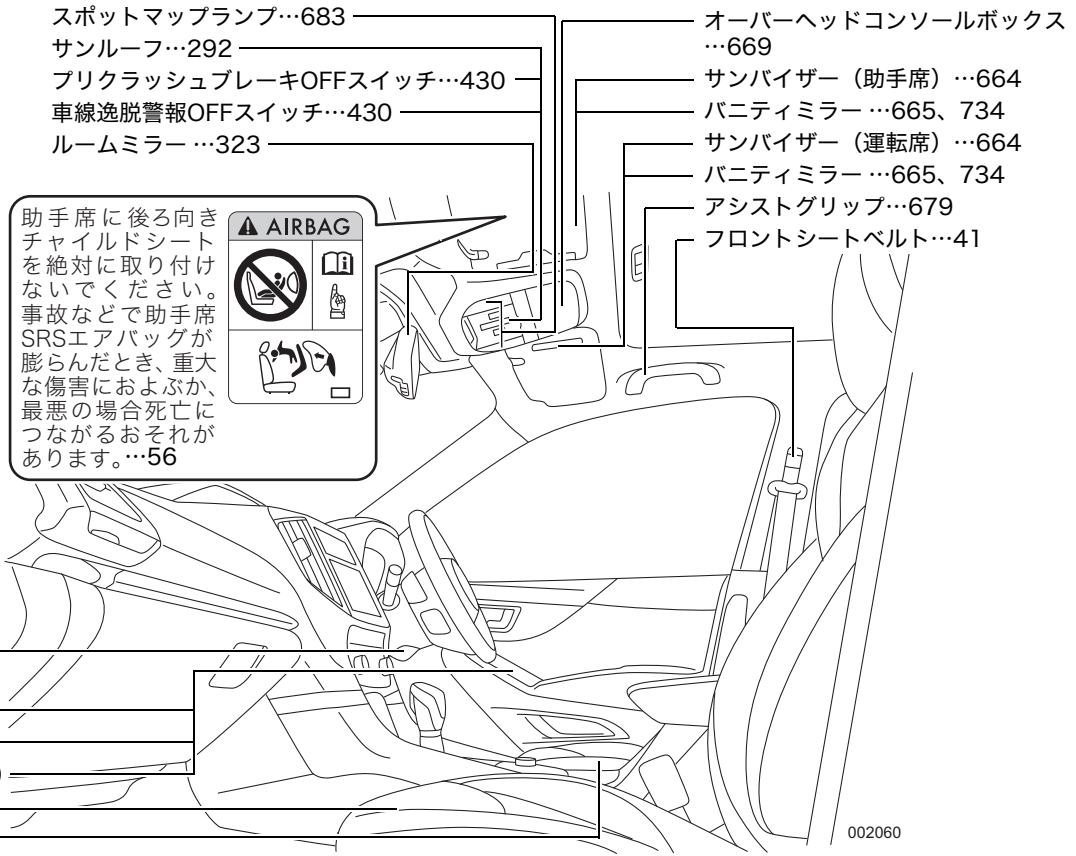
※ 本イラストはグレードやオプションなどにより実物と一部異なります。

ハンドル周辺



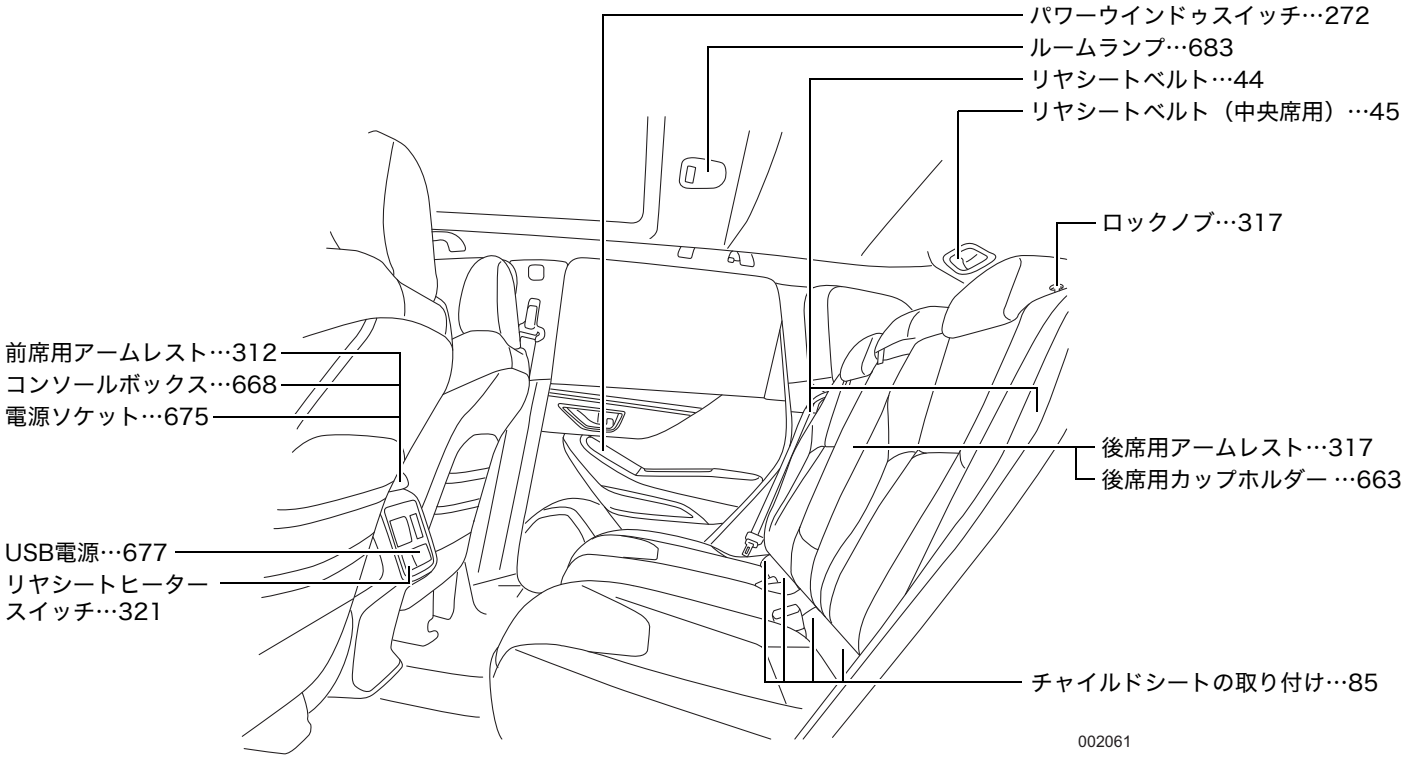
※ 本イラストはグレードやオプションなどにより実物と一部異なります。

室内・前側



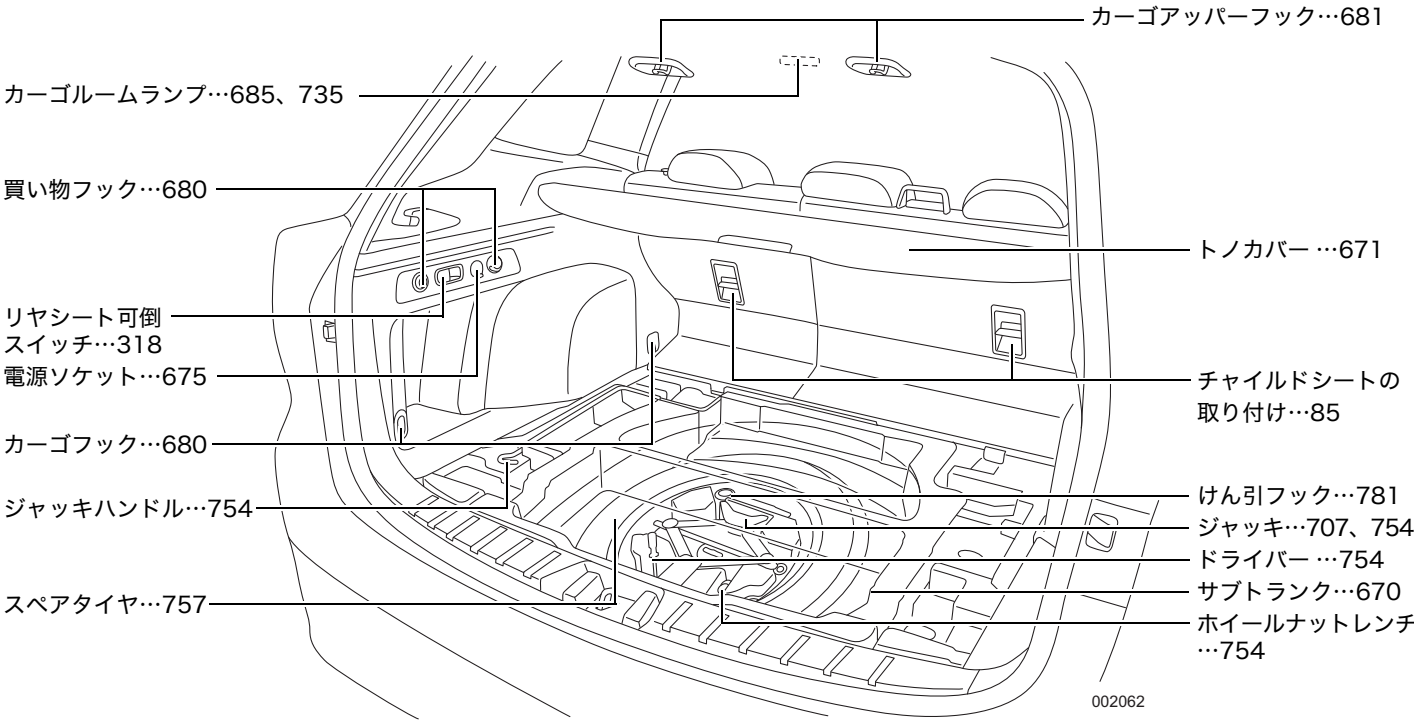
※ 本イラストはグレードやオプションなどにより実物と一部異なります。

室内・後側



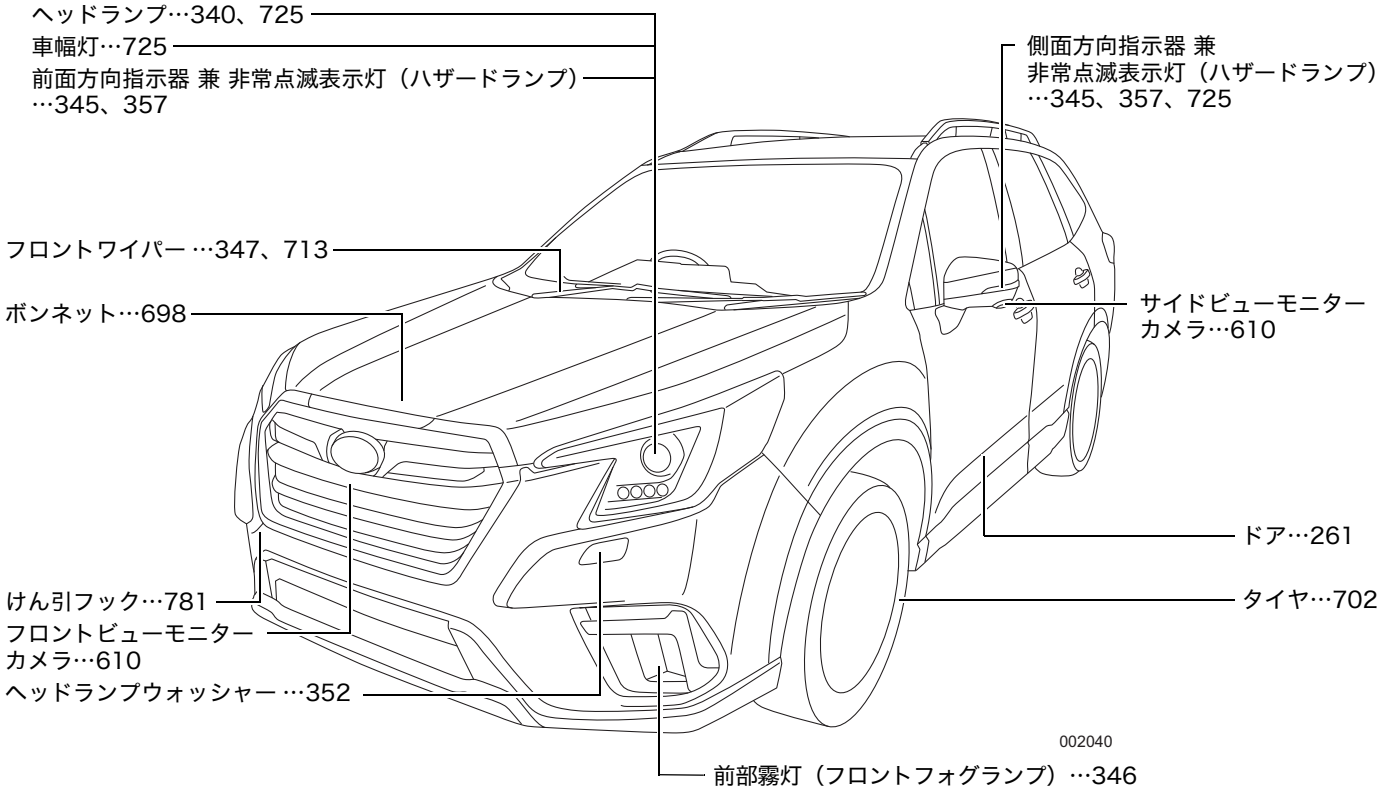
※ 本イラストはグレードやオプションなどにより実物と一部異なります。

荷室

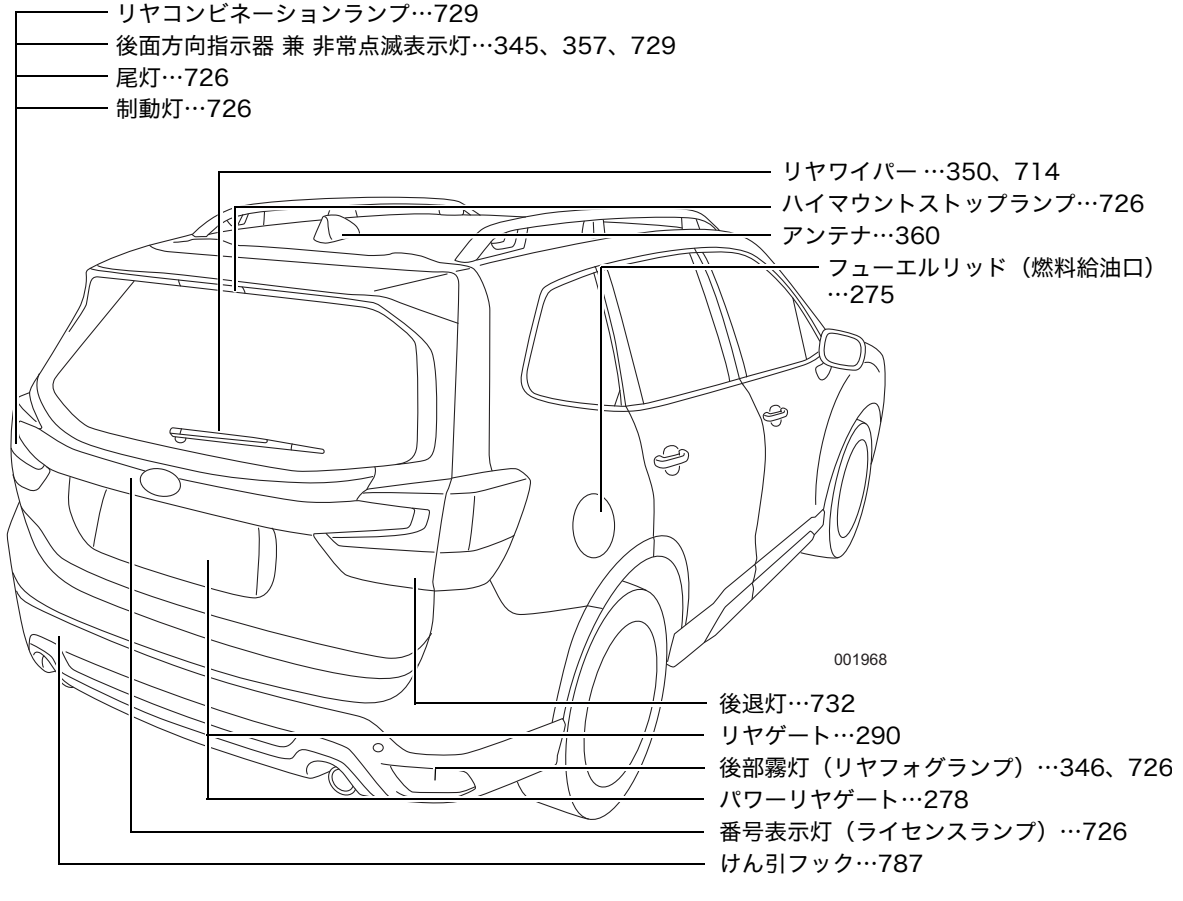


※ 本イラストはグレードやオプションなどにより実物と一部異なります。

外観



※ 本イラストはグレードやオプションなどにより実物と一部異なります。



※ 本イラストはグレードやオプションなどにより実物と一部異なります。

表示灯

	電動パーキングブレーキ作動灯…114、387
	方向指示器表示灯…114
	ライティングスイッチ表示灯…115
	ハイビーム／パッシング表示灯…115
	フロントフォグランプ表示灯…115
	リヤフォグランプ表示灯…115
	セキュリティ表示灯…115、297
	VDC作動表示灯…115、589

	セレクトインジケーター…115
	シフトポジション表示…116
	AVH表示灯…116、575
	AVH作動灯…116、575
	VDC OFF表示灯…116、591
	SRH OFF表示灯…116、605
	SRVD OFF表示灯…116、601
	ADB表示灯（緑色）…116

	全車速追従機能付クルーズ表示灯…117
	定速クルーズ表示灯…117
	READY表示灯…117
	HOLD表示灯…117
	先行車表示灯…117
	自車表示灯…117
	車間設定表示灯…118
	セット車速表示…118

	レーンキープ表示灯…118
	レーンキープ先行車表示灯…118
	エマージェンシーレーンキープアシストOFF表示灯…118
	緊急時プリクラッシュステアリングOFF表示灯…119
	I（インテリジェントモード）表示…119
	S（スポーツモード）表示…119
	X（エックス）モード表示灯…119

	ヒルディセントコントロール表示灯…120
	アイドリングストップ表示灯（緑色）…120、584
	アイドリングストップOFF表示灯（黄色）…120、584
	RAB OFF表示灯／一時停止表示灯…120、566
	車線表示灯…121
	水温表示灯（青色）…132
	車線逸脱警報OFF表示灯…121

	プリクラッシュブレーキOFF表示灯…121
	EyeSight一時停止表示灯（白色）…122
	低温表示灯…122
	ドライバーモニタリングシステム作動表示灯（緑色）…122
	ドライバーモニタリングシステムOFF表示灯…122
	ドライバーモニタリングシステム一時停止表示灯…122

警告灯

	ブレーキ警告灯（赤色） …123
	電動パーキングブレーキ警告灯（黄色）／ブレーキ負圧系警告灯（黄色）…124
	シートベルト警告灯 …49、124
	半ドア警告灯…125
	ABS警告灯…125、379
	AWD警告灯…126
	SRSエアバッグ警告灯 …71、126
	オイルプレッシャー警告灯 …127

	歩行者保護エアバッグ警告灯…83、127
	AT油温警告灯…127
	チャージ警告灯…128
	エンジン警告灯…128
	燃料残量警告灯…129
	VDC警告灯…130、589
	LEDヘッドランプ警告灯 …131
	ADB警告灯（黄色） …131

	SRH警告灯…131
	SRVD警告灯 …131、599
	オートヘッドランプレベラー警告灯…132
	水温警告灯（赤色）…132
	ステアリング制御警告灯 …132
	アイドリングストップ警告灯（黄色） …132、584
	RAB警告灯…133、567
	ボンネット開警告灯…133

	ドライバーモニタリングシステム警告灯（黄色）…133
	EyeSight警告表示灯（黄色）…133

必読！安全で快適な運転のポイント

お車をお使いいただく上で

■キーナンバープレートの保管

- キーナンバーは車両修理やスペアキーを作るときに必要となります。これらのナンバーが打刻してあるプレートを紛失すると、スペアキーを作ることができません。盗難防止のため車の中には置かず、大切に保管してください。
- 万一、キーを紛失したときには、盗難を防ぐため紛失したキーの登録を消去するようお奨めします。登録の消去は、スバル販売店でのみ行えます。
  スバル販売店にご相談ください。

☞P.238参照

■不正改造は絶対にしないで

- 車の性能や機能に適さない部品を取り付けたり、自己流のエンジン調整や配線などを行わないでください。車両火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- スバルが国土交通省に届け出をした部品以外のものを取り付けると、不正改造になることがあります。スバル販売店にご相談ください（タイヤ、ホイール、マフラーなど）。

■故障診断コネクターに機器を取り付けないで

車の故障診断コネクターには、点検整備用の故障診断装置のみが接続できます。故障診断装置以外の機器を接続すると、車両システムに悪影響を及ぼしたり、バッテリーが上がるなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。特定機器以外の接続に起因する不具合については、メーカー保証の対象にはなりません。

■純正部品をお奨めします

マフラー、エアクリーナーエレメント、エンジンオイル、オイルフィルター、冷却水、タイヤチェーンなどの部品は、スバル純正部品の使用をお奨めします。純正部品以外を使用すると保証を受けられない場合や、故障の原因になることがあります。
例えば、マフラーやエアクリーナーエレメントの変更はエンジンの損傷を招くおそれがあります。スバル純正部品は、スバル車に合うよう厳しい検査を実施して作られています。
詳しくは「メンテナンスノート」をご覧ください。

お出かけ前には

■点検整備を実施して

安全で快適な運転をするために、日常点検整備および定期点検整備を実施することが法律で義務付けられています。

☞「メンテナンスノート」参照

■正しい運転姿勢に調整して

走行前にシート、ハンドル、ヘッドレストの位置を正しい運転姿勢がとれるように調整し、ドアミラー、ルームミラーなどを適切な位置に調整してください。

☞P.303参照

■シートベルトは全員正しく着用して

- 走行する前に必ずシートベルトを正しく着用し、走行中はシートベルトを外さないでください。
- 乗員は全員、シートベルトを着用してください。後席でも必ずシートベルトを着用してください。
- SRSエアバッグは、シートベルトの補助装置でシートベルトに代わるものではありません。シートベルトは必ず着用してください。

☞P.38参照

■運転席の足元はすっきりと

- 足元のまわりにあき缶などの物を放置しないでください。ブレーキペダルの下に物が挟まってブレーキ操作ができなくなることがあります。
- フロアマットはお車に合ったものを正しく敷いてずれないように固定クリップなどで固定してください。また、フロアマットを2枚以上重ねて使用しないでください。
  フロアマットがずれてアクセルペダルやブレーキペダルに引っかかり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- スバル純正のフロアカーペットをご用意しています。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

■サンダルでの運転はやめて

厚底靴やサンダル、下駄での運転は、アクセルペダルやブレーキペダルが思うように踏み込めず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■室内に荷物を積むとき

- 荷物はできるだけ低くし、背もたれの高さ以上に積まないでください。ブレーキペダルを踏んだとき荷物が移動し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- トノカバーの上に荷物を置かないでください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、けがをするおそれがあり危険です。

☞P.671参照

■ルーフに荷物を積むとき

- ルーフやルーフレールに直接荷物を積んだり、不用意にロープかけをしないでください。荷くずれを起こしたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ルーフに荷物を積むときは、別売のスバル純正ルーフキャリアおよびアタッチメントを使用してください。スバル純正品以外を使用すると、車体に損傷を与えることがあります。
- 走行中荷物が落下すると危険ですので、確実に荷物を固定してください。
- 固定方法や最大積載量などの取り扱い上の注意については、ルーフキャリアおよびアタッチメントに付属の取扱説明書を必ずお読みください。

■インストルメントパネルの上やハンドル、スイッチの近くに物を置かないで

- インストルメントパネルの上に物を置いたまま走行しないでください。運転者の視界を妨げたり、発進時や走行中に動いて安全運転の妨げになり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- スイッチの近くに物を置かないでください。走行中に突然スイッチが押され、思わぬ機能が作動したり、場合によっては故障や過熱・車両火災の原因になります。
- SRSエアバッグが作動したときの衝撃で物が飛び、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ハンドルやその周辺に物を置いたり、ひもやケーブルなどを引っかけたりしないでください。スイッチの誤操作を引き起こす原因になるおそれがあるだけでなく、SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

☞P.58、322参照

■危険物の持ち込みはやめて

燃料の入った容器や可燃性ガス入りスプレー缶、ガスライターなどは、炎天下で車内が高温になったとき、車両火災の原因になるおそれがあります。また、万一事故が起きたときにも危険です。

■排気ガスの換気に気をつけて

車庫など換気の悪い場所でエンジンをかけたままにしないでください。車内や車庫などに排気ガスが充満し、一酸化炭素中毒や、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■車内に排気ガスが侵入してきたと感じたら

すみやかに窓を開け、換気してください。
そのまま放置すると、排気ガスにより一酸化炭素中毒や、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■車の後ろに気をつけて

- お子さまや障害物など、車のまわりの安全を十分確認してください。
- 燃えやすい物があると、排気管や排気ガスの熱により車両火災になるおそれがあります。

■こんなとき、スバル販売店で点検を受けて

次の場合は車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと走行に悪影響を及ぼしたり、事故につながるおそれがありますのでスバル販売店で点検を受けてください。

- いつもと違うにおいや音、振動がするとき
- ハンドル操作に異常を感じたとき
- ブレーキ液が不足しているとき
- 地面に油の漏れた跡が残っているとき
- 各警告灯が点灯・点滅したままのとき
- リヤバンパーに強い衝撃を受けたとき

☞P.422、602参照

- フロントバンパーに傷がついたり衝撃を受けたとき

☞P.72参照

お子さまを乗せるときの注意

■お子さまは後席に

助手席ではお子さまの動作が気になったり、お子さまが運転装置に触れて思わぬ事故につながるおそれがあります。お子さまは後席に座らせ、必ずシートベルトを着用させてください。6歳未満のお子さまはチャイルドシートの着用が法律で義務付けられています。12歳以下、または身長150 cm以下のお子さまが乗車するときは、必ずチャイルドシートを使用してください。また、チャイルドシートは後席に取り付けて使用してください。後席がお子さまにとって最も安全な乗車位置です。

☞P.55、85参照

■チャイルドシートを使用して

- お子さまの年齢や体格に合わせ、適切なチャイルドシートを選んでください。
- チャイルドシートの取り付け方法および取り外し方法は、それぞれチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。
- この車は、2006年10月1日施行の保安基準に適合したロアアンカレッジを標準装備しています。

- ECE R44※1の基準に適合するチャイルドシートは、お子さまの体重によって次の5つの質量グループに分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
0	10 kg以下
0+	13 kg以下
I	9 kg～18 kg
II	15 kg～25 kg
III	22 kg～36 kg

- ECE R129※1 の基準に適合するチャイルドシートは、お子さまの身長および月齢によってサイズおよび取り付け向きを規定しています。

種類	取り付け向き	適用範囲
ベビーシート	後ろ向き	身長、月齢制限はありません
チャイルドシート	後ろ向き	
	前向き	身長76 cm以上※2かつ月齢15か月以上
ジュニアシート	前向き	身長100 cm以上

※1: ECE R44およびECE R129は、チャイルドシートに関する国際的な安全基準です。

※2: チャイルドシートによっては身長 71 cm から前向きでの取り付けに対応しているものもあります。

- チャイルドシートは後席に取り付けてください。
- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- チャイルドシートはお子さまを乗せていないときでもしっかりとシートに固定しておいてください。また、荷室に収納する場合でもロープなどを利用して固定してください。固定しないまま客室または荷室に放置すると、ブレーキをかけたときなどにチャイルドシートが動き乗員や物に当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■お子さまにも必ずシートベルトを

- お子さまにもシートベルトを適正な位置に調整し着用させてください。適正な位置でシートベルトを着用できないお子さまには、チャイルドシートを使用してください。
- 膝の上でお子さまを抱いていると、衝突したとき十分に支えることができず、重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトは一人用です。お子さまを抱いたままでのシートベルトの着用は絶対にしないでください。
- お子さまを SRS エアバッグの前やシートの上に立たせた状態では走行しないでください。

■ドアの開閉に注意して

- 開閉、施錠は必ず大人が行ってください。開閉するときはお子さまの手や足などを挟まないように注意してください。また、安全のため、チャイルドプルーフをご利用ください。

☞P.261参照

- ドア開閉時、ドアハンドルに指・爪などを挟まないように注意してください。

■窓から顔や手を出させないで

走行中、車外の物などに当たったり、急ブレーキ時に思わぬけがをするおそれがあり危険です。

■パワーウインドゥやサンルーフに気をつけて

- パワーウインドゥやサンルーフが閉まるときには大きな力が働きます。挟まれると危険ですので、操作をする前にお子さまが窓から顔や手を出していないことを確認してください。
- 挟まれると危険ですので、小さなお子さまにはスイッチ操作をさせないでください。
- お子さまを乗せるときには、パワーウインドゥのロックスイッチをロック状態にしておいてください。
  お子さまがいたずらして、手や首を挟むことを防止します。

☞P.269、292参照

■パワーリヤゲートに気をつけて

- パワーリヤゲートが動くときには大きな力が働きます。挟まれたり、ぶつかったりすると危険ですので、操作をする前に周辺にお子さまがいないことを確認してください。
- 挟まったりぶつかったりすると危険ですので、小さなお子さまには操作させないでください。

■車から離れるときはご一緒に

- お子さまのいたずらによる思わぬ事故を防ぐため、必ずプッシュエンジンスイッチをOFFにしてキーを携帯し、お子さまを連れてお車を離れてください。
- 特に乳児など小さなお子さまや身体の不自由な方は、車内に残さないでください。炎天下の車内は高温となり、熱中症などにつながるおそれがあります。
  エアコンを作動させていても途中で止まることがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

CVT車の特徴と運転上の注意

■強い加速を必要とするときキックダウンができます

- 走行中にアクセルペダルを深く踏み込むと自動的に低速ギヤに切り替わります。これを「キックダウン」といい、強い加速力を必要とするときに使用します。
- セレクトレバーを“M”にしているときは、キックダウンはできません。キックダウンを行う必要のあるときは、“D”に戻してください。

■ブレーキペダルは右足で

- エンジンを始動する前にペダルの位置を確認してください。ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながります。
- アクセルペダルとブレーキペダルは右足で操作してください。慣れない左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れることがあり危険です。

■セレクトレバーの操作は確実に

- 発進時、セレクトレバーの操作を行うときは、アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏みながら操作をしてください。
- エンジン始動後、セレクトレバーはブレーキペダルを踏まないと“P”から動かないようになっています。また、アクセルペダルを踏んだまま操作すると急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 誤発進防止のため、後退した後はセレクトレバーをすみやかに“R”から“P”または“N”にする習慣をつけてください。

■セレクトレバー位置は目で確認

エンジンを始動するときは“P”、前進するときは“D”、後退するときは“R”の位置にあることを目で確認してください。

■発進時、アクセルペダルの踏み込みはゆっくりと

アクセルペダルを急激に踏み込むと、急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。発進時はゆっくりとアクセルペダルを踏み込んでください。

■走行中はセレクトレバーを“N”にしないで

エンジンブレーキが効かなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■セレクトレバーは正しい位置で

セレクトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、“R”に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。

■駐車するときは “P” にして、電動パーキングブレーキを確実にかけ、プッシュエンジンスイッチをOFFにします

お車がひとりでに動き出したり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏むと急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。セレクトレバーを“P”にして電動パーキングブレーキを確実にかけ、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。

☞P.383参照

■お車から離れるときはプッシュエンジンスイッチをOFFにして

- セレクトレバーを“P”にして電動パーキングブレーキを確実にかけプッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。
- クリープ現象※でお車がひとりでに動き出したり、乗り込むとき誤って急発進し思わぬ事故につながるおそれがあります。

※ エンジンがかかっているとき、セレクトレバーが “P” または “N” 以外でアクセルペダルを踏まなくても、ゆっくりと車が動き出す現象。

走行するときには

■タイヤ交換のときは

4輪のうち1輪でも異なるタイヤを装着していると、車両の駆動系の損傷や最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。また、操縦性・ブレーキ性能に影響し、事故につながるおそれがあります。タイヤの交換を行う場合は、次の事項をお守りください。冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着するときも同様です。

- 4輪とも必ず指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
- タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
- 応急用スペアタイヤは指定されたサイズを後輪に装着してください。

☞P.705、757、799参照

■走行中異常があったら

- 警告灯が点灯・点滅したら、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店にご連絡ください。そのまま走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

☞P.123参照

- ボンネットを開けて点検するときは、高温部に触れないでください。ボンネット内部は高温のため、やけどをするおそれがあります。
- エンジンの回転部分には絶対に触れないでください。重大な傷害につながるおそれがあります。
- 床下に衝撃を受けたときは安全な場所に直ちに車を止め、ブレーキ液や燃料の漏れ、オイル漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。やけどの危険がありますので排気管には触れないように注意してください。損傷や異常がある場合は、スバル販売店にご連絡ください。
- 走行中にタイヤがパンクしたときは、急ブレーキをかけないでください。ハンドルを確実に握り、徐々にスピードを落としながら、そのまままっすぐ運転し、ゆっくりと安全な場所に停車してください。

☞P.757参照

■ブレーキペダルに足をのせたまま運転しないで

ブレーキの部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱して効きが悪くなるおそれがあります。

■洗車後や水たまりを走行した後はブレーキの効き確認を

- 路面がぬれると滑りやすくなります。
  ぬれた路面や滑りやすい路面の走行は、通常より注意して安全運転を心がけて慎重に行ってください。特に雨の降り始めは注意してください。また、急ブレーキ、急ハンドルなどやエンジン回転数が急上昇するような急なシフトダウンは避けてください。タイヤがスリップして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、ハンドルやブレーキが効かなくなり危険です（ハイドロプレーニング現象）。スピードを落として走行してください。特に摩耗したタイヤは、ハイドロプレーニング現象が起こりやすいので注意してください。
- 水たまり走行後や洗車後、ブレーキの効きが悪くなることがあります。ブレーキペダルを軽く踏んで効きを確認してください。ブレーキの効きが悪い場合は前後の車に十分注意して低速で走行しながら効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回踏んでください。

■冠水した道路を走行しないで

冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、エンジン損傷などの重大な車両故障につながるおそれがあります。

- 万一、水中に浸かってしまったときは、必ずスバル販売店で点検を受けてください。
- 水位によっては水圧でドアが開かなくなり、車両から脱出できなくなるおそれがあります。

■下り坂ではエンジンブレーキの併用を

- ブレーキペダルを踏み続けるとブレーキが過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。シフトダウンしてエンジンブレーキを併用してください。
  - シフトダウンとは、パドルシフトの⊖側レバーを手前に引くことで低速ギヤへ変速することをいいます。
  - エンジンブレーキとは、走行中にアクセルペダルを戻したときに起こるブレーキ効果のことをいいます。低速ギヤに入れるほどよく効きますが、エンジン回転数がタコメーター（エンジン回転計）のレッドゾーンに入らないようにしてください。
  - シフトダウンせずにエンジンの低回転領域でブレーキを使用し続けると、ブレーキブースター（制動力倍力装置）のアシスト力（補助力）が弱くなり、ブレーキペダルを踏むとき通常より強い力が必要となる場合があります。
- シフトダウンによるエンジンブレーキは、道路状況や車間距離に注意して使用してください。

■横風に注意して

ハンドルを確実に握り、安全な速度で運転してください。
走行速度が速過ぎると、ハンドルを確実に握っていても不意の突風で車の進路が乱され、事故の原因になるおそれがあります。

■燃えやすいものに注意して

- 路上に燃えやすいもの（枯葉など）があると排気管や排気ガスの熱により着火するおそれがあります。燃えやすいものの上や付近で停車または走行するときは、注意してください。
- 枯れ草、紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには、車を止めないでください。排気管や排気ガスの熱により車両火災につながるおそれがあります。
- 車の後ろに木材、ベニヤ板など燃えやすいものがあるときは、30 cm以上離して止めてください。すき間が少ないと排気ガスにより変色や変形を起こしたり、車両火災につながるおそれがあります。

■こんなことにも注意してください

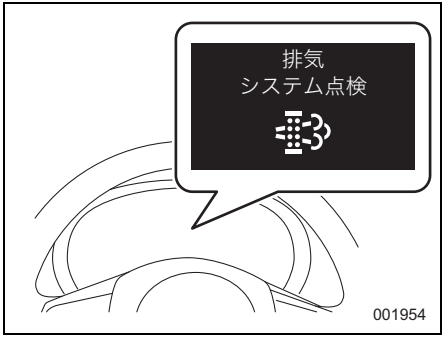
- 急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは避けてください。
- 車間距離は十分にとってください。
- ぬかるみなどでタイヤがスタック（立ち往生）したときはタイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱により思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンルーム内および車体床下に、ねこやねずみなどの小動物がいないことを確認してください。エンジン始動時に、ファンやベルトに小動物が巻き込まれ、車体に損傷を与えることがあります。

■適切なエンジン回転数で運転を

- 新車の慣らし運転中（1,000 kmまで）……4,000 rpm以下
- 慣らし運転後……タコメーター（エンジン回転計）のレッドゾーン未満

■ときどきは高速走行を

排気ガスに含まれるNOx（窒素酸化物）を還元するためのLNT（Lean NOx Trap）触媒を装備しています。触媒の吸着物を取り除いて排気システムの性能を維持するため、ときどき高速走行を行ってください。
吸着物が増えて排気システムの性能が低下すると割り込み画面を表示します。しばらく高速走行（70 km/h 以上で 5 分間以上が目安）をすることで吸着物を還元できた場合、割り込み画面は消えます。
高速走行が難しい場合や割り込み画面が消えない場合は、スバル販売店にご連絡ください。そのままにしておくと、故障の原因となります。



■ブレーキパッドの摩耗警報

パッドが摩耗して交換時期になるとブレーキペダルを踏むたびに金属的な摩擦音（キーキー音）がします。
音が発生したときはすみやかにスバル販売店で交換してください。

雪道走行するときには

■4輪とも冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）で

- 雪道走行が予測される場合は冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を用意してください。
  一般タイヤでは、雪道、凍結路でスリップし危険です。
- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）は、4輪とも必ず指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
- タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。

■控えめな運転を心がけて

- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着していても、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは避けてください。タイヤのグリップ力が失われ、お車の進路をコントロールできなくなる場合があります。
- 発進時は、2速ギヤの使用をお奨めします。
  セレクトレバーを“M”にし、パドルシフトレバーで2速にします。

■タイヤチェーンは前輪に

- タイヤチェーンは、予測できない降雪や雪道に遭遇した場合などの非常用装備品です。タイヤチェーンは、前輪に装着してください。
- タイヤチェーンを取り付けると、後輪が滑りやすくなります。後輪が滑り出すと、ハンドルでお車の進路をコントロールすることが難しくなります。急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなどを避け、路面の状況に合った安全な速度（30 km/h 以下）で慎重に運転してください。
- タイヤチェーンは「スバル純正チェーン」を使用してください。

駐・停車するときには

■坂道に駐車するときは

坂道に駐車する場合には、無人で車が動き出すなど思わぬ事故につながるおそれがあります。次の処置をしてください。

1. 電動パーキングブレーキを確実にかけ、車が動き出さないことを確認します。

☞P.383参照

2. セレクトレバーを“P”に入れます。
3. 輪止め（タイヤストッパー）をします。

なお、急な坂道での駐車は避けてください。

■車の移動はエンジンを始動して

坂道などで、エンジンを始動しなくても車を動かせる場合でも、必ずエンジンを始動して移動してください。エンジンを始動しないで移動すると、ブレーキの効きが悪かったり、ハンドル操作が重くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

■駐車するときはプッシュエンジンスイッチを OFF にして

- 仮眠するときは必ずプッシュエンジンスイッチを OFF にしてください。仮眠中に無意識にアクセルペダルを踏み続けたり、セレクトレバーを動かしたりして思わぬ事故やオーバーヒート、車両火災につながるおそれがあり危険です。また、風通しのよくない場所では一酸化炭素中毒や、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒や、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

■ハンドルをいっぱいに回した状態を続けないで

車庫入れなどで、エンジンを始動したままハンドルをいっぱいに回した状態を続けないでください。

☞P.375参照

■冷却ファンに注意

ボンネットを開ける場合は、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。やむを得ず、プッシュエンジンスイッチがONでボンネットを開ける際は、冷却ファンに注意してください。

エンジンの温度が高い状態では、エンジンが停止していてもプッシュエンジンスイッチを ON にすると、エンジンルーム内の冷却ファンが作動することがあります。

回転している冷却ファンに触れるとけがをするおそれがあります。

SRSエアバッグシステム

■SRSエアバッグシステムとは

SRSエアバッグのSRSとはSupplemental Restraint Systemの略で、乗員補助拘束装置の意味です。
すべての SRS エアバッグはプッシュエンジンスイッチが ON のときのみ作動可能になります。
運転席、助手席SRSエアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげる装置です。
SRS ニーエアバッグは運転席 SRS エアバッグと同時に作動し、前方に移動する運転者の下肢への衝撃をやわらげる装置です。また、下肢の動きを受けとめることで姿勢の変化をおさえ、身体全体の保護効果を高めます。
SRS サイドエアバッグは車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の主に胸部や腰部への衝撃をやわらげる装置です。
SRS カーテンエアバッグは車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席と後席乗員の主に頭部への衝撃をやわらげる装置です。

■シートベルトは必ず着用して

- SRS エアバッグシステムはシートベルトを補助する装置でシートベルトに代わるものではありません。SRSエアバッグシステムだけでは身体の飛び出しなどを防止できないばかりか、エアバッグ本体からの衝撃を直接受けてしまいます。
- シートベルトを正しく着用し、正しい運転（乗車）姿勢をとらないと、衝突などのとき、SRSエアバッグシステムの効果が十分発揮されず、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- 同乗者も必ずシートベルトを着用してください。

☞P.38、303参照

■お子さまを乗せる場合は

- お子さまは後席に乗せてください。
- チャイルドシートは後席に取り付けてください。
- 6歳未満のお子さまはチャイルドシートの着用が法律で義務付けられています。
- 12歳以下、または身長150 cm以下のお子さまが乗車するときは、必ず（スバル純正）チャイルドシートを使用してください。チャイルドシートの使用方法はチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。
- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。SRSエアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

☞P.55、85参照

燃料を給油するときには

■給油前に必ず指定燃料をご確認ください

- 指定燃料は無鉛レギュラーガソリンです。
- 無鉛レギュラーガソリンが入手できないときなどは、無鉛プレミアムガソリンを使用することもできますが、エンジンの性能を十分に発揮できないおそれがあります。
- 日本産業規格（JIS）や「揮発油の品質の確保に関する法律」が定めたガソリン規格に適合しているETBEやE3などのバイオガソリンは使用できます。
- ガソリン添加剤を使用する場合は、スバル純正品のご使用をお奨めします。スバル販売店にご相談ください。
- 上記以外の燃料などを使用すると、エンジンの出力が低下したり、部品が損傷したりするおそれがあります。

■給油時には必ず次のことをお守りください

- プッシュエンジンスイッチを必ずOFFにしてください。
- 車のドア、窓は閉めてください。
- 給油時は火気厳禁です。
  タバコなどの火気を絶対に近づけないでください。引火して車両火災にいたるおそれがあります。こぼれた燃料はすみやかに拭き取ってください。
- 燃料の取り扱いは屋外で行ってください。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項をお守りください。
- フューエルキャップを開ける前に車体または給油機などの金属部分や、静電気除去パッドに触れて身体の静電気を除去してください。
  静電気による火花が燃料に引火して車両火災にいたるおそれがあります。
- フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくり左に回して開けてください。
  キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がしたときは、その音が止まってからゆっくり開けてください。急に開けると給油口より燃料の噴き返しが発生し、車両火災になるおそれがあります。
- フューエルリッド、フューエルキャップを開けるなど、給油操作は必ずお一人で行ってください。燃料給油口に他の人を近づけないでください。
- 給油するときは燃料給油口に給油ガンのノズルを確実に挿入してください。
  ノズルを浮かしたり、浅く挿入し継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。

- 給油中は、車内のシートに戻らないでください（座ることで帯電することがあります）。
- 給油は、給油ガンが自動停止した時点で止めてください。気温などの変化により燃料があふれ、車両火災になるおそれがあります。
- 給油後は、フューエルキャップを “カチッ” と音がするまで右に回し、確実に締まっていることを確認してください。キャップが確実に締まっていないと走行中に燃料が漏れて車両火災になるおそれがあります。
- 車に合ったスバル純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。純正品を使わないと車両火災などを引き起こし、その結果重大な傷害に及ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 給油中に、燃料を車にこぼさないようにしてください。塗装面を侵すおそれがあります。こぼれた燃料はすみやかに拭き取ってください。

■給油時に気化した燃料を吸いこまないように注意してください

燃料の成分には有害な物質を含んでいるものもあります。気化した燃料を吸いこまないよう、注意してください。

こんなことにも注意を

■走行中は携帯電話を使わないで

法律により、自動車の運転者が走行中に携帯電話などを手で保持して通話したり、メールの送受信などのために画面を注視することは禁止されています。

■アクセサリーの取り付けに注意

フロントガラスにアクセサリーを取り付けると、視界の妨げになったり、吸盤がレンズの働きをして車両火災を起こしたり、助手席SRS エアバッグが作動したときアクセサリーが飛んでけがをするなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

■車内にガスライター、スプレー缶などを放置しないで

炎天下で駐車するときは車内にガスライターやスプレー缶などを放置しないでください。車内が高温になるためガスライターやスプレー缶などが爆発するおそれがあります。

■排気管をときどき点検して

排気管の腐食などによる穴や亀裂および継ぎ手部の損傷など、排気管の異常に気づいた場合は、必ずスバル販売店で点検を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒や、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パワーリヤゲートを操作するときは

パワーリヤゲートの操作時は、次のことをお守りください。お守りいただけないと、重大な傷害につながるおそれがあります。

- 周囲の安全を確かめ、障害物がないか、または身の回りのものが挟み込まれる危険がないことを確認してください。
- 車両後方に人がいるときは、安全のためパワーリヤゲートを開閉することを周囲の人に知らせるようにしてください。
- 坂道など傾斜している場所では、パワーリヤゲートが自動で開いた後、重さで下がってくることがあります。パワーリヤゲートを開けたときは、静止していることを確認してください。
- エンジン始動時や他の電装品を使用している、またはバッテリーが弱っているとき、パワーリヤゲートの電動制御が解除されることがあります。この場合、ブザーは鳴らず、パワーリヤゲートの作動が停止します。パワーリヤゲートが頭や顔にぶつからないよう、また、手や荷物を挟まないように注意してください。

■ラジエーターが熱いときキャップを外さないで

ラジエーターやリザーバータンクが熱いときはキャップを外さないでください。蒸気や熱湯が噴き出すおそれがあり危険です。

■電装品を取り付けるときには

次の場合、電子制御系統に異常が起きたり、車両火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 取り付け、取り扱いを誤る
- 容量の異なるヒューズを使用する
- スバル純正以外の部品を使用する

詳しくはスバル販売店にご相談ください。

■RF送信機の取り付けについて

RF 送信機は、お車に搭載されるすべての電子・電装システムに悪影響を与える可能性がありますので、取り付けないでください。

■車止めなどに注意して

次のような場合には、バンパーやマフラーなど車体下部を損傷するおそれがありますので、十分に注意してください。

- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車
- 平坦路から上り坂・下り坂および上り坂・下り坂から平坦路への乗り入れ
- 路肩等段差のある場所への乗り降り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ（穴）のある個所の通過

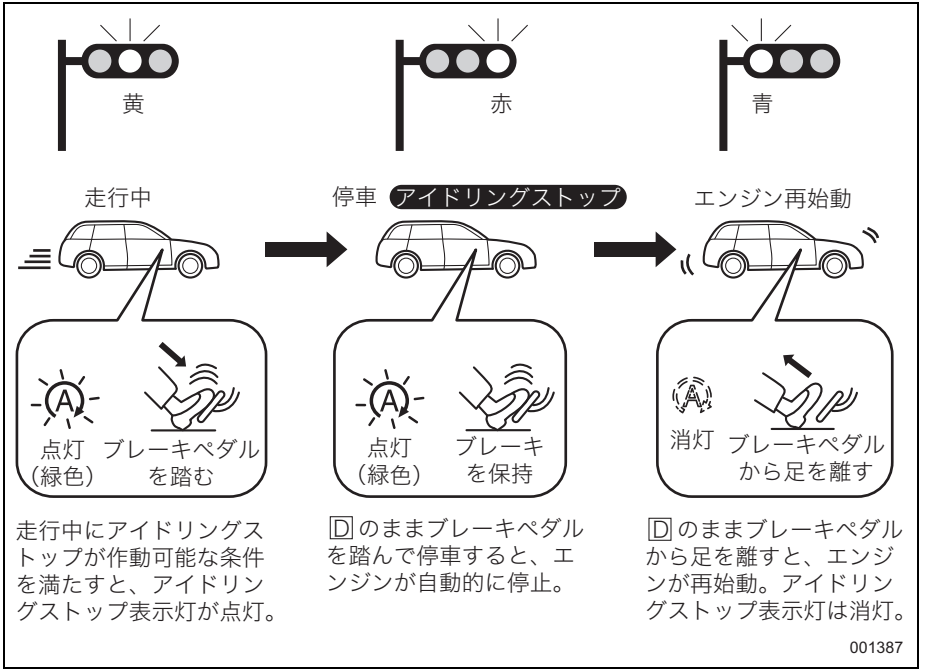
■点検整備をするときは

スバル販売店はスバル車を点検整備するための設備、技術、知識のすべてを兼ね備えています。お客様が安心してお車にお乗りいただくためにも、点検整備はお近くのスバル販売店にご用命ください。

アイドリングストップ使用上の注意

■アイドリングストップの作動を確認

☞P.578参照

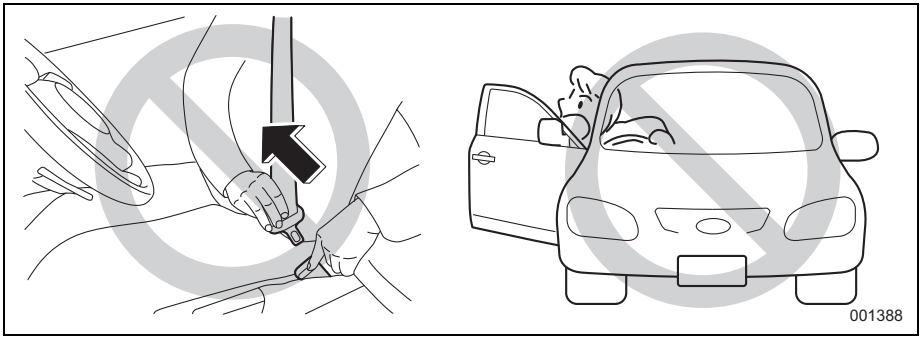


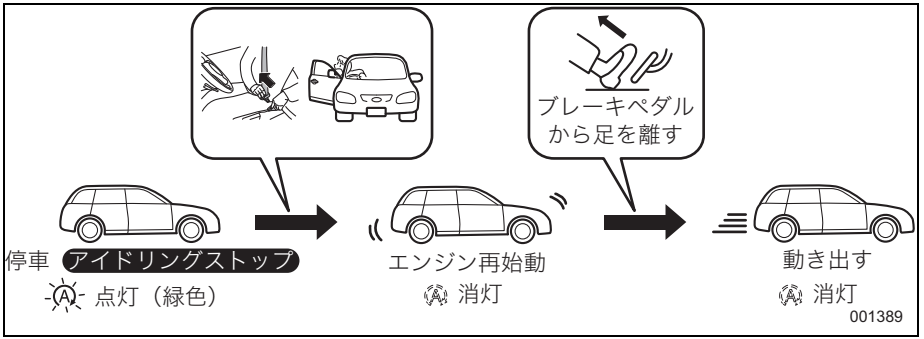
■アイドリングストップ使用中の注意点

アイドリングストップは運転者や外部からの操作により、ブレーキペダルを踏んだままでも、安全確保のためにエンジンが停止、または再始動することがあります。

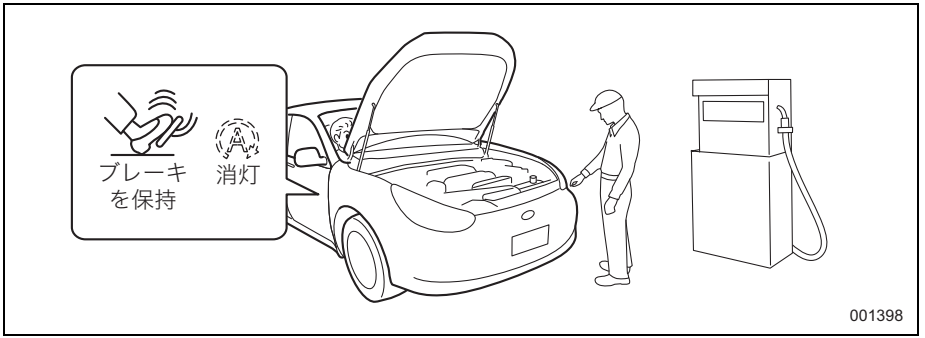
■アイドリングストップ中に運転席シートベルトを外したり、運転席ドアを開けたりしないで

アイドリングストップ中に運転席シートベルトを外したり、運転席ドアを開けたりすると、エンジンが自動的に再始動することがあります。ブレーキペダルから足を離すと、お車が動き（坂道でお車が動くなどして）思わぬ事故につながるおそれがあります。

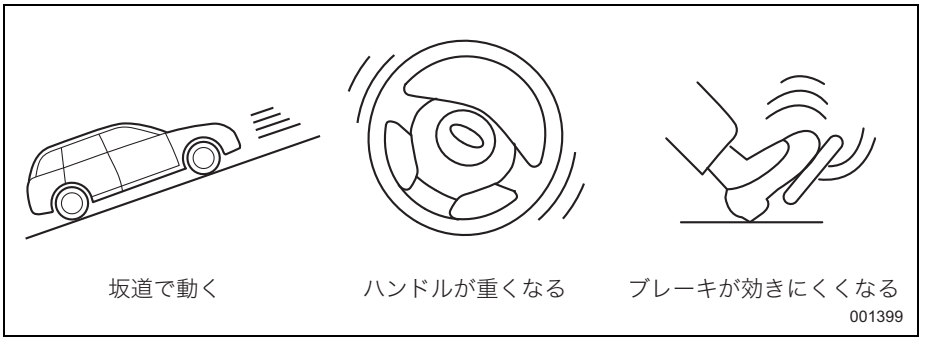




■アイドリングストップ中にボンネットを開けないで



運転者が車内でブレーキペダルを踏んでいても、アイドリングストップ中にボンネットを開けると、安全を確保するため通常のエンジン停止状態になります。
この場合、坂道でお車が動く、ハンドル操作が重くなる、ブレーキが効きにくくなるなどの可能性があり危険です。



■車外に出るときは

お車を完全に停止させ、ブレーキペダルを踏んだままの状態で電動パーキングブレーキを確実にかけます。
セレクトレバーを“P”に入れ、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。

EDR（イベントデータレコーダー）

お車には、EDR（イベントデータレコーダー）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生したときに車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDRは次のようなデータを記録します。
- 車両の各システムの作動状況
- アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- 車速
- SRSエアバッグおよび歩行者保護エアバッグ作動に関する情報

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

知 識
- EDRは衝突が発生したときにデータを記録します。
- 通常走行時にはデータは記録されません。
- 個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されませんが、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDRデータを組み合わせて使用することがあります。
- EDRで記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。
  - スバルにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

■EDRデータの情報開示

次の場合を除き、スバルはEDRで記録されたデータを第三者へ開示することはありません。
- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関など法的強制力のある要請に基づく場合
- スバルが訴訟で使用する場合

ただし、スバルは
- データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

※ ここでいうスバルは、株式会社ＳＵＢＡＲＵを意味しています。

1. 安全ドライブ

シートベルト
- シートベルトの正しい着用 …… 38
- フロントシートベルト …… 41
- リヤシートベルト …… 44
- シートベルト警報 …… 49
- プリテンショナー付シートベルト …… 52

SRSエアバッグシステム
- SRSエアバッグシステムについて …… 53
- SRSエアバッグが作動するとき、しないとき …… 62
- SRSエアバッグ警告灯 …… 71

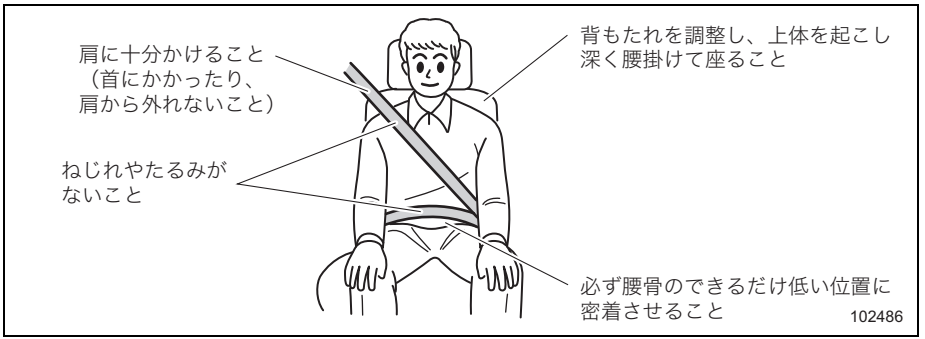
歩行者保護エアバッグ
- 歩行者保護エアバッグについて …… 72
- 歩行者保護エアバッグが作動するとき、しないとき …… 79
- 歩行者保護エアバッグ警告灯 …… 83

お子さまの安全
- チャイルドシート …… 85
- ロアアンカレッジで固定するチャイルドシートについて … 98
- シートベルトで固定するチャイルドシートについて …… 103

シートベルト

シートベルトの正しい着用

シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の使用方法に従って走行前に運転者は必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。走行中はシートベルトを外さないでください。



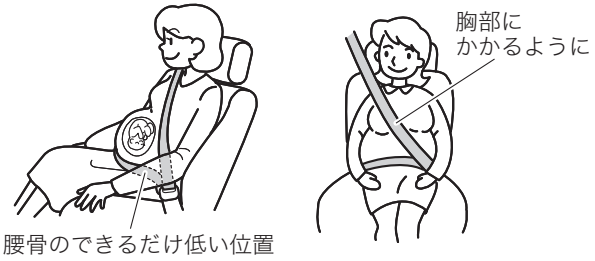
⚠ 警 告

シートベルトの着用は、次のことを必ずお守りください。守らないと正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

- 走行する前に全員が必ずシートベルトを着用する。
- 二人以上で一本のシートベルトを使用しない。
- タングプレートを正しいバックルに確実に装着する。
- シートベルトはねじれたり、裏返しの状態で使用しない。
  - ねじれたり裏返しになっているとベルトの幅が狭くなったり、局部的に強い力を受けて万一のとき危険です。
- シートベルトは腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用する。
  - 柔らかい腹部にかけた場合は万一のとき強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。
- 肩ベルトは脇の下を通さずに確実に肩にかける。
  - 肩に十分にかかっていないと上半身が拘束されず十分な効果を発揮しません。
- 正しい運転（乗車）姿勢でシートベルトを正しく着用する。

☞P.38、303参照

- シートの背もたれを必要以上に倒して走行しない。
  - 衝突したときなどに身体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。
- ハンドルやインストルメントパネルに必要以上近づいて運転しない。
- シートベルトを洗濯バサミやクリップなどでたるませない。
- 妊娠中の方や疾患のある方も、万一のときに備えシートベルトを着用する。
  - 局部的に強い圧迫を受けるおそれがありますので医師に相談し、注意事項を確認してください。
  - 妊娠中の方は、腰ベルトは腹部を避けて腰骨のできるだけ低い位置にぴったり着用してください。肩ベルトは確実に肩に通し、腹部を避けて胸部にかかるように着用してください。



- シートベルトのバックルや巻き取り部に異物が入らないようにする。
- お子さまもシートベルトを必ず着用させる。
  - 膝の上でお子さまを抱いていても、急ブレーキや衝突したときなど十分支えることができず、お子さまへの重大な傷害につながるおそれがあります。

次ページへ ⇒

- シートベルトを着用したときベルトが首、あご、顔などに当たるお子さまはスバル純正チャイルドシート（別売）を使用する。
  - シートベルトは大人用に設計されています。
  - 万一のとき、ベルトによる負傷を防ぎます。
    チャイルドシートの使用方法はチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。
  - お子さまは、後席に乗せてください。
- お子さまをシートベルトで遊ばせない。
  - シートベルトを身体に巻きつけて遊んだりすると、窒息するなどの重大な傷害につながるおそれがあります。
  - 万一、シートベルトが身体に巻きついて外せなくなった場合は、はさみなどでベルトを切断してください。

200364

- シートベルトにほつれや切り傷ができたり、金具部などが正常に動かなくなったときは、シートベルトを交換する。
  - 装着した状態で万一事故にあった場合は、外観に異常がなくても必ずスバル販売店で交換してください。
    そのまま使用すると正常に働かず、十分な効果を発揮しません。
- シートベルトを交換するときは、交換するシートベルト位置用として認可された、スバル純正品を使用する。
- シートベルトの改造や取り外しなどはしない。
  - 衝突などのとき十分な効果を発揮せず重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注 意

- 炎天下などで室内が高温になっている場合、樹脂部分を持って着用する。
  - シートベルトの金属部分が熱くなり、やけどをするおそれがあります。

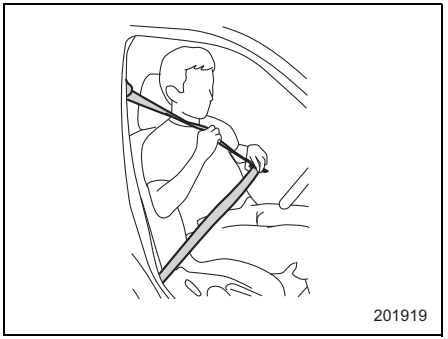
フロントシートベルト

シートベルトは、身体の動きに合わせて自由に巻き取り、引き出しができますが、強い衝撃を受けたときやベルトを急激に引き出そうとすると、ベルトが自動的にロックされます（ELR機構）。

■3点式シートベルト

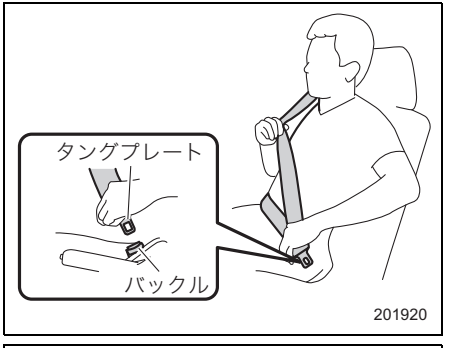
●着用のしかた

1. タングプレートを手で持って、ゆっくり引き出します。
   ベルトが引き出せないときはベルトをゆるめてもう一度ゆっくり引き出します。
   それでも引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

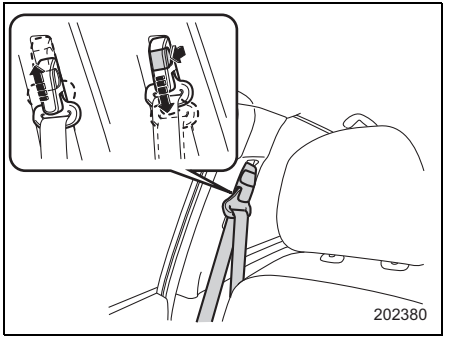


次ページへ ⇒

2. ベルトがねじれないようにし、タングプレートをバックルの中へ、“カチッ”と音がするまで差し込みます。



3. ショルダーアジャスターを上げるときはショルダーアジャスター本体を上に動かします。下げるときはノブを引きながらショルダーアジャスターを動かして最適な位置を選び、固定します。



⚠ 警 告

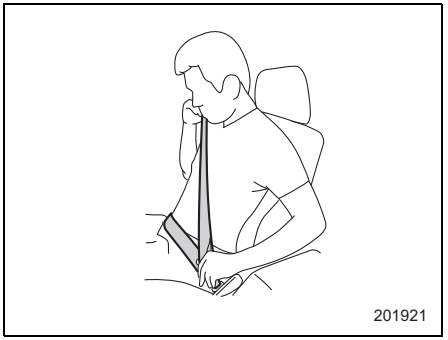
ショルダーアジャスターを調整するときは、次のことをお守りください。守らないと衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害を受けるおそれがあります。

- シートベルトが首に当たらないように、また、肩の中央に十分かかるようにできるだけ高い位置に調整する。
- 調整した後は、確実に固定されていることを確認する。

知 識

ショルダーアジャスターが上がらない場合、ベルトが引き出せず固定された状態になっていることがあります。シートベルトが引き出せる状態にしてから操作してください。

4. 正しい姿勢で腰かけ、腰のベルトを腰骨のできるだけ低い位置に密着させます。



●外すとき

外すときはバックルの「PRESS」ボタンを押し、タングプレートを手で持ってゆっくり巻き取ります。
ベルトが自動的に収納されますので、ひっかかったり、ねじれたりしていないかを確認します。

リヤシートベルト

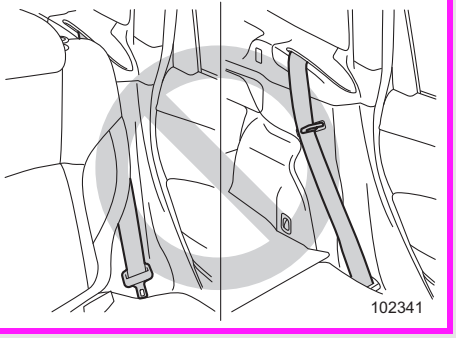
3点式シートベルトが3名分装備されています。中央席には、格納できる3点式シートベルトが装備されています。
シートベルトは、身体の動きに合わせて自由に巻き取り、引き出しができますが、強い衝撃を受けたときやベルトを急激に引き出そうとすると、ベルトが自動的にロックされます（ELR機構）。

■外側席用シートベルト

フロントシートベルトと同じ方法で着用および外します。
☞P.41参照

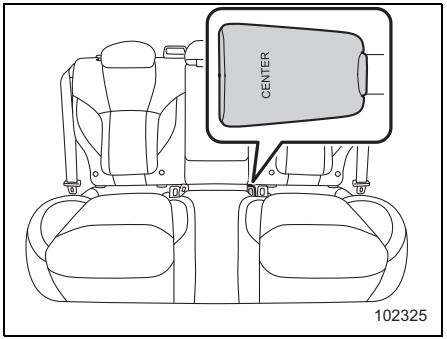
⚠ 警 告

- リヤシートベルトを使用する前に、シートベルトが背もたれに挟まれていたり、背もたれ固定フックの裏側に回りこんでいないか必ず確認する。
  - シートベルトが背もたれに挟まれていたり、背もたれの裏側に回り込んでいるとシートベルトが着用できない、または衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。



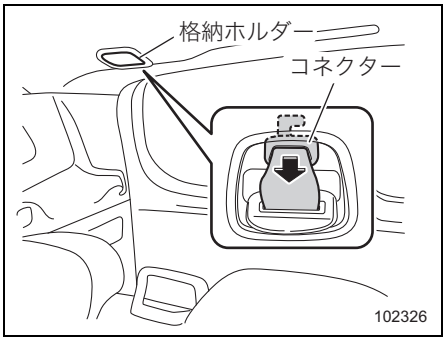
■中央席用シートベルト

必ず中央席用のバックルを使ってください。バックルには「CENTER」印があります。



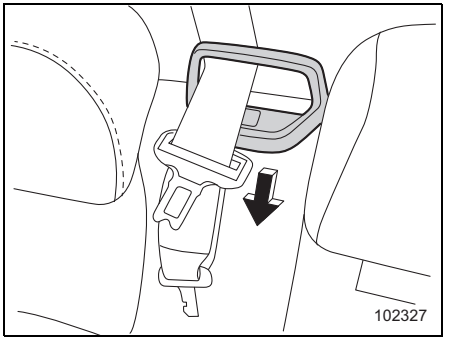
●着用するとき

1. カーゴルームの格納ホルダーからシートベルトを引き出します。

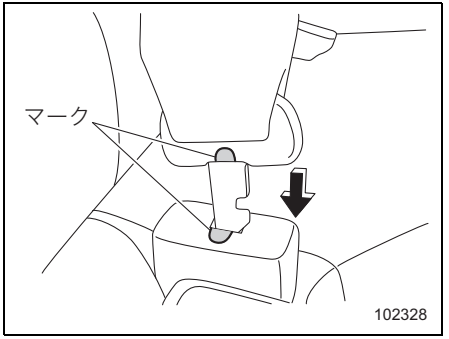


次ページへ ⇒

2. シートベルトを背もたれのガイドに通します。



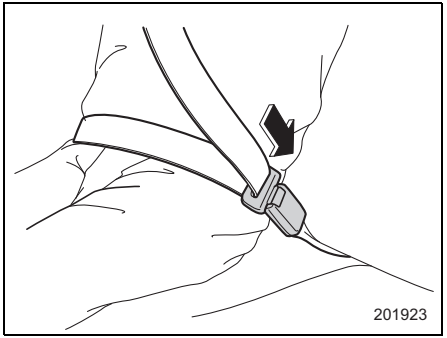
3. 小さいバックルとコネクターをマークが付いている面を合わせて結合します。



⚠ 警 告

コネクターを結合しないで使用すると重大な傷害につながるおそれがあります。必ず結合してから着用してください。

4. フロント 3 点式シートベルトと同じ要領で着用します。

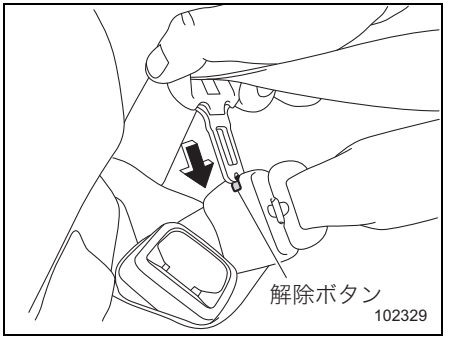


●外すとき

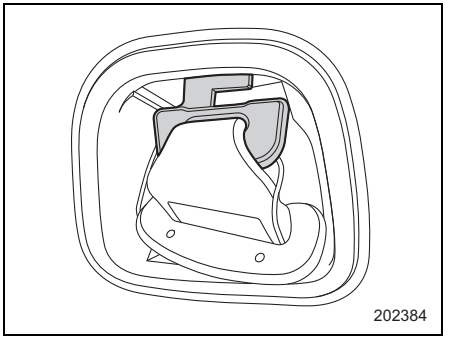
バックルの「PRESS」ボタンを押します。

●格納するとき

1. 小さいバックルの解除ボタンをタングプレートなどを使って押し、コネクターと分離します。



2. シートベルトを巻き取り、コネクターをカーゴルームの格納ホルダーに差し込み固定します。



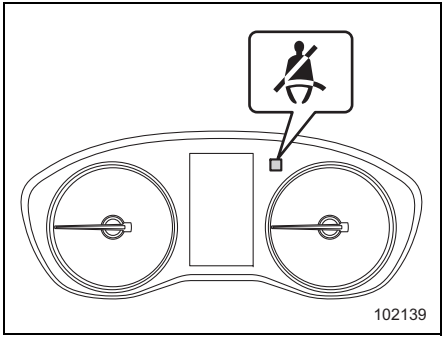
⚠ 注 意

- シートベルトの脱着時には、隣の乗員に金具が当たらないように気をつけてください。
- 巻き取りが早いので、コネクターを分離するときはシートベルトを手で持ってください。急に巻き取らせないよう気をつけてください。

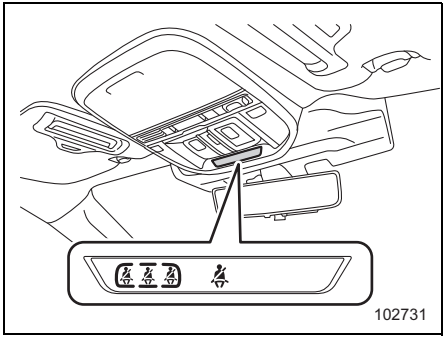
シートベルト警報

プッシュエンジンスイッチがONでシートベルトが未着用の場合、警告灯が点灯します。シートベルトを着用すると警告灯は消灯します。シートベルトを着用せずに走行する、または走行中にシートベルトを外すと警告灯が点滅または点灯し、ブザーが鳴ります。

＜運転席＞



＜助手席、後席＞



■運転席・助手席

プッシュエンジンスイッチがONで運転席、助手席（乗員がいるとき）いずれかのシートベルトが未着用の場合、メーターまたはオーバーヘッドコンソール内の警告灯が点灯します。シートベルトを着用すると消灯します。

シートベルト未着用のまま車速約20 km/h以上で走行すると警告灯が点滅し、ブザーが鳴ります。このとき車速が約20 km/h以下になっても、警告灯の点滅とブザーは、シートベルトを着用するまで約2分間続きます。
約2分間経過してもシートベルト未着用の場合、警告灯が点滅から点灯に切り替わり、ブザーは停止します。警告灯はシートベルトを着用するまで点灯します。

⚠ 警 告

- 助手席に水やその他の液体をこぼさない。
  - 液体をこぼした場合は、直ちに拭き取ってください。
- 助手席を取り外したり、分解しない。
- 助手席の座面と背もたれの間に後席乗員の足をのせたり、物を入れたりしない。
- 助手席に強い衝撃を与えない。

知 識

- 助手席に乗員がいない場合でも、座面に荷物などを置いたとき、センサーが感知して警告灯が点灯することがあります。
- 助手席に小柄な方が乗ったり、座布団などを使用したりすると、センサーが感知せず正常に作動しないことがあります。

■後席

プッシュエンジンスイッチがONで後席（乗員がいるとき）いずれかのシートベルトが未着用のとき、オーバーヘッドコンソール内の警告灯が点灯します。シートベルトを着用すると消灯します。

シートベルト未着用のまま走行した場合、または走行中にシートベルトを外した場合、警告灯が点灯します。さらに、車速約20 km/h以上の場合はブザーが鳴り、シートベルトを着用するまで、または約30秒間継続します。
停車中または車速約 20 km/h 以下で走行しているときは、シートベルトを外してもブザーは鳴りませんが、警告灯は点灯します。警告灯はシートベルトを着用するまで点灯します。

⚠ 警 告

- 後席に強い衝撃を与えない。
- 後席に水やその他の液体をこぼさない。
  - 水やその他の液体をこぼした場合は、直ちに拭き取ってください。
- 後席を取り外したり、分解しない。
- 後席の座面に物を置いたまま背もたれを倒さない。
  - センサーの誤作動や破損のおそれがあります。

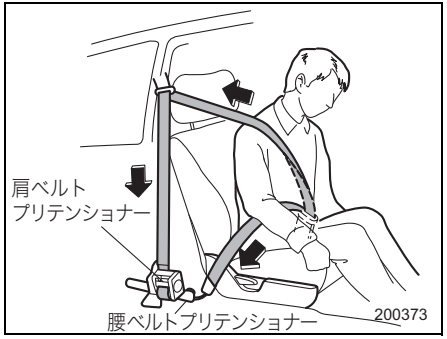
知 識

- 警告灯が点灯したときは、次の操作を行うと警告灯は消灯します。
  - 後席シートベルトを着用する（シートベルトのタングプレートをバックルに挿入する）
  - 車速約20 km/h以上で30秒以上走行する
- 後席に乗員がいない場合でも、座面に荷物などを置いたとき、センサーが感知して警告灯が点灯することがあります。
- 後席にお子さまや小柄な大人の方が乗ったり、チャイルドシートや座布団などを使用したりすると、センサーが感知せず正常に作動しないことがあります。

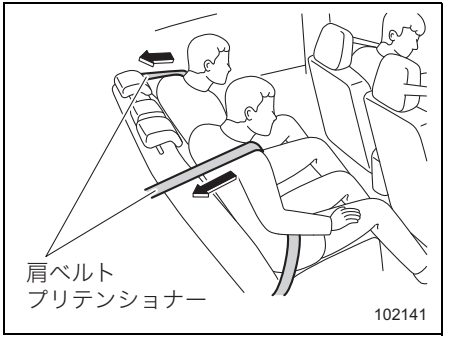
プリテンショナー付シートベルト

プリテンショナー付シートベルトは、前方向からの強い衝撃を受けると作動し、シートベルトを瞬間的に引き込んで乗員をシートにしっかり固定してシートベルトの効果をいっそう高めます。
運転席／助手席のプリテンショナーは肩ベルトと腰ベルトに、後席の外側席のプリテンショナーは肩ベルトに装備されています。

＜運転席／助手席＞



＜後席＞



⚠ 注 意

プリテンショナー付シートベルトの効果を発揮させるため次の事項を必ずお守りください。

- シートを正しい位置に調整する。

☞P.303参照

- シートベルトを正しく着用する。

☞P.38参照

次のような作業をするときは、必ずスバル販売店にご相談ください。

- シートベルトを取り外すとき
- シートベルトを廃棄するとき
- 廃車するとき

知 識

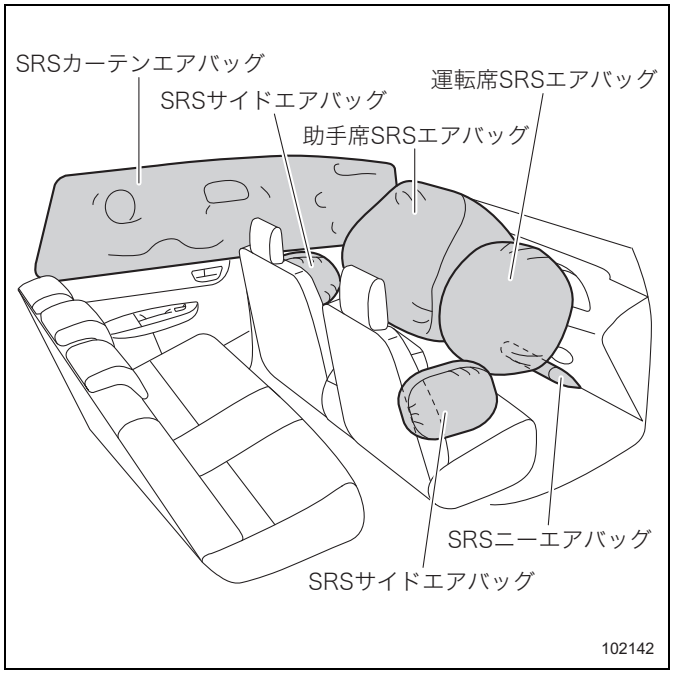
- プリテンショナー付シートベルトは、シートベルトを着用していない場合でも作動します。一度作動すると、ベルトの引き出し、巻き取りができなくなります。
- プリテンショナー付シートベルトが作動した場合は、必ず運転席、助手席と後席外側席を同時にスバル販売店で交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトは、SRS エアバッグシステムと同時に作動します。

SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステムについて

SRSエアバッグのSRSとはSupplemental Restraint Systemの略で、乗員補助拘束装置の意味です。
すべてのSRSエアバッグはプッシュエンジンスイッチがONのときのみ作動可能になります。
運転席、助手席SRSエアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげる装置です。
SRSニーエアバッグは運転席SRSエアバッグと同時に作動し、前方に移動する運転者の下肢への衝撃をやわらげる装置です。また、下肢の動きを受けとめることで姿勢の変化をおさえ、身体全体の保護効果を高めます。
SRS サイドエアバッグは車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の主に胸部や腰部への衝撃をやわらげる装置です。
SRS カーテンエアバッグは車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席と後席乗員の主に頭部への衝撃をやわらげる装置です。

次ページへ ⇒



次の場所に「SRS AIRBAG」マークの記載があります。

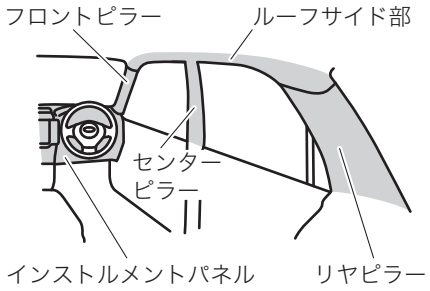
エアバッグ種類	「SRS AIRBAG」マーク記載位置
運転席SRSエアバッグ	ハンドルのパッド部
助手席SRSエアバッグ	ダッシュボード上部
SRSサイドエアバッグ	左右のフロントシート外側
SRSカーテンエアバッグ	左右のセンターピラー上部
SRSニーエアバッグ	ハンドル下のパネル部

■SRS エアバッグシステム周辺を強打したり衝撃を加えたりしないでください

SRSエアバッグシステムに関して次のことを必ずお守りください。守らないと、衝突などのとき効果が十分に発揮されず、命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警 告

- シートベルトを正しく着用し、シート位置・ハンドル位置を調整して正しい運転（乗車）姿勢をとる。
  - SRS エアバッグシステムはシートベルトを補助する装置です。SRS エアバッグシステムだけでは身体の飛び出しなどを防止できないばかりか、エアバッグ本体からの衝撃を受けてしまいます。
- 膝の上に物を抱えるなど、乗員とSRSエアバッグの間に物を置いた状態で走行しない。
  - SRS エアバッグが膨らんだときに物が飛ばされたり、SRS エアバッグの正常な作動を妨げるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺を強打したり衝撃を加えたりしない。



500726

■お子さまを乗せるとき

お子さまを乗せるときは次のことをお守りください。守らないと、命にかかわる重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 警 告

- お子さまは後席に座らせて必ずシートベルトを着用させる。
  - お子さまを助手席に乗せると、SRS エアバッグが膨らんだときに、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

200366

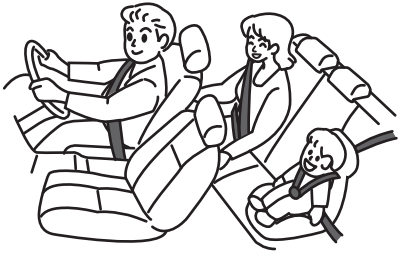
次ページへ ⇒

- お子さまをSRSエアバッグの前に立たせたり、膝の上に抱いたり、背負ったりした状態では走行しない。

100234

- 12歳以下、または身長150 cm以下のお子さまが乗車するときは、必ずチャイルドシートを使用する。
  - 6歳未満のお子さまはチャイルドシートの着用が法律で義務付けられています。
  - チャイルドシートの使用方法は、チャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

- チャイルドシートは、必ず後席に取り付ける。



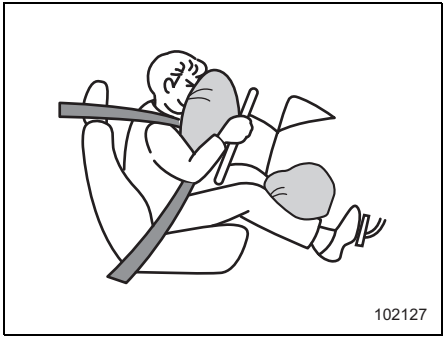
102388

- 助手席に後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けない。
  - 事故などで助手席SRSエアバッグが膨らんだとき、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

500684

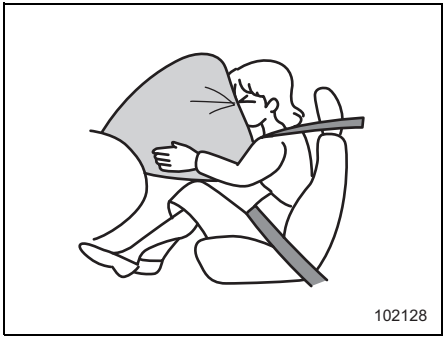
■運転席SRSエアバッグ・SRSニーエアバッグ

ハンドル部に格納されたSRSエアバッグおよびハンドル下のパネル部に格納されたSRS ニーエアバッグが瞬時に膨らみ、その後しぼみます。



■助手席SRSエアバッグ

助手席インストルメントパネル部に格納されたSRSエアバッグが、瞬時に膨らみ、その後しぼみます。
助手席に同乗者がいなくても運転席SRSエアバッグと同時に作動します。

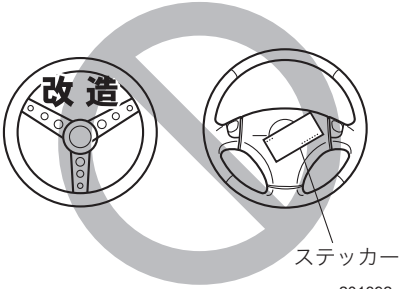


次ページへ ⇒

⚠ 警 告

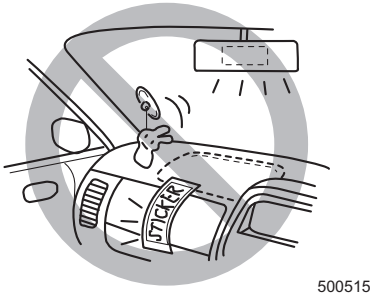
運転席SRSエアバッグ・助手席SRSエアバッグ・SRSニーエアバッグに関して次のことを必ずお守りください。
守らないと、システムが正常に作動せず衝撃を受け、命にかかわる重大な事故につながるおそれがあります。

- ハンドルを交換したり、センターパッド部にステッカーなどを貼らない。
  - SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなります。



201392

- ハンドルのSRSエアバッグ格納部に身体（手、顔、胸）を近づけない。
- SRS エアバッグ格納部に身体（手、顔、胸）を近づけたり、もたれかからない。
- インストルメントパネルの上面またはその周辺にステッカー類を貼ったり、アクセサリー、ナビゲーションシステムや芳香剤などを置かない。
  - SRS エアバッグシステムが正常に作動しなくなったり、作動時にこれらの物が飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- フロントガラスにアクセサリーなどを取り付けたり、ルームミラーにワイドミラーを取り付けない。
  - SRS エアバッグシステムが正常に作動しなくなったり、作動時にこれらの物が飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

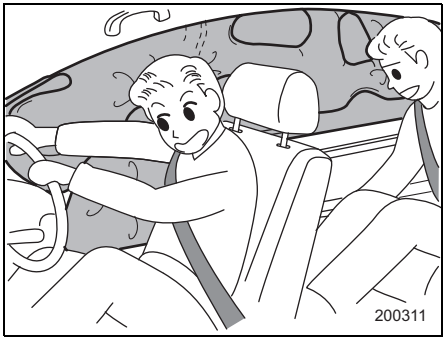


500515

- 膝の上に物を置いた状態で走行しない。

■SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンエアバッグ

運転席、助手席各シートに格納されたSRSサイドエアバッグが瞬時に膨らみ、その後しぼみます。膨らむのは衝撃を受けた側のみです。
左右のフロントピラー、ルーフサイドに格納されたSRSカーテンエアバッグが瞬時に膨らみ、その後しぼみます。膨らむのは衝撃を受けた側のみです。
SRSサイドエアバッグとSRSカーテンエアバッグは、乗員がいなくても作動します。



次ページへ ⇒

⚠ 警 告

SRS サイドエアバッグ・SRS カーテンエアバッグに関しては、次の事項をお守りください。

守らないと、システムが正常に作動せず衝撃を受け、命にかかわる重大な事故につながるおそれがあります。

- フロントシート背もたれのSRSサイドエアバッグ格納部に身体（手、足、顔）を近づけたり、ドアにもたれかかるような姿勢で座らない。

201352

- お子さまなどに後席からフロントシートの背もたれを抱え込むような姿勢はさせない。

201353

- スバル純正のSRSサイドエアバッグ専用シートカバー以外は使用しない。
  - スバル純正のSRSサイドエアバッグ専用シートカバーを使用する場合には、付属の使用説明書をよくお読みください。正しい向き、位置に装着しないとSRSサイドエアバッグシステムが正常に作動しなくなります。

- SRS サイドエアバッグ格納部周辺に物を置いたり、カップホルダーなどのアクセサリー用品を取り付けない。
  - SRS サイドエアバッグが作動したときこれらが飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

200370

- ドアにもたれかかったり、フロントピラー・センターピラー・リヤピラーおよびルーフサイド部や天井に近づかない。
  - SRS カーテンエアバッグが作動したときに頭部などに強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。特にお子さまを乗せるときには注意してください。
- フロントガラス、ドアガラス、フロントピラー・センターピラー・リヤピラー、ルーフサイド部、アシストグリップなど SRS カーテンエアバッグ展開部周辺にアクセサリーやハンズフリーマイクなどを取り付けない。
  - SRS カーテンエアバッグが作動したときに、飛ばされて危険です。
- フロントピラー、リヤピラー、ルーフサイド部など SRS カーテンエアバッグ展開部は、強く叩くなど過度の力を加えない。
- 後席アシストグリップ部のコートフックには、ハンガーや重い物や鋭利な物をかけない。
  - 服をかけるときは、ハンガーを使用せず直接コートフックにかけてください。

SRS エアバッグが作動するとき、しないとき

SRSエアバッグに関して次のことを必ずお守りください。

⚠ 警 告

- SRSエアバッグが膨らんだ直後は、SRSエアバッグの構成部品に触れないでください。
  - 構成部品が大変熱くなっていますので、触れるとやけどをするおそれがあります。
  - SRSエアバッグが作動すると、ガス排出穴からガスが抜けて直ちにしぼみ始めます。(SRS カーテンエアバッグ、SRS ニーエアバッグを除く)
    排出穴からのガスに直接触れた場合に、やけどをするおそれがあります。
- 大きな衝撃を受けた場合、SRS エアバッグの作動の有無にかかわらず、必ずスバル販売店で点検を受けてください。
  - SRS エアバッグが正常に作動せず、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

知 識

- SRS エアバッグは膨らんだ後、直ちにしぼんで視界を妨げません。(SRSカーテンエアバッグを除く)
- SRS エアバッグは効果を発揮するために瞬時に膨らみます。このため、展開中のエアバッグと接触して打撲やすり傷、やけどなどを受けることがあります。
- SRS エアバッグが作動すると、作動音とともに白煙が発生しますが、車両火災ではありません。また、人体への影響もありません。
  ただし、残留物が付着した場合は、すみやかに水で洗い流してください。まれに皮ふに刺激を感じる場合があります。
- SRS エアバッグは一度膨らむと再使用できません。スバル販売店で交換してください。

■運転席、助手席SRSエアバッグおよび運転席SRSニーエアバッグが作動するとき、しないとき

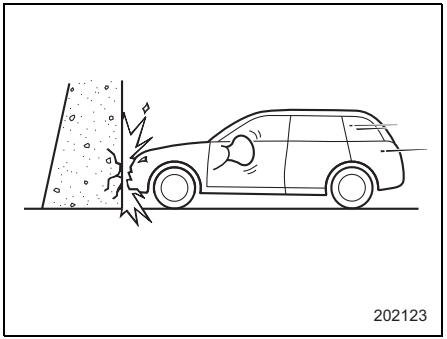
運転席、助手席SRSエアバッグおよび運転席SRSニーエアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部、下肢などへの衝撃をやわらげる装置です。

車体の衝撃吸収構造により、衝突時のエネルギーは車体がつぶれることで吸収または分散され、車体の損傷が大きくても乗員への衝撃は大きくならない場合もあります。

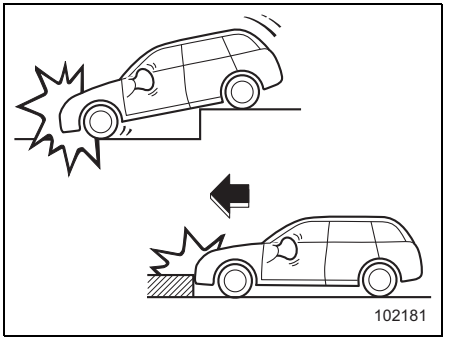
したがって、車体の損傷が大きくてもSRSエアバッグが必ずしも作動するとは限りません。

●作動するとき

- 次のようなときに作動します。
  - 約20 km/h～約30 km/h以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき、またはこれと同等以上の衝撃を受けたとき

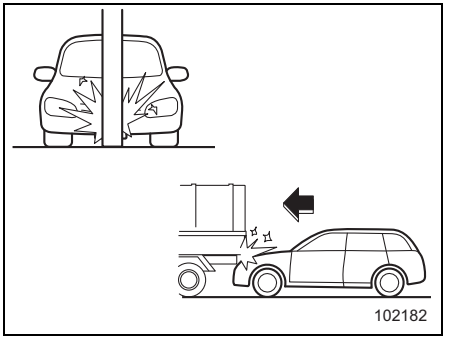


- 走行中路面などから車両下部に強い衝撃を受けたときも作動することがあります。
  - 深い穴や溝に落ちたり、縁石に衝突したときや、ジャンプしたり、道路上の突起にボディ下面を強くぶつけたとき

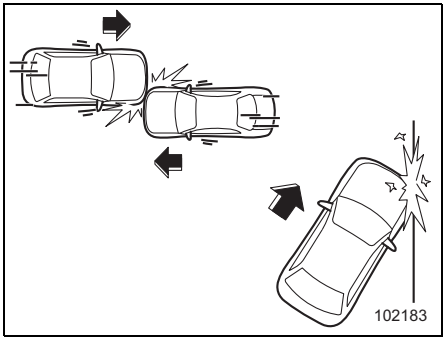


●作動しにくいとき

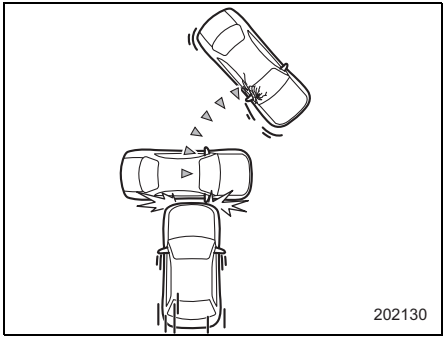
- 次のように、部分的に衝撃を受けたときや車両前方から衝撃が加わらなかったときは作動しにくくなります。
  - 電柱などに衝突したり、トラックの荷台にもぐり込んだとき



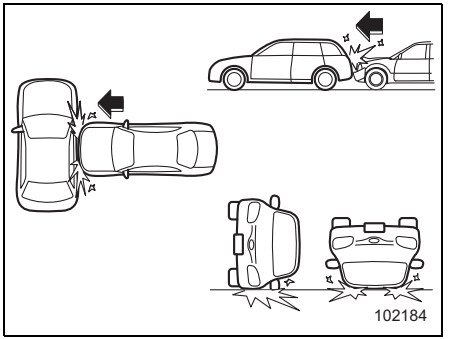
– 片側衝突（オフセット衝突）したり、斜め前方へ衝突したとき



– 駐車している車両など、衝突の衝撃により移動または変形するものに衝突したとき

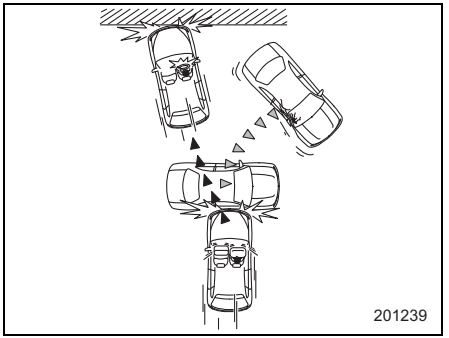


- また、次のような場合はSRSエアバッグがまれに作動することもありますが、本来の効果は発揮されません。
  ー 後ろから衝突されたり、横方向から衝突されたり、横転や転覆したとき



●作動しないとき

- 次のようなときは作動しません。
  ー 一度SRSエアバッグが作動した後の衝突

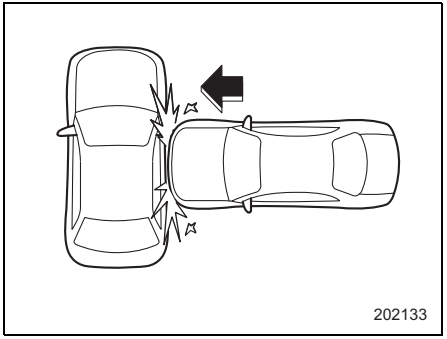


■SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンエアバッグが作動するとき、しないとき

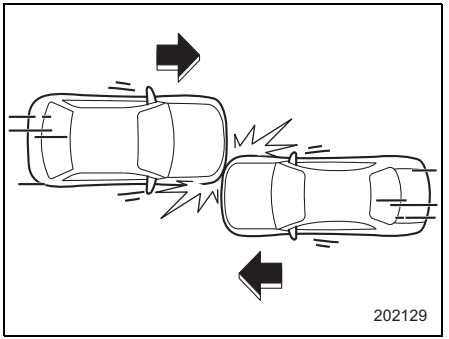
SRS サイドエアバッグは、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の主に胸部や腰部への衝撃をやわらげる装置です。
SRS サイドエアバッグは、車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合、作動します。
SRS カーテンエアバッグは、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席と後席乗員の主に頭部への衝撃をやわらげる装置です。
SRS カーテンエアバッグは、車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合、作動します。
SRSサイドエアバッグおよびSRSカーテンエアバッグの作動・非作動は、衝撃の大きさや衝撃を受けた部位、衝突方向などの条件により変わります。

●作動するとき

- 次のようなとき衝撃が大きいと作動します。
  – 側面に真横から衝突されたとき



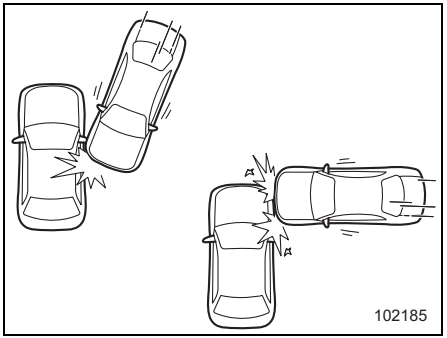
- 次のような場合も、衝突の部位、衝撃の大きさによっては作動することがあります。
  – 片側衝突（オフセット衝突）のとき



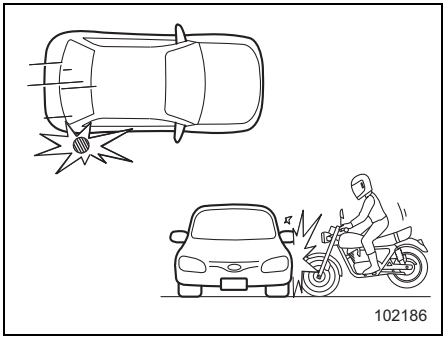
●作動しにくいとき

- 次のようなとき、衝撃の大きさによっては作動しないこともあります。
  衝突した物が変形したり移動した場合、また、衝突した物の形状や衝突の状態によっては、衝突時の衝撃が弱められるため、SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンエアバッグは作動しにくくなります。

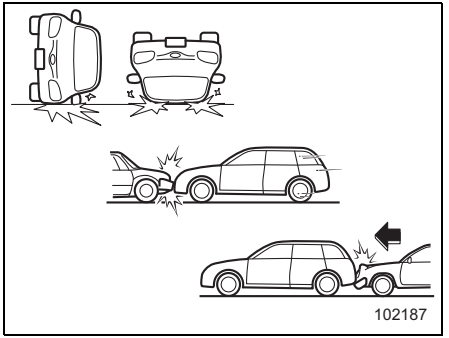
ー 車両側面に斜めから衝突されたり、客室以外に側面から衝突されたとき



ー 電柱などに衝突したり、側面にバイクが真横から衝突したとき

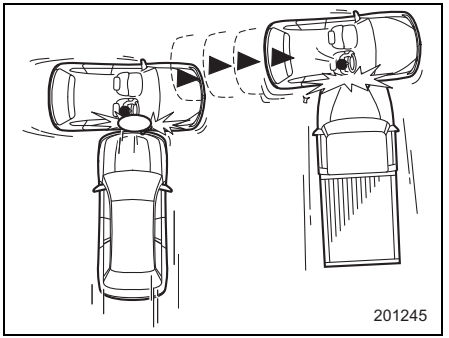


- 次のような場合はSRSサイドエアバッグ・SRSカーテンエアバッグがまれに作動することがありますが、本来の効果は発揮されません。
  - 横転や転覆したり、停車中や走行中の車に正面から衝突したり、後ろから衝突されたとき



●作動しないとき

- 次のようなときは作動しません。
  - 一度SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンエアバッグが作動した後の衝突



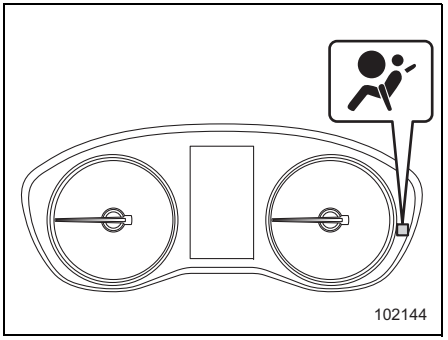
SRSエアバッグ警告灯

警告灯は、運転席・助手席エアバッグ、ニーエアバッグ、サイドエアバッグ、カーテンエアバッグ、エアバッグセンサー、シートベルトプリテンショナーと兼用になっています。

システムの異常を検知すると警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面を表示します。

☞P.140参照

プッシュエンジンスイッチを ON にすると点灯し、約6秒後に消灯します。



⚠ 警 告

警告灯が次のようになったときはシステム異常が考えられますので走行しないでください。SRS エアバッグが正常に作動せず、命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

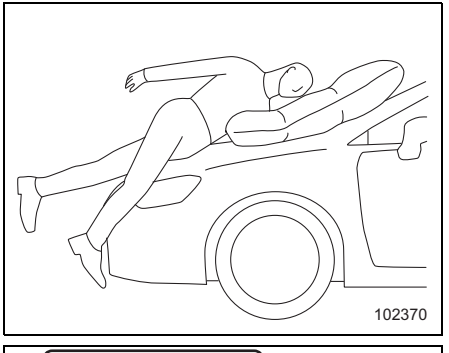
直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

- プッシュエンジンスイッチを ON にしても点灯しないとき
- プッシュエンジンスイッチを ON にして6秒以上経過しても、点灯しているとき
- 走行中に点灯したとき

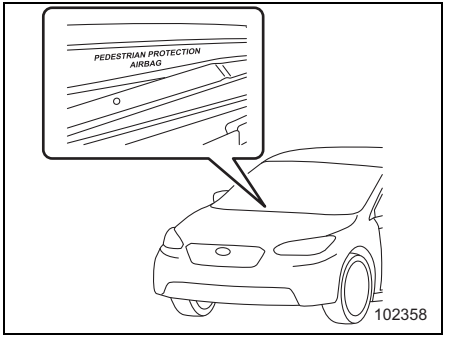
歩行者保護エアバッグ

歩行者保護エアバッグについて

歩行者保護エアバッグは車両前面で歩行者と衝突した際に、エアバッグが展開し、頭部への重大な傷害を軽減する装置です。
プッシュエンジンスイッチがONで、自車速が約25 km/h～約60 km/hで走行中のみ作動します。



カウルパネルの「PEDESTRIAN PROTECTION AIRBAG」マークの記載があるところから、エアバッグが展開します。



⚠ 注 意

歩行者保護エアバッグが作動した際は、アイサイトの視野に影響を与えるおそれがあります。
☞**P.418**参照
エアバッグ作動後は「歩行者保護エアバッグのたたみかた」の手順に従いたたんだ上で、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
☞**P.75**参照

⚠ 警 告

歩行者保護エアバッグに関して次のことを必ずお守りください。守らないと、システムが正常に作動しなかったり、衝突などのとき効果が十分に発揮されず、命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

- ボンネットとフロントガラスをまたぐようにステッカーなどを貼らない。
  - エアバッグが正常に作動しないおそれがあります。
- ボンネットおよびカウルパネルの上に物を置いたり、雪などが積もった状態およびゴミ、砂が付着した状態で走行しない。
  - 可能な限り除去してから走行してください。エアバッグが正常に作動しないおそれがあります。
- ボンネット、インストルメントパネル、フロントバンパー、カウルパネル部など、構成部品の周辺を強打したり、衝撃を加えない。
  - エアバッグが正常に作動しないおそれがあります。
- 駐車時または発進時にフロントバンパーを他の車や壁に接触させない。
  - フロントバンパー部に荷重を与えると、内側にあるセンサー部品が壊れるおそれがあります。
- 走行する前に歩行者保護エアバッグセンサーが格納されているフロントバンパー部を点検し、傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用しない。
- 走行する前にボンネットが確実に閉まっていることを確認する。
  - エアバッグがエンジンルーム内で膨らんでしまうなど、正常に作動しなくなるおそれがあります。

知 識

- 歩行者保護エアバッグは膨らんだ後は徐々にしぼみます。
- 歩行者保護エアバッグは一度作動すると 2 回目以降の衝突では作動しません。
- 歩行者保護エアバッグが作動した状態では走行しないでください。視界が妨げられて正常な走行ができないおそれがあります。やむを得ず走行する場合は必ず「歩行者保護エアバッグが作動したとき」の手順に従ってください。

☞**P.74**参照

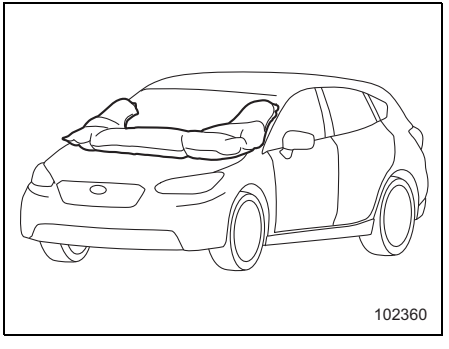
- 歩行者保護エアバッグは効果を発揮するために非常に速く膨らみます。このため、衝突した歩行者は展開中の歩行者保護エアバッグと接触して打撲やすり傷、やけどなどを受けることがあります。
- 歩行者保護エアバッグが作動すると、作動音とともに白煙のようなガスが発生しますが、車両火災ではありません。また、人体への影響もありません。ただし、残留物（カスなど）が目などに付着した場合は、すみやかに水で洗い流してください。皮ふの弱い方などは、まれに皮ふが刺激される場合があります。
- 歩行者保護エアバッグが作動した場合はスバル販売店で交換してください。

■歩行者保護エアバッグが作動したとき

- 歩行者保護エアバッグ展開後に車を動かす必要があるときは、次の手順に従ってください。
  1) 車を安全な場所に移動し、プッシュエンジンスイッチを OFF にしてください。
  2)「歩行者保護エアバッグのたたみかた」に従ってエアバッグを折りたたんでください。

☞P.75参照

  3) お近くのスバル販売店にご相談ください。



- 歩行者保護エアバッグが作動した場合、事故が起きたときの「対処のしかた」を参照してください。

☞P.792参照

⚠ 注 意

歩行者保護エアバッグが作動した際は、アイサイトの視野に影響を与えるおそれがあります。

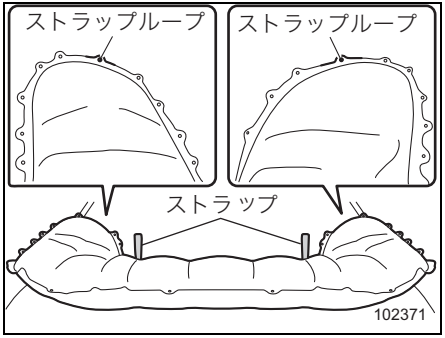
☞P.418参照

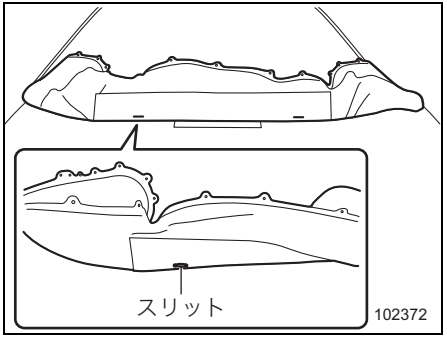
エアバッグ作動後車を移動するときは、「歩行者保護エアバッグのたたみかた」手順に従いたたんだ上で、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

☞P.75参照

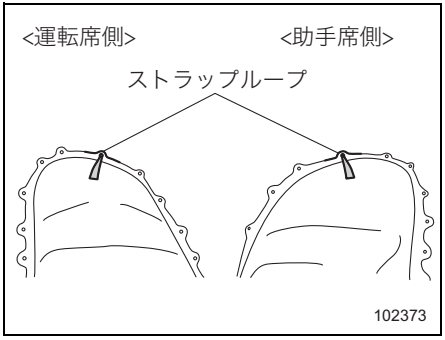
■歩行者保護エアバッグのたたみかた

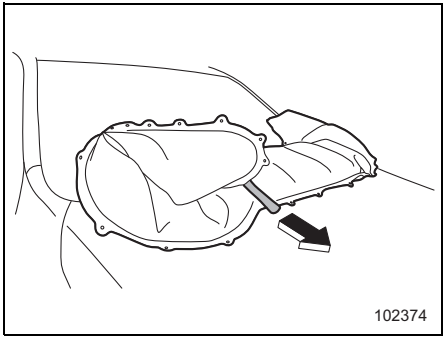
次のようにエアバッグをたたみます。





1. 運転席側のストラップをストラップループに通し、ボンネット側に引っ張ります。



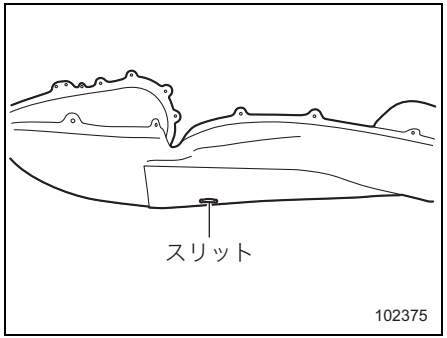


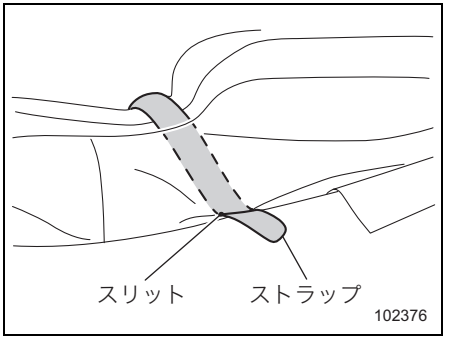
⚠ 注 意

エアバッグが作動した後温かく感じられることや、煙が出ることがあります。
また、作動直後はカウルパネルの奥が熱くなっていますので手を入れないようにしてください。

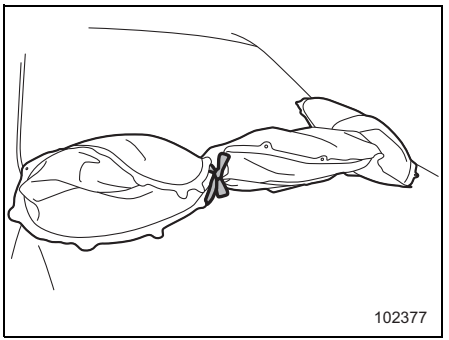
次ページへ ⇒

2. エアバッグ本体をめくり上げ、ボンネット側の布にあるスリットにストラップを通します。





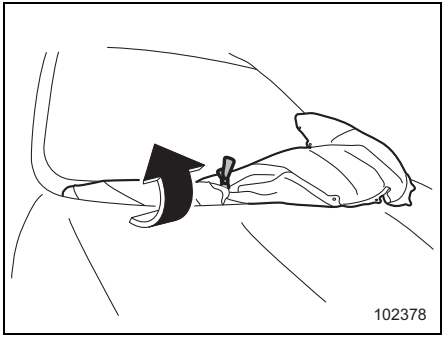
3. エアバッグ本体を押してガスを抜き、ストラップを結びます。

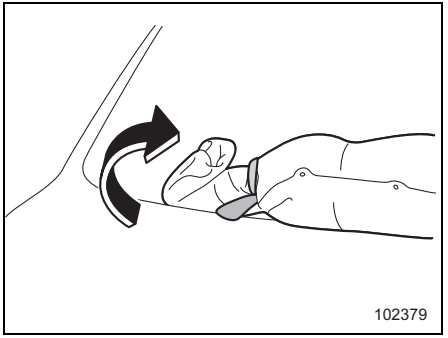


知 識

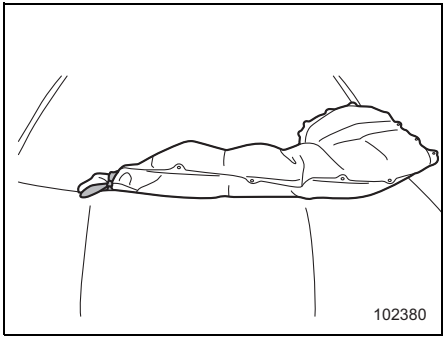
エアバッグを上から押してガスを抜くと、スリットにストラップを通しやすくなります。

4. エアバッグ本体のガスを抜いて丸め、結んだストラップの輪の中に押し込みます。



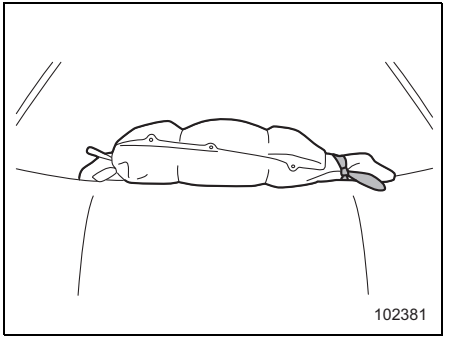


5. 縛ったエアバッグをワイパーに干渉しない程度に収納します。



次ページへ ⇒

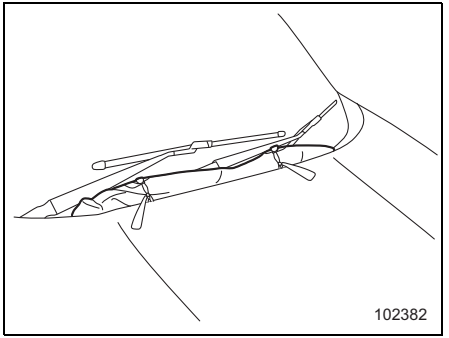
6. 反対側（助手席側）も1～5と同じ手順で収納します。



知 識

助手席側を収納するとき、すでに収納済みの運転席側へガスが逃げないよう、運転席側のストラップをきつく縛ってからガスを抜いてください。

7. エアバッグ中央部のガスを抜き、ワイパーに干渉しない程度に収納します。



知 識

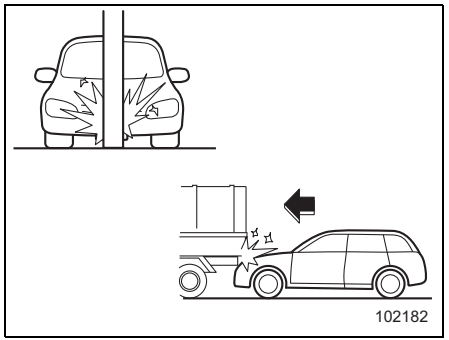
走行時の風圧などでたたんだエアバッグが広がらないよう､確実に収納してください。エアバッグが開くと、視界が妨げられて正常な走行ができないおそれがあります。

歩行者保護エアバッグが作動するとき、しないとき

■作動するとき

約25 km/h～約60 km/hで走行中、歩行者および、歩行者と同じまたはそれ以上の大きさ、重さの物と衝突したと判断したときに作動します（衝突したときにフロントバンパーに衝突の痕跡が残らない場合でも、一定以上の衝撃が加われば作動します。軽い物、小さな動物、その他小さな物体との衝突でも、衝突状況・速度によっては作動する場合があります）。

- 次のような車両下部やフロントバンパーに衝撃を受けたときも作動することがあります。
  - 電柱などに衝突したり、トラックの荷台にもぐり込んだとき

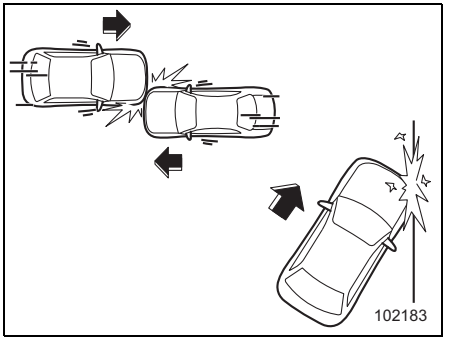


⚠ 警 告

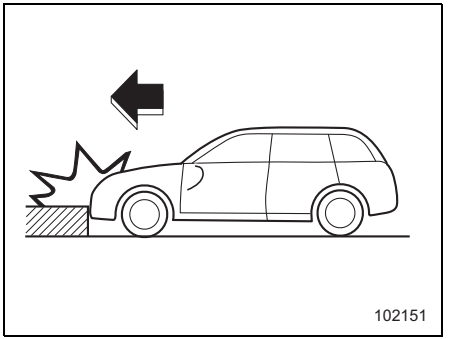
次の場合部品を交換する必要が生じる可能性がありますのでスバル販売店で点検を受けてください。

- 車両や路上の障害物とぶつかったとき。
  - 歩行者保護エアバッグが展開していなくても歩行者保護エアバッグ警告灯が点灯する場合があります。警告灯が点灯し続ける場合はシステムが正常に作動しないおそれがあります。
- 歩行者保護エアバッグ警告灯の点灯有無にかかわらずぶつかった痕跡が確認されたとき。
- 深い水たまりに入り込んだとき。
  - フロントバンパー裏のセンサー部品とセンサー周辺付近のすき間に水が浸入してシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

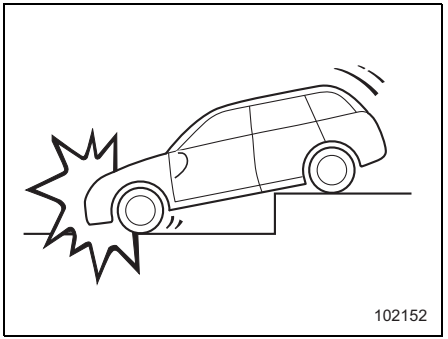
– 片側衝突（オフセット衝突）したり、斜め前方へ衝突したとき



– 縁石と衝突したときや駐車場のスロープ、うねりのある道路、突起物や落下物などにぶつけたとき



– 深い穴や溝に落ちたり、ジャンプして地面にフロントバンパー前面を強くぶつけたとき



– その他、深い水たまりに侵入したときや、雪だまり、車止め、買い物カート、自転車、動物（イヌ、シカ、イノシシなど）などに衝突されたとき

■作動しにくいとき

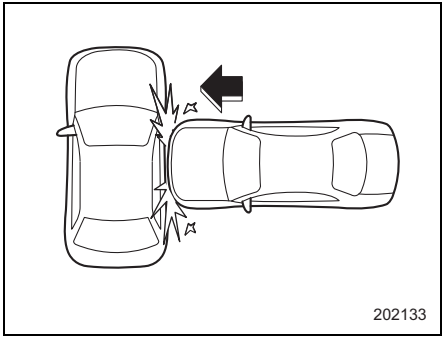
- 歩行者の体格、姿勢によっては作動しにくい場合があります。
- 次のような衝撃を受けたときも作動しないことがあります。
  – しゃがんでいる人、屈んでいる人とぶつかったとき
  – 転倒した人とぶつかったとき
  – 滑りやすい路面で横滑りしたり、タイヤが空転したりして車速が正確に検知できないとき

■作動しないとき

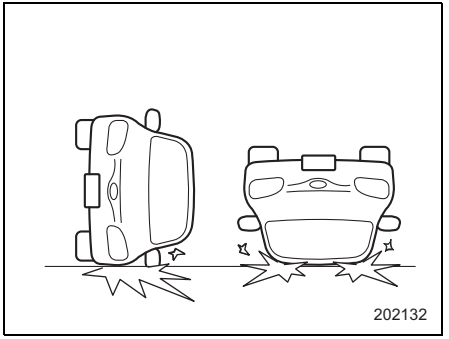
- 次のようなときは作動しません。
  – 作動速度範囲外で走行しているとき
  – 横たわっている人などに衝突したとき
  – 一度歩行者保護エアバッグが作動した後の衝突
  – フロントバンパー左右の角や側面に歩行者がぶつかったとき

- 次のような場合は歩行者保護エアバッグがまれに作動することがありますが、本来の効果は発揮されません。

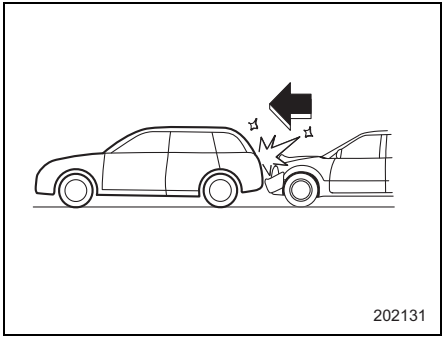
ー 横方向から衝撃を受けたとき



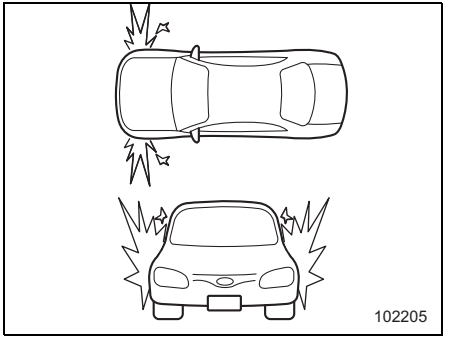
ー 横転、転覆したとき（事故の状況、形態によっては作動することがあります。）



ー 後方から衝撃を受けたとき



ー 歩行者が車の側面やヘッドランプより外側とぶつかったとき

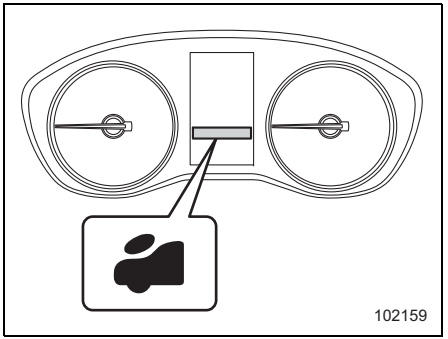


歩行者保護エアバッグ警告灯

システムの異常を検知するとマルチインフォメーションディスプレイ内の警告灯が点灯します。

☞P.127参照

プッシュエンジンスイッチを ON にすると点灯し、約6秒後に消灯します。



⚠ 警 告

警告灯が次のようになったときはシステム異常が考えられます。システムの異常を示している場合、軽微な衝撃で歩行者保護エアバッグが作動したり、歩行者との衝突でも作動しない場合がありますので十分に注意して走行し、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

- プッシュエンジンスイッチを ON にしても点灯しないとき
- プッシュエンジンスイッチを ON にして6秒以上経過しても、点灯しているとき
- 走行中に点灯したとき

■車両の整備作業やカー用品を装着するとき

車両の整備作業やカー用品の装着について、次のことをお守りください。

⚠ 警 告

- 4輪とも指定されたサイズのタイヤを指定空気圧で使用してください。
- 歩行者保護エアバッグセンサーが格納されているフロントバンパー部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用しないでください。
  - 衝突したときなどに誤作動したり、正常に作動しないおそれがありますので、必ずスバル販売店で点検を受けてください。
- ボンネットを強く閉めたり、ボンネット上部に荷重を加える、強く叩くなどしないでください。
  - 歩行者保護エアバッグが損傷し、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 歩行者保護エアバッグの部品・配線を取り外したり修理しないでください。
  - 修理や交換作業が必要なときは、スバル販売店にご相談ください。
- フロントバンパー・ワイパー・ボンネット・サスペンション・エアロパーツ・ホイール・カウルパネルなどを加工したり、純正品以外に交換しないでください。
  - システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
  - 純正品の取り付けはスバル販売店にご相談ください。
- 字光式ナンバープレートおよびナンバープレートベースなどのバンパーアクセサリー部品も純正品以外装着しないでください。
  - システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
  - 純正品の取り付けはスバル販売店にご相談ください。
- フロント側のナンバープレートの交換や取り付けを行う場合は、使用可能なボルトについてスバル販売店にご相談ください。
  - システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- フロントバンパー、ボンネット、カウルパネル付近に部品を取り付けないでください。
  - システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 作業中、カウルパネル付近やフロントバンパー付近で手をついたり、強く押したりしないでください。
  - 衝突したときなどに誤作動したり、正常に作動しないおそれがあります。
- エンジンが始動しているときにフロントバンパー周辺部品に触れたり、よりかかったりしないでください。
  - 予期せぬ作動でけがをしたり、部品が損傷してシステムが正常に作動しないおそれがあります。
- お車や歩行者保護エアバッグを廃棄するときは必ずスバル販売店にご相談ください。歩行者保護エアバッグが思いがけなく作動して重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さまの安全

チャイルドシート

お子さまが乗車するときは、チャイルドシートを正しく使用し安全を確保してください。

■知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートを購入するときは、お車に適合するか確認してください。チャイルドシートの大きさによってはお車に取り付けできないことがあります。
- お子さまの年齢や体格に合わせ、適切なチャイルドシートを選んでください。
- チャイルドシートの取り付け方法および取り外し方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。
- この車は、2006年10月1日施行の保安基準に適合したロアアンカレッジを標準装備しています。
- ECE R44※または、ECE R129※に適合したチャイルドシートを使用してください。
- i-Sizeチャイルドシートは、ECE R129に適合したチャイルドシートです。

※ ECE R44およびECE R129は、チャイルドシートに関する国際的な安全基準です。

知 識

- チャイルドシートについて、ここでは、ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートの総称として、「チャイルドシート」と呼んでいます。
- スバル純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入およびご使用に際してはスバル販売店にご相談ください。

☞P.91参照

- スバル純正チャイルドシートの取り付け、取り外し方法については、付属の取扱説明書をご覧ください。

■チャイルドシートの種類

●ECE R44に適合するチャイルドシート

ECE R44の基準に適合するチャイルドシートは、お子さまの体重によって次の5つの質量グループに分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
0	10 kg以下
0+	13 kg以下
I	9 kg～18 kg
II	15 kg～25 kg
III	22 kg～36 kg

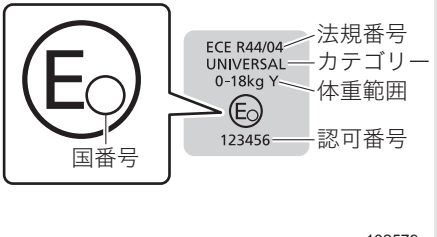
▼シートベルト固定

車両のシートベルトを使用して座席に固定する、ユニバーサルチャイルドシートを使用することができます。
質量グループに一致した商品をお選びください。

知 識

- ECE R44 に適合したチャイルドシートには認可マークが表示されています。認可マークに記載された体重の範囲を確認し、お子さまに合ったチャイルドシートをお選びください。

＜表示例＞



- 取り付けが可能な座席位置は「適合性一覧」で説明しています。

☞P.89参照

▼ロアアンカレッジ固定

後席の外側席に装備された、専用のロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定するISOFIXチャイルドシートを使用することができます。

ISOFIXチャイルドシートには次の固定具の商品があります。「適合性一覧」を確認し、取り付けが可能な固定具の商品をお選びください。

☞P.89参照

固定具	お子さまの大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	—
ISO/R2X	幼児	後ろ	小型
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高
ISO/B2	児童	前	狭幅
ISO/B3	児童	前	全幅

●ECE R129に適合するチャイルドシート

ECE R129の基準に適合するチャイルドシートは、お子さまの身長および月齢によってサイズおよび取り付け向きを規定しています。
後席の外側席に装備された、専用のロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定するi-Sizeチャイルドシートを使用することができます。

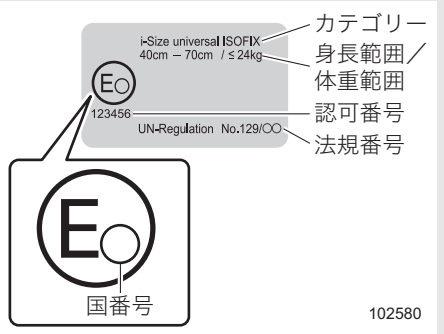
種類	取り付け向き	適用範囲
ベビーシート	後ろ向き	身長、月齢制限はありません
チャイルドシート	後ろ向き	
	前向き	身長76 cm以上※かつ月齢15か月以上
ジュニアシート	前向き	身長100 cm以上

※ チャイルドシートによっては身長71 cmから前向きでの取り付けに対応しているものもあります。

知 識

- ECE R129に適合したチャイルドシートには認可マークが表示されています。認可マークに記載された身長、体重の範囲を確認し、お子さまに合ったチャイルドシートをお選びください。

＜表示例＞



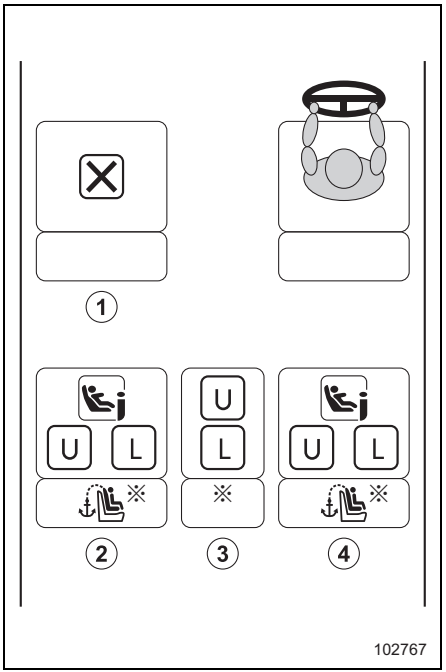
- 取り付けが可能な座席位置は「適合性一覧」で説明しています。

☞P.89参照

■適合性一覧

それぞれのシートには、次のようなチャイルドシートを取り付けることができます。

⊗	チャイルドシートの取り付けに適していない。
U	車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサルチャイルドシートに適している。
L	フォレスターへの取り付けに対応しているチャイルドシート（チャイルドシートに付属の対応車種リストをご確認ください）。
i-Size	i-Size および ISOFIX チャイルドシートに適している。
⚓	トップテザーアンカレッジを装備している座席。



※ チャイルドシートと背もたれの間にすき間ができないように、背もたれの角度を調整してください。

座席位置の番号			①	②	③	④
座席位置			前席	後席		
			助手席	左側席	中央席	右側席
シートベルトで固定するタイプ	汎用（ユニバーサル）チャイルドシートに適する座席位置		×	○	○※	○
ロアアンカレッジで固定するタイプ	i-Sizeチャイルドシートに適する座席位置		—	○	—	○
	横向き固定具（L1/L2）に適する座席位置		—	×	—	×
	搭載できる最大の後ろ向き固定具（R1/R2X/R2/R3）		—	R3	—	R3
	搭載できる最大の前向き固定具（F2X/F2/F3）		—	F3	—	F3
	搭載できる最大のブースター固定具（B2/B3）		—	B3	—	B3
推奨チャイルドシート	シートベルト固定	スバル純正チャイルドシート	×	○	○	○
		スバル純正ジュニアシート	×	○	○	○
	ロアアンカレッジ固定	スバル純正ISOFIXチャイルドシート	—	○	—	○

記号の説明

○：取り付けられます。

×：取り付けられません。

—：ロアアンカレッジがありません。

※ サポートレッグ付きチャイルドシートは、フロアの形状により、使用できないものがあります。

■推奨チャイルドシート

スバル純正チャイルドシートは、次のカテゴリーの商品をご用意しています。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

●ECE R44に適合するチャイルドシート

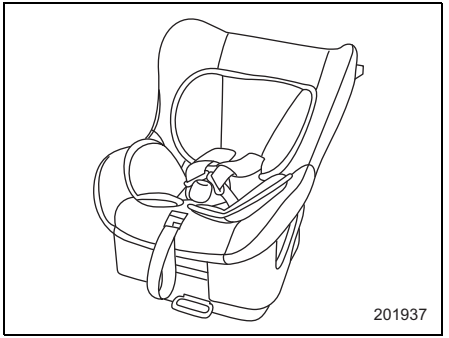
お子さまの体重	質量グループ	取り付け向き	推奨チャイルドシート	取り付け可能な座席位置			
				①	②	③	④
				助手席	後席		
					左側席	中央席	右側席
10 kg以下	0	後ろ向き	スバル純正チャイルドシート	×	○	○	○
13 kg以下	0+						
9 kg～18 kg	I	前向き					
15 kg～25 kg	II	前向き	スバル純正ジュニアシート				
22 kg～36 kg	III						

記号の説明

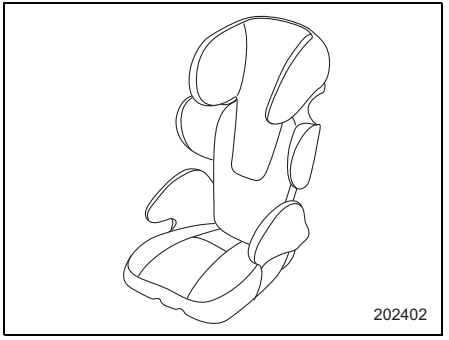
○：取り付けられます。

×：取り付けられません。

- チャイルドシート（シートベルト固定専用）
  ー 体重の目安：〜18 kg
  ECE R44の質量グループ0、0+および I に適合しています。



- ジュニアシート（シートベルト固定専用）
  ー 体重の目安：15 kg〜36 kg
  ー 年齢の目安：3歳〜12歳
  ECE R44 の質量グループ II および III に適合しています。



●ECE R129に適合するチャイルドシート

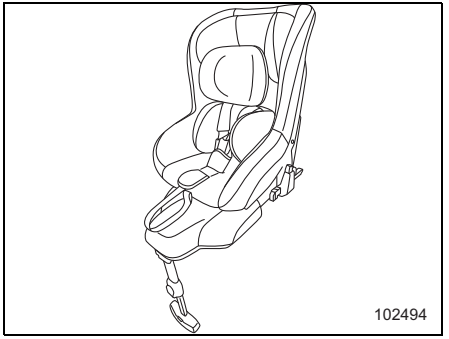
お子さまの身長、月齢	取り付け向き	推奨チャイルドシート	取り付け可能な座席位置			
			①	②	③	④
			助手席	後席		
				左側席	中央席	右側席
身長100 cm以下	後ろ向き	スバル純正ISOFIXチャイルドシート	×	○	×	○
身長76 cm以上100 cm以下、かつ月齢15か月以上	前向き					

記号の説明

○：取り付けられます。

×：取り付けられません。

- i-Size対応チャイルドシート（ロアアンカレッジ固定専用）
  お子さまの身長が76 cm以上100 cm以下、かつ月齢 15 か月以上の場合に限り、前向きで使用できます。



■お子さまを乗せるとき

お子さまを乗せるときは次のことをお守りください。守らないと、命にかかわる重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 警 告

- お子さまは後席に座らせて必ずシートベルトを着用させる。
  - お子さまを助手席に乗せると、SRS エアバッグが膨らんだときに、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

200366

- お子さまをSRSエアバッグの前に立たせたり、膝の上に抱いたり、背負ったりした状態では走行しない。

100234

- 12歳以下、または身長150 cm以下のお子さまが乗車するときは、必ずチャイルドシートを使用する。
  - 6歳未満のお子さまはチャイルドシートの着用が法律で義務付けられています。
  - チャイルドシートの使用方法は、チャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

次ページへ ⇒

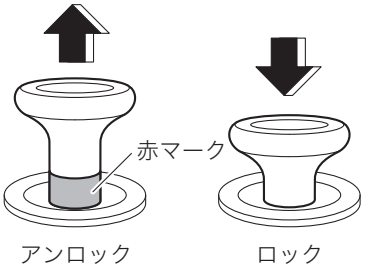
- チャイルドシートは、必ず後席に取り付ける。

102388

- 助手席に後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けない。
  - 事故などで助手席SRSエアバッグが膨らんだとき、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

500684

- 背もたれが確実にロックされているか、ロックノブの赤マークが見えないことを確認する。
- 背もたれを前後に動かして確実に固定されていることを確認する。
  - 固定されていないと急ブレーキ時などに背もたれが倒れたり、荷室内の物が飛び出すなど思わぬ事故につながり重大な傷害につながるおそれがあります。



202220

- チャイルドシートは確実に固定する。
  - 確実に固定されていないと、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。詳しくは、チャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。
- チャイルドシート取り付け後は、チャイルドシートを取り付けたシートは動かさない。
  - 衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- チャイルドシートは、お子さまの年齢や体格に合ったものを使用する。

- お子さまを車の中に残したままにしない。特に乳児など小さなお子さまや身体の不自由な方は、絶対に車内に残さない。
  - 炎天下の車内は高温となり、熱中症など短時間のうちに重大な傷害に及ぶか、最悪の場合、死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートを使用していないときでもシートにしっかりと固定するか、荷室に収納する場合でも、ロープなどを利用して固定する。
  - ブレーキをかけたときなどにチャイルドシートが動き乗員や物に当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - 固定しないと、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ヘッドレストを取り外した場合は荷室に収納し、固定する。
  - ヘッドレストを車内に置いた場合、急停止または急カーブによりヘッドレストが乗員や物に当たるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知 識

お子さまに最適なチャイルドシートについては、スバル販売店、チャイルドシート製造業者または販売店にご相談ください。

ロアアンカレッジで固定するチャイルドシートについて

後席の外側席には、ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートを固定するための専用のロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジが装備されています。

⚠ 警 告

- 必ずロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジまたはサポートレッグをセットで使用する。
  - セットで使用しない場合は、十分な機能を発揮せず、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ISOFIX/i-Size チャイルドシートを取り付ける際は、次の部分に異物やシートベルトの噛み込みがないことを確認する。
  - ロアアンカレッジ
  - ベースシートのシート取り付け部
  - テザーベルトのフック

  シートベルトや異物が噛み込んだ場合、確実にロックされず、衝撃を受けたときに重大な傷害につながるおそれがあります。
- 詳しくは、チャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

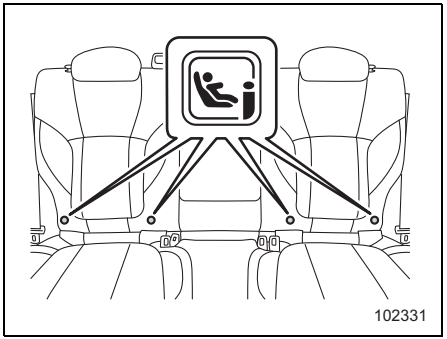
知 識

チャイルドシートを購入するときは、認可表示を確認し、お子さまに合った商品をお選びください。

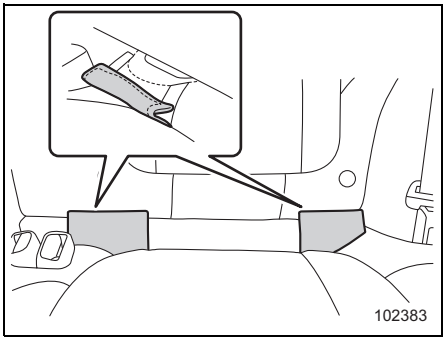
☞P.86参照

■ロアアンカレッジ

カバーをめくるとあります。ロアアンカレッジが装備されていることを示すマークが背もたれの下側についています。



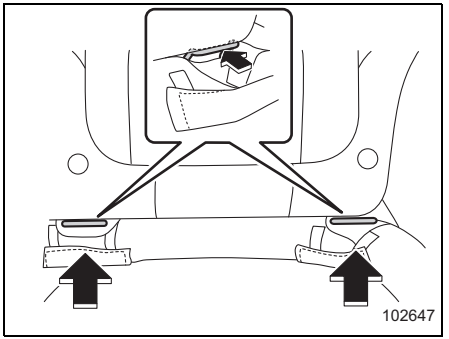
チャイルドシートを取り付けるときは、カバーをめくり、内側に折りたたみます。



知 識

チャイルドシート背面と背もたれのすき間が出ないように、背もたれの角度を調整します。

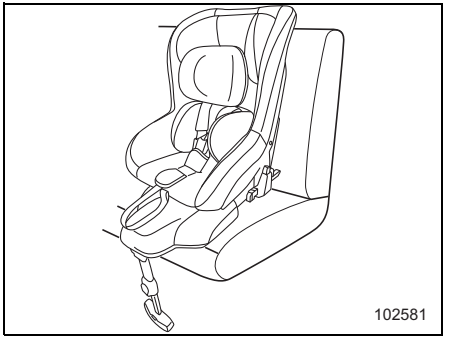
ロアアンカレッジにベースシートを差し込みます。



ヘッドレストを取り外します。

☞P.315参照

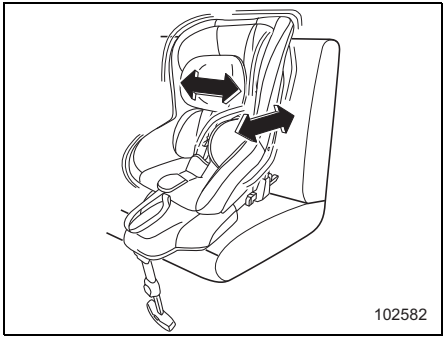
チャイルドシートをベースシートに確実に固定します。



⚠ 注 意

チャイルドシートは完全に押し込んでください。正常に組み付けられずに走行すると、思わぬけがにつながるおそれがあります。

ベースシートにしっかりと取り付けられていることを前後左右に動かして確認します。ぐらつきがある場合は再度取り付け状態を確認してください。



⚠ 注 意

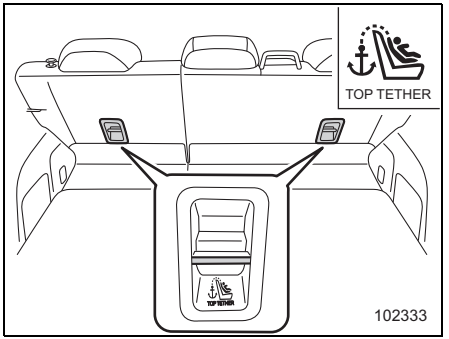
可動部分に指や物を挟まないよう十分注意してください。

知 識

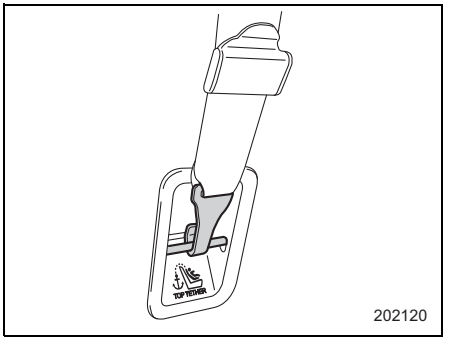
- チャイルドシートを取り外した後は、ロアアンカレッジのカバーを元の状態に戻してください。
- 長期間チャイルドシートを取り付けることにより、シート跡がつく場合があります。

■トップテザーアンカレッジ

後席背もたれ後ろ側にトップテザーアンカレッジがあります。
チャイルドシート取り付けの際は、必ずヘッドレストを取り外してください。
☞P.315参照



テザーベルトのフックを、図のようにトップテザーアンカレッジに引っかけます。



⚠ 警 告

- 必ずロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジをセットで使用する。
  - セットで使用しないと、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 詳しくは、チャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

シートベルトで固定するチャイルドシートについて

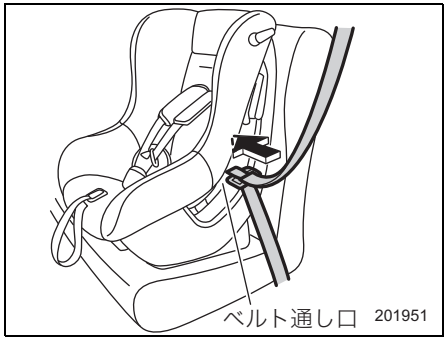
知 識

チャイルドシートを購入するときは、認可表示を確認し、お子さまに合った商品をお選びください。

☞P.86参照

■チャイルドシートの取り付け

1. ヘッドレストを取り外します。
2. チャイルドシートを、後席にまっすぐに置きます。
3. チャイルドシートと背もたれの間にすき間ができないように、背もたれの角度を調整します。
4. シートベルトをねじれがないようにしてチャイルドシートに通します。

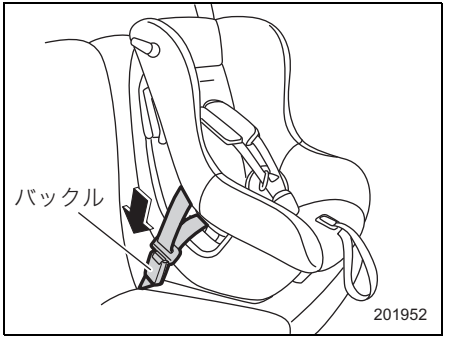


警 告

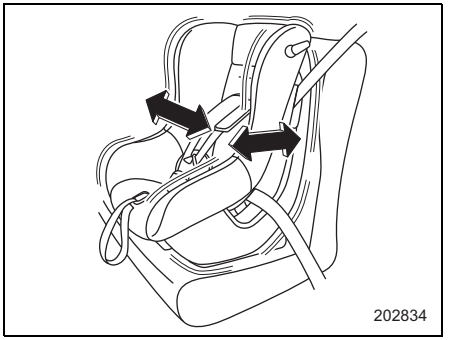
- 中央席に取り付けたとき、チャイルドシートが干渉し、外側席で正しくシートベルトを着用できない場合は、外側席には座らない。
  - シートベルトが正しく着用できず、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

次ページへ ⇒

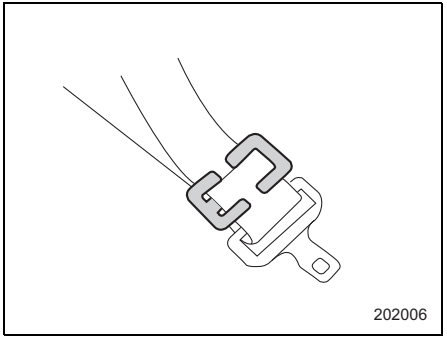
5. シートベルトのタングプレートをバックルの中へ、“カチッ”と音がするまで差し込みます。



6. チャイルドシートに付属の取扱説明書に従って取り付けます。
7. チャイルドシートやシートベルトが確実に固定されていることを前後左右に動かして確認します。ぐらつきがある場合は手順2.からやり直してください。



チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップを使用して固定します。
取り付け後はチャイルドシートを軽く前後左右に動かし、確実に固定されていることを確認してください。



■解除のしかた

バックルの「PRESS」ボタンを押して、シートベルトを外します。

知　識

- 詳しい取り付け、取り外し方法については、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。
- ロッキングクリップについて、詳しくはスバル販売店にご相談ください。

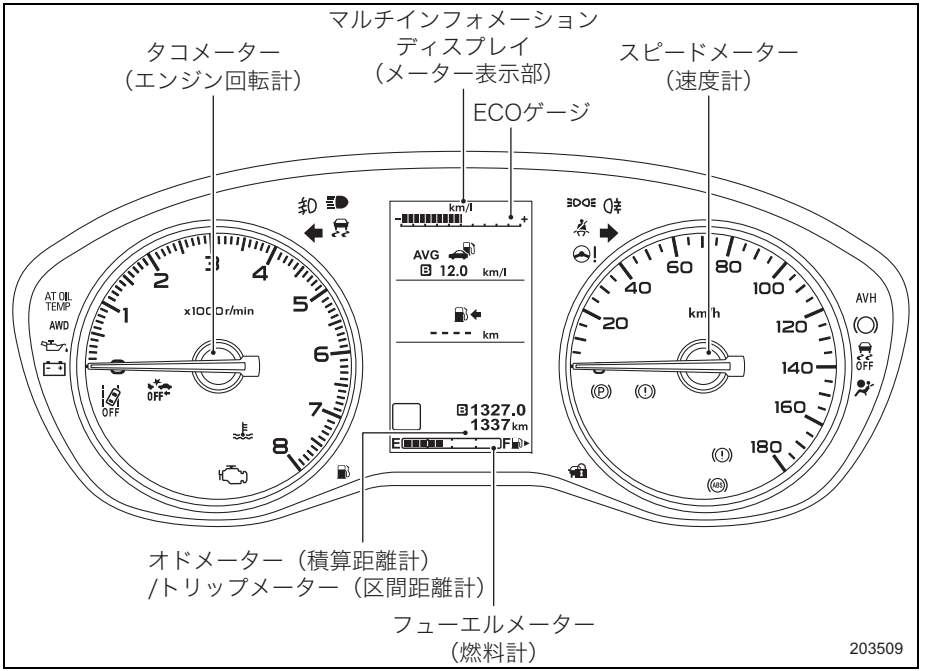
2. メーターの見かた

コンビネーションメーター
メーター ····· 108
表　示　灯 ····· 114
警　告　灯 ····· 123
マルチインフォメーションディスプレイ ····· 134

マルチファンクションディスプレイ
マルチファンクションディスプレイの機能 ····· 165
操作スイッチ ····· 166
ウェルカム画面 ····· 167
メンテナンスチェック画面 ····· 168
日付表示 ····· 169
基本画面 ····· 170
グッバイ画面 ····· 179
カスタマイズ機能 ····· 180
割り込み画面 ····· 235
オープンソースソフトウェア情報 ····· 236

コンビネーションメーター

メーター



それぞれの機能については次のページをご参照ください。

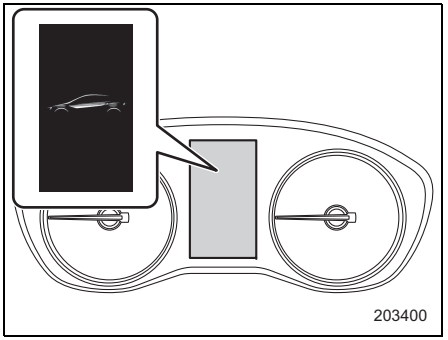
- メーター …P.108
- 表示灯…P.114
- 警告灯…P.123

• マルチインフォメーションディスプレイ…**P.134**

※ 表示灯、警告灯の有無は、グレードやオプションにより一部異なります。

■ウェルカム画面

ドアを解錠し、運転席ドアを開けて閉めると、マルチインフォメーションディスプレイに車両のイメージ画像（ウェルカム画面）を表示し、メーターの指針が一定時間点灯します（ウェルカム照明）。



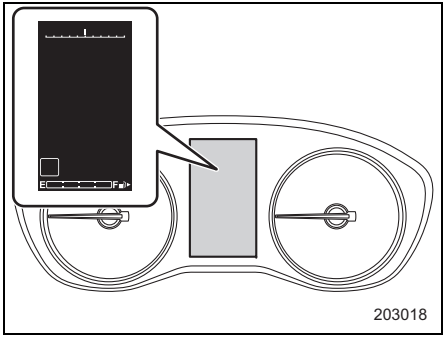
知 識

- ウェルカム画面は一度表示すると、プッシュエンジンスイッチを OFF にしてから一定時間が経過するまでは運転席ドアを開けても表示しません。
- ウェルカム画面は、プッシュエンジンスイッチを ON にすると通常の表示に戻ります。
- ウェルカム画面（ウェルカム照明）をOFFに設定できます。

☞**P.158**参照

■グッバイ画面

プッシュエンジンスイッチを ON から OFF にすると、グッバイ画面を表示します。



知 識

- グッバイ画面は、プッシュエンジンスイッチを ON にすると通常の表示に戻ります。
- キーレスエントリー（キーレスアクセス機能、電波式リモコンドアロック）でドアを施錠すると画面を中断します。
- グッバイ画面をOFFに設定できます。

☞**P.158**参照

■メーターの初期作動

プッシュエンジンスイッチをONにするとメーターのすべての指針が一度最大値を指し、すみやかに戻ります（スイープ機能）。

■スピードメーター（速度計）

お車の走行速度を示します。

■タコメーター（エンジン回転計）

毎分のエンジン回転数を示します。

知 識

メーターの初期作動を OFF に設定できます。
☞P.158参照

⚠ 注 意

指針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数を超えている範囲）に入る運転を続けるとエンジンなどが損傷することがあります。

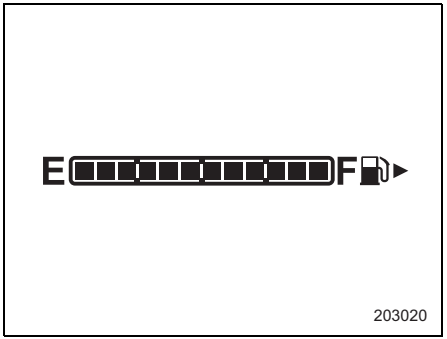
知 識

- アイドリング時に電気負荷が変動すると、エンジン回転数が変動することがあります。
- 極低速時、または停車時にハンドルを操作すると、エンジン回転数が変動することがあります。

■フューエルメーター（燃料計）

プッシュエンジンスイッチがONのとき、燃料の残量を示します。ON 以外の場合はトリップ切り替え／トリップリセットスイッチを押すと一定時間、燃料の残量を表示します。

☞P.112参照

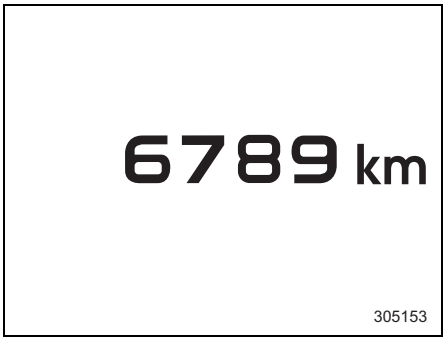


知 識

- 目盛りが「E」に近づいたら早めに給油をしてください。
- 給油後の残量はエンジンを始動すると示します。また、目盛りが安定するまでしばらく時間がかかります。
- 目盛りと消費量（残量）の関係は必ずしも正確ではありません。目安として活用してください。
- 坂道やカーブ、急発進、急停車などではタンク内の燃料が移動するので、目盛りが増減することがあります。
- 給油量が少ない場合（約15 L以下）、目盛りが安定するまでしばらく時間がかかります。

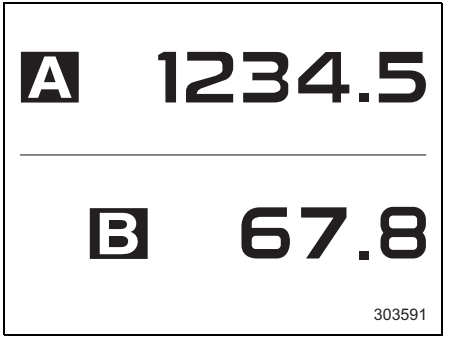
■オドメーター（積算距離計）

走行した総距離をkmで表示します。



■トリップメーター（区間距離計）

ある区間に走行した距離を知りたいとき使います。



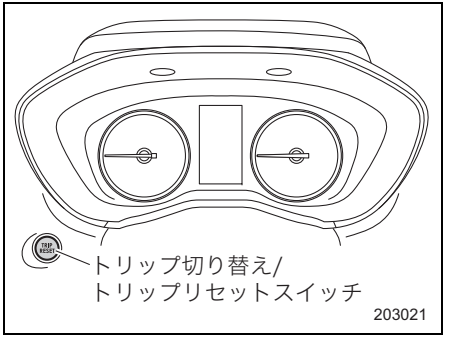
●トリップA、B切り替え

トリップ切り替え／トリップリセットスイッチを押すごとに、次のように表示が切り替わります。

TRIP A ⟷ TRIP B

●トリップA、Bを0に戻すとき

トリップAまたはトリップBのうち、リセットしたい方を表示させ、トリップ切り替え／トリップリセットスイッチを押し続けると0.0に戻ります。

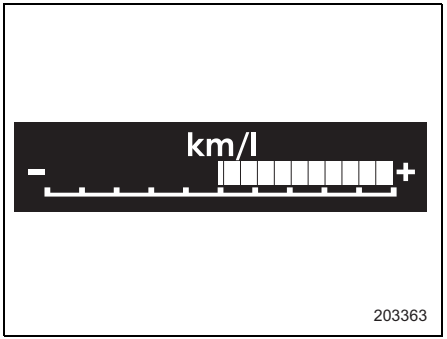


知 識

プッシュエンジンスイッチがON以外の状態でもトリップ切り替え／トリップリセットスイッチを押すと、一定時間バックライトが点灯し、オドメーター・トリップメーターを表示します。

■ECOゲージ

トリップメーターをリセットしてからの平均燃費と瞬間燃費の差を表示します。平均燃費よりも瞬間燃費が良い場合は＋側、悪い場合はー側を表示します。



知 識

- ECOゲージはあくまでも目安です。
- 平均燃費は、トリップメーターリセット後、1 km走行すると表示します。
  表示するまでの間、ECOゲージは作動しません。

表　示　灯

表示灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
	電動パーキングブレーキ作動灯	• プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、電動パーキングブレーキが解除されている場合は約2秒後に消灯します。 • 作動しているとき点灯します。 • 作動できない条件のときにスイッチを操作すると、約 10 秒間点滅しお知らせします。 • 異常があるときは、点滅します。	**⚠ 警 告** • 電動パーキングブレーキ作動灯が点滅し続けたときはシステムに異常がありますので、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店にご連絡ください。 • エンジン回転中に電動パーキングブレーキを解除しても電動パーキングブレーキ作動灯が消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車した上でスバル販売店に連絡し、点検を受けてください。 **知　識** • 電動パーキングブレーキが作動中にプッシュエンジンスイッチをOFFにする、またはプッシュエンジンスイッチが OFF のときに電動パーキングブレーキを作動させた場合は、電動パーキングブレーキ作動灯が約30秒間点灯し、その後消灯します。 • 頻繁に電動パーキングブレーキのスイッチ操作を繰り返した場合、電動パーキングブレーキ作動灯が点滅し、電動パーキングブレーキ警告灯（黄色）が点灯します。この場合は時間をおいて操作してください。 • エンジンを始動した直後に電動パーキングブレーキ作動灯が点滅する場合がありますが、その後、電動パーキングブレーキを解除したときに電動パーキングブレーキ作動灯が消灯すれば正常です。
	方向指示器表示灯	方向指示器の点滅を示します。	—

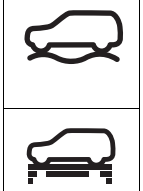
表示灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
	ライティングスイッチ表示灯	• ランプ類が点灯しているときに点灯します。 • ウェルカムライティング作動時にも点灯します。	—
	ハイビーム／パッシング表示灯	ヘッドランプが上向きのとき点灯します。また、パッシング時も点灯します。	—
	フロントフォグランプ表示灯	フロントフォグランプが点灯しているときに点灯します。	—
	リヤフォグランプ表示灯	リヤフォグランプが点灯しているときに点灯します。	—
	セキュリティ表示灯	イモビライザー機能および盗難警報装置の作動状態に応じて点滅します。 ☞**P.297**参照	—
	VDC作動表示灯	• プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約2秒後に消灯します。 • TCS機能作動時、またはVDC機能作動時に点滅します。 ☞**P.589**参照	—
	セレクトインジケーター	セレクトレバーの位置またはギヤ位置を表示します。 ☞**P.390**参照	—

表示灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
	シフトポジション表示	マニュアルモード時、シフトアップ、シフトダウンが可能な場合に◆印を表示します。 ☞**P.398**参照	—
	AVH表示灯	AVHスイッチを押してAVHをONにすると点灯します。 ☞**P.575**参照	—
	AVH作動灯	AVH作動時に点灯します。 ☞**P.575**参照	—
	VDC OFF表示灯	• プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。 • VDC OFFスイッチを押してTCS機能を作動停止状態にしたときに点灯します。 ☞**P.591**参照	—
	SRH OFF表示灯	SRH OFF スイッチを押して SRH を作動停止状態にしたときに点灯します。 ☞**P.605**参照	—
	SRVD OFF表示灯	SRVD OFF スイッチを押して SRVD を解除したときおよび SRVD が一時停止状態のときに点灯します。 ☞**P.601**参照	—
	ADB表示灯（緑色）	ヘッドランプが点灯し、ADB が作動しているとき点灯します。 ☞**P.607**参照	—

表示灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
	全車速追従機能付クルーズ表示灯	• (クルーズ) スイッチを押すと点灯します。 ☞**P.463**参照 • 全車速追従機能付クルーズコントロールがセットされると白色から緑色に変わります。全車速追従機能付クルーズコントロール作動中に運転者がアクセルペダルを踏んで加速している間は、白色に戻ります。 ☞**P.465**参照	—
	定速クルーズ表示灯	• (クルーズ) スイッチを押し、車間設定スイッチを長押しすると点灯します。 ☞**P.547**参照 • 定速クルーズコントロールがセットされると白色から緑色に変わります。 ☞**P.549**参照	—
	READY表示灯	クルーズコントロールがセット可能なときに点灯します。 ☞**P.464**、**548**参照	—
	HOLD表示灯	全車速追従機能付クルーズコントロールの停止保持中に点灯します。 ☞**P.474**参照	—
	先行車表示灯	全車速追従機能付クルーズコントロールをセット中、先行車を認識している場合に点灯します。 ☞**P.466**参照	—
	自車表示灯	ブレーキペダルを踏むか、ブレーキ制御が作動したとき、表示内のブレーキランプが赤く点灯します。 ☞**P.463**参照	—

次ページへ ⇒

表示灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
	車間設定表示灯	/ （車間設定）スイッチで設定した車間設定を表示します。 ☞P.463、473参照	—
	セット車速表示	セット車速を表示します。 ☞P.463、547参照	—
	レーンキープ表示灯	• （レーンキープ）スイッチを押すと車線中央維持・先行車追従操舵機能、車線逸脱抑制機能がONになり、点灯します。 • 車線中央維持・先行車追従操舵機能、または車線逸脱抑制機能が作動している間、表示灯が白色から緑色に変わります。 ☞P.494、506参照	—
	レーンキープ先行車表示灯	先行車追従操舵機能が作動中に青色に点灯します。 ☞P.494参照	—
	エマージェンシーレーンキープアシストOFF表示灯	• プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約 10 秒後、プッシュエンジンスイッチを OFF する前の状態に応じて消灯または点灯します。 • エマージェンシーレーンキープアシストをOFFにすると点灯します。 • 故障などでSRVD、エマージェンシーレーンキープアシストが使用できない、またはSRVDがOFFのときに点灯します。 ☞P.522参照	—

表示灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
	緊急時プリクラッシュステアリングOFF表示灯	• プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約10秒後、消灯します。 • 故障などでプリクラッシュブレーキ、SRVDが使用できないときに点灯します。 • プリクラッシュブレーキ、またはSRVDがOFFのときに点灯します。 ☞**P.455**参照	—
	I（インテリジェントモード）表示	SI-DRIVEのI（インテリジェントモード）を選択すると表示します。 ☞**P.399**参照	**⚠ 注 意** プッシュエンジンスイッチがONでも点灯しない場合、および表示が点滅しSI-DRIVEスイッチを操作しても切り替わらない場合は、システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
	S（スポーツモード）表示	SI-DRIVEのS（スポーツモード）を選択すると表示します。 ☞**P.399**参照	**⚠ 注 意** プッシュエンジンスイッチがONでも点灯しない場合、および表示が点滅しSI-DRIVEスイッチを操作しても切り替わらない場合は、システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
	X（エックス）モード表示灯	停車時または車速約20 km/h以下で走行中、X（エックス）モードスイッチを操作すると点灯します。 ☞**P.403**参照	**⚠ 注 意** • X（エックス）モードがONのときは安全上、SI-DRIVEスイッチの操作を受け付けません。 • エンジンが始動しているときに表示灯が点滅しX（エックス）モードスイッチを操作しても切り替わらない場合は、システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

次ページへ ⇒

表示灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
	ヒルディセントコントロール表示灯	X（エックス）モード ON 時、ヒルディセントコントロールが作動可能状態になると点灯し、ヒルディセントコントロールが作動すると点滅します。 ☞**P.406**参照	—
	アイドリングストップ表示灯（緑色）	アイドリングストップの作動条件を満たしたとき、またはアイドリングストップ中に点灯します。エンジンが再始動すると消灯します。 ☞**P.584**参照	—
	アイドリングストップ OFF表示灯（黄色）	アイドリングストップ OFF スイッチを押してシステムを解除すると、点灯します。 または、通常のエンジン停止状態になったときに点灯します。 ☞**P.584**参照	—
	RAB OFF 表示灯／一時停止表示灯	システムによるブレーキ制御で車両が停止後、ブレーキペダルを踏むと点灯します。 また、RAB が一時停止したときに点灯します。 ☞**P.566**参照	—

表示灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
	車線表示灯	• (レーンキープ) スイッチを押すと、点灯します。 • 車線中央維持機能が作動しているときに左右両側または片側のみ青色に点灯します。車線逸脱抑制機能がスタンバイの状態のとき、または作動しているときに左右両側または片側のみ白色に点灯します。 • 車線中央維持機能が作動しているときに逸脱回避要求警報が作動すると、逸脱する可能性のある車線側のみ黄色に点滅します。 ☞**P.494、506**参照	—
	車線逸脱警報 OFF 表示灯	• 車線逸脱警報およびふらつき警報が OFF のときに点灯します。 • プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約 10 秒後、プッシュエンジンスイッチを OFF にする前の状態に応じて消灯または点灯します。 ☞**P.538、542**参照	—
	プリクラッシュブレーキOFF表示灯	• プリクラッシュブレーキ、AT 誤発進抑制制御およびAT誤後進抑制制御がOFFのときに点灯します。 • プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約 10 秒後に消灯します。 ☞**P.456、528、533**参照	—

表示灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
	EyeSight 一時停止表示灯（白色）	• エンジンを始動して約10秒経過するまでに（クルーズ）スイッチ、または（レーンキープ）スイッチを押すと点灯し、エンジン始動後約10秒後に消灯します。 • EyeSight システムが一時停止しているときに点灯します。 • 点灯しているときは、定速クルーズコントロールを除くEyeSightシステムのすべての機能が使用できません。 ☞**P.572**参照	—
	低温表示灯	• 外気温度が3 ℃以下になると点灯し、路面が凍結している可能性があることをお知らせします。 • 外気温度が5 ℃以上になると消灯します。	—
	ドライバーモニタリングシステム作動表示灯（緑色）	ドライバーモニタリングシステム作動中に点灯します。 ☞**P.624**参照	
	ドライバーモニタリングシステムOFF表示灯	ドライバーモニタリングシステム OFF スイッチを押してドライバーモニタリングシステムを作動停止状態にしたときに点灯します。 ☞**P.624**参照	
	ドライバーモニタリングシステム一時停止表示灯	ドライバーモニタリングシステムが一時停止しているときに点灯します。 ☞**P.625**参照	

警　告　灯

警報や異常を検知するとマルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面を表示します。
☞P.140参照

警告灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
	ブレーキ警告灯（赤色）	プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。 エンジン回転中、次の場合に点灯します。 • ブレーキ液が著しく不足しているとき • EBD（エレクトロニックブレーキフォースディストリビューション）の電子制御システムに異常があるとき EBD の電子制御システムに異常があるときはABS警告灯も同時に点灯します。 ☞P.380参照	**⚠ 警 告** 警告灯が消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店に連絡し、点検を受けてください。 **⚠ 注 意** ブレーキ液が正常で、ABS警告灯も同時に点灯している場合は、アンチロックブレーキシステム（ABS）にも異常が発生している可能性があります。そのため、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

警告灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
	電動パーキングブレーキ警告灯（黄色）／ブレーキ負圧系警告灯（黄色）	• プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。 • システムに異常があると点灯します。 ☞P.389参照	**⚠ 警 告** 警告灯が点灯し続ける場合はシステムに異常がありますので、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店にご連絡ください。 **知 識** • 警告灯が次の場合は正常です。 – エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後電動パーキングブレーキを作動、または解除したときに消灯し、再度点灯しない。 – 走行中に点灯しても、その後直ちに消灯し、再度点灯しない。 • 電動パーキングブレーキの作動／解除中にエンジンを始動すると、システムが異常を判断し警告灯が点灯することがあります。もし警告灯が点灯した場合は、一度プッシュエンジンスイッチをOFFにし、再度エンジンを始動して電動パーキングブレーキの作動／解除を行い、警告灯が消灯すれば正常に復帰します。
	シートベルト警告灯	プッシュエンジンスイッチがONで運転席のシートベルトが未着用の場合、警告灯が点灯します。また助手席（乗員がいるとき）および後席のシートベルトが未着用の場合、オーバーヘッドコンソール内の警告灯が点灯します。シートベルトを着用すると消灯します。 シートベルトを着用せずに走行すると警告灯が点滅または点灯し、ブザーが鳴ります。 ☞P.49参照	—

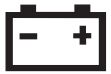
警告灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
	半ドア警告灯	プッシュエンジンスイッチの状態に関係なくドアが完全に閉じていないときに点灯します。リヤゲートが完全に閉じていないときも点灯します。	**⚠ 注 意** 警告灯が点灯したままの状態で走行しないでください。
	ABS警告灯	• プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。 • ABS（アンチロックブレーキシステム）の電子制御システムに異常があると点灯します。 ☞**P.379**参照	**⚠ 注 意** • 次の場合、システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。 – プッシュエンジンスイッチを ON にしても点灯しないとき – 点灯したままのとき なお、このような場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。（ABS としては作動しません） **知 識** 警告灯が次の場合は正常です。 • エンジン始動時に警告灯が点灯してもすぐに消灯し、その後、再び点灯しない • エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中（車速40 km/h）に消灯する • 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない

次ページへ ⇒

警告灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
AWD	AWD警告灯	• プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。 • 異なる径のタイヤをいずれかの車輪に取り付けて走行したとき点滅します。 または4本のタイヤのいずれかの空気圧が著しく低下したまま走行しているときに点滅する場合があります。 ☞P.362参照	**⚠ 注 意** • 警告灯が点滅したまま走行を続けると、車両の駆動系の損傷や最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。AWD警告灯が点滅したときは、すみやかに安全な場所に停車し、4本のタイヤ径が同じかどうか、また、タイヤのパンクもしくは空気圧の低下がないかどうか確認してください。 • タイヤに異常がない場合には、システムに異常があるおそれがありますのですみやかにスバル販売店で点検を受けてください。 **知 識** スペアタイヤを装着している際、AWD警告灯が点滅することがあります。
	SRSエアバッグ警告灯	• プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、約6秒後に消灯します。 • 運転席・助手席エアバッグ、ニーエアバッグ、サイドエアバッグ、カーテンエアバッグ、エアバッグセンサー、シートベルトプリテンショナーのいずれかに異常があると点灯します。	**⚠ 警 告** • 警告灯が次のようになったときはシステム異常が考えられますので走行しないでください。SRSエアバッグが正常に作動せず、命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。 直ちにスバル販売店で点検を受けてください。 – プッシュエンジンスイッチを ON にしても点灯しないとき – プッシュエンジンスイッチをONにして6秒以上経過しても、点灯しているとき – 走行中に点灯したとき

警告灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
	オイルプレッシャー警告灯	• プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。 • エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているエンジンオイルの圧力に異常があると点灯します。	**⚠ 注 意** 走行中に点灯したときは、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店にご連絡ください。 **知 識** 警告灯はオイル量を示すものではありません。オイル量の点検はオイルレベルゲージで行ってください。
	歩行者保護エアバッグ警告灯	• プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、約6秒後に消灯します。 • システムに異常があると点灯します。 ☞P.72、83参照	**⚠ 警 告** • 警告灯が次のようになったときはシステム異常が考えられますので走行しないでください。システムの異常を示している場合、軽微な衝撃で歩行者保護エアバッグが作動することや、歩行者との衝突でも作動しないことがあります。 直ちにスバル販売店で点検を受けてください。 – プッシュエンジンスイッチを ON にしても点灯しないとき – プッシュエンジンスイッチを ON にして 6 秒以上経過しても、点灯しているとき – 走行中に点灯したとき
AT OIL TEMP	AT油温警告灯	• プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。 • CVT のトランスミッションフルードの温度が高くなると点灯し、CVTに異常があるとき点滅します。	**⚠ 注 意** • 走行中に点灯したときは、冷却のため直ちに安全な場所に停車し、セレクトレバーを “P” にしてエンジンを始動したままにしてください。消灯すれば走行できます。消灯しないときは、直ちにスバル販売店にご連絡ください。 • 警告灯が点滅したときは直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

次ページへ ⇒

警告灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
	チャージ警告灯	• プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。 • エンジン回転中、充電系統に異常があると点灯します。	**⚠ 注 意** エンジン回転中に点灯したときは、オルタネーターの駆動ベルト切れなどが考えられます。直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店にご連絡ください。
	エンジン警告灯	• プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。 • エンジン回転中、エンジン電子制御システムに異常があると点灯します。 エンジン回転中、触媒を損傷する可能性があると点滅します。	**⚠ 注 意** • エンジン回転中に点灯したときは、高速走行を避け、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。 • エンジン回転中に点滅したときは、触媒を損傷する可能性があります。 触媒の損傷を防ぐため、次のことを行ってください。 – 速度を落として走行する。 – 急発進、急加速を避ける。 – 急な上り坂を避ける。 – 可能であれば荷物を減らす。 上記の処置をしても警告灯が点滅したままの場合、または点灯に変わった場合は、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

警告灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
	燃料残量警告灯	• プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。 • 燃料残量が約9 L以下になると点灯します。 • フューエルメーター（燃料計）に異常があると点滅します。	**⚠ 注 意** 警告灯が点滅したときは、正しい燃料残量が表示されません。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。 **知 識** • 点灯したときは、すみやかに給油してください。 • 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯することがあります。

次ページへ ⇒

警告灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
	VDC警告灯	• プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約2秒後に消灯します。 • VDC の電子制御システムに異常があると点灯します。 ☞**P.589**参照	**⚠ 注 意** • 次の場合は異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。 – プッシュエンジンスイッチを ON にしても点灯しない。 – エンジン始動後、数分たっても消灯しない。 ただし、プッシュエンジンスイッチを一気にSTARTにした場合、警告灯が点灯し続けることがあります。 再度プッシュエンジンスイッチを OFF にし、ONで約1秒止めてからSTARTにして、消灯する場合は、異常ではありません。 上記の操作を繰り返しても点灯し続ける場合はシステムの異常です。 • VDC の作動に ABS の構成部品を使っているため、ABSの電子制御システムに異常があるときは ABS 警告灯の点灯と同時に VDC 警告灯も点灯します。 VDC 警告灯と ABS 警告灯が同時に点灯したときは、VDC はもちろん ABS も作動しません。通常のブレーキとしては作動しますので、走行上支障はありませんが、滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。 • VDC警告灯のみが点灯したときは、VDC機能や TCS 機能は作動しませんが ABS は作動します。VDCの付いていない車両と同じように扱ってください。 滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

警告灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
	VDC警告灯		**知　識** • 次の場合は正常です。 – エンジン始動後、警告灯が点灯したがすぐに消灯し、その後再点灯しない – エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中に消灯する – 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない • 寒い日の朝などにエンジンを始動させた場合、消灯までに時間がかかる場合がありますが、これは異常ではありません。
	LED ヘッドランプ警告灯	LED ヘッドランプに異常があるとき点灯します。	**注　意** 警告灯が点灯したときは、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。
	ADB警告灯（黄色）	ADBに異常があると点灯します。 ☞**P.609**参照	**注　意** 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「ADB システム点検」が表示されたときは、スバル販売店で点検を受けてください。
	SRH警告灯	SRHに異常があるとき点滅します。 ☞**P.605**参照	**注　意** 警告灯が点滅したときは、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
	SRVD警告灯	SRVDシステムに異常があると点灯します。 ☞**P.599**参照	**注　意** 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「SRVD システム点検」が表示されたときは、スバル販売店で点検を受けてください。

次ページへ ⇒

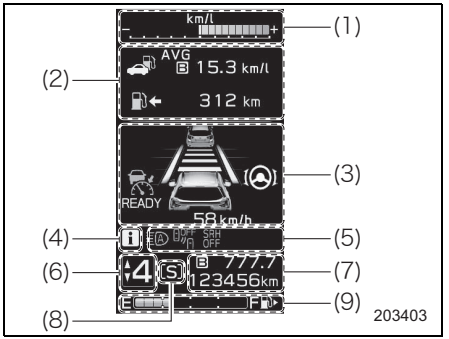
警告灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
	オートヘッドランプレベラー警告灯	エンジン回転中、オートヘッドランプレベラー（自動光軸調整機構）の電子制御システムに異常があると点灯します。 ☞P.344参照	**⚠ 注 意** 点灯したときは、光軸の自動調整が行われない場合があります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。
	水温警告灯／水温表示灯	プッシュエンジンスイッチを ON にすると、約2秒間赤く点灯し、その後消灯または冷却水温に応じて点灯・点滅します。 • 水温表示灯（青色） －水温が低いときに点灯します。水温が上がると消灯します。 • 水温警告灯（赤色） －水温がオーバーヒート手前の温度になると点滅し、オーバーヒートすると点灯します。 点滅または点灯したときは、オーバーヒートの処置を行い、スバル販売店で点検を受けてください。 ☞P.789参照	**⚠ 注 意** • プッシュエンジンスイッチを ON にした後、約 2 秒以上たっても赤く点灯し続けた場合、または赤／青に交互に点灯した場合は、電気系統の異常が考えられます。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。 • 暖機後も水温表示灯（青色）が点灯し続ける場合は、冷却系統などに異常が考えられます。すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。 **知 識** 走行状態により、再始動時しばらくの間赤く点灯する場合がありますが、消灯すれば異常ではありません。
	ステアリング制御警告灯	• プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約2秒後に消灯します。 • エンジン回転中、パワーステアリングの電子制御システムに異常があると点灯します。	**⚠ 注 意** 警告灯が点灯しているときは、ハンドル操作が重くなる場合があります。気をつけて運転し、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。
	アイドリングストップ警告灯（黄色）	• プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。 • アイドリングストップシステムに異常があるとき点滅します。 ☞P.584参照	**⚠ 注 意** 警告灯が点滅したときは、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

警告灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
RAB	RAB警告灯	RABに異常があるとき点灯します。 ☞**P.567**参照	**⚠ 注 意** 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「RABシステム点検」が表示されたときは、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
	ボンネット開警告灯	プッシュエンジンスイッチの状態に関係なくボンネットが完全に閉じていないときに点灯します。	**⚠ 注 意** 警告灯が点灯したままの状態で走行しないでください。
	ドライバーモニタリングシステム警告灯（黄色）	ドライバーモニタリングシステムに異常があるときに点灯します。 スバル販売店で点検を受けてください。 ☞**P.625**参照	—
Eye Sight	EyeSight 警告表示灯（黄色）	• EyeSight システムが故障したときに点灯または点滅します。 • 点灯または点滅しているときは、EyeSightシステムのすべての機能（全車速追従機能付クルーズコントロール、プリクラッシュブレーキなどすべて）が使用できません。 ☞**P.571**参照	**⚠ 注 意** 走行中に EyeSight 警告表示灯とエンジン警告灯が同時に点灯したときは、高速走行を避け、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。エンジンなどに異常がある場合、EyeSightシステムは使用できません。 **知 識** • EyeSight警告表示灯が点灯、または点滅したときは、安全な場所に停車して、一度プッシュエンジンスイッチをOFFにしてから、再びエンジンを始動してください。 • エンジンを再始動しても表示灯が点灯、または点滅し続けるときは、EyeSightシステムの異常が考えられます。この場合、EyeSightシステムのすべての機能が停止します。通常走行には支障ありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。

マルチインフォメーションディスプレイ

メーターの表示部は、警報や異常などを検知したときに割り込み画面表示により対処法を表示したり、各種項目の設定（カスタマイズ）が行えます。

(1) ECOゲージ
(2) 基本画面、割り込み画面
(3) EyeSight表示
(4) iマーク
(5) ウォーニング固定表示
(6) シフトポジション表示
(7) オドメーター（積算距離計）、トリップメーター
(8) SI-DRIVE表示／X（エックス）モード表示灯
(9) フューエルメーター（燃料計）



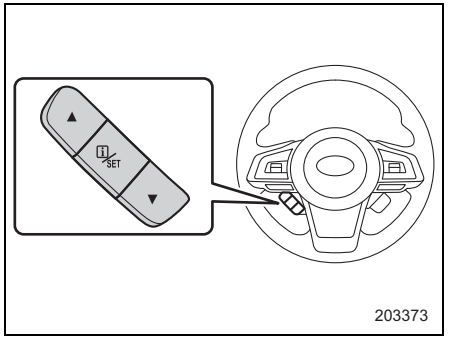
■マルチインフォメーションディスプレイ操作スイッチ

●▲（戻し）スイッチ／▼（送り）スイッチ

次の場合に使用します。

- マルチインフォメーションディスプレイの表示画面を切り替えるとき
- メーターの初期作動など、各種項目の設定を変更するとき

☞P.158参照



●i（インフォメーション）／SETスイッチ

次の場合に使用します。

- マルチインフォメーションディスプレイの割り込み画面を再表示するとき

☞P.140参照

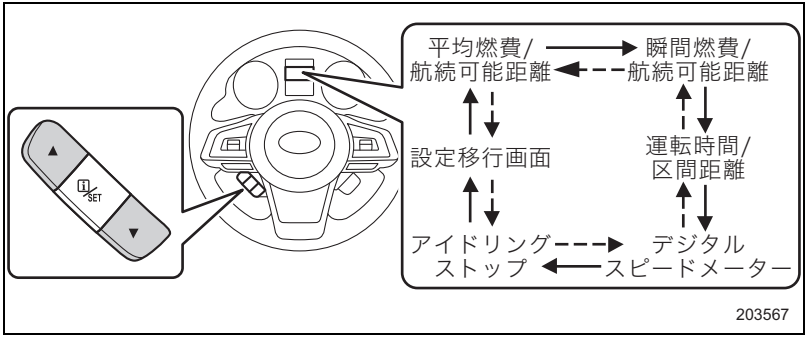
- メーターの初期作動など、各種項目の設定を変更するとき

☞P.158参照

■基本画面の切り替えかた

▲▼スイッチを手前に引いて切り替えます。

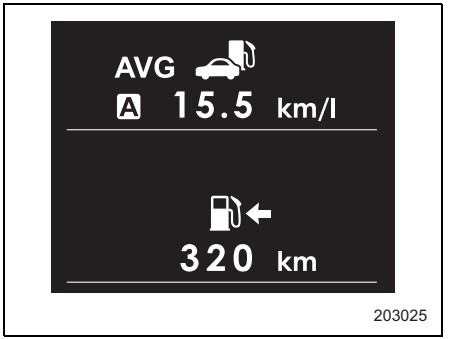
- ◄- - - : ▲（戻し）スイッチ
- ——► : ▼（送り）スイッチ



●燃費①

▼平均燃費／航続可能距離（残走行距離）

トリップメーターをリセットしてからの平均燃費と航続可能距離（残走行距離）を表示します。航続可能距離は、燃料タンク内の燃料量と平均燃費を計算して、走行可能距離を表示します。



●燃費②

▼瞬間燃費／航続可能距離（残走行距離）

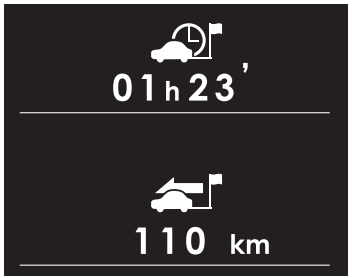
走行している瞬間の燃費と航続可能距離（残走行距離）を表示します。航続可能距離は、燃料タンク内の燃料量と平均燃費を計算して、走行可能距離を表示します。

203026

●運転情報

▼運転時間／区間距離

プッシュエンジンスイッチを ON にしてから経過した時間と走行距離を表示します。表示範囲は00'（00分）～99 h59'（99時間59分）です。



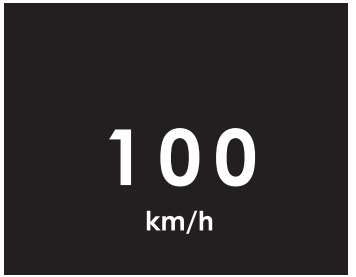
203027

知 識

走行時間以外の画面を表示している場合も、走行時間はプッシュエンジンスイッチを OFF または ACC にするまで継続してカウントされます。

●デジタルスピードメーター

お車の走行速度を表示します。



203028

●アイドリングストップ

トリップメーターをリセットしてからの、アイドリングストップした積算時間と節約した燃料の目安を表示します。トリップA、トリップBそれぞれについて表示します。表示範囲は次のとおりです。

- 積算時間：
  00'00"（00分00秒）～9999 h59'59"
  （9999時間59分59秒）
- 燃料節約量：0 ml～9999.999 L

203029

知 識

- トリップAまたはトリップBをリセットすると、積算時間および燃料節約量もリセットされます。
- アイドリングストップ作動によるエンジン停止中も、走行時間はカウントを続けます。

●設定移行画面

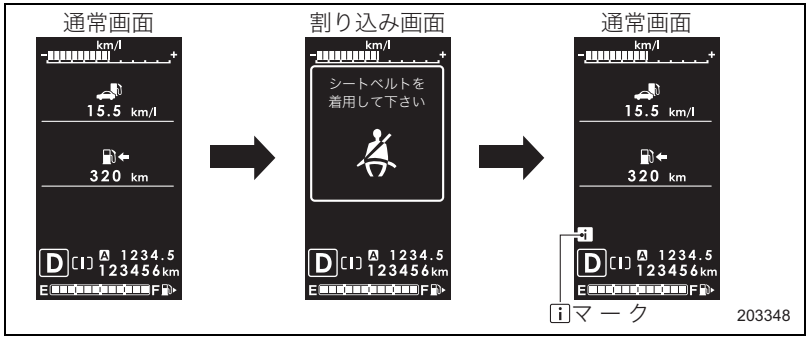
各種項目の設定を変更することができます。

☞P.158参照

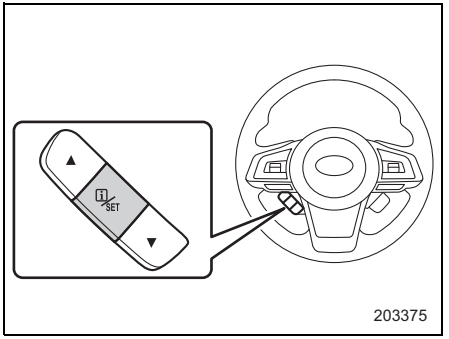
203030

■割り込み画面

警報や異常などを検知すると、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面を表示します。内容によっては、割り込み画面の表示と同時にブザーが鳴ります。



割り込み画面が表示された場合、画面一覧を参照し、必要な処置を行ってください。表示画面1、表示画面2の順に表示します。 マークが点灯しているときに (インフォメーション) ／SETスイッチを引くと、割り込み画面を再表示することができます。



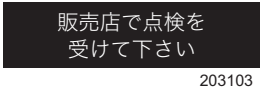
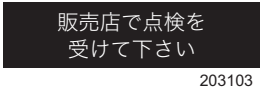
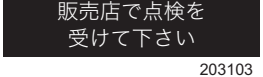
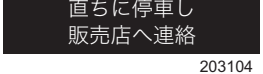
知 識

処置を行っても割り込み画面が消えない場合は、スバル販売店で点検を受けてください。

●画面一覧（警告表示）

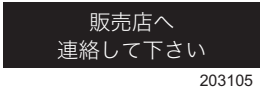
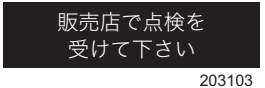
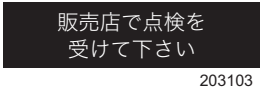
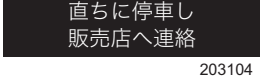
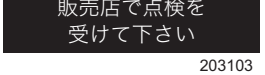
項目	表示画面1	表示画面2	iマーク
運転席シートベルト警告	203096	—	あり （赤色）
電動パーキングブレーキ未解除	203290	—	あり （赤色）
SI-DRIVEモード切り替え禁止	203098	203103	なし
ブレーキシステム警告	203099	203104	あり （赤色）
ブレーキ液量低下警告	203100	203104	あり （赤色）

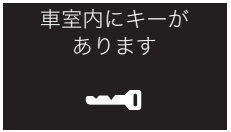
次ページへ ⇒

項目	表示画面1	表示画面2	iマーク
エンジン警告	203101	203105	あり (黄色)
ABS警告	203102	 203103	あり (黄色)
ステアリング制御警告	203106	 203103	あり (赤色)
LEDヘッドランプ警告	203602	 203103	あり (黄色)
電動パーキングブレーキ警告	203603	 203104	あり (黄色)

項目	表示画面1	表示画面2	マークマーク
アクティブグリルシャッター警告	203604	203103	あり (黄色)
エンジンオイル残量警告	203605	203103	あり (黄色)
水温警告	203107	203105	あり (赤色)
VDC警告	203108	203103	あり (黄色)
トランスミッション警告	203109	203103	あり (黄色)

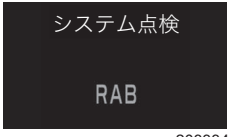
次ページへ ⇒

項目	表示画面1	表示画面2	iマーク
AT油温警告	203110	 203105	あり (赤色)
AWD警告	203111	 203103	あり (黄色)
オートヘッドランプレベラー警告	203112	 203103	あり (黄色)
SRSエアバッグ警告	203113	 203104	あり (赤色)
キーレスアクセス&プッシュスタート警告	203114	 203103	あり (黄色)

項目	表示画面1	表示画面2	マークi
キーバッテリー残量警告	203115	—	あり (黄色)
キーなし警告	203116	状況と処置については、キーレスアクセス＆プッシュスタートシステムの「警告音および警告表示」を参照してください。 ☞**P.255**、**373**参照	なし
電源切り忘れ警告	203676		なし
キー置き忘れ警告	 203118		なし
リヤシートリマインダー	203675	—	なし

次ページへ ⇒

項目	表示画面1	表示画面2	iマーク
アイドリングストップ警告	203119	203103	あり (黄色)
ランプ消し忘れ警告	203677	—	なし
半ドア警告 ボンネット開警告	203404	—	なし
燃料残量警告	203122	—	あり (黄色)
排気システム警告	204038	203105	あり (黄色)

項目	表示画面1	表示画面2	iマーク
SRVD警告	203123	203103	あり (黄色)
SRVD一時停止	203288	—	あり (黄色)
SRVD一時停止レーダー検知不能	203289	—	あり (黄色)
ADBシステム警告	203469	203103	あり (黄色)
RAB警告	 203334	203103	あり (黄色)

次ページへ ⇒

項目	表示画面1	表示画面2	iマーク
RAB一時停止	203333	—	あり (黄色)
プリクラッシュブレーキ	203405	—	なし
ブレーキ踏み増し要求警報			なし
AT誤発進抑制制御			なし
プリクラッシュブレーキ作動	203593	—	なし
エマージェンシーレーンキープアシスト	501745	—	なし
後退飛び出し抑制	203406	—	なし
RAB後方注意			

項目	表示画面1	表示画面2	マークマーク
後退速度リミッター	203407	—	なし
後退速度リミッター制限速度設定	203187	—	なし
車線逸脱警報	203408	—	なし

次ページへ ⇒

項目	表示画面1	表示画面2	iマーク
車線中央維持・先行車追従操舵機能、車線逸脱抑制機能のハンドル操作非検出	203536	—	なし
車線中央維持・先行車追従操舵機能のハンドル操作長時間非検出（ハンドル赤色点灯） 車線逸脱抑制機能の長時間作動、複数回作動（ハンドル赤色点灯） 車線中央維持機能の逸脱回避要求警報（ハンドル赤色点灯）	203537		
車線中央維持・先行車追従操舵機能のハンドル操作長時間非検出による自動解除（ハンドル赤色点灯）	203538		
ふらつき警報	203409	—	なし
先行車発進お知らせ	203410	—	なし

項目	表示画面1	表示画面2	マークマーク
赤信号検知お知らせ	203564	—	なし
青信号お知らせ	501729	—	なし
EyeSightシステムの故障	501715	—	あり (黄色)

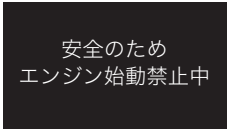
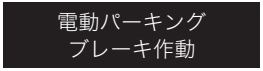
次ページへ ⇒

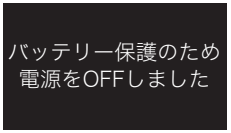
項目	表示画面1	表示画面2	iマーク
EyeSightシステムの一時停止	501717	—	あり （白色）
	501718	—	あり （白色）
	501719	—	あり （白色）
EyeSightシステムによる自動解除※	203196	—	なし
	203411	—	なし
	203198	—	なし

※ 解除した理由を合わせて表示する場合があります。

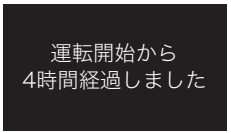
項目	表示画面1	表示画面2	マークマーク
居眠り警告／強い眠気警告	203543	—	なし
弱い眠気警告	203544	—	なし
脇見警告	203545	—	なし
ドライバーモニタリングシステム警告	203547	203103	あり (黄色)
ドライバーモニタリングシステム一時停止	203546	—	あり (白色)

●画面一覧（操作方法と車両の状況）

項目	表示画面1	表示画面2	iマーク
シフトポジション要求警告	203128	—	あり （白色）
エンジン始動禁止	 203606	203607	なし
電動パーキングブレーキ作動	 203601	—	なし
ステアリングロック未解除	203129	203133	あり （白色）
エマージェンシー操作	203130	203134	あり （黄色）

項目	表示画面1	表示画面2	マークマーク
始動時ブレーキ要求	 203131	 203135	あり (白色)
バッテリー保護自動電源OFF	 203678	—	あり (白色)
SIモード切り替え	 203212	—	なし
X（エックス）モード切り替え	 203697	—	なし
	 203698	—	なし

次ページへ ⇒

項目	表示画面1	表示画面2	マークi
路面凍結警告表示	305345	—	なし
SRVD解除	203597	—	なし
プリクラッシュブレーキブレーキ踏み促し	203332	—	なし
RABブレーキ踏み促し			なし
AVHブレーキ踏み指示	203539	—	なし
運転時間経過お知らせ	 203540	—	なし

項目	表示画面1	表示画面2	iマーク
非常ブレーキ作動	 204210	—	なし

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイで次の項目の設定を変更することができます。

項目		設定	初期設定
画面設定	ウェルカム画面※1	ON／OFF	ON
	グッバイ画面	ON／OFF	ON
	メーター初期作動	ON／OFF	ON
	言語	日本語／English	日本語
警報音量※2		大／中／小	中
後席リマインダー （リヤシートリマインダー）		ON／OFF	ON
EyeSight	先行車捕捉音	ON／OFF	ON
	青信号お知らせ	ON／OFF	ON
	先行車発進お知らせ	ON／OFF	ON
	クルーズコントロール加速レベル	ダイナミック／スタンダード／コンフォート／エコ	スタンダード
	レーンキープ 中央維持＋先行車追従	ON／OFF	ON
	後退速度リミッター	高速／中速／低速／OFF	低速
RAB	ソナー警報音	ON／OFF	ON
	自動（被害軽減）ブレーキ	ON／OFF	ON

項目			設定	初期設定
車両設定	キーレスエントリー キーレスアクセス	ブザー吹鳴※3	作動あり／作動なし	作動あり
		非常点滅灯 （ハザードランプ）	作動あり／作動なし	作動あり
		自動施錠時間	20秒／30秒／40秒／50秒／60秒／作動なし	30秒
	リヤデフォッガー （リヤウインドゥデフォッガー）※4		15分作動／連続作動	15分作動
	室内灯消灯時間		10秒／20秒／30秒／作動なし	30秒
	車両オートドア ロック・アンロック	車両オートドアロック	車速／セレクトレバー P※5／OFF	車速
		車両オートドア アンロック	セレクトレバー P／電源OFF ／運転席ドア開／OFF	運転席ドア開
	方向指示器ワンタッチ機能		ON／OFF	ON
	ドアミラー設定	キー連動 格納ドアミラー	ON／OFF	ON
		リバース連動 チルトダウンドアミラー	ON／OFF	ON
設定リセット			いいえ／はい	—

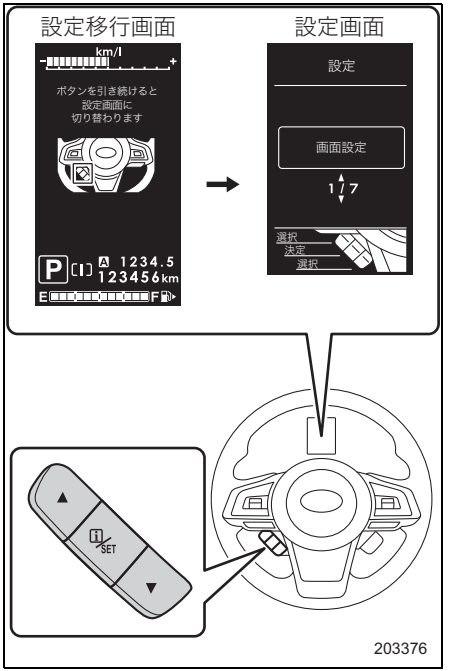
※1: ウェルカム照明と連動
※2: EyeSight、SRVD、RABの警報音
※3: 設定が作動なしのとき、パワーリヤゲート（装備車のみ）の作動開始ブザーは鳴りません。
（挟み込み感知時などの警告ブザーは除く）
※4: フロントワイパーデアイサー、ヒーテッドドアミラーと連動。
※5: セレクトレバーを“P”から動かしたときにすべてのドア（リヤゲート含む）とフューエルリッドが自動で施錠されます。

●カスタマイズのしかた

プッシュエンジンスイッチがONでセレクトレバーが“P”のときに操作してください。

1. ▲▼スイッチを手前に引いて、“ 設定移行画面”を表示します。
   (インフォメーション）／SET スイッチを引き続けると、設定画面に切り替わります。
2. ▲▼スイッチを手前に引いて“画面設定”を選択し、(インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。
   画面設定の画面に切り替わります。

   画面の表示にそって、次のスイッチを操作してください。
   - 選択：
     ▲（戻し）スイッチ
     ▼（送り）スイッチ
   - 決定：
     (インフォメーション）／ SET スイッチ



知 識

- “戻る”を選択すると、一つ上の階層に戻ります。
- 約30秒間操作されなかった場合、カスタマイズがキャンセルされ、“設定移行画面”に戻ります。

●画面設定

▼ウェルカム画面の設定

ウェルカム画面およびウェルカム照明のON／OFFを設定できます。ウェルカム画面をOFFに設定すると、ウェルカム照明もOFFになります。

▼グッバイ画面の設定

グッバイ画面のON／OFFを設定できます。

▼メーター初期作動の設定

メーター初期作動（スイープ機能）のON／OFFを設定できます。

▼言語の設定

マルチインフォメーションディスプレイの表示言語を日本語または英語に設定できます。

●警報音量

警報音量（大／中／小）を設定できます。

●後席リマインダー（リヤシートリマインダー）

リヤシートリマインダーのON／OFFを設定できます。

●EyeSight

▼先行車捕捉音の設定

先行車捕捉音のON／OFFを設定できます。

▼青信号お知らせの設定

青信号お知らせのON／OFFを設定できます。

▼先行車発進お知らせの設定

先行車発進お知らせのON／OFFを設定できます。

▼クルーズコントロール加速レベルの設定

クルーズコントロールの加速特性を4段階に設定できます。

- ダイナミック：強い加速が必要なときに使用するモード
- スタンダード：メリハリのある走行を行うときに使用するモード
- コンフォート：穏やかな動きの走行を行うときに使用するモード
- エコ：燃費を重視した、穏やかな動きの走行を行うときに使用するモード

▼レーンキープ 中央維持＋先行車追従の設定

車線中央維持・先行車追従操舵機能のON／OFFを設定できます。

知 識

カスタマイズ機能で「レーンキープ 中央維持＋先行車追従」をOFFに設定している場合、全車速追従機能付クルーズコントロールのセット状態にかかわらず（レーンキープ）スイッチを押すと車線逸脱抑制機能が作動します。

▼後退速度リミッターの設定

AT誤後進抑制機能の後退速度リミッターは高速／中速／低速／OFFに設定できます。

設定	速度
高速	約20 km/h
中速	約15 km/h
低速	約10 km/h
OFF	—

●RAB

▼ソナー警報音の設定

RABの作動時に鳴るソナー警報音のON／OFFを設定できます。

▼自動（被害軽減）ブレーキの設定

RABによるブレーキ制御のON／OFFを設定できます。

●車両設定

▼キーレスエントリー／キーレスアクセスの設定

- ブザー音
  解錠時や施錠時に鳴るブザーの作動あり／作動なしを設定できます。
- 非常点滅灯（ハザードランプ）
  解錠時や施錠時に点滅する非常点滅表示灯（ハザードランプ）の作動あり／作動なしを設定できます。
- 自動施錠時間
  自動施錠の作動あり／作動なし、および施錠されるまでの時間を20秒／30秒／40秒／50秒／60秒に設定できます。

▼リヤデフォッガー（リヤウインドゥデフォッガー）の設定

リヤウインドゥデフォッガーの作動を15分作動／連続作動に設定できます。

▼室内灯消灯時間の設定

室内灯のオフディレイ機能の作動あり／作動なし、および消灯するまでの時間を10秒／20秒／30秒に設定できます。

▼車両オートドアロック・アンロックの設定

- 車両オートドアロック
  オートドアロックの作動条件を車速（約20 km/h以上）／セレクトレバーP（“P”から動かしたとき）／OFFに設定できます。
- 車両オートドアアンロック
  オートドアアンロックの作動条件をセレクトレバーP（“P”にしたとき）／電源OFF／運転席ドア開／OFFに設定できます。

▼方向指示器ワンタッチ機能の設定

方向指示器のワンタッチ機能のON／OFFを設定できます。

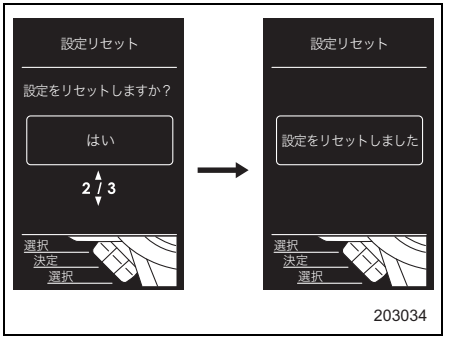
▼ドアミラー設定

- キー連動格納ドアミラー
  キー連動格納ドアミラー機能のON／OFFを設定できます。
- リバース連動チルトダウンドアミラー
  リバース連動チルトダウンドアミラー機能のON／OFFを設定できます。

●設定リセット（初期設定に戻すとき）

プッシュエンジンスイッチがONで停車中、セレクトレバーが“P”のときに操作できます。

1. ▲▼スイッチを手前に引いて、“ 設定移行画面”を表示します。
   i（インフォメーション）／SETスイッチを引き続けると、設定画面に切り替わります。
2. ▲▼スイッチを手前に引いて “ 設定リセット ” を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。
3. ▲▼スイッチで “ はい ” を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチで決定します。



●カスタマイズのキャンセル

次の場合、カスタマイズがキャンセルされ“設定移行画面”に戻ります。

- i（インフォメーション）／SETスイッチを手前に引き続けたとき
- プッシュエンジンスイッチをOFFにしたとき
- 約30秒間スイッチが操作されなかったとき

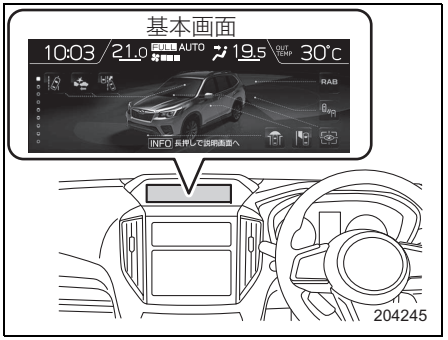
知 識

工場出荷時（初期状態）に戻す操作をしてもカスタマイズ項目のドアミラー設定以外の車両設定（キーレスエントリー／キーレスアクセス、リヤデフォッガー（リヤウインドゥデフォッガー）、室内灯消灯時間、車両オートドアロック・アンロック、方向指示器ワンタッチ機能）は初期状態には戻りません。

マルチファンクションディスプレイ

マルチファンクションディスプレイの機能

プッシュエンジンスイッチがOFF以外のとき、時計や燃費などを表示することができます。また、各種項目の設定（カスタマイズ）が行えます。



次のような画面を表示することができます。

- 時計、外気温度、燃費、車両の走行状態のビジュアル表示やFavoriteなど

☞P.170参照

- エンジンオイルの交換時期や定期点検時期の確認画面

☞P.168参照

- 時刻／日付、誕生日の登録や表示方法など各種項目の設定画面

☞P.180参照

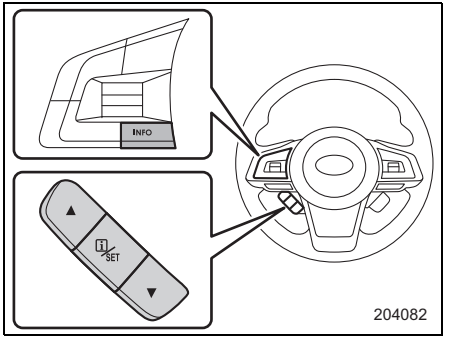
⚠ 警 告

- 走行中にマルチファンクションディスプレイを操作したり、画面を注視したりしないでください。
  - 走行中の操作または画面の注視はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあります。車を停車させてから操作をしてください。

操作スイッチ

次の場合に使用します。

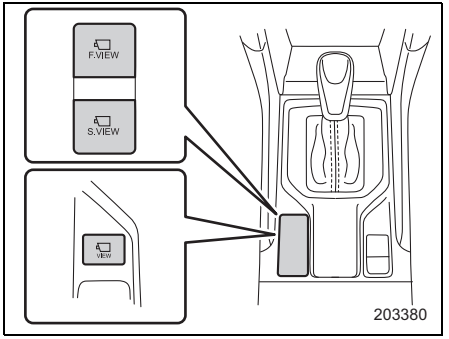
- 基本画面の表示中にINFOスイッチを押してマルチファンクションディスプレイの表示画面を切り替えます。
- 設定移行画面を表示しているとき、INFOスイッチを押し続けると、設定画面を表示します。
- 画面など各種項目の設定を変更するとき設定画面で▲▼スイッチを操作して、項目を選択します。



- S.VIEWスイッチ、F.VIEWスイッチまたはVIEWスイッチを押すと、マルチファンクションディスプレイにモニターの映像を表示します。

☞P.610参照

- ナビ・オーディオ関連の操作ができます(スバル純正用品の装着時のみ)。
  各スイッチの操作については、付属の取扱説明書をご覧ください。



ウェルカム画面

ドアを解錠し、運転席ドアを開けて閉めたときにウェルカム画面を一定時間表示します。

203036

知 識

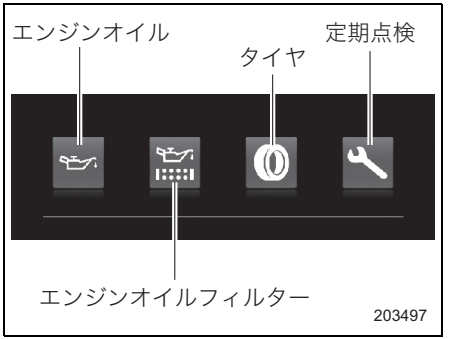
- ウェルカム画面は一度表示すると、プッシュエンジンスイッチを OFF にしてから一定時間が経過するまでは運転席ドアを開けても表示しません。
- キーレスエントリー（キーレスアクセス機能、電波式リモコンドアロック）でドアを施錠するとウェルカム画面を中断します。
- ウェルカム画面表示中にプッシュエンジンスイッチを ACC または ON にするとウェルカム画面が消え、メンテナンスチェック画面（表示を ON に設定している場合）または基本画面に切り替わります。

☞P.168、170参照

メンテナンスチェック画面

1. プッシュエンジンスイッチを ON にすると、次の項目のセルフチェックを行います。

☞P.180、194参照



項目	チェックの内容	項目	チェックの内容
エンジンオイル	交換時期（日付と距離）	タイヤ	ローテーション（位置交換）時期（日付と距離）
エンジンオイルフィルター	交換時期（日付と距離）	定期点検	点検整備時期（日付と距離）

2. メンテナンス時期（日付・距離）の15日前または残り 500 km になると、該当するメンテナンス時期のお知らせ画面を表示します。

例：エンジンオイルの交換時期が近づいたとき

知 識

- セルフチェックはメンテナンス時期（日付･距離）を設定している項目のみ行います。エンジンオイルの交換や定期点検後は、メンテナンス時期の更新設定を行ってください。

☞P.194参照

- エンジンオイル、エンジンオイルフィルター、タイヤは工場出荷時にメンテナンス時期（距離のみ）が設定されています。

☞P.180参照

- メンテナンスチェック画面の表示をOFFに設定できます。

☞P.180参照

知 識

メンテナンス時期のお知らせ画面は表示後15 日経過または 500 km 走行するまで表示をし続けます。

日付表示

プッシュエンジンスイッチを ON にすると日付を一定時間表示します。

知 識

メンテナンスチェック画面を「表示ON」に設定している場合、日付はメンテナンスチェック画面の後に表示します。

■誕生日、記念日のお知らせ画面

誕生日または記念日を登録している場合、登録した日の7日前から当日まで、お知らせ画面（リマインダー）を日付表示の後に一定時間表示します。

例：誕生日当日のお知らせ画面

知 識

- 誕生日リマインダー、記念日リマインダーをOFFに設定できます。

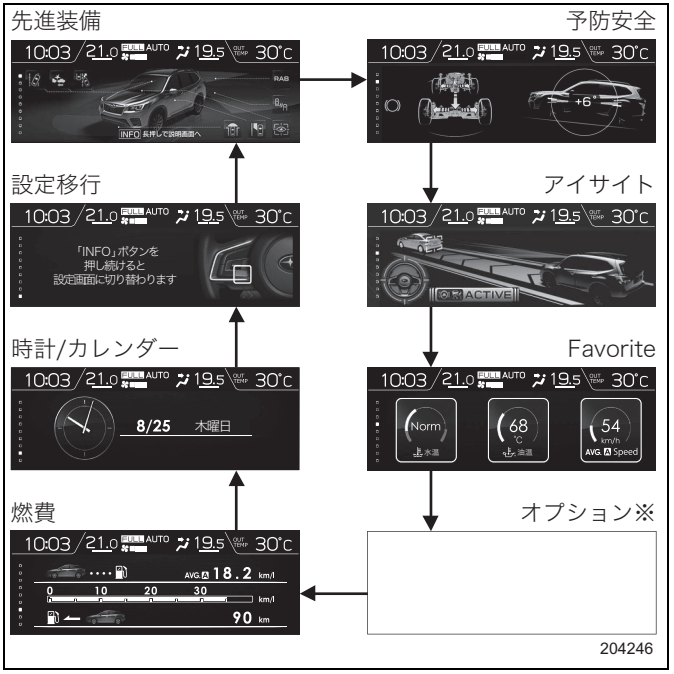
☞P.181参照

- 誕生日、記念日はそれぞれ５件まで登録できます。

基本画面

通常表示される画面です。INFOスイッチを押して、表示する画面を切り替えます。

- ⟶▶：INFOスイッチを押す



※ 表示の有無はオプション装備により異なります。

知 識

(クルーズ) スイッチを押してクルーズメイン ON にすると、マルチファンクションディスプレイの表示がアイサイト画面に切り替わります。

■インフォメーションバー（常時表示領域）

プッシュエンジンスイッチがACCのときは画面上部に時計を表示し、ONにするとさらに外気温度計を表示します。

エアコン部分は、エアコンの運転席および助手席温度、ファン風量、モードの状態を表示することができます。

☞P.644参照

●時計

時計は次の設定ができます。

- 12時間表示または24時間表示

☞P.180、183参照

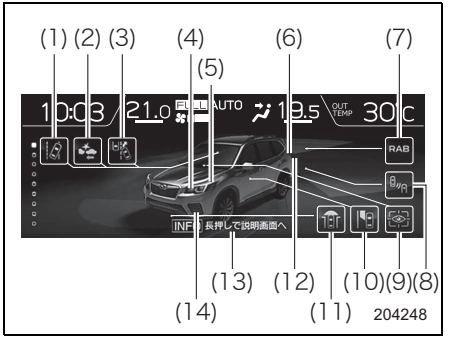
知 識

- バッテリーの接続を外すとインフォメーションバーは工場出荷時の状態に戻ります。バッテリーを接続後、正しい時刻に修正してください。

☞P.183参照

- 外気温度計は外気温度センサー取り付け部の温度を表示していますので、実際の外気温度とは異なる場合があります。
  - 停車中や低速走行時、またはしばらく駐車した後にエンジンを再始動したときは、周囲の熱の影響を受けるため正しい温度が表示されないことがあります。
- 温度差のある場所に出入りしたときなど、外気温度計の表示の更新が遅れることがあります。

■基本画面1：先進装備画面



(1) 車線逸脱警報／ふらつき警報の ON／OFF
(2) プリクラッシュブレーキの ON／OFF
(3) エマージェンシーレーンキープアシストのON／OFF
(4) 方向指示器／非常点滅表示灯（ハザードランプ）の点灯状態
(5) スモールランプ／ヘッドランプの点灯状態
(6) リヤフォグランプの点灯状態
(7) RABのON／OFF
(8) SRVDのON／OFF
(9) ドライバーモニタリングシステムのON／OFF
(10) サイドビューカメラ
(11) フロントビューカメラ※
(12) ブレーキランプの点灯状態
(13) 説明移行（点灯時は説明画面へ移行可能状態）
(14) フロントフォグランプの点灯状態

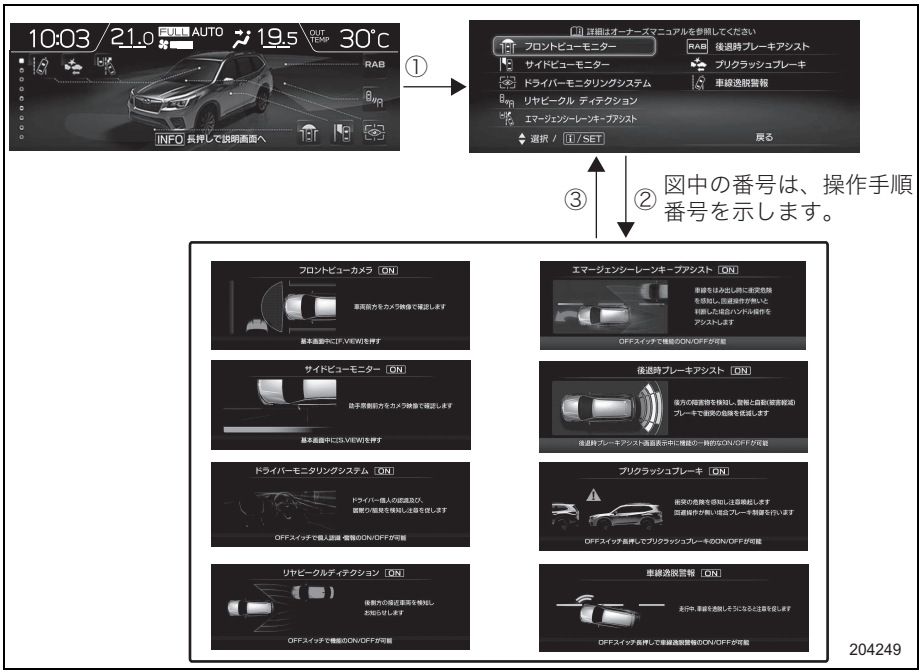
※ 表示の有無は装備により異なります。

知 識

画面のランプ点灯状態で球切れを確認することはできません。

●説明画面

1. INFOスイッチを長押ししてメニュー画面を表示します。
2. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して表示したい項目を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定すると、説明画面に切り替わります。
3. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作、またはi（インフォメーション）／SETスイッチを引くと、メニュー画面に戻ります。

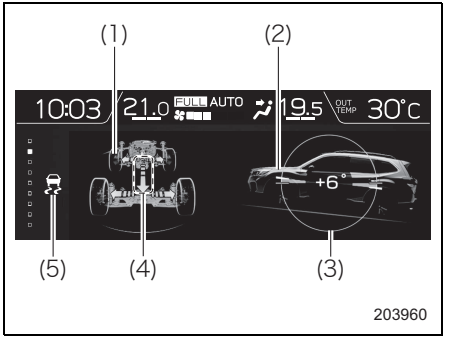


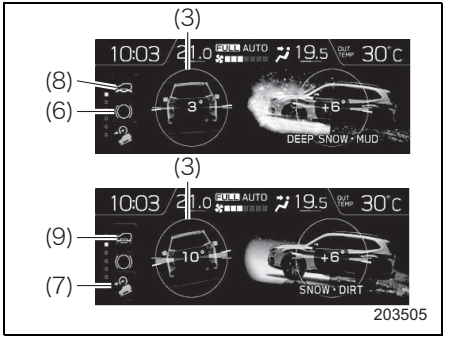
■基本画面2：予防安全画面

次の情報を表示します。

(1) ステアリング
舵角
(2) 車両傾斜
姿勢
(3) 車両傾斜
角度
(4) パワートレイン
動力伝達状態
(5) VDC
作動状態

(6) AVH
作動状態
(7) ヒルディセントコントロール
作動状態
(8) X（エックス）モード
DEEP SNOW・MUD状態
(9) X（エックス）モード
SNOW・DIRT状態





知 識

車両傾斜として表示される角度は、路面の傾きだけでなく、乗員の数や荷物の量、加減速などによる車両の傾きによっても変動します。

■基本画面3：アイサイト画面

次の情報を表示します。

(1) 先行車
先行車の有無

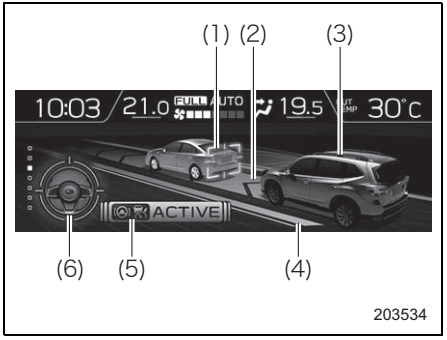
(2) レーン
レーンキープ作動状態

(3) 自車
自車

(4) 白線
・車線中央維持・先行車追従操舵機能：
システム作動状態
・車線逸脱抑制機能：
システムスタンバイ状態／作動状態

(5) ツーリングアシスト
作動状態

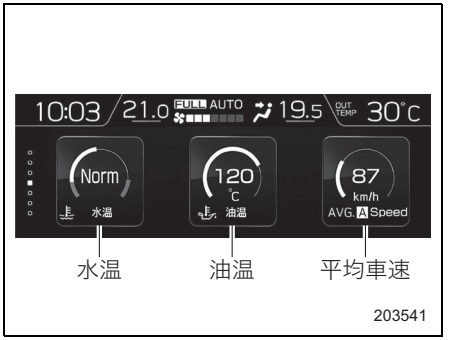
(6) ハンドル
ハンドルの操舵状況



■基本画面4：Favorite画面

任意に選択した項目を最大３つ表示できます。

☞P.180、189参照



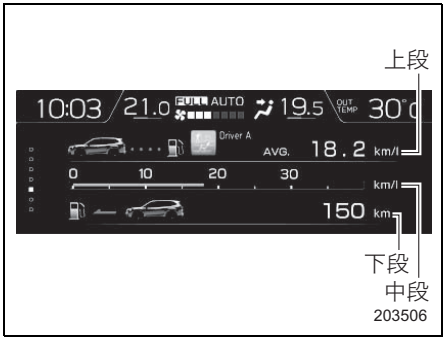
＜表示可能な項目＞

項目	表示	詳細	項目	表示	詳細
水温		Cold／Normal／Hot	瞬間燃費		km/L
油温		℃	カレンダー		月／日／曜日
平均車速		km/h	ドライバーモニタリングシステム		ドライバー認識状態
アクセル開度		%	ブランク		—
勾配		°	—	—	—

■基本画面5：燃費画面

次の情報を表示します。
ドライバーモニタリングシステムが登録者を認識している場合は、個人の燃費情報を表示します。

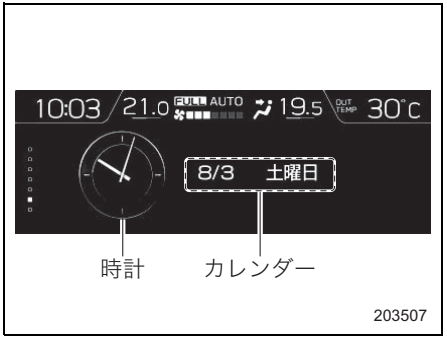
- 上段：平均燃費（トリップA、B連動）
- 中段：瞬間燃費
- 下段：航続可能距離（残走行距離）



■基本画面6：時計／カレンダー画面

次の情報を表示します。

- アナログ時計
- カレンダー



■基本画面7：設定移行画面

INFO スイッチを押し続けると設定画面に切り替わります。
時刻／日付、誕生日の登録や、画面の表示方法など各種項目の設定を変更することができます。
☞P.180参照

203508

知 識

- コンビネーションメーターのマルチインフォメーションディスプレイに設定移行画面が表示されている場合は、マルチファンクションディスプレイが設定画面に切り替わりません。
  - マルチインフォメーションディスプレイが設定移行画面中にドアを開けたりして別の画面に切り替わっていても、設定画面には切り替わりません。
  - マルチインフォメーションディスプレイの画面を設定移行画面以外にしてください。

☞P.136参照

グッバイ画面

プッシュエンジンスイッチをOFFにするとグッバイ画面を一定時間表示し、その後消えます。

知 識

- グッバイ画面表示中でもドアを閉めると消えます。
- ドライバーモニタリングシステムとユーザー情報連動がONで、ユーザー認識が完了しているとき、グッバイ画面は表示されず、See You画面が表示されます。

☞**P.617**参照

カスタマイズ機能

■カスタマイズ項目一覧

マルチファンクションディスプレイで設定メニューから次の項目を選んで、設定をカスタマイズすることができます。
「カスタマイズのしかた」には、操作の代表例として下の表の中で下線が付いている項目の設定手順を記載しています。その他の項目については、同じように画面の表示にそってスイッチを操作してください。

☞P.198参照

設定メニュー	項目	設定		初期設定
時刻／日付 ☞P.183	時刻／日付	日付、時間、時制（24時間／12時間）		2018年1月1日 00：00、12時間
	誕生日	日付、名前		なし
	記念日	日付、名前		なし
ドライバーモニタリングシステム設定 ☞P.185	手動再認識	再認識しますか？	はい／いいえ	—
	ユーザー情報連動	ON／OFF		ON
	ドアオープン連動シート後退	ON／OFF		OFF
	ユーザー登録	1／2／3／4／5		—
	ドライバーポジション再登録	ドライバーポジションを再登録します。 シート・ドアミラー位置を調整してください。 調整後、“設定”を押してください。		—

知 識

カスタマイズした設定を初期化し、工場出荷時の設定に戻すことができます。

☞P.197参照

設定メニュー	項目	設定		初期設定
ドライバーモニタリングシステム設定 ☞P.185	ドライバーポジションメモリー消去	ドライバーポジションメモリーを消去しますよろしいですか？	はい／いいえ	—
	ユーザー消去	1／2／3／4／5		—
	全ユーザー消去	すべてのユーザーを消去しますよろしいですか？	はい／いいえ	—
画面／音量 ☞P.188	画面OFF	画面をOFFしますか？	はい／いいえ	—
	Favorite ☞P.220	水温、油温、平均車速、アクセル開度、勾配、瞬間燃費、カレンダー、ドライバーモニタリングシステム、ブランク		左：水温 中：油温 右：平均車速
	割り込み表示 ☞P.222	誕生日リマインダー	ON／OFF	ON
		記念日リマインダー	ON／OFF	ON
	音量	大／小／OFF		大
エアコン設定 ☞P.190	基本設定	ノーマル／マイルド／エコ／パワフル		ノーマル
	乗員連動	ON／OFF		ON
カメラ設定 ☞P.192	明るさ	オート／1～6		オート
	コントラスト	−5～0～+5		0
	カメラセレクトレバー連動	ON／OFF		ON

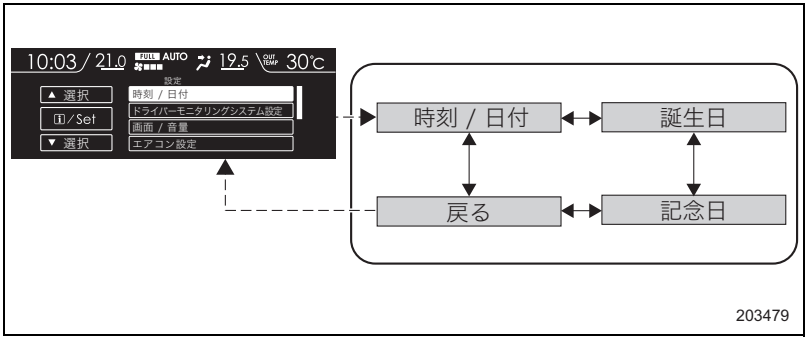
次ページへ ⇒

設定メニュー	項目	設定	初期設定
メンテナンス ☞P.194	エンジンオイル	お知らせ日／お知らせ距離	10000 km※
	オイルフィルター	お知らせ日／お知らせ距離	10000 km※
	タイヤ	お知らせ日／お知らせ距離	5000 km※
	定期点検	お知らせ日／お知らせ距離	なし
	ON／OFF	メンテナンスチェック画面のON／OFF	OFF
	設定消去	はい／いいえ	—
工場出荷設定 ☞P.197		はい／いいえ	—

※ お知らせ距離の初期設定です。

●設定メニュー：時刻／日付

1. 設定移行画面を表示しているとき、INFOスイッチを押し続けると設定画面に切り替わります。
2. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して「時刻／日付」を選択し、i（インフォメーション）／SET スイッチを引いて決定すると、時刻／日付の項目選択画面に切り替わります。
3. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して設定したい項目を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定すると、設定画面に切り替わります。



- ◀⟷▶：▲（戻し）▼（送り）スイッチ
- ----▶：i（インフォメーション）／SETスイッチを引く

知 識

- コンビネーションメーターのマルチインフォメーションディスプレイに設定移行画面が表示されている場合は、マルチファンクションディスプレイが設定画面に切り替わりません。
  - マルチインフォメーションディスプレイが設定移行画面中にドアを開けたりして別の画面に切り替わっていても、設定画面には切り替わりません。
  - マルチインフォメーションディスプレイの画面を設定移行画面以外にしてください。

☞P.136参照

次ページへ ⇒

4. 設定するときは、画面の表示にそって次のスイッチを操作してください。
   - 選択：▲（戻し）▼（送り）スイッチ
   - 決定：i（インフォメーション）／SETスイッチを引く

項目	表示	設定	設定の内容
時刻／日付	203880	年、月、日、時、分、時計表示（24時間／12時間）	現在の日付と時間、および時計の表示方法
誕生日	203881	月、日、名前	誕生日の登録（5件まで）（7 日前から当日までプッシュエンジンスイッチをACC またはON にするとお知らせ画面を表示）
記念日	203882	月、日、名前	記念日の登録（5件まで）（7 日前から当日までプッシュエンジンスイッチをACC またはON にするとお知らせ画面を表示）

知 識

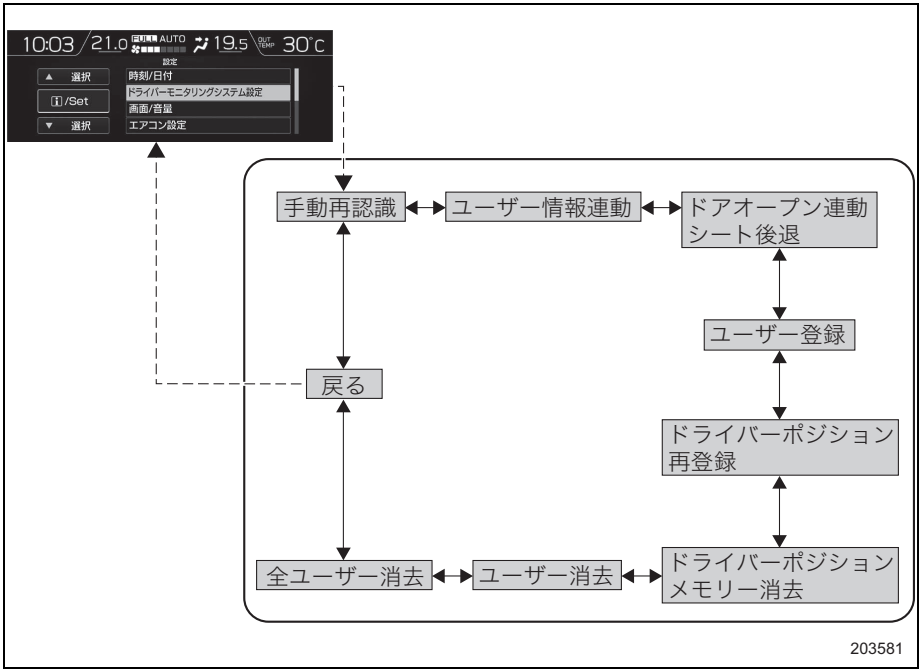
- 例として、時刻／日付と誕生日の設定方法を「カスタマイズのしかた」で説明しています。

☞P.199参照

- ご使用のナビゲーションシステムによっては、時刻／日付が自動的に設定され、マルチファンクションディスプレイでの設定ができない場合があります。詳しくはナビゲーションシステムに付属の取扱説明書をご覧ください。

●設定メニュー：ドライバーモニタリングシステム

1. 設定移行画面を表示しているとき、INFOスイッチを押し続けると設定画面に切り替わります。
2. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して「ドライバーモニタリングシステム設定」を選択し、(インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定すると、ドライバーモニタリングシステム設定の項目選択画面に切り替わります。
3. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して設定したい項目を選択し、(インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定すると、設定画面に切り替わります。

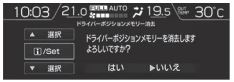


次ページへ ⇒

- ←→：▲（戻し）▼（送り）スイッチ
- ----→：i（インフォメーション）／SETスイッチを引く

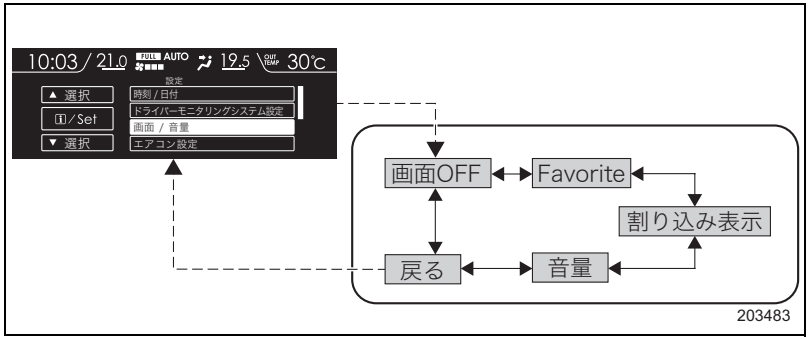
4. 設定するときは、画面の表示にそって次のスイッチを操作してください。
   - 選択：▲（戻し）▼（送り）スイッチ
   - 決定：i（インフォメーション）／SETスイッチを引く

項目	表示	設定	設定の内容
手動再認識	203582	—	ドライバーの再認識
ユーザー情報連動	203583	ON／OFF	ユーザー情報との連動ON／OFF
ドアオープン連動シート後退	203584	ON／OFF	ドアオープン時のシート位置の後退作動のON／OFF
ユーザー登録	203585	名前、アイコン	ユーザーの登録（5人まで）

項目	表示	設定	設定の内容
ドライバーポジション再登録	 203586	—	ドライバーポジションの再登録
ドライバーポジションメモリー消去	 203587	—	ドライバーポジションメモリーの消去
ユーザー消去	 203588	—	ユーザーの消去
全ユーザー消去	 203589	—	全ユーザーの消去

●設定メニュー：画面／音量

1. 設定移行画面を表示しているとき、INFOスイッチを押し続けると設定画面に切り替わります。
2. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して「画面／音量」を選択し、(インフォメーション）／ SET スイッチを引いて決定すると、画面／音量の項目選択画面に切り替わります。
3. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して設定したい項目を選択し、(インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定すると、設定画面に切り替わります。



- ◀⟷▶: ▲（戻し）▼（送り）スイッチ
- ----▶: (インフォメーション）／SETスイッチを引く

4. 設定するときは、画面の表示にそって次のスイッチを操作してください。
   - 選択：▲（戻し）▼（送り）スイッチ
   - 決定：i（インフォメーション）／SETスイッチを引く

項目	表示	設定	設定の内容
画面OFF	203884	—	画面のOFF (INFO スイッチを操作すると画面 OFF は解除されます)
Favorite	203885	水温、油温、平均車速、アクセル開度、勾配、瞬間燃費、カレンダー、ドライバーモニタリングシステム、ブランク	各表示の変更
割り込み表示	203886	誕生日、記念日	表示のON、OFF
音量	203887	大／小／OFF	ブザー音量の変更

知 識

- 例として、Favorite、割り込み表示、音量の設定方法を「カスタマイズのしかた」で説明しています。

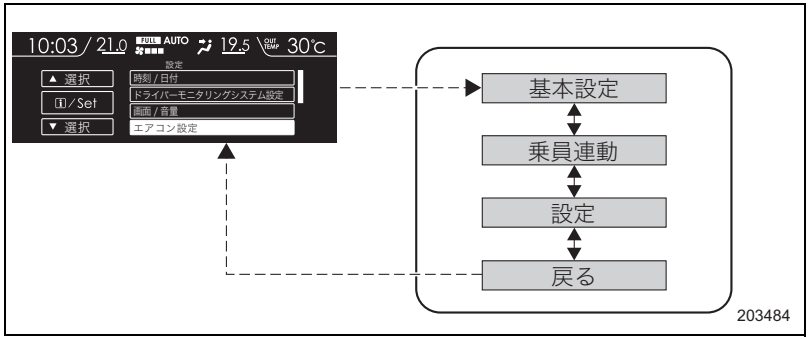
☞P.219参照

- 画面OFFに設定している場合、メンテナンスチェック画面は表示しません。

☞P.168参照

●設定メニュー：エアコン設定

1. 設定移行画面を表示しているとき、INFOスイッチを押し続けると設定画面に切り替わります。
2. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して「エアコン設定」を選択し、i（インフォメーション）／SET スイッチを引いて決定すると、エアコン設定の項目選択画面に切り替わります。
3. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して設定したい項目を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定すると、設定画面に切り替わります。



- ◀⟷▶：▲（戻し）▼（送り）スイッチ
- ----▶：i（インフォメーション）／SETスイッチを引く

4. 設定するときは、画面の表示にそって次のスイッチを操作してください。
   - 選択：▲（戻し）▼（送り）スイッチ
   - 決定：(インフォメーション）／SETスイッチを引く

項目	表示	設定	設定の内容
基本設定	203961	ノーマル／マイルド／エコ／パワフル	オート作動時の風量の変更
乗員連動	203485	ON／OFF	エアコンの作動を乗員位置に合わせて変更

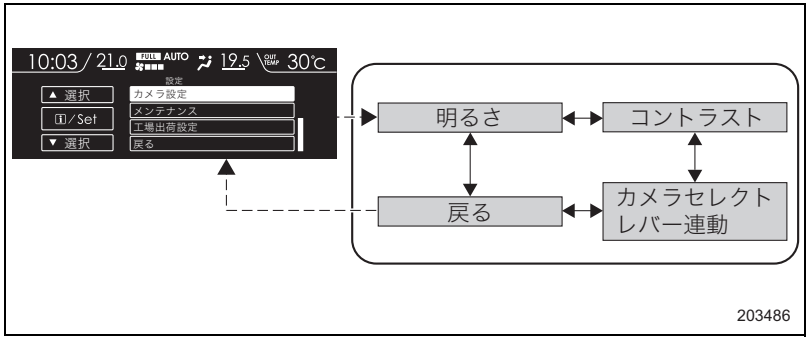
知 識

例として、基本設定の設定方法を「カスタマイズのしかた」で説明しています。

☞P.226参照

●設定メニュー：カメラ設定

1. 設定移行画面を表示しているとき、INFOスイッチを押し続けると設定画面に切り替わります。
2. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して「カメラ設定」を選択し、(インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定すると、カメラ設定の項目選択画面に切り替わります。
3. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して設定したい項目を選択し、(インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定すると、設定画面に切り替わります。



- ◀⟷▶: ▲（戻し）▼（送り）スイッチ
- ----▶: (インフォメーション）／SETスイッチを引く

4. 設定するときは、画面の表示にそって次のスイッチを操作してください。
   - 選択：▲（戻し）▼（送り）スイッチ
   - 決定：i（インフォメーション）／SETスイッチを引く

項目	表示	設定	設定の内容
明るさ	203510	オート／1～6	カメラ映像の明るさ
コントラスト	203511	−5～0～+5	カメラ映像のコントラスト
カメラセレクトレバー連動	203889	ON／OFF	セレクトレバー操作によるカメラ映像の表示・切り替えの作動あり／なし

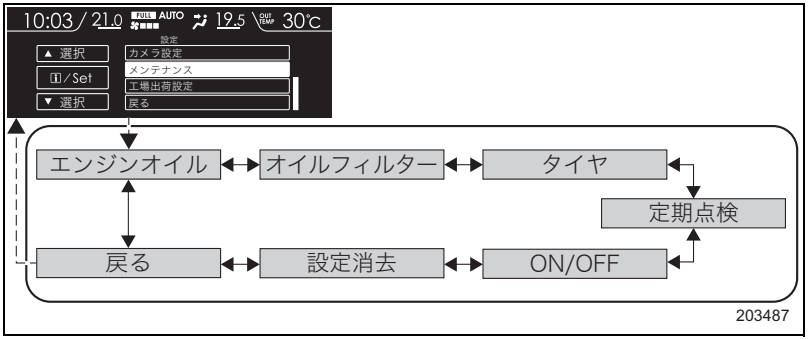
知 識

例として、明るさ、コントラスト、カメラセレクトレバー連動の設定方法を「カスタマイズのしかた」で説明しています。

☞**P.228**参照

●設定メニュー：メンテナンス

1. 設定移行画面を表示しているとき、INFOスイッチを押し続けると設定画面に切り替わります。
2. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して「メンテナンス」を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定すると、メンテナンスの項目選択画面に切り替わります。
3. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して設定したい項目を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定すると、設定画面に切り替わります。



- ◀⟷▶：▲（戻し）▼（送り）スイッチ
- ----▶：i（インフォメーション）／SETスイッチを引く

4. 設定するときは、画面の表示にそって次のスイッチを操作してください。
   - 選択：▲（戻し）▼（送り）スイッチ
   - 決定：i（インフォメーション）／SETスイッチを引く

項目	表示	設定	設定の内容
エンジンオイル	203891	日付、距離	次回のオイルの交換時期
オイルフィルター	203892	日付、距離	次回のエンジンオイルフィルターの交換時期
タイヤ	203893	日付、距離	次回のタイヤローテーション（位置交換）時期
定期点検	203894	日付、距離	次回の定期点検時期

知識

例として、エンジンオイル交換のお知らせ時期の設定方法を「カスタマイズのしかた」で説明しています。

☞P.232参照

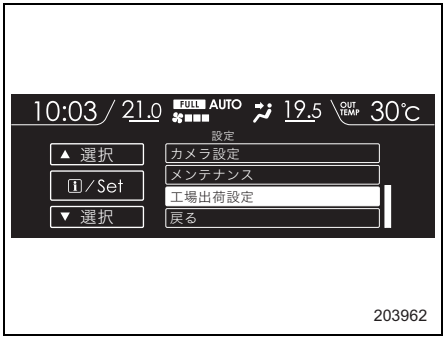
次ページへ ⇒

項目	表示	設定	設定の内容
ON／OFF	 203895	ON／OFF	メンテナンスチェック画面の表示あり／表示なし
設定消去	 203896	はい／いいえ	設定したメンテナンス時期（日付、距離）を初期設定に戻す

●設定メニュー：工場出荷設定

「工場出荷設定」では、カスタマイズした設定を初期化し、工場出荷時の設定に戻すことができます。

1. 設定移行画面を表示しているとき、INFOスイッチを押し続けると設定画面に切り替わります。
2. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して「工場出荷設定」を選択し、(インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定すると、工場出荷設定の項目選択画面に切り替わります。



3. 設定するときは、画面の表示にそって次のスイッチを操作してください。
   - 選択：▲（戻し）▼（送り）スイッチ
   - 決定：(インフォメーション）／SETスイッチを引く

知 識

- ドライバーモニタリングシステムがOFFのとき、またはドライバーモニタリングシステム一時停止表示灯、ドライバーモニタリングシステム警告灯(黄色)が点灯しているときは、工場出荷設定で設定リセットを行うことができません。設定リセットを行う場合は、ドライバーモニタリングシステムをONにしてください。

☞P.642参照

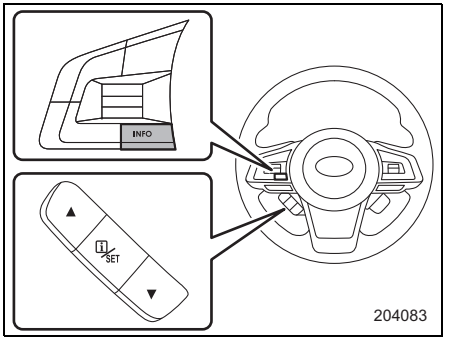
- 工場出荷設定の方法を「カスタマイズのしかた」で説明しています。

☞P.234参照

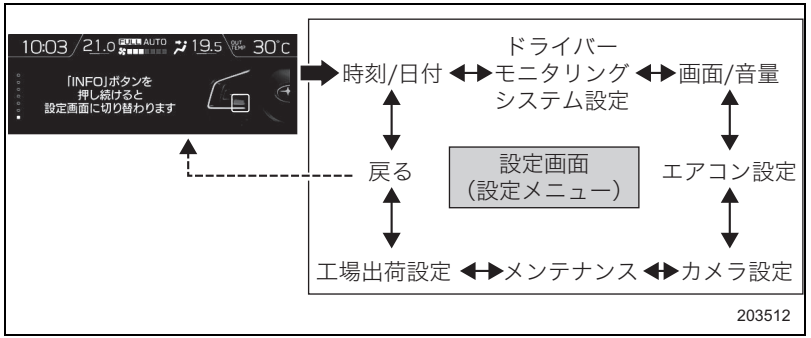
■カスタマイズのしかた

プッシュエンジンスイッチがACCまたはONでセレクトレバーが“P”のときに操作してください。

1. 設定移行画面を表示しているとき、INFOスイッチを押し続けると設定画面に切り替わります。



2. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して設定メニューを切り替えます。



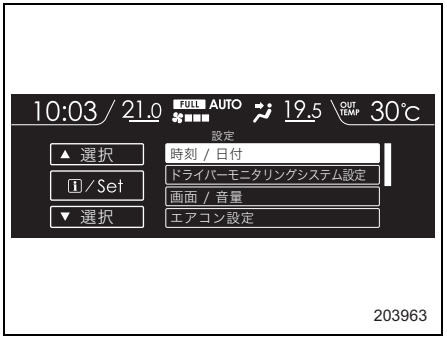
- ←→：▲（戻し）▼（送り）スイッチ
- ----→：i（インフォメーション）／SETスイッチ
- ▬▬→：INFOスイッチ

知 識

- 「戻る」を選択し決定すると、一つ上の階層に戻ります。
- 次の場合、画面が切り替わりカスタマイズがキャンセルされます。
  - 約30秒間スイッチが操作されなかったとき
  - INFOスイッチを押したとき
  - i（インフォメーション）／ SET スイッチを引き続けたとき
  - S.VIEWスイッチ、F.VIEWスイッチまたはVIEWスイッチを押したとき

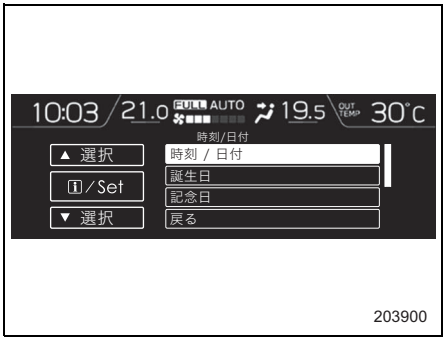
●時刻／日付の設定

▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して「時刻／日付」を選択し、ⓘ（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定すると、時刻／日付の項目選択画面に切り替わります。



▼時刻／日付の設定

1. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して「時刻／日付」を選択し、ⓘ（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。



次ページへ ⇒

2. 設定する項目を▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。

203513

3. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して数字を切り替え、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。決定すると手順2.の表示に戻ります。
4. 手順2.、3.を繰り返し、日付、時間および時間表示（24時間／12時間）を設定します。

203514

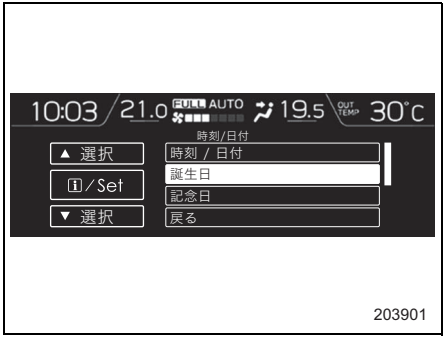
5. 設定が終了したら▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して「設定」を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。
「設定しました」を一定時間表示し、その後、項目選択画面に戻ります。

知 識

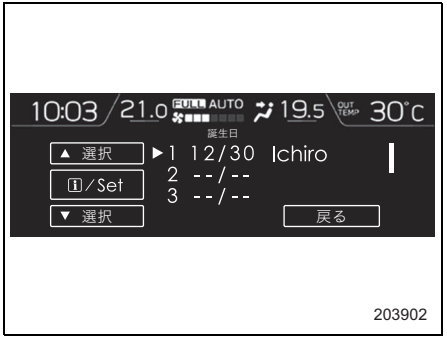
「日」を31日に設定後、31日のない「月」を選択すると、自動で30日に変わります。
2月を選択すると、28日または29日に変わります。

▼誕生日の登録

1. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して「誕生日」を選択し、ⓘ（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。
   決定すると、画面が誕生日リストに切り替わります。



2. リストに登録する場所を▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して選択し、ⓘ（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。
   決定すると、設定画面に切り替わります。

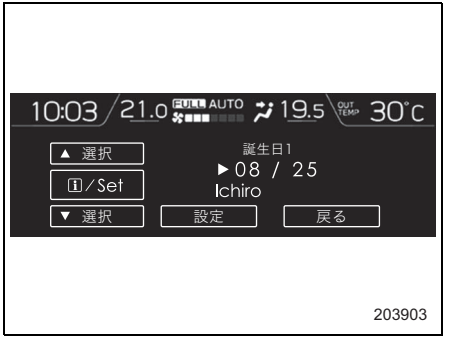


知 識

- 同じ日に誕生日が複数登録されている場合、お知らせ画面（リマインダー）はリストの順番に表示します。
- お知らせ画面（リマインダー）は、「誕生日」→「記念日」の順に表示します。

次ページへ ⇒

3. 設定する項目を▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。



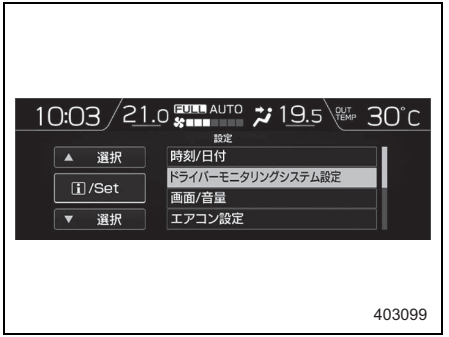
4. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して数字または文字を切り替え、（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。決定すると手順3. の表示に戻ります。
5. 手順3. 、4. を繰り返し、日付、名前を設定します。
6. 設定が終了したら▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して「設定」を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。
「設定しました」を一定時間表示し、その後、手順2.の項目選択画面に戻ります。
そのまま誕生日の登録を終了する場合は「戻る」を、引き続き登録を続ける場合はリストの任意の場所を、▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。

知 識

- 名前を設定しなくても、誕生日は登録できます。
- 「名前」は10文字まで入力できます。
入力できる文字は次のとおりです。
  - アルファベット…小文字、大文字
  - 記号 …「!」、「"」、「#」、「$」、「%」、「&」、「'」、「(」、「)」、「*」、「+」、「 」（空白）
- 約30秒間スイッチが操作されなかった場合、基本画面に戻ります。
- 「日」を31日に設定後、31日のない「月」を選択すると、自動で 30 日に変わります。2月を選択すると、28日または29日に変わります。
- 「誕生日」および「記念日」は、「時刻／日付」を設定していないと入力できません。
- 誕生日、記念日を2月29日に設定した場合、お知らせ画面はうるう年以外の年では2月28日に表示します。
- 登録した誕生日、記念日を消去する場合は、「月」または「日」のいずれかを「--」に設定し、決定します。ただし、誕生日、記念日を消去した場合も登録した名前は残ります。名前を消去するときは、「 」（空白）を上書き入力してください。

●ドライバーモニタリングシステムの設定

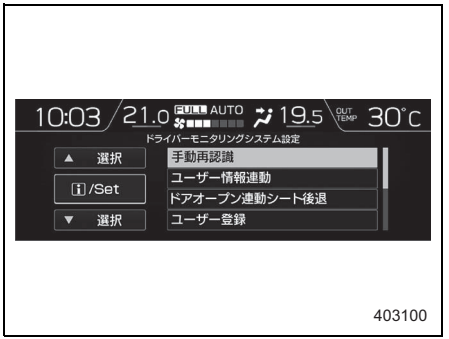
▲（戻し）／▼（送り）スイッチを操作して「ドライバーモニタリングシステム設定」を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定すると、ドライバーモニタリングシステム設定の項目選択画面に切り替わります。



403099

▼手動再認識の設定

1. ▲（戻し）／▼（送り）スイッチを操作して「手動再認識」を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。



403100

2. ▲（戻し）／▼（送り）スイッチを操作して「はい」を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定し、スキャン画面を表示します。

403101

3. 運転席に座ったまま、顔を正面に向けてしばらく待ちます。

403096

次ページへ ⇒

4. ユーザー認識が完了すると Hello 画面が表示され、ユーザー情報に連動した基本画面に切り替わります。

403097

▼ユーザー情報連動の設定

1. ▲（戻し）／▼（送り）スイッチを操作して「ユーザー情報連動」を選択し、i（インフォメーション）／SET スイッチを引いて決定します。

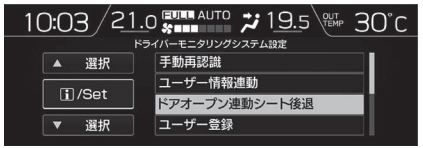
403124

2. ▲（戻し）／▼（送り）スイッチを操作して「ON」または「OFF」を選択し、i（インフォメーション）／SET スイッチを引いて決定します。

403125

▼ドアオープン連動シート後退の設定

1. ▲（戻し）／▼（送り）スイッチを操作して「ドアオープン連動シート後退」を選択し、i（インフォメーション）／SET スイッチを引いて決定します。



403126

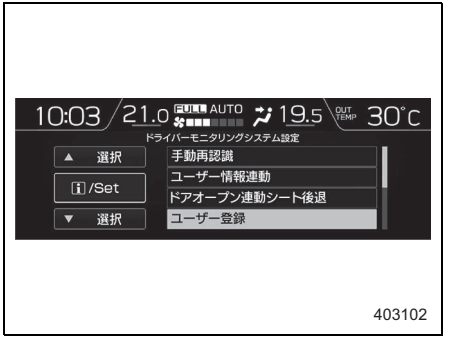
次ページへ ⇒

2. ▲（戻し）／▼（送り）スイッチを操作して「ON」を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。

403127

▼ユーザー登録の設定

1. ▲（戻し）／▼（送り）スイッチを操作して「ユーザー登録」を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。



403102

2. ▲（戻し）／▼（送り）スイッチを操作して登録する番号を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。

403103

3.「設定」を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。

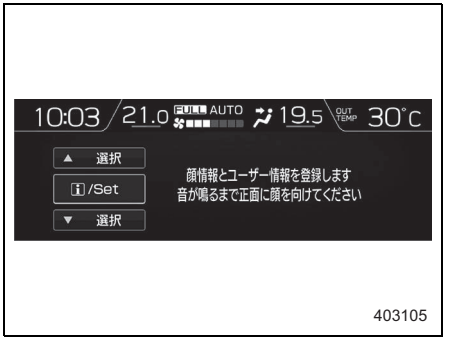
403104

知識

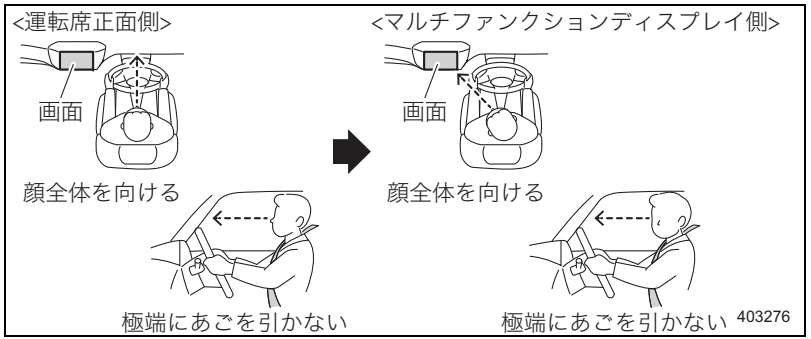
すでに登録済みの番号を選択すると、上書き登録ができます。上書き登録を行うと、個人燃費計はリセットします。

次ページへ ⇒

4. 運転席に座ったまま、顔を正面に向けて待ちます。



もし、登録できないときは、顔を正面に向けたあと、マルチファンクションディスプレイ側に顔を向けてください。



知 識

- 「登録できませんでした再登録してください」と表示された場合、もう一度手順 3. からやりなおしてください。
- 次のような場合、ユーザー登録が正しくできない場合があります。
  - 目を閉じた状態で行った場合
  - 車室内へ太陽光が入り込んでいる場合
  - 車室内に近赤外線光源を搭載した機器（市販のドライバーモニタリングシステムなど）がある場合
  - メガネやサングラス、マスク、マフラーを着用している場合
  - 顔とシステムとの間に遮る物がある場合

  詳しくは「認識されないときは」で説明しています。

☞P.621参照

5. ピッと鳴り、画面が切り替わると顔の登録は完了です。

知識

画面が切り替わらない場合、マルチファンクションディスプレイと運転席正面へ交互に顔を向けることで認識しやすくなります。

6. 名前の入力およびアイコンの設定を行います。
   - 名前の入力：
     ▲（戻し）／▼（送り）スイッチを操作して入力位置を移動します。i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて入力モードに切り替えます。
     画面の▶マークが◆に切り替わります。
     ▲（戻し）／▼（送り）スイッチを操作して文字を切り替えます。i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。

知識

「名前」は10文字まで入力できます。入力できる文字は次のとおりです。
- アルファベット…小文字、大文字
- 記号…「!」、「"」、「#」、「$」、「%」、「&」、「'」、「(」、「)」、「*」、「+」、「 」（空白）

文字の入力を間違えた場合は、手順1. から再登録を行ってください。

次ページへ ⇒

- アイコンの選択：
  ▲（戻し）／▼（送り）スイッチを操作してアイコンを選択します。
  i（インフォメーション）／ SET スイッチを引いて決定します。
  画面の▶マークが◆に切り替わります。
  ▲（戻し）／▼（送り）スイッチを操作してお好みのアイコンを選択します。i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。

403108

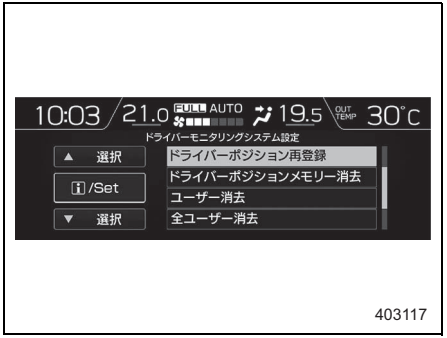
403109

知 識

他のユーザーが使っているアイコンは使用できません。

▼ドライバーポジション再登録の設定

1. ▲（戻し）／▼（送り）スイッチを操作して「ドライバーポジション再登録」を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。



403117

2. 正しい運転姿勢が取れるようにシート位置、ドアミラーの鏡面位置を調整します。▲（戻し）／▼（送り）スイッチを操作して「設定」を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。

403118

次ページへ ⇒

3.「ドライバーポジションを再登録しました」を一定時間表示し、項目選択画面に戻ります。

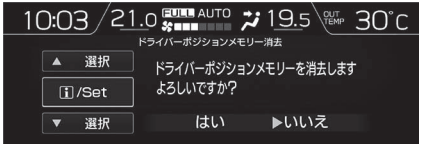
▼ドライバーポジションメモリー消去の設定

1.▲（戻し）／▼（送り）スイッチを操作して「ドライバーポジションメモリー消去」を選択し、(インフォメーション)／SETスイッチを引いて決定します。

知 識

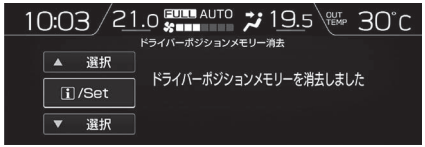
「ドライバーポジションの再登録に失敗しました」と表示された場合は、もう一度手順2. からやりなおしてください。

2. ▲（戻し）／▼（送り）スイッチを操作して「はい」を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。



403121

3.「ドライバーポジションメモリーを消去しました」を一定時間表示し、項目選択画面に戻ります。



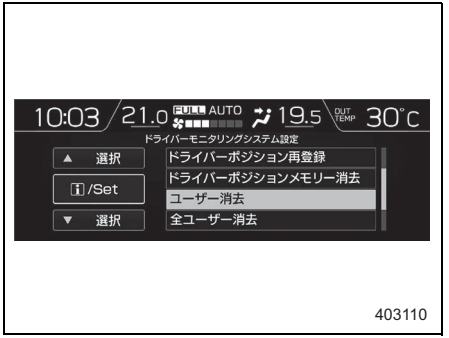
403122

知 識

「ドライバーポジションメモリーの消去に失敗しました」と表示された場合は、もう一度手順1. からやりなおしてください。

▼ユーザー消去の設定

1. ▲（戻し）／▼（送り）スイッチを操作して「ユーザー消去」を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。



403110

2. ▲（戻し）／▼（送り）スイッチを操作して「1」を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。

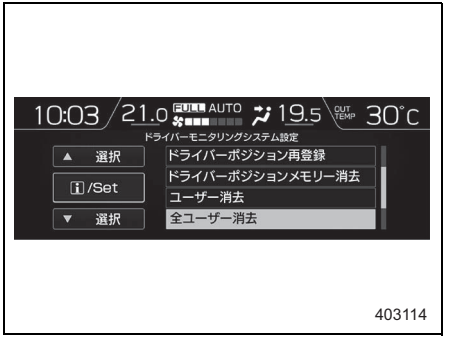
403111

3. ▲（戻し）／▼（送り）スイッチを操作して「はい」を選択し、(インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。

4.「ユーザー 1を消去しました」を一定時間表示し、項目選択画面に戻ります。

▼全ユーザー消去の設定

1. ▲（戻し）／▼（送り）スイッチを操作して「全ユーザー消去」を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。

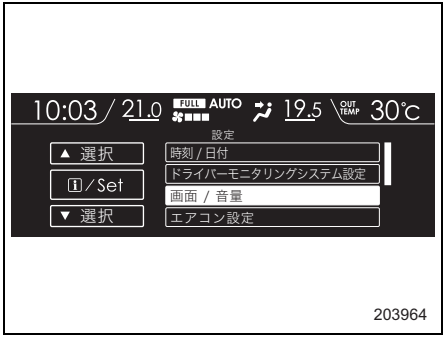


2. ▲（戻し）／▼（送り）スイッチを操作して「はい」を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。

3.「すべてのユーザーを消去しました」を一定時間表示し、項目選択画面に戻ります。

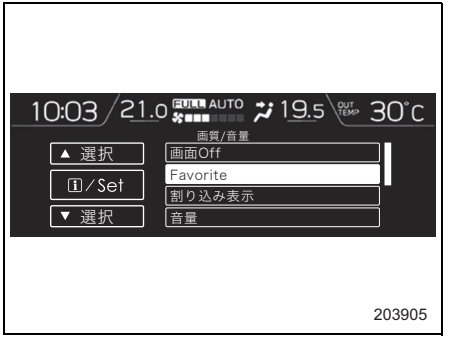
●画面／音量の設定

▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して「画面／音量」を選択し、i（インフォメーション）／SET スイッチを引いて決定すると、画面／音量の項目選択画面に切り替わります。

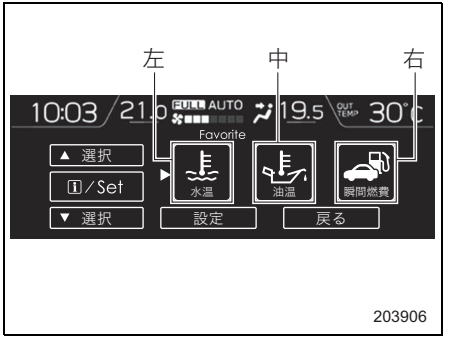


▼Favoriteの設定

1. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して「Favorite」を選択し、(インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。

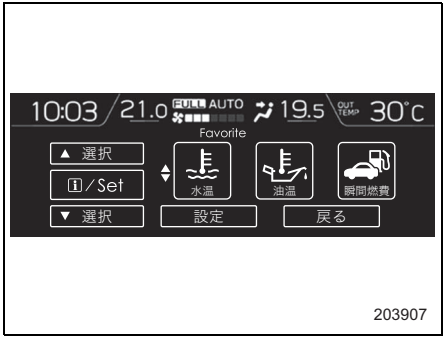


2. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して変更したい表示（左、中、右）を選択し、(インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します（図は「左」を選択しています）。画面の▶マークが◆に切り替わります。



3. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して表示する項目を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。

「中」「右」の表示を設定する場合は、手順2. 、3. を繰り返します。



＜表示可能な項目＞

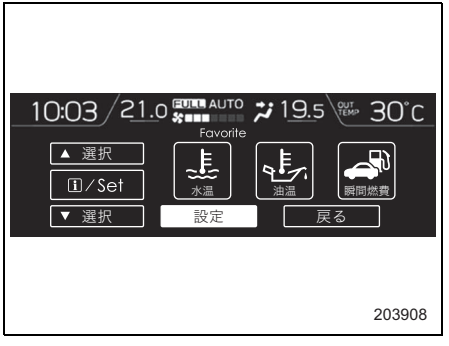
項目	表示	項目	表示	項目	表示
水温		油温		平均車速	
勾配		瞬間燃費		アクセル開度	
カレンダー		ドライバーモニタリングシステム		ブランク（表示なし）	

知 識

ブランクを除き、「左」「中」「右」で同じ項目の選択はできません。

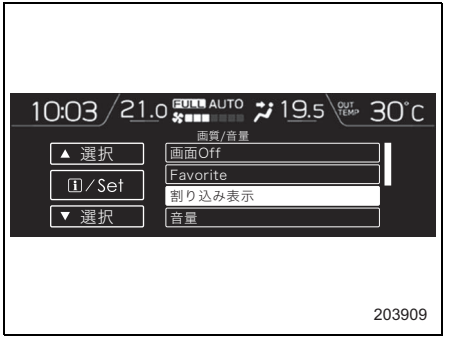
次ページへ ⇒

4. 設定が終了したら▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して「設定」を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。
「設定しました」を一定時間表示し、その後、項目選択画面に戻ります。

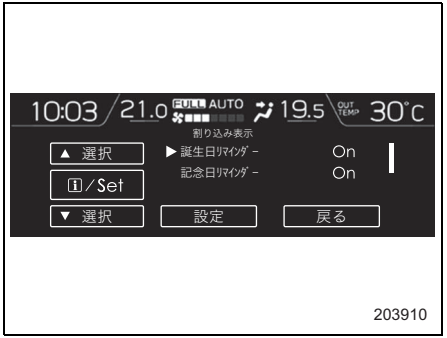


▼割り込み表示の設定

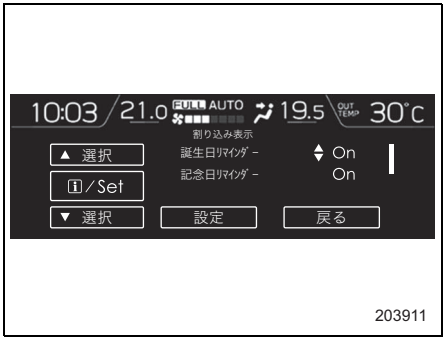
1. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して「割り込み表示」を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。



2. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して表示を変更したい項目を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。

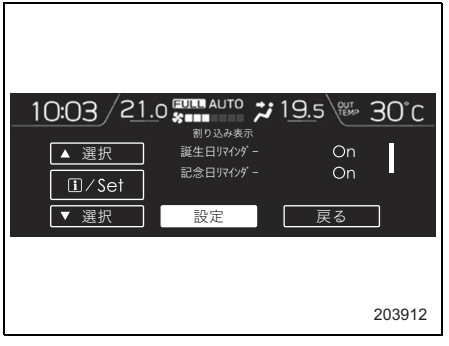


3. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して「ON」または「OFF」を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。



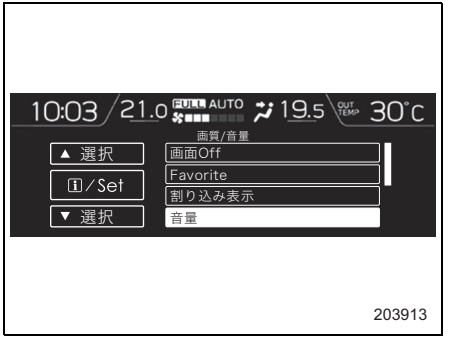
次ページへ ⇒

4. 設定が終了したら▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して「設定」を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。
「設定しました」を一定時間表示し、その後、項目選択画面に戻ります。

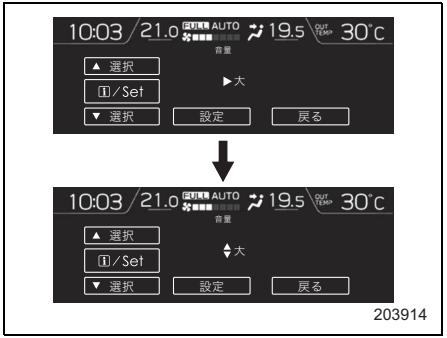


▼音量の設定

1. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して「音量」を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。



2. i（インフォメーション）／SETスイッチを引きます。
画面の▶マークが◆に切り替わります。



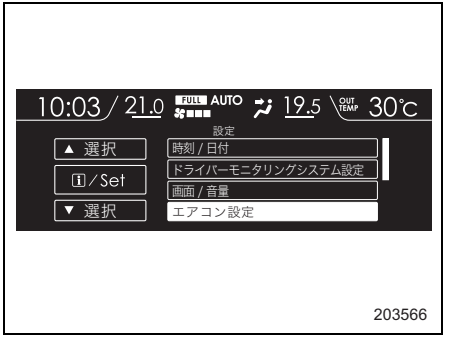
203914

3. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作してお好みの設定を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。
4. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して「設定」を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。「設定しました」を一定時間表示し、その後、項目選択画面に戻ります。

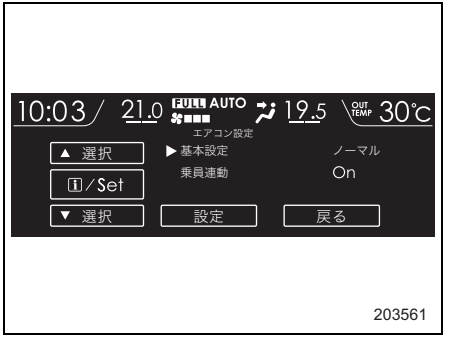
203915

●エアコン設定

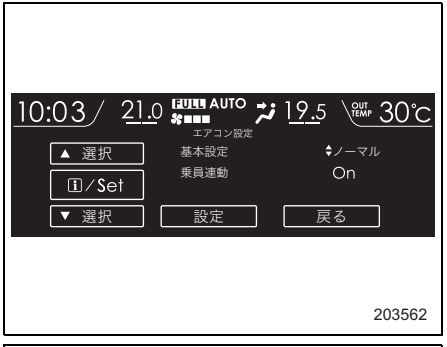
▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して「エアコン設定」を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定すると、エアコン設定の項目選択画面に切り替わります。



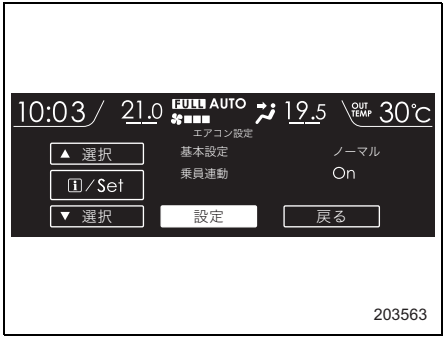
1. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して設定する項目を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。



2. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作してお好みの設定を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。

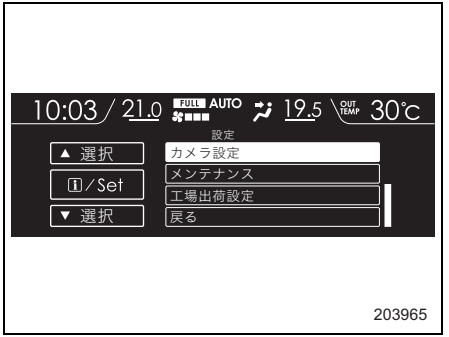


3. 設定が終了したら▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して「設定」を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。
「設定しました」を一定時間表示し、その後、項目選択画面に戻ります。



●カメラ設定

▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して「カメラ設定」を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定すると、カメラ設定の項目選択画面に切り替わります。



▼明るさの設定

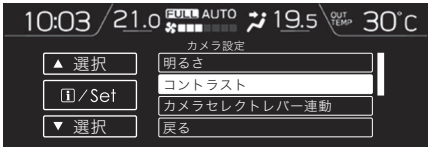
1. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して「明るさ」を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。
   決定すると設定画面に切り替わります。設定画面では、背景にフロントビューモニター映像（フロントビューモニター装備車）、サイドビューモニター映像が表示されます。

2. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して明るさを調整し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。決定すると項目選択画面に戻ります。

203522

▼コントラストの設定

1. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して「コントラスト」を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。
   決定すると設定画面に切り替わります。設定画面では、背景にフロントビューモニター映像（フロントビューモニター装備車）、サイドビューモニター映像が表示されます。



203918

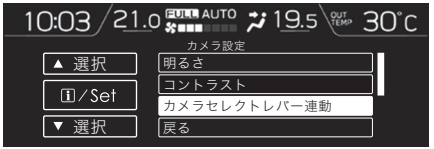
次ページへ ⇒

2. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作してコントラストを調整し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。決定すると項目選択画面に戻ります。

203523

▼カメラセレクトレバー連動の設定

1. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して「カメラセレクトレバー連動」を選択し、i（インフォメーション）／ SET スイッチを引いて決定します。

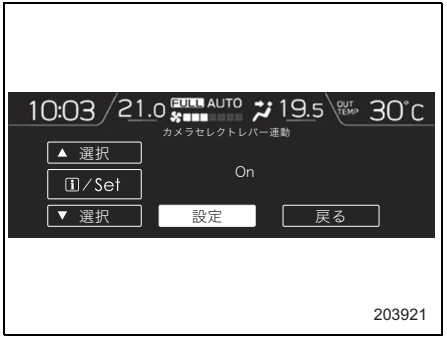


203919

2. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して「ON」または「OFF」を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。

203920

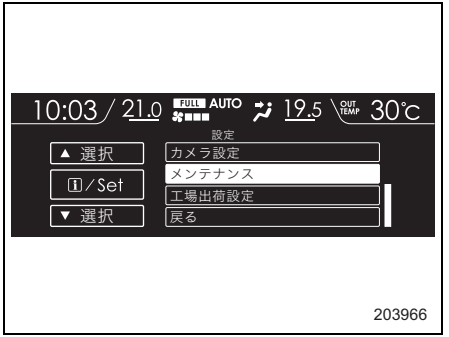
3. 設定が終了したら▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して「設定」を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。
「設定しました」を一定時間表示し、その後、項目選択画面に戻ります。



203921

●メンテナンスの設定

▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して「メンテナンス」を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定すると、メンテナンスの項目選択画面に切り替わります。



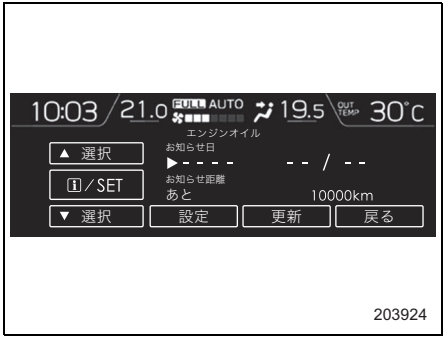
203966

▼エンジンオイルの設定

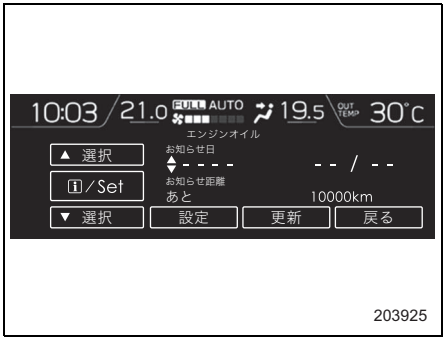
1. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して「エンジンオイル」を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。

203923

2. 設定する項目を▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。



3. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して数字を切り替え、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。決定すると手順2.の表示に戻ります。
4. 手順2.、3.を繰り返し、日付、距離を設定します。



5. 設定が終了したら▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して「設定」を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。
「設定しました」を一定時間表示し、その後、項目選択画面に戻ります。
更新ボタンを押すと現在の数値がリセットされます。

知 識

前回設定した時期（日付・距離）を過ぎている場合、お知らせ時期は次のように表示します。

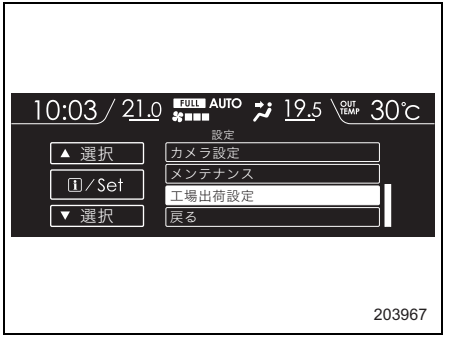
- 設定した日付から15日経過すると「----年--月--日」を表示します。
- 設定した距離から500 kmまでは「0000」を表示します。
- 設定した距離から500 km以上走行すると「----」表示に変わります。

知 識

- 日付または距離のどちらかを設定すると、メンテナンスのお知らせ画面を表示します。
- 「年」「月」「日」のいずれかを「--」に設定した場合、メンテナンス時期（日付）のセルフチェックが無効となり、お知らせ画面は表示しません。
- 「距離」を「--」に設定した場合、メンテナンス時期（距離）のセルフチェックが無効となり、お知らせ画面は表示しません。
- 「日」を31日に設定後、31日のない「月」を選択すると、自動で30日に変わります。

●工場出荷設定（初期設定に戻すとき）

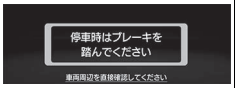
1. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して「工場出荷設定」を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定すると、工場出荷設定の項目選択画面に切り替わります。



2. ▲（戻し）▼（送り）スイッチを操作して「はい」を選択し、i（インフォメーション）／SETスイッチを引いて決定します。
「工場出荷時設定にリセットしました」を一定時間表示し、その後、項目選択画面に戻ります。

割り込み画面

警報や異常などを検知すると、マルチファンクションディスプレイに割り込み画面を表示します。

項目	表示画面1	表示画面2
RAB後方注意	 402795	―
RABブレーキ踏み促し	 402796	―
居眠り警報	 203470	―

オープンソースソフトウェア情報

マルチファンクションディスプレイには、オープンソースを適用したソフトウェアが搭載されています。
ソフトウェアの情報およびソースコードの入手をご希望されるお客様には、株式会社デンソーのホームページよりダウンロードによる方法にて提供しております。
入手方法については、次のサイトをご参照ください。
https://www.denso.com/global/en/opensource/ivi/subaru/

3. 各部の操作

各部の開閉

キー ····· 238
キーレスアクセスによる施錠・解錠 ····· 245
電波式リモコンドアロックによる施錠・解錠 ····· 258
ドア ····· 261
パワーウインドゥ ····· 269
フューエルリッド（燃料給油口）····· 275
パワーリヤゲート ····· 278
リヤゲート（パワーリヤゲート装備車以外）····· 290
電動ガラスサンルーフ ····· 292

セキュリティシステム

イモビライザー（盗難防止用エンジン始動ロックシステム）·· 295
盗難警報装置 ····· 298

運転前の調整

正しい運転（乗車）姿勢 ····· 303
フロントシート ····· 306
リヤシート ····· 315
チルト／テレスコピックステアリング ····· 322
ルームミラー ····· 323
ドアミラー ····· 330
ドライバーポジションメモリー ····· 335

スイッチの使いかた

ライティングスイッチ ····· 340
オートヘッドランプレベラー（自動光軸調整機構）····· 344
方向指示レバー ····· 345
フォグランプスイッチ ····· 346
ワイパー＆ウォッシャースイッチ ····· 347
ヘッドランプウォッシャー ····· 352
リヤウインドゥデフォッガー（曇り取り）····· 353
フロントワイパーデアイサー ····· 355
非常点滅表示灯（ハザードランプ）スイッチ ····· 357
ホーンスイッチ ····· 357
ステアリングヒーター ····· 358
イルミネーションコントロールダイヤル ····· 359
アンテナ ····· 360

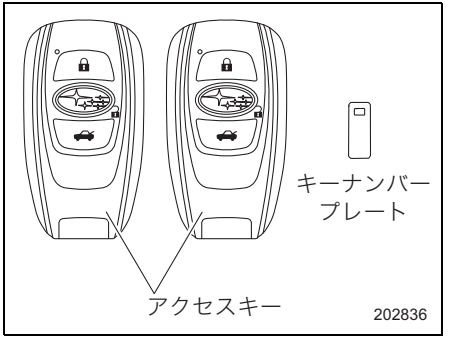
各部の開閉

キー

キーはドアの施錠、解錠、エンジンの始動、停止などに使用します。

■キーの種類

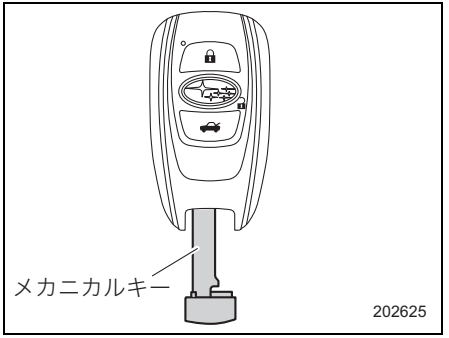
車両には、次のキーがついています。
- アクセスキー 2個
- キーナンバープレート1枚



アクセスキーには次の機能が装備されています。
- イモビライザー機能

☞P.295参照
- メカニカルキー

☞P.771参照



知 識

- キーナンバープレートは車両修理やスペアキーを作る際に必要となりますので、大切に保管してください。スペアキーを作るときは、スバル販売店にご相談ください。
- 盗難防止のため、キーナンバープレートは車内に置かないでください。また、万一に備えてキーナンバーをメモしておいてください。
- 万一、キーを紛失したときは、盗難を防ぐため、直ちにスバル販売店にご相談ください。
- キーは、最大７つまで登録できます。スペアキーが必要な場合は、スバル販売店にご相談ください。

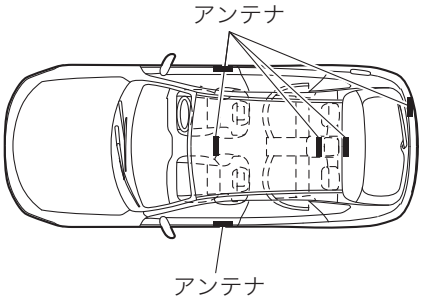
⚠ 警 告

- キーレスアクセス&プッシュスタートシステムにおいて、植込み型心臓ペースメーカーまたは植込み型除細動器の機器を装着されている方は、車両側発信アンテナから約22 cm以内の範囲に植込み型心臓ペースメーカーなどを近づけない。
  - 車両側発信アンテナの電波により植込み型心臓ペースメーカーまたは植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
    医療用電気機器を装着されている方は医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。
    医療用電気機器の作動に影響を与えるおそれがあります。
  - キーレスアクセス&プッシュスタート機能は、従来の電波式リモコンドアロック機能の電波に加え、次の周波数の電波※を使用しています。その電波は次のイラストの車両側発信アンテナから周期的に出力しています。

※ 電波周波数：134 kHz

アクセスキーは電波法の認証に適合しています。
必ず次のこともお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。
  - 分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。



⚠ 注 意

キーレスアクセス & プッシュスタートシステムでは微弱な電波を使用しているため、次のような状況ではアクセスキー・車両間の通信の妨げとなり、施錠・解錠およびエンジンの始動ができなくなることがあります。

- 近くに放送施設、送電線などの強い電波を発生する設備があるとき
- 他の車両のアクセスキーまたはリモコンキーなどの電波を発信するような製品を使用しているとき
- アクセスキーの近くに携帯電話などの無線通信機があるとき
- アクセスキーの近くに空気清浄機があるとき
- アクセスキーの電池が消耗しているとき
- アクセスキーを次のような製品と同時に携帯しているとき
  - 他の車両のアクセスキーまたはリモコンキー
  - パソコンや携帯情報端末
  - デジタルオーディオプレーヤー
  - ポータブルゲーム機器
- アクセスキーが次のような金属製の物に接していたり、覆われたりしているとき
  - アクセサリー
  - アルミ箔などの金属が貼られたカード
  - アルミ箔を使用したタバコの箱
  - 金属製の財布やカバン
  - 小銭
  - カイロ
  - CDやDVDなどのメディア
- 充電器など電子機器の近くにアクセスキーを置いたとき
- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき
- 純正用品以外の部品を取り付けたとき

アクセスキーは、次の場所に絶対に放置・保管しないでください。

- 車室内（インストルメントパネルの上、小物入れ、シートの上など）または荷室内
  - アクセスキーを車内に閉じ込めたり、電池が急激に消耗するおそれがあります。また、アクセスキーの位置によってはプッシュエンジンスイッチが切り替わらないことがあります。
- 車両周辺2 m以内（車庫での保管など）
  - 電池が急激に消耗するおそれがあります。

アクセスキーには電子部品が組み込まれています。故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- パソコンや家電製品の近くに放置しない。
  - キーが誤作動し、電池切れの原因となります。
- 水にぬらさない。
  - 水にぬれた場合はすみやかに拭き取り、十分に乾かしてください。
- 強い衝撃を与えない。
- 磁気を帯びた物に近づけない。
- ダッシュボードの上など直射日光が当たったり高温になる場所には絶対に放置しない。
  - 電池の損傷や回路故障の原因になります。
- 超音波洗浄機などで洗浄しない。
- 湿気やホコリが多い場所に放置しない。

航空機内では無線機器の使用が禁止されています。キーのボタンを押さないでください。

知 識

- アクセスキーは車両との通信のために、常時受信動作をし、常に電池を消耗しています。電池の寿命は使用状況によりますが、約1年～2年です。

☞P.722参照

- アクセスキーを次の場所に置かないでください。アクセスキーを車内に閉じ込めたり、誤って警告を通知したり、通知できないことがあります。
  - インストルメントパネル上
  - フロア上
  - グローブボックス内
  - ドアトリムのポケット
  - リヤシート
  - カーゴルーム
- キーレスアクセス & プッシュスタート機能の作動あり／作動なしを設定することができます。

☞P.242参照

スバル販売店でも設定変更することができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

■キーレスアクセス&プッシュスタート機能の停止

次の場合、キーレスアクセス&プッシュスタート機能を停止することができます。

- 植込み型心臓ペースメーカーまたは植込み型除細動器の機器を装着されている方がお車に乗車するとき
- 長期間お車を使用しないとき、または機能自体を使用しないとき
- やむを得ずアクセスキーを車室内やお車の周辺に保管したいとき

キーレスアクセス＆プッシュスタート機能の停止を行うと、次の機能が作動しなくなります。

- ドアハンドルを握っての解錠
- ドアハンドルのタッチセンサーでの施錠
- リヤゲートオープナースイッチでの解錠
- リヤゲートリクエストスイッチでの施錠
- パワーリヤゲートロックスイッチでの施錠（パワーリヤゲート装備車）
- ドアロックノブで施錠し、ドアを閉めたときのキー閉じ込み防止機能

電波式リモコンドアロックは作動します。
またエンジンを始動するときには、アクセスキーをプッシュエンジンスイッチに触れてから操作する必要があります。

☞P.772参照

⚠ 注 意

- 植込み型心臓ペースメーカーまたは植込み型除細動器の機器を装着されている方は、必ずドア開閉による方法で機能停止または復帰させる。
  - アクセスキーによる方法は誤操作により機能が復帰する可能性があります。

☞P.243参照

知 識

- 設定変更はスバル販売店でもできます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。
- キーレスアクセス＆プッシュスタート機能を停止すると、ドアロックノブで施錠し、ドアを閉めたときのキー閉じ込み防止機能が動作しなくなります。

☞P.266参照

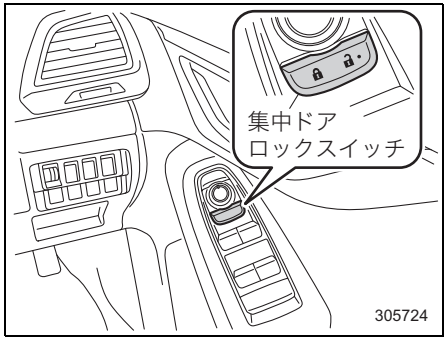
- 機能を停止するには、ドア開閉による方法またはアクセスキーによる方法があります。

☞P.243参照

●機能を停止させるとき

▼ドア開閉による方法

1. 運転席に座りドアを閉めます。
2. 集中ドアロックスイッチの(解錠)を押します。
3. 手順2.の操作後、5秒以内に運転席ドアを開けます。
4. 手順3.の操作後、5秒以内にドアを開けたまま集中ドアロックスイッチの(解錠)を2回押します。
5. 手順4.の操作後、10秒以内に運転席ドアを「閉める→開ける」の操作を2回行います。
6. 手順5.の操作後、10秒以内にドアを開けたまま集中ドアロックスイッチの(解錠)を2回押します。
7. 手順6.の操作後、10秒以内に運転席ドアを「閉める→開ける」の操作を1回行います。
8. 手順7.の操作後、5秒以内にドアを閉めます。ブザー（ピー）が約2秒間鳴り、機能が停止します。

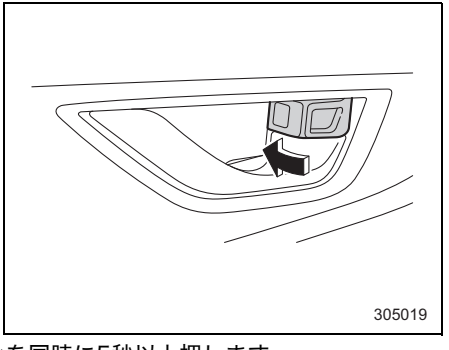


知 識

手順 4. および 6. では、集中ドアロックスイッチを確実に押してください。スイッチを押す間隔が短い場合、機能が停止しないときがあります。

▼アクセスキーによる方法

1. 運転席のドアを開け、ドアロックノブを前側に押します。



2. アクセスキーの🔒ボタンおよび🚗ボタンを同時に5秒以上押します。
3. ブザー（ピー）が約2秒間鳴り、機能が停止します。

●機能を復帰させるとき

選択した機能停止手順をもう一度行うと、機能を復帰させることができます。
このときブザー（ピッ）が鳴ります。

知 識

アクセスキーによる方法は、暗証コード式キーレスエントリーの暗証番号を登録すると使用できます。
☞P.253参照

知 識

- どちらの機能停止方法を行ったか分からなくなった場合、プッシュエンジンスイッチを押してください。
  - アクセスキーによる方法で機能を停止した場合、室内ブザー（ポーン）が鳴ります。
  - ドア開閉による方法の場合、ブザーは鳴りません。

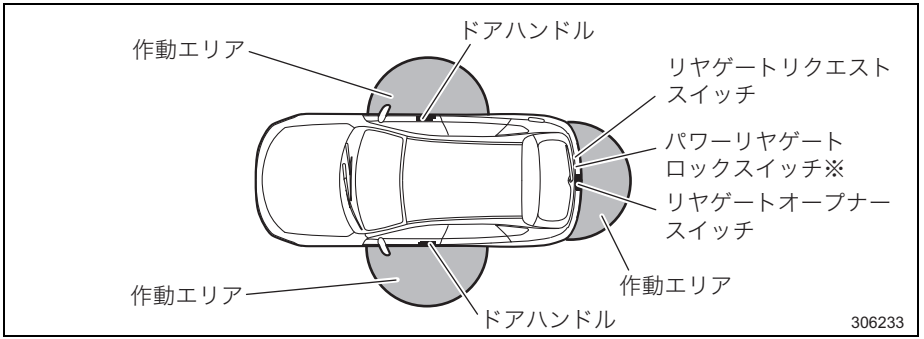
キーレスアクセスによる施錠・解錠

キーレスアクセスはアクセスキーを携帯することにより、すべてのドア（リヤゲート含む）とフューエルリッドの施錠･解錠が行えるシステムです。また、電波式リモコンドアロックによる施錠・解錠も、アクセスキーのボタン操作で行えます。

☞P.258参照

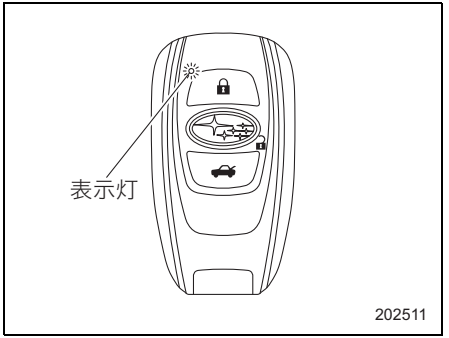
■作動エリア

ドアおよびリヤゲートの施錠･解錠機能の作動エリアは、前席のドアハンドルとリヤゲートオープナースイッチを中心に約40 cm～約80 cmが目安となります。



※ パワーリヤゲート装備車

ドアが施錠している状態で前席のドアハンドルの作動エリアに入ると、アクセスキーのLEDの表示灯が点滅します。
キーレスアクセス機能を停止させている場合は、アクセスキーのボタンを押さないとLEDの表示灯は点滅しません。
☞**P.242**参照



知 識

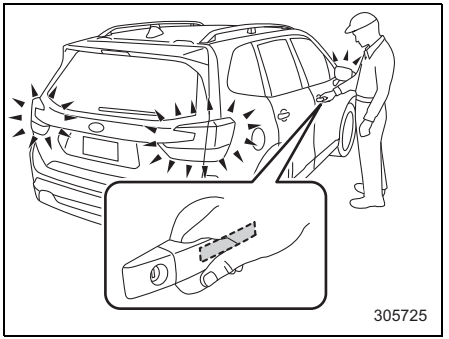
- プッシュエンジンスイッチがOFF以外では、ドアハンドルのタッチセンサーおよびリヤゲートリクエストスイッチ、またはアクセスキーのボタン操作による施錠はできません。
- 操作が早すぎると施錠・解錠が完了していない場合があります。施錠後は、後席のドアハンドルを引いて確認することをお奨めします。
- アクセスキーを車体に近づけ過ぎるとキーレスアクセス機能がうまく作動しない場合があります。
- アクセスキーを地面近くや地面から高い位置に置くと、図示した作動エリア内でもキーレスアクセス機能がうまく作動しない場合があります。
- アクセスキーが作動エリア内にあれば、アクセスキーを持たない方でもキーレスアクセス機能を使用できます。ただし、施錠・解錠操作ができるのは、アクセスキーを検知している作動エリアの前席のドアハンドル、ドアハンドルのタッチセンサー、リヤゲートオープナースイッチ、リヤゲートリクエストスイッチおよびパワーリヤゲートロックスイッチになります。
- アクセスキーが車内にある場合は施錠できません。ただし、アクセスキーの状態、周囲の状況によって施錠しアクセスキーを閉じ込める可能性があります。施錠する際はアクセスキーを持っていることを確認してください。
- アクセスキーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所（例：TV塔や発電所、放送局、大型ディスプレイ、空港、電照看板、無線機器使用場所など）、携帯電話通話中は、作動エリアが狭くなる場合や、作動しないことがあります。このような場合は、「アクセスキーが正常に作動しないとき」を参照してください。

☞P.771参照

- ドア（リヤゲート含む）が開いているときは施錠できません。
- 手袋をつけてドアハンドルを握ったり、ドアハンドルのタッチセンサーに触れた場合、施錠･解錠が遅れたり、施錠･解錠ができないことがあります。
- アクセスキーが作動エリア内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかったときは、ドアが解錠または施錠することがあります。解錠された場合は、施錠してください。ただしドアの開閉操作がない場合は、約30秒後に自動施錠されます。

■解錠

アクセスキーを携帯し、ドアハンドルを握ります。すべてのドア（リヤゲート含む）とフューエルリッドが解錠します。このときブザー（ピー）が2回鳴り、同時に非常点滅表示灯（ハザードランプ）が2回点滅します。

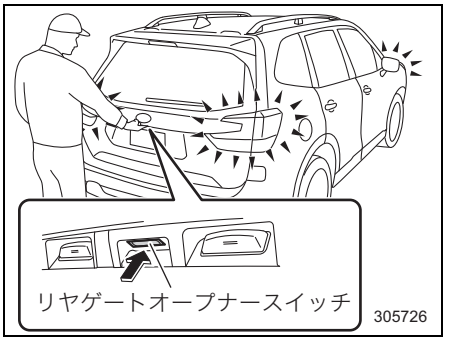


●リヤゲートからの解錠

アクセスキーを携帯し、リヤゲート中央のリヤゲートオープナースイッチを押します。すべてのドア（リヤゲート含む）とフューエルリッドが解錠し、ブザー（ピー）が2回鳴り、同時に非常点滅表示灯（ハザードランプ）が2回点滅します。

パワーリヤゲート装備車以外
リヤゲートが少し開きます。

パワーリヤゲート装備車
リヤゲートオープナースイッチを押すとリヤゲートが自動で開きます。
☞P.283参照

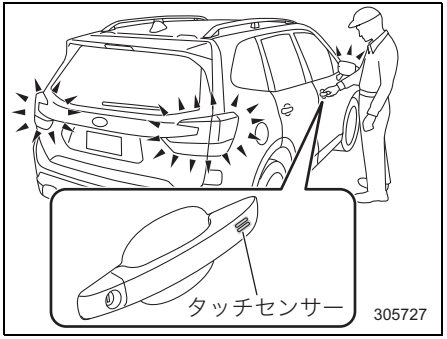


知 識

- 解錠時や施錠時のブザーおよび非常点滅表示灯（ハザードランプ）の点滅を作動なしに設定できます。
☞P.158参照
- スバル販売店で、ブザーの音量を設定できます。
☞P.801参照

■施錠

アクセスキーを携帯しすべてのドア（リヤゲート含む）とフューエルリッドを閉めてからドアハンドルのタッチセンサーに触れます。すべてのドア（リヤゲート含む）とフューエルリッドが施錠します。このときブザー（ピー）が1回鳴り、同時に非常点滅表示灯（ハザードランプ）が1回点滅します。



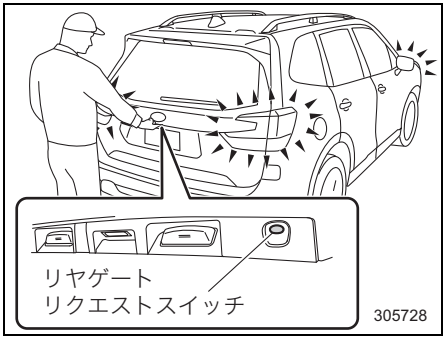
知 識

- 誤作動防止のため、ドアハンドルのタッチセンサーまたはリヤゲートリクエストスイッチによる施錠操作を行ったときは、約３秒間ドアハンドルまたはリヤゲートオープナースイッチによる解錠ができません。
- 半ドアで施錠操作を行った場合はブザー（ピー）が5回鳴り、同時に非常点滅表示灯（ハザードランプ）が５回点滅し、いずれかのドア（リヤゲート含む）が開いていることをお知らせします。
- 施錠中にドアやリヤゲート、ボンネットが開けられたとき、警報音が鳴るように盗難警報装置を設定できます。

☞P.302参照

●リヤゲートからの施錠

アクセスキーを携帯しすべてのドア（リヤゲート含む）とフューエルリッドを閉めてから、リヤゲートリクエストスイッチを押します。すべてのドア（リヤゲート含む）とフューエルリッドが施錠します。このときブザー（ピー）が1回鳴り、同時に非常点滅表示灯（ハザードランプ）が1回点滅します。



パワーリヤゲート装備車

アクセスキーを携帯しすべてのドア（リヤゲート除く）とフューエルリッドを閉めてから、パワーリヤゲートロックスイッチを押します。パワーリヤゲートが自動で閉じ、すべてのドア（リヤゲート含む）とフューエルリッドが施錠します。このときブザー（ピー）が 1 回鳴り、同時に非常点滅表示灯（ハザードランプ）が1回点滅します。

■オフディレイ機能

☞P.686参照

知 識

- アクセスキーを携帯しパワーリヤゲートロックスイッチを操作した場合、キー閉じ込み防止機能が作動し、施錠されない可能性があります（パワーリヤゲート装備車）。

☞P.266参照

- パワーリヤゲートロックスイッチを2.5秒長押しすると動作がキャンセルされます（パワーリヤゲート装備車）。
- キーが車内にある、またはプッシュエンジンスイッチが ON のときにスイッチを押すと警報が鳴ります。

☞P.256参照

■自動施錠

解錠してから30秒以内にドアまたはリヤゲートを開けなかった場合は、自動的に施錠されます。自動施錠する約5秒前よりブザーでお知らせします。
このとき、盗難警報装置が「作動あり」に設定されていれば監視状態となります。
☞P.302参照

■節電機能

●自動節電機能

アクセスキーの電池と車両のバッテリー保護のため、次の場合自動的に節電機能が働きます。

- すべてのドア（リヤゲート含む）を施錠した状態で2週間以上キーレスアクセス&プッシュスタートおよび電波式リモコンドアロックを使用しない場合
- すべてのドア（リヤゲート含む）を施錠した状態で作動エリア内にアクセスキーを10分以上放置した場合

▼復帰方法

次のいずれかの操作で復帰します。

- 運転席のドアハンドルを握って解錠する。
- 運転席のドアハンドルのタッチセンサーに触れて施錠する。
- リヤゲートオープナースイッチを押して解錠する。
- リヤゲートリクエストスイッチを押して施錠する。
- 電波式リモコンドアロックで解錠または施錠する。
- メカニカルキーで解錠し、施錠する。

知 識

自動施錠を作動なしに設定できます。また、作動までの時間を20秒／40秒／50秒／60秒に設定できます。
☞P.158参照

●手動節電機能

アクセスキーの電池の消耗を抑えるため、アクセスキーによる電波の受信待機を停止します。

▼設定方法

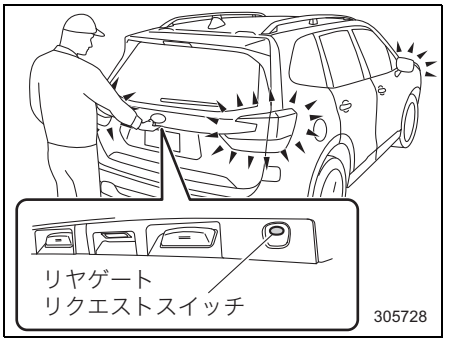
アクセスキーのボタンを押しながらボタンを２回押します。その際、アクセスキーのLED表示灯が4回点灯することを確認します。

▼復帰方法

アクセスキーのいずれかのボタンを押す。

■暗証コード式キーレスエントリーによる解錠

すべてのドア（リヤゲート含む）とフューエルリッドが施錠されているとき、リヤゲートリクエストスイッチを押すことによりアクセスキーを使わず、すべてのドア（リヤゲート含む）とフューエルリッドを解錠することができます。



知　識

5ケタの暗証番号（シークレットナンバー）の登録をお奨めします。

●暗証番号の登録方法

【準備】

1. プッシュエンジンスイッチをOFFにします。
2. すべてのドア（リヤゲート含む）を閉めます。
3. アクセスキーの🔒ボタンを押し続けます（このときリヤゲートを含むすべてのドアとフューエルリッドが施錠されます）。
4. 操作3.の状態のまま5秒以内にリヤゲートリクエストスイッチを押し続けます。
5. 操作4.の状態のまま5秒以上経つとブザーが鳴り始めます。
6. 🔒ボタンとリヤゲートリクエストスイッチから手を離します。
7. ブザーが鳴ってから30秒以内にアクセスキーの🔓ボタンを押すと、ブザーが止まり準備完了です。

【登録】

登録例32468の場合

次の操作では、リヤゲートリクエストスイッチを押します。

1. スイッチを3回押して、ブザー（ピッ）が1回鳴るのを待ちます。
2. スイッチを2回押して、ブザー（ピッ）が1回鳴るのを待ちます。
3. スイッチを4回押して、ブザー（ピッ）が1回鳴るのを待ちます。
4. スイッチを6回押して、ブザー（ピッ）が1回鳴るのを待ちます。
5. スイッチを8回押します。
6. ブザーが断続的に鳴り始めてから約30秒以内に番号の再確認のため、手順1.から5.までの操作を行います。
7. すべてのドア（リヤゲート含む）とフューエルリッドが解錠から施錠となったら登録完了です。

次ページへ ⇒

知 識

- 登録操作を間違えた場合は、一度ドアまたはリヤゲートをアクセスキーのボタンで解錠し、登録をキャンセルしてください。
  その後【準備】の手順 1. から登録操作を始めてください。ただし、【登録】の手順6.で押し間違えた場合は、再度ブザーが鳴ってから、手順6.をもう一度やり直すことができます。
- 盗難防止のため、同じ5ケタの数字（例：00000など）、または12345の登録はできません。
  また、お車の登録番号や簡単なものは避けてください。
- 22222の登録操作をすると暗証番号が消去されます。以降新しい暗証番号を登録するまで暗証コードでの解錠はできなくなります。
- 0を登録するときは10回リヤゲートリクエストスイッチを押してください。
- 新しい暗証番号を登録したら必ず解錠することを確認してください。
- アクセスキーによる方法でキーレスアクセス ＆ プッシュスタート機能を停止している場合、暗証コード式キーレスエントリーの暗証番号は、消去できません。

☞**P.243**参照

- 次の場合は、同じ手順で暗証番号を再登録してください。
  － 暗証番号を忘れてしまった
  － 暗証番号を変更したい
- 暗証番号は定期的に変更してください。
- 他人にお車を貸したときは、暗証番号が変更または消去されていないか確認してください。変更または消去されているときは、新しい暗証番号を登録してください。

●解錠方法

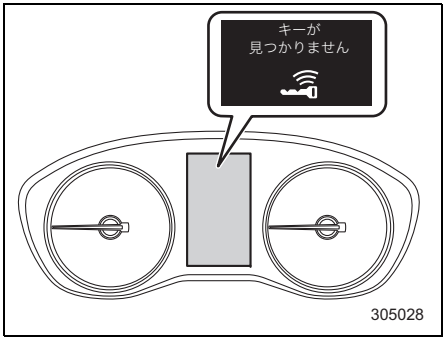
登録の1.～5.と同じ手順でリヤゲートリクエストスイッチを押してください。

■警告音および警告表示

キーレスアクセス & プッシュスタートでは誤操作や盗難を防止するため、異常などを検知すると警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面を表示します。

☞P.144参照

この場合は適切な処置を行ってください。



知 識

- アクセスキーが作動エリア内にあるときはキーレスアクセスの動作が優先されます。
- プッシュエンジンスイッチが ACC または ON の状態では、暗証コード式キーレスエントリーによる解錠はできません。
- 解錠中に操作を間違えた場合は、5秒以上待って最初からやり直してください。
- 連続5回操作ミスをすると、ブザー(ピー)が約2秒間鳴り、5分間操作を受け付けません。

●警告一覧表

室内ブザー警報	室外ブザー警報	状況	対処方法
ポーン、 ポーン… （断続）	—	プッシュエンジンスイッチがACCでセレクトレバーが“P”のとき、運転席ドアを開けた。	• 運転席ドアを閉めてからプッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。 －車両から離れるときは必ずプッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。
		運転席ドアが開いているとき、プッシュエンジンスイッチをOFFにした。	運転席ドアを閉めてください。
ポーン	ピー （2秒間）	閉じ込み防止警告 集中ドアロックスイッチの🔒（施錠）またはアクセスキーの🔒ボタンを押し、アクセスキーを車内に置いたまま「車外からのキーを使わない施錠」によってドアを施錠した。 ☞P.264参照	• アクセスキーを車外に持ち出した上で施錠操作を行ってください。 －室内にアクセスキーがある状態では施錠操作はできません。 －警告ブザーとともにすべてのドア（リヤゲート含む）とフューエルリッドが解錠されます。
—	ピー （2秒間）	キー置き忘れ警告 プッシュエンジンスイッチがOFFのとき、アクセスキーが車内にある状態でドアハンドルのタッチセンサーに触れた、またはリヤゲートリクエストスイッチ、パワーリヤゲートロックスイッチ※を押した。	• アクセスキーを車外に持ち出した上で施錠操作を行ってください。 －室内にアクセスキーがある状態では施錠操作はできません。
—	ピッピッピッ ピッピッ （5回）	半ドア警告 プッシュエンジンスイッチがOFFのとき、いずれかのドア（リヤゲート含む）が開いている状態でドアハンドルのタッチセンサーに触れた、またはリヤゲートリクエストスイッチ、パワーリヤゲートロックスイッチ※、アクセスキーの🔒ボタンを押した。	• ドアを確実に閉めて施錠操作を行ってください。 －いずれかのドア（リヤゲート含む）が開いている状態では施錠できません。

※ パワーリヤゲート装備車

室内ブザー警報	室外ブザー警報	状況	対処方法
ポーン	ピーーー （最長60秒間）	プッシュエンジンスイッチ切り忘れ警告 プッシュエンジンスイッチがOFF以外でセレクトレバーが“P”のとき、アクセスキーを携帯した状態でドアハンドルのタッチセンサーに触れた、またはリヤゲートリクエストスイッチ、パワーリヤゲートロックスイッチ※を押した。	• アクセスキーを車内に戻すか、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。 －プッシュエンジンスイッチを OFF にしないとドアの施錠操作はできません。
ポーン	ピッ ピッ ピッ （3回）	キー持ち出し警告 プッシュエンジンスイッチがOFF以外でセレクトレバーが“P”のとき、アクセスキーを携帯した状態で車外に出て運転席ドアを閉めた。	プッシュエンジンスイッチをOFFにした上で車外に出てください。
		同乗者のキー持ち出し警告 プッシュエンジンスイッチがOFF以外で同乗者がアクセスキーを車外に持ち出し、運転席以外のドアを閉めた。	アクセスキーを車内に戻すか、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。
ピーーー （連続）	—	セレクトレバー位置警告 • プッシュエンジンスイッチが OFF 以外でセレクトレバーが“P”以外のとき、運転席ドアを開けた。 • プッシュエンジンスイッチがONでセレクトレバーが“P”以外のとき、プッシュエンジンスイッチを押してACCにした。	• セレクトレバーを“P”にし、プッシュエンジンスイッチを OFF にした上で車外に出てください。 －プッシュエンジンスイッチがONでセレクトレバーが“R”のときは、“R”のブザーが優先されます。
ピーーー （連続）	ピーーー （連続）	セレクトレバー位置警告 プッシュエンジンスイッチがOFF以外でセレクトレバーが“P”以外のとき、アクセスキーを携帯した状態で車外に出て運転席のドアを閉めた。	• セレクトレバーを“P”にし、プッシュエンジンスイッチを OFF にした上で車外に出てください。 －プッシュエンジンスイッチがONでセレクトレバーが“R”のときは、“R”のブザーが優先されます。
ポーン、 ポーン… （約7秒間）	—	キーなし警告 車内にアクセスキーがない状態で走行した。	アクセスキーを携帯して走行してください。

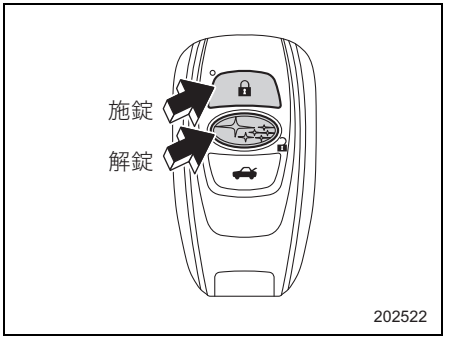
※ パワーリヤゲート装備車

電波式リモコンドアロックによる施錠・解錠

アクセスキーのボタンを押すと電波により、お車から離れたところからすべてのドア（リヤゲート含む）とフューエルリッドの施錠・解錠ができます。

■解錠

お車のまわりからアクセスキーの🔓ボタンを押すとすべてのドア（リヤゲート含む）とフューエルリッドが解錠します。このときブザー（ピー）が2回鳴り、同時に非常点滅表示灯（ハザードランプ）が2回点滅します。



知 識

- 作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。アクセスキーの電池は1年～2年を目安に交換してください。

☞P.722参照

- 電波式リモコンドアロックはお車の周囲約1 m以内で作動しますが、周囲に強い電波やノイズがある場合（例：TV塔や発電所、放送局、大型ディスプレイ、空港、電照看板、無線機器使用場所など）は、作動距離が変わることがあります。
- 次の場合、電波式リモコンドアロックは作動しません。
  - プッシュエンジンスイッチが OFF 以外のとき
  - ドアまたはリヤゲートが開いているときや半ドアのとき
- 解錠時や施錠時のブザーおよび非常点滅表示灯（ハザードランプ）の点滅を作動なしに設定できます。

☞P.158参照

- スバル販売店で、ブザーの音量を設定できます。

☞P.801参照

■施錠

お車のまわりからアクセスキーの🔒ボタンを押すとすべてのドア（リヤゲート含む）とフューエルリッドが施錠します。このとき非常点滅表示灯（ハザードランプ）が1回点滅し、同時にブザー（ピー）が1回鳴ります。

知識

- 半ドアで施錠操作を行った場合はブザー（ピー）が5回鳴り、同時に非常点滅表示灯（ハザードランプ）が5回点滅し、いずれかのドア（リヤゲート含む）が開いていることをお知らせします。
- 施錠中にドアやリヤゲート、ボンネットが開けられたとき、警報音が鳴るように盗難警報装置を設定できます。

☞P.302参照

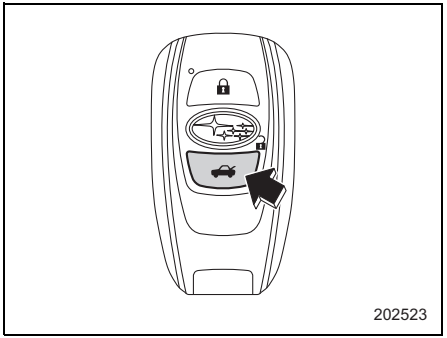
■リヤゲートの解錠

お車のまわりから🚗ボタンを押すとリヤゲートが解錠します。このときブザー（ピー）が2回鳴り、同時に非常点滅表示灯（ハザードランプ）が2回点滅します。

パワーリヤゲート装備車

お車のまわりから🚗ボタンを押し続けるとリヤゲートを開閉できます。

☞P.282参照



■その他の機能

●オフディレイ機能

☞P.686参照

●自動施錠

解錠してから30秒以内にドアまたはリヤゲートを開けなかった場合は、自動的に施錠されます。自動施錠する約5秒前よりブザーでお知らせします。
このとき、盗難警報装置が「作動あり」に設定されていれば監視状態となります。

●電波式リモコンドアロックのカスタマイズ

スバル販売店で、アクセスキーのボタンで前席ウインドゥを開閉できるよう設定できます。

☞P.271参照

知 識

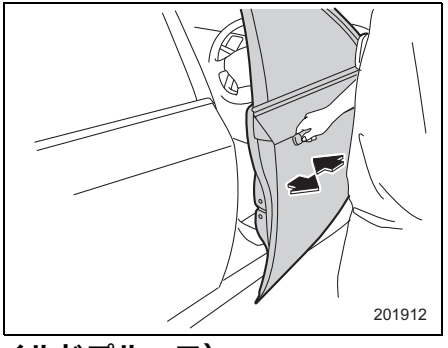
自動施錠を作動なしに設定できます。また、作動までの時間を20秒／40秒／50秒／60秒に設定できます。

☞P.158参照

ドア

■ドアの開閉

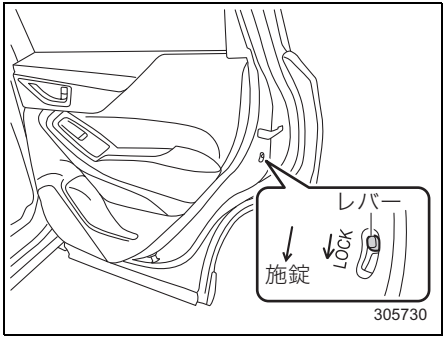
ドアを開けるときは、ドアハンドルを手前に引きます。
ドアを閉めるときは、確実に閉め、半ドアになっていないことを確認してください。



■お子さまの誤操作防止機能（チャイルドプルーフ）

リヤドアを車内のドアハンドルで開けられなくする機能です。後席にお子さまを乗せたときに使用してください。

レバーを「LOCK」側に動かしてドアを閉めます。解除するときはレバーを戻します。ドアを開けるには、ドアが解錠されている状態で車外のドアハンドルを引きます。

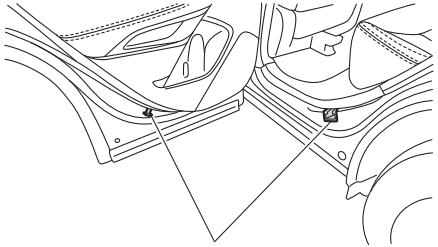


次ページへ ⇒

⚠ 注 意

ドアを開閉する際は、次のことをお守りください。守らないと思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。

- 周囲の安全を十分に確認する。
- 予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持する。
- ドアは確実に閉める。
  - 半ドアでは開くことがあり危険です。
- 手や指、爪などを挟まないように注意する。
- リヤドアを閉めるときは、ドアキャッチャーへの衣類（丈の長いスカートなど）の噛み込みに注意する。



ドアキャッチャー　305729

知 識

- お車から離れる場合はプッシュエンジンスイッチを OFF にし、キーを持っていることを必ず確認してからドアを施錠してください。
- 施錠しても車内に貴重品などを置かないようにしてください。

■ウェルカムライティング

お車への乗降を容易にするため、車幅灯（ポジションランプ）などを点灯する機能です。

●乗車時

プッシュエンジンスイッチがOFFでライティングスイッチがAUTO位置のとき、アクセスキーを携帯してお車に近づく、またはアクセスキーのボタンを押して解錠すると、車幅灯（ポジションランプ）、尾灯などが約30秒間点灯します。
運転席ドアを開けると、約30秒経過する前に消灯します。

また、次の操作で消灯させることもできます。
- プッシュエンジンスイッチをONにする
- 施錠する
- ライティングスイッチを操作する

●降車時

ライティングスイッチがAUTO位置でヘッドランプが点灯しているとき、プッシュエンジンスイッチをOFFにすると、車幅灯（ポジションランプ）などが約3分間点灯します。
ランプ類が消灯しているときは、AUTO位置にしてパッシングすると点灯します。
運転席ドアを開けて閉めると、約30秒で消灯します。

また、次の操作で消灯させることもできます。
- 施錠操作を2回繰り返す
- パッシングする
- プッシュエンジンスイッチをONにする
- ライティングスイッチをOFF位置まで回す

知 識

- ライティングスイッチを操作してランプ類を消灯させてからプッシュエンジンスイッチをOFFにした場合、ウェルカムライティングが作動しないことがあります。
- スバル販売店で乗車時のウェルカムライティングを作動なしに設定できます。また、消灯までの時間を10秒／20秒に変更できます。

知 識

スバル販売店で降車時のウェルカムライティングを作動なしに設定できます。また、運転席ドアを開閉してから消灯するまでの時間を10秒／20秒に変更できます。

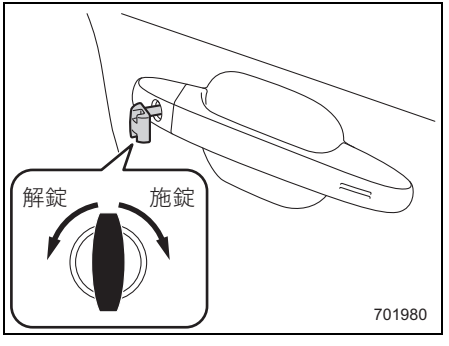
■車外からのキーによる施錠・解錠

●ドア

運転席ドアの鍵穴にメカニカルキーを確実に差し込んでお車の後ろ側に回すと運転席のみ解錠され、前側に回すと施錠されます。その他のドアはドアロックノブまたは集中ドアロックスイッチで施錠・解錠してください。

メカニカルキーはアクセスキーから取り出して使用します。

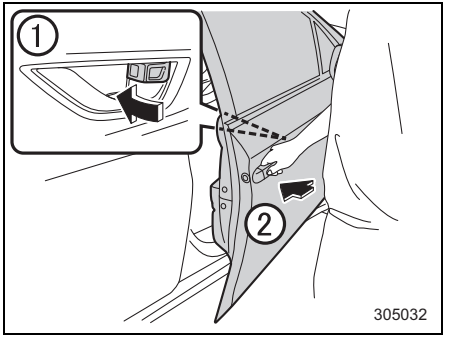
☞P.771参照



■車外からのキーを使わない施錠

●フロントドア

1. ドアロックノブを前側に押します。
2. ドアハンドルを引いたままドアを閉めます。



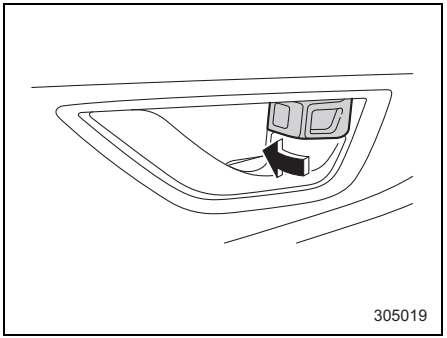
知 識

- 盗難警報装置を作動させた状態でキーによる解錠を行った場合、盗難警報装置は解除されません。ドアを開けた場合、警報が作動します。
- キーによる施錠では、盗難警報装置は作動しません。

☞P.301参照

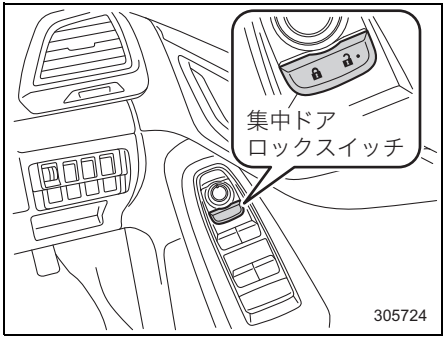
●リヤドア

ドアロックノブを前側に押してドアを閉めます。



■車内からの集中ドアロックによる施錠・解錠

運転席ドアの集中ドアロックスイッチの🔒(施錠)を押すとすべてのドア(リヤゲート含む)とフューエルリッドが施錠されます。🔓(解錠)を押すとすべてのドア(リヤゲート含む)とフューエルリッドが解錠されます。



⚠ 注 意

運転席のドアロックノブで施錠・解錠しても、集中ドアロックは作動しません。

■キー閉じ込み防止機能

キーが車内に残された状態で、ドアが施錠されないようにする機能です。

●キー閉じ込み防止機能が作動するとき

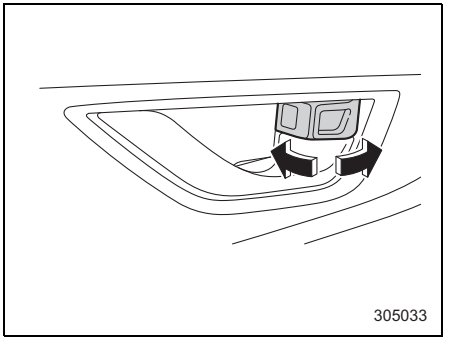
- 運転席のドアを開けた状態で、集中ドアロックスイッチの🔒（施錠）を押したとき（プッシュエンジンスイッチがACCまたはONのとき）
- キーを車内に置いたまま、ドアロックノブで施錠しドアを閉めたとき（キーレスアクセス＆プッシュスタート機能を停止していないとき）

●キー閉じ込み防止機能が作動しないとき

- ドアロックノブで施錠しドアを閉めたとき（キーレスアクセス＆プッシュスタート機能を停止しているとき）
- 車外からスペアキーを使い施錠したとき

■車内からのドアロックノブによる施錠・解錠

- ドアロックノブを後ろ側に引くと解錠され、前側に押すと施錠します。
- 前席ドアは、ドアロックノブが施錠側になっていても、車内のドアハンドルを引くと開きます。



知　識

- 後席から乗降するときは、集中ドアロックスイッチで解錠してください。
  - すべてのドア（リヤゲート含む）が施錠されている状態で、後席のドアロックノブで解錠すると、後席のドアを開閉したときにキー閉じ込み防止機能が作動する場合があります。
- スバル販売店で、キー閉じ込み防止機能を作動なしに設定できます。

⚠ 警　告

- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない。
  - 特に前席はドアロックノブが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

知　識

- 操作したドアのみ施錠・解錠されます。
  - 運転席ドアを開けると、オートドアアンロック機能によりすべてのドアが解錠される場合があります。

☞P.268参照

■リヤシートリマインダー

後席にお子さまが取り残されたり、荷物を置き忘れたりするのを防ぐため、後席の確認を促す警報です。後席ドアの開閉を検知した場合、プッシュエンジンスイッチをONからOFF にすると警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面を表示します。

知 識

- 後席の乗員や荷物を直接検知する機能ではないため、乗員や荷物の有無とは関係なく作動する場合があります。
- リヤシートリマインダーをOFFに設定できます。

☞P.158参照

- バッテリーを取り外したときは、設定がリセットされます。

■半ドア対策機能

半ドアなどで次のランプが点灯し続けた場合、バッテリー上がりを防止するため、約20分後に自動的に消灯します。

- ルームランプ（ドア連動時）
- スポットマップランプ（ドア連動時）
- カーゴルームランプ（ドア連動時）

知 識

- プッシュエンジンスイッチが ACC またはONのとき、この機能は作動しません。
- スバル販売店で、半ドア対策機能を作動なしに設定できます。

■オートドアロック機能

車速約20 km/h以上になると、自動ですべてのドア（リヤゲート含む）とフューエルリッドが施錠されます。

●オートドアロック機能のカスタマイズ

作動の条件を設定できます。

☞P.159参照

設定	作動条件
車速	車速約20 km/h以上になると施錠
セレクトレバー “P”	セレクトレバー “P” から動かすと施錠
OFF	作動なし

知 識

- 解錠したいときは、集中ドアロックスイッチで解錠してください。
  - すべてのドア（リヤゲート含む）とフューエルリッドが施錠されている状態で、後席のドアロックノブで解錠すると、後席のドアを開閉したときにキー閉じ込み防止機能が作動する場合があります。
- オートドアロック機能が作動する前に、集中ドアロックスイッチで施錠した場合は、オートドアロック機能は作動しません。

■オートドアアンロック機能

車両停止時、運転席ドアを開けると、すべてのドア（リヤゲート含む）とフューエルリッドが自動で解錠されます。

●オートドアアンロック機能のカスタマイズ

作動の条件を設定できます。

☞P.159参照

設定	作動条件
セレクトレバー “P”	セレクトレバー “P” にすると解錠
電源OFF	プッシュエンジンスイッチをOFFにすると解錠
運転席ドア開	運転席ドアを開けると解錠
OFF	作動なし

知 識

- SRSエアバッグが作動するような強い衝撃を受けた場合、すべてのドア（リヤゲート含む）が自動で解錠されることがあります。

☞P.793参照

- オートドアアンロック機能が作動する前に、集中ドアロックスイッチで解錠した場合は、オートドアアンロック機能は作動しません。

パワーウインドゥ

パワーウインドゥは、プッシュエンジンスイッチがONのとき使用できます。

⚠ 警 告

- パワーウインドゥが閉まるときには大きな力が働きます。挟まれると危険ですので閉める前に窓から顔や手を出していないことを確認してください。
- 挟まれると危険ですので小さなお子さまにはスイッチを操作させないでください。
- お子さまを乗せるときにはロックスイッチをロック状態にしておいてください。お子さまがいたずらして手や首を挟むことを防止します。

☞P.271参照

- 車両から離れる場合は、必ずプッシュエンジンスイッチをOFFにしてキーを携帯し、お子さまも一緒にお連れください。お子さまのいたずらなどによる誤操作で、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

ウインドゥの全閉、全開後に同じ方向にスイッチを押し続けないでください。パワーウインドゥの故障の原因になります。

知 識

- 車体の構造上、後席のウインドゥを全開にすることはできません。
- エンジンが始動していないときに複数のウインドゥを同時に開閉した場合、バッテリー電圧が低下していると自動全開（全閉）作動が停止することがあります。その場合、エンジンを始動してからもう一度操作をしてください。
- 次の操作を行うとパワーウインドゥのブレーカーが作動してウインドゥの開閉ができなくなることがあります。
  - ウインドゥを全閉または全開にした後、スイッチを同じ方向へ数秒間操作し続ける。
  - 3席以上のウインドゥを全閉または全開にした後、それぞれのスイッチを同時に同じ方向へ操作し続ける。

  この場合、ブレーカー復帰後に必ずパワーウインドゥの初期設定を行ってください。初期設定がされていないと、ウインドゥの自動全開（全閉）およびウインドゥ反転機能は作動しません。

☞P.274参照

- ウインドゥが開閉中、異物を挟み込んだときは次のように作動が停止することがあります。
  - ウインドゥを閉めているときはウインドゥの上昇が停止し、自動で少し下降し止まります。
  - ウインドゥを開けているときは作動が停止します。

  また、環境、走行条件により異物を挟んだときと同じ衝撃がウインドゥに加わったときも作動が停止することがあります。
  作動が停止した後、数秒間はスイッチを操作してもウインドゥの操作をすることができません。

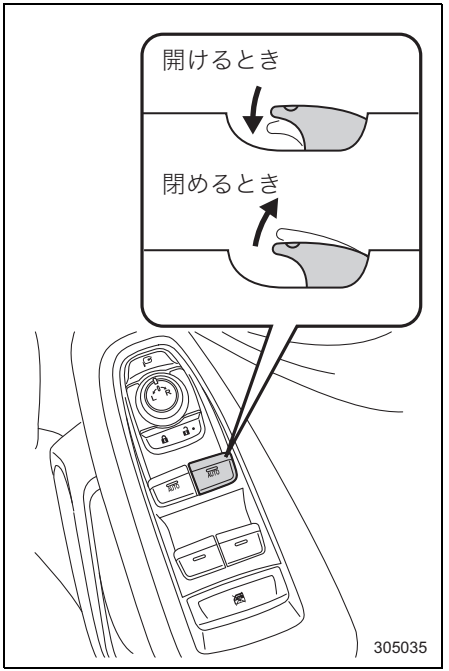
■スイッチの操作

●前席ウインドゥの開閉

スイッチを軽く操作している間、作動します。強く操作すると、自動で全開（全閉）します。

開けるとき：
- スイッチを軽く押します。押している間ウインドゥが下降します。
- スイッチを強く押すと自動で全開になります。途中でウインドゥの下降を停止させるときは、スイッチを軽く引き上げます。

閉めるとき：
- スイッチを軽く引き上げます。引き上げている間ウインドゥが上昇します。
- スイッチを強く引き上げると自動で全閉になります。途中でウインドゥの上昇を停止させるときは、スイッチを軽く押します。



知 識

- パワーウインドゥに必要以上の負荷がかかりブレーカーが作動したときは、必ずパワーウインドゥの初期設定をしてください。
  - 初期設定がされないと前席ウインドゥは自動で全開（全閉）しません。

☞**P.274**参照

●前席ウインドゥのリモート開閉機能

アクセスキーのボタンを長押しすると前席のパワーウインドゥの開閉ができます。
- ボタン：長押し約3秒後に開作動
- ボタン：長押し約3秒後に閉作動

知 識

スバル販売店で前席ウインドゥのリモート開閉機能を作動ありに設定できます。

●オフディレイ機能

前席のウインドゥはプッシュエンジンスイッチを ON から ACC または OFF にした後でも、約40秒間は開閉することができます。

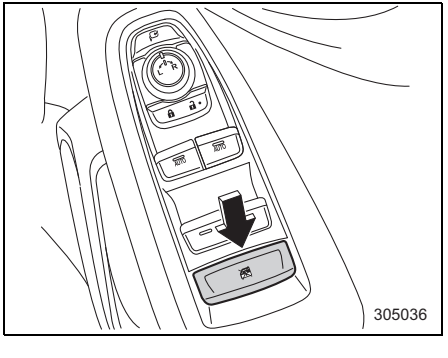
知 識

- 開閉ができる状態のときは、スイッチの照明が点灯しています。
- スイッチの照明が点灯している間に前席のドアを開けると、ウインドゥの開閉はできなくなります。

●ウインドゥロック機能

お子さまなどの誤操作によるパワーウインドゥの開閉を防止したいときに使用します。

運転席のロックスイッチを押して運転席以外の座席のスイッチをロックできます。
ロック状態のときは、運転席で、照明が点灯しているスイッチのみ操作できます。

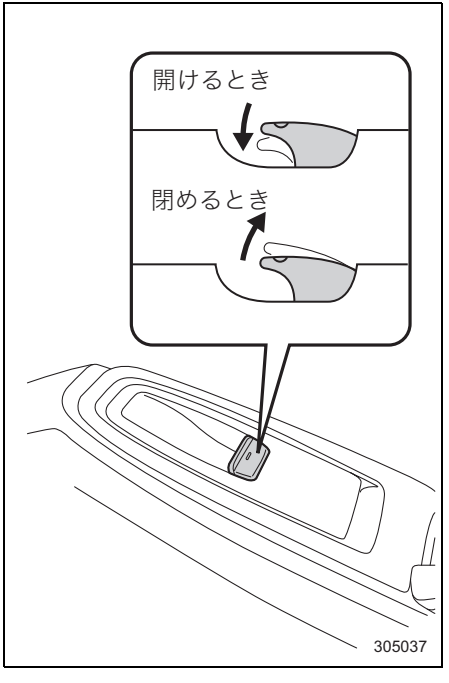


●後席ウインドゥの開閉

スイッチを操作している間作動します。

開けるとき：スイッチを押します。

閉めるとき：スイッチを引き上げます。



■ウインドゥ反転機能

前席のウインドゥを閉めているときに窓枠とウインドゥとの間に異物の挟み込みを感知すると、ウインドゥの上昇が停止し、自動で少し下降し止まります。

⚠ 注 意

ウインドゥを確実に閉めるため、閉めきる直前の部分では、挟み込みを感知しない領域があります。指などを挟まないようにしてください。

知 識

- 環境、走行条件により異物を挟んだときと同じ衝撃がウインドゥに加わるとウインドゥ反転機能が作動することがあります。
- ウインドゥ反転機能が作動した後、数秒間はウインドゥを閉めることができません。
- パワーウインドゥに必要以上の負荷がかかりブレーカーが作動したときは、必ずパワーウインドゥの初期設定をしてください。
  - 初期設定がされないと、ウインドゥ反転機能が作動しません。

☞P.274参照

■ウインドゥ巻き込み防止機能

前席のウインドゥを開けているとき、異物を巻き込むと作動が停止します。

■パワーウインドゥの初期設定

ウインドゥを全開または全閉にした後もスイッチを同じ方向に操作し続けるなど、パワーウインドゥに必要以上の負荷がかかった場合、ブレーカーが作動してウインドゥの開閉ができなくなることがあります。
その場合はパワーウインドゥの初期設定をしてください。
パワーウインドゥの初期設定をしないと、次の機能は作動しません。

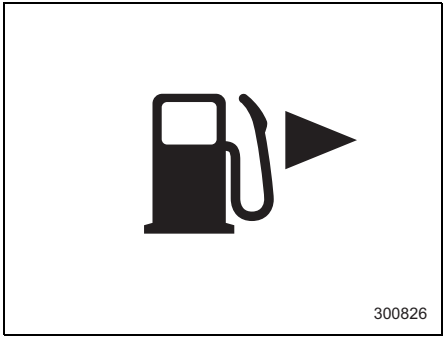
- 前席ウインドゥの自動全開（全閉）
- ウインドゥ反転機能

●初期設定のしかた

1. ドアを閉め、プッシュエンジンスイッチをONにします。
2. 前席ウインドゥスイッチを下に押し続け、ウインドゥを全開にします。
   全開後、約1秒間スイッチを下に押し続けます。
3. 前席ウインドゥスイッチを上に引き続け、ウインドゥを全閉にします。
   全閉後、約1秒間スイッチを上に引き続けます。
4. 前席ウインドゥスイッチを強く押し、自動でウインドゥが全開になることを確認します。

フューエルリッド（燃料給油口）

メーター表示部の燃料計にフューエルリッド（燃料給油口）が右側にあることを示す表示があります。

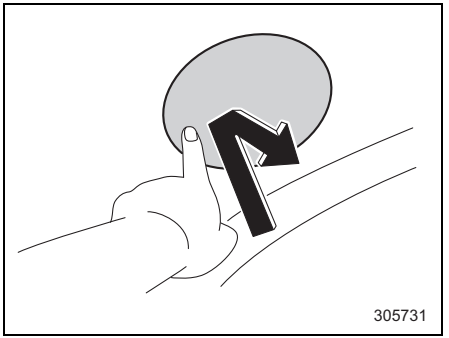


指定燃料	タンク容量
無鉛レギュラーガソリン	約63 L

■フューエルリッドの開閉

●開けるとき

1. 次のいずれかの操作を行い、フューエルリッドを解錠します。
   - プッシュエンジンスイッチを ON から ACCまたはOFFにする。
   - キーレスアクセス、電波式リモコンドアロックで解錠操作をする。
   - 集中ドアロックスイッチの（解錠）を押す。
2. フューエルリッドの左端中央を押してリッドを開きます。



●閉めるとき

確実に閉まるまでフューエルリッドを手で押し付けます。

●集中ドアロックスイッチで解錠できない場合の解錠

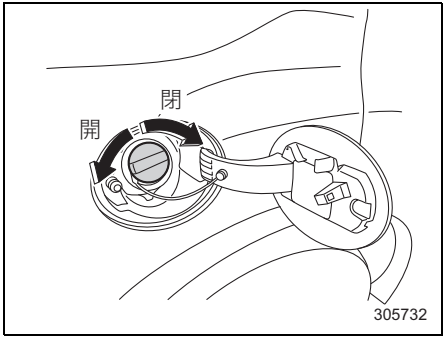
☞P.770参照

知 識

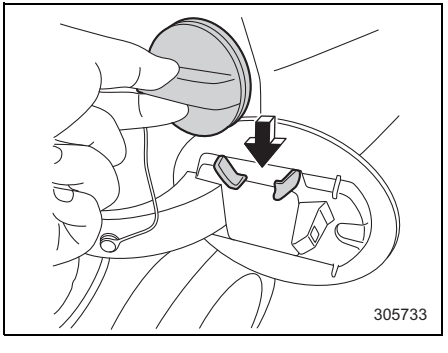
オートドアアンロック機能で解錠した場合も、同時に解錠されます。

■フューエルキャップの開閉

フューエルキャップを左に回して開けます。給油後は、「カチッ」と音がするまで右に回して閉めます。



フューエルキャップを外したときは、フューエルリッド内側のフックにかけます。



⚠ 警 告

給油時には必ず次のことをお守りください。

- ガソリンは非常に引火しやすいため、タバコなど一切の火気は厳禁です。
- プッシュエンジンスイッチを必ず　OFF にしてください。
- エンジンは必ず止めてください。
- フューエルキャップを開ける前に車体または給油機などの金属部分や、静電気除去パッドに触れて身体の静電気を除去してください。静電気による火花が燃料に引火して車両火災にいたるおそれがあります。
- フューエルキャップを開けるときはゆっくり回し、燃料タンク内の圧力を下げてから外してください。急に開けると燃料が給油口から噴き返すおそれがあります。
- フューエルキャップは確実に閉めてください。閉まっていないと走行中に燃料が漏れて火災につながるおそれがあります。
- 静電気除去キャップを採用していますので、フューエルキャップはお車に合ったスバル純正品を使用してください。

☞P.29参照

⚠ 注 意

セルフ給油のときは、給油ガンが自動停止した時点で止めてください。

パワーリヤゲート

パワーリヤゲートは次の操作をすることで施錠・解錠ができます。
- 電波式リモコンドアロック
- 集中ドアロックスイッチ
- キーレスアクセス機能
- オートドアロック・アンロック機能

■パワーリヤゲートの開閉

アクセスキーまたはパワーリヤゲート運転席スイッチでリヤゲートを自動開閉することができます。また、リヤゲートオープナースイッチで開けること、パワーリヤゲートインナースイッチで閉めることができます。

また、パワーリヤゲートには次の機能があります。

一時停止機能：

全開作動中、パワーリヤゲートを任意の位置で止めることができます。

☞P.285参照

手動操作オート移行機能：

パワーリヤゲート一時停止からオート作動することができます。

☞P.285参照

ロックスイッチ機能：

パワーリヤゲートロックスイッチで施錠することができます。

☞P.286参照

メモリーハイト機能：

全開時のリヤゲート高さをお好みの位置に設定できます。

☞P.286参照

パワーリヤゲート反転機能：

自動開閉中に異物の挟み込みや障害物を感知すると、パワーリヤゲートが反対側に動きます。

☞P.288参照

●パワーリヤゲートの作動条件

パワーリヤゲートの開閉操作はそれぞれ次の条件をすべて満たす場合に行えます。

▼自動開作動

- セレクトレバーが“P”のとき
- リヤゲートが解錠されているとき

▼自動閉作動

- 車両停車時
- タッチセンサーに障害物等が接触していないとき
- アクセスキーを携帯しているとき（ロックスイッチ）

知 識

- 走行後は、オートドアロック機能によって施錠されている場合があります。アクセスキーを携帯せずに開けるには、オートドアアンロック機能、アクセスキーまたは集中ドアロックスイッチで解錠してから操作してください。
- リヤゲートが施錠されていても、アクセスキーを携帯していれば、リヤゲートオープナースイッチで自動開作動可能です。
- 集中ドアロックスイッチやオートドアロック機能でリヤゲートが施錠されていても、運転席のスイッチによる操作であれば、自動開作動可能です。

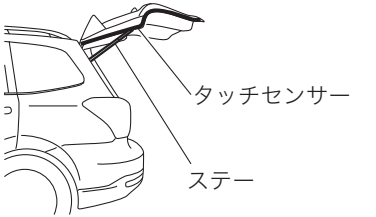
次ページへ ⇒

⚠ 警 告

走行中や長時間のアイドリングをしているときはリヤゲートを完全に閉めてください。車内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒の原因になり、最悪の場合、死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

- リヤゲートを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 開閉や荷物の出し入れのとき、リヤゲートが頭や顔にぶつからないように注意してください。
- リヤゲートを閉めるときは、他の人の手（特にお子さまには気をつけてください）や荷物を挟まないように注意してください。
- 荷物を出し入れするときは、排気管や排気ガスに触れてやけどをしないように注意してください。
- 走行前には、リヤゲートを完全に閉めてください。走行中に開くと荷物が落ちることがあります。
- 強風時の開閉には十分注意してください。リヤゲートが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- リヤゲートを開ける前に、リヤゲートに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いた後に重みでリヤゲートが突然閉まるおそれがあります。
- リヤゲートの作動中に無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、パワーリヤゲートの故障の原因となります。
- リヤゲートの両側についているタッチセンサーは、鋭利な物などで傷をつけないようにしてください。タッチセンサーが故障すると、パワーリヤゲートが作動しなくなります。



305873

- リヤゲートを支えているパワーリヤゲートステー部に薄いビニール袋、テープなどが噛み込まないように、また、荷物の積み下ろしなどで傷をつけないように注意してください。異音や作動不良につながる場合があります。
- エンジン始動時や他の電装品を使用している、またはバッテリーが弱っているとき、パワーリヤゲートの電動制御が解除されることがあります。この場合、ブザーは鳴らず、リヤゲートの作動が停止します。リヤゲートが頭や顔にぶつからないよう、また、手や荷物を挟まないように注意してください。
- リヤゲートにスバル純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。リヤゲートの重量が極端に重くなると、開けたときにステーが支えきれなくなる、パワーリヤゲートが正常に機能しなくなる、または故障につながるおそれがあります。

知 識

- リヤゲートが開いている状態で走行するとブザーが鳴ります。自動開作動中に走行すると、リヤゲートは閉作動します。
- パワーリヤゲートを閉めた直後に自動開操作を行うと、ブザーが鳴り、パワーリヤゲートは作動しない場合があります。少し時間をおいてからパワーリヤゲートの自動開操作を行ってください。

☞P.283参照

- 次のような場合、パワーリヤゲートが自動開閉できないことがあります。
  - 傾斜している場所に停車しているとき
  - 風が強いとき
  - リヤゲートに雪が積もっているとき
- キャリアなどに積んだ荷物に当たらないように気をつけて開けてください。
- バッテリー上がりや集中ドアロックシステムの故障などでリヤゲートの解錠や開閉ができなくなった場合は、車室内から解錠、開閉することができます。

☞P.769参照

- バッテリー上がりおよびバッテリー交換後は、システムの初期化を行わないとパワーリヤゲートの自動開閉はできません。

☞P.768参照

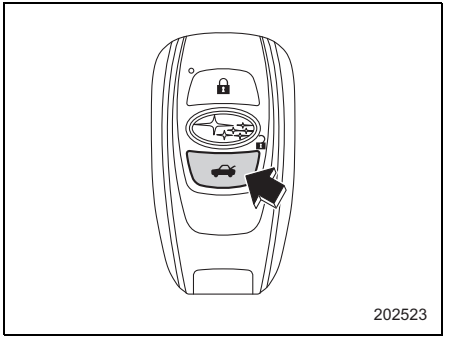
- パワーリヤゲート作動開始ブザーを作動なしに設定できます。

☞P.158参照

●アクセスキーによる操作

▼開けるとき

お車のまわりから ボタンを押し続けます。リヤゲートを解錠したことを知らせるブザー（ピーッ、ピーッ）とパワーリヤゲート作動開始ブザー（ピッ、ピッ）が鳴り、リヤゲートが開きます。
ブザーと同時に非常点滅表示灯（ハザードランプ）が点滅します。


202523

▼閉めるとき

お車のまわりから ボタンを押し続けるとパワーリヤゲート作動開始ブザー（ピッ、ピッ）が鳴り、リヤゲートが閉まります。
ブザーと同時に非常点滅表示灯（ハザードランプ）が点滅します。

▼アクセスキーによる操作のカスタマイズ

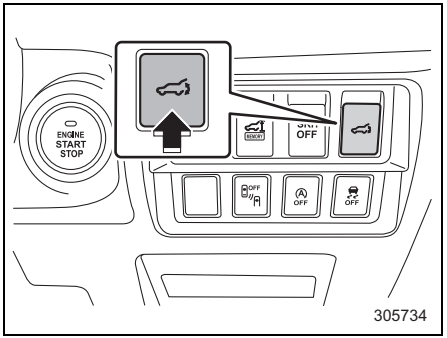
スバル販売店でアクセスキーによるパワーリヤゲート開閉を2回押しで作動、作動なしに設定できます。

知 識

- 自動作動によりリヤゲートを閉めただけでは施錠されません。お車から離れるときは必ず施錠してください。
- リヤゲートの開閉ができないときはブザー（ピピピッ）が鳴ります。

●運転席のスイッチによる操作

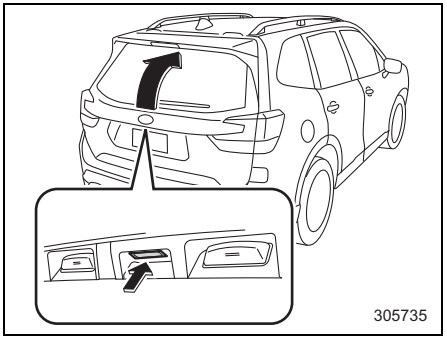
パワーリヤゲート運転席スイッチを押し続けるとパワーリヤゲート作動開始ブザー（ピッ、ピッ）が鳴り、リヤゲートが開閉します。ブザーと同時に非常点滅表示灯（ハザードランプ）が点滅します。



●車体についているスイッチによる操作

▼開けるとき

リヤゲートが解錠されているとき、またはアクセスキーを携帯しているとき、リヤゲートオープナースイッチを押すと（短押し）パワーリヤゲート作動開始ブザー（ピッ、ピッ）が鳴り、リヤゲートが開きます。ブザーと同時に非常点滅表示灯（ハザードランプ）が点滅します。

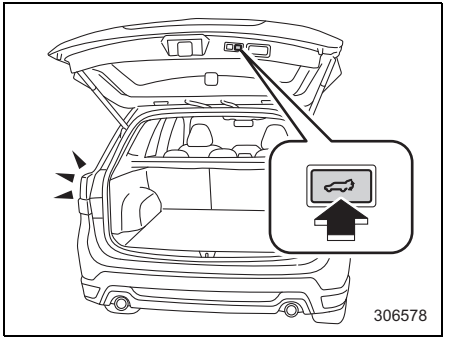


知 識

- リヤゲートの開閉ができないときはブザー（ピピピッ）が鳴ります。
- 運転席のスイッチで操作できない場合は、キーレスアクセス機能または電波式リモコンドアロックで解錠してから操作してください。

▼閉めるとき

パワーリヤゲートインナースイッチを押すとパワーリヤゲート作動開始ブザー（ピッ、ピッ）が鳴り、リヤゲートが閉まります。ブザーと同時に非常点滅表示灯（ハザードランプ）が点滅します。



●リヤゲートオートクロージャー

パワーリヤゲートを半ドアの位置まで閉めるとリヤゲートオートクロージャーが働き、自動的に全閉になります。

知 識

- 自動作動によりリヤゲートを閉めただけでは施錠されません。お車から離れるときは必ず施錠してください。
- リヤゲートの開閉ができないときはブザー（ピピピッ）が鳴ります。
- パワーリヤゲートロックスイッチでも操作ができます。

☞P.286参照

- リヤゲートは、手動で開閉することもできます。

⚠ 警 告

半ドア状態のときにリヤゲートオートクロージャーが働き、自動的に閉まるため指などを挟まないように注意してください。重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

リヤゲートオートクロージャーの作動中に無理な力をかけないでください。また、リヤゲートオートクロージャーを繰り返し作動させないでください。無理な力をかけると、パワーリヤゲートの故障の原因となります。

■一時停止機能

次のいずれかの操作をするとパワーリヤゲートを任意の位置で止めることができます。

- パワーリヤゲートが自動で開作動中
  - アクセスキーの ボタンを押す
  - リヤゲートオープナースイッチまたは、パワーリヤゲートインナースイッチを押す
  - パワーリヤゲート運転席スイッチを押す
- パワーリヤゲートが自動で閉作動中
  - アクセスキーの ボタンを連続で2回押す
  - リヤゲートオープナースイッチまたはパワーリヤゲートインナースイッチを連続で2回押す
  - パワーリヤゲート運転席スイッチを連続で2回押す

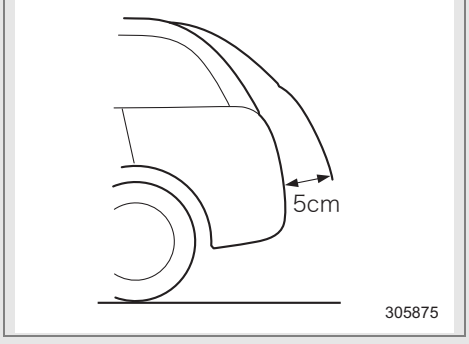
閉作動中にボタンまたはスイッチを1回押すと反転作動し、もう一度押すと停止します。
一時停止後、通常の自動開操作を行っても、パワーリヤゲートは閉作動します。

■手動操作オート移行機能

パワーリヤゲート一時停止状態で、開くまたは閉じる方向に一定以上の速度でリヤゲートを動かすと、オート作動します。

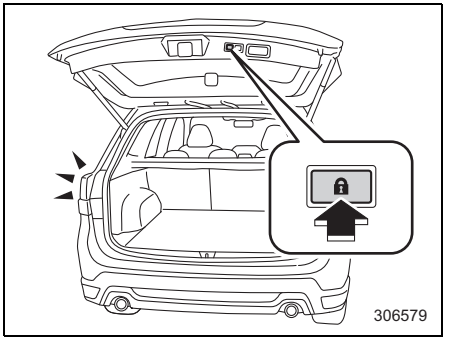
知 識

全閉位置から約５ cm までは一時停止することができません。この場合、リヤゲートは全閉します。



■ロックスイッチ機能

アクセスキーを携帯し、すべてのドア（フューエルリッド含む）を閉めてからパワーリヤゲートロックスイッチを押すと、パワーリヤゲートが自動で閉じ、パワーリヤゲートとすべてのドア（フューエルリッド含む）を施錠します。



⚠ 注 意

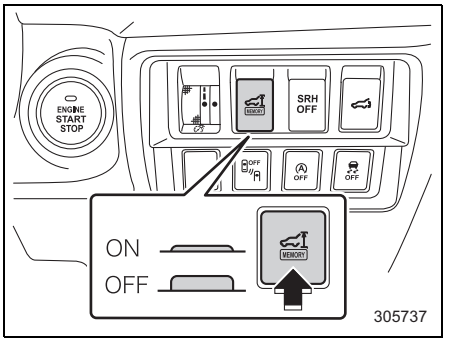
リヤゲート全閉後、ブザー（ピッ）が鳴り、同時に非常点滅表示灯（ハザードランプ）が点滅することを確認してください。

■メモリーハイト機能

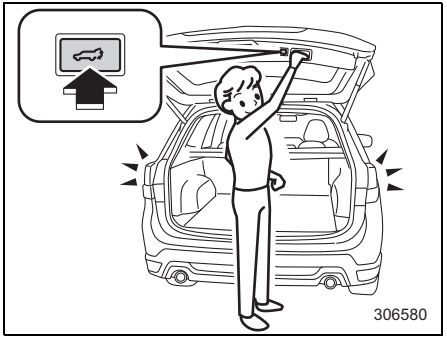
高さ制限のある駐車スペースに駐車するときやルーフに荷物を積んでいるときなど、全開時のリヤゲート高さをお好みの位置に設定することができます。

●登録のしかた

1. パワーリヤゲートを開け、一時停止機能で停止させます。
2. メモリーハイトスイッチをONにします。



3. パワーリヤゲートをお好みの高さにし、その状態を保ちながらパワーリヤゲートインナースイッチを押し続けます。登録が完了するとブザー（ピピーッ）が鳴り、同時に非常点滅表示灯（ハザードランプ）が3回点滅します。



メモリー位置を変更する場合は、再度登録操作を行ってください。

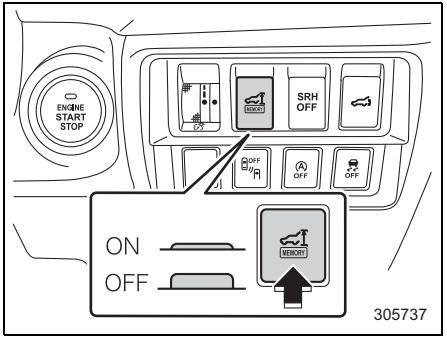
知 識

- リヤゲート一時停止機能で手動でお好みの高さに動かす時はゆっくり操作をしてください。
- 一定以上の速さで動かすと、手動操作オート移行機能により、オート作動を開始する可能性があります。

●メモリーハイト機能の使いかた

メモリーハイトスイッチを押します。スイッチを押すたびにON、OFFが切り替わります。スイッチをONにすると、自動開時、パワーリヤゲートは登録した高さで止まります。

スイッチの位置	パワーリヤゲートの高さ
ON	登録したメモリー位置
OFF	全開位置



知 識

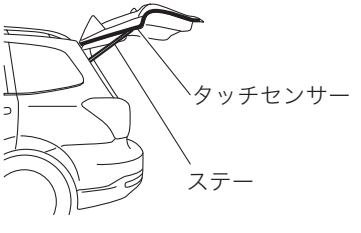
- メモリーハイト機能ON時、身体や荷物がぶつかるなどパワーリヤゲートが強い衝撃を受けると、メモリーハイト機能を解除することがあります。
  - 身体や荷物にぶつかったときの衝撃を緩和するためと、車体への必要以上の負荷を防ぐためで、故障ではありません。

■パワーリヤゲート反転機能

パワーリヤゲートの自動開閉中に異物の挟み込みを感知した場合、または障害物に干渉した場合、ブザー（ピピピッ）が鳴り、パワーリヤゲートが反対側に動きます。
また、パワーリヤゲートが自動で閉作動中に、次のいずれかの操作をするとパワーリヤゲートが反転作動になります。

- アクセスキーの ボタンを押す
- パワーリヤゲート運転席スイッチを押す
- リヤゲートオープナースイッチを押す
- パワーリヤゲートインナースイッチを押す
- パワーリヤゲートロックスイッチを押す

また、リヤゲートの両側にタッチセンサーがついています。
リヤゲートを自動で閉めているとき、異物を挟み込んでセンサーが押されると、リヤゲートを反転させます。



305873

⚠ 注 意

パワーリヤゲートを操作するときは、次のことに注意してください。

- パワーリヤゲート反転機能が３回連続して作動すると、パワーリヤゲートの電動制御が解除され、そのときの位置で停止します。リヤゲートが顔や頭、障害物にぶつからないよう、また、手や荷物を挟まないように注意してください。
- リヤゲートが完全に閉まる直前の部分では挟み込みを感知しない場合があります。手や指などを挟まないよう注意してください。
- パワーリヤゲート反転機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。手や指などを挟まないよう注意してください。

知 識

- タッチセンサーを鋭利な物などで傷をつけないようにしてください。タッチセンサーが故障すると、パワーリヤゲートが電動作動しなくなります。
- パワーリヤゲート反転機能が作動し、リヤゲートが開方向に動いた場合、リヤゲートは全開位置または登録した高さ（メモリーハイト機能ONのとき）まで開きます。

■パワーリヤゲート落下防止機能

積雪などの重みによりリヤゲートの落下を感知すると、ブザー（ピッピッ）が鳴りリヤゲートが自動で閉まります。

知 識

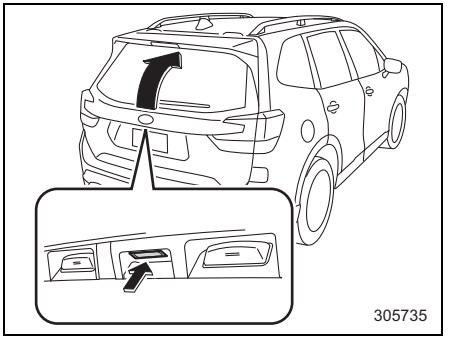
- リヤゲートに積雪があるときは、パワーリヤゲートを操作する前に雪を取り除いてください。
- 落下防止機能が作動するとき、まれに音がすることがありますが、異常ではありません。

リヤゲート（パワーリヤゲート装備車以外）

リヤゲートは次を操作することで施錠・解錠ができます。
- 電波式リモコンドアロック
- 集中ドアロックスイッチ
- キーレスアクセス機能
- オートドアロック・アンロック機能

■開けるとき

リヤゲートオープナースイッチを押してリヤゲートを少し持ち上げます。手で支えたままゆっくり開けます。



■閉めるとき

リヤゲートをゆっくり下げて、上から手で押さえ付けるように閉めます。
半ドアでないことを確認します。

⚠ 警 告

走行中や長時間のアイドリングをしているときはリヤゲートを完全に閉めてください。車内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒の原因になり、最悪の場合、死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

- リヤゲートを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 開閉や荷物の出し入れのとき、リヤゲートが頭や顔にぶつからないように注意してください。
- リヤゲートを閉めるときは、他の人の手（特にお子さまには気をつけてください）や荷物を挟まないように注意してください。
- 荷物を出し入れするときは、排気管や排気ガスに触れてやけどをしないように注意してください。
- 走行前には、リヤゲートを完全に閉めてください。走行中に開くと荷物が落ちることがあります。
- 強風時の開閉には十分注意してください。リヤゲートが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- リヤゲートを開ける前に、リヤゲートに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いた後に重みでリヤゲートが突然閉まるおそれがあります。
- リヤゲートを支えているガスステー部に薄いビニール袋、テープなどが噛み込まないように、また、荷物の積み下ろしなどで傷をつけないように注意してください。ステーのガス抜けにより、ゲートが自然に閉じてしまう場合があります。
- リヤゲートにスバル純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。リヤゲートの重量が極端に重くなると、開けたときにステーが支えきれなくなるおそれがあります。

知 識

- リヤゲートオープナースイッチを押すと同時にリヤゲートを開けようとした場合、リヤゲートが開かないときがあります。
- キャリアなどに積んだ荷物に当たらないように気をつけて開けてください。
- 傾斜した場所では、平坦な場所よりもリヤゲートの開閉がしにくかったり、急に開閉してしまう場合があります。
- バッテリー上がりや集中ドアロックシステムの故障などでリヤゲートの解錠ができなくなった場合は、車室内から解錠することができます。

☞P.769参照

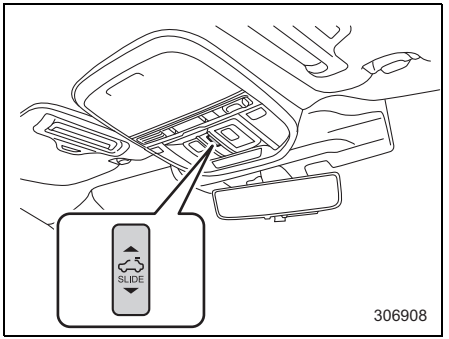
電動ガラスサンルーフ

サンルーフは、プッシュエンジンスイッチがONのときに作動します。

■電動ガラスサンルーフの開閉

●開けるとき

スイッチの後ろ側を押すとサンルーフが開きます。全開手前位置でいったん停止します（風切り音の低減位置）。再度スイッチを押すと全開まで開きます。また、室内への風の巻き込みを防ぐディフレクターが自動的に上がります。途中で止めるときは、スイッチを押します。



●閉めるとき

スイッチの前側を押すとサンルーフが全閉します。途中で止めるときは、スイッチを押します。

⚠ 警 告

- 走行中または一時停止したときに開口部から顔や手、物などを出さないでください。車外の物などに当たったり、万一のとき重大な事故になるおそれがあり危険です。特にお子さまには気をつけてください。
- サンルーフを開閉するときは可動部に手や首を挟まないように気をつけてください。特にお子さまには気をつけてください。
- 安全のため、お車を離れるときは必ずプッシュエンジンスイッチをOFFにし、キーを携帯してください。また、お子さまだけで車内に残さないでください。お子さまがサンルーフを操作してけがをするおそれがあります。
- 走行中または一時停止したときに開口部のふちに腰かけたりしないでください。万一のとき投げ出されることがあり危険です。

⚠ 注 意

- 停車中、開口部のふちに腰かけたり、荷物を載せるなど大きな力を加えないでください。ルーフがへこむことがあります。
- 全開または全閉になったらスイッチを押し続けないでください。サンルーフモーターの損傷の原因になります。

知 識

- 走行中は安全上、風切り音の低減位置での使用をお奨めします。
- 全開で走行すると、車速によって耳を圧迫するような風切り音が発生します。このようなときは、風切り音の低減位置で使用することにより、音が低減します。
- お車から離れるときや洗車するときは、サンルーフが完全に閉じていることを確かめてください。
- 雨の後や洗車後に開けるときは、サンルーフの上の水を拭き取ってください。室内に水が入ることがあります。
- 降雪の後は、サンルーフ上の雪を取り除いてから開けてください。
- キャリアなどを取り付けたときは、のせた荷物に当たらないように気をつけてください。

●サンルーフ反転機能

閉じるときに、窓枠とサンルーフとの間に異物の挟み込みを感知すると、サンルーフの作動が停止し、自動で少し戻り止まります。

⚠ 注 意

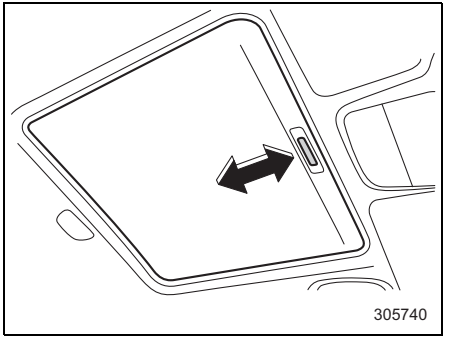
サンルーフを確実に閉めるため、閉めきる直前の部分では、挟み込みを感知しない領域があります。指などを挟まないようにしてください。

知 識

環境、走行条件により、異物を挟んだときと同じ衝撃がサンルーフに加わると、サンルーフ反転機能が作動することがあります。

■サンシェード

サンシェードはサンルーフに連動して開閉します。
サンルーフが全閉のときは、手で開閉できます。



知 識

- サンシェードを開閉するときは、全開か全閉で使用してください。
  途中で止めて使うと、走行中音が出ることがあります。また、急ブレーキにより閉じることがあります。
- 炎天下で長時間駐車する場合は、サンシェードを閉めてください。
  サンシェードを開けたままにしておくと、車内が高温になります。

■サンルーフが閉まらないとき

スバル販売店で点検を受けてください。

セキュリティシステム

イモビライザー（盗難防止用エンジン始動ロックシステム）

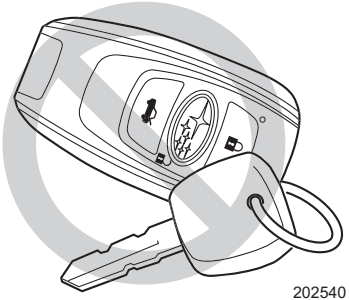
アクセスキーにはイモビライザー機能が装備されています。
キーには、個々の違った識別コードが登録されています。
キーの識別コードが正しければエンジンを始動できますが、未登録のキーや識別コードの異なるキーなどではエンジンを始動することができません。

次ページへ ⇒

⚠ 注 意

イモビライザーはキーと車両の識別コードを電子的に照合します。次のことに注意してください。

- 強い磁石の近くにはキーを置かないでください。イモビライザーの誤作動の原因になるおそれがあります。
- ダッシュボードの上など高温になる場所にキーを置かないでください。
- キーを水にぬらさないでください。
- 次のような場合、車両がキーからの信号を正確に受信できず、エンジンの始動ができない場合があります。
  - キーに金属製の物が接しているとき
  - キーに他のキーの金属部が接しているとき
  - キーが他の車両のイモビライザーシステム用キー（信号発信機内蔵の物）と近いとき
  - キーが他の信号発信機と近いときや接しているとき



202540

- システムの改造や取り外しをしないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- イモビライザーは、車両盗難を完全に防止することを保証するものではありません。

知 識

- イモビライザー機能は車両自体の盗難を防ぐ装置であり、車室内への侵入を防ぐ機能はありません。お車から離れるときは必ずドアを施錠してください。
- 万一、キーを紛失したときには、盗難を防ぐため紛失したキーの登録を消去するようお奨めします。登録の消去は、スバル販売店でのみ行えます。スバル販売店にご相談ください。
- イモビライザーのメンテナンスは不要です。

■セキュリティ表示灯

セキュリティ表示灯はイモビライザー機能の作動および盗難警報装置の状態を示します。

プッシュエンジンスイッチを押していないときはゆっくり点滅をしています。正規のアクセスキーを携帯し、プッシュエンジンスイッチを押すと消灯します。

正規のアクセスキー以外を携帯し、プッシュエンジンスイッチを押した場合、表示灯はゆっくり点滅したままでエンジンを始動できません。

盗難警報装置の設定が「作動あり」時のセキュリティ表示灯点滅パターンについては、「盗難警報装置を監視状態（警報が作動する状態）にするには」を参照してください。

☞P.299参照

知 識

エンジン停止中、プッシュエンジンスイッチがACCまたはONでドアを開けるまたは閉めるとセキュリティ表示灯がゆっくり点滅します。このとき、正規のアクセスキーを携帯していればエンジンを始動できますが、携帯していないときはエンジンの始動はできません。

盗難警報装置

キーレスエントリー（キーレスアクセス機能、電波式リモコンドアロック、暗証コード式キーレスエントリー）以外でドア、リヤゲートやボンネットが開けられたとき、30秒間車両ホーンが鳴り、非常点滅表示灯（ハザードランプ）が点滅して周囲に異常を知らせるよう設定できます。

☞P.302参照

⚠ 注 意

盗難警報装置は特定条件で作動し警報などで周囲に知らせる装置であり、盗難を防止するものではありません。

お車から離れるときは、車内に貴重品などを置かないでください。

知 識

- 30秒間鳴り続けた後も、ドアが開いたままになっている場合、警報が鳴り続けます。ドアを閉めると最長30秒後には警報は止まります。
- いったん、盗難警報装置を監視状態にすると、キーレスエントリー（キーレスアクセス機能、電波式リモコンドアロック、暗証コード式キーレスエントリー）以外では解除できません。
- スバル販売店で30秒の待機時間をなしに設定できます。

■盗難警報装置を監視状態（警報が作動する状態）にするには

プッシュエンジンスイッチをOFFにして、すべてのドア（リヤゲート含む）およびボンネットを閉めます。次の操作で施錠すると約 30 秒の待機時間（監視を行なわない状態）の後、監視状態に入ります。

- ドアハンドルのタッチセンサーに触れる、またはリヤゲートリクエストスイッチを押す
- アクセスキーの🔒ボタンを押す

監視状態に入るとメーター内のセキュリティ表示灯 が 2 回連続の点滅を繰り返します。この方法以外（車外からのキーによる施錠、車外からのキーを使わない施錠）では盗難警報装置は監視状態に入りません。

☞P.264参照

次ページへ ⇒

知 識

- 待機状態中は、セキュリティ表示灯 が素早く点滅します。また、次のことを行った場合、監視状態に入りません。
  - キーレスエントリーでドアを解錠したとき
  - いずれかのドア（リヤゲートも含む）を開けたとき
  - アクセスキーを携帯しプッシュエンジンスイッチを押してACCにしたとき
- ボンネットを開けたままで施錠した場合は、監視状態に入りません。
- ボンネットを閉めてから約30秒待機状態の後、監視状態に入ります。
- 自動施錠の機能が作動した場合にも盗難警報装置が待機状態から監視状態に入ります。

☞**P.251**、**260**参照

- 監視状態のままバッテリーが上がったときは、キーレスエントリーでは解錠できません。メカニカルキーを使用して解錠してください。ただしバッテリーを充電、もしくは新品に交換した際に監視状態で復帰します。監視状態で復帰したときにドア（リヤゲートを含む）またはボンネットが開いたままになっていると警報が作動します。警報の作動を停止する操作を行ってください。
- キーレスアクセス機能や電波式リモコンドアロックによる施錠や自動施錠時、ドアを施錠動作の直前で開くと警報が鳴り始める場合があります。
- パワーリヤゲートのみ開いている場合は、パワーリヤゲートロックスイッチを押して施錠すると約30秒の待機時間の後、監視状態に入ります（パワーリヤゲート装備車）。

■盗難警報装置の監視状態を解除するには

次の操作で解錠すると監視状態が解除されます。解除されるとメーター内のセキュリティ表示灯 はゆっくりと点滅します。

- アクセスキーのボタンやリヤゲートオープナースイッチを押す、または前席のドアハンドルを握る
- 暗証コード式キーレスエントリーによる解錠操作をする

■警報を作動させてしまったときには

次のいずれかの操作をすると解除できます。

- アクセスキーのいずれかのボタンを押す
- アクセスキーを携帯し、プッシュエンジンスイッチを押してACCにする

知 識

盗難警報装置が監視状態にあるとき、ドアのキーシリンダーにメカニカルキーを差して解錠、もしくは車内からキーを使わず解錠した場合、盗難警報装置は解除されません。そのままドアを開けると警報が作動します。

☞P.264、265、266参照

知 識

アクセスキーの電池残量が少なくなった場合は、アクセスキーをプッシュエンジンスイッチに近づけてACCにしてください。

☞P.772参照

■警報の設定

盗難警報装置は作動あり／作動なしの設定を切り替えることができます。
次の方法で切り替えます。

1. 運転席に座り、すべてのドア（リヤゲート含む）およびボンネットが閉まっていることを確認します。
2. プッシュエンジンスイッチをON（エンジンが始動していない状態）にします。
3. 集中ドアロックスイッチの（解錠）を押すと同時に運転席ドアを開け、そのまま 10 秒間保持すると設定が切り替わります。
4. 設定が切り替わるとホーンが鳴り、新しい設定をメーターに表示します。
   作動あり…ホーンが1回鳴ります。
   メーター表示“AL ON”
   作動なし…ホーンが2回鳴ります。
   メーター表示“AL OFF”

知 識

この設定は、スバル販売店でもできます。

■警報の作動履歴

メーター内のセキュリティ表示灯 が点滅して、警報が作動したことを運転者に知らせます。警報が作動した原因により点滅の回数が変わります。
プッシュエンジンスイッチをONにしたとき1秒間点灯した後に、次の点滅で運転者に知らせます。

- ドア（リヤゲートを含む）が開けられた場合：5回
- ボンネットが開けられた場合：3回

知 識

警報の作動履歴は、盗難警報装置を再度監視状態にすると消去されます。

■室内ランプ点灯

スバル販売店で、室内ランプのスイッチがDOOR位置にあるときに警報が作動すると室内ランプが点灯するように設定できます。

運転前の調整

正しい運転（乗車）姿勢

無理のない、正しい運転（乗車）姿勢がとれるようにシート位置、ハンドル位置およびミラー位置を調整します。

☞P.306、322、323、330参照

調整した位置をドライバーモニタリングシステムまたはドライバーポジションメモリーで登録できます。

☞P.208、335参照

シートベルトを正しく装着します。

☞P.38参照

次ページへ ⇒

ハンドル操作が楽にできること（運転席）
ねじれ、たるみがなく肩に十分かかること
ヘッドレストの中央が耳の後方にくること（フロントヘッドレストのみ）
ペダルが十分に踏み込めること（運転席）
腰骨のできるだけ低い位置に密着させること
背もたれはできるだけ立てて背中を離さず、深く腰掛けること（ハンドルに近づき過ぎないこと）
306219

⚠ 警 告

シートを調整するときは、次のことを必ずお守りください。守らないと重大な傷害につながるおそれがあります。

- 必ず走行を始める前に調整を行う。
  - 運転席の調整は運転中に行わないでください。加速、減速でシートが動いてペダルに足が届かなくなる、背もたれが倒れてハンドルに手が届かなくなる、運転への注意がそれて運転ミスを起こすなどの重大な事故や傷害につながるおそれがあります。
- 調整後はシートを前後に動かして確実に固定されていることを確認する。
  - 不完全なままではシートが動いたり、シートベルトの機能が十分に働かないことがあります。
- 走行中は助手席も含めて背もたれを必要以上に倒さない。
  - 万一のとき、シートベルト本来の機能が発揮されないことがあります。
- 背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。
  - 正しい運転姿勢がとれないため危険です。
- フロントシートの下に物を置かない。
  - 物が挟まってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- フロントシートの座面と背もたれの間に後席乗員の足をのせたり、物を入れたりしない。
  - SRS エアバッグやパワーシートが正常に作動しなくなるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

- シートの調整は必ず大人が行い、シートや動いている部分に手や足などを近づけないようにする。
  - 同乗者や荷物にも注意してシート調整を行ってください。手や足などを挟まれたり、荷物が損傷したりすることがあります。
- 前席ヘッドレストは前席専用、後席ヘッドレストは後席専用。
  - 入れ替えて使用しないでください。また、前席ヘッドレストには、角度調整機能があります。

知 識

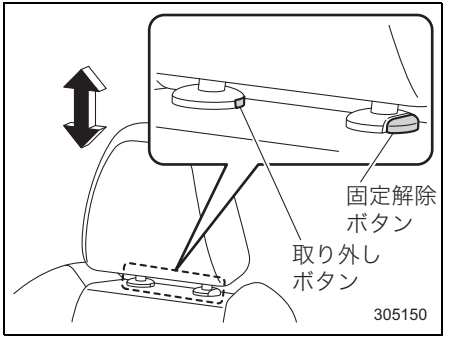
納車時のシートダストカバー（シート汚れ防止用のポリエチレン製カバー）やフロアマットの汚れ防止フィルムは取り外してから使用してください。

フロントシート

■ヘッドレスト

●高さ調整

- 上げるとき:
  最下段～１段目はそのままヘッドレストを引き上げます。
  １段目～３段目は固定解除ボタンを押したまま、引き上げます。
- 下げるときは、固定解除ボタンを押したまま押し下げます。
- 取り外すときはヘッドレストを最上段にして、取り外しボタンを押したまま引き抜きます。
- 取り付けるときは、ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロックされるまで確実に押し下げてください。



⚠ 警 告

ヘッドレストを調整するときは次のことをお守りください。守らないと万一のとき頭や首を保護できないなど重大な事故につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは確実に取り付ける。
  – ヘッドレストを外しての走行や、固定できる高さを超えての使用はしないでください。
- ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整する。
- ヘッドレストの高さおよび角度調整は、走行中に行わない。
  – 思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

- ヘッドレストを取り付ける際は、前後の向きを間違えないように注意してください。
- 前席ヘッドレストは前席、後席ヘッドレストは後席専用です。これらのヘッドレストをその他の座席で使用しないでください。
- 前席ヘッドレストのみ角度調整機能が設定されています。ご確認の上、ヘッドレストを取り付けてください。

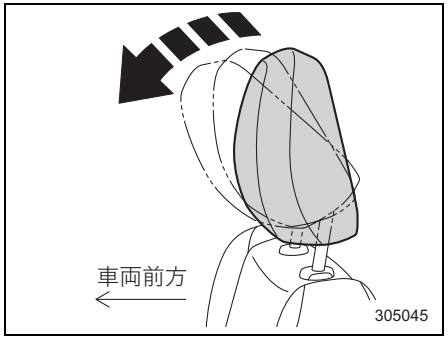
知 識

ヘッドレストが天井に当たって取り外しにくいときは、背もたれを倒すと取り外せます。

●角度調整

ヘッドレストの角度を段階的に調整することができます。
ヘッドレストを前方いっぱいに倒して、手を離すと自動的に一番後ろの位置に戻ります。

調整後、ヘッドレストが後方にロックされていることを確認してください。



⚠ 警 告

- ヘッドレストの角度調整は、走行中行わない。
  - 思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 前席に乗員がいるときヘッドレストを後ろ側から絶対に押さない。
  - 角度が変わり思わぬけがをするおそれがあります。

⚠ 注 意

ヘッドレストに物を引っかけたり、つかまったりしないでください。十分な効果が発揮できなかったり、故障につながるおそれがあります。

■パワーシート

シートのドア側のスイッチ操作で調整ができます。

⚠ 注 意

- 操作するときはスイッチ部に異物を挟まないように注意する。
  － 予期しないときに動くことがあります。
- 操作するときは背もたれに過度な力を加えない。
- 調整できる終点まで移動させた状態でスイッチを押し続けない。
- シートが人や物に当たった場合、それ以上無理に操作しない。
- 後方に動かすときは、後席の乗員の足が挟まれないように注意してください。

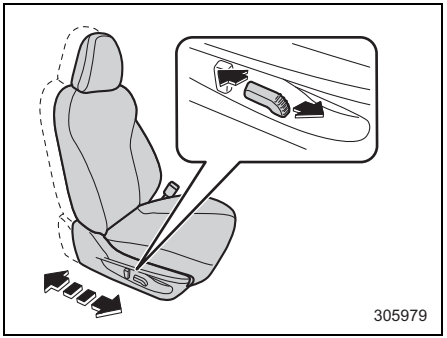
知 識

- 調整はエンジンがかかっているときに行ってください。バッテリー上がりの原因となります。
- 複数の調整を同時に行わないでください。
- ドライバーモニタリングシステムのユーザー情報連動またはドライバーポジションメモリーで、シート位置を登録し呼び出すことができます。

☞P.208、335参照

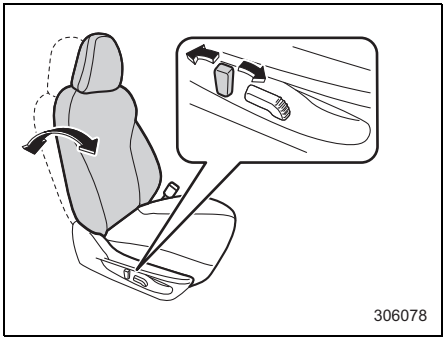
●スライド調整（前後の調整）

スイッチ全体を前後に動かして調整します。



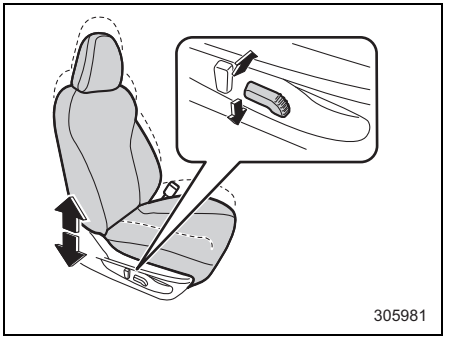
●リクライニング調整（背もたれの角度調整）

リクライニングスイッチを前後に動かして背もたれの角度を調整します。



●上下調整

スイッチの後ろ側を上下に動かしてシートの高さを調整します。

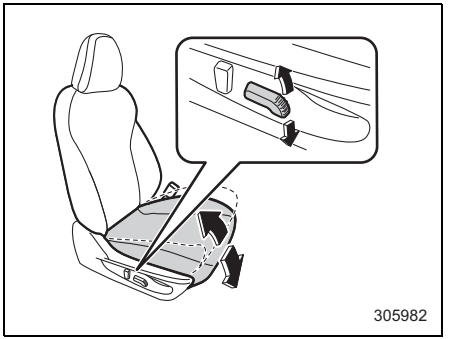


⚠ 注 意

上下に調整する際には、後席の乗員の足が挟まれないように注意してください。

●座面前側の高さ調整

スイッチの前側を上下に動かして前側の高さを調整します。



●ドアオープン連動シート後退（運転席のみ）

運転席ドアを開けたときにシートを後方に動かし、乗り込みやすくします。

知 識

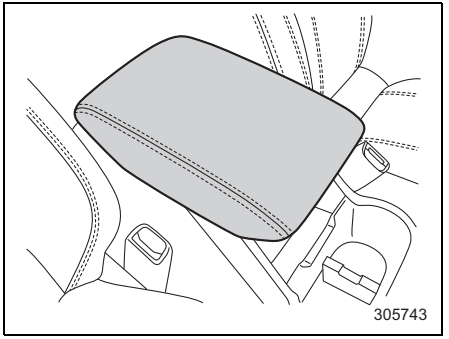
- ドライバーモニタリングシステムのユーザー情報連動が ON のときに作動します。

☞P.640参照

- ドライバーポジションメモリーでアクセスキーにシート位置を登録している場合、ドアオープン連動シート後退は作動しません。

■アームレスト

コンソールボックスと一体式のフロントアームレストです。

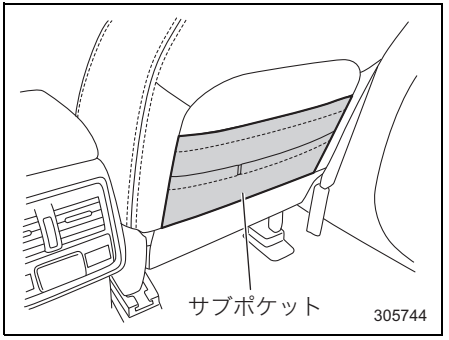


⚠ 注 意

アームレストの上に乗ったり、重い物をのせたりしないでください。アームレストの損傷や思わぬけがをすることがあります。

■シートバックポケット

フロントシートの背面にあるポケットです。

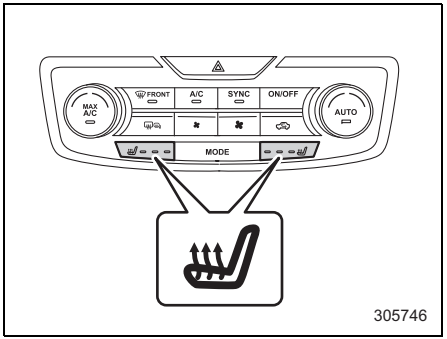


⚠ 注 意

雑誌などの薄い物以外は入れないでください。

■フロントシートヒーター

プッシュエンジンスイッチがONのときにスイッチを押すとシートが温まります。
作動中はスイッチ内の表示灯が点灯します。
シートが熱くなったときはOFFにしてください。



HIGH：■■■
早く温めたいときに使います。温まったらLOWにしてください。
MIDDLE：■■
保温するときに使います。LOWでは弱いと感じるときに使用してください。
LOW：■
保温するときに使います。通常はこの位置で使用してください。
OFF：表示灯が消灯
消灯するまで数回押す、または約1秒間長押しします。

⚠ 注 意

- 長時間使い続けるとやけどの原因になることがあります。お子さま、皮ふの弱い方、身体の不自由な方などは注意してください。
- 毛布や座ぶとんなどをのせて使用しないでください。
- 水やその他の液体をこぼしたときは、乾いた布ですぐに拭き取り、十分乾かしてから使用してください。

知 識

- エンジンが始動しているときに使用してください。バッテリー上がりの原因となります。
- シートに硬い物や突起のある物をのせないでください。
- プッシュエンジンスイッチを OFF にすると、フロントシートヒーターもOFFになります。
- プッシュエンジンスイッチを OFF にし、再度ONにした場合は、OFF にする前の状態が保持されます（エアコン連動機能での作動時を除く）。

●エアコン連動機能

外気温度が低いとき、エアコンに連動します。
エアコンの設定がパワフルで、外気温度が10 ℃以下のとき、プッシュエンジンスイッチをONにしてエアコンが作動した場合は、HIGHで作動します。
☞P.652参照

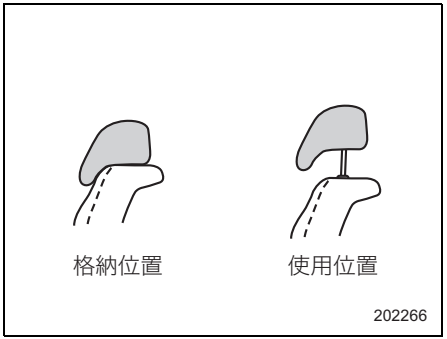
知 識

- プッシュエンジンスイッチを ON にしたときにエアコンが作動していない場合は、エアコンのAUTOスイッチを操作して連動させることができます。
- エアコンの設定温度が低いなど、条件によっては連動しない場合があります。
- フロントシートヒーターをOFFにした場合、プッシュエンジンスイッチをOFFにし、再度ONにするまでは連動しません。

リヤシート

■ヘッドレスト

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。
乗員がいないときは下げておくと後方視界がよくなります。



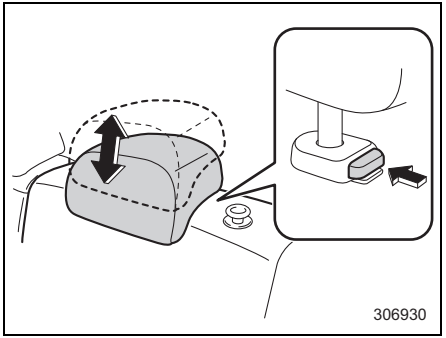
●高さ調整

- 上げるときはそのまま引き上げます。
- 下げるときは固定解除ボタンを押したまま押し下げます。
- 取り外すときは固定解除ボタンを押したまま引き抜きます。
- 取り付けるときは、固定解除ボタンを押しながら差し込みます。
- 取り付けるときは、ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロックされるまで確実に押し下げてください。

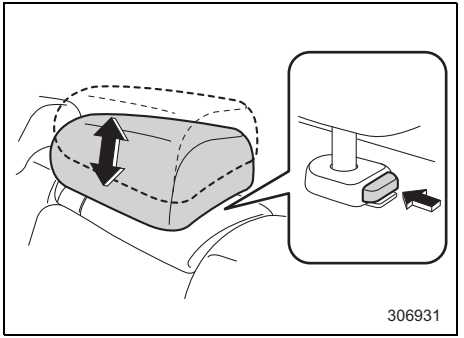
⚠ 警 告

- ヘッドレストは確実に取り付ける。
  − ヘッドレストを外しての走行や、固定できる高さを超えての使用は、万一のとき頭や首を保護できず重大な傷害につながるおそれがあります。

＜左右席用＞



＜中央席用＞

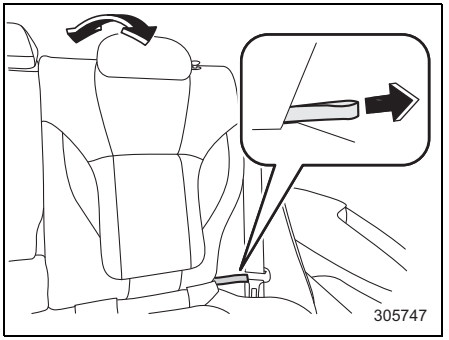


⚠ 注 意

- ヘッドレストを取り付ける際は、前後の向きを間違えないように注意してください。
- 前席ヘッドレストは前席、後席ヘッドレストは後席専用です。これらのヘッドレストをその他の座席で使用しないでください。
- 前席ヘッドレストのみ角度調整機能が設定されています。ご確認の上、ヘッドレストを取り付けてください。

■リクライニング調整（背もたれの角度調整）

ストラップを引くと背もたれの角度調整ができます。



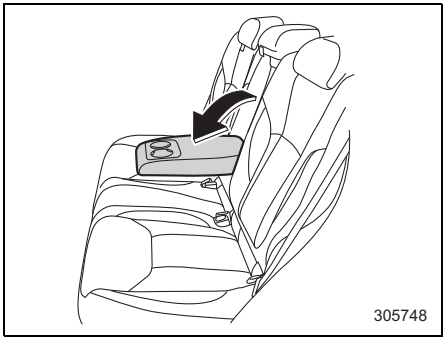
⚠ 注 意

- リクライニング操作後は、背もたれを前後に動かし、確実に固定されていることを確認してください。
  - 走行中は必要以上に背もたれを倒さないでください。万一のとき、シートベルトが肩から外れ、シートベルト本来の機能が発揮されないことがあります。
- ISOFIX方式の乳児用（ベビー）／幼児用（チャイルド）チャイルドシートを装着したとき、リクライニング操作を行わないでください。
- 後ろにリクライニングするときにはトノカバーを調整してください。

☞P.671参照

■アームレスト

引き出して、ひじかけとして使います。



⚠ 警 告

- シートベルトの着用は、アームレストに引っかけたりしない。
  - 万一の場合、シートベルト本来の機能が発揮できないなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

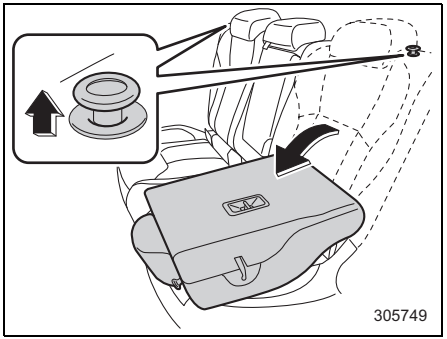
アームレストを使うとき上に乗ったり、重い物をのせないでください。アームレストが損傷したり、思わぬけがをすることがあります。

■6：4分割リヤシートの背もたれを倒し、荷室として使うとき

リヤシートの背もたれを倒すことにより、荷室として広く使うことができます。
背もたれは左右に分割されているシートをそれぞれ倒すことができます。

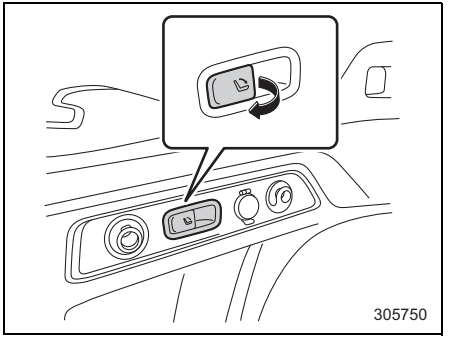
●背もたれを倒すとき

背もたれ上部のロックノブを引き上げながら背もたれを倒します。



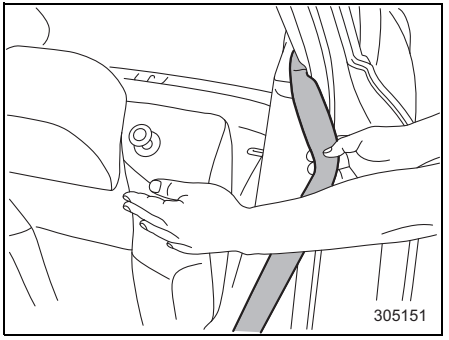
▼リヤシート可倒スイッチ

荷室の左右にあるスイッチを引くと背もたれが前に倒れます。



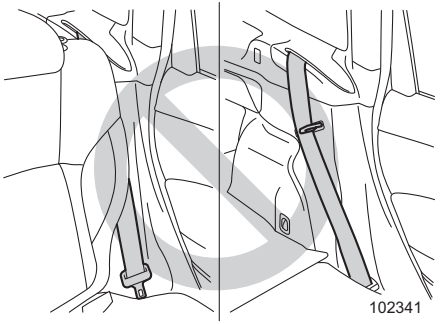
●背もたれを元に戻すとき

シートベルトが挟み込まないようにベルトを外側に引き出しながら、反対の手で背もたれを起こし、確実にロックします。



⚠ 警 告

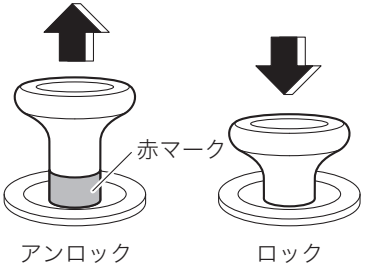
- 背もたれを元に戻すときは、シートベルトが背もたれに挟まれていたり、背もたれ固定フックの裏側に回り込んでいないか必ず確認する。
  - シートベルトが背もたれに挟まれていたり、背もたれの裏側に回り込んでいるとシートベルトが着用できない、または衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。



- 背もたれを倒して荷室として使用する場合は、人を乗せて走行しない。
  - 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに重大な傷害を受けることがあります。
- 荷物や長い物をのせたときは、荷物を固定する。
  - 急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し重大な傷害を受けることがあります。

☞P.305の注意事項もお守りください。

- 背もたれを元に戻したときは、ロックノブの赤マークが見えないことを確認し、前後に動かして確実に固定されていることを確認する。
  - 固定されていないと急ブレーキ時などに背もたれが倒れたり、荷室内の物が飛び出すなど思わぬ事故や重大な傷害につながるおそれがあります。



次ページへ ⇒

⚠ 注 意

- チャイルドシートを取り付けているときは、背もたれを倒さないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 背もたれは、バネにより前に倒れます。ノブを引くときは、必ず背もたれを支えた状態でノブを操作してください。
- 可倒スイッチにより、背もたれを倒すときは、リヤシートに人がいないこと、物が置いていないことを確認してください。背もたれが急に倒れ思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 背もたれを倒すとき、中央席のシートベルトを格納してください。

☞**P.45**参照

- 走行中、可倒スイッチに荷物などが当たり、背もたれが倒れる場合があります。荷物が当たらないよう注意してください。
- 背もたれ固定フックに荷物などをかけないようにしてください。背もたれが確実に固定できず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

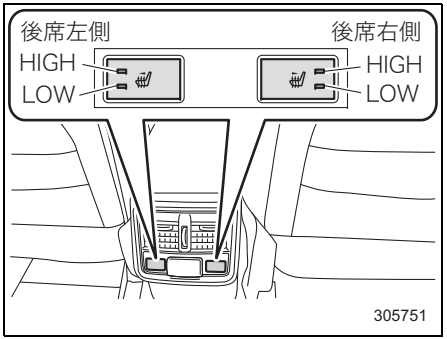
知 識

上り坂などで背もたれが倒れないときは、手で倒してください。

■リヤシートヒーター

プッシュエンジンスイッチがONのとき、スイッチを押すとシートが温まります。
後席右側、後席左側ともに、スイッチを押すごとに、HIGH→LOW→OFFの順に切り替わります。
プッシュエンジンスイッチを OFF にすると、リヤシートヒーターもOFFになります。
プッシュエンジンスイッチを OFF から ON にした場合、リヤシートヒーターはOFFのままになります。

作動中は、スイッチの表示灯が点灯します。
- HIGH：2つ点灯
- LOW：1つ点灯
- OFF：消灯



⚠ 注 意

- 長時間使い続けるとやけどの原因になることがあります。お子さま、皮ふの弱い方、身体の不自由な方などは注意してください。
- 毛布や座ぶとんなどをのせて使用しないでください。
- 水やその他の液体をこぼしたときは、乾いた布ですぐに拭き取り、十分乾かしてから使用してください。

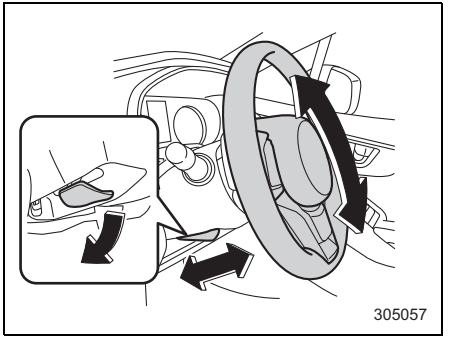
知 識

- エンジンが始動しているときに使用してください。バッテリー上がりの原因となります。
- シートに硬い物や突起のある物をのせないでください。

チルト／テレスコピックステアリング

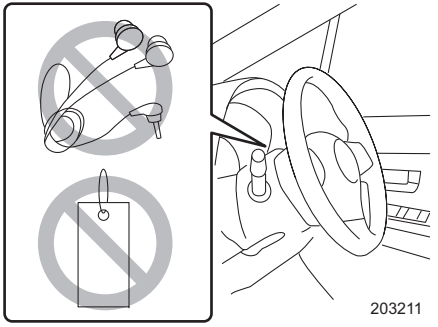
運転姿勢に合わせてハンドル位置を前後または上下に調整できます。

1. チルト／テレスコピックレバーを押し下げます。
2. ハンドル位置を合わせます。
3. チルト／テレスコピックレバーを引き上げます。
4. ハンドルが固定されたことを確認します。



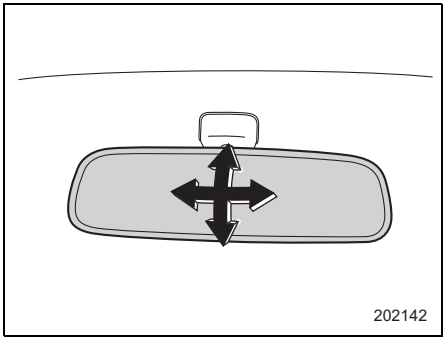
⚠ 警 告

- 調整は必ず走行前に行ってください。
  - 走行中に操作すると、ハンドルが動いて危険です。
  - ハンドル位置を調整した後は、確実に固定してください。固定が不十分な場合、ハンドル位置が突然変わり、重大な事故につながるおそれがあります。
  - ハンドルやその周辺に物を置いたり、ひもやケーブルなどを引っかけたりしないでください。
  - スイッチの誤操作を引き起こす原因になるおそれがあるだけでなく、SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。



ルームミラー

ミラー本体を動かして後方が十分確認できる位置に調整します。

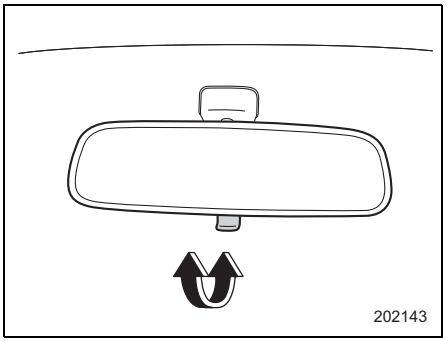


⚠ 警 告

- 各ミラーの調整は必ず走行前に行う。
  – 走行中に行うと思わぬ事故につながるおそれがあります。

■防眩ルームミラー

通常はレバーを車両前方に押した位置で使います。
後続車のヘッドランプがまぶしいときは、レバーを手前に引き、まぶしさを低減します。

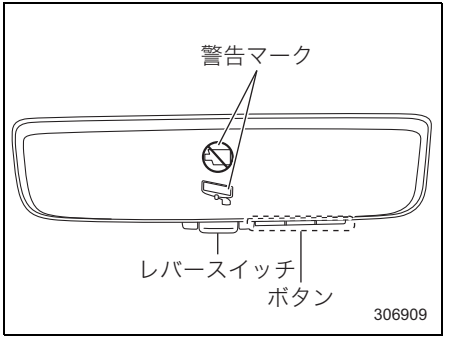


⚠ 警 告

防眩への切り替えは必要なときのみ行う。

■スマートリヤビューミラー

リヤゲート上部の室内側に搭載したカメラからの車両後方の映像をルームミラーの鏡面に映すディスプレイモードと、通常のルームミラーとして使用するミラーモードがあります。ディスプレイモードにすると、夕方や夜間にミラーが見えにくい場合や、乗員、荷物などにより視界が遮られる場合でも車両後方の安全確認ができます。



⚠ 警 告

- ディスプレイモード時の映像の距離感覚は、実際の距離とは異なります。
- ディスプレイモード時に映し出される映像の範囲には限界があります。直接目視やドアミラーで周囲の安全を確認しながら運転してください。
- カメラ、スイッチ、配線類を分解したり改造したりしないでください。万一煙が出たり異臭がしたりした場合には、スバル販売店で点検を受けてください。そのまま使用すると、事故、火災、感電の原因となります。

⚠ 注 意

- スマートリヤビューミラーやカメラは精密機器のため、強い衝撃は与えないでください。故障や火災、感電の原因となります。
- カメラや配線類に火気を近づけないでください。破損や発火の原因となります。
- カメラに無理な力を加えないでください。破損の原因となります。また、カメラが外れるおそれがあります。
- エンジン停止中に長時間使用すると、バッテリー上がりの原因となります。
- ディスプレイモード中に警告マークを表示したときは、すぐにミラーモードにしてご使用ください。レバースイッチを押してもミラーモードにならないときは、左側、中央、右側のいずれかのボタンを10秒間押し続けると、ミラーモードにすることができます。しばらくたっても警告マークが消えない場合は、スバル販売店で点検を受けてください。
- ディスプレイモードに切り替わらない場合は、ミラー本体が故障しているおそれがあります。お車を安全な場所に停車させ、ミラー本体を動かして後方が十分確認できる位置に調整してから走行し、スバル販売店で点検を受けてください。
- ミラーモードとディスプレイモードでは、後方の見え方が異なります。
- 走行前にミラーモードにして、後方が十分確認できる位置に調整してください。ディスプレイモードで調整すると、反射したり、車内が映り込んだりして見えにくくなる場合があります。
- ミラーを90度以上回転させないでください。配線が断線するおそれがあります。
- 走行中に操作をしたり、ディスプレイモード時にミラーを凝視したりすると、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、同乗者がミラーを凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。
- カメラ前面のリヤガラスにステッカーやフィルムを貼らないでください。
- レバースイッチやボタンを強く操作すると、破損の原因となります。また、ミラーが落下するおそれがあります。

次ページへ ⇒

知 識

- アルコール、ベンジン、シンナーなどでミラーやカメラを拭かないでください。変色などの原因となります。汚れを落とすときは、柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどいときは、中性のクリーナーをいったん布に付けてから汚れを落とし、その後洗剤を拭き取ってください。スプレー式のクリーナーなどを直接かけると、故障するおそれがあります。
- カメラ前面のリヤガラスは常にきれいな状態に保ってください。油膜などが付着しているときは、取り除いてください。
- ディスプレイモード時にカメラに強い光が入ると、光源を中心に白い光の縦線が入る場合がありますが、故障ではありません。必要に応じてミラーモードにしてご使用ください。
- ディスプレイモード時に蛍光灯やLEDなどの照明の下で、画面にちらつきが出ることがありますが、故障ではありません。
- ディスプレイモード時の映像は実際の色合いとは多少異なることがあります。特に遠くにあるものや周囲が暗いときなどは、実際の色と異なる場合がありますが、故障ではありません。
- プッシュエンジンスイッチをOFFにしたときは､OFFにする前のモードが保持されます。
- ディスプレイモード時にミラーが高温になることがありますが、故障ではありません。
- 無線機などのアンテナをルームミラー付近に取り付けると、ディスプレイモード時に映像が乱れることがあります。
- ディスプレイモード時には、素早く動くものが映らない場合がありますが、故障ではありません。
- 雨天時はリヤワイパーを使用してください。ガラスに拭き残しができるときにはブレードラバーを交換してください。

☞**P.717**参照

- ディスプレイモード時にリヤワイパーを使用すると、映像がちらつくように見えることがありますが、故障ではありません。
- 周囲の光の乱反射などにより、映像がちらつくことがありますが、故障ではありません。
- カメラ前面のリヤガラスが曇ったときは、リヤウインドゥデフォッガーを使用してください。曇りがとれるまでは、ミラーモードで使用してください。

☞**P.328**参照

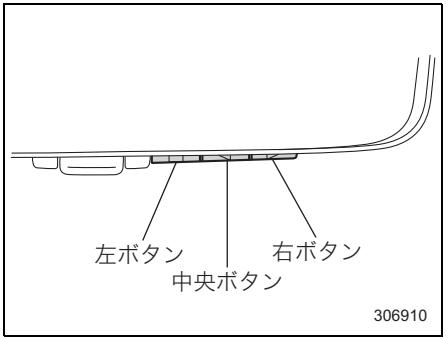
- 周囲の光の反射などで見えにくいときは、ミラーモードで使用してください。
- ディスプレイモード時に焦点が合いにくいなど、映像がはっきり視認できないときは、ミラーモードで使用してください。
- サンルーフ（装備車のみ）から、日差しなどがミラーに当たり見えにくいときは、シェードを閉めるか、ミラーモードで使用してください。
- 夕方やトンネルの走行時、立体駐車場などでは、ヘッドランプを点灯してください。ミラーとカメラが夜間モードになり、眩しさを防ぎます。

●ディスプレイモード

鏡面にカメラ映像を映して使用するモードです。
プッシュエンジンスイッチがACC、またはONのときに使用できます。
ミラーモードに切り替えるには、レバースイッチを押します。

▼スマートリヤビューミラー設定

映像の輝度と位置を調整することができます。いずれかのボタンを押すと設定項目が表示され、左ボタンを押すたびに設定項目が切り替わります。中央ボタン、右側ボタンで各項目の調整ができます。



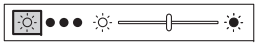
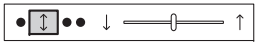
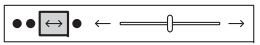
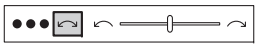
⚠ 注 意

- 設定を行う前に、ミラーモードで後方が十分確認できる位置に調整してください。
- 輝度を高く設定すると、運転中に目が疲れる場合があります。

知 識

5秒間スイッチが操作されなかったときは、設定画面がキャンセルされます。

次ページへ ⇒

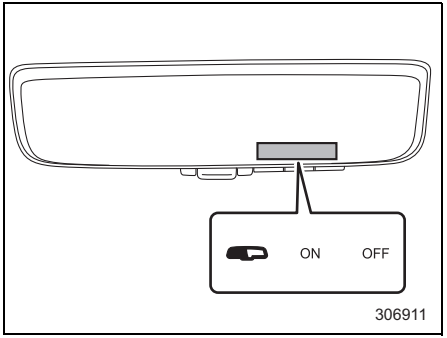
項目	表示	設定	設定の内容
輝度調整	 306307	1～5	映像の輝度調整
上下調整	 306308	−5°～0～5°	映像の上下調整
左右調整	 306309	−2°～0～2°	映像の左右調整
回転調整	 306310	−3°～0～3°	映像の回転調整

●ミラーモード

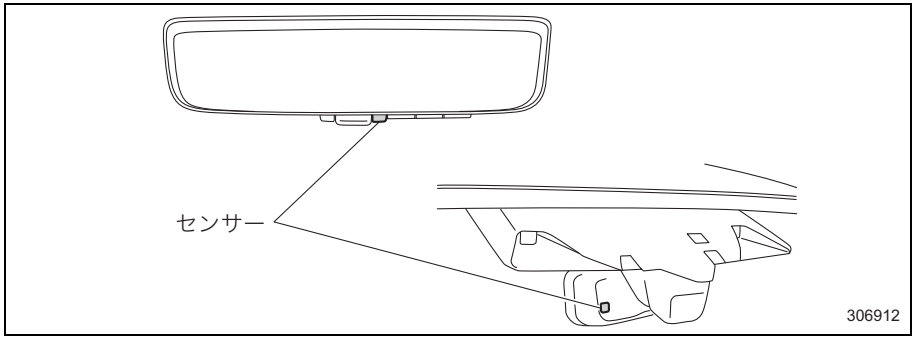
通常のルームミラーとして使用するモードです。
プッシュエンジンスイッチの状態に関係なく使用できます。
ディスプレイモードに切り替えるには、レバースイッチを引きます。

▼自動防眩機能

後続車のヘッドランプの明るさに応じて鏡面の反射率を自動的に調整し、まぶしさを低減します。
ミラーモードのときに左側、中央、右側のいずれかのボタンを押すと、自動防眩機能のON／OFFの変更ができます。
ON／OFFを切り替えると、鏡面に設定状態が5秒間表示されます。



前側と後側に明るさを検知するセンサーが取り付けられています。



⚠ 注 意

センサー部にステッカー類を貼ったり、アクセサリーなどを取り付けたりしないでください。

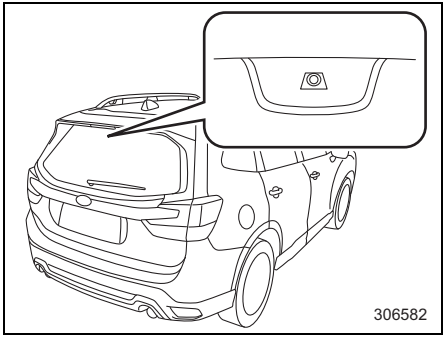
知 識

次の操作をすると、自動防眩機能が解除されます。

- ディスプレイモードに切り替える
- プッシュエンジンスイッチを OFF にする

●カメラ

リヤゲート上部の室内側に搭載しています。

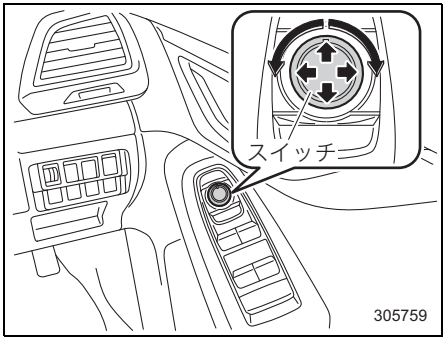


ドアミラー

■電動リモコンドアミラー

プッシュエンジンスイッチがACCまたはONのときに、ドアミラーの鏡面位置を調整できます。

1. スイッチをL側（助手席側）またはR側（運転席側）に回します。
2. スイッチを上下左右に動かして調整します。



⚠ 注 意

調整は必ず走行前に行ってください。

知 識

- ドライバーモニタリングシステムのユーザー情報連動またはドライバーポジションメモリーで、ドアミラーの鏡面位置を登録し呼び出すことができます。

☞P.208、335参照

- 解錠後やプッシュエンジンスイッチをOFFにした後も、しばらくの間は調整することができます。

■リバース連動チルトダウンドアミラー

セレクトレバーを“R”にすると、助手席側鏡面が、車両側面下側付近を見やすくなるように自動で動きます。

チルトダウン状態のときに電動リモコンドアミラースイッチを操作して、鏡面位置を調整することができます。

☞P.330参照

ドライバーポジションメモリーまたはドライバーモニタリングシステムのユーザー情報連動で、調整後の位置を登録することができます。

☞P.335、634参照

セレクトレバーを“R”以外にすると一定時間経過後、元の位置に戻ります。

●鏡面位置を調整したとき

プッシュエンジンスイッチをOFFにするまで、調整した位置で作動します。プッシュエンジンスイッチをOFFにした後は、初期設定の位置、またはドライバーモニタリングシステムやドライバーポジションメモリーで呼び出した位置で作動します。

●リバース連動チルトダウンドアミラーのカスタマイズ

リバース連動チルトダウンドアミラー機能のON／OFFを設定できます。

☞P.159参照

知 識

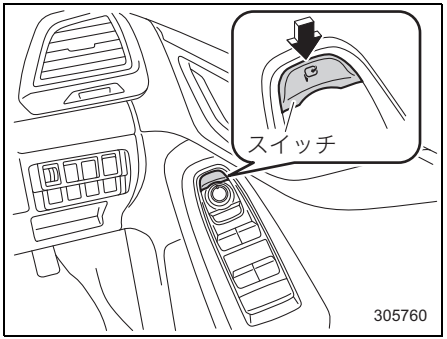
- 車庫入れなどで、セレクトレバー“R”と“D”の切り替えを素早く繰り返した場合は、チルトダウンを継続します。
- 調整後の位置を登録している場合、セレクトレバーを“R”にすると登録した位置でチルトダウンしますが、設定の呼び出し後にシートの前後位置を大きく動かした場合は初期設定の位置に戻ります。
- チルトダウン時に、セレクトレバーを“D”にして一定速度を超えると、元の位置に戻ります。
- スバル販売店でリバース連動チルトダウンドアミラーで作動するミラーを両側に変更することができます。

知 識

- リバース連動ラスト位置保持機能を ONにすると、プッシュエンジンスイッチをOFF にした後も調整した位置を記憶します。
- スバル販売店でリバース連動ラスト位置保持機能を ON に設定することができます。

■電動格納式ドアミラー

プッシュエンジンスイッチがACCまたはONのとき、左右のドアミラーを同時に格納できます。
スイッチを押しこむと格納します。
もう一度スイッチを押すと展開位置に復帰します。



●キー連動格納ドアミラー

ドアの施錠・解錠に連動してドアミラーが自動で格納・展開します。

▼自動格納

スイッチが展開位置でプッシュエンジンスイッチをOFFにし、ドアを施錠するとドアミラーが自動で格納します。

▼自動展開

スイッチが展開位置でドアを解錠するとドアミラーが自動で展開します。

▼キー連動格納ドアミラーのカスタマイズ

キー連動格納ドアミラー機能をOFFに設定できます。
☞P.159参照

知 識

解錠後やプッシュエンジンスイッチをOFFにした後も、しばらくの間は格納・展開できます。

知 識

スイッチが格納位置になっている場合は、キー連動格納は行われません。

知 識

スバル販売店で、キー連動格納ドアミラーの展開タイミングをプッシュエンジンスイッチをACCまたはONにしたときに設定できます。

知 識

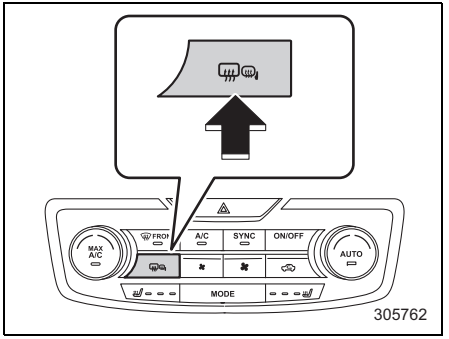
- 手動で格納または復帰操作をした後にプッシュエンジンスイッチをOFFからACCまたはONにした場合、格納スイッチの状態によってはドアミラーが動き出すことがあります。
- 手動で格納した場合は、スイッチ操作をするとモーター作動音だけが鳴り、ドアミラーが作動しないことがあります。その場合はもう一度格納スイッチを操作してください。
- 手動でドアミラーを通常位置より前方に倒した場合、格納スイッチの状態によってはプッシュエンジンスイッチをOFFからACCまたはONにしたときに、ドアミラーがさらに前方に倒れることがあります。そのときは、格納スイッチを押して格納→復帰の操作を行ってください。
- 格納状態から手動で通常位置に戻すとドアミラーがグラグラすることがあります。通常位置に戻すときは必ずスイッチを使用してください。なお、ドアミラーがグラグラするときは、もう一度格納状態にしてからスイッチ操作で復帰させてください。
- 寒冷時は、作動の途中で止まることがあります。その場合はもう一度格納スイッチを押してください。スイッチを操作しても動かないときは、ドアミラーを手で数回動かすと作動するようになります。
- 格納スイッチを連続して押して「格納⇔復帰」を行うと作動しなくなることがあります。これは異常ではありませんので、しばらく待ってから作動させてください。

■ヒーテッドドアミラー

ドアミラーについた霜や曇りを取るときに使います。

●ヒーテッドドアミラーの使いかた

プッシュエンジンスイッチが ON のときにスイッチを押すと、スイッチ内の表示灯が点灯し、作動します。約15分後、自動的にOFFになります。
作動中に停止させるときは、スイッチをもう一度押します。



知 識

- 消費電力が大きいのでエンジンを始動して使用してください。
- 次の機能と連動します。
  - リヤウインドゥデフォッガー
☞P.353参照
  - フロントワイパーデアイサー
☞P.355参照
- リヤウインドゥデフォッガーのカスタマイズに連動して、連続作動に設定できます。
  - 連続作動に設定を変更した場合は、15分間作動、2分間停止を繰り返します。ただし、2 分間の作動停止中も表示灯は点灯しています。
☞P.158参照
- 霜や曇りが取れたら停止させてください。
  - エンジン作動中でも、連続作動を続けるとバッテリー上がりの原因になります。
  - 雪を溶かすような使いかたはしないでください。
- バッテリー電圧が低下すると、作動を停止します。

ドライバーポジションメモリー

シート位置、ドアミラーの鏡面位置を運転席ドア内側にある「1」または「2」のボタンおよびアクセスキーごとに登録し、呼び出すことができます。
次の設定が登録できます。

- シートの前後位置
- 背もたれの角度
- シートの高さ
- 座面前側の高さ
- ドアミラーの鏡面位置
- リバース連動チルトダウンドアミラーの鏡面位置

■登録のしかた

運転席ドアを閉め、シート位置とドアミラーの鏡面位置を調整してから、次のいずれかの方法で登録します。

知 識

ドライバーモニタリングシステムのユーザー情報に連動して呼び出したい場合は、ユーザー登録またはドライバーポジション再登録を行ってください。
☞P.208、213参照

知 識

- リバース連動チルトダウンドアミラーの鏡面位置も合わせて登録する場合は、登録の前にセレクトレバーを “R” にして鏡面位置を調整し、“P” に戻してから行ってください。

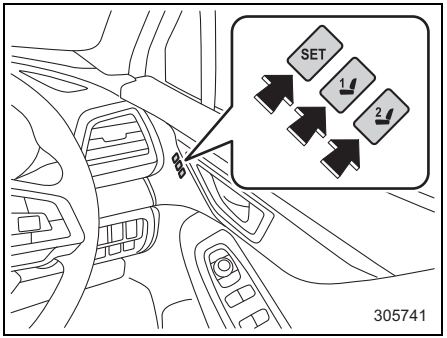
☞P.331参照

- 一度登録した位置を変更したいときは、同じ手順で上書きすることができます。

●ボタンごとに登録するとき

プッシュエンジンスイッチがONでセレクトレバーが“P”のとき登録できます。

1. 「SET」ボタンを押し、すぐに「1」または「2」のボタンを長押しします。
2. ブザー（ピッ）が鳴り、シート位置とドアミラーの鏡面位置が登録されます。



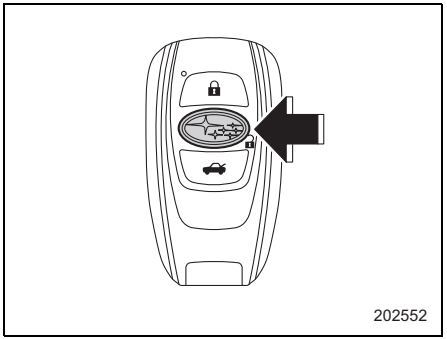
知 識

リバース連動チルトダウンドアミラーの鏡面位置をセレクトレバーを“R”にしたまま登録することもできます。必ずブレーキペダルを踏んだまま操作してください。

●アクセスキーごとに登録するとき

プッシュエンジンスイッチがOFFでセレクトレバーが“P”のとき登録できます。

1. 「SET」ボタンを押しながらアクセスキーのボタンを押します。
2. 解錠のブザーとともにブザー（ピッ）が鳴り、シート位置とドアミラーの鏡面位置が登録されます。



知 識

- シート位置を登録するときは登録させたいアクセスキーのみ携帯してください。アクセスキーを２つ以上携帯していると正確に登録できない場合があります。
- リバース連動チルトダウンドアミラーの鏡面位置も合わせて登録する場合、プッシュエンジンスイッチを OFF にしてから時間を空けず登録を行ってください。
- アクセスキーに登録した場合、ドアオープン連動シート後退は作動しません。

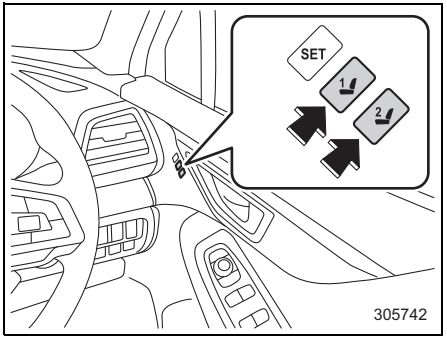
■呼び出しかた

セレクトレバーが“P”のとき操作できます。

●ボタンで呼び出すとき

運転席ドアを開けてから45秒以内に、またはプッシュエンジンスイッチがONのとき操作できます。

1.「1」または「2」のボタンを押します。
2. ブザー（ピッ）が鳴り、シートとドアミラー鏡面が登録位置まで動きます。



知 識

- 複数の呼び出しを同時に行うと、シート位置の呼び出しができないことがあります。
- 呼び出しを変更したい場合は、中止の操作をするか、動作が停止してから呼び出しを行ってください。

☞P.338参照

知 識

登録された位置と、現在の位置が同じときは、ブザーが2回鳴ります。

●アクセスキーで呼び出すとき

1. 登録済のアクセスキーを携帯します。
2. ドアが施錠された状態で、アクセスキーのボタンを押す、または運転席ドアのドアハンドルを握って解錠します。
3. 運転席ドアを開けるとブザー（ピッ）が鳴り、シートとドアミラー鏡面が登録位置まで動きます。

知 識

- 登録されているアクセスキーのみ、携帯してください。アクセスキーを２つ以上携帯している場合、呼び出されないことがあります。
- キーレスアクセス作動エリアに入った後、45秒経過してからドアを解錠した場合、呼び出しができないことがあります。

☞P.245参照

■呼び出し中止のしかた

次のいずれかを操作すると、呼び出し動作を中止します。

- パワーシート調整スイッチ
- 「SET」ボタン
- 「1」または「2」のボタン
- 電動リモコンドアミラー操作スイッチ

注 意

呼び出し中に異音などの異常を感じたときは、中止の操作をしてください。

■消去のしかた

●ボタンに登録したとき

上書き登録をします。

●アクセスキーに登録したとき

プッシュエンジンスイッチがOFFのとき、運転席のドアを確実に閉め、次の操作を行います。

1. 「SET」ボタンを押しながらアクセスキーのボタンを押します。
2. ブザー（ピー）が鳴り、消去されます。

⚠ 警 告

- シート位置、ドアミラーの鏡面位置の登録、呼び出しおよび消去は、運転前に行ってください。
- 正しいシート位置で運転してください。シート位置が適切でない場合、運転に支障が生じる可能性があり、シートベルトの効果も低下し重大な傷害に及ぶか、最悪の場合、死亡につながる事故が発生するおそれがあります。

⚠ 注 意

- シート位置を呼び出す場合は、乗員や荷物に注意してください。手足を挟まれたり、荷物を損傷することがあります。
- アクセスキーで呼び出した場合は、シートが登録位置まで動いてから運転席に座ってください。

知 識

- バッテリーを交換した場合でも、登録したシート位置は消去しませんが、呼び出し位置にずれが生じることがあります。
- 使用し続けているうちに、呼び出し位置にずれが生じることがあります。
- 登録したシートの各調整位置が調整できる終点にあるとき、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。
- プッシュエンジンスイッチがOFFでシートやドアミラーの鏡面位置を調整した後、1分以内にバッテリーを外すと、シートの呼び出し位置にずれが生じることがあります。

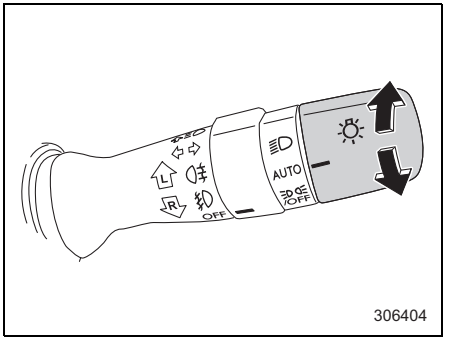
スイッチの使いかた

ライティングスイッチ

AUTO 位置のとき、プッシュエンジンスイッチを ON にすると周囲の明るさに応じてランプ類が自動的に点灯または消灯します。

位置にすると、周囲の明るさにかかわらず点灯します。

ランプ類が点灯しているときは、ライティングスイッチ表示灯が点灯します。



306404

⚠ 注 意

- エンジン停止中はランプ類を長時間点灯させない。
  － バッテリー上がりの原因となります。

知 識

- プッシュエンジンスイッチが OFF でも、ライティングスイッチを AUTO 位置から位置にする、または／OFF位置にしてすぐ離すと、ランプが点灯します。
- ライティングスイッチが AUTO 位置のとき、お車への乗降を容易にするため、車幅灯（ポジションランプ）などが点灯します。

☞P.263参照

■手動で消灯させるとき

停車中は次のように点灯状態を切り替えることができます。
手を離すとスイッチはAUTO位置に戻ります。もう一度同じ操作をしたときまたは周囲が暗くて走行したときは、ランプ類が自動的に点灯します。

スイッチ操作	ヘッドランプ	車幅灯、尾灯、番号表示灯
≡DOC／OFF位置にしてすぐ離す	消灯	点灯
≡DOC／OFF位置にして約2秒間保持	消灯	

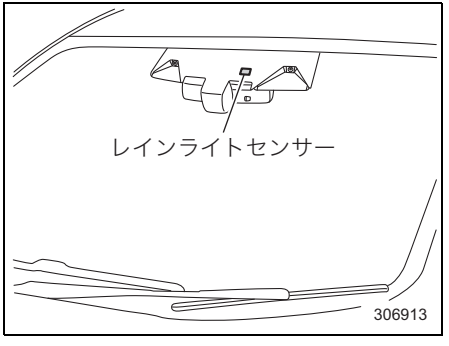
ランプ類が点灯しているときに、プッシュエンジンスイッチをOFFにすると自動的にランプ類は消灯します。

知 識

- 周囲が明るくてランプ類が点灯していないときも、同じ操作で車幅灯（ポジションランプ）のみ点灯できます。
- 車幅灯（ポジションランプ）のみ点灯中でも、走行すると周囲の状況に応じてヘッドランプが点灯もしくは消灯します。ヘッドランプが消灯すると、車幅灯（ポジションランプ）も同時に消灯しますので、車幅灯（ポジションランプ）のみ点灯させたい場合は、ライティングスイッチを操作してください。

■オートライト

AUTO 位置では、プッシュエンジンスイッチがONのとき、レインライトセンサーが感知した周囲の明るさに応じて各ランプが点灯または消灯します。



●オートライトの自動点灯感度および自動消灯感度のカスタマイズ

スバル販売店でオートライトの自動点灯および消灯の感度を、4段階で設定することができます。

☞P.802参照

●ワイパー連動ヘッドランプ機能

ライティングスイッチがAUTO位置でワイパー作動時（約9回）にヘッドランプが自動点灯します。

⚠ 注 意

- 次の場合、オートライトが正常に作動しないことがあります。
  - レインライトセンサー上部を、ステッカー類を貼るなどしてふさいでいるとき
  - 強い電磁波などがある場所を走行するとき
- AUTO 位置で周囲が暗いのに点灯しない場合は、システムに異常があるおそれがありますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
  - ライティングスイッチを≣D位置にしてヘッドランプを点灯させてください。

知 識

- 昼間に濃い霧などが発生して視界が悪いときでも、自動で点灯しない場合があります。このときは手動で点灯してください。
- 連続したトンネルの出口と入口の間隔が短いときはランプが点灯し続けます。
- スイッチが AUTO 位置でも短いトンネルでは点灯しません。

知 識

スバル販売店でワイパー連動ヘッドランプ機能を作動なしに設定できます。

■ランプ消し忘れ警報

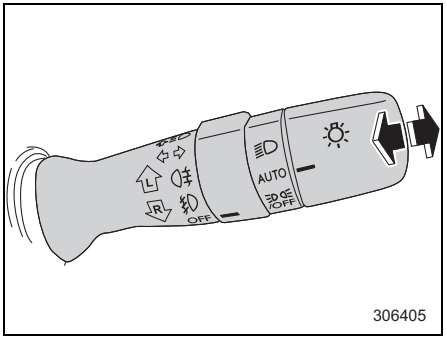
プッシュエンジンスイッチがOFFでランプ類が点灯しているときに、運転席ドアを開けるとブザーが鳴ります（ウェルカムライティングによる点灯を除く）。

知 識

ウェルカムライティングによる点灯中は、ブザーが鳴りません。

■ヘッドランプの上下を切り替えるとき

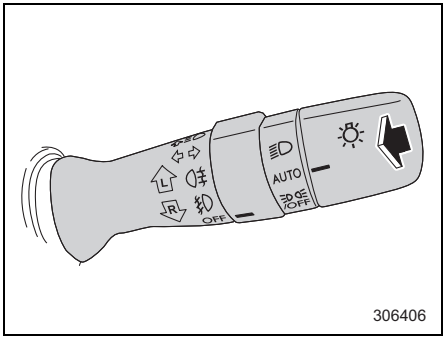
ヘッドランプが点灯しているとき、レバーを前に押すと上向きになります。上向き点灯中はメーター内のハイビーム／パッシング表示灯が点灯します。
レバーを元に戻すと下向きになります。



306405

■合図のしかた（パッシング）

レバーを手前に引くとヘッドランプは上向きになります。上向き点灯中はメーター内のハイビーム／パッシング表示灯が点灯します。
ランプ類が点灯していなくても使えます。



306406

オートヘッドランプレベラー（自動光軸調整機構）

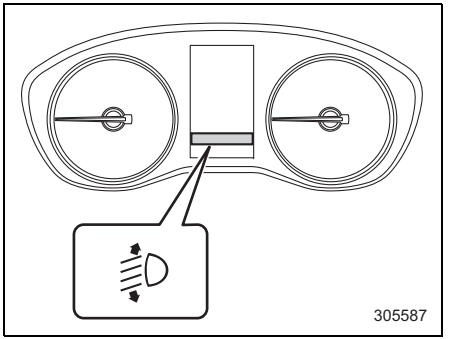
オートヘッドランプレベラー（自動光軸調整機構）がついています。
ヘッドランプの照射方向が正しく調整されていないと、対向車や前を走る車の迷惑になります。そのため、同乗者および積載量から自動的に照射方向を調整し、最適に保ちます。

知 識

停車中に車両の姿勢が大きく傾いたとき、車両が自動で光軸を調整している場合があります。
照射方向が気になる場合はスバル販売店で点検を受けてください。

■オートヘッドランプレベラー警告灯

エンジン回転中、オートヘッドランプレベラーの電子制御システムに異常があると点灯します。

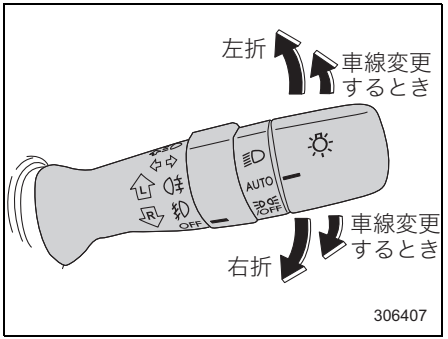


⚠ 注 意

オートヘッドランプレベラー警告灯が点灯したときは、光軸の自動調整が行われない場合があります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

方向指示レバー

プッシュエンジンスイッチがONのとき、レバーを動かすと方向指示器とメーター内の表示灯◀■▶が点滅します。
右折あるいは左折後、ハンドルを戻すとレバーが自動的に戻り消灯しますが、戻らないときは手で戻してください。
車線変更の合図をするときは、レバーを軽く押して保持します。



■方向指示器ワンタッチ機能

レバーを軽く押して手を離すとレバーが自動的に戻り、方向指示器とメーター内の表示灯が3回点滅します。

知 識

方向指示器の電球が切れたとき、またはワット数の異なった電球を使用すると点滅が速くなります。
すみやかに電球を交換してください。
☞P.725参照

知 識

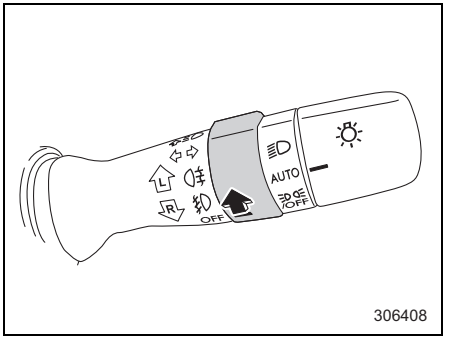
方向指示器ワンタッチ機能を OFF に設定できます。
☞P.158参照

フォグランプスイッチ

郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪いときに使用してください。

■フロントフォグランプスイッチ

ランプ類が点灯しているとき、スイッチを の位置まで回すとフロントフォグランプが点灯します。
フロントフォグランプ点灯中はメーター内のフロントフォグランプ表示灯が点灯します。



306408

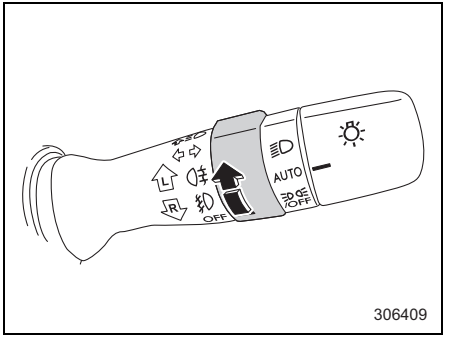
知 識

- フロントフォグランプはヘッドランプの代わりにはなりません。
  - 使用方法を誤ると、まわりの車や対向車へ迷惑をかけることになります。
  - 郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪いときだけ使用してください。

■リヤフォグランプスイッチ

フロントフォグランプが点灯しているとき、スイッチを の位置まで回すとリヤフォグランプが点灯します。

リヤフォグランプ点灯中は、メーター内のリヤフォグランプ表示灯が点灯します。
手を離すと、スイッチは自動で戻ります。
リヤフォグランプを消灯させる場合は、もう一度スイッチを の位置まで回してください。



306409

知 識

- リヤフォグランプは使用方法を誤ると、後続車へ迷惑をかけることになります。
  - 郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪く、後続車に自分の位置を知らせる必要があるときにだけ使用してください。
- リヤフォグランプの消し忘れ防止のため、ヘッドランプまたはフロントフォグランプが消灯するとリヤフォグランプも消灯します。
- リヤフォグランプは運転席側のみ装備されています。

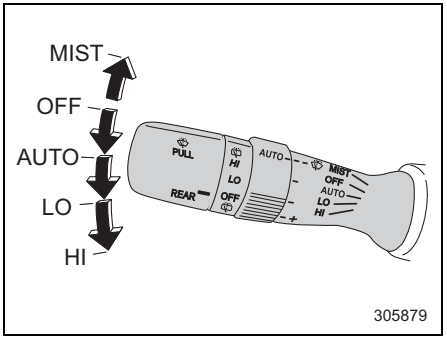
ワイパー&ウォッシャースイッチ

プッシュエンジンスイッチがONのときに使用できます。

■フロントワイパーの作動

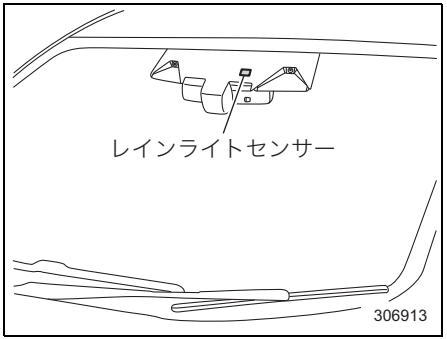
レバーを押し上げる、または押し下げることによって、ワイパーが作動します。

MIST	手動で作動
OFF	停止
AUTO	雨滴量により自動作動
LO	低速連続作動
HI	高速連続作動



■オートワイパー

レインライトセンサーが感知した雨滴量に応じてワイパーの作動を自動調整します。ワイパーを使用しない場合は、レバーをOFFの位置にしてください。



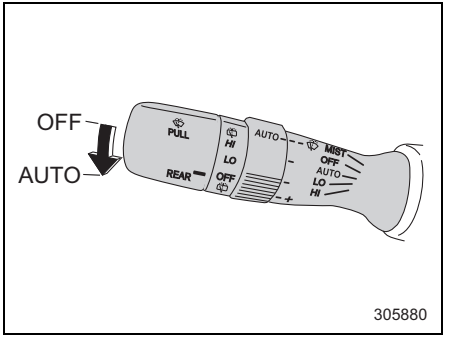
●オート作動

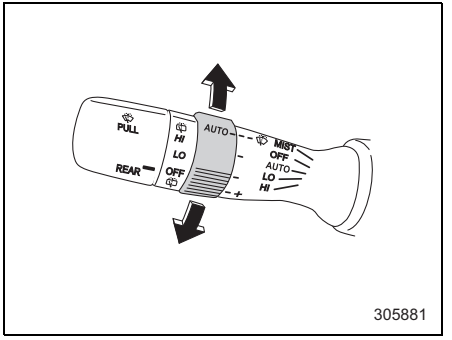
レバーを1段押し下げます。(AUTO位置)
雨滴量に応じて、次のようにワイパーが作動します。

雨滴量	作動状態
なし	停止
少量	間欠作動 (車速に応じて変わります)
普通	低速連続作動
多量	高速連続作動

リングを回すと、雨滴量に反応するセンサーの感度を次のように調整できます。

リング位置	感度
－側	低
＋側	高





知 識

AUTO位置にすると、ワイパーが1回作動します。

▼発進時1回払拭

間欠作動の状態で車両を発進させると（5 km/h以上）ワイパーが一回作動します。

▼オートワイパーのカスタマイズ

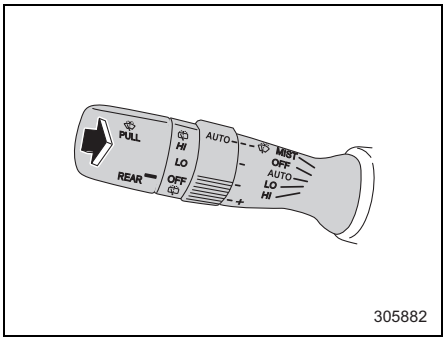
スバル販売店でAUTO位置での作動を間欠作動に設定できます。

▼ワイパー連動ヘッドランプ機能のカスタマイズ

スバル販売店でワイパー連動ヘッドランプ機能を作動なしに設定できます。

■フロントウォッシャー

レバーを手前に引いている間、ウォッシャー液が噴射し、ワイパーが動きます。レバーから手を離すと、ワイパーが数回動いて停止します。



知 識

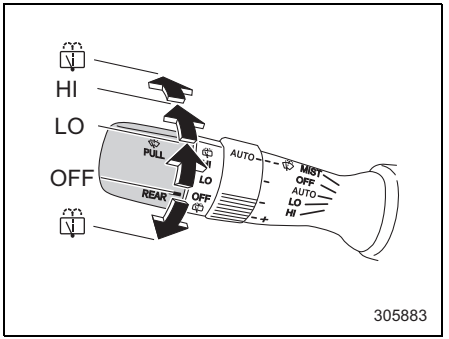
スバル販売店で発進時１回払拭機能を作動なしに設定できます。

知 識

間欠作動設定時、リングを回すと間欠作動の間隔を調整できます。

■リヤワイパー／ウォッシャーの作動

スイッチを回すと作動します。



(上側)	連続作動中にウォッシャー液が噴射します。 手を離すとHIに戻ります。
HI	連続作動
LO	間欠（低速）作動 （車速に応じて変わります） セレクトレバーを“R”にすると連続作動になります。
OFF	停止
(下側)	ウォッシャー液が噴射し、ワイパーが動きます。 手を離すとOFFに戻ります。

●リバース連動機能

フロントワイパーが連続作動している場合、セレクトレバーを “R” にするとリヤワイパーが間欠作動します。

知 識

スバル販売店でリバース連動機能を作動なしに設定できます。

⚠ 注 意

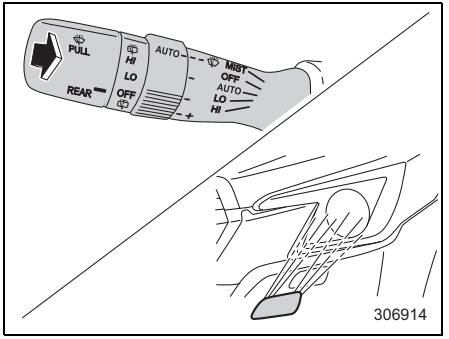
- ガラスが乾いているときにはワイパーを操作しない。
  - ガラスやワイパーブレードに傷をつけることがあります。また、拭き残しの原因となります。
- 背面キャリアなど、リヤワイパーの動きを妨げる物を取り付けない。
  - リヤワイパーが損傷するおそれがあります。
- 自動洗車機を使用する場合、必ずプッシュエンジンスイッチをOFFにする。
  - ワイパーが作動し、上面ブラシに引っかかりワイパーなどが損傷するおそれがあります。
- 次の場合、オートワイパーが正常に作動しないことがあります。
  - はっ水コーティングをしたとき
  - ガラス上部が汚れているとき、または氷結しているとき
- LO位置でワイパーが作動しない場合は、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。
  - HI位置にしてワイパーを作動させてください。
- AUTO位置で、雨が降っているのにワイパーが作動しない、または雨滴量が変化しているのにワイパーの作動が調整されない場合は、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。
  - ワイパースイッチを LO または HI に切替えて使用してください。
  - LO位置にしてもワイパーが作動しない場合は、HI位置にするとワイパーを作動させることができます。

知 識

- 積雪などによりモーターに大きな負荷がかかった場合、ブレーカーが作動し、一時的にモーターが止まることがあります。ワイパーの作動が止まった場合は車を安全な場所に止めて、10 分ほどワイパースイッチを OFF にしてください。ブレーカーが復帰して作動するようになります。
- ウォッシャースイッチを 10 秒以上操作し続けないでください。ポンプが故障するおそれがあります。
- ウォッシャー液が出ないときは、ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。ポンプが故障するおそれがあります。
  - ウォッシャー液量を点検してください。ウォッシャー液量が十分なのにウォッシャー液が噴射できないときは、ノズルの詰まりや故障のおそれがありますので、スバル販売店にご連絡ください。
- 次の場合、オートワイパーが作動しないことがあります。その場合はスイッチを LO または HI に切り替えてワイパーを使用してください。
  - 外気温が−15 ℃より低いとき
  - センサー周囲温度が80 ℃より高いとき
  - 雨または雪が弱くセンサーが感知しないとき
- 次の場合、オートワイパーが誤作動したり、正常に作動しないことがあります。
  - センサーまたはフロントガラスに振動を与えたり、虫や泥などの汚れが付着したとき
  - 強い電磁波などがある場所を走行するとき

ヘッドランプウォッシャー

ヘッドランプが汚れたときに使用します。プッシュエンジンスイッチが ON でヘッドランプが点灯しているとき、フロントウォッシャーのスイッチを 1 秒以上手前に引くと、フロントウォッシャーと連動して作動します。ヘッドランプウォッシャーは約1秒間作動し、停止します。



知 識

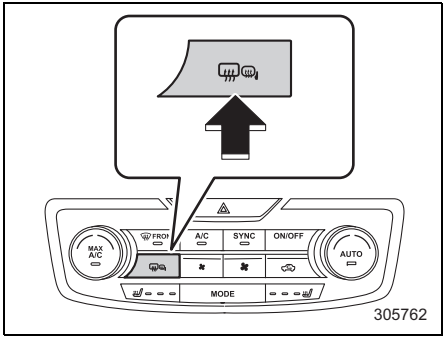
- ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを手前に引き続けると、ポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルの詰まりを点検してください。
- ゴミが詰まるなど、ウォッシャー液が噴射できないときは、スバル販売店にご連絡ください。

リヤウインドゥデフォッガー（曇り取り）

リヤガラスの内側が曇ったときに使用します。
電熱線はリヤガラスにプリントしてあります。

■リヤウインドゥデフォッガーの使いかた

プッシュエンジンスイッチが ON のときにスイッチを押すと、スイッチ内の表示灯が点灯し、作動します。約15分後、自動的に作動が停止します。
作動中に停止させるときは、スイッチをもう一度押します。



次ページへ ⇒

⚠ 注 意

リヤガラスを車内から拭くときは、ガラス洗浄剤を使わず、柔らかい布などで軽く、電熱線に沿って拭いてください。洗浄剤を使うと、リヤウインドゥデフォッガーの電熱線が損傷することがあります。

知 識

- 消費電力が大きいのでエンジンを始動して使用してください。
- 次の機能と連動します。
  - ヒーテッドドアミラー

☞P.334参照

  - フロントワイパーデアイサー

☞P.355参照

- 連続作動に設定できます。
  - 連続作動に設定を変更した場合は、15分間作動、2分間停止を繰り返します。ただし、2分間の作動停止中も表示灯は点灯しています。

☞P.158参照

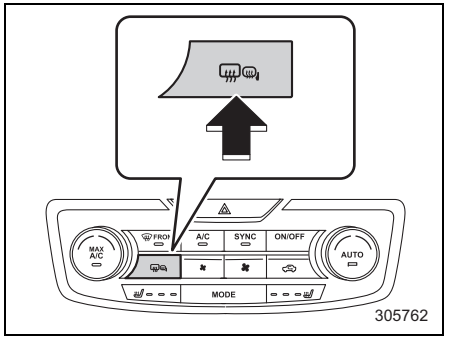
- 曇りが取れたら停止させてください。
  - エンジン作動中でも、連続作動を続けるとバッテリー上がりの原因になります。
  - 雪を溶かすような使いかたはしないでください。
- バッテリー電圧が低下すると、作動を停止します。

フロントワイパーデアイサー

凍結によってフロントワイパーが動かないとき、ガラスを温めてワイパーが作動できるようにします。
電熱線はフロントガラスの下部にプリントしてあります。

■フロントワイパーデアイサーの使いかた

プッシュエンジンスイッチが ON のときにスイッチを押すと、スイッチ内の表示灯が点灯し、作動します。約15分後、自動的に作動が停止します。
作動中に停止させるときは、スイッチをもう一度押します。



次ページへ ⇒

知 識

- 消費電力が大きいのでエンジンを始動して使用してください。
- 次の機能と連動します。
  - ヒーテッドドアミラー

☞**P.334**参照

  - リヤウインドゥデフォッガー

☞**P.353**参照

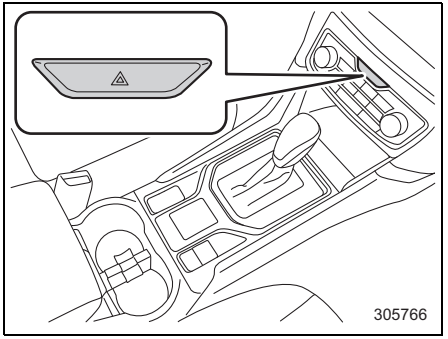
- 外気温度が 5 ℃以上のとき、フロントワイパーデアイサーは作動しません。
- リヤウインドゥデフォッガーのカスタマイズに連動して、連続作動に設定できます。

☞**P.158**参照

- 連続作動に設定していても、次の条件のときは15分後に停止します。このとき、ヒーテッドドアミラーとリヤウインドゥデフォッガーは作動を継続します。
  - 外気温度が5 ℃以上のとき
  - SI-DRIVEがI（インテリジェントモード）のとき
  - 車速約15 km/h以下のとき
- 霜や曇りが取れたら停止させてください。
  - エンジン作動中でも、連続作動を続けるとバッテリー上がりの原因になります。
  - 雪を溶かすような使いかたはしないでください。
- バッテリー電圧が低下すると、作動を停止します。

非常点滅表示灯（ハザードランプ）スイッチ

プッシュエンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。
スイッチを押すと、すべての方向指示器が点滅します。
故障などでやむを得ず路上に駐車するとき、他の車に自分の車の存在を知らせるために使います。

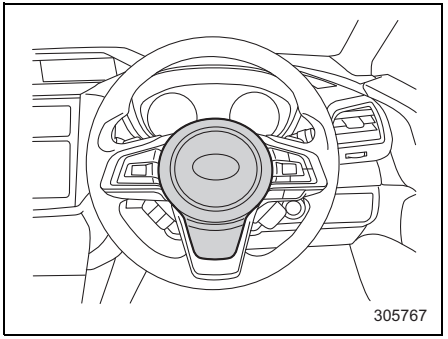


知 識

- 非常時にお使いください。
- エンジンが停止した状態で、長時間点滅したままにしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

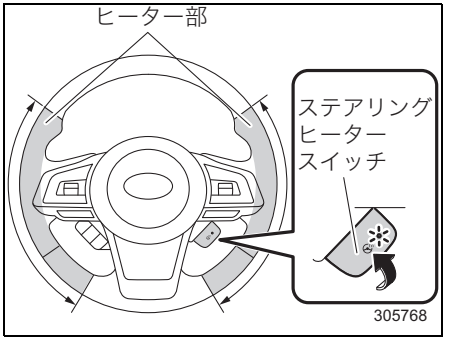
ホーンスイッチ

プッシュエンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。
ハンドル中央のパッド面を押すとホーンが鳴ります。



ステアリングヒーター

プッシュエンジンスイッチがONのとき、ステアリングヒータースイッチを手前に引くとスイッチ内の作動表示灯が点灯し、ヒーター部が徐々に温まります。
もう一度ステアリングヒータースイッチを手前に引くとスイッチ内の作動表示灯が消灯し、ステアリングヒーターが停止します。



⚠ 注 意

- 長時間使い続けるとやけどの原因になることがあります。皮ふの弱い方は注意してください。
- 水やその他の液体をこぼしたときは、乾いた布ですぐに拭き取り、十分乾かしてから使用してください。
- ハンドルカバーは使用しないでください。故障の原因となります。

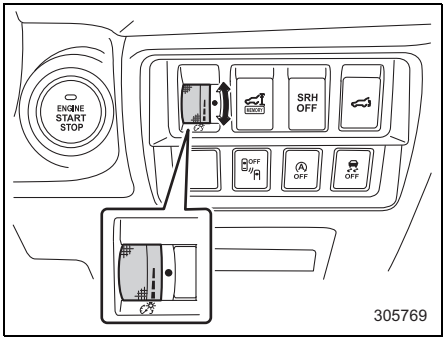
知 識

- エンジンが始動しているときに使用してください。バッテリー上がりの原因となります。
- ステアリングヒーターはスイッチを引いてから約30分後に自動的に停止します。
- ヒーター部は約38 ℃まで温まります。
  - ヒーター部が約38 ℃以上の状態でスイッチを引いた場合、スイッチ内の作動表示灯は点灯しますが、ステアリングヒーターは作動しません。
- 温度の設定はできません。

イルミネーションコントロールダイヤル

ランプ類が点灯していて周囲が暗いとき、コンビネーションメーターおよびエアコンパネル照明などが減光します。
コントロールダイヤルを回すと明るさを6段階に調整することができます。

- 上方向に回すと明るくなります。
- 下方向に回すと暗くなります。
- 一番上（●印部分）に回すと、減光がOFFになります。



■オートディマーキャンセル機能

昼間やランプを早めに点灯させたときなど周囲が明るいときには、自動で減光をキャンセルします。
このとき、コントロールダイヤルを回しても明るさを調整することはできません。

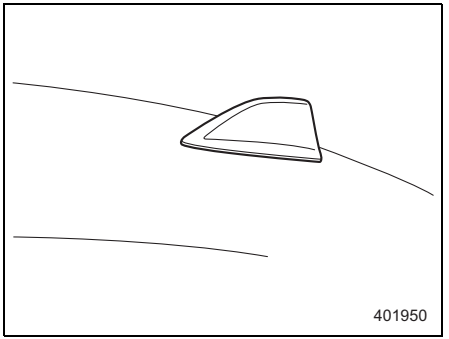
知 識

スバル販売店でオートディマーキャンセルをOFFに設定できます。また、感度を5段階から設定することができます。

☞P.802参照

アンテナ

ラジオアンテナは、ルーフ後方の中央部に取り付けられています。



知 識

- ラジオの受信感度は周囲の状況、気象状況、送信局からの電波の強さ、送信局からの距離によって影響を受けます。
- 山ろくや建物の近くでは電波がさえぎられたり、電波が反響したりして受信状態が悪くなることがあります。
- 電車の架線や高圧電線の近くでは高圧電流の影響でノイズ（雑音）が入るなど受信状態が悪くなることがあります。
- ラジオを聞いているとき、室内または車の近くで携帯電話や無線機を使うとノイズ（雑音）が入ることがあります。

4. 運転するとき

AWD車の特長
運転するとき …… 362
アクティブトルクスプリットAWD …… 364

エンジン始動
プッシュエンジンスイッチ …… 365
エンジンの始動と停止のしかた …… 369

ハンドル
パワーステアリング …… 375

ブレーキ
ABS（アンチロックブレーキシステム）…… 376
エマージェンシーストップシグナル …… 381
ブレーキブースター（制動力倍力装置）…… 381
ブレーキオーバーライド …… 382
ブレーキアシスト …… 382
電動パーキングブレーキ …… 383

シフト操作
セレクトレバー …… 390
マニュアルモード …… 395
SI-DRIVE（SUBARU Intelligent Drive）…… 399
X（エックス）モード …… 400
ヒルディセントコントロール …… 404
運転手順 …… 408

EyeSight
EyeSightについて …… 415
プリクラッシュブレーキ …… 432
ツーリングアシスト …… 457
車線逸脱抑制機能 …… 501
エマージェンシーレーンキープアシスト …… 511
AT誤発進抑制制御 …… 523
AT誤後進抑制制御 …… 529
車線逸脱警報 …… 535
ふらつき警報 …… 539
青信号お知らせ …… 543
先行車発進お知らせ …… 544
定速クルーズコントロール …… 545
RAB（後退時ブレーキアシスト）…… 557
システム作動音一覧 …… 568
EyeSightシステムの故障および一時停止 …… 571
オープンソースソフトウェア情報 …… 573

運転支援機能
AVH（オートビークルホールド）…… 574
アイドリングストップ …… 578
VDC（ビークルダイナミクスコントロールシステム）… 587
SRVD（後側方警戒支援システム）…… 592
SRH（ステアリング連動ヘッドランプ）…… 604
ADB（アダプティブドライビングビーム）…… 606
サイドビューモニター・フロントビューモニター …… 610
ドライバーモニタリングシステム …… 617

AWD車の特長

運転するとき

AWDとは、All Wheel Drive（オール ホイール ドライブ＝全輪駆動）の略です。4輪車では4WD（四輪駆動）とも呼びます。

AWD車は、エンジンの動力を4輪すべてに伝え、ラフロード（悪路、砂地、泥地）や急坂などで安定した走りを発揮します。

- タイヤがしずみ込むような深い砂地、河川、海水中に乗り入れないでください。
  やむを得ず走行したときは、走行後各部を念入りに洗ってください。砂、泥、塩分などがブレーキ内部に入って異常があるときは、すみやかに点検整備を受けてください。
- オフロード走行やラリー走行はしないでください。
  この場合の故障は保証修理の対象にはなりませんので注意してください。
- AWD 車は滑りやすい路面、積雪路などで 2WD（二輪駆動）車より安定した性能を発揮しますが、急ハンドル、急ブレーキでは2WD車とあまり差がありません。
  カーブや下り坂、雪道や積雪路など滑りやすい路面では十分にスピードを落とし、安全な速度と車間距離をとって慎重に走行してください。

⚠ 警 告

- 4輪のうち1輪でも異なるタイヤを装着していると、車両の駆動系の損傷や、最悪の場合、火災につながるおそれがあり危険です。また、操縦性・ブレーキ性能を危険なものにし、事故につながる可能性がありますので、次の事項をお守りください。
  また、タイヤを交換するときは、「タイヤ交換」の記載事項をお守りください。

☞P.706参照

  - 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
  - タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
  - 応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、後輪に装着してください。
- 雪道走行が予測される場合は、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を使用してください。装着のときは、「冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）への交換」の記載事項をお守りください。

☞P.741参照

  なお、一般タイヤでは、雪道、凍結路でスリップしやすく危険です。また、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）は、乾燥路では一般タイヤに比べ、グリップ性能が低下します。
- タイヤチェーンは非常時のみ、指定チェーンを前輪に取り付けてください。タイヤチェーンを取り付けると、前後の駆動力バランスが変わるため後輪が滑りやすくなります。急発進、急ブレーキ、急ハンドルなどを避けて、路面の状況に合った安全な速度（30 km/h以下）で慎重に運転してください。
- 前輪のみの持ち上げけん引および、後輪のみの持ち上げけん引は絶対にしないでください。駆動装置が損傷したり、お車がトレッカー（台車）から飛び出すことがあります。

☞P.781参照

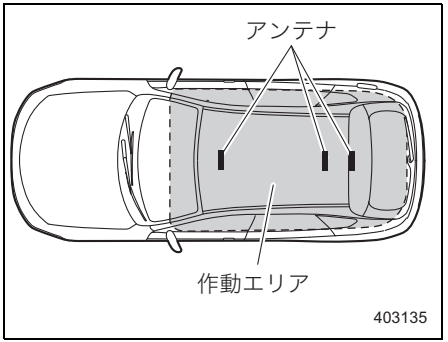
アクティブトルクスプリットAWD

アクティブトルクスプリットAWDを採用しています。走行条件に合わせて前後輪の駆動力配分を電子制御し、常に安定した走行性能を発揮します。

エンジン始動

プッシュエンジンスイッチ

■エンジン始動の作動エリア



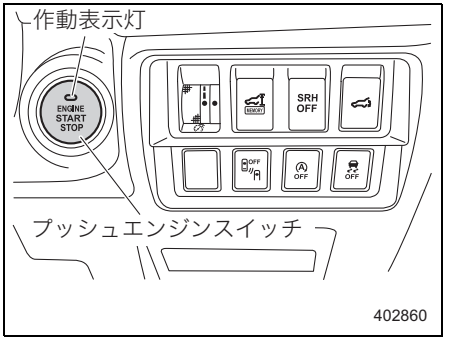
知 識

- 車内アンテナの作動エリア内でアクセスキーが検知されない場合、プッシュエンジンスイッチの切り替えおよびエンジン始動はできません。
- 車外にアクセスキーがある場合でも、ガラス周辺に近づきすぎたときはエンジンを始動できることがあります。
- アクセスキーを次の場所に置かないでください。プッシュエンジンスイッチの切り替えやエンジンを始動できないことや誤って警告を通知したり、通知できないことがあります。
  - インストルメントパネル上
  - フロア上
  - グローブボックス内
  - ドアトリムのポケット
  - リヤシート
  - カーゴルーム
- アクセスキーが電池切れの場合は、「アクセスキーが正常に作動しないときのエンジン始動」の方法でエンジンを始動してください。その後、すみやかに電池を交換してください。

☞P.722、772参照

■プッシュエンジンスイッチの切り替えかた

プッシュエンジンスイッチを押すごとに、スイッチの状態が切り替わります。



1. アクセスキーを携帯し、運転席に座ります。
2. セレクトレバーが “P” であることを確認します。
3. ブレーキペダルを踏まずにプッシュエンジンスイッチを押します。押すごとにスイッチの状態がOFF→ACC→ON→OFFの順に切り替わります。エンジンが停止している場合、プッシュエンジンスイッチがACCまたはONのときはプッシュエンジンスイッチ内の作動表示灯が橙色に点灯します。

スイッチの状態	作動表示灯	各作動の動き
OFF	消灯	非常点滅表示灯（ハザードランプ）が使用できる
ACC	橙色	オーディオや電源ソケットなどが使用できる
ON	橙色（エンジン停止）	すべての電装品が使用できる
	消灯（エンジン回転中）	

知 識

- プッシュエンジンスイッチを操作するときは、奥まで確実に押してください。
- プッシュエンジンスイッチを早押しした場合、スイッチの状態が切り替わらないことがあります。

■ステアリングロックの解除

プッシュエンジンスイッチを押したとき、スイッチ内の作動表示灯が緑色に点滅している場合は、ステアリングロックが解除されていません。
解除するには、ハンドルを左右に動かしながらプッシュエンジンスイッチを押します。

●ステアリングロックの初期化

バッテリー上がりおよびバッテリー交換後はステアリングロックシステムの初期化を行わないとエンジンが始動できない場合があります。

1. セレクトレバーを“P”にします。
2. プッシュエンジンスイッチをOFFにして運転席ドアを開→閉し、約10秒間保持します。
   システムが初期化され、ステアリングがロックします。

知 識

バッテリーが上がるとステアリングロックが解除できません。

■バッテリー上がり防止機能

セレクトレバーが“P”のとき、ACCにしたまま約20分、またはONにしたまま約1時間放置するとバッテリー上がり防止のため自動的にプッシュエンジンスイッチがOFFになります。

⚠ 注 意

- プッシュエンジンスイッチがONまたはACCのまま長時間放置すると、車両のバッテリー上がりの原因となります。
- セレクトレバーが “P” 以外ではプッシュエンジンスイッチをOFFにすることはできません。
- プッシュエンジンスイッチに水やその他の液体をこぼさないでください。故障の原因となります。
- プッシュエンジンスイッチを油などの付いた手で触れないでください。故障の原因となります。
- プッシュエンジンスイッチの作動に引っかかりがあるときは、プッシュエンジンスイッチを操作せず、すみやかにスバル販売店にご連絡ください。
- 車幅灯（ポジションランプ）を点灯してもプッシュエンジンスイッチ照明が点灯しないときは、スバル販売店で点検を受けてください。
- 炎天下で長時間車両を放置すると、プッシュエンジンスイッチの表面が熱くなる場合があります。やけどしないよう注意してください。

エンジンの始動と停止のしかた

■エンジンの始動

⚠ 警 告

- エンジンを始動するときは、必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合、死亡につながるおそれがあります。
- エンジンの始動操作をしたときに、プッシュエンジンスイッチ内の作動表示灯が緑色に点滅している場合は、けん引なども含め絶対に車両の移動はしないでください。ステアリングロックが解除されていない状態のため、ハンドル操作ができず思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中エンジンを止めると触媒が過熱して焼損することがあります。
- 車庫や屋内などの換気の悪いところではエンジンを始動したままにしないでください。車内や屋内などに排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒の原因になり、最悪の場合、死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

- プッシュエンジンスイッチ内の作動表示灯が橙色に点滅しているときは、車両の異常が考えられます。直ちにスバル販売店にご連絡ください。
- 10秒以上プッシュエンジンスイッチを操作し続けないでください。
  スターターが回り続けるため、故障の原因になります。
- エンジン始動前にエンジンルーム内および車体床下に、ねこやねずみなどの小動物がいないことを確認してください。

知 識

- プッシュエンジンスイッチをONにした後、スターターが回っている間にセレクトレバーを操作しないでください。
- 停車時にアクセルペダルを踏み込んでも、エンジンが高回転まで上がらないようになっています。
- エンジン始動操作をしたとき、プッシュエンジンスイッチ内の作動表示灯が緑色に点滅しているときは、ステアリングロックが解除されていません。

☞P.367参照

- エンジンが始動していないときは、ブレーキペダルが硬く感じることがあります。そのときは通常よりも強くブレーキペダルを踏んでスイッチ内の作動表示灯が緑色になることを確認してからプッシュエンジンスイッチを押し、エンジンを始動してください。
- ブレーキペダルを踏みながらプッシュエンジンスイッチを押すと最大10秒間スターターが回ります。エンジンが始動するとスターターは止まります。
- 始動時にセキュリティ表示灯が点灯してエンジンが始動しない場合は、一度プッシュエンジンスイッチをOFFにしてから再度エンジン始動を行ってください。
  - この操作でもエンジンが始動しない場合、車両の異常が考えられます。直ちにスバル販売店にご連絡ください。
- エンジンが始動しない場合は、ブレーキペダルから足を離し、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。10秒放置してからもう一度ブレーキペダルを強く踏みながらエンジンを始動してください。
- 周辺の電波状況によりエンジン始動ができないことがあります。そのときは、「アクセスキーが正常に作動しないとき」を参照してエンジン始動を行ってください。

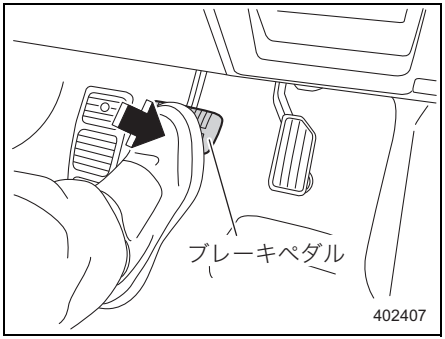
☞P.771参照

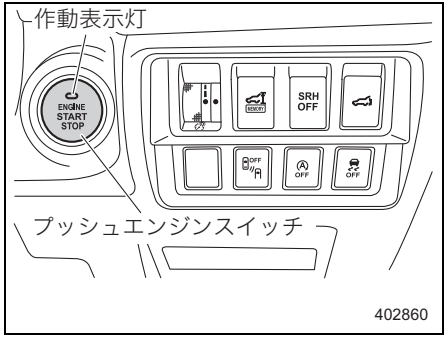
- エンジンの始動直後は、急激な空吹かしや、急加速などをしないでください。

次ページへ ⇒

- エンジンが始動した後は水温表示灯（青色）が点灯している間、アイドリング回転が高めに保たれます。暖機が終わると自動的に下がります。
- 使用するガソリンや使用状態（水温表示灯（青色）が消灯しない程の距離の走行を繰り返す）によっては、エンジンが始動しにくくなることがまれに発生します。その場合、他ブランドのガソリンに切り替えることをお奨めします。
- 始動の際、電装品をOFFにした方が、容易に始動します。
- バッテリー交換などでバッテリー端子を再接続した直後は、スターターは回りますが、エンジンが始動しないことがあります。その場合はプッシュエンジンスイッチを ON にし、10秒以上経過してからエンジンを始動してください。エンジン始動直後はアイドリングが不安定になることがありますが、異常ではありません。
- 極低温時に、リモコンエンジンスターターを使用すると、始動できない場合もあります。また、純正以外のリモコンエンジンスターターを使用すると、エンジンが始動しにくい場合や、スパークプラグのくすぶりを引き起こすことがあります。
- 強く加速したときや急発進など、急なアクセル操作時、まれにエンジンから過渡的なノッキング音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 通常の手順でエンジンが始動しない場合、次の方法で始動できることがありますが、緊急時以外はこの方法でエンジンを始動しないでください。
  - セレクトレバーを“P”にします。プッシュエンジンスイッチをACCにしてブレーキペダルを踏み、プッシュエンジンスイッチを約15秒以上押し続けます。

1. アクセスキーを携帯し運転席に座ります。
2. 電動パーキングブレーキが確実にかかっていることを確認します。
3. セレクトレバーが“P”であることを確認します（“N”でも始動できますが、安全のため“P”で始動してください）。
4. プッシュエンジンスイッチ内の作動表示灯が緑色になるまで、ブレーキペダルを踏み込みます（“N”で始動する場合、作動表示灯は緑色になりません）。
5. ブレーキペダルを確実に踏んだまま、プッシュエンジンスイッチを押します。
エンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。





■エンジンの停止

車両を完全に停止させ、エンジン回転数がアイドリング状態まで下がってから、プッシュエンジンスイッチを押します。このときエンジンが停止し、プッシュエンジンスイッチがOFFになります。
ただし、セレクトレバーを“P”に入れてからプッシュエンジンスイッチを押さないと、プッシュエンジンスイッチがOFFになりません。

知 識

セレクトレバーが“P”でもセレクトレバーのボタンを押しながら始動操作をすると、エンジンは始動しますが、プッシュエンジンスイッチ内の作動表示灯は緑色になりません。

次ページへ ⇒

⚠ 警 告

- 走行中はプッシュエンジンスイッチにさわらないでください。
- 走行中にエンジンが停止すると、ブレーキブースター（制動力倍力装置）が効かなくなり、ペダルを踏むときに通常より強い力が必要となります。また、パワーステアリング機能が働かずハンドル操作が重くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中にエンジンが停止した場合、安全な場所で車両が停止するまでプッシュエンジンスイッチを操作したり、ドアを開けたりしないでください。ステアリングロックが作動する可能性があり危険です。安全な場所に停止させた後、直ちにスバル販売店にご連絡ください。

⚠ 注 意

セレクトレバーが “P” 以外でエンジンを停止しないでください。“P” 以外でエンジンを停止した場合、電源はACCになるためそのまま放置するとバッテリー上がりの原因となります。

知 識

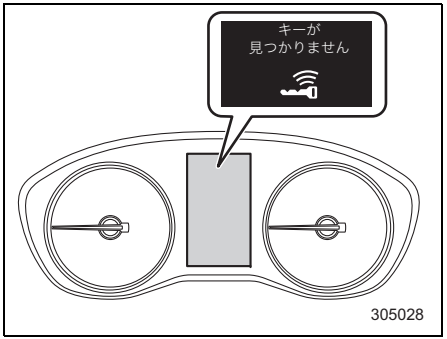
- 走行中、プッシュエンジンスイッチを約2秒以上押し続ける、または素早く3回以上連続で押すと、エンジンを停止させることができます。緊急時以外は走行中にエンジンを停止させないでください。
- 車両が停止した直後は、エンジン回転数がアイドリング状態に戻るまで時間が多少かかることがあります。

■警告音および警告表示

キーレスアクセス&プッシュスタートでは誤操作や盗難を防止するため、異常などを検知すると警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面を表示します。

☞P.144参照

この場合は適切な処置を行ってください。



●警告一覧表

室内ブザー警報	室外ブザー警報	プッシュエンジンスイッチ内作動表示灯	状況	対処方法
ポーン	—	—	キーなし警告 車内にアクセスキーがない状態でプッシュエンジンスイッチを押した。	アクセスキーを携帯してプッシュエンジンスイッチを押してください。
ポーン	—	—	キーバッテリー残量警告 プッシュエンジンスイッチをOFFにした。	アクセスキーの電池残量が低下しているので、電池を交換してください。
ポーン	—	緑点滅 （最長15秒間）	ステアリングロック未解除 エンジン始動操作をしたが、ハンドルのロックが解除されていない。	ハンドルを軽く左右に回しながら、ブレーキペダルを踏み、プッシュエンジンスイッチを押してください。
ポーン	—	橙点滅	キーレスアクセス&プッシュスタート異常警告 電源システムやステアリングロックの異常が検出された。	直ちにスバル販売店に連絡し、点検を受けてください。
ポーン	—	橙点滅	車速信号異常警告※ プッシュエンジンスイッチをOFFにしたときに車速信号の異常が検出された。	直ちにスバル販売店に連絡し、点検を受けてください。

※ 車速信号異常警告は、キーレスアクセス&プッシュスタート警告として表示されます。

ハンドル

パワーステアリング

電動パワーステアリングを採用しています。エンジン始動後約2秒後にパワーステアリングが作動します。車庫入れなどでハンドル操作を繰り返したり、ハンドルをいっぱいまで回した状態を続けた場合は、ハンドル操作が徐々に重くなることがあります。
これはシステムの過熱を防止するために作動を制限している現象で、異常ではありません。
しばらくハンドル操作を控えるとシステムの温度が下がるため、通常の操作力に戻りますが、システムが過熱する使いかたを繰り返すと、故障の原因となります。

ブレーキ

ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキや滑りやすい路面でブレーキをかけたときに、タイヤのロック（車輪の回転が止まること）を防止して、車両の方向安定性を保ち、ハンドル操作性を確保する装置です。
危険時はブレーキを確実に強く踏み続け、必要な場合はハンドル操作で危険を回避してください。
ABSの電気系統に異常が生じた場合はABSは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されます。

■制動距離やハンドル操作について

⚠ 注 意

- ABSは必ずしも制動距離を短縮する装置ではありません。ABS の付いていない車両と同じように安全な車間距離をとって運転してください。
- ABS が作動した状態であっても車両の方向安定性、ハンドル操作性には限界があります。ABS を過信すると思わぬ事故につながるおそれがあります。常に安全運転を心がけてください。
- 次の状況などではABSが作動した場合、ABSが付いていない車両よりも制動距離が長くなることがあります。
  - マンホール、工事現場の鉄板などの滑りやすい路面を走行しているとき
  - 道路のつなぎ目などの段差を走行しているとき
  - 凹凸路、石畳などの悪路を走行しているとき
  - 下り坂で旋回しているとき
  - 路肩に草や砂利が多い道路を走行しているとき
  - 砂利道を走行しているとき
  - 雪道（新雪路、圧雪路、凍結路など）を走行しているとき
- タイヤチェーン装着時にはABSの付いていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。
  特に速度を控えめにして車間距離を十分にとって運転してください。
- 車速が約10 km/h以下になるとABSは作動しません。

知 識

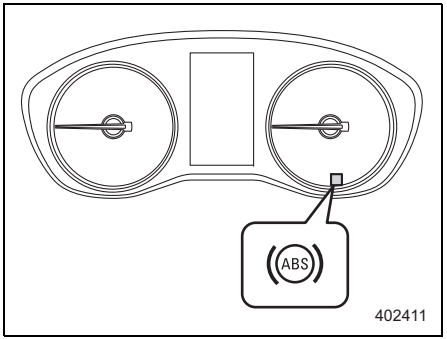
ABS が作動するとハンドル操作時のフィーリング（感覚）が若干変わります。

■振動や音について

- ABSが作動したときは、ブレーキペダルが小刻みに動いたり、車体やハンドルなどに振動を感じることがあります。
  これはABSが作動している状態を表し、異常ではありません。そのままブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
- エンジンを始動した後、最初の発進時に次の場合がありますが、これは ABS 作動のチェックをしている動きで異常ではありません。
  – エンジンルーム付近から一時的に作動音がする。
  – ブレーキペダルを踏むタイミングによってペダルにABSが作動したときと同じような振動を感じる。

■ABS警告灯

システムの異常を検知するとABS警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面を表示します。
☞P.140参照



⚠ 注 意

次の場合、システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

- プッシュエンジンスイッチを ON にしても点灯しない
- 点灯したままのとき

なお、このような場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。（ABS としては作動しません）

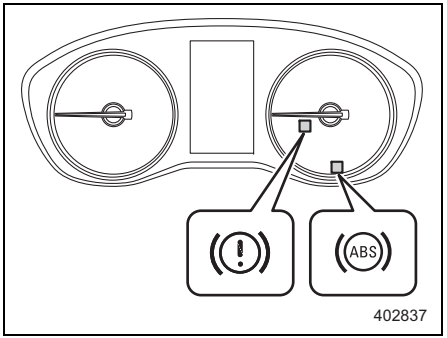
知 識

警告灯が次の場合は正常です。

- エンジン始動時に警告灯が点灯してもすぐに消灯し、その後再び点灯しない
- エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中（車速 40 km/h）に消灯する
- 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない

●EBD（エレクトロニックブレーキフォースディストリビューション）

ブレーキをかけたときの前後輪の荷重変化や強いブレーキ時の制動力の変化に応じて、リヤブレーキをコントロールして、後輪の早期ロックを防止する機能です。
また、システムの異常を検知するとマルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面を表示します。
☞**P.140**参照



⚠ 注 意

EBD システムに異常が発生した場合、ブレーキ警告灯（赤色）とABS警告灯が点灯します。
点灯した場合はすみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
EBD システムに異常があるときは後輪がロックしやすくなります。

知 識

- EBDが作動するとブレーキペダルに動きを感じたり、ABS作動時に似た音が聞こえることがあります。
- ブレーキ警告灯（赤色）は著しくブレーキ液が不足したときも点灯します。

☞**P.123**参照

エマージェンシーストップシグナル

急ブレーキ時に非常点滅表示灯（ハザードランプ）を高速点滅させることで後続車に注意を促し、衝突される可能性を低減します。

■エマージェンシーストップシグナルの作動条件

次のすべてが該当したとき、エマージェンシーストップシグナルは作動します。
- 非常点滅表示灯（ハザードランプ）が点滅していない
- 車速が60 km/h以上
- システムが急ブレーキだと判断した

■エマージェンシーストップシグナルの停止条件

次のいずれかが該当したとき、エマージェンシーストップシグナルは停止します。
- 非常点滅表示灯（ハザードランプ）スイッチを押した
- ブレーキペダルを離した
- システムが急ブレーキではなくなったと判断した

⚠ 注 意

エマージェンシーストップシグナルは方向指示器よりも優先されます。

知 識

スバル販売店でエマージェンシーストップシグナルを作動なしに設定できます。

ブレーキブースター（制動力倍力装置）

ブレーキブースター（制動力倍力装置）はエンジンの吸入負圧を利用してブレーキペダルを踏む力を軽減する装置です。

知 識

エンジンが停止している状態や長時間の駐車の後などで、ブレーキブースター内の負圧が不足している場合にブレーキペダルを踏むと（減速、停止するとき）、通常よりも強い力が必要になります。

ブレーキオーバーライド

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれた場合、ブレーキの制動力を優先させるブレーキオーバーライド機能を備えています。アクセルペダルが全開の状態でも、安全に止まれる可能性があります。また、アクセルペダルが固着して戻りにくい場合でも、ブレーキペダルを踏むことで確実に減速できます。

⚠ 警 告

- ブレーキオーバーライド機能に頼った運転は絶対に行わないでください。あらゆる状況で衝突を回避するものではありません。
- ブレーキオーバーライド機能の性能には限界があります。誤った使用をすると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ブレーキアシスト

ブレーキペダルを強く踏み込んだとき、もしくは速く踏み込んだときに、緊急制動と判断し、より大きな制動力を発生させます。

⚠ 注 意

ブレーキアシストは本来持っているブレーキ性能を超えた制動力を発生させる装置ではありません。

知 識

ブレーキペダルを踏み込んだとき、次のような現象が起こりますが、これはブレーキアシスト機構が正常に機能しているときの現象で、異常ではありません。

- ブレーキペダルを強く踏み込んだとき、もしくは速く踏み込んだときに、ブレーキペダルが軽くなりブレーキが強くかかるようになります。その際、ABSが通常より早く効くことがあります。

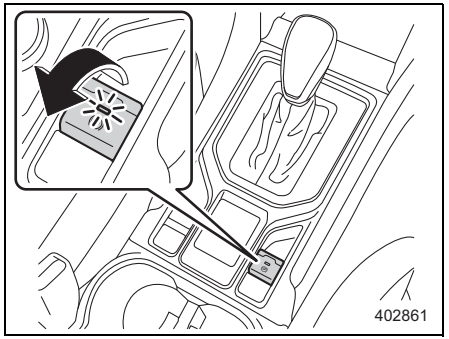
電動パーキングブレーキ

電動パーキングブレーキは、電気モーターで駐車ブレーキをかけるシステムです。
プッシュエンジンスイッチの状態に関係なくかけることができます。
プッシュエンジンスイッチがONのときに解除できます。

■電動パーキングブレーキスイッチでの操作

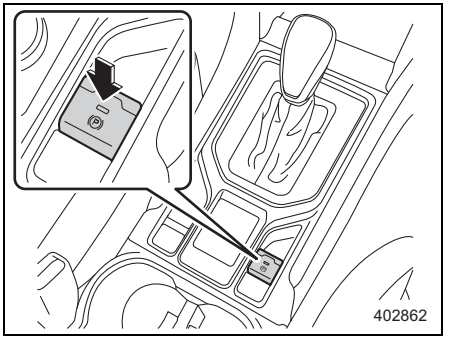
●かけるとき

ブレーキペダルを踏み、電動パーキングブレーキスイッチを引きます。このとき、メーター内の電動パーキングブレーキ作動灯および電動パーキングブレーキスイッチ内の作動表示灯が点灯します。



●解除するとき

ブレーキペダルを踏み、電動パーキングブレーキスイッチを押します。このとき、メーター内の電動パーキングブレーキ作動灯および電動パーキングブレーキスイッチ内の作動表示灯が消灯します。



知 識

電動パーキングブレーキが作動している場合、アイドリングストップは作動しません。

■自動制御による機能

●アクセル自動解除機能

電動パーキングブレーキがかかっているとき、次の場合にアクセルペダルを踏み込むと、電動パーキングブレーキが自動的に解除されます（セレクトレバーが “P”、または “N” の場合を除く）。
このとき、メーター内の電動パーキングブレーキ作動灯および電動パーキングブレーキスイッチ内の作動表示灯が消灯します。

- すべてのドアが閉まっている。
- 運転席シートベルトを装着している。

⚠ 警 告

電動パーキングブレーキを解除するとお車が動き出しますので、解除前には必ず周囲の安全を確認してください。

⚠ 警 告

- システム異常により、電動パーキングブレーキが作動しないときは、次の処置を行ってください。
  - 直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店にご連絡ください。
  - やむなく駐車する場合は、水平な場所に停車し、セレクトレバーを“P”にして輪止め（タイヤストッパー）をしてください。
- セレクトレバーが“P”に入らない場合は、プッシュエンジンスイッチをONからACCにし、ブレーキペダルを踏みながら“P”へ操作してください。（60秒以内）
- 走行するときは電動パーキングブレーキを解除し、電動パーキングブレーキ作動灯が消灯していることを確認してください。
  - システムに異常があり、電動パーキングブレーキが作動したまま走行すると、ブレーキ部品が早く摩耗する場合や、ブレーキが過熱して効かなくなることがあります。

⚠ 注 意

- お車から離れるときは必ずプッシュエンジンスイッチを OFF にしてください。
  - 電動パーキングブレーキが解除され、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ブレーキシステム（フットブレーキ）が故障した場合は、非常ブレーキとして電動パーキングブレーキスイッチを引き続けることで車両を停止させることができます。
  - 非常ブレーキを使用中は、メーター内の電動パーキングブレーキ作動灯および電動パーキングブレーキスイッチ内の作動表示灯が点灯し、ブザーが鳴ります。
- 非常ブレーキの使用は、緊急時のみにしてください。
  - 過度に使用するとブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱して効かなくなることがあります。

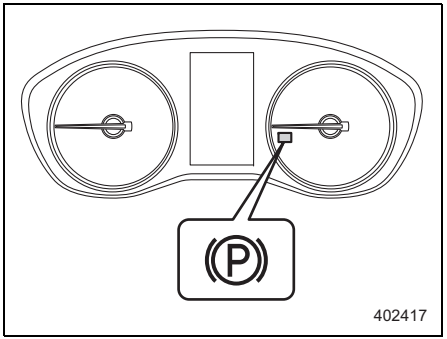
次ページへ ⇒

知 識

- 電動パーキングブレーキはモーターの作動により駐車ブレーキをかけるシステムのため、作動時にモーター音が聞こえます。
  電動パーキングブレーキの作動時に、エンジンルーム付近から音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 非常ブレーキ作動時にエンジンルーム付近から音が聞こえることがありますが、VDCによるブレーキが作動している状態であり正常です。
- システム異常などによりかける／解除ができない場合、電動パーキングブレーキスイッチを操作すると電動パーキングブレーキ作動灯が点滅し、ブザーが鳴ります。
- スイッチ操作を途中で止めた場合や、極端にゆっくり操作した場合はシステムが異常を検知し電動パーキングブレーキ警告灯（黄色）が点灯することがありますが、スイッチ操作後に消灯すれば正常です。
- 路面状態、ブレーキペダルの踏み加減によっては一時的に車両が保持されたり、ブレーキペダルが硬くなったりして通常の感覚と異なることがありますが異常ではありません。
- アイドリングストップ中に電動パーキングブレーキスイッチを操作すると、アイドリングストップの作動が解除され、エンジン再始動後に電動パーキングブレーキが作動します。電動パーキングブレーキ作動灯が点灯したことを確認し、ブレーキペダルから足を離してください。
- エンジン始動時またはアイドリングストップ後のエンジン再始動時に電動パーキングブレーキスイッチを操作すると、一時的に電動パーキングブレーキ作動灯が点滅することがあります。電動パーキングブレーキを解除し、電動パーキングブレーキ作動灯が消灯すれば異常ではありません。
- 次の状態で電動パーキングブレーキが機能している場合、電動パーキングブレーキ作動灯が点灯してから数分後に作動音（電動パーキングブレーキ作動）がすることがありますが、異常ではありません。
  - ブレーキが過熱している状態
  - 急勾配に停車している状態
  - プッシュエンジンスイッチをOFFにした後に電動パーキングブレーキスイッチを操作した状態
- 長期間、電動パーキングブレーキを使用しない場合、自動で電動パーキングブレーキが作動することがありますが、電動パーキングブレーキの作動をチェックしているためで正常です。
- 電動パーキングブレーキスイッチが故障し、電動パーキングブレーキを解除できない場合、「アクセル自動解除機能」により解除してください。

■電動パーキングブレーキ作動灯

作動しているとき点灯します。
作動できない条件のときにスイッチを操作すると、約10秒間点滅しお知らせします。



次ページへ ⇒

⚠ 警 告

- 電動パーキングブレーキ作動灯が点滅し続けたときは、次の処置を行ってください。
  - システムに異常がありますので、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店にご連絡ください。
- エンジン回転中に電動パーキングブレーキを解除しても電動パーキングブレーキ作動灯が消灯しないときは、次の処置を行ってください。
  - 直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店に連絡し、点検を受けてください。
- ブレーキが過熱している状態や急な坂道で電動パーキングブレーキを使用すると、電動パーキングブレーキ作動灯が点滅することがあります。
  - この場合でも、電動パーキングブレーキは作動します。
  - 車両が動き出す可能性があるため、輪止め（タイヤストッパー）をしてください。

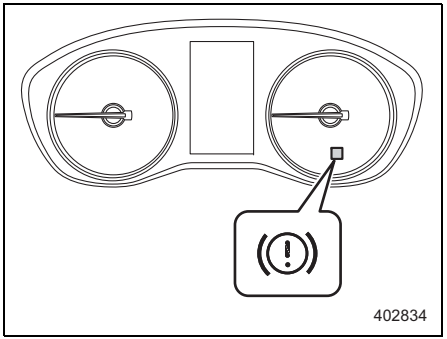
☞**P.27**参照

知 識

- 電動パーキングブレーキが作動中にプッシュエンジンスイッチをOFFにする、またはプッシュエンジンスイッチがOFFのときに電動パーキングブレーキを作動させた場合は、電動パーキングブレーキ作動灯が約30秒間点灯し、その後消灯します。
- 頻繁に電動パーキングブレーキのスイッチ操作を繰り返した場合、電動パーキングブレーキ作動灯が点滅し、電動パーキングブレーキ警告灯（黄色）が点灯します。この場合は時間をおいて操作してください。
- エンジンを始動した直後に電動パーキングブレーキ作動灯が点滅する場合がありますが、その後、電動パーキングブレーキを解除したときに電動パーキングブレーキ作動灯が消灯すれば正常です。

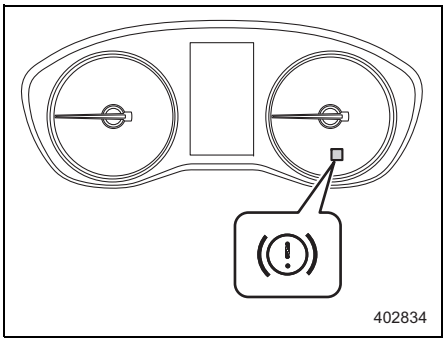
■電動パーキングブレーキ警告灯（黄色）

システムに異常があるときは、警告灯が点灯します。



■ブレーキ負圧系警告灯（黄色）

ブレーキの負圧系統に異常があるときは、警告灯が点灯します。



⚠ 警 告

警告灯が点灯し続ける場合はシステムに異常がありますので、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店にご連絡ください。

知 識

- 警告灯が次の場合は正常です。
  - エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後電動パーキングブレーキを作動、または解除したときに消灯し、再度点灯しない。
  - 走行中に点灯しても、その後直ちに消灯し、再度点灯しない。
- 電動パーキングブレーキの作動／解除中にエンジンを始動すると、システムが異常を判断し警告灯が点灯することがあります。
  - 警告灯が点灯した場合は、一度プッシュエンジンスイッチをOFFにし、再度エンジンを始動して電動パーキングブレーキの作動／解除を行い、警告灯が消灯すれば正常に復帰します。

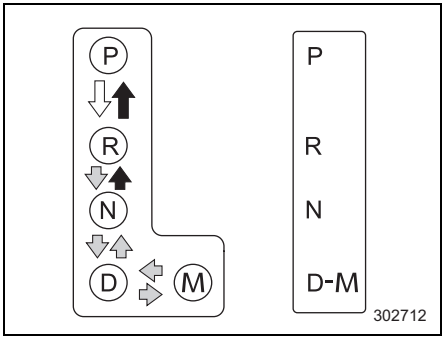
シフト操作

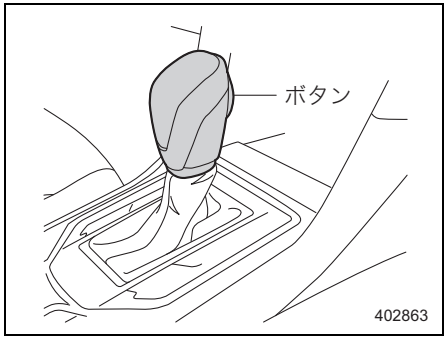
セレクトレバー

■各位置での働きと操作方法

P	**パーキング** 駐車およびエンジン始動位置	駐車するときは必ず電動パーキングブレーキをかけて“P”にしてください。
R	**リバース** 後退位置	ブザーが鳴り、運転者に“R”であることを知らせます。 外の人に音は聞こえませんので注意してください。
N	**ニュートラル** 中立位置	
D	**ドライブ** 通常走行位置	車速およびアクセルペダルの踏み込みに応じて自動的に変速します。
M	**マニュアル** マニュアルモード走行位置	手動で変速するときに使用します。 ☞**P.395**参照

レバーは各位置でしっかりと止まるところまで確実に動かしてください。





⇩	ブレーキペダルを踏まないと操作できません。 ブレーキペダルを踏んだまま、ボタンを押して操作します。
⬆	ボタンを押して操作します。
⇩⬆	ボタンを押さずに操作します。

次ページへ ⇒

⚠ 警 告

発進時は、アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーの操作を絶対にしないでください。急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

- セレクトレバー周辺に物を置かないでください。誤操作の原因となります。
- “P”でエンジンを始動してください。
  “N”でもエンジンは始動しますが、安全のため“P”で始動してください。
- “P”、“R”に入れるときは、お車が完全に止まってからセレクトレバーを操作してください。トランスミッションを損傷させるおそれがあります。
- “P”以外の状態で長時間放置すると、バッテリー上がりの原因になります。
- 切り返しのとき、“D”→“R”、“R”→“D”と何度もレバーを操作するときは、その都度ブレーキペダルをしっかりと踏み、お車を完全に止めてから行ってください。
- 後退した後は、すぐに“R”から“P”または“N”に戻す習慣をつけてください。
- CVTフルードの油温が通常時より高い場合、AT油温警告灯が点灯します。

☞**P.127**参照

知 識

- セレクトレバーの操作は誤操作防止のため各位置に節度をつけ、確実に行ってください。
- “P”のとき、先にセレクトレバーを手前に引いてブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- プッシュエンジンスイッチがOFFまたはACCのときは、ブレーキペダルを踏んでもレバーを“P”から他の位置に切り替えられません。

■CVT車の制御

セレクトレバーが“D”での走行時、スムーズな走りを実現するための制御を行います。

知　識

低水温時に暖機促進や走行性を良くするため、変速タイミングを通常時より高回転側にしています。(暖機が進むと、自動的に通常の変速タイミングに戻ります。)

●登降坂制御

走行中の路面勾配による駆動力とエンジンブレーキ力を最適に制御し、登坂、降坂での運転をアシストします。

●アダプティブ制御

コーナリングの強さや連続性、アクセル操作などからスポーツ走行と判定した場合は、エンジンを高い回転数に保つことでエンジンブレーキの効きを高め、アクセルペダルを踏んだときのレスポンスを向上させます。

知　識

急な上り坂の連続運転など、継続的に負荷のかかる走行を行った場合、車両の冷却性能を維持するためエンジン回転数または車速が自動的に低下することがあります。
負荷が低下し、冷却性能を維持できる状態に戻るとエンジン回転数または車速は元に戻ります。

■シフトロックシステム

セレクトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

- “P”からのセレクトレバー操作は、プッシュエンジンスイッチをONにしブレーキペダルを踏まないとできません。
  - ー “P”から他の位置に操作するとき、先にセレクトレバーを手前に引いてからブレーキペダルを踏むとセレクトレバー操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏み、セレクトレバー操作をしてください。
- セレクトレバーが“P”以外ではプッシュエンジンスイッチをOFFにできません。
- セレクトレバーが“N”でエンジンを停止した場合、しばらくすると“P”に操作できなくなることがありますので直ちにブレーキペダルを踏みながら “P” にしてください。
  もし、“N”から“P”に操作できないときは、プッシュエンジンスイッチをONにし、ブレーキペダルを踏みながら“P”へ操作してください。
- セレクトレバーが操作できないときは、シフトロックシステムなどの異常が考えられます。直ちにスバル販売店にご連絡ください。
  - ー やむを得ずセレクトレバーを動かす必要がある場合は、シフトロック解除ボタンを押してシフトロックを解除することができます。

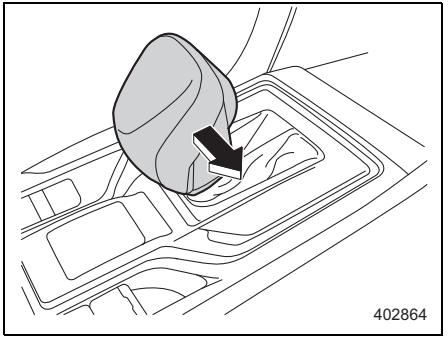
☞**P.767**参照

- プッシュエンジンスイッチがONで操作できないときは、プッシュエンジンスイッチをONからACCにし、ブレーキペダルを踏みながら“P”へ操作してください。(60秒以内)
  プッシュエンジンスイッチがONで操作できないときは、シフトロックシステムなどの異常が考えられます。直ちにスバル販売店にご連絡ください。

マニュアルモード

■マニュアルモードの使いかた

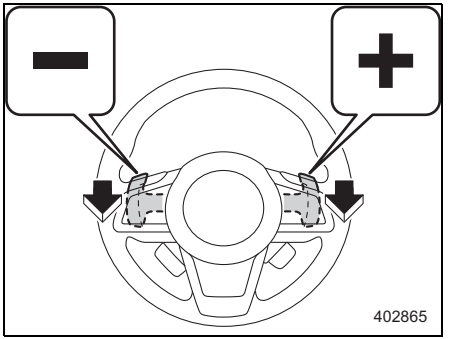
セレクトレバーを “D” から “M” に動かすとマニュアルモードになります。



■パドルシフトレバーの操作

パドルシフトレバーの右側が⊕(アップ)になり、レバーの左側が⊖(ダウン) になります。
1 段上のギヤに変速するときは⊕のレバーを手前に引きます。1段下のギヤに変速するときは⊖のレバーを手前に引きます。

ギヤ段は1速～8速です。



知 識

- シフトダウン不可能な車速（シフトダウンすることによりエンジンの回転がレッドゾーン付近になる場合）でシフトダウン操作をした場合、ブザーが鳴り、運転者にシフトダウンできないことを知らせます。
- マニュアルモード時、エンジン回転数がタコメーター（エンジン回転計）のレッドゾーンに近づくと自動でシフトアップします。
- 低過ぎる車速でシフトアップを行った場合、変速しません。
- お車が停車したとき、自動的にギヤは 1 速になります。
- 下り坂ではエンジンブレーキを併用することをお奨めします。

☞P.25参照

■マニュアルモードの解除

マニュアルモードを解除するときは、セレクトレバーを“M”から“D”の位置に移動させます。

■Dレンジパドルシフトマニュアル操作機能

走行中、“D” のままパドルシフトレバーで変速すると自動変速モードから一時的にマニュアルモードに切り替わり、シフトポジション表示にギヤ位置を表示します。その後しばらく走行すると通常の自動変速モード（“D”）に復帰します。下り坂やカーブの手前など、一時的にエンジンブレーキが必要なときに有効です。

⚠ 注 意

パドルシフトレバーにアクセサリーなど物をかけないでください。アクセサリーなどをかけるとレバーが不意に動き、シフトポジションが変わるおそれがあります。

知 識

操作時の走行状況により、自動変速モードへの復帰時間が異なります。

■滑りやすい路面での発進（2速発進）

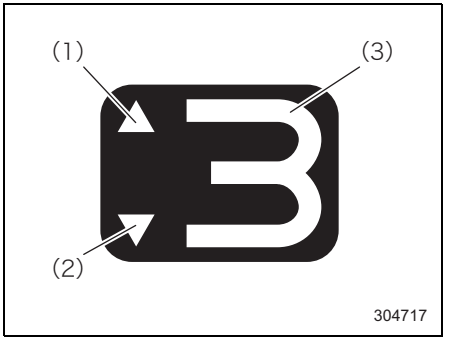
雪道など滑りやすい路面での発進は、マニュアルモードで2速を選択することにより、安全で容易に行えます。
ブレーキペダルを踏んだまま、パドルシフトレバーの⊕側を手前に引き、ギヤを２速にします。このときシフトポジション表示は2速を表示します。

知 識

2速発進を選択すると、2速で固定されたままになります。変速するときは、パドルシフトレバーを⊕または⊖に操作してください。セレクトレバーを“D”にすると2速固定は解除され、自動変速モードに戻ります。

■シフトポジション表示

マニュアルモードが選択されるとギヤ位置を表示します。
シフトアップが可能な場合は数字の横に“▲”、シフトダウンが可能な場合は数字の横に“▼”を表示します。
シフトアップ、シフトダウン可能表示が消えている状態ではシフトアップ・ダウンはできません。



(1) シフトアップ可能表示
(2) シフトダウン可能表示
(3) 変速ギヤ表示

SI-DRIVE（SUBARU Intelligent Drive）

SI-DRIVE は、2 つの特性をもった走行モードの、I（インテリジェントモード）、S（スポーツモード）を選べるシステムです。

I（インテリジェントモード）：
ストレスのない走行性と低燃費を両立させたモードです。市街地走行などの日常の使用に適しています。

S（スポーツモード）：
I（インテリジェントモード）よりも走行性を向上させ、場所を選ばない走行モードです。高速道路での巡航時や郊外の道を走行するのに適しています。

■SI-DRIVEスイッチ

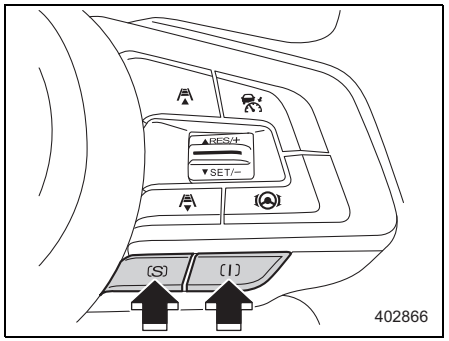
プッシュエンジンスイッチをONにしたときはI（インテリジェントモード）になり、メーターに“[I]”（インテリジェントモード表示）を表示します。
スイッチを押すとモードが切り替わります。

●Sスイッチ

スイッチを押すとS（スポーツモード）に切り替わります。

●Iスイッチ

スイッチを押すとI（インテリジェントモード）に切り替わります。



知 識

- S（スポーツモード）またはI（インテリジェントモード）でエンジンを OFF にし、再度エンジンをONにした場合、I（インテリジェントモード）になります。
- エンジン回転中にエンジン警告灯が点灯したときは、どの走行モードに入っていてもS（スポーツモード）になります。この場合、I（インテリジェントモード）への切り替えはできません。
- X（エックス）モード中に SI-DRIVE スイッチを操作しても各モードには切り替わりません。

X（エックス）モード

X（エックス）モードは、路面に応じてエンジン、AWDおよびブレーキの協調制御を行い走破性を高めたモードです。
また、ヒルディセントコントロールにより、エンジンブレーキだけでは十分に減速できない急な下り坂を走行時、一定の車速を維持するためにブレーキ制御を行います。
X（エックス）モードは2種類のモードを選択できます。

■SNOW・DIRTモード

滑りやすい路面でのタイヤが空転、スリップしてしまいそうな場面などでタイヤの空転を抑えた制御を行います。（使用路面：雪道、アイスバーン、砂利道など）

■DEEP SNOW・MUDモード

タイヤが埋まってしまうような特殊な場合や、雪や砂利などで覆われた急登坂路で発進するときにトラクションコントロール（TCS）機能を一時的に解除し、駆動輪をスリップさせる制御を行います。（使用路面：深雪、泥濘、砂地など）

⚠ 注 意

- X（エックス）モードを過信しないでください。X（エックス）モードが作動した状態でも車両の安定性の確保には限界があり、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。常に安全運転を心がけてください。
- サスペンション構成部品およびアクスルの脱着時は、必ずスバル販売店で点検を受けてください。

X（エックス）モードの機能を有効に発揮するため、次の事項をお守りください。

- 雪道走行するときは、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）またはタイヤチェーンを装着して走行してください。
- タイヤチェーンは、適切なものを正しく装着してください。

☞**P.742**参照

- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着するときは、地域の条例に従い、装着の注意事項をお守りください。

☞**P.741**参照

- X（エックス）モードを正常に機能させるためには、次の事項をお守りください。
  - タイヤを交換するときは、交換時の注意事項をお守りください。

☞**P.705**参照

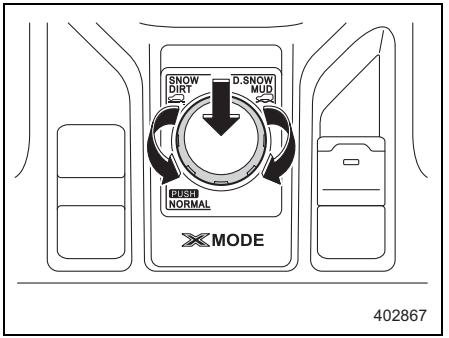
  - 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
  - タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
  - 応急用スペアタイヤを使用する場合、必ず車両に搭載されているものを使用してください。
  - 応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、後輪に装着してください。

☞**P.799**参照

■X（エックス）モードスイッチ

●ONにするとき

停車時または車速約 20 km/h 以下で走行中、X（エックス）モードスイッチを回してSNOW・DIRT もしくは DEEP　SNOW・MUD を選択するとブザー（ピッ）が鳴り、X（エックス）モードがONになります。
メーター内のSI-DRIVE表示（[I]/[S]）が消え、X（エックス）モード表示灯が点灯します。
また、X（エックス）モードになるとマルチファンクションディスプレイが予防安全画面に切り替わり、X（エックス）モードの作動状態を視覚的に表示します。



☞P.174参照

●OFFにするとき

X（エックス）モードスイッチを押すとブザー（ピッピッ）が鳴りX（エックス）モードは解除され、SI-DRIVEのI（インテリジェントモード）に切り替わります。

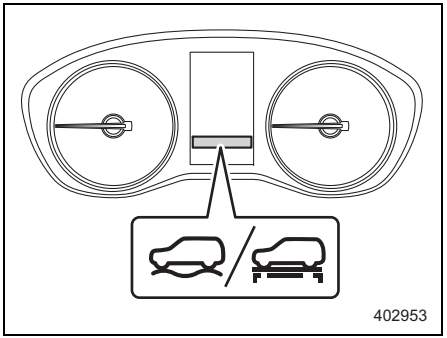
☞P.399参照

知　識

- X（エックス）モード中は、アイドリングストップは作動しません。
- X（エックス）モード中は、SI-DRIVEスイッチを操作しても各モードには切り替わりません。
- エンジンが始動していない場合、スイッチを押しても X（エックス）モードに切り替わりません。
- X（エックス）モード中は、VDC OFF スイッチを操作しても VDC の ON／OFF は切り替わりません。SNOW・DIRT では ON、DEEP SNOW・MUDではOFFのまま固定されます。
- X（エックス）モード中はマルチファンクションディスプレイの表示が予防安全画面に切り替わります。別の画面に戻すときはINFOスイッチを押します。

●X（エックス）モード表示灯

X（エックス）モードがONのとき点灯します。



⚠ 注 意

エンジンが始動しているときに表示が点滅しX（エックス）モードスイッチを操作しても切り替わらない場合は、システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

■自動解除

車速が約40 km/hを超えると、X（エックス）モードは解除され、SI-DRIVEのI（インテリジェントモード）に切り替わります。車速が約35 km/h以下になると再びX（エックス）モードに切り替わります。

ヒルディセントコントロール

エンジンブレーキだけでは十分に減速できない急な下り坂を走行する場合など、一定の低い車速を維持するためにブレーキ制御を行い、下り坂での走行を補助するシステムです。滑りやすい雪道や砂利道などでハンドル操作に集中することができます。
車速、アクセルペダルおよびブレーキペダルの状態から目標車速をシステムが設定し、それを超えないようにブレーキを制御します。ヒルディセントコントロールの作動中は制動灯が点灯します。

⚠ 注 意

ヒルディセントコントロールを過信しないでください。急激な下り坂や凍結路、砂・泥状の路面など滑りやすい下り坂では必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。一定の車速を維持できず思わぬ事故につながるおそれがあります。

知 識

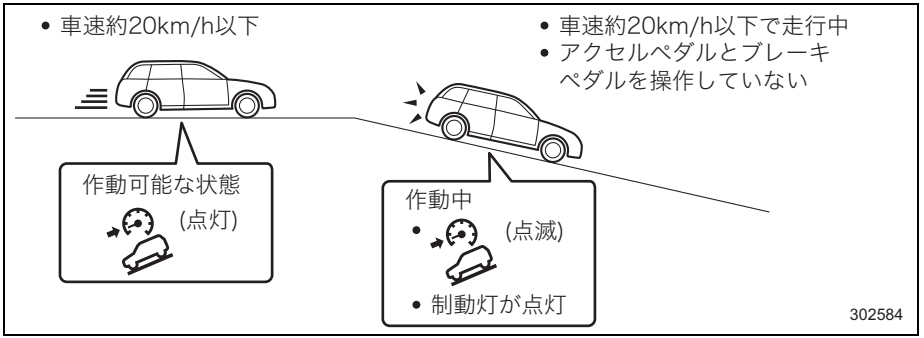
- 長時間連続して使用するとブレーキの温度が上昇し、一時的にヒルディセントコントロールの作動が停止することがあります。
- ヒルディセントコントロール作動時、次のようなことがありますが異常ではありません。
  - エンジンルーム付近から作動音がする
  - ブレーキペダルを踏んだとき、通常より硬くなる、または通常の感覚と異なる
- ヒルディセントコントロールは、平坦な路面でも作動することがあります。

■ヒルディセントコントロールの作動

ヒルディセントコントロールはX（エックス）モードのSNOW・DIRT、またはDEEP SNOW・MUDがONで車速約4 km/h～約20 km/hのとき作動します。

1. X（エックス）モードがONで車速約20 km/h以下で走行時、ヒルディセントコントロールが作動可能状態になり、メーター内の表示灯が点灯します。
2. 次の場合に、ヒルディセントコントロールが作動します。
   - 車速約20 km/h以下
   - アクセルペダルとブレーキペダルを操作していないとき

ヒルディセントコントロールが作動中はメーター内の表示灯が点滅し、同時に制動灯が点灯します。



●目標車速を変更するとき

目標車速を変更するときは、アクセルペダル、ブレーキペダルで調節します。
ペダルから足を離すと再度ヒルディセントコントロールが作動し、そのときの車速を目標にブレーキ制御を行います。

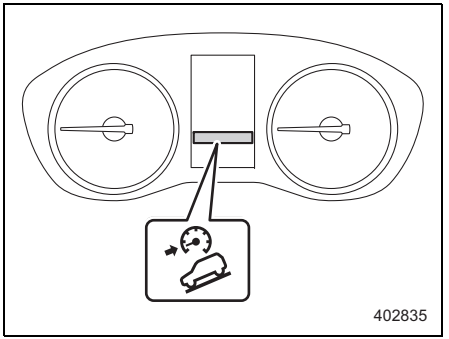
●作動の解除

次の場合、ヒルディセントコントロールは解除されます。

- X（エックス）モードNORMALスイッチを押して、X（エックス）モードをOFFにしたとき
- 車速約20 km/h以上を超えたとき（車速約20 km/hを超えるとヒルディセントコントロールの作動が解除され、車速約30 km/hを超えるとメーター内の表示灯が消灯します。）
- プッシュエンジンスイッチをOFFにしたとき

■ヒルディセントコントロール表示灯

X（エックス）モードON時、ヒルディセントコントロールが作動可能状態になると点灯し、ヒルディセントコントロールが作動すると点滅します。



マルチファンクションディスプレイを予防安全画面にしている場合、メーター内の表示灯に連動してヒルディセントコントロール作動表示が点灯・点滅します。

☞**P.174**参照

403365

運転手順

■エンジンを始動する前に

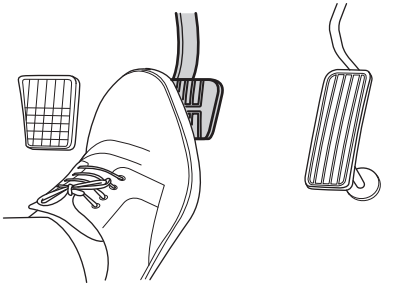
1. 正しい運転姿勢をとります。ペダルを確実に踏むことができ、ハンドル操作が楽にできるように、ハンドルの位置、シートの位置を調整してください。

☞P.303、322参照

2. アクセルペダルの位置を右足で確認します。
3. ブレーキペダルの位置を右足で確認します。

⚠ 注 意

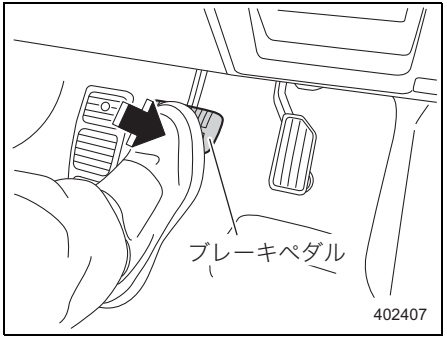
踏み間違いを防ぐため、アクセルペダルとブレーキペダルを右足で踏み、位置を確認してください（踏み間違いは事故につながるおそれがあります）。



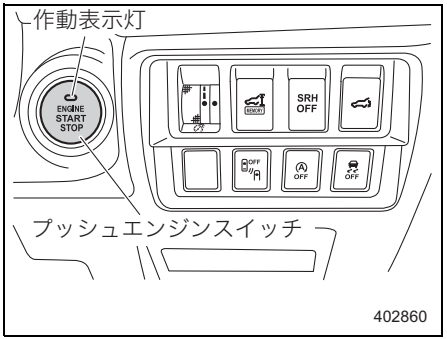
301531

■エンジン始動

1. 電動パーキングブレーキが確実にかかっていることを確認します。
2. セレクトレバーが“P”であることを確認します。
3. プッシュエンジンスイッチ内の作動表示灯が緑色になるまで、ブレーキペダルを踏み込みます（“N”で始動する場合、作動表示灯は緑色になりません）。



4. ブレーキペダルを確実に踏んだまま、プッシュエンジンスイッチを押します。エンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。



⚠ 注 意

エンジンは“N”でも始動できますが、安全のため“P”で行ってください。

■発進

1. ブレーキペダルを右足で踏んだままにします。

2. セレクトレバーを“D”（前進）または“R”（後退）に入れます。
3. セレクトレバーの位置を確認します。
4. 電動パーキングブレーキを解除します。
5. 右足をブレーキペダルからアクセルペダルに踏み換えゆっくりと加速します。

⚠ 警 告

セレクトレバーは確実にブレーキペダルを踏んで操作してください。アクセルペダルを踏んだまま操作すると急発進して重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

- エンジン始動直後やエアコン作動時、または停車時にハンドルを操作するとアイドリング回転が高くなり、クリープ現象が強くなります。確実にブレーキペダルを踏んでください。
- 後退するときにはお車の後方に人がいないこと、障害物がないことを確認してください。車内でブザーは鳴りますが、車外の人には聞こえません。

知 識

アクセルペダルを踏むと電動パーキングブレーキが自動解除されるアクセル自動解除機能があります。

☞P.384参照

■走行

通常の走行：
“D”で走行します。アクセルとブレーキの操作だけで自動的に変速され走行できます。

強い加速：
アクセルペダルを深く踏み込みます。自動的にシフトダウンし加速します。(キックダウン)
☞P.22参照

上り坂では：
アクセルペダルを深く踏み込みます。自動的にシフトダウンし加速します。
また、セレクトレバーを “M” にし、勾配に適したギヤを選択するとなめらかな走行ができます。
☞P.395参照

下り坂では：
エンジンブレーキを併用してください。
“D”または“M”で、パドルシフトレバーの⊖側を手前に引くとシフトダウンします。
☞P.395参照

急な下り坂では：
パドルシフトレバーの⊖側を手前に引いて2速または1速に入れると、さらに強いエンジンブレーキがかかります。
☞P.395参照

⚠ 警 告

走行中はセレクトレバーを “N” にしないでください。エンジンブレーキがまったく効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

知 識

セレクトレバーが “D” のとき、アクセルペダルを深く踏み込むと無段変速から AT 車のような制御に切り替わります。

⚠ 注 意

シフトダウンによる急激なエンジンブレーキは、道路状況や車間距離に注意して行ってください。

知 識

- 強く加速したときや急発進など、急なアクセル操作時にはまれにエンジンから過渡的なノッキング音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- エンジン回転数は、燃費の向上や排出ガスの低減などのため、ち密に制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

■停車

1. “D”のままブレーキペダルを確実に踏みます。
2. 必要に応じて電動パーキングブレーキをかけます。
3. 長時間停車するときは“P”にします。

⚠ 注 意

エンジン始動直後やエアコン作動時、または停車時にハンドルを操作するとアイドリング回転が高くなり、クリープ現象が強くなります。確実にブレーキペダルを踏んでください。

知 識

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、坂道で“P”、“N”以外に入れた状態で、アクセルを吹かしながらお車を停止させたりしないでください。
トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

4. 停車後、再発進するときは、セレクトレバーが“D”にあることを確認して発進します。

⚠ 注 意

- 空吹かしをしないでください。急発進の原因となります。
- 停車中にセレクトレバーを動かすときはブレーキペダルを確実に踏んでください。
- 急な上り坂での停車は、クリープ現象で前に進もうとする力よりも、後退しようとする力の方が大きくなり、お車が後退することがあります。
  ブレーキペダルを踏み込み、確実に電動パーキングブレーキをかけてください。
- AVH機能がONで急な坂道に停車した場合は、電動パーキングブレーキが作動しますが、その際、電動パーキングブレーキ作動灯が点滅した場合は、車両が動き出す可能性がありますので、ブレーキペダルを踏み続けてください。

☞P.387、577参照

■駐車

1. 車を完全に止めます。
2. ブレーキペダルを踏んだままの状態で電動パーキングブレーキを確実にかけます。
3. セレクトレバーを“P”に入れます。
4. エンジンを止めます。

☞P.27参照

⚠ 注 意

- お車が完全に止まらないうちにセレクトレバーを “P” に入れないでください。トランスミッション損傷の原因となります。
- お車から離れるときは、必ずセレクトレバーを “P” に入れ、エンジンを止めてください。“P” 以外でエンジンを止め、お車を放置するとバッテリー上がりの原因となります。
- お子さまを乗せているときは、お子さまだけで車内に残さないでください。

EyeSight

EyeSightについて

EyeSightはさまざまな機能によって、運転者の判断を助け、安全・快適で疲れの少ない運転を可能にする運転支援システムです。EyeSight は 2 台のカメラ（ステレオカメラ）を用いた画像処理により、先行車や障害物、車線などを認識します。
また、ソナーセンサーにより車両後方の障害物を認識します。

次ページへ ⇒

⚠ 警 告

運転者には安全運転の義務があります。EyeSightの各機能特性にかかわらず、常に交通ルール・マナーを守り運転してください。運転時は常に先行車との車間距離や周囲の状況、運転環境に注意しながら必要に応じてブレーキペダルを踏むなど、安全運転に努めてください。

- EyeSightに頼った運転は絶対に行わない。
  - EyeSightの認識性能・制御性能には限界があります。
  - わき見運転やぼんやり運転など運転者の前方不注意を防止したり、悪天候時の視界不良下での運転を支援する装置ではありません。また、あらゆる状況で衝突を回避するものではありません。

EyeSightは、運転者の判断を補助し、事故被害や運転負荷の軽減を目的としています。警報が作動した場合は前方や周囲を確認の上、運転者の判断でブレーキペダルを踏むなどの適切な操作をしてください。

警報や各種プリクラッシュブレーキ、緊急時プリクラッシュステアリングなどが作動した場合は、前方や周囲を確認の上、運転者の判断で適切な操作をしてください。

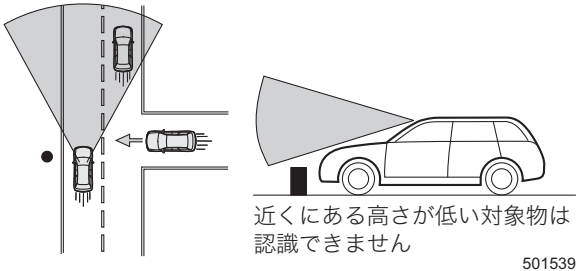
EyeSightの認識性能・制御性能には限界があります。それぞれのページに書かれている警告を必ずお読みの上、正しくご使用ください。誤った使用をすると、適切に制御が行われず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

右ハンドル車のEyeSightは、左側通行を想定して設計しています。右側通行の道路で使用する場合は性能が十分に発揮できません。

⚠ 注 意

- 運転者にとって前方が見えにくい状況では、ステレオカメラも同様に前方の車両や障害物、車線を認識しづらくなります。
- EyeSight 前方の物体認識はステレオカメラの視野範囲に限られます。また、視野範囲に対象物が入ってから制御・警報の対象となるまでには数秒間かかります。

ステレオカメラ視野範囲イメージ



- 周辺環境や車両状態によって先行車や前方の自動二輪車、自転車、歩行者、路上の障害物、車線などが認識しづらくなる。また、認識しにくい状況ではEyeSightシステムが一時停止状態または機能が制限される場合がある。状況が改善され、しばらく走行すれば、再び機能は動作する。
- 次の状況では、EyeSightシステムが一時停止状態になる場合があります。状況が改善されれば再び機能は動作します。
  - 炎天下で放置した後など車内の温度が高いとき、または極寒の環境で放置した後など車内の温度が低いとき
  - エンジンの始動直後

- 次の状況では先行車や前方の自動二輪車、自転車、歩行者、路上の障害物、車線などが認識しづらくなります。また、EyeSight システムが一時停止状態になる場合があります。EyeSight システムが一時停止状態になることが何回も発生する場合はスバル販売店に連絡し、点検を受けてください。
  - ステレオカメラのレンズ部周辺に埃などの汚れが付着したとき
  - ステレオカメラに衝撃などが加わり、ずれや歪みが生じたとき
  - 1年以上など、車両を長期間放置したとき
- EyeSight システムの動作に異常があるときはプリクラッシュブレーキ、エマージェンシーレーンキープアシスト、車線逸脱警報機能およびRAB（後退時ブレーキアシスト）をOFFにし、全車速追従機能付クルーズコントロール、車線逸脱抑制機能、車線中央維持・先行車追従操舵機能、定速クルーズコントロールを使用せずスバル販売店で点検を受けてください。

☞P.158、456、538参照

- VDC警告灯が点灯しているときは、プリクラッシュブレーキ機能をOFFにする。
  - システムが正しく作動しない場合があります。また、全車速追従機能付クルーズコントロールおよび定速クルーズコントロールを使用しないでください。

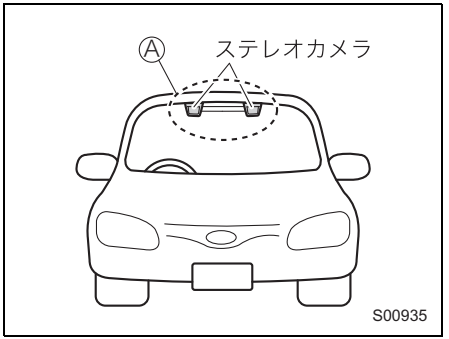
知 識

- EyeSightは、プリクラッシュブレーキ、ブレーキ踏み増し要求警報、エアバッグ、歩行者エアバッグが作動したときに、主に次のデータを記録・蓄積します。会話などの音声は記録しません。
  - ステレオカメラの画像情報
  - 先行車との車間距離
  - 車速
  - ハンドルの操舵角
  - 進行方向に対しての横方向の動き
  - アクセルペダルの操作状況
  - ブレーキペダルの操作状況
  - セレクトレバーの位置
  - オドメーターの値
  - ABS、VDC機能、TCS機能の制御に関する情報
- スバルおよびスバルが委託した第三者は、記録されたデータを、車の研究開発目的に取得・流用することがあります。なお、スバルおよびスバルが委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。
  - お車の所有者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
  - 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
  - 統計的な処理を行うなどの使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

※ ここでいうスバルは、株式会社ＳＵＢＡＲＵを意味しています。

■ステレオカメラの取り扱いについて

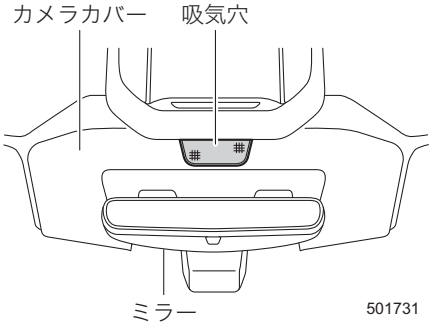
ステレオカメラはフロントガラス部分に装着されています。



⚠ 注 意

- ステレオカメラ前面の汚れを自動で判定する機能を備えていますが、万全ではない。
  状況によっては、ステレオカメラ前面の汚れ（曇りや油膜なども含みます）を判定できない場合がある。また、フロントガラスのステレオカメラ付近に雪や氷などが付着したときも、判定できない場合がある。このような状況では、システムが正常に作動しない場合があるため、フロントガラス（イラストのステレオカメラ前方Ⓐの部分）はいつもきれいにしておく。なお、汚れを判定した場合は、定速クルーズコントロールを除くすべての EyeSight システムの機能が作動しない。
- カメラのレンズ部周辺が汚れた場合は、清掃などはおこなわず、スバル販売店で点検を行う。
- ステレオカメラは精密部品のため、特にカメラのレンズ部周辺の取り扱いについては、次の注意事項を守る。
  - ステレオカメラのレンズ部には絶対に触れないでください。また、レンズ部は清掃しないでください。万一、レンズ部に触ってしまった場合は、必ずスバル販売店にご相談ください。
  - カメラカバー周辺のガラス内側を清掃するときは、ガラスにクリーナーなどを直接吹き付けずに、布などに付着させて清掃してください。
  - ステレオカメラに強い衝撃や力を加えないでください。
  - ステレオカメラを取り外したり、分解しないでください。
  - ステレオカメラの取り付け位置を変更したり、周辺構造物の改造をしないでください。

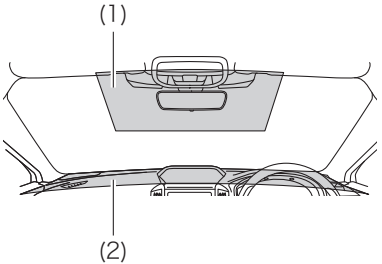
- カメラシステムが高温になると、冷却ファンが作動することがある。カメラカバーにある吸気穴はふさがない。また、吸気穴の中に物を入れない。カメラシステムが故障するおそれがある。



- カメラシステムの熱により、カメラカバーが熱くなる可能性があるので触らない。
- カメラカバーを叩く、強く押すなどの衝撃を加えるとEyeSightの機能が正常に作動しなくなるおそれがある。

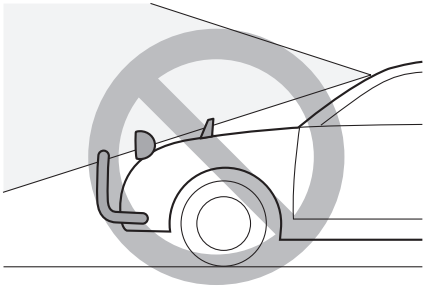
次ページへ ⇒

- フロントガラス（外側、内側）、ルームミラー、カメラカバーおよびインストルメントパネル上面など、下図に示す禁止エリア（1）、（2）のグレー部にスバルが指定したアクセサリー用品以外の取り付けまたは設置をしない。
  - 禁止エリア外に置いた場合でも、光の反射やガラスへの映り込みなどにより EyeSight システムの動作に異常があるときは移動させてください。詳しくはスバル販売店にご相談ください。
  - フロントガラス（外側、内側）にステッカーを貼ったり、アクセサリーを取り付けないでください。
    やむを得ず取り付けなければならない（車検ステッカーなど）ときは、禁止エリア（1）のグレー部へは取り付けないようにしてください。ステレオカメラの視野に影響を与えるおそれがあります。
  - 禁止エリア（2）のグレー部に物を置かないでください。
    フロントガラスへの映り込みによりステレオカメラが安定した認識ができない場合があります。
  - インストルメントパネルはケミカル剤などで光沢を持たせないでください。
    フロントガラスへの映り込みによりステレオカメラが安定した認識ができない場合があります。



403628

- スバル純正品以外のワイパーブレードを装着しない。
  - ステレオカメラの視野に影響を与えるおそれがあります。
- ワイパーブレードは早めに交換する。
  - 拭き残しによりステレオカメラが安定した認識ができない場合があります。
- ボンネットやグリルの上など、車両前側にアクセサリー類を取り付けない。
  - ステレオカメラの視野に影響を与えるおそれがあります。



S01098

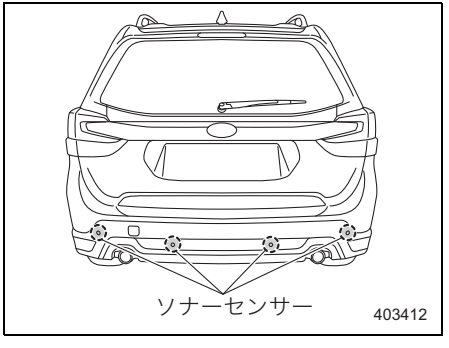
- ステレオカメラの視野範囲内にルーフに積んだ荷物が入らないようにする。
  - ステレオカメラの視野に影響を与えるおそれがあります。詳しくはスバル販売店にご相談ください。
- フロントガラス（外側、内側）は常にきれいな状態に保つ。
  - フロントガラスに曇りや汚れなどがあるとステレオカメラが安定した認識ができない場合があります。
- 中央のエアコン吹き出し口に芳香剤などを取り付けない。
  - カメラ周辺のフロントガラスが冷えて曇る場合があります。

- フロントガラスにスバルが指定したガラスコーティング剤以外は使用しない。
- フロントガラスにフィルムを貼らない。
- フロントガラスに傷、ひびなどが生じた場合は、スバル販売店にご相談ください。
- フロントガラスを交換・修理する場合は、スバル販売店にご相談ください。
  - スバル純正品以外のフロントガラスを使用するとステレオカメラが安定した認識ができずシステムが正常に作動しない場合があります。
- 歩行者保護エアバッグが作動したときにエアバッグを展開させたまま走らない。
  - ステレオカメラの視野に影響を与えるおそれがあります。

☞**P.74**参照

■RABソナーセンサーの取り扱いについて

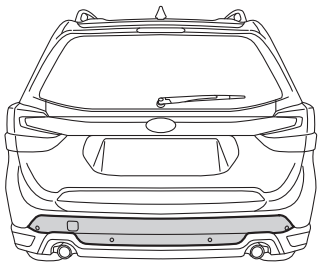
リヤバンパーに、4個のソナーセンサーが取り付けられています。



⚠ 注 意

RABの正しい作動のため、次のことをお守りください。

- ソナーセンサーまたは付近のリヤバンパー表面は、いつもきれいにしておく。
  - 汚れが付着したときは、水またはぬるま湯を含ませた柔らかい布で拭き取ってください。また汚れがひどいときは中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませて、汚れを落としてください。
- ソナーセンサーまたは付近のリヤバンパー表面にステッカーなどを貼り付けない。
  - 詳しくはスバル販売店にご相談ください。



403413

- ソナーセンサーまたは付近のリヤバンパーを改造しない。
- ソナーセンサーまたは付近のリヤバンパーを塗装しない。
- ソナーセンサーまたは付近のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける。
  - ソナーセンサーの取り付け位置がずれると、検知範囲に入った障害物を検知できないなど、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずスバル販売店で点検を受けてください。
- ソナーセンサーを分解しない。
  - ソナーセンサーの修理、交換、またはソナーセンサー付近のリヤバンパーの修理、塗装、交換が必要になった場合は、スバル販売店にご相談ください。

■EyeSightの機能について

EyeSightには、次の機能があります。

●プリクラッシュブレーキ

前方の車両や歩行者、自転車などに衝突する可能性があるとき、車間距離警報により、運転者の回避操作を促します。それでも運転者の回避操作がない場合、衝突の直前にシステムが急ブレーキをかけ衝突被害を軽減、または衝突を回避します。

☞P.432参照

▼緊急時プリクラッシュステアリング

前方の車両や歩行者、自転車に衝突するおそれがあるとき、運転者に注意を促します。回避操作がない場合、システムがハンドル操作をし、衝突回避をアシストします。

☞P.448参照

●ツーリングアシスト

渋滞走行や高速走行を含めた自動車専用道路での運転負荷軽減を目的とした運転支援システムです。全車速追従機能付クルーズコントロールと、それに連動して作動する車線中央維持・先行車追従操舵機能により、アクセル・ブレーキ・ハンドルをシステムが制御することで運転をアシストします。

▼全車速追従機能付クルーズコントロール

クルーズコントロールをセットしてセット車速を保ちながら走行し、同一車線内にいる先行車を認識した場合は、セット車速を上限とした追従走行を行います。

☞P.457参照

▼車線中央維持・先行車追従操舵機能

高速道路などで道路の区画線（白線など）を認識し、車線中央付近を走行するようにハンドル操作をアシストします。また、渋滞時は白線を認識していなくても、先行車の動きに合わせてハンドル操作をアシストします。車線中央維持・先行車追従操舵機能は、全車速追従機能付クルーズコントロールをセットしているときのみ作動します。

☞P.487参照

知 識

EyeSight はエンジンが始動していないとき、作動しません（アイドリングストップによるエンジン停止時を除く）。

●車線逸脱抑制機能

高速道路や自動車専用道路を走行時、システムが区画線を認識し、車両が車線を逸脱しそうになるとシステムが車線逸脱回避方向にハンドル操作をアシストし、車線からの逸脱を抑制します。

☞P.501参照

●エマージェンシーレーンキープアシスト

隣接車線の後方車両が接近しているにもかかわらず車両が車線を逸脱しそうになると、システムが車線逸脱回避方向にハンドル操作をアシストし、車線からの逸脱を抑制します。

☞P.511参照

●AT誤発進抑制制御

セレクトレバーの位置の入れ間違いやペダルの踏み間違いによる誤った前進を抑制します。

☞P.523参照

●AT誤後進抑制制御

後退時、アクセルペダルの急な踏み込みなどによる急な後退を抑制する後退飛び出し抑制制御と、後退時の車速を制限する後退速度リミッターの2つの機能があります。

☞P.529参照

●車線逸脱警報

走行中、車線を逸脱しそうになると、注意を促します。

☞P.535参照

●ふらつき警報

疲れやよそ見、ぼんやり運転、横風などによるふらつきを認識し、注意を促します。

☞P.539参照

●青信号お知らせ

信号が青信号に変わっても自車が発進しない場合にお知らせします。

☞P.543参照

●先行車発進お知らせ

先行車が発進しても自車が発進しない場合にお知らせします。

☞P.544参照

●定速クルーズコントロール

一定速度を保ちながら走行するモードです。追従走行は行いません。EyeSightシステムが一時停止状態でも使用可能な場合があります（この機能は全車速追従機能付クルーズコントロールから切り替えて使用します）。

☞P.545参照

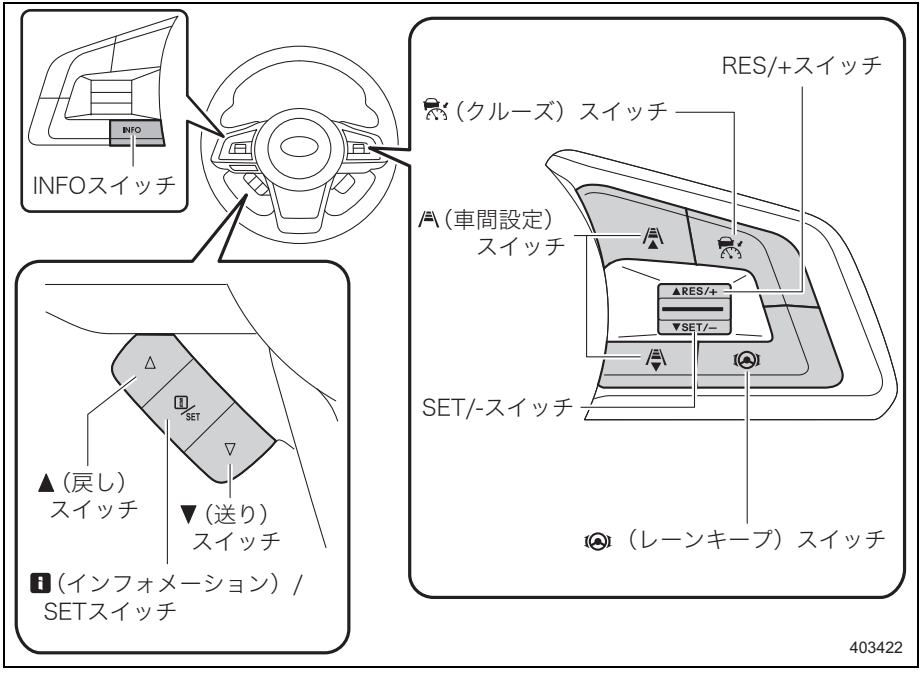
●RAB（後退時ブレーキアシスト）

後退時に壁や障害物に衝突するおそれがあるときに、マルチファンクションディスプレイやマルチインフォメーションディスプレイの表示と警報音で知らせ、必要に応じてシステムがブレーキを作動させることで衝突を回避、または衝突の被害を軽減します。

☞P.557参照

■スイッチ構成

●ステアリングスイッチ



▼(クルーズ) スイッチ

- クルーズコントロール※のON／OFFができます。
  このスイッチを押してマルチインフォメーションディスプレイの EyeSight 表示部に または が点灯している状態を「クルーズメインON」といいます。

☞P.463、547参照

- クルーズコントロール※のセット状態を解除できます。

☞P.478、553参照

※ 全車速追従機能付クルーズコントロールおよび定速クルーズコントロール

▼SET/－スイッチ

- クルーズコントロール※のセットができます。

☞P.465、549参照

- セット車速を下げることができます。(クルーズコントロール※がセット中のとき)

☞P.471、551参照

※ 全車速追従機能付クルーズコントロールおよび定速クルーズコントロール

▼RES/＋スイッチ

- クルーズコントロール※のセットができます。

☞P.465、549参照

- クルーズコントロール※のセット状態を解除後、解除前のセット車速に再びセットすることができます。

☞P.482、556参照

- セット車速を上げることができます。(クルーズコントロール※がセット中のとき)

☞P.469、550参照

※ 全車速追従機能付クルーズコントロールおよび定速クルーズコントロール

▼ / （車間設定）スイッチ

- 車間距離の設定を4段階に切り替えることができます。（全車速追従機能付クルーズコントロールのみ）

☞P.473参照

- クルーズメインONのとき、 / （車間設定）スイッチ※を押すと全車速追従機能付クルーズコントロールと定速クルーズコントロールを切り替えることができます。

☞P.547参照

※ 定速クルーズコントロールに切り替えるときは、約2秒以上押し続けてください。

▼（レーンキープ）スイッチ

- 車線中央維持・先行車追従操舵機能および車線逸脱抑制機能のON／OFFを切り替えることができます。

☞P.494、506参照

▼▲（戻し）スイッチ／▼（送り）スイッチ

次の場合に使用します。

- マルチインフォメーションディスプレイの表示画面を切り替えるとき

☞P.135参照

- 先行車捕捉音などの設定を変更するとき

☞P.158参照

▼（インフォメーション）／SETスイッチ

次の場合に使用します。

- マルチインフォメーションディスプレイの割り込み画面を再表示するとき

☞P.140参照

- 先行車捕捉音などの設定を変更するとき

☞P.158参照

▼INFOスイッチ

RABのON／OFFを切り替えることができます。

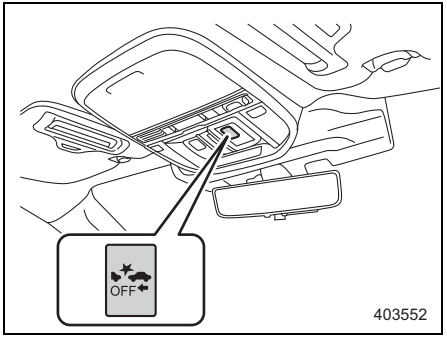
☞P.567参照

●プリクラッシュブレーキOFFスイッチ

長押しすると、プリクラッシュブレーキ、AT 誤発進抑制制御および AT 誤後進抑制制御がOFFになります。

OFF にするとメーター内のプリクラッシュブレーキOFF表示灯が点灯します。

再度スイッチを長押しすると、プリクラッシュブレーキ、AT 誤発進抑制制御および AT 誤後進抑制制御が ON になり、プリクラッシュブレーキ OFF 表示灯が消灯します。



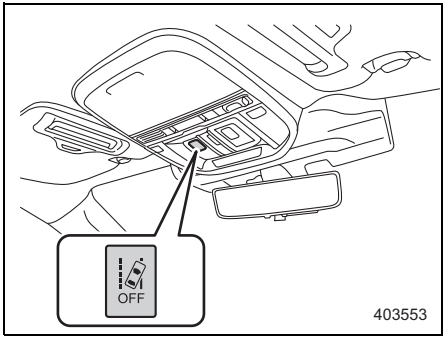
☞P.456、528、533参照

●車線逸脱警報OFFスイッチ

長押しすると、車線逸脱警報およびふらつき警報がOFFになります。

OFF にするとメーター内の車線逸脱警報OFF表示灯が点灯します。

再度スイッチを長押しすると、車線逸脱警報およびふらつき警報がONになり、車線逸脱警報OFF表示灯が消灯します。

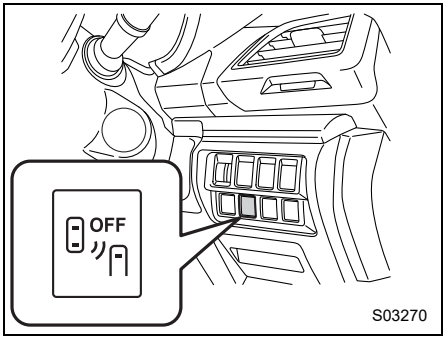


☞P.538、542参照

●SRVD OFFスイッチ

エマージェンシーレーンキープアシストおよびSRVDのON／OFFを切り替えることができます。

☞P.511、592参照



プリクラッシュブレーキ

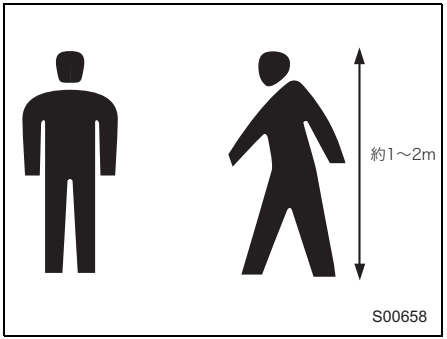
主に前方の車両や歩行者、自転車などに衝突する可能性がある場合、運転者への警報による衝突回避の支援を行います。それでも運転者の衝突回避操作がない場合、衝突の直前にシステムが急ブレーキをかけ、衝突被害を軽減または衝突を回避します。また、運転者の衝突回避操作があった場合はプリクラッシュブレーキアシストにより衝突回避をアシストします。

これらの機能は、追突車両だけでなく横断歩行者、横断自転車、右左折時の対向車および対向歩行者との衝突にも対応しています。セレクトレバーが “D”、“M” または “N” のとき作動します。

また、発進時などに誤ってアクセルペダルを踏み、前方の障害物に衝突する可能性がある場合、システムがブレーキをかけ、衝突を軽減または回避します。

■歩行者認識について

EyeSightは歩行者を認識します。歩行者認識は対象物の大きさや形状、動きから行っています。頭部、両肩の輪郭が明瞭であるときに認識します。



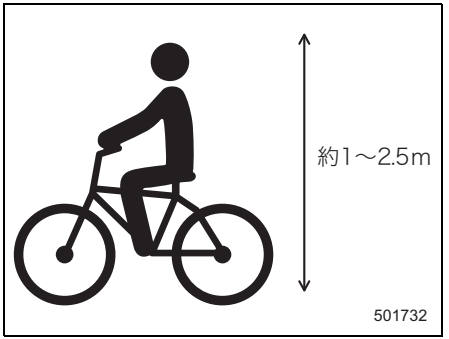
⚠ 警 告

EyeSight のプリクラッシュブレーキは、条件によってはシステムが制御対象を認識できない場合があります。
特に、次の状況では、歩行者を制御対象と認識できない可能性が高くなります。

- 集団で歩いているとき
- 壁際や障害物のそばにいるとき
- 傘などをさしているとき
- 背景と似た色合いで背景に溶け込んでいるとき
- 大きな荷物や、背の高いものを持っているとき、カートなどを押しているとき
- 前かがみになっている、しゃがんでいる、横たわっているとき、急な姿勢変化（立ち上がる瞬間など）のとき
- 暗い場所にいるとき
- 横からすぐ目の前に割り込んできたり、すぐ目の前に飛び出してきたとき

■自転車認識について

EyeSightは自転車を認識します。自転車認識は対象物の大きさや、形状、動きから行っています。
乗員、自転車の輪郭が明瞭であり、人間のような動きが検知できるときに認識します。



⚠ 警 告

EyeSight のプリクラッシュブレーキは、条件によってはシステムが制御対象を認識できない場合があります。
特に、次の状況では、自転車を制御対象と認識できない可能性が高くなります。

- 他の歩行者や自転車と集団で並走しているとき
- 壁際や障害物のそばにいるとき
- 背景と似た色合いで背景に溶け込んでいるとき
- 大きな荷物を積んでいるとき
- 乗員が立ちこぎや前かがみの姿勢で走行しているとき
- 暗い場所にいるとき
- 横からすぐ目の前に割り込んできたり、すぐ目の前に飛び出してきたとき
- 自車の前を高い速度で横断してきたとき

■プリクラッシュブレーキの作動

⚠ 警 告

プリクラッシュブレーキの作動について

- プリクラッシュブレーキおよびプリクラッシュブレーキアシストを、日常の車両停止のために利用することは絶対にしない。
  - ー プリクラッシュブレーキはあらゆる状況で衝突を回避するものではありません。ブレーキの作動をプリクラッシュブレーキのみに頼っていると、衝突事故を起こす場合があります。
- 警報が作動した場合は前方や周囲を確認の上、運転者の判断でブレーキペダルを踏むなどの適切な操作をする。
- EyeSightのプリクラッシュブレーキは、主に車両への追突の回避、あるいは、追突の被害を軽減することを目的としている。また、車両以外にも自動二輪車、自転車、歩行者を制御の対象としているが、条件※によっては認識できない場合がある。横向きの車両や、対向から接近してくる車両、後退してくる車両、小動物や幼児、フェンス、壁や扉などに対しては作動しない可能性が高くなる。
- プリクラッシュブレーキは衝突が避けられないと判断した段階で作動し、衝突直前で強いブレーキをかけるように設定しているので、その効果は様々な条件※により変わる。そのため、常に同じ性能が発揮できるものではない。
- プリクラッシュブレーキが作動したとき、アクセルペダルを操作してもプリクラッシュブレーキを継続する。プリクラッシュブレーキを解除するためには、アクセルペダルを急激にまたは深く踏み込む。ただし、アクセルペダルを最も奥まで踏み込んだときは、システムがブレーキペダルとアクセルペダルの踏み間違いと判断して、プリクラッシュブレーキを継続することがある。
- 運転者がブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドルを操作していたりすると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、システムによるブレーキが作動しない場合がある。
- 制御対象物との速度差が約60 km/h（横断自転車の場合は約50 km/h）より大きい場合、EyeSightの性能限界から衝突を回避することはできない。また、速度差が約60 km/h以下（横断自転車の場合は約50 km/h以下）であっても、対象物が割り込んできた場合やステレオカメラの画角から外れた場合、視界、路面の滑りやすさなどの条件※の違いにより、止まりきれないことや作動しないこともある。また、プリクラッシュブレーキアシストも同様に条件※の違いにより作動しないことがある。

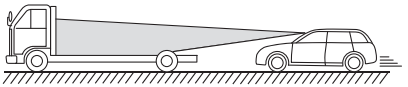
※ 条件

- 前方の車両との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合
- 車両の状態（積載量、乗員など）
- 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凹凸など）
- 前方の視界が悪いとき（雨、雪、霧、煙など）
- 対象物が車両（自動二輪車、自転車含む）、歩行者以外の場合
  - ー 動物など
  - ー ガードレール、電柱、木、フェンスや壁など
- 対象物が自動二輪車、自転車、歩行者であっても、周囲の明るさ、動きや姿勢、角度などによって、制御対象とシステムが認識できない場合
- 運転者の操作状態（アクセル、ブレーキ、ハンドルなど）から運転者が衝突回避操作をしたと判断したとき
- 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧など）
- 車両などをけん引しているとき
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき

次ページへ ⇒

- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後などブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき

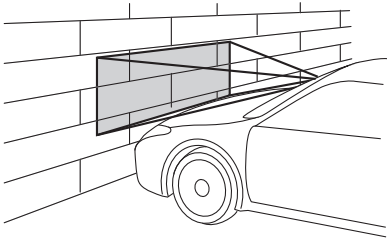
- ステレオカメラが認識しにくい状況について
  特に次の場合は止まりきれないことや、作動しない可能性が高くなります。
  - 対象物がステレオカメラの視界から外れたとき
  - 悪天候（強い雨、吹雪、濃霧）のとき
  - 先行車や対向車両の水、雪、土埃などの巻き上げや水蒸気、砂、煙が舞い、視界が十分でないとき
  - 夜間またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
  - 夜間またはトンネル内で先行車のテールランプが点灯していないとき
  - 夜間の自動二輪車、自転車、歩行者に接近したとき
  - ヘッドランプ照射範囲外に車両（自動二輪車、自転車含む）、歩行者が存在するとき
  - 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき
  - フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃などの付着や傷などがついて、ステレオカメラの視界を遮っているときや、その汚れなどに光が当たっているとき
  - フロントウォッシャーの使用中または使用後で、フロントガラスが十分に拭き取れていないとき
  - 雨滴やフロントウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野を遮ることにより、対象物の認識が不完全になったとき
  - ルーフ上に積載したカヌーなどがステレオカメラの視界を遮っているとき
  - 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
  - 真っ暗で周囲に物がないとき
  - 周囲一面が同じような色合いのとき（一面に雪景色など）
  - 前方の車両の最後面が小さい、低い、または凹凸があるとき（最後面ではない部分を認識して作動を判断することもあります）



S02133

  - 荷台にあおりがない空荷のトラックなど
  - 後端から積荷が飛び出している車両など
  - 特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなど）
  - 車高の低い車両など
  - 停車している車両の前に壁などがあるとき
  - 車両の近くに別の物体があるとき
  - 横向きの車両など
  - 対向車両や後退してくる車両など
  - 対象物の大きさや高さがステレオカメラ認識限界より小さいまたは低いとき
    - 小動物や幼児など
    - しゃがんでいる人や横たわっている人など

– 対象物がフェンスや壁、シャッターなどのとき



S00653

– 対象物がガラスや鏡の壁や扉などのとき
– 先行車が急ハンドル、急加速、急減速したとき
– 車両（自動二輪車、自転車含む）、歩行者が横からすぐ目の前に割り込んだり、すぐ目の前に飛び出してきたとき
– 自車が車線変更を行い、先行車のすぐ後ろに接近したとき
– 自車バンパーの近い位置に車両（自動二輪車、自転車含む）、歩行者が存在するとき
– 速度差が約5 km/h以下の場合（接近してから制御を行うため、対象物の形状・大きさによっては最後面がカメラの視野範囲から外れる場合があります）
– 急カーブ、急な上り坂、急な下り坂の場合
– 路面にうねりや未舗装などで凹凸があるとき
– トンネルの出入り口や高架下など明るさが変化するとき

• お客様ご自身でプリクラッシュブレーキの作動テストを絶対に行わない。
– 止まりきれないことや作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

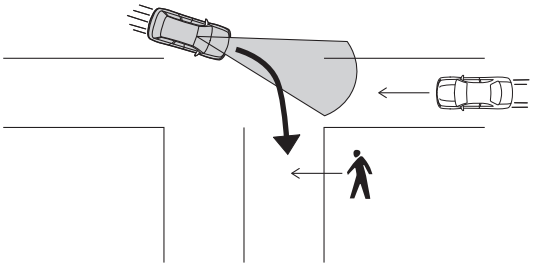
• 次の状況では、システムが正しく動作しない。プリクラッシュブレーキをOFFにする。
– タイヤの空気圧が適正でないとき※1
– 摩耗したタイヤまたは摩耗差の著しいタイヤを装着しているとき※1
– 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき※1
– パンク修理キットで応急修理をしたとき
– サスペンションを改造したとき（スバル純正品を含む）
– ステレオカメラの視界を妨げるようなものを車体に取り付けたとき
– タイヤチェーンを装着しているとき
– スペアタイヤを使用しているとき
– ヘッドランプが汚れていたり、ヘッドランプに氷雪、泥などが付着していたりするとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
– ヘッドランプの光軸がずれているとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
– ヘッドランプ、フォグランプなどのランプ類を改造したとき
– 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
– 歩行者保護エアバッグが作動したとき（ステレオカメラの視野に影響を与えるおそれがあります）
– ブレーキ警告灯（赤色）が点灯しているとき※2
– 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
– 定員を超えているとき
– コンビネーションメーターの表示灯、警告灯が正常に点灯・消灯しない場合や、ブザーが鳴らない、液晶表示が通常時と異なるなど、コンビネーションメーターに何らかの異常があるとき※3

※1: ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。
☞**P.799**参照

次ページへ ⇒

※2: ブレーキ警告灯（赤色）が消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店に連絡し、点検を受けてください。
☞P.123参照
※3: コンビネーションメーターの機能、動作
☞P.108参照

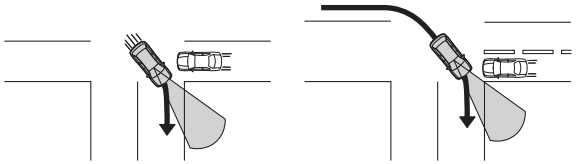
右左折時のプリクラッシュブレーキの作動について



- EyeSightの右左折時のプリクラッシュブレーキは、主に交差点内などで右折する際に、隣接する対向車線上の対向車両との衝突の回避、あるいは、衝突の被害を軽減することを目的としている。また、対向車以外にも歩行者を制御の対象としているが、条件※によっては止まりきれないことや作動しないこともある。
- 右左折時に自車速が約25 km/hを超えている場合、本機能は作動しない。また、自車速が約25 km/h以下であっても、対象物が割り込んできた場合やステレオカメラの画角から外れた場合、視界、路面の滑りやすさなどの条件※の違いにより、止まりきれないことや作動しないこともある。

※ 条件
- 対向車両との速度差、車間距離、接近する角度や対向車両の挙動の変化、横方向のずれ具合
- 車両の状態（積載量、乗員など）
- 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凹凸など）
- 前方の視界が悪いとき（雨、雪、霧、煙など）
- 対象物が対向車両、歩行者以外の場合
  - 停止中または自車と同方向に走行している車両
  - 動物など
  - ガードレール、電柱、木、フェンスや壁など
- 対象物が対向車両であっても、自車が進行方向と同方向に方向指示を点灯していない場合
- 対象物が対向車両であっても、対向車両が路肩障害物の近くを走行している場合
- 対象物が対向車両であっても、対向車両が自車線上にて停車・走行している場合
- 対象物が対向車両であっても、車両前面が見えない、夜間に対向車両がヘッドランプの無灯火などで見えにくい状況などによって、制御対象とシステムが認識できない場合
- 対象物が対向車両であっても、制御対象とシステムが認識する前に対向車の進行路に進入している場合

- 対象物が対向車両であっても、対向車線に進入している場合



501502

- 対象物が歩行者であっても、周囲の明るさ、動きや姿勢、角度などによって、制御対象とシステムが認識できない場合

特に次の場合は止まりきれないことや、作動しない可能性が高くなります。

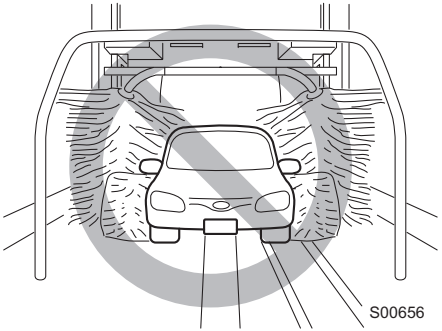
- 車両の水、雪、土埃などの巻き上げや水蒸気、砂、煙が舞い、視界が十分でないとき
- 夜間の歩行者に接近したとき
- ヘッドランプ照射範囲外に対向車両、歩行者が存在するとき
- 対向車両の最前面が小さい、低い、または凹凸があるとき
- 横向きの車両など
- 後退してくる車両など
- 対向車両が急ハンドル、急加速、急減速したとき
- 対向車両、歩行者が横からすぐ目の前に割り込んだり、すぐ目の前に飛び出してきたとき
- 自車バンパーの近い位置に対向車両、歩行者が存在するとき
- 運転者が急ハンドルや、ハンドルを切り戻したとき

⚠ 注 意

- 次のような場合は、プリクラッシュブレーキが予期しない作動をすることがあるので、必ずプリクラッシュブレーキをOFFにする。

☞P.456参照

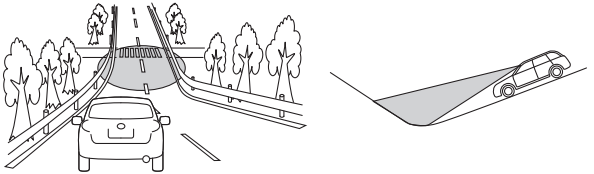
- けん引されるとき
- キャリアカーに積載するとき
- シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
- リフトアップし、エンジンをかけタイヤを空転させるとき
- 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、草むらなどに触れながら通過するとき
- サーキットなどでスポーツ走行するとき
- 車両が移動するタイプの洗車機を使用するとき



S00656

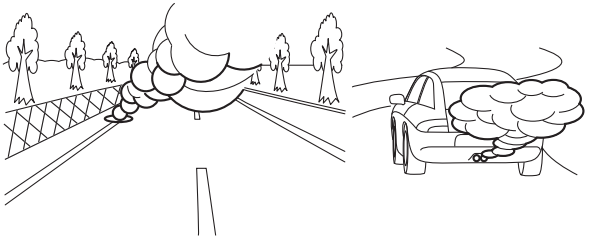
次ページへ ⇒

• 次のような場合は、プリクラッシュブレーキが作動することがあるので安全運転に努める。
  − ETC ゲートなどを規定速度を超えるような速度で通過するとき
  − 前方車両、歩行者、自転車に接近して走行するとき
  − 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき



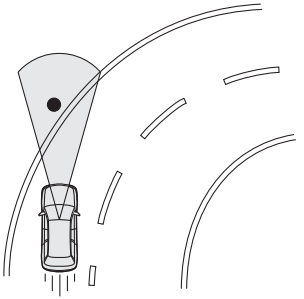
402535

  − 先行車や対向車両の水、雪、土埃などの巻き上げや水蒸気、砂、煙が舞い、視界が十分でないとき
  − 水蒸気や煙のかたまりなどを通過するとき
  − 大雪、吹雪など悪天候の中を走行するとき
  − 寒いときなど先行車が排出した排気ガスがはっきり見えるとき



402536

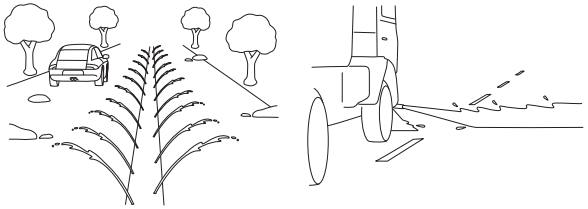
  − カーブや交差点に障害物があるとき



S02057

  − 車両や障害物、草木などの横すれすれを通過するとき
  − 前方の壁や車両すれすれに停車するとき

– 消雪パイプや散水車などの散水を通過するとき

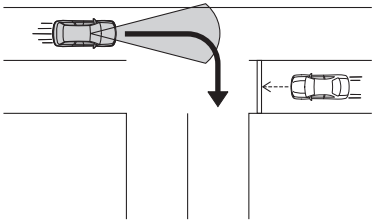


402831

– プリクラッシュブレーキを解除するためには、アクセルペダルを急激にまたは深く踏み込んでください。ただし、アクセルペダルを最も奥まで踏み込んだときは、システムがブレーキペダルとアクセルペダルの踏み間違いと判断して、プリクラッシュブレーキを継続することがあります。この場合、アクセルペダルを踏み続けるか、再度踏み込んでください。

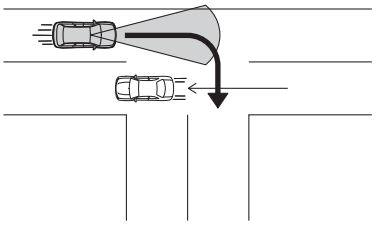
- 用品を装着したり荷物を積載し、これがフロントバンパー先端より前方に突出した場合、先端が長くなるため衝突を回避できないことがある。
- システムによるブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがあるが、異常ではなく、さらに踏み込むとブレーキを踏み増しできる。必要に応じてブレーキを踏み増しする。

- 歩行者、車両が接近していなくても以下の状況ではシステムが作動するおそれがある。
  – 右左折時に、対向車線に進入する直前に対向車両が交差点手前で減速または停止したとき



403629

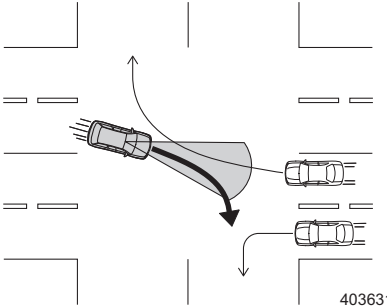
– 右左折時に、対向車線に進入する直前に対向車両が通過したとき



403630

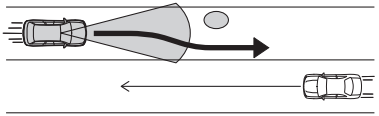
次ページへ ⇒

– 右左折時に、対向車線に進入する直前に右左折する対向車両とすれ違ったとき



403631

– 車線変更しようとしたり、障害物を避けようとしたりして、対向車両に急接近するように走行したとき



403632

– 右左折時に、自車の前を歩行者が横断したり、横断する直前で歩行者が歩みを緩めたり、止まったとき

知 識

システムによるブレーキ中に音が聞こえることがありますが制御によるものであり、異常ではありません。

走行中、前方に障害物があるとき、次の順にシステムが作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行います。ブレーキ制御中は制動灯が点灯します。

①車間距離警報：

衝突の可能性があると判断した場合に、ブザー（ピピピ…）とマルチインフォメーションディスプレイの表示で注意を促します。

ブレーキペダルを踏んで減速し、適切な車間距離をとると解除します。

車間距離警報は全車速追従機能付クルーズコントロールをセットしていないときに作動します。

②1次ブレーキおよび警報：

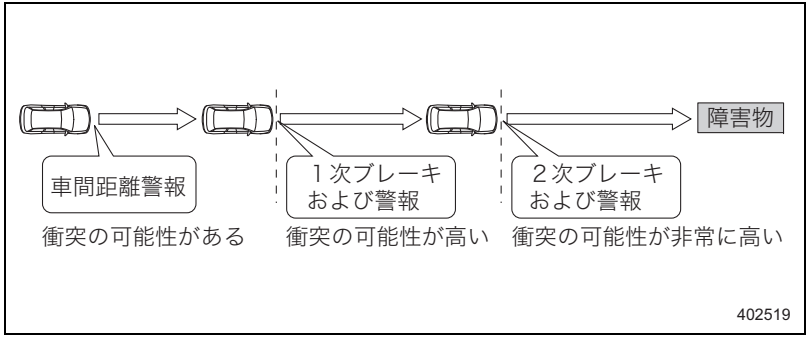
走行時に前方障害物に衝突する可能性が高いと判断した場合、ブザー（ピピピ …）とマルチインフォメーションディスプレイの表示で注意を促し、ブレーキ制御を行い、また、エンジン出力を抑制します。運転者の衝突回避操作（ブレーキペダル、ハンドルなど）の操作量により、衝突する可能性が低くなったと判断した場合、作動を解除します。

③2次ブレーキおよび警報：

さらに衝突する可能性が非常に高いと判断した場合、ブザー（ピーーー）に変わり、1次ブレーキより強くブレーキ制御を行います。その後、運転者による衝突回避操作の有無にかかわらず、衝突が回避できないと判断した場合、ブレーキ制御およびエンジン出力の抑制を継続します。

2次ブレーキにより車両が停止した場合は、車両を確実に停止させるためにブレーキペダルを踏んでください。

次ページへ ⇒



	システムによるブレーキの強さ	マルチインフォメーションディスプレイの表示	警報音
車間距離警報	微弱	403076	ピピピ…
1次ブレーキおよび警報	弱い		ピピピ…
2次ブレーキおよび警報	強い		ピーーー

知 識

- 2次ブレーキで停止した後、次の場合はブレーキ制御を解除します。
  - ブレーキペダルを踏んだとき
  - アクセルペダルを踏んだとき（セレクトレバーが“N”のとき以外）
  - セレクトレバーを“P”にしたとき
  - 停止後約2分間経過したとき
  - 電動パーキングブレーキが作動したとき
- 2次ブレーキで停止した後、次の場合は電動パーキングブレーキが作動します。

☞P.384参照

  - 停止後約2分間経過したとき
  - いずれかのドアを開けたとき
  - EyeSightシステムが故障したとき
  - EyeSightシステムが一時停止したとき
- 次の場合、プリクラッシュブレーキの1次ブレーキおよび2次ブレーキは作動しません。
  - 自車速が約1 km/h以下（セレクトレバーが“N”のときは約4 km/h以下）または約160 km/h以上のとき
  - 自車速100 km/h以上で走行中、対象物が歩行者、自転車のとき
  - VDCが作動しているとき
- 先行車のブレーキランプ点灯を認識した場合は、認識しない場合と比べて若干早めに減速を開始します。
- 前方障害物との速度差が大きい場合など、1次ブレーキの継続時間が長いときは、警報効果を高めるため、ブレーキを強めたり弱めたりする場合があります。

プリクラッシュブレーキが作動すると、マルチインフォメーションディスプレイにプリクラッシュブレーキが作動したことを通知する割り込み画面を一定時間表示します。

- 車両の停止までブレーキ制御が継続した場合
  停車後もブレーキペダルが踏まれない場合は運転者にブレーキペダルを踏むことを促すために割り込み画面を表示し、ブザー（ピー）が鳴ります。この画面はブレーキペダルを踏むまで約 2 分間表示されます。

402548

- 車両の停止までブレーキ制御が継続しなかった場合
  メーターにプリクラッシュブレーキが作動したことを通知する割り込み画面を表示します。

403083

■プリクラッシュブレーキアシストの作動

プリクラッシュブレーキ作動後（前方障害物に衝突する可能性が高いと判断後)、運転者がブレーキペダルを踏み込んだとき、緊急制動と判断し、ブレーキアシストが作動します。

☞P.382参照

⚠ 注 意

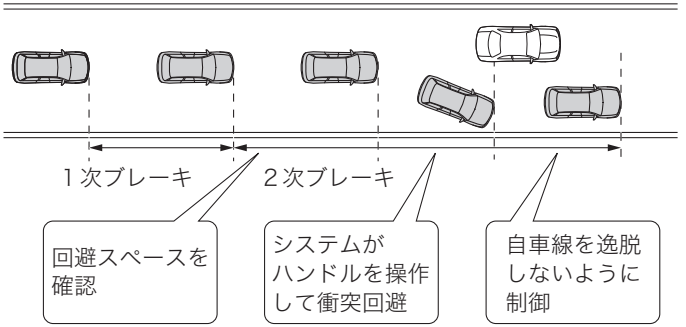
車間距離警報だけ作動している状態で運転者がブレーキペダルを踏んでも、プリクラッシュブレーキアシストは作動しません(運転者による通常の制動力で減速します)。

知 識

プリクラッシュブレーキアシストは、自車速が約 10 km/h 以下または約 160 km/h 以上のときは作動しません。

■緊急時プリクラッシュステアリングの作動

走行中、前方に障害物があるとき、衝突を回避するため、プリクラッシュブレーキ（1次ブレーキ／2次ブレーキ）が作動します。2次ブレーキ作動後、システムが区画線のある道路を走行中であることを判別し、自車線内に回避スペースがあるか判断します。また同時に後側方レーダーによって、後側方の接近車両の有無も確認します。2次ブレーキのみでは障害物に衝突する可能性が非常に高い場合、これらの情報から緊急時プリクラッシュステアリングが作動し、自車線内で障害物を回避するようにハンドルを制御します。障害物回避後は、自車線内を逸脱しないようにハンドル制御を継続します。



403537

⚠ 警 告

- EyeSightの緊急時プリクラッシュステアリングは、車両、自転車、歩行者への追突への回避、あるいは追突の被害を軽減することを目的としている。しかし、条件によって対象を認識できない場合には作動できない可能性がある。
- 緊急時プリクラッシュステアリングが作動した場合は前方や周囲を確認の上、運転者の判断でハンドル操作やブレーキペダルを踏むなどの適切な操作をする。
- 緊急時プリクラッシュステアリングは、プリクラッシュブレーキでは衝突が避けられないと判断し、走行状況や、認識対象への作動条件を満たしている場合に作動するように設定しているため、その効果は様々な条件により変わる。そのため、常に同じ性能が発揮できるものではない。
- 緊急時プリクラッシュステアリングは、プリクラッシュブレーキが解除された場合は、作動しない。また、プリクラッシュブレーキの減速度が十分に出ていない時は作動しない。
- 運転者がハンドルを操作していたりすると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、システムによるハンドル操作が作動しない場合がある。
- 緊急時プリクラッシュステアリングは運転者がハンドルを持っていないと判断したときは作動しない。
- 自車速約 80 km/h を超えている場合は、作動しない。また、自車速約80 km/h以下であっても、他の車両が急に割り込んだ場合や、視界、路面の滑りやすさなどの条件※の違いにより、衝突回避できないことや作動しないこともある。

※ 条件

- 車両の状態（積載量、乗員など）
- 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凹凸など）
- 前方の視界が悪いとき（雨、雪、霧、煙など）
- 対象物が自転車、歩行者であっても、周囲の明るさ、動きや姿勢、角度などによって、制御対象とシステムが認識できない場合
- 対象物が車両（自転車を含む）、歩行者と識別できた場合でも、横断しているときや、割り込み車両のような対象物が横移動していることが判断できた場合
- 自車前方の中央付近にいる車両、自転車または歩行者と衝突するとき
- 運転者の操作状態（アクセル、ブレーキ、ハンドルなど）から運転者が衝突回避操作をしたと判断したとき
- 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧など）
- 車両などをけん引しているとき
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後などブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき
- 障害物が「車両・自転車・歩行者」と識別できていないとき
- 区画線が検出できていないとき
- 運転者のハンドル操作を検出できていないとき
- 直線路を走行していないとき
- 急勾配な路面を走行しているとき

- ステレオカメラが認識しにくい状況について
  特に次の場合は衝突回避できないことや、作動しない可能性が高くなる。
  - 工事などによる車線規制や仮設の車線があるとき
  - カーブがある道
  - 古い区画線が残っているとき
  - 路面に雪や水たまり、融雪剤が残っているとき
  - 路面にひび割れや補修の跡があるとき

次ページへ ⇒

– 凍結路や積雪路など滑り易い路面
タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。
– インターチェンジ、ジャンクションなどの急カーブや、サービスエリア、パーキングエリア、料金所などに進入するとき
– 対象物の近くへ、周辺の車両、自転車、歩行者が接近しているとき
– 自車に対向車両、追い越し車両が接近しているとき
– 対象物の車、自転車、歩行者が横方向に移動しているとき
– 自車走行車線がステレオカメラから見て認識しづらいとき（区画線（白線など）が無いまたは消えかかっている。または区画線の色が路面の色と似ていて見えにくい。または区画線の幅が細いなど）
– 隣接車線の前方から車両が接近してきたとき
– 自車線内に回避できるスペースがないとき
– リヤバンパーの付近が汚れていたり、氷雪、泥などが付着していたりするとき
– リヤバンパーにキズ・へこみ・ズレなどがあるとき
– 雪道、水たまりなど、ぬれた路面を走行し、自車や周囲の車両が路上の水や雪などを巻き上げているとき

• お客様ご自身で緊急時プリクラッシュステアリングの作動テストを絶対に行わない。
– 止まりきれないことや作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

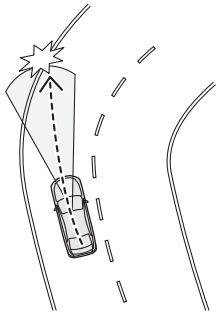
• 次の状況では、システムが正しく動作しない。緊急時プリクラッシュステアリングをOFFにする。

☞P.456参照

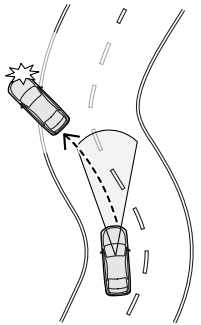
– タイヤの空気圧が適正でないとき※1
– 摩耗したタイヤまたは摩耗差の著しいタイヤを装着しているとき※1
– 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき※1
– ホイールバランスが異常なとき（バランスウェイトの脱落、ずれなど）※1
– ホイールアライメントが規定値から外れているとき※1
– ハンドルに異常な振動を感じるとき、または通常よりもハンドルが重いと感じるとき
– ハンドルを指定品以外に交換しているとき
– 車両などをけん引しているとき
– パンク修理キットで応急修理をしたとき
– サスペンションを改造したとき（スバル純正品を含む）
– ステレオカメラの視界を妨げるようなものを車体に取り付けたとき
– タイヤチェーンを装着しているとき
– スペアタイヤを使用しているとき
– ヘッドランプが汚れていたり、ヘッドランプに氷雪、泥などが付着していたりするとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
– ヘッドランプの光軸がずれているとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
– ヘッドランプ、フォグランプなどのランプ類を改造したとき
– 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
– 歩行者保護エアバッグが作動したとき（ステレオカメラの視野に影響を与えるおそれがあります）
– ブレーキ警告灯（赤色）が点灯しているとき※2
– ステアリング制御警告灯が点灯しているとき
– 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
– 定員を超えているとき
– メーターの表示灯、警告灯が正常に点灯・消灯しない場合や、ブザーが鳴らない、液晶表示が通常時と異なるなど、メーターに何らかの異常があるとき※3

※1: ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。
☞P.799参照
※2: ブレーキ警告灯（赤色）が消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店に連絡し、点検を受けてください。
☞P.123参照
※3: メーターの機能、動作
☞P.108参照

- 次に挙げる状況などでは、ステレオカメラでの区画線の認識が困難な場合があり、システムが適切に動作できないおそれがある。
  - 夜間、またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
  - 悪天候時（雨天、降雪、濃霧など）
  - 路面がぬれて光が反射しているとき
  - 車線内に道路標示（矢印や文字など）が存在しているとき
  - 車間距離が短く、区画線が見づらいとき
  - 隣車線から車が割り込んできたとき、または前方の車が車線変更したとき
  - カーブの形状が急激に変化するとき

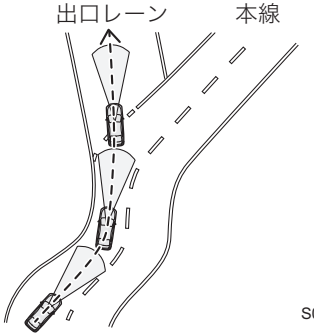

S02856

  - 区画線の上にガードレールなどの影が重なっているとき
  - 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき
  - 車線の幅が狭いとき、あるいは広いとき
  - 車線の幅が変化したとき
  - 車線がステレオカメラの認識性能から見て認識しづらいとき
    - 区画線がない、または消えかかっている
    - 区画線が黄色で描かれている
    - 区画線の色が路面の色と似ていて見えにくい
    - 区画線が二重に描かれている
    - 区画線の幅が細いなど
    - 区画線以外の線が路面に描かれている
    - 区画線に壁やポールが隣接している
  - 区画線の形状が急激に変化するとき（カーブの出入り口、クランク、カーブが連続している道路など）


S03217

次ページへ ⇒

－ 高速道路のインターチェンジ、ジャンクション、サービスエリア、パーキングエリア入口などの分岐レーンに差しかかったとき

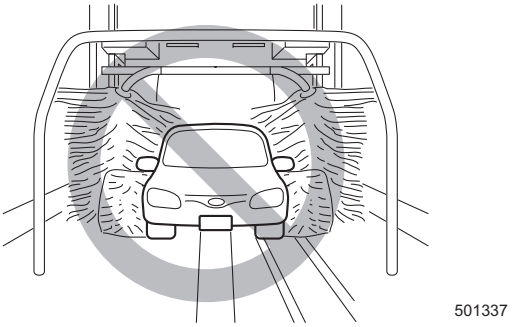


－ 路肩に縁石や側壁があるとき
－ トンネルの出入り口や高架下など明るさが変化するとき

⚠ 注 意

次のような場合は、緊急時プリクラッシュステアリングが予期しない作動をすることがありますので、必ず緊急時プリクラッシュステアリングをOFFにしてください。
☞**P.456**参照

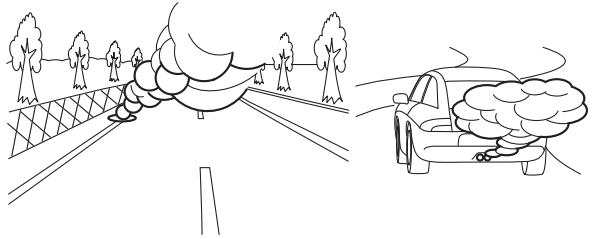
- けん引されるとき
- キャリアカーに積載するとき
- シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
- リフトアップし、エンジンをかけタイヤを空転させるとき
- 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、草むらなどに触れながら通過するとき
- サーキットなどでスポーツ走行するとき
- 車両が移動するタイプの洗車機を使用するとき



次のような場合は、緊急時プリクラッシュステアリングが作動することがありますので安全運転に努めてください。

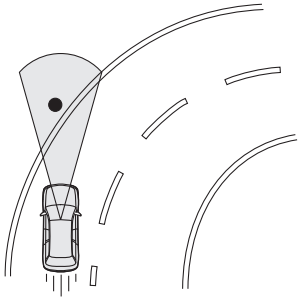
- 前方車両、歩行者、自転車に接近して走行するとき
- 先行車や対向車両の水、雪、土埃などの巻き上げや水蒸気、砂、煙が舞い、視界が十分でないとき
- 水蒸気や煙のかたまりなどを通過するとき
- 大雪、吹雪など悪天候の中を走行するとき

- 寒いときなど先行車が排出した排気ガスがはっきり見えるとき



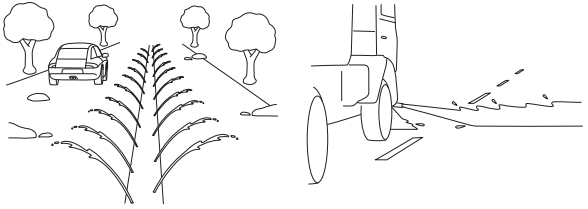
402536

- カーブや交差点に障害物があるとき



501585

- 車両や歩行者、自転車、障害物、草木などの横すれすれを通過するとき
- 遮蔽物からの急な飛び出し、自車横から急な割り込みに対しシステムが認識できないとき
- 障害物が急に移動し始めたとき
- 自車走行車線の区画線が無いが、隣接車線・沿道との間が、路面の色の違いで区分けされているとき
- 道路上の汚れ、亀裂、縁石などが、自車走行車線の区画線との区別がつきにくいとき
- 道幅が狭く、自車走行車線と対向車線の区画線の区別がつきにくいとき
- 消雪パイプや散水車などの散水を通過するとき



402831

- 緊急時プリクラッシュステアリングを解除するためには、ハンドル操作をするか、アクセルペダルを踏み込む。
- 用品を装着したり荷物を積載し、これがフロントバンパー先端より前方に突出した場合、先端が長くなるため衝突を回避できないことがある。

次ページへ ⇒

知 識

次のようなときは緊急時プリクラッシュステアリングは作動しません。

- プリクラッシュブレーキシステムがOFFのとき
- SRVDがOFFのとき
- 対象が対向車両のとき
- 自転車、歩行者、車両が自車両の前を横断するとき
- 回避するための十分なスペースが無いとき、また回避スペース周辺に別の物体が検出されたとき
- 自車の前方、または後方より移動物が接近しているとき
- 車線、区画線が検出できないとき
- ガードレールなどの構造物に対してプリクラッシュブレーキが作動しているとき
- システムがステアリング制御で回避しきれないと判断したとき
- EyeSightシステムが一時停止したとき
- EyeSightシステムが故障したとき

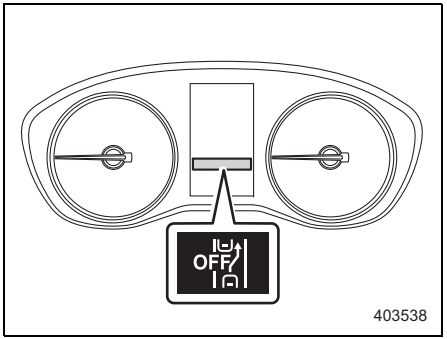
緊急時プリクラッシュステアリングが作動すると、メーターに緊急時プリクラッシュステアリングが作動したことを通知する割り込み画面を一定時間表示します。

☞**P.446**参照

■緊急時プリクラッシュステアリングの一時停止および故障

緊急時プリクラッシュステアリングが一時停止すると、緊急時プリクラッシュステアリングOFF表示灯が点灯します。状況が改善されると正常復帰します。
また、極めて高温または低温の環境で使用したときや、バッテリー電圧の異常が発生したとき表示されます。

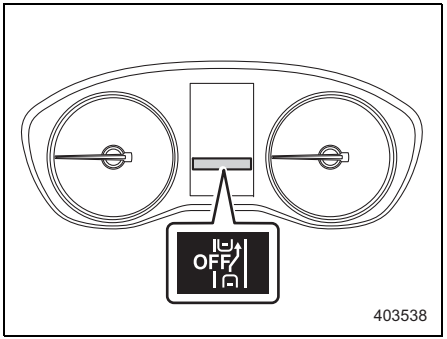
緊急時プリクラッシュステアリングOFF表示灯が長時間点灯し続ける場合は故障のおそれがありますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。



●緊急時プリクラッシュステアリングOFF表示灯

- プッシュエンジンスイッチを ON にすると点灯し、エンジン始動後約10秒後に消灯します。
- 緊急時プリクラッシュステアリングをOFFにすると点灯します。

☞P.456参照



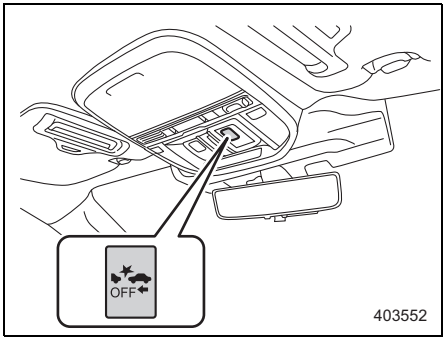
知 識

SRVDがOFFのときは、緊急時プリクラッシュステアリングは使用できません。その時は、緊急時プリクラッシュステアリングOFF表示灯が点灯します。

■プリクラッシュブレーキをOFFにするとき

プリクラッシュブレーキOFFスイッチを長押しするとブザー（ピッ）が鳴り、プリクラッシュブレーキ（プリクラッシュブレーキアシストを含む）、緊急時プリクラッシュステアリングがOFFになります。OFFにすると、メーター内のプリクラッシュブレーキOFF表示灯が点灯します。

ON に戻すときは再度プリクラッシュブレーキ OFF スイッチを長押ししてください。ON になると、ブザー（ピッ）が鳴り、プリクラッシュブレーキOFF 表示灯が消灯します。



●プリクラッシュブレーキOFF表示灯

プッシュエンジンスイッチを ON にすると点灯し、エンジン始動後約10秒後に消灯します。

プリクラッシュブレーキ、緊急時プリクラッシュステアリング、AT誤発進抑制制御および AT 誤後進抑制制御を OFF にすると点灯します。

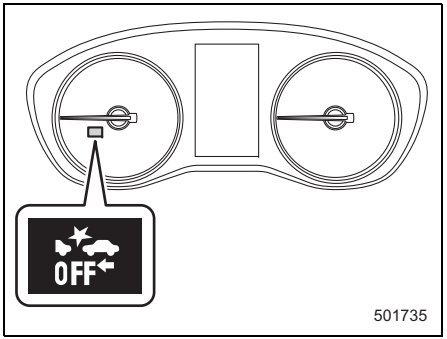
また、次の場合にも点灯します。

- EyeSightシステムが故障したとき

☞**P.571**参照

- EyeSightシステムが一時停止したとき

☞**P.572**参照



知 識

- プリクラッシュブレーキのON／OFF設定は、緊急時プリクラッシュステアリング、AT誤発進抑制制御およびAT誤後進抑制制御と連動します。
- プリクラッシュブレーキを OFF にしても、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてから、再度エンジンを始動するとプリクラッシュブレーキは ON になります。

知 識

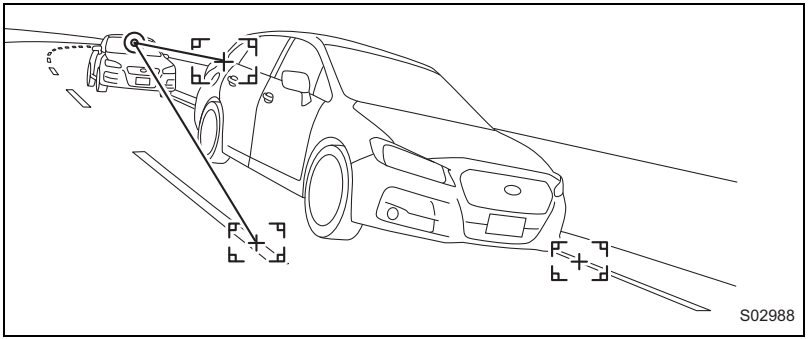
- プリクラッシュブレーキ OFF 表示灯が点灯した場合、緊急時プリクラッシュステアリングOFF表示灯も点灯します。

☞**P.455**参照

- プリクラッシュブレーキ OFF 表示灯が点灯しているときは、プリクラッシュブレーキ（プリクラッシュブレーキアシストを含む）、緊急時プリクラッシュステアリング、AT誤発進抑制制御およびAT誤後進抑制制御は作動しません。
- SRVD が OFF のときは、緊急時プリクラッシュステアリングは使用できません。その時は、緊急時プリクラッシュステアリングOFF表示灯が点灯します。

ツーリングアシスト

渋滞走行や高速走行を含めた自動車専用道路での運転負荷軽減を目的とした運転支援システムです。全車速追従機能付クルーズコントロールと、それに連動して作動する車線中央維持・先行車追従操舵機能により、アクセル・ブレーキ・ハンドルをシステムが制御することで運転をアシストします。



■全車速追従機能付クルーズコントロール

全車速追従機能付クルーズコントロールは、高速道路や自動車専用道路でのドライブをより快適に行っていただくための運転支援システムです。先行車をステレオカメラで認識し、運転者が設定した車速を上限に、先行車に対して追従走行を行います。先行車に追従して停止したときは、電動パーキングブレーキと連動して停止状態を保持します。全車速追従機能付クルーズコントロールは、自車速が0 km/h～約120 km/hのときに使用できます。

次ページへ ⇒

⚠ 警 告

全車速追従機能付クルーズコントロールについては次のことをお守りください。守らないと思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 全車速追従機能付クルーズコントロール機能を過信しない。
  - 全車速追従機能付クルーズコントロールの能力には限界があります。わき見運転やぼんやり運転、運転者の前方不注意や視界不良での運転操作の補助など、あらゆる走行状況を判断して自動的に運転する装置ではありません。また、追突を防止する装置ではありません。
    運転時は、常に先行車との距離や周囲の状況、運転環境に注意し、必要に応じてブレーキペダルを踏むなどして適切な車間距離を保ち、安全運転に努めてください。
- 制限速度を守り、道路状況、環境にあった適切な車速範囲にセット車速を設定する。
- 日常点検でタイヤおよびブレーキに異常がないことを確認してから使用する。

☞「メンテナンスノート」参照

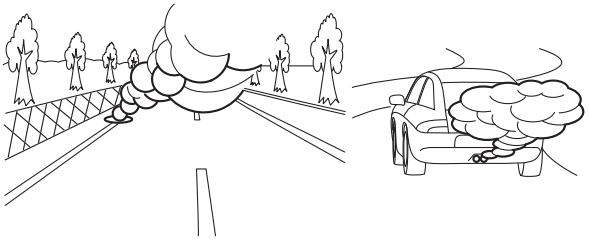
次の状況では、システムが正しく動作しません。全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。

- タイヤの空気圧が適正でないとき※1
- 摩耗したタイヤまたは摩耗差の著しいタイヤを装着しているとき※1
- 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき※1
- ホイールバランスが異常なとき（バランスウェイトの脱落、ずれなど）※1
- ホイールアライメントが規定値から外れているとき※1
- パンク修理キットで応急修理をしたとき
- サスペンションを改造したとき（スバル純正品を含む）
- ステレオカメラの視界を妨げるようなものを車体に取り付けたとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- スペアタイヤを使用しているとき
- ヘッドランプが汚れていたり、ヘッドランプに氷雪、泥などが付着していたりするとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
- ヘッドランプの光軸がずれているとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
- ヘッドランプ、フォグランプなどのランプ類を改造したとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- ブレーキ警告灯（赤色）が点灯しているとき※2
- 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
- 定員を超えているとき
- 車両などをけん引しているとき
- コンビネーションメーターの表示灯、警告灯が正常に点灯・消灯しない場合や、ブザーが鳴らない、液晶表示が通常時と異なるなど、コンビネーションメーターに何らかの異常があるとき※3

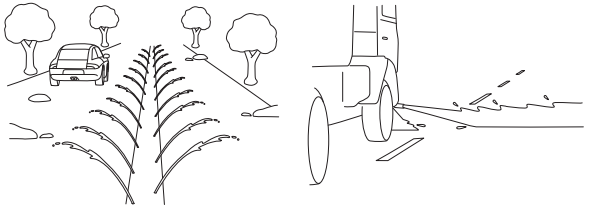
※1: ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。
☞P.799参照
※2: ブレーキ警告灯（赤色）が消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店に連絡し、点検を受けてください。
☞P.123参照
※3: コンビネーションメーターの機能、動作
☞P.108参照

全車速追従機能付クルーズコントロールは、高速道路や有料道路など、自動車専用道路での使用を想定しています。次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。

- 一般道（自動車専用道路以外）
  - 道路環境（道路が複雑な場合など）により、交通の状況に沿った走行ができない場合があり、事故につながるおそれがあります。
- 急カーブがある道
- 凍結路や積雪路など滑り易い路面
  - タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。
- 頻繁な加減速により、車間距離が保ちにくい交通状況のとき
  - 交通環境に沿った走行ができない場合があります。
- 急な下り坂
  - セットした車速を超えてしまう場合があります。
- 急な下り坂が続くとき
  - ブレーキが過熱するおそれがあります。
- 急な上り坂、下り坂を繰り返す道や陸橋など
  - 先行車を認識できなかったり、路面を認識したりして、適切に制御できないおそれがあります。
- インターチェンジ、ジャンクションなどの急カーブや、サービスエリア、パーキングエリア、料金所などに進入するとき
  - 先行車を認識できない場合があります。
- 先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土埃、または風に舞う砂や煙、水蒸気、消雪パイプや散水車などの散水が前方にあるとき
  - 先行車を認識できなかったり、水などを先行車と認識したりして、適切に制御できないおそれがあります。



402536



402831

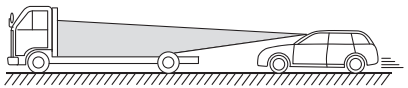
- 大雪、吹雪など悪天候の中を走行するとき
- フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃などの付着や傷などがついて、ステレオカメラの視界を遮っているときや、その汚れなどに光が当たっているとき
  - 先行車を認識できず、適切に制御できないおそれがあります。

次ページへ ⇒

- フロントガラス上の雨滴や水滴、汚れが十分に拭き取れていないとき
  - 先行車を認識できず、適切に制御できないおそれがあります。
- ルーフ上に積載したカヌーなどがステレオカメラの視界を遮っているとき

次に挙げる物体または状況では、ステレオカメラでの認識が困難な場合があります。必要に応じてブレーキペダルを踏むなどの操作を行ってください。

- 速度差が大きい車両（低速走行車両、停止車両、対向車）
- 割り込み車両
- 自動二輪車、自転車、歩行者、動物など
- 夜間またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
- 夜間またはトンネル内で先行車のテールランプが点灯していないとき
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき
- 前方の車両の最後面が小さい、低い、または凹凸があるとき（最後面ではない部分を認識して作動を判断することもあります。）



S02133

  - 荷台にあおりがない空荷のトラックなど
  - 後端から積荷が飛び出している車両など
  - 特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなど）
  - 車高の低い車両など
- トンネルの出入り口や高架下など明るさが変化するとき
- 自車バンパーの近い位置に物体があるとき

全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないときは、必ず（クルーズ）スイッチで全車速追従機能付クルーズコントロールを OFF にしてください。また、降車する際は電動パーキングブレーキを確実にかけ、セレクトレバーを“P”にしてください。

- 全車速追従機能付クルーズコントロールを ON のままにしている場合、思わぬ場面でセットしてしまうなどして、事故につながるおそれがある。

全車速追従機能付クルーズコントロールを使用するときは、同乗者や車のまわりの安全を十分確認してください。

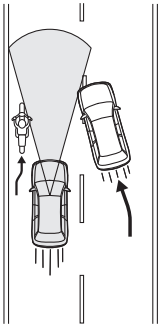
- 車外からの操作は絶対にしない。

次のような道路形状や、自車の状況によっては、ステレオカメラが先行車を認識できない場合があります。また、隣車線の車や路側の物体を認識してしまうことがあります。このような状況下では、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。使用中の場合は、必要に応じてブレーキペダルを踏むなどしてください。

ステレオカメラによる先行車の認識状態は、先行車表示灯の点灯状態で確認できます。

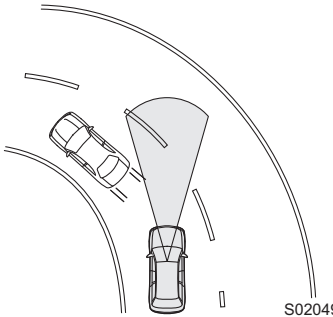
☞P.466参照

- 先行車が割り込んできたときなど、車間距離が短い状態から追従を始めたとき



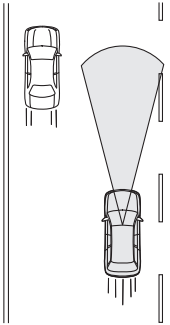
S02048

- カーブ路、カーブの出入り口、カーブが連続している道路を走行しているとき
  ー 認識エリアから外れて認識できない場合があります。



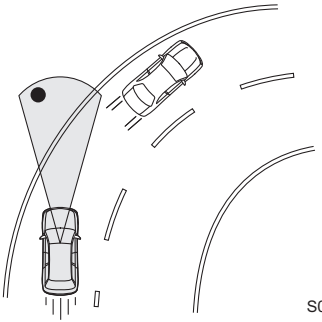
S02049

- 先行車との位置が横にずれているとき



S02050

- 道路のすぐ脇にものがあるとき



S02051

- 先行車との速度差が大きいとき
- 前方に車両が割り込んできたとき
- 極端に車間距離が短いとき
- 自車が車線内で蛇行しているとき
- 路面にうねりや未舗装などで凹凸があるとき

次ページへ ⇒

- 車線規制や工事中などで、車線の幅が狭い道路を走行しているとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- 自車の荷室やリヤシートに極端に重い荷物を積んだとき

全車速追従機能付クルーズコントロールの状況判断能力には限界があります。次の場合は減速が間に合わないことがあります。必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。

- 先行車を認識していても速度差が大きいときや、急減速したとき
- 先行車に追従し緩やかに減速中であっても、その後先行車が急激に減速したとき

ブザー（ポーンやピピピッなど）の音が頻繁に鳴るような状況では、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。

短い車間距離でも、次の場合にはブレーキ踏み増し要求警報が作動しないことがあります。

- 先行車との速度差が小さいとき（ほぼ同じ速度で走っているとき）
- 先行車の方が自車より速いとき（車間距離が次第に離れているとき）
- 他車が至近距離に割り込んできたとき
- 先行車が急減速したとき
- 上り坂、下り坂が繰り返されるとき

☞P.483参照

⚠ 注 意

- 追従走行開始後は、先行車の動きに合わせて制御を続け、先行車の停止に伴い自車も停止した場合は、停止状態を保持する。ただし、ステレオカメラが先行車を見失った場合は、停止しないことがある。ブレーキペダルを踏み車間距離を保つ。
- 停止保持状態から何も操作せずに自動で発進することはない。
- 停止保持状態で自動解除される条件を満たしたときは、全車速追従機能付クルーズコントロールの作動を解除するとともに、安全のため電動パーキングブレーキが自動的に作動する。

☞P.479参照

- 次の条件や状況によりブレーキの効きが悪くなることがある。必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速する。
  - 車両の状態（積載量、乗員など）
  - 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凹凸など）
  - 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧など）
  - 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
  - エンジン始動後に走行してからしばらくの間（暖機運転終了までを目安としてください）
  - 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
  - 水たまり走行後や洗車後など、ブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき

●全車速追従機能付クルーズコントロールの使用方法

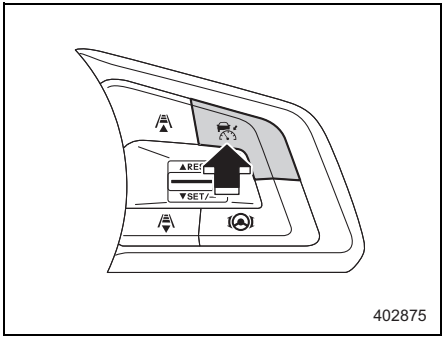
▼全車速追従機能付クルーズコントロールをセットするとき

1. 全車速追従機能付クルーズコントロールを作動可能（状態）にします。

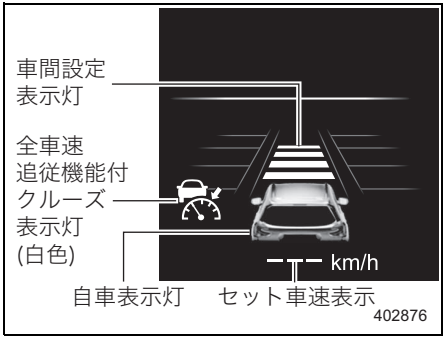
(クルーズ）スイッチを押します。

全車速追従機能付クルーズコントロールがONになり、マルチインフォメーションディスプレイのEyeSight表示部に“ ”（全車速追従機能付クルーズ表示灯）（白色）と“ ”（車間設定表示灯）および自車表示灯が点灯します。

また、“－－－km/h”（セット車速表示）を表示します。



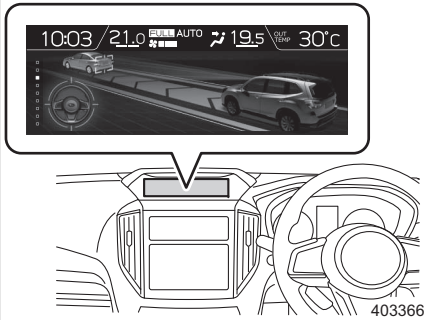
402875



402876

知 識

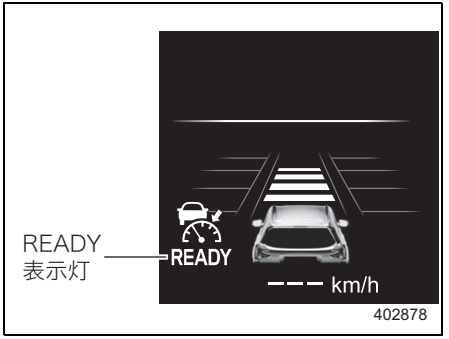
- (クルーズ) スイッチを押してクルーズメインONにすると、マルチファンクションディスプレイの表示がアイサイトに切り替わります。
  Favoriteや時計／カレンダーに戻すときは、INFOスイッチを押します。



403366

次ページへ ⇒

全車速追従機能付クルーズコントロールは、次の条件をすべて満たすとセット可能になり、EyeSight表示部に“READY”（READY表示灯）が点灯します。

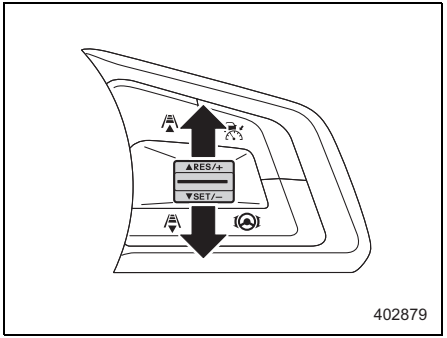


- 運転席・助手席・後席のすべてのドアが閉まっている
- 運転席シートベルトを着用している
- 電動パーキングブレーキを解除している（電動パーキングブレーキ作動灯消灯）
- セレクトレバーが“D”または“M”に入っている
- 走行中にブレーキペダルを踏んでいない、または停車中にブレーキペダルを強く踏んでいる
- EyeSightシステムが一時停止していない（“EyeSight”（EyeSight一時停止表示灯）が点灯していない）

☞P.572参照

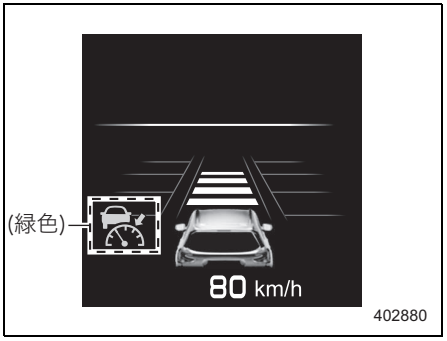
- 急な坂道でない
- ハンドルを大きく切っていない
- X（エックス）モードをONにしていない（X（エックス）モード表示灯消灯）
- 自車速が0 km/h～約120 km/hのとき
- エンジン回転数が高回転ではない
- VDC機能およびTCS機能が作動していないとき

2. 全車速追従機能付クルーズコントロールをセットします。
SET/－またはRES/＋スイッチを押します。
スイッチを押したときの車速をセット車速として、全車速追従機能付クルーズコントロールがセットされ、制御を開始します。



402879

マルチインフォメーションディスプレイにセット車速が表示され、“”（全車速追従機能付クルーズ表示灯）が白色から緑色に変わります。
また、EyeSight 表示部の “READY”（READY表示灯）が消灯します。
先行車を認識していないときは定速走行します。



402880

⚠ 警 告

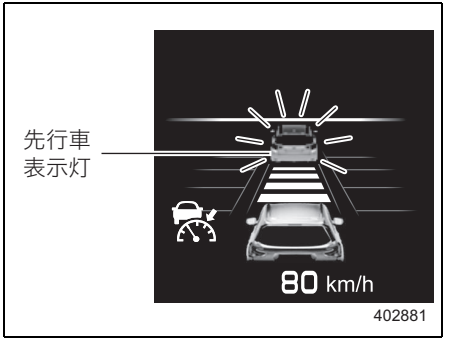
制限速度を守り、道路状況、環境にあった適切な車速範囲にセット車速を設定してください。

知 識

- 自車速が約 30 km/h 以下のときにセットした場合、セット車速は自動的に 30 km/hに設定されます。
- カーブ走行中はセット車速が自車速より高いときであっても、加速しないまたは減速することがあります。
- (クルーズ) スイッチを押しても、マルチインフォメーションディスプレイのEyeSight表示部の “” （全車速追従機能付クルーズ表示灯）が点灯しない場合は、全車速追従機能付クルーズコントロールは作動しません。
- (クルーズ) スイッチを押してもマルチインフォメーションディスプレイのEyeSight表示部の “” （全車速追従機能付クルーズ表示灯）が点灯しないことが何回も発生する場合は、システムの異常が考えられます。スバル販売店に連絡し、点検を受けてください。

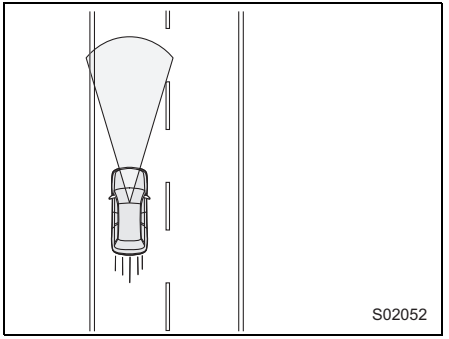
次ページへ ⇒

先行車を認識すると、ブザー（ピッ）が鳴ると同時に先行車表示灯が点灯し、所定の車間距離を保って追従走行します。このとき、セット車速が速度の上限になります。また、先行車を認識しなくなったときは、ブザー（ピッ）が鳴ると同時に先行車表示灯が消灯します。全車速追従機能付クルーズコントロール作動中に運転者がアクセルペダルを踏んで加速している間は、“ ”（全車速追従機能付クルーズ表示灯）は白色に変わります。加速が終了すると“ ”（全車速追従機能付クルーズ表示灯）は緑色に戻ります。



全車速追従機能付クルーズコントロールの作動

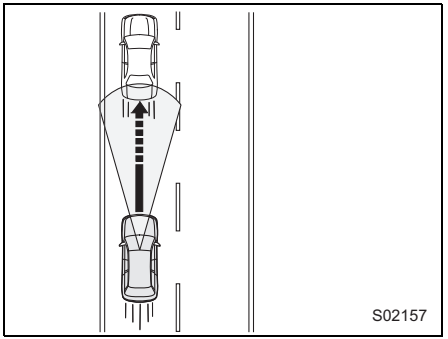
- 先行車を認識していないとき
  セット車速に応じた速度で定速走行します。



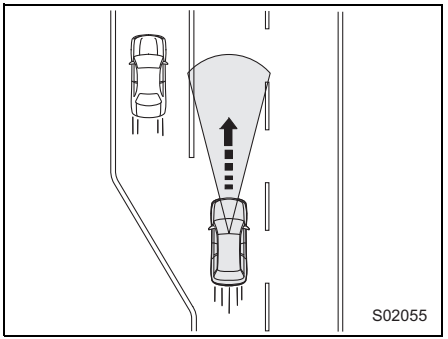
知 識

先行車を認識したとき、または先行車を認識しなくなったときのブザー（先行車捕捉音）をOFFに設定できます。
☞P.158参照

- 先行車を認識したとき
  セット車速を上限として、車速に応じた車間距離を保ちながら追従走行を行います。



- 先行車を認識しなくなったとき
  セット車速までゆっくりと加速し、定速走行を行います。
  セット車速までの加速中に先行車を認識すると、再び追従走行を行います。



次ページへ ⇒

⚠ 注 意

システムによるブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。さらに踏み込むとブレーキを踏み増しできます。ブレーキペダルから足を一度離すことにより元の状態に戻ります。

知 識

- 全車速追従機能付クルーズコントロールの制御によりブレーキが作動したときは、制動灯が点灯します。
- 先行車を認識していないときでも下り坂などではセット車速を保つため、全車速追従機能付クルーズコントロールの制御によりブレーキが作動することがあります。
- システムによるブレーキ中に音が聞こえることがありますが制御によるものであり、異常ではありません。
- 素早く加速したいとき、または加速が足りないときはアクセルペダルを踏んで加速してください。
- システムによるブレーキ作動中に先行車を認識しなくなったときは、ゆっくりとブレーキが解除されます。必要により、アクセルペダルを踏んで加速してください。
- 遠方に先行車になることができそうな物体を認識した場合、加速を早めに抑えます。
- 追従走行には、次の特性があります。
  - 先行車の車線変更を認識した場合、セット車速までの加速を早めに開始します。
  - 先行車の制動灯（ブレーキランプ）の点灯を認識した場合、認識しない場合と比べ、早めに減速を開始します。
  - 車速約 60 km/h 以上で追い越し車線側に車線変更する場合、方向指示器と連動してセット車速までの加速を早めに開始します。
  - 車速約10 km/h以上で方向指示器のレバーを操作した場合、周辺の状況に応じて、指示器方向の隣車線の車両を先行車として認識し、車速に応じた車間距離を保ちながら走行します。
- クルーズコントロール加速レベルを4段階に設定できます。

☞P.158参照

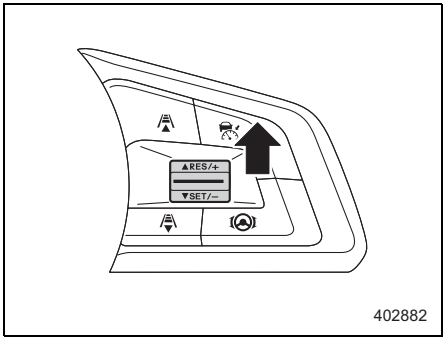
▼セット車速を上げるとき

RES/＋スイッチによる方法

全車速追従機能付クルーズコントロールをセットして走行中、RES/＋スイッチを次のように操作します。

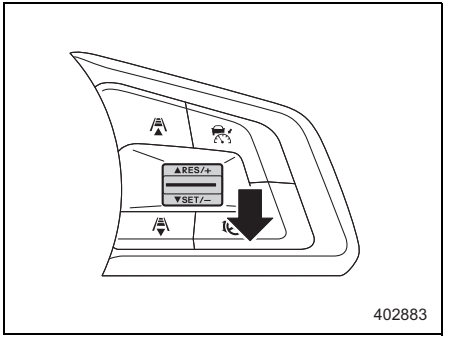
- RES/＋スイッチを1回ずつ押します
  押すごとにセット車速が 5 km/h ずつ上がります。
- RES/＋スイッチを押し続けます
  押している間、セット車速が1 km/hずつ上がります。

スイッチを操作するごとに EyeSight 表示部のセット車速が変わります。



アクセルペダルによる方法

1. アクセルペダルを踏み、速度を上げます。
2. 希望の速度になったら SET/ －スイッチを押します。
   スイッチを押したときの車速に再セットされ、EyeSight表示部に新しいセット車速を表示します。



⚠ 注 意

- 追従走行しているときは、先行車に合わせた車速で制御されるため、RES/ ＋スイッチを押して、先行車の速度以上にセット車速を上げても加速しない。
  - ー ただし、セット車速は変更されているため、先行車を認識しなくなるとその設定した車速まで加速します。
  - ー セット車速は EyeSight 表示部を確認しながら変更してください。
- 全車速追従機能付クルーズコントロールを設定中でアクセルペダルを踏んでいるときは、全車速追従機能付クルーズコントロールによるブレーキ制御も警報も行わない。
  - ー ただしこのときでも前方障害物への衝突の危険性が高いときは、プリクラッシュブレーキによる警報やブレーキ制御が作動することがあります。

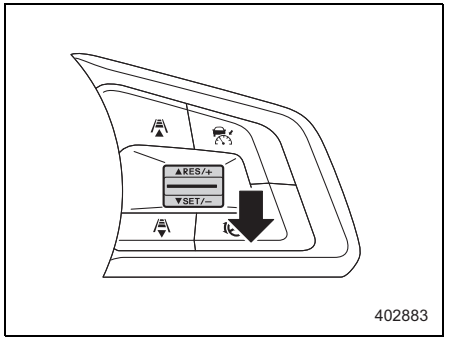
▼セット車速を下げるとき

SET/−スイッチによる方法

全車速追従機能付クルーズコントロールをセットして走行中、SET/−スイッチを次のように操作します。

- SET/−スイッチを1回ずつ押します
  押すごとにセット車速が 5 km/h ずつ下がります。
- SET/−スイッチを押し続けます
  押している間、セット車速が1 km/hずつ下がります。

スイッチを操作するごとに EyeSight 表示部のセット車速が変わります。



ブレーキペダルによる方法

1. ブレーキペダルを踏み、速度を下げます。
   全車速追従機能付クルーズコントロールが解除され、“ ”（全車速追従機能付クルーズ表示灯）が緑色から白色に戻ります。
2. 希望の速度になったらブレーキペダルから足を離し、SET/−スイッチを押します。スイッチを押したときの車速にセットされ、EyeSight表示部に新しいセット車速を表示します。

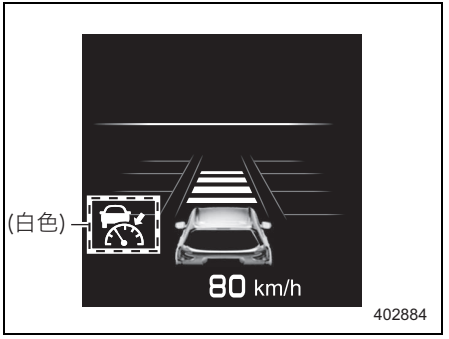
▼一時的に加速したいとき

一時的に加速したいときは、アクセルペダルを踏みます。
アクセルペダルを離すと、セット車速まで戻ります。
全車速追従機能付クルーズコントロール作動中に運転者がアクセルペダルを踏んで加速している間は、“ ”（全車速追従機能付クルーズ表示灯）は白色に変わります。加速が終了すると“ ”（全車速追従機能付クルーズ表示灯）は緑色に戻ります。

▼一時的に減速したいとき

一時的に減速するときは、ブレーキペダルを踏みます。このとき、全車速追従機能付クルーズコントロールは解除されます。
EyeSight 表示部にセット車速を表示したまま、“ ”（全車速追従機能付クルーズ表示灯）が緑色から白色に戻ります。

セット車速に再びセットする場合はブレーキペダルから足を離し、RES/＋スイッチを押します。



⚠ 注 意

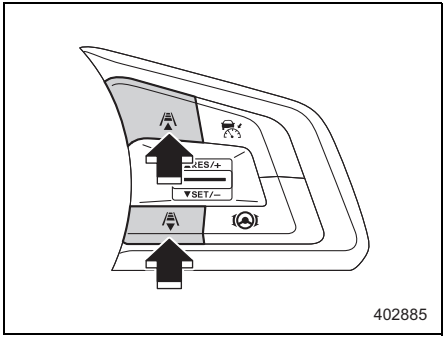
通常、追従走行中は先行車の速度に合わせてシステムが加減速を行います。しかし車線変更などで加速が必要な場合や先行車が急減速したとき、他車が割り込むなどして先行車に接近しそうになったときなどは、アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏んで、周囲の状況に応じた適切な加減速を行ってください。

▼車間距離を変えるとき

先行車との車間距離を４段階で設定できます。

: ▲側のスイッチを押すと、車間距離は長くなります。

: ▼側のスイッチを押すと、車間距離は短くなります。



知 識

- 車間距離は車速に応じて変わり、車速が高いほど長くなります。

＜車間距離の目安＞

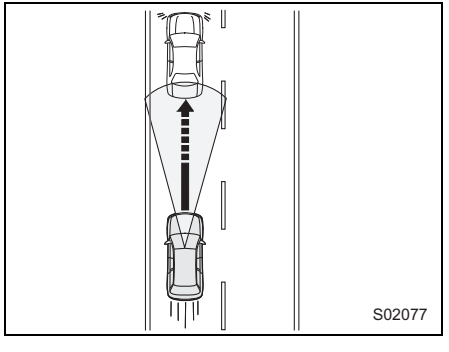
車間距離	自車の走行車速	
	約40 km/h	約100 km/h
	約30 m	約60 m
	約25 m	約50 m
	約20 m	約40 m
	約15 m	約30 m

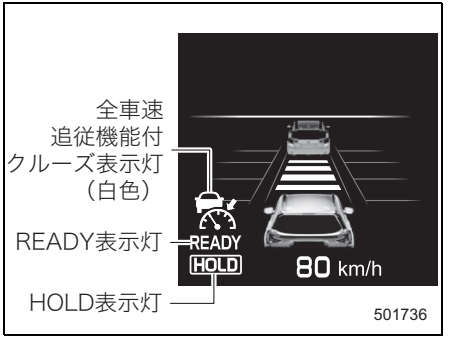
- (クルーズ) スイッチで全車速追従機能付クルーズコントロールを OFF にし、再度ONにした場合は、OFFにする前に設定した車間距離の状態を保っています。

▼停止保持機能

全車速追従機能付クルーズコントロールをセットして走行中、先行車が停止すると、それに続いて自車も停止します。

先行車に続いて停止した場合は、全車速追従機能付クルーズコントロールのセット状態が解除され、停止保持を開始します。このとき、EyeSight表示部の“HOLD”（HOLD表示灯）および“READY”（READY表示灯）が点灯します。また、“ ”（全車速追従機能付クルーズ表示灯）が緑色から白色に戻ります。





先行車の有無にかかわらず、自車の停止中にブレーキペダルを強く踏むと “READY”（READY表示灯）が点灯します。このときRES/＋スイッチ、SET/－スイッチを操作すると停止保持を開始します。

停止保持を開始すると、“HOLD”（HOLD表示灯）が点灯し、“READY”（READY表示灯）が消灯します。“READY”（READY表示灯）はブレーキペダルから足を離すと再度点灯します。

⚠ 注 意

車両が停止してから停止保持に入るまで約3秒かかります。停止保持に移行するまで、車両が動き出す可能性がありますので、周辺に注意し必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。

知 識

- ブレーキペダルを軽く踏んでいる場合、停止保持を開始できないことがあります。その場合“READY”（READY表示灯）は点灯しません。
- アイドリングストップが作動する条件を満たしているとき（アイドリングストップ表示灯（緑色）点灯）、停車するとブレーキペダルを踏まなくてもアイドリングストップが作動し、エンジンが自動停止します。アイドリングストップ中は表示灯が点灯を続けます。

☞P.578参照

停止保持状態から全車速追従機能付クルーズコントロールをセットする

- **RES/＋スイッチ、SET/－スイッチによる方法**

  先行車が停止したままの状態でも、RES/＋スイッチ、SET/－スイッチを操作すると、全車速追従機能付クルーズコントロールをセットできます（“HOLD”（HOLD 表示灯）および“READY”（READY表示灯）が消灯し、“ ”（全車速追従機能付クルーズ表示灯）が白色から緑色に変わります）。

  － SET/－スイッチを押します。セット車速は自動的に30 km/hに設定されます。

☞P.465参照

  － RES/＋スイッチを押します。停止保持前に設定したセット車速に再び設定されます。

☞P.482参照

- **アクセルペダルによる方法**

  停止保持中にアクセルペダルを踏むと停止保持を解除します。このとき全車速追従機能付クルーズコントロールがセットされた状態になります（停止保持前に設定した車速に再び設定されます）。

知 識

- 全車速追従機能付クルーズコントロールがセットされた状態で先行車が発進したときは自車も続いて発進し、追従走行を行います。ただし発進しなかったときは、約３秒後に再び停止保持状態に自動的に戻ります。
- 停止保持によりアイドリングストップが作動している場合、全車速追従機能付クルーズコントロールがセットされた状態で先行車が発進したときは、エンジンが自動で再始動し、アイドリングストップ表示灯が消灯します。

⚠ 警 告

停止保持を解除するとお車が動き出しますので、解除前には必ず周囲の安全を確認してください。

知 識

- アクセルペダルを極めて軽く踏んだ場合、停止保持が解除できず、セットできないことがあります。
- 停止保持によりアイドリングストップが作動している場合、アクセルペダルを踏むとエンジンが再始動し、アイドリングストップ表示灯が消灯します。

停止保持の解除

停止保持状態で次の操作をすると停止保持が解除され、同時に全車速追従機能付クルーズコントロールも解除されます。

- ブレーキペダルを踏む
- （クルーズ）スイッチを押す

☞**P.478**参照

- 電動パーキングブレーキスイッチを操作し、電動パーキングブレーキを作動させる

⚠ 警 告

- (クルーズ)スイッチを押して停止保持を解除したときは、車両がクリープ走行を開始するため、ブレーキペダルを踏むなどの適切な操作をする。
- 停止保持中は車から離れない。
- 駐車するときは停止保持機能を使用しない。
  - 停止保持状態は電動パーキングブレーキの代わりではありません。
- 車外に出るときは、電動パーキングブレーキを確実にかけ、セレクトレバーを “P” にしてからエンジンスイッチを OFF にする。

⚠ 注 意

次の場合は全車速追従機能付クルーズコントロールによる停止保持を解除します。

- 停止保持状態で約2分経過したとき（ブザー（ピ、ピ、ピ、ピ、ピ、ピピーン）が鳴る。）
- 自動解除条件を満たしたとき（ブザー（ピピーン）が鳴る。）

☞P.479参照

停止保持を解除した後は、自動的に電動パーキングブレーキが作動して (Ⓟ)（電動パーキングブレーキ作動灯）が点灯します。
ただし、電動パーキングブレーキの解除条件（アクセル連動や電動パーキングブレーキのスイッチ操作など）が成立している場合は作動しません。
停止保持中にアクセルペダルを極めて軽く踏み続けた場合は、全車速追従機能付クルーズコントロールによる停止保持は解除しますが、電動パーキングブレーキが作動しないことがあります。

電動パーキングブレーキ作動状態から全車速追従機能付クルーズコントロールをセットする

電動パーキングブレーキ作動状態では、例えばアクセルペダルを踏むなどして電動パーキングブレーキを解除した後、設定操作を行ってください。

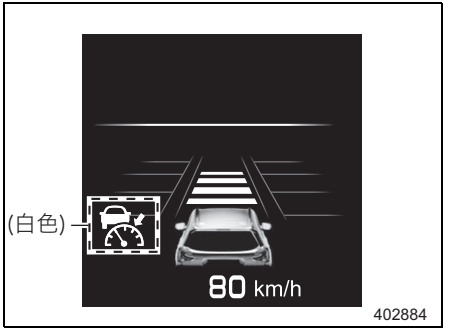
☞P.384参照

▼全車速追従機能付クルーズコントロールの解除方法

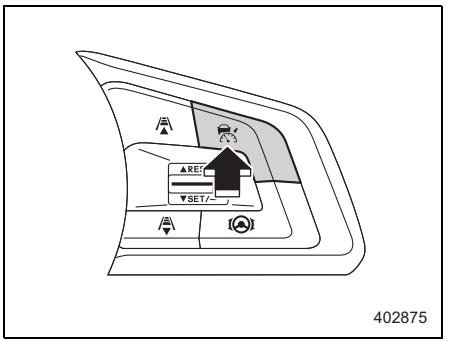
運転者の操作による解除

次のいずれかの操作で全車速追従機能付クルーズコントロールが解除されます。

- ブレーキペダルを踏む。
  - EyeSight表示部は、セット車速を表示したまま、“ ”（全車速追従機能付クルーズ表示灯）が緑色から白色に戻ります。

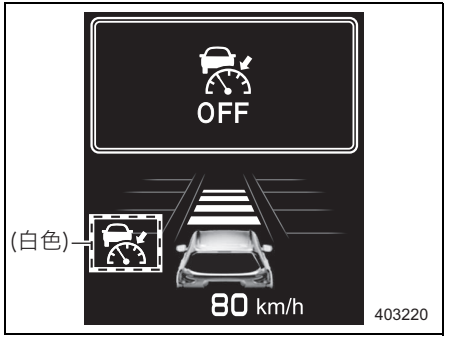


- (クルーズ）スイッチを押す。
  - EyeSight表示部は、セット車速を表示したまま、“ ”（全車速追従機能付クルーズ表示灯）が緑色から白色に戻ります。



システムによる自動解除

次の場合、ブザー（ピピーン）が鳴り、全車速追従機能付クルーズコントロールが自動的に解除され、“ ”（全車速追従機能付クルーズ表示灯）が緑色から白色に戻り、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面を表示します。システムによる自動解除が、車両が停止してから約1秒経過後、または停止保持中に発生した場合、電動パーキングブレーキが自動的に作動します。（アイドリングストップ中はエンジンが再始動し、電動パーキングブレーキが自動的に作動します。）



☞P.474参照

- 道路の勾配が急なとき
- VDC機能またはTCS機能が作動したとき
- セット中に自車速が約145 km/hを超えたとき
- ハンドルを大きく回したとき
- セレクトレバーを“D”または“M”以外にしたとき
  – セレクトレバーを“D”または“M”に戻すと、再度使用できます
- 運転席・助手席・後席のいずれかのドアを開けたとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- 電動パーキングブレーキがかかっているとき
- X（エックス）モードをONにしたとき（X（エックス）モード表示灯点灯）
  – X（エックス）モードをOFFにすると、再度使用することができます。
- 長時間連続でアクセル操作があったとき
- エンジン回転数が高回転になったとき
- EyeSightシステムが故障したとき（EyeSight表示部に“EyeSight”（EyeSight警告表示灯；黄色）が点灯している）

☞P.571参照

次ページへ ⇒

- EyeSightシステムが一時停止状態のとき（EyeSight表示部に“Eye Sight”（EyeSight一時停止表示灯；白色）が点灯している）

☞P.572参照

- プリクラッシュ 2次ブレーキが作動したとき

⚠ 警 告

- 滑りやすい路面では全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しない。
  - 思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

- 緊急時以外はセレクトレバーを“N”にしない。
  - セレクトレバーを“N”にすると全車速追従機能付クルーズコントロールは自動的に解除されますが、エンジンブレーキが効かなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- EyeSightシステムが故障した場合は、マルチインフォメーションディスプレイに“EyeSight”（EyeSight警告表示灯）が点灯し、割り込み画面を表示する。その場合は安全な場所に停車して、一度プッシュエンジンスイッチをOFFにしてから、再度エンジンを始動する。この操作をしても表示灯が点灯し続けるときは、全車速追従機能付クルーズコントロールの使用ができない。通常走行には支障はないが、スバル販売店で点検を受ける。

☞P.571参照

- 車両が停止してから約1秒経過する前にシステムによる自動解除が行われた場合、電動パーキングブレーキは作動しない。

☞P.474参照

知 識

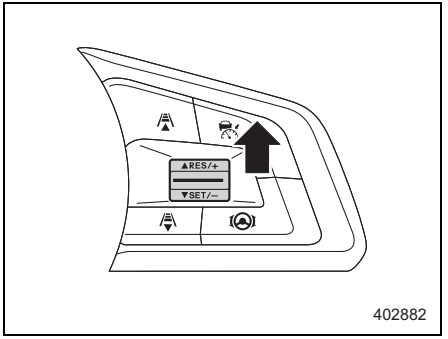
- EyeSight　システムが一時停止した場合は、マルチインフォメーションディスプレイに“EyeSight”（EyeSight一時停止表示灯）が点灯し、割り込み画面を表示します。

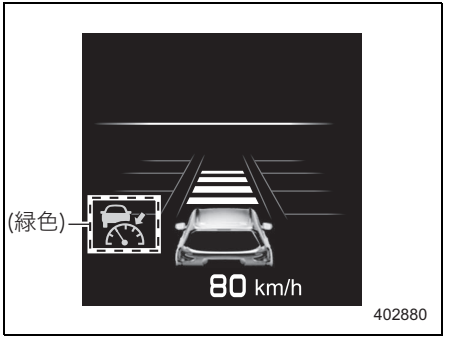
☞P.572参照

- 全車速追従機能付クルーズコントロールが自動で解除されたときは、解除されたときの条件が解消されてから、再びセット操作を行ってください。条件が解消されてもセットできないときは、EyeSightシステムの異常が考えられます。通常走行には支障ありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。

▼一時解除の復帰（セット車速の再セット）

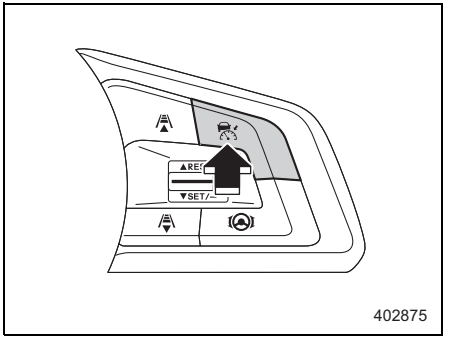
前回のセット車速がメモリーされているとき、その車速に再度セットする場合はRES/+スイッチを押します。（EyeSight表示部が再度セット状態の表示になります）





▼全車速追従機能付クルーズコントロールをOFFにするとき

全車速追従機能付クルーズコントロール解除中に(クルーズ）スイッチを押すと(白色）が消灯し、全車速追従機能付クルーズコントロールがOFFになります。



知 識

- 次の場合はメモリーされているセット車速が消去されます。
  - − (クルーズ）スイッチを押してクルーズメインOFFしたとき
  - − 全車速追従機能付クルーズコントロールから定速クルーズコントロールに切り替えたとき
- メモリー車速（前回のセット車速）がない場合、RES/+スイッチを押すと、現在の自車速がセットされます。

☞**P.465**参照

●その他の機能

▼ブレーキ踏み増し要求警報

ブレーキ踏み増し要求警報は全車速追従機能付クルーズコントロールによる追従走行中に作動します。ブレーキ制御による減速では不十分と判断した場合、運転者に注意を促す機能です。

この機能が作動すると、ブザー（ピピピ…）が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面を表示します。

ブレーキ踏み増し要求警報が作動した場合は、ブレーキペダルを踏んで減速し、適切な車間距離を確保してください。

403076

次ページへ ⇒

⚠ 警 告

ブザー（ピピーンやピピピ … など）の音が頻繁に鳴るような状況では、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。

次の場合にはブレーキ踏み増し要求警報は作動しません。
- アクセルペダルを踏んでいるとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき

短い車間距離でも、次の場合にはブレーキ踏み増し要求警報は作動しないことがあります。
- 先行車の車速と自車の車速の差が小さいとき
- 先行車の車速が自車の車速より速いとき
- 他車が至近距離に割り込んできたとき
- 先行車が急減速したとき
- 上り坂、下り坂が繰り返されるとき

次のような先行車に対しては認識が遅れて、ブレーキ踏み増し要求警報が作動しないことがあります。
- 料金所や渋滞の最後尾で停車中の車両
- 自車速より極端に車速が遅い車両

知 識

前方約130 m以内の同一車線上の先行車を認識します。ただし、交通環境、走行状態、先行車の状態によっては認識距離が短くなる場合があります。

▼信号認識機能

全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しているときに赤信号を検知すると、ブザー（ピッ）が鳴り、赤信号を認識したことを割り込み画面でお知らせするとともに加速を緩やかにします。

全車速追従機能付クルーズコントロールをセットして走行中、次の条件をすべて満たすと割り込み画面を表示します。

- 先行車を認識していない
- 赤信号を検知
- 矢印信号を検知していない

さらに、次の条件を満たすと、加速を緩やかにします。

- 自車速がセット車速を下回っている

ただし、アクセルペダルやブレーキペダルを操作すると割り込み画面は消え、加速抑制制御も解除されます。

402554

次ページへ ⇒

⚠ 警 告

全車速追従機能付クルーズコントロールを使用する際は次のことをお守りください。守らないと思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 自動車専用道路以外では使用しない。
  - 高速道路や有料道路など、自動車専用道路での使用を想定しています。
- 信号認識機能のみに頼った運転はしない。
  - 信号認識機能は赤信号を常にお知らせする機能ではありません。また、あらゆる状況で動作するものではありません。

信号認識機能は、天候や道路の状況により検知しにくい場合があります。特に、次の状況では、システムが正しく動作しません。

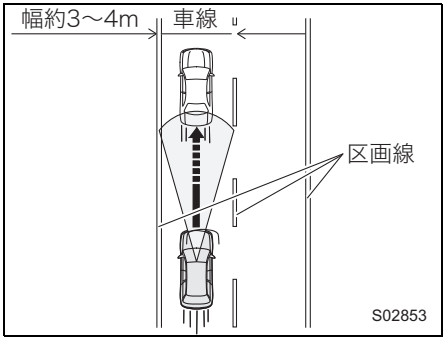
- 信号と同じくらいの高さに赤い物体があるとき（鉄道用信号、高速道路の案内掲示板など）
- 信号機に雪が付着していたり、凍結しているとき
- 悪天候時（雨天、降雪、濃霧など）
- 合流時など、走行している道路以外の信号が見えるとき
- 自車と信号機との距離が離れているとき
- 自車と信号機との距離が近く、ステレオカメラの視野範囲から外れているとき
- 矢印信号の位置が特殊なとき（信号機の上方や信号機から離れた位置にあるとき）
- 赤信号や矢印信号が暗いとき

知 識

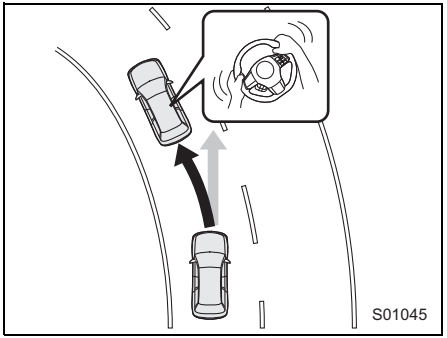
赤信号を認識して減速する機能はありません。

■車線中央維持・先行車追従操舵機能

高速道路や自動車専用道路を走行時、ステレオカメラが区画線や先行車を認識して自車の車線維持走行を補助したり、電動パワーステアリングと協調してハンドル操作をアシストするシステムです。



この機能は全車速追従機能付クルーズコントロールをセットしているときに使用できます。自車速0 km/h～約120 km/hで走行しているとき、システムが区画線または先行車を認識し、車両が車線の中央付近を維持するようにハンドル操作をアシストします。



次ページへ ⇒

⚠ 警 告

車線中央維持・先行車追従操舵機能は自動運転システムではありません。

- 車線中央維持・先行車追従操舵機能を過信しない。
  - わき見運転やハンドル手放し運転などを補助する装置ではありません。必ずハンドルを握って運転してください。
  - 車線中央維持・先行車追従操舵機能はあらゆる状況で作動するものではありません。車線の維持を車線中央維持・先行車追従操舵機能のみに頼っていると、車線のわきの障害物や隣車線の車に衝突するなどの事故につながるおそれがあります。
  - 運転時は、先行車や並走車との距離や周囲の状況、周辺環境に注意し、安全運転に努めてください。
- システムの制御量や制御タイミングがお客様の運転操作の感覚と異なる場合は、安全な運転を支援できないため、車線中央維持・先行車追従操舵機能を使用しない。
- 日常点検でタイヤおよびブレーキに異常がないことを確認してから使用する。

☞「メンテナンスノート」参照

- 次の状況では、システムが正しく動作しないため、車線中央維持・先行車追従操舵機能を使用しない。
  - タイヤの空気圧が適正でないとき※1
  - 摩耗したタイヤ、または摩耗差の著しいタイヤを装着しているとき※1
  - 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき※1
  - ホイールバランスが異常なとき（バランスウェイトの脱落、ずれなど）※1
  - ホイールアライメントが規定値から外れているとき※1
  - パンク修理キットで応急修理をしたとき
  - サスペンションを改造したとき（スバル純正品を含む）
  - ステレオカメラの視界を妨げるようなものを車体に取り付けたとき
  - タイヤチェーンを装着しているとき
  - スペアタイヤを使用しているとき
  - ハンドルに異常な振動を感じるとき、または通常よりもハンドルが重いと感じるとき
  - ハンドルを指定品以外に交換しているとき
  - ヘッドランプが汚れていたり、ヘッドランプに氷雪、泥などが付着していたりするとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
  - ヘッドランプの光軸がずれているとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
  - ヘッドランプ、フォグランプなどのランプ類を改造したとき
  - 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
  - ブレーキ警告灯（赤色）が点灯しているとき※2
  - 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
  - 定員を超えているとき
  - 車両などをけん引しているとき
  - コンビネーションメーターの表示灯、警告灯が正常に点灯・消灯しない場合や、ブザーが鳴らない、液晶表示が通常時と異なるなど、コンビネーションメーターに何らかの異常があるとき※3

※1: ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。

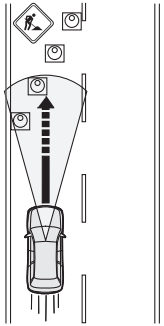
☞**P.799**参照

※2: ブレーキ警告灯（赤色）が消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店に連絡し、点検を受けてください。

☞**P.123**参照

※3: コンビネーションメーターの機能、動作について詳細は**P.108**を参照してください。

- 車線中央維持・先行車追従操舵機能は、高速道路や有料道路など、自動車専用道路での使用を想定している。次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがあるので、車線中央維持・先行車追従操舵機能を使用しない。
  - 一般道（自動車専用道路以外）
    道路環境（道路が複雑な場合など）により、交通の状況に沿った走行ができない場合があり、事故につながるおそれがあります。
  - 工事などによる車線規制や仮設の車線があるとき

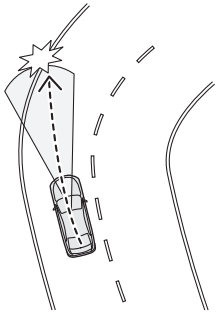


S02078

  - 急カーブがある道
  - 古い区画線が残っているとき
  - 停止車両を避けるとき
  - 路面に雪や水溜り、融雪剤が残っているとき
  - 路面にひび割れや補修の跡があるとき
  - 凍結路や積雪路など滑り易い路面
    タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。
  - インターチェンジ、ジャンクションなどの急カーブや、サービスエリア、パーキングエリア、料金所などに進入するとき
  - 先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土埃、または風に舞う砂や煙、水蒸気が前方にあるとき
  - フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃などの付着や傷などがついて、ステレオカメラの視界を遮っているときや、その汚れなどに光が当たっているとき
  - フロントガラス上の雨滴や水滴、汚れが十分に拭き取れていないため、ステレオカメラが車線を認識できないおそれがあるとき
  - ルーフ上に積載したカヌーなどがステレオカメラの視界を遮っているとき
- 次に挙げる状況などでは、ステレオカメラでの区画線の認識が困難な場合があり、システムが適切に動作できないおそれがある。
  - 夜間、またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
  - 悪天候時（雨天、降雪、濃霧など）
  - 路面がぬれて光が反射しているとき
  - 車線内に道路標示（矢印や文字など）が存在しているとき
  - 車間距離が短く、区画線が見づらいとき
  - 隣車線から車が割り込んできたとき、または前方の車が車線変更したとき

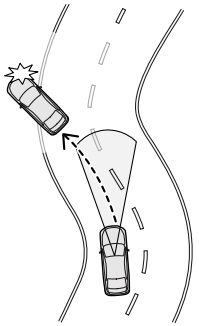
次ページへ ⇒

– カーブの形状が急激に変化するとき

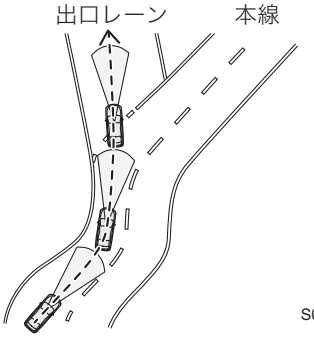


– 区画線の上にガードレールなどの影が重なっているとき
– 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき
– 車線の幅が狭いとき、あるいは広いとき
– 車線の幅が変化したとき
– 車線がステレオカメラの認識性能から見て認識しづらいとき
  • 区画線がない、または消えかかっている
  • 区画線が黄色で描かれている
  • 区画線の色が路面の色と似ていて見えにくい
  • 区画線が二重に描かれている
  • 区画線の幅が細いなど
  • 区画線以外の線が路面に描かれている
  • 区画線に壁やポールが隣接している

– 区画線の形状が急激に変化するとき（カーブの出入り口、クランク、カーブが連続している道路など）

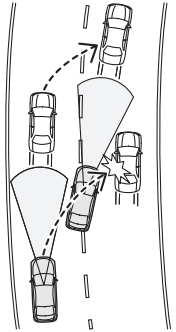


– 高速道路のインターチェンジ、ジャンクション、サービスエリア、パーキングエリア入口などの分岐レーンに差し掛かったとき



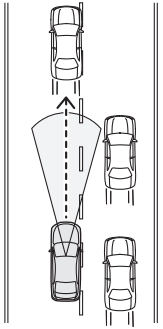
– 路肩に縁石や側壁があるとき
– トンネルの出入り口や高架下など明るさが変化するとき
– フロントウォッシャーの使用中または使用後で、フロントガラスが十分に拭き取れていないとき

- 次の状況では、ステレオカメラでの先行車の認識がしづらくなり、先行車追従操舵機能が適切に動作できないおそれがある。また、先行車の動きや周囲の交通状況により、並走車やガードレールにぶつかるなど思わぬ事故につながるおそれがある。
  - 先行車が車線変更、右左折などをするとき



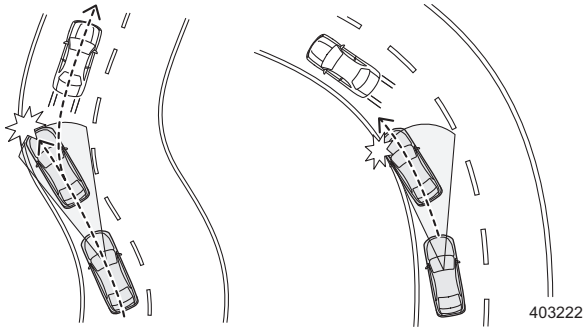
S02857

  - 先行車がふらついて走行しているとき
  - 先行車が車線の中央を走らず、区画線をまたいだり、車線の端を偏走しているとき



S02860

  - 先行車の挙動が急激に変化するとき（カーブの出入り口、クランク、カーブが連続している道路など）



403222

  - 先行車が路肩の停止車両や障害物を避けるとき
  - 自車線内または自車線近くの車両（自動二輪車など）を追い抜くとき
  - 先行車の横を自動二輪車などが並走や、すり抜けて走行しているとき
  - 先行車と自車の間に別の車両が割り込んできたとき
  - 先行車が方向指示器、非常点滅表示灯（ハザードランプ）、後部霧灯（リヤフォグランプ）を点灯しているとき
  - 夜間、またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
  - 夜間またはトンネル内で先行車のテールランプが点灯していないとき
- 先行車が特殊な形状の車両のときや周囲の環境により、先行車追従操舵機能の継続が困難な場合がある。
  - 先行車の最後面が小さい、低い、または凹凸のあるとき。荷台にあおりがない空荷のトラック、後端から積荷が飛び出している車両、特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなど）、車高の低い車両のとき
  - 先行車が軽自動車、自動二輪車などの幅の狭い車両のとき

次ページへ ⇒

- 先行車と速度差がある（先行車が離れていってしまう）とき
- 悪天候（強い雨、降雪、濃霧など）で先行車が見えづらいとき
- 先行車の最後面に太陽光やヘッドランプなどの光が反射しているとき
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき
- トンネルの出入り口や高架下など明るさが変化するとき
- フロントウォッシャーの使用中または使用後で、フロントガラスが十分に拭き取れていないとき

⚠ 注 意

- 次に挙げる状況では、車線中央維持・先行車追従操舵機能の性能を十分に発揮できないことがある。また、車線中央維持・先行車追従操舵機能が作動しないことや作動が解除されることがある。
  - 車両重量が極端に変化した直後
  - タイヤ交換直後やタイヤ空気圧調整直後
  - カメラ関係の調整・修理または交換をした直後
  - サスペンションや舵取り装置を修理・交換した直後
  - 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）や純正品以外のタイヤを装着しているとき
  - 横風を受けているとき
  - 路面勾配が急激に変化するとき（上り坂、下り坂）
  - 路面の横断方向の勾配が大きいとき、または急激に変化するとき
  - 路面の凸凹、うねり、つなぎ目
  - 加減速度が大きいとき
  - 外気温が低いときのエンジン始動直後
  - 外気温が高いとき
- 車線中央維持・先行車追従操舵機能を使用しないときは、必ず（レーンキープ）スイッチをOFFにする。
  - スイッチをONのままにしている場合、思わぬ場面で作動してしまうなどして、事故につながるおそれがあります。
- （レーンキープ）スイッチを ON にすると、電動パワーステアリングの操作力が変化することがある。

●車線中央維持・先行車追従操舵機能の作動状態

車線中央維持・先行車追従操舵機能が作動を開始すると、マルチファンクションディスプレイがアイサイト画面に切り替わり、車線中央維持・先行車追従操舵機能の作動状態を表示します。運転者の操作、またはシステムによる自動解除により、車線中央維持・先行車追従操舵機能が作動を解除したとき、アイサイト画面が車線中央維持・先行車追従操舵機能の作動状態から解除状態に切り替わります。車線中央維持・先行車追従操舵機能が解除状態のまま約10秒経過すると、割り込み前の画面に切り替わります。

車線中央維持・先行車追従操舵機能
作動状態

車線中央維持・先行車追従操舵機能
解除状態

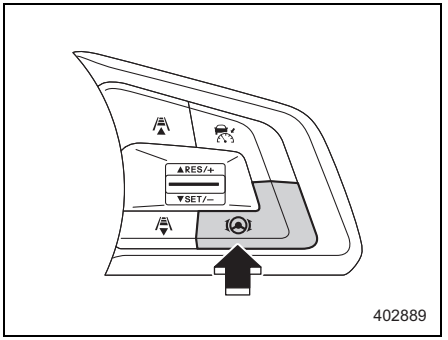
403077

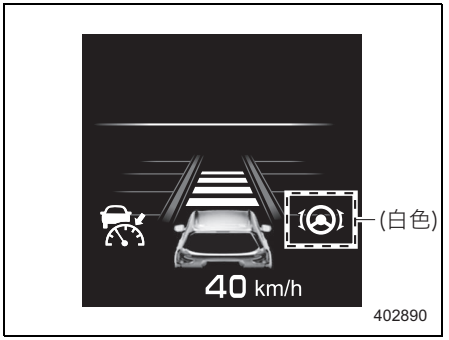
●ハンドルの操舵状況

実際のハンドルの動きに合わせて画面上のハンドルが回転します。

●車線中央維持・先行車追従操舵機能の使用方法

全車速追従機能付クルーズコントロールをセット中、(レーンキープ)スイッチを押します。
マルチインフォメーションディスプレイのEyeSight表示部に“”（レーンキープ表示灯）が点灯します（白色）。





⚠ 警 告

先行車追従操舵機能が作動しているとき（区画線を認識していないとき）は、先行車の車線変更などにも追従してハンドルを切る動きをします。常に周囲の並走車や障害物へ注意し、必要に応じてハンドルを操作してください。ハンドル操作を先行車追従操舵機能のみに頼っていると、思わぬ事故につながります。

⚠ 注 意

ハンドルを強く握っていると、システムが運転者が操作したと判断しアシストを弱める場合があります。

知 識

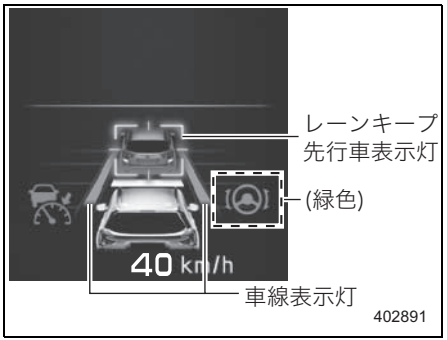
- 約 40 km/h 以下では区画線と先行車を併用して作動することがあります。
- 車線中央維持・先行車追従操舵機能をOFFに設定できます。

☞P.158参照

- “”（レーンキープ表示灯）は、プッシュエンジンスイッチを OFF にしてから、再度エンジンを始動しても、プッシュエンジンスイッチを OFF にする前の状態を保ちます。

車線中央維持・先行車追従操舵機能は、次の条件をすべて満たすと作動します。
- カスタマイズ機能で「レーンキープ 中央維持＋先行車追従」をONにしている
- 全車速追従機能付クルーズコントロールをセットしている
- 自車速0 km/h～約120 km/hで走行している
- システムが区画線、または先行車を認識している
  （先行車追従操舵機能は、約60 km/h以上では作動しません。）
- 運転者がハンドルを操作している
- 直線または、緩やかなカーブを走行している
- 車線幅約3 m～約4 mの道路を走行している（区画線を認識しているとき）
- 車線の中央付近を走行している（区画線を認識しているとき）

作動中は、マルチインフォメーションディスプレイの“”（レーンキープ表示灯）が白色から緑色に切り替わります。その時、区画線を認識して作動している場合は車線表示灯が青色に点灯し、先行車を認識して作動している場合はレーンキープ先行車表示灯が青色に点灯します。また、マルチファンクションディスプレイのアイサイト画面に、車線中央維持・先行車追従操舵機能の作動状態を表示します。



知 識

車線表示灯は、認識状態により左右片方のみが点灯することがあります（青色）。

●車線中央維持・先行車追従操舵機能の解除方法

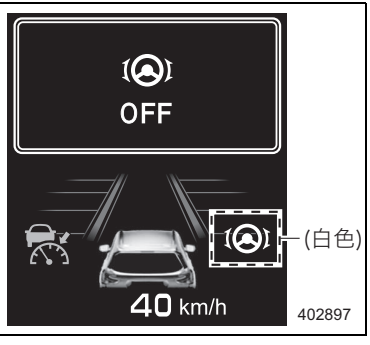
▼運転者の操作による解除

次のいずれかの操作で車線中央維持・先行車追従操舵機能が一時的に解除されます。
一時解除中は、マルチインフォメーションディスプレイの EyeSight 表示部の “” （レーンキープ表示灯）が白色に、車線表示灯が灰色になり、レーンキープ先行車表示灯が消灯します。また、マルチファンクションディスプレイのアイサイト画面が、車線中央維持・先行車追従操舵機能の作動状態から解除状態に切り替わります。

- ブレーキペダルを踏む
- (クルーズ）スイッチを押して全車速追従機能付クルーズコントロールを解除する
- 方向指示器レバーを操作する

▼システムによる自動解除

次に挙げる状況などでは、車線中央維持・先行車追従操舵機能が一時的に解除されます。その際、ブザー（ピピーン）と割り込み画面により、運転者に機能が解除されたことをお知らせします。
一時解除中は、マルチインフォメーションディスプレイのEyeSight表示部の “” （レーンキープ表示灯）が白色に、車線表示灯が灰色になり、レーンキープ先行車表示灯が消灯します。また、マルチファンクションディスプレイのアイサイト画面が、車線中央維持・先行車追従操舵機能の作動状態から解除状態に切り替わります。



- システムが両側の区画線および先行車をレーンキープの対象として認識できなくなったとき
- 全車速追従機能付クルーズコントロールがシステムにより自動解除されたとき

☞P.479参照

- 運転者が車線からそれるために、ハンドルを操作したと判断したとき
- 運転者がハンドルを大きくまたは速く切ったとき

知 識

次の場合、システムがハンドル操作を検知できず、車線中央維持・先行車追従操舵機能が一時的に解除されることがあります。

- ハンドルに手を軽く添えて運転しているとき
- 運転者のハンドル操作が小さいとき

- 急カーブに進入しようとしているとき
- 急カーブを走行しているとき
- 本機能以外の車両側のシステム要因により、ハンドル操作アシストの継続が困難と判断したとき
- 一定時間、システムが運転者のハンドル操作を検知できなかったとき

– システムがハンドル操作のないことを検知すると、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面を表示します。その状態がさらに続くと、警報音が鳴り、段階的に警告画面を表示します。
それでもハンドルを操作しない場合、車線中央維持・先行車追従操舵機能を自動解除し、ハンドルを操作するまで警報音と警告画面の表示を続けます。

402893

☞P.140参照

- EyeSight システムが故障したとき（“EyeSight”（EyeSight 警告表示灯；黄色）が点灯している）

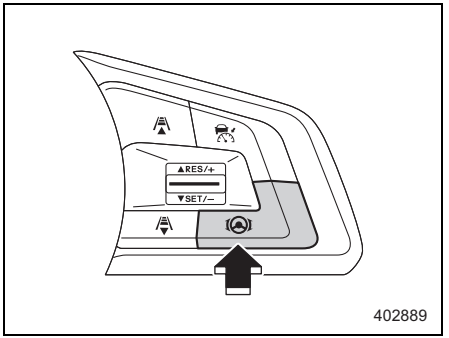
☞P.571参照

- EyeSight システムが一時停止状態のとき（“EyeSight”（EyeSight 一時停止表示灯；白色）が点灯している）

☞P.572参照

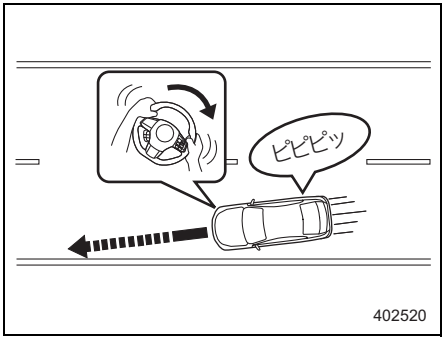
●車線中央維持・先行車追従操舵機能をOFFにするとき

(レーンキープ）スイッチを押すとOFFになり、EyeSight表示部の“”（レーンキープ表示灯）が消灯します。



●逸脱回避要求警報

車線中央維持機能の作動中に、車線を逸脱する可能性があると判断した場合、運転者に注意を促します。
逸脱回避要求警報が作動するとブザー（ピピピッ）が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面を表示します。また、逸脱する可能性のある車線側のみ、車線表示灯が黄色に点滅します。
逸脱回避要求警報が作動した場合は、ハンドルを操作して車線からの逸脱を回避してください。



⚠ 警 告

- 先行車追従操舵機能が作動中で区画線を認識していないときは、逸脱回避要求警報および車線逸脱警報は作動しない。
- 常に周囲に注意を払い、必要に応じてハンドルを操作する。車線逸脱の判断を警報のみに頼っていると思わぬ事故につながる。

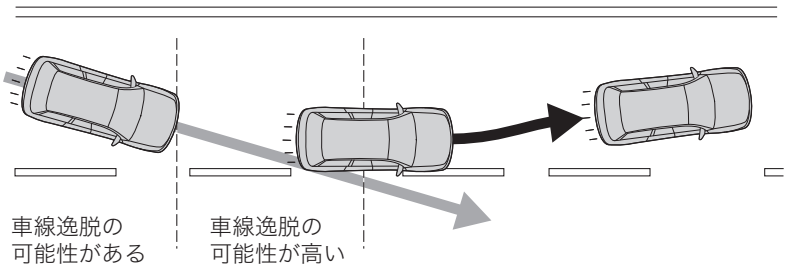
知 識

この機能は、車線逸脱警報をOFFにしても作動します。
☞P.538参照

逸脱回避要求警報が作動して、車線中央維持機能が解除されると、割り込み画面が変わります。

車線逸脱抑制機能

この機能はシステムが区画線を認識し、高速道路や自動車専用道路を自車速約60 km/h以上で走行時、車両が車線を逸脱しそうになるとシステムが車線逸脱回避方向にハンドル操作をアシストし、車線からの逸脱を抑制します。



次ページへ ⇒

⚠ 警 告

車線逸脱抑制機能は自動運転システムではありません。

- 車線逸脱抑制機能を過信しない。
  - わき見運転やハンドル手放し運転などを補助する装置ではありません。必ずハンドルを握って運転してください。
  - 車線逸脱抑制機能はあらゆる状況で作動するものではありません。車線の維持を車線逸脱抑制機能のみに頼っていると、車線のわきの障害物や隣車線の車に衝突するなどの事故につながるおそれがあります。
  - 運転時は、先行車や並走車との距離や周囲の状況、周辺環境に注意し、安全運転に努めてください。
- システムの制御量や制御タイミングがお客様の運転操作の感覚と異なる場合は、安全な運転を支援できないため、車線逸脱抑制機能を使用しない。
- 日常点検でタイヤおよびブレーキに異常がないことを確認してから使用する。

☞「メンテナンスノート」参照

- 次の状況では、システムが正しく動作しないため、車線逸脱抑制機能を使用しない。
  - タイヤの空気圧が適正でないとき※1
  - 摩耗したタイヤ、または摩耗差の著しいタイヤを装着しているとき※1
  - 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき※1
  - ホイールバランスが異常なとき（バランスウェイトの脱落、ずれなど）※1
  - ホイールアライメントが規定値から外れているとき※1
  - パンク修理キットで応急修理をしたとき
  - サスペンションを改造したとき（スバル純正品を含む）
  - ステレオカメラの視界を妨げるようなものを車体に取り付けたとき
  - タイヤチェーンを装着しているとき
  - スペアタイヤを使用しているとき
  - ハンドルに異常な振動を感じるとき、または通常よりもハンドルが重いと感じるとき
  - ハンドルを指定品以外に交換しているとき
  - ヘッドランプが汚れていたり、ヘッドランプに氷雪、泥などが付着していたりするとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
  - ヘッドランプの光軸がずれているとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
  - ヘッドランプ、フォグランプなどのランプ類を改造したとき
  - 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
  - ブレーキ警告灯（赤色）が点灯しているとき※2
  - 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
  - 定員を超えているとき
  - 車両などをけん引しているとき
  - コンビネーションメーターの表示灯、警告灯が正常に点灯・消灯しない場合や、ブザーが鳴らない、液晶表示が通常時と異なるなど、コンビネーションメーターに何らかの異常があるとき※3

※1: ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。

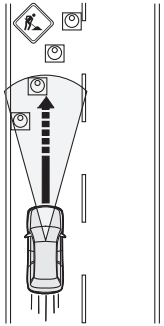
☞**P.799**参照

※2: ブレーキ警告灯（赤色）が消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店に連絡し、点検を受けてください。

☞**P.123**参照

※3: コンビネーションメーターの機能、動作について詳細は**P.108**を参照してください。

- 車線逸脱抑制機能は、高速道路や有料道路など、自動車専用道路での使用を想定している。次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがあるので、車線逸脱抑制機能を使用しない。
  - 一般道（自動車専用道路以外）
    道路環境（道路が複雑な場合など）により、交通の状況に沿った走行ができない場合があり、事故につながるおそれがあります。
  - 工事などによる車線規制や仮設の車線があるとき

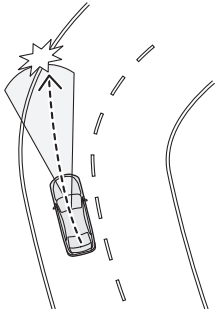


S02078

  - 急カーブがある道
  - 古い区画線が残っているとき
  - 停止車両を避けるとき
  - 路面に雪や水溜り、融雪剤が残っているとき
  - 路面にひび割れや補修の跡があるとき
  - 凍結路や積雪路など滑り易い路面
    タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。
  - インターチェンジ、ジャンクションなどの急カーブや、サービスエリア、パーキングエリア、料金所などに進入するとき
  - 先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土埃、または風に舞う砂や煙、水蒸気が前方にあるとき
  - フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃などの付着や傷などがついて、ステレオカメラの視界を遮っているときや、その汚れなどに光が当たっているとき
  - フロントガラス上の雨滴や水滴、汚れが十分に拭き取れていないため、ステレオカメラが車線を認識できないおそれがあるとき
  - ルーフ上に積載したカヌーなどがステレオカメラの視界を遮っているとき
- 次に挙げる状況などでは、ステレオカメラでの区画線の認識が困難な場合があり、システムが適切に動作できないおそれがある。
  - 夜間、またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
  - 悪天候時（雨天、降雪、濃霧など）
  - 路面がぬれて光が反射しているとき
  - 車線内に道路標示（矢印や文字など）が存在しているとき
  - 車間距離が短く、区画線が見づらいとき
  - 隣車線から車が割り込んできたとき、または前方の車が車線変更したとき

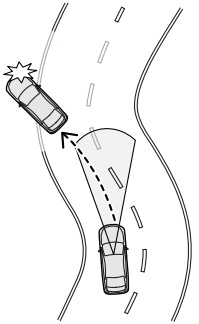
次ページへ ⇒

– カーブの形状が急激に変化するとき



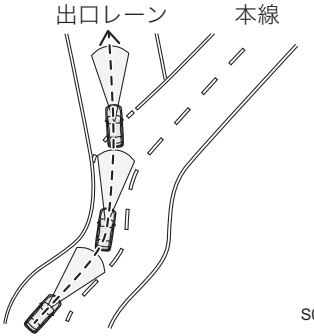
S02856

– 区画線の上にガードレールなどの影が重なっているとき
– 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき
– 車線の幅が狭いとき、あるいは広いとき
– 車線の幅が変化したとき
– 車線がステレオカメラの認識性能から見て認識しづらいとき
  • 区画線がない、または消えかかっている
  • 区画線が黄色で描かれている
  • 区画線の色が路面の色と似ていて見えにくい
  • 区画線が二重に描かれている
  • 区画線の幅が細いなど
  • 区画線以外の線が路面に描かれている
  • 区画線に壁やポールが隣接している
– 区画線の形状が急激に変化するとき（カーブの出入り口、クランク、カーブが連続している道路など）



S03217

– 高速道路のインターチェンジ、ジャンクション、サービスエリア、パーキングエリア入口などの分岐レーンに差し掛かったとき



S02854

– 路肩に縁石や側壁があるとき
– トンネルの出入り口や高架下など明るさが変化するとき
– フロントウォッシャーの使用中または使用後で、フロントガラスが十分に拭き取れていないとき

⚠ 注 意

- 次に挙げる状況では、車線逸脱抑制機能の性能を十分に発揮できないことがある。また、車線逸脱抑制機能が作動しないことや作動が解除されることがある。
  - 車両重量が極端に変化した直後
  - タイヤ交換直後やタイヤ空気圧調整直後
  - カメラ関係の調整・修理または交換をした直後
  - サスペンションや舵取り装置を修理・交換した直後
  - 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）や純正品以外のタイヤを装着しているとき
  - 横風を受けているとき
  - 路面勾配が急激に変化するとき（上り坂、下り坂）
  - 路面の横断方向の勾配が大きいとき、または急激に変化するとき
  - 路面の凸凹、うねり、つなぎ目
  - 加減速度が大きいとき
  - 外気温が低いときのエンジン始動直後
  - 外気温が高いとき
- 車線逸脱抑制機能を使用しないときは、必ず(レーンキープ）スイッチをOFFにする。
  - スイッチをONのままにしている場合、思わぬ場面で作動してしまうなどして、事故につながるおそれがあります。
- (レーンキープ）スイッチを ON にすると、電動パワーステアリングの操作力が変化することがある。

知 識

- カスタマイズ機能で「レーンキープ　中央維持＋先行車追従」を OFF に設定している場合、全車速追従機能付クルーズコントロールのセット状態にかかわらず(レーンキープ）スイッチを押すと車線逸脱抑制機能が作動します。
- 車線逸脱抑制機能が長時間連続で作動した場合は、警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面を表示します。
- ハンドルを操作せず、連続して車線逸脱抑制機能が作動した場合も警報音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面を表示します。このとき、作動回数によっては車線逸脱抑制機能の作動が終了しても、警報を続ける場合があります。

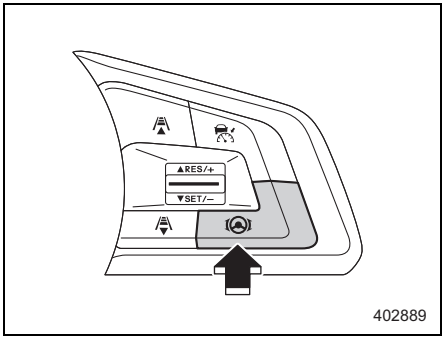
☞P.140参照

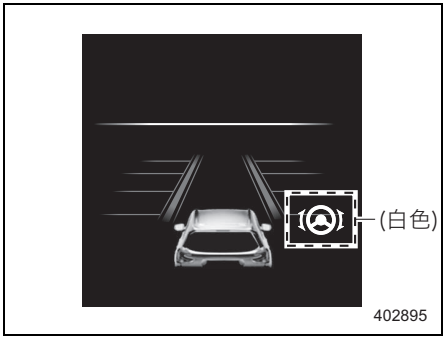
- 一定時間、車線逸脱抑制機能が作動していない、または車線逸脱抑制機能が解除されると警報が終了します。

☞P.508参照

■車線逸脱抑制機能の使用方法

(レーンキープ）スイッチを押します。
車線逸脱抑制機能がONになり、マルチインフォメーションディスプレイのEyeSight表示部に“”（レーンキープ表示灯）が点灯します（白色)。





車線逸脱抑制機能は、次の条件をすべて満たすとスタンバイ状態になり、車線表示灯が点灯します。

- 自車速約60 km/h～約120 km/hで走行している
- システムが区画線を認識している
- 運転者がハンドルを操作している
- 全車速追従機能付クルーズコントロールをセットしていない。または、カスタマイズ機能で「レーンキープ 中央維持＋先行車追従」をOFFに設定している
- 車線幅約3 m～約4 mの道路を走行している
- 直線、または緩やかなカーブを走行している
- 車線の中央付近を走行している

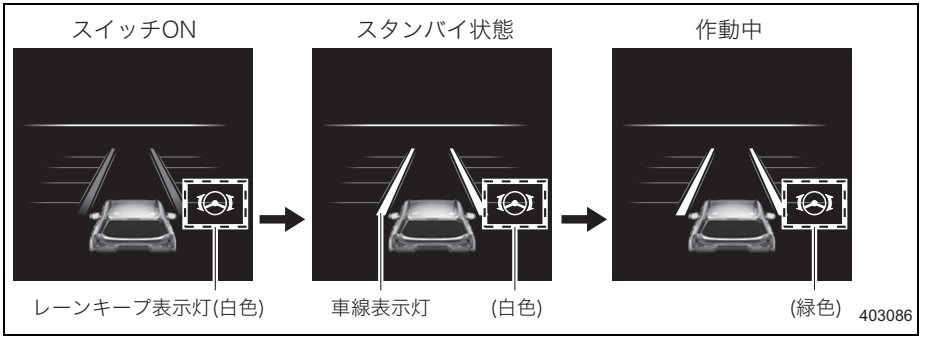
知 識

- 車線逸脱抑制機能をONにした後、全車速追従機能付クルーズコントロールをセットすると、車線逸脱抑制機能から車線中央維持・先行車追従操舵機能に切り替わります（ただし、カスタマイズ機能で「レーンキープ 中央維持＋先行車追従」をONに設定しているとき）。

☞P.158参照

- ハンドルに手を軽く添えた状態が続いたり、ハンドルを操作していない場合、機能が一時的に解除されます（“”（レーンキープ表示灯）が緑色から白色に戻り、車線表示灯が消灯します）。
- 車線逸脱抑制機能は、そのままでは車線から逸脱するとシステムが判断したときに作動します。そのため、車線逸脱警報に比べて早いタイミングで作動します（周囲の環境，道路状況によって異なります）。
- 車線表示灯は、スタンバイ状態または作動中に片側のみ表示されることがあります。
- 車線逸脱抑制制御およびエマージェンシーレーンキープアシストが両方ともONにしているときは、以下のように制御が切り替わります。
  - エマージェンシーレーンキープアシスト作動後、後方車両が接近しなくなった後でも、まだ自車が車線を逸脱しそうな場合は車線逸脱抑制制御に切り替わります。
  - 車線逸脱抑制機能が作動中に後方車両の接近を検知するとエマージェンシーレーンキープアシストに切り替わります。
- “”（レーンキープ表示灯）（白色）は、プッシュエンジンスイッチを OFF にしてから、再度エンジンを始動しても、プッシュエンジンスイッチを OFF にする前の状態を保ちます。

車線を逸脱しそうになると、車線逸脱抑制機能が作動を開始します。作動中は “” （レーンキープ表示灯）が緑色になります。



■車線逸脱抑制機能の解除方法

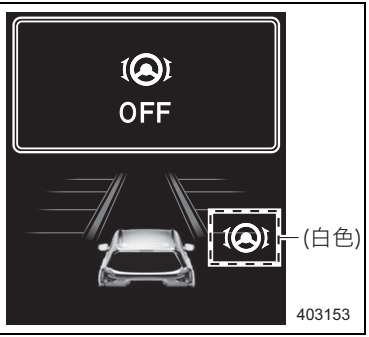
●運転者の操作による解除

次のいずれかの操作で車線逸脱抑制機能が一時的に解除されます。
一時解除中は、EyeSight表示部の “” （レーンキープ表示灯）が白色になり、車線表示灯が灰色になります。

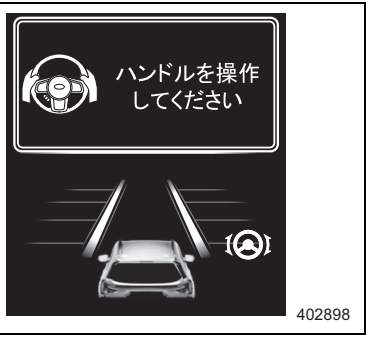
- ブレーキペダルを強く踏む
- 全車速追従機能付クルーズコントロールをセットしたとき（ただし、カスタマイズ機能で「レーンキープ 中央維持＋先行車追従」をONに設定しているとき）
  ー 制御が車線中央維持・先行車追従操舵機能に切り替わります。
- 方向指示器のレバーを操作する
- 車線変更などのために、運転者がハンドルを操作したとシステムが判断したとき
- 非常点滅表示灯（ハザードランプ）スイッチをONにする

●システムによる自動解除

次に挙げる状況などでは、車線逸脱抑制機能が一時的に解除されます。その際、ブザー（ピピーン）と割り込み画面により、運転者に機能が解除されたことをお知らせします。一時解除中は、EyeSight表示部の“”（レーンキープ表示灯）が白色になり、車線表示灯が灰色になります。



- システムが区画線を認識できなくなったとき
- 自車速が約 60 km/h 未満になったとき、または約145 km/hを超えたとき
- VDC機能またはTCS機能が作動したとき
- 運転席・助手席・後席のいずれかのドアを開けたとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- 電動パーキングブレーキがかかっているとき
- セレクトレバーを“D”、“M”以外にしたとき
- 一定時間、システムが運転者のハンドル操作を検知できなかったとき
  - システムがハンドル操作のないことを検知すると、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面を表示します。割り込み画面はシステムがハンドル操作を検知するまで表示し続けます。ハンドル操作を検知できない状態が続くと車線逸脱抑制機能が一時的に解除されます。
- 急カーブに進入しようとしているとき
- 急カーブを走行しているとき



知 識

スタンバイ状態（“”（レーンキープ表示灯）が白色）のときに自動解除された場合、ブザー（ピピーン）は鳴りません。

- 路面環境によりハンドル操作アシストの継続が困難と判断したとき
- 本機能以外の車両側のシステム要因により、ハンドル操作アシストの継続が困難と判断したとき
- EyeSight システムが故障したとき（“EyeSight”（EyeSight 警告表示灯；黄色）が点灯している）

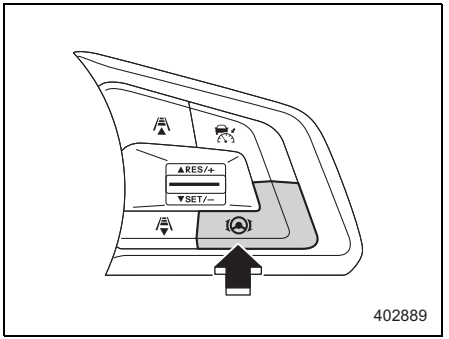
☞**P.571**参照

- EyeSight システムが一時停止状態のとき（“EyeSight”（EyeSight 一時停止表示灯；白色）が点灯している）

☞**P.572**参照

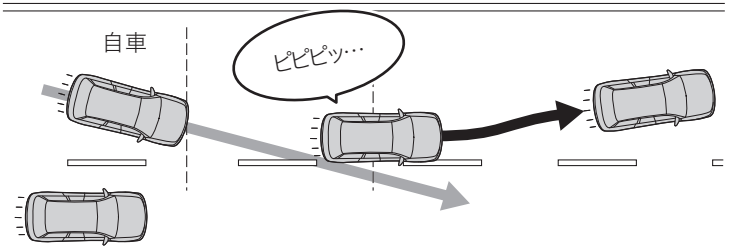
■車線逸脱抑制機能をOFFにするとき

(レーンキープ）スイッチを押すとOFFになり、EyeSight表示部の“”（レーンキープ表示灯）および車線表示灯が消灯します。



エマージェンシーレーンキープアシスト

高速道路や自動車専用道路を自車速約60 km/h以上で走行時、隣接車線の後方車両が接近しているにもかかわらず車両が車線を逸脱しそうになるとシステムが車線逸脱回避方向にハンドル操作をアシストし、車線からの逸脱を抑制します。このときブザー（ピピピッ …）が鳴り、割り込み画面を表示します。



501840

次ページへ ⇒

⚠ 警 告

エマージェンシーレーンキープアシストは自動運転システムではありません。

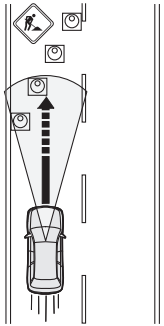
- エマージェンシーレーンキープアシストを過信しない。
  - わき見運転やハンドル手放し運転などを補助する装置ではありません。必ずハンドルを握って運転してください。
  - エマージェンシーレーンキープアシストはあらゆる状況で作動するものではありません。車線の維持をエマージェンシーレーンキープアシストのみに頼っていると、車線のわきの障害物や隣車線の車に衝突するなどの事故につながるおそれがあります。
  - 運転時は、先行車や並走車との距離や周囲の状況、周辺環境に注意し、安全運転に努めてください。
- システムの制御量や制御タイミングがお客様の運転操作の感覚と異なる場合は、安全な運転を支援できないため、エマージェンシーレーンキープアシストを使用しない。
- エマージェンシーレーンキープアシストは、隣接車線上の車両（後方車両）に接近しているときに自車が車線から逸脱しそうになった場合のみ作動します。そのため、以下に対しては適切に動作しない。
  - 軽車両、自動二輪車、特殊な形状の車両
  - 自転車
  - 歩行者
  - 急に車両が現れた場合
  - 車両の一部が隠れている場合
  - その他、衝突の危険性がないとシステムが判断した場合
- 日常点検でタイヤおよびブレーキに異常がないことを確認してから使用する。

☞「メンテナンスノート」参照

- 次の状況では、システムが正しく動作しないため、エマージェンシーレーンキープアシストを使用しない。
  - タイヤの空気圧が適正でないとき※1
  - 摩耗したタイヤ、または摩耗差の著しいタイヤを装着しているとき※1
  - 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき※1
  - ホイールバランスが異常なとき（バランスウェイトの脱落、ずれなど）※1
  - ホイールアライメントが規定値から外れているとき※1
  - パンク修理キットで応急修理をしたとき
  - サスペンションを改造したとき（スバル純正品を含む）
  - ステレオカメラの視界を妨げるようなものを車体に取り付けたとき
  - タイヤチェーンを装着しているとき
  - スペアタイヤを使用しているとき
  - ハンドルに異常な振動を感じるとき、または通常よりもハンドルが重いと感じるとき
  - ハンドルを指定品以外に交換しているとき
  - ヘッドランプが汚れていたり、ヘッドランプに氷雪、泥などが付着していたりするとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
  - ヘッドランプの光軸がずれているとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
  - ヘッドランプ、フォグランプなどのランプ類を改造したとき
  - 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
  - ブレーキ警告灯（赤色）が点灯しているとき※2
  - 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
  - 定員を超えているとき
  - 車両などをけん引しているとき
  - メーターの表示灯、警告灯が正常に点灯・消灯しない場合や、ブザーが鳴らない、液晶表示が通常時と異なるなど、メーターに何らかの異常があるとき※3

※1: ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。
☞P.799参照
※2: ブレーキ警告灯（赤色）が消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店に連絡し、点検を受けてください。
☞P.123参照
※3: メーターの機能、動作
☞P.108参照

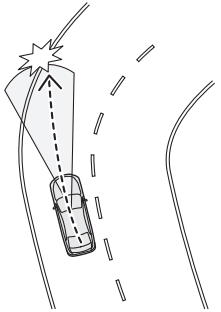
- エマージェンシーレーンキープアシストは、高速道路や有料道路など、自動車専用道路での使用を想定している。次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがあるので、エマージェンシーレーンキープアシストを使用しない。
  - 一般道（自動車専用道路以外）
    道路環境（道路が複雑な場合など）により、交通の状況に沿った走行ができない場合があり、事故につながるおそれがあります。
  - 工事などによる車線規制や仮設の車線があるとき


S02078

  - 急カーブがある道
  - 古い区画線が残っているとき
  - 停止車両を避けるとき
  - 路面に雪や水たまり、融雪剤が残っているとき
  - 路面にひび割れや補修の跡があるとき
  - 凍結路や積雪路など滑り易い路面
    タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。
  - インターチェンジ、ジャンクションなどの急カーブや、サービスエリア、パーキングエリア、料金所などに進入するとき
  - 先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土埃、または風に舞う砂や煙、水蒸気が前方にあるとき
  - フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃などの付着や傷などがついて、ステレオカメラの視界を遮っているときや、その汚れなどに光が当たっているとき
  - フロントガラス上の雨滴や水滴、汚れが十分に拭き取れていないため、ステレオカメラが車線を認識できないおそれがあるとき
  - ルーフ上に積載したカヌーなどがステレオカメラの視界を遮っているとき
- 次に挙げる状況などでは、ステレオカメラでの区画線の認識が困難な場合があり、システムが適切に動作できないおそれがある。
  - 夜間、またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
  - 悪天候時（雨天、降雪、濃霧など）
  - 路面がぬれて光が反射しているとき
  - 車線内に道路標示（矢印や文字など）が存在しているとき
  - 車間距離が短く、区画線が見づらいとき
  - 隣車線から車が割り込んできたとき、または前方の車が車線変更したとき

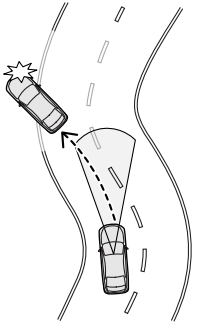
次ページへ ⇒

– カーブの形状が急激に変化するとき



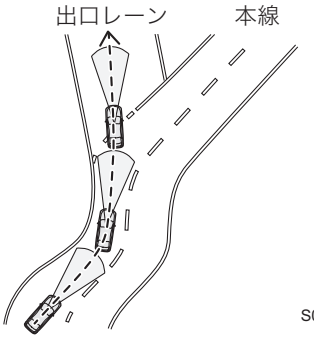
S02856

– 区画線の上にガードレールなどの影が重なっているとき
– 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき
– 車線の幅が狭いとき、あるいは広いとき
– 車線の幅が変化したとき
– 車線がステレオカメラの認識性能から見て認識しづらいとき
  • 区画線がない、または消えかかっている
  • 区画線が黄色で描かれている
  • 区画線の色が路面の色と似ていて見えにくい
  • 区画線が二重に描かれている
  • 区画線の幅が細いなど
  • 区画線以外の線が路面に描かれている
  • 区画線に壁やポールが隣接している
– 区画線の形状が急激に変化するとき（カーブの出入り口、クランク、カーブが連続している道路など）



S03217

– 高速道路のインターチェンジ、ジャンクション、サービスエリア、パーキングエリア入口などの分岐レーンに差し掛かったとき



S02854

– 路肩に縁石や側壁があるとき
– トンネルの出入り口や高架下など明るさが変化するとき
– フロントウォッシャーの使用中または使用後で、フロントガラスが十分に拭き取れていないとき

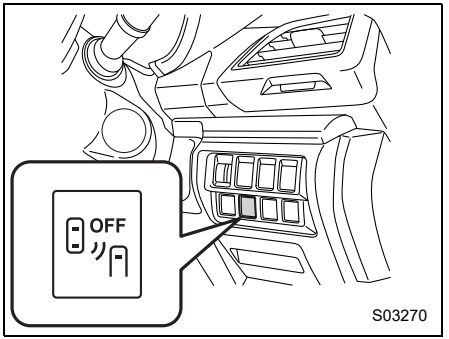
⚠ 注 意

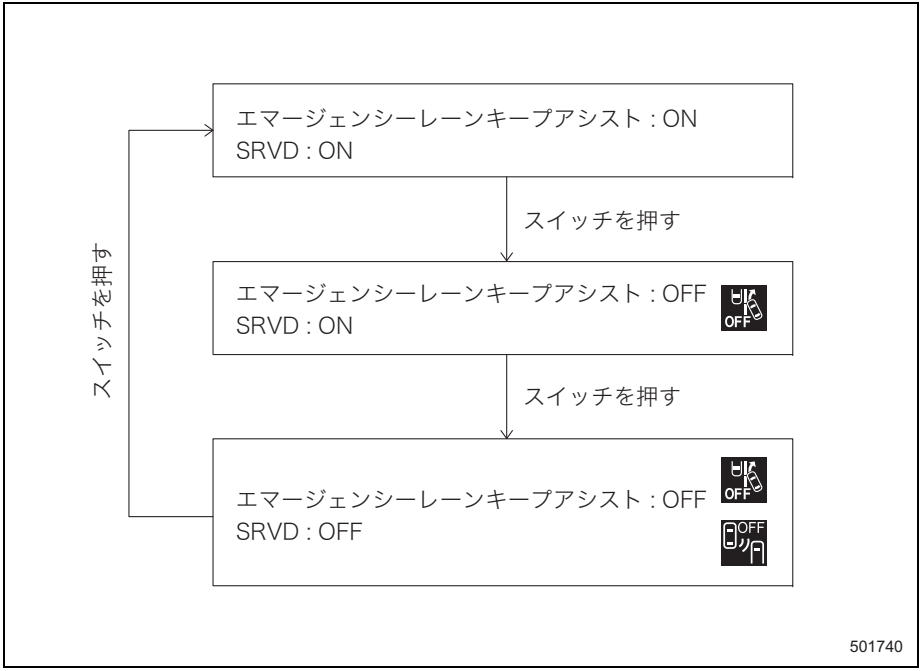
- 次に挙げる状況では、エマージェンシーレーンキープアシストの性能を十分に発揮できないことがある。また、エマージェンシーレーンキープアシストが作動しないことや作動が解除されることがある。
  - 車両重量が極端に変化した直後
  - タイヤ交換直後やタイヤ空気圧調整直後
  - カメラ関係の調整・修理または交換をした直後
  - サスペンションや舵取り装置を修理・交換した直後
  - 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）や純正品以外のタイヤを装着しているとき
  - 横風を受けているとき
  - 路面勾配が急激に変化するとき（上り坂、下り坂）
  - 路面の横断方向の勾配が大きいとき、または急激に変化するとき
  - 路面の凸凹、うねり、つなぎ目
  - 加減速度が大きいとき
  - 外気温が低いときのエンジン始動直後
  - 外気温が高いとき
- 使用しないときは、必ずエマージェンシーレーンキープアシストをOFFにする。
  - エマージェンシーレーンキープアシストを ON のままにしている場合、思わぬ場面で作動してしまうなどして、事故につながるおそれがあります。
- エマージェンシーレーンキープアシストをONにすると、電動パワーステアリングの操作力が変化することがある。
- エマージェンシーレーンキープアシストに用いている後側方レーダーの検知性能には限界がある。

☞P.595参照

■エマージェンシーレーンキープアシストの使用方法

SRVD スイッチを操作して、エマージェンシーレーンキープアシストをONにします。エマージェンシーレーンキープアシストをON にすると、EyeSight 表示部の “ ” （エマージェンシーレーンキープアシストOFF表示灯）が消灯します。




エマージェンシーレーンキープアシスト : ON
SRVD : ON
スイッチを押す
エマージェンシーレーンキープアシスト : OFF
SRVD : ON
OFF
スイッチを押す
エマージェンシーレーンキープアシスト : OFF
SRVD : OFF
OFF
OFF
スイッチを押す
501740

次ページへ ⇒

知 識

- SRVDがOFFのときはエマージェンシーレーンキープアシストは使用できません。その時は“ ”（エマージェンシーレーンキープアシストOFF表示灯）が点灯します。
- 後側方からの接近車両が検出できない場合、エマージェンシーレーンキープアシストは作動しません。
- エマージェンシーレーンキープアシストは、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてから、再度エンジンを始動しても、プッシュエンジンスイッチをOFFにする前の状態を保ちます。
- 車線逸脱抑制制御およびエマージェンシーレーンキープアシストが両方ともONにしているときは、以下のように制御が切り替わります。
  - エマージェンシーレーンキープアシスト作動後、後方車両が接近しなくなった後でも、まだ自車が車線を逸脱しそうな場合は車線逸脱抑制制御に切り替わります。
  - 車線逸脱抑制機能が作動中に後方車両の接近を検出するとエマージェンシーレーンキープアシストに切り替わります。
- 次の場合はエマージェンシーレーンキープアシストは作動しません。
  - 車線中央維持・先行車追従操舵機能が作動中のとき
  - カスタマイズ機能で「レーンキープ 中央維持＋先行車追従」を ON にし、全車速追従機能付クルーズコントロールをセット中にレーンキープ表示灯が白色に点灯しているとき

以下の条件をすべて満たした場合にシステムは動作可能になります。ただし、以下の条件をすべて満たしている場合でも、区画線や後方車両を検出できず、エマージェンシーレーンキープアシストが作動できない場合があります。

- 自車速約60 km/h～約120 km/hで走行している
- システムが区画線を認識している
- 後側方からの接近車両を検出している
- SRVDをOFFにしていない
- 車線中央維持・先行車追従操舵機能が作動していない
- 運転者がハンドルを操作している
- 車線幅約3 m～約4 mの道路を走行している
- 直線、または緩やかなカーブを走行している
- 車線の中央付近を走行している

後方からの接近車両が存在する場合に、車線を逸脱しそうになると、エマージェンシーレーンキープアシストが作動を開始します。逸脱のおそれがある車線側を警告する割り込み画面を表示し、警報音（ピピピッ …）が鳴ります。

※ 画面は右側からの車両の接近を検知したとき

501739

■エマージェンシーレーンキープアシストの解除方法

●運転者の操作による解除

次のいずれかの操作でエマージェンシーレーンキープアシストが一時的に解除されます。

- ブレーキペダルを強く踏む
- 運転者のハンドル操作により、システムがアシスト不要と判断したとき

●システムによる解除

次に挙げる状況などでは、エマージェンシーレーンキープアシストが一時的に解除されます。

- システムが区画線を認識できなくなったとき
- 自車速が約60 km/h未満になったとき、または約145 km/hを超えたとき
- VDC機能またはTCS機能が作動したとき
- 運転席・助手席・後席のいずれかのドアを開けたとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- 電動パーキングブレーキがかかっているとき
- セレクトレバーを“D”、“M”以外にしたとき
- 急カーブに進入しようとしているとき
- 急カーブを走行しているとき
- 路面環境によりハンドル操作アシストの継続が困難と判断したとき
- 本機能以外の車両側のシステム要因により、ハンドル操作アシストの継続が困難と判断したとき
- EyeSightシステムが故障したとき（EyeSight（黄色）が点灯している）

☞P.571参照

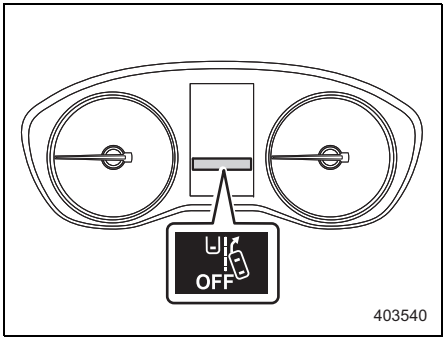
- EyeSightシステムが一時停止状態のとき（EyeSight（白色）が点灯している）

☞P.572参照

- エマージェンシーレーンキープアシストシステムが故障または一時停止したとき（LKA OFFが点灯している）

■エマージェンシーレーンキープアシストの一時停止および故障

エマージェンシーレーンキープアシストが一時停止すると、エマージェンシーレーンキープアシストOFF表示灯が点灯します。状況が改善されると正常復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用したときや、バッテリー電圧の異常が発生したとき表示されます。

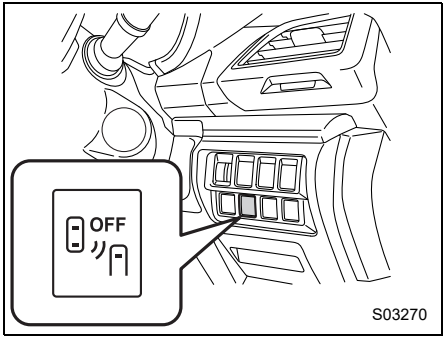


エマージェンシーレーンキープアシストOFF 表示灯が長時間点灯し続ける場合は故障のおそれがありますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

■エマージェンシーレーンキープアシストをOFFにするとき

エマージェンシーレーンキープアシストとSRVD が両方とも ON の状態から SRVD OFF スイッチを一度押すと、エマージェンシーレーンキープアシストがOFFになります。もう一度SRVD OFFスイッチを押すと、エマージェンシーレーンキープアシストとSRVDが両方ともOFFになります。

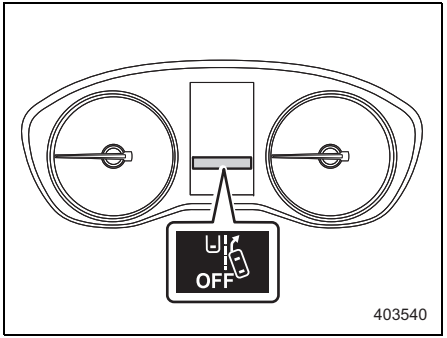
☞P.516参照



エマージェンシーレーンキープアシストをOFFにすると、EyeSight表示部に“ ”（エマージェンシーレーンキープアシストOFF表示灯）が点灯します。
エマージェンシーレーンキープアシストは、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてから、再度エンジンを始動しても、プッシュエンジンスイッチをOFFにする前の状態を保ちます。

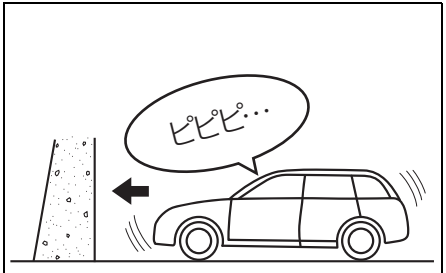
●エマージェンシーレーンキープアシストOFF表示灯

- プッシュエンジンスイッチを ON にすると点灯し、エンジン始動後約 10 秒後、プッシュエンジンスイッチを OFF する前の状態に応じて消灯または点灯します。
- エマージェンシーレーンキープアシストをOFFにすると点灯します。



AT誤発進抑制制御

前方に障害物を認識している場合、停車または徐行状態から、ペダルの踏み間違いなどによりアクセルペダルが必要以上に踏み込まれたとシステムが判断したとき、エンジン出力を制限し発進を緩やかにします。



S01063

AT誤発進抑制制御が作動するとブザー（ピピピ …）が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面を表示します。
この機能はセレクトレバーが“D”、または“M”のとき作動します。

403076

次ページへ ⇒

⚠ 警 告

- AT誤発進抑制制御を過信しない。
  - AT誤発進抑制制御は衝突を回避するものではありません。発進時はセレクトレバーやペダルの位置および周囲の安全を十分に確認して操作してください。AT誤発進抑制制御のみに頼っていると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- AT誤発進抑制制御は停止状態を保つものではない。
- AT　誤発進抑制制御はあらゆる状況で発進を緩やかにするものではない。また、衝突を回避するものではない。
- AT　誤発進抑制制御は前方に障害物を認識している場合に作動するものであり、崖など対象物が見えない状況で発進を緩やかにするものではない。
- 故意に対象物の近くでアクセルペダルを過剰に踏み込まない。
  - アクセルの調節を AT 誤発進抑制制御のみに頼っていると衝突事故を起こす場合があります。
- 遮断機を押しのけて進む場合は、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、AT誤発進抑制制御をOFFにする。
  - 万一、自車が踏切内で閉じ込められた場合、ステレオカメラが遮断機を対象物と認識し、AT誤発進抑制制御が作動することがあります。

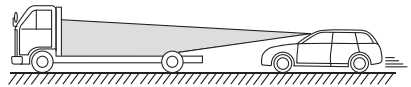
☞P.533参照

次の条件の違いにより作動しないことがあります。

- 対象物との距離、速度差、横方向のずれ具合

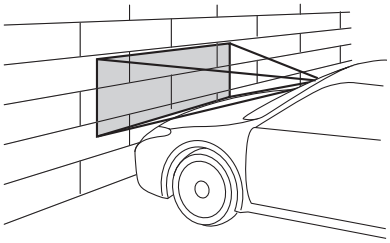
- ステレオカメラが認識しにくい状況について
  特に次の場合は作動しない可能性が高くなります。
  - 悪天候（強い雨、吹雪、濃霧）のとき
  - 先行車や対向車両の水や雪などの巻き上げや水蒸気、砂、煙、土埃などが舞い、視界が十分でないとき
  - 夕方、朝方の薄暗いときや、夜間に対象物に接近するとき
  - 屋内の駐車場など暗い場所で対象物に接近するとき
  - ヘッドランプ照射範囲外に対象物が存在するとき
  - 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき
  - フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃などの付着や傷などがついて、ステレオカメラの視界を遮っているときや、その汚れなどに光が当たっているとき
  - フロントウォッシャーの使用中または使用後で、フロントガラスが十分に拭き取れていないとき
  - 雨滴やフロントウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野を遮ることにより、対象物の認識が不完全になったとき
  - ルーフ上に積載したカヌーなどがステレオカメラの視界を遮っているとき
  - 対象物の高さが低いとき（低い壁、低いガードレール、車高の低い車両など）
  - 対象物の大きさがステレオカメラの認識限界より小さいとき
    - 小動物や幼児など
    - しゃがんでいる人や横たわっている人など

– 対象物や前方の車両（トレーラーや対向車両など）の自車から一番近い面および最後面が小さいときや、接近しすぎたとき（自車から一番近いところではない部分を認識して、作動し効果が十分でないこともあります）



S02134

– 対象物がフェンス、均一な模様（縞模様やレンガなど）や模様の全くない壁やシャッターなどのとき



S00653

– 対象物がガラスや鏡の壁や扉などのとき
– 車両（自動二輪車、自転車含む）、歩行者などの対象物が横から割り込んだり、飛び出してきたとき
– 発進時に自車が進路変更を行い、対象物のすぐ後ろに接近したとき
– 急カーブ、急な上り坂、急な下り坂のとき
– 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
– トンネルの出入り口や高架下など明るさが変化するとき
– 夜間またはトンネル内で、先行車のテールランプが点灯していないとき
– 真っ暗で周囲に物がないとき
– 周囲一面が同じような色合いのとき（一面に雪景色など）

• 運転者のハンドル操作状態から運転者が衝突回避操作をしたと判断したとき

安全のため、お客様ご自身でAT誤発進抑制制御の作動テストを行わないでください。作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

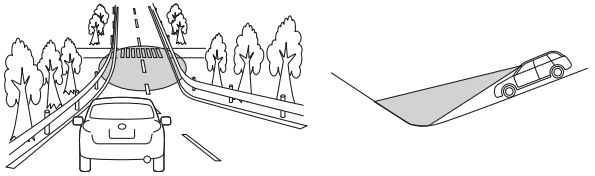
次のような場合は、必ずAT誤発進抑制制御をOFFにしてください。AT誤発進抑制制御が予期しない作動をする可能性があります。

• けん引されるとき
• キャリアカーに積載するとき
• シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
• リフトアップし、エンジンをかけタイヤを空転させるとき
• 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、草むらなどに触れながら通過するとき
• サーキットなどでスポーツ走行するとき

次ページへ ⇒

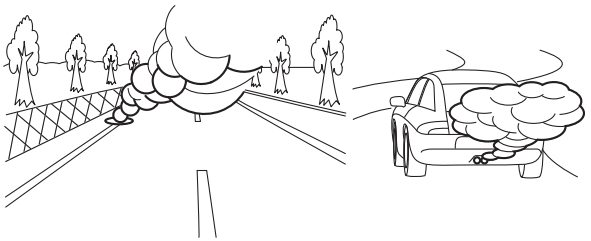
次のような場合は、AT誤発進抑制制御が作動することがありますので安全運転に努めてください。

- 前車に接近して走行するとき
- ETCゲートなどを規定速度を超えるような速度で通過するとき
- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき



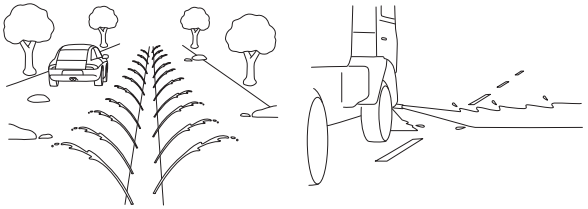
402535

- 水蒸気や煙のかたまりなどを通過するとき
- 寒いときなど先行車が排出した排気ガスがはっきり見えるとき



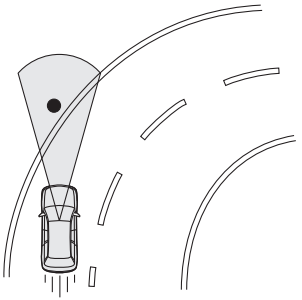
402536

- 消雪パイプや散水車などの散水を通過するとき



402831

- 大雪、吹雪など悪天候の中を走行するとき
- カーブや交差点に障害物があるとき



S02057

- 車両や障害物、草木などの横すれすれを通過するとき
- 前方の壁や車両すれすれに停車するとき

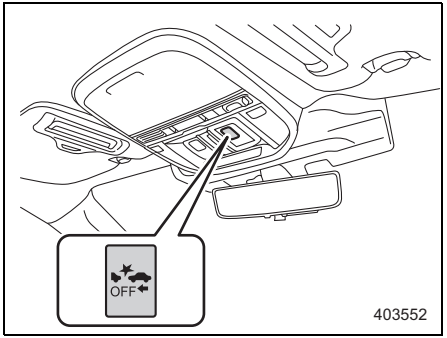
知 識

- アクセルペダルを踏み続けたとき（3秒以上）は、徐々に制御を解除します。
- プリクラッシュブレーキ OFF 表示灯が点灯しているときは、AT誤発進抑制制御は作動しません。

☞**P.456**参照

■AT誤発進抑制制御をOFFにするとき

プリクラッシュブレーキOFFスイッチを長押しするとブザー（ピッ）が鳴り、AT誤発進抑制制御がOFFになります。OFFにすると、メーター内のプリクラッシュブレーキOFF表示灯が点灯します。
ON に戻すときは再度プリクラッシュブレーキ OFF スイッチを長押ししてください。ON になると、ブザー（ピッ）が鳴り、プリクラッシュブレーキOFF表示灯が消灯します。



403552

●プリクラッシュブレーキOFF表示灯

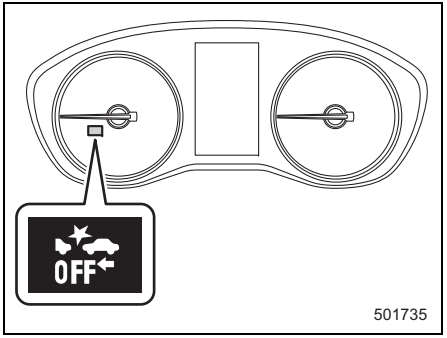
プッシュエンジンスイッチを ON にすると点灯し、エンジン始動後約10秒後に消灯します。
プリクラッシュブレーキ、緊急時プリクラッシュステアリング、AT誤発進抑制制御および AT 誤後進抑制制御を OFF にすると点灯します。

また、次の場合にも点灯します。
- EyeSightシステムが故障したとき

☞P.571参照

- EyeSightシステムが一時停止したとき

☞P.572参照



501735

知 識

- AT誤発進抑制制御のON／OFF設定は、プリクラッシュブレーキ（プリクラッシュブレーキアシストを含む）、緊急時プリクラッシュステアリングおよび AT 誤後進抑制制御と連動します。
- AT誤発進抑制制御をOFFにしても、プッシュエンジンスイッチを OFF にしてから、再度エンジンを始動するとAT誤発進抑制制御はONになります。

知 識

- プリクラッシュブレーキ OFF 表示灯が点灯した場合、緊急時プリクラッシュステアリングOFF表示灯も点灯します。

☞P.455参照

- プリクラッシュブレーキ OFF 表示灯が点灯しているときは、プリクラッシュブレーキ（プリクラッシュブレーキアシストを含む）、緊急時プリクラッシュステアリング、AT誤発進抑制制御およびAT誤後進抑制制御は作動しません。

AT誤後進抑制制御

AT誤後進抑制制御には、後退時の急な飛び出しを防ぐ後退飛び出し抑制と、後退時の速度を一定に保つ後退速度リミッターの機能があります。
これらの機能はセレクトレバーが “R” でブレーキペダルを踏んでいないとき作動します。
AT誤後進抑制制御はステレオカメラの物体認識を使用した制御ではありません。後方障害物の有無は制御に関係しません。

次ページへ ⇒

⚠ 警 告

- AT誤後進抑制制御を過信しない。
  - AT 誤後進抑制制御は衝突を回避するものではありません。後進時はセレクトレバーやペダルの位置および周囲の安全を十分に確認して操作してください。AT誤後進抑制制御のみに頼っていると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- AT誤後進抑制制御は停止状態を保つものではない。
- AT誤後進抑制制御はあらゆる状況で、後退時の速度を緩やかにするものではない。また、衝突を回避するものではない。
- 安全のため、お客様ご自身でAT誤後進抑制制御の作動テストを行わない。
  - 作動せず思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ブレーキペダルを踏んでいる最中は制御が作動しない。そのため、下り坂などでは設定された速度を超過する場合がある。お客様自身でブレーキペダルを踏み増すなど速度調整をする。
- 万一、退避を要するような危険な状況に遭遇して、後進によって退避を行う必要がある場合なども、AT誤後進抑制制御は作動する。慌てずにアクセルペダルを深く踏み続けるか、AT誤後進抑制制御をOFFにする。

☞P.533参照

⚠ 注 意

次の条件や状況によりブレーキの効きが悪くなることがあります。必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。

- 車両の状態（積載量、乗員など）
- 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凹凸など）
- 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧など）
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- エンジン始動後に走行してからしばらくの間（暖機運転終了までを目安とする）
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後など、ブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき

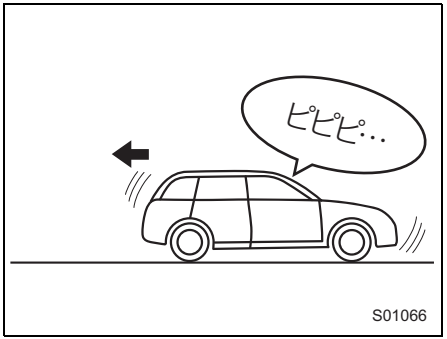
知 識

プリクラッシュブレーキOFF表示灯が点灯しているときは、AT誤後進抑制制御は作動しません。

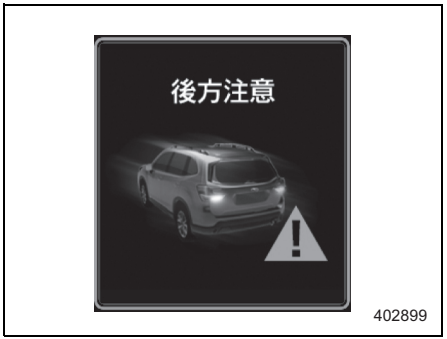
☞P.456参照

■後退飛び出し抑制

後退時、ペダルの踏み間違いなどによりアクセルペダルが必要以上に踏み込まれたとシステムが判断したとき、エンジン出力を制限し急な後退を抑制します。



後退飛び出し抑制が作動すると、ブザー（ピピピ…）が鳴ります。また、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面を表示します。

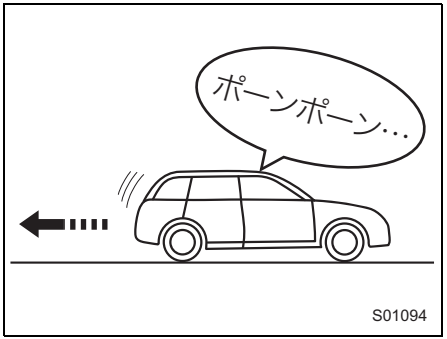


知 識

- アクセルペダルを深く踏み続けたとき（約3秒以上）は割り込み画面が消え、徐々に制御を解除します。
- AT 誤後進抑制制御はステレオカメラの物体認識を使用した制御ではありません。後方障害物の有無は制御に関係しません。

■後退速度リミッター

後退時、必要以上に加速しないよう車速を低速（約10 km/h以下）に制限します。
制限速度は運転者が設定できます。



1. セレクトレバーを “R” にするとマルチインフォメーションディスプレイに制限速度の設定値を表示します。

知 識

- 後退速度リミッターの制限速度を高速（約20 km/h）／中速（約15 km/h）／OFFに設定できます。

設定	速度
高速	約20 km/h
中速	約15 km/h
低速	約10 km/h
OFF	—

☞P.158参照

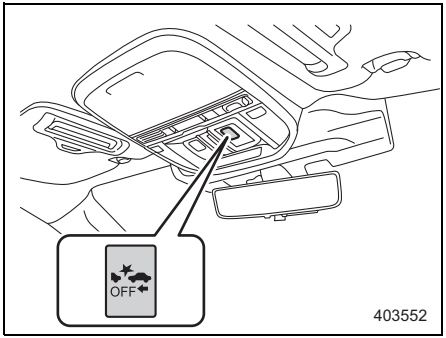
- アクセルペダルを深く踏み込むと制御を解除することができます（“速度制限中”の割り込み画面が消えます）。
  - アクセルペダルから足を離すと、再度後退速度リミッターが作動します。
  - 滑りやすい路面などでタイヤが空転したときは、後退速度リミッターが作動することがあります。
  - システムがアクセルの急踏みと判断した場合、後退飛び出し抑制が作動します。

2. 制限速度を超過しそうになると、後退速度リミッターが作動します。
作動中はセレクトレバーを “R” にしたときよりも早い間隔でブザー（ポーンポーン …）が鳴ります。また、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面を表示します。

402900

■AT誤後進抑制制御をOFFにするとき

プリクラッシュブレーキOFFスイッチを長押しするとブザー（ピッ）が鳴り、AT誤後進抑制制御（後退飛び出し抑制と後退速度リミッター）がOFFになります。OFFにすると、メーター内のプリクラッシュブレーキOFF表示灯が点灯します。
ON に戻すときは再度プリクラッシュブレーキ OFF スイッチを長押ししてください。ON になると、ブザー（ピッ）が鳴り、プリクラッシュブレーキOFF 表示灯が消灯します。



403552

知 識

- AT誤後進抑制制御のON／OFF設定は、プリクラッシュブレーキ（プリクラッシュブレーキアシストを含む）、緊急時プリクラッシュステアリングおよびAT誤発進抑制制御と連動します。
- AT誤後進抑制制御をOFFにしても、プッシュエンジンスイッチを OFF にしてから、再度エンジンを始動するとAT誤後進抑制制御はONになります。

●プリクラッシュブレーキOFF表示灯

プッシュエンジンスイッチを ON にすると点灯し、エンジン始動後約10秒後に消灯します。

プリクラッシュブレーキ、緊急時プリクラッシュステアリング、AT誤発進抑制制御および AT 誤後進抑制制御を OFF にすると点灯します。

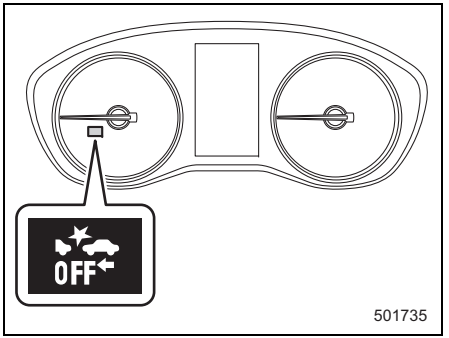
また、次の場合にも点灯します。

- EyeSightシステムが故障したとき

☞**P.571**参照

- EyeSightシステムが一時停止したとき

☞**P.572**参照



知 識

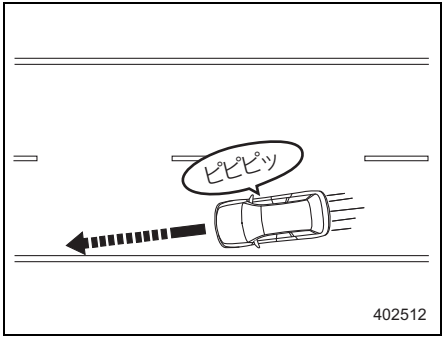
- プリクラッシュブレーキ OFF 表示灯が点灯した場合、緊急時プリクラッシュステアリングOFF表示灯も点灯します。

☞**P.455**参照

- プリクラッシュブレーキ OFF 表示灯が点灯しているときは、プリクラッシュブレーキ（プリクラッシュブレーキアシストを含む）、緊急時プリクラッシュステアリング、AT誤発進抑制制御およびAT誤後進抑制制御は作動しません。

車線逸脱警報

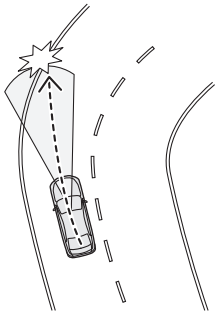
自車速が約40 km/h以上のときに車線を逸脱しそうになると注意を促します。
車線逸脱警報が作動するとブザー（ピピピッ）が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面を表示します。



次ページへ ⇒

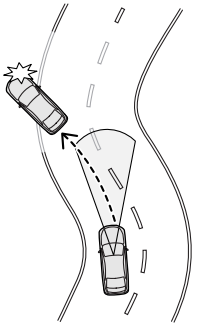
⚠ 警 告

- 車線逸脱警報はあらゆる状況で作動するものではない。また、逸脱を自動的に回避するものでもない。車線の維持を車線逸脱警報のみに頼っていると、車線逸脱による事故につながるおそれがある。
  車線逸脱警報は区画線を認識している場合に警報するものであり、路肩や側溝など道路の端を認識して警報する機能ではない。
- 次に挙げる状況などでは、ステレオカメラでの区画線の認識が困難な場合があり、システムが適切に動作できないおそれがある。
  - 夜間、またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
  - 悪天候時（雨天、降雪、濃霧など）
  - 路面がぬれて光が反射しているとき
  - 車線内に道路標示（矢印や文字など）が存在しているとき
  - 車間距離が短く、区画線が見づらいとき
  - 隣車線から車が割り込んできたとき、または前方の車が車線変更したとき
  - カーブの形状が急激に変化するとき



S02856

  - 区画線の上にガードレールなどの影が重なっているとき
  - 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき
  - 車線の幅が狭いとき、あるいは広いとき
  - 車線の幅が変化したとき
  - 車線がステレオカメラの認識性能から見て認識しづらいとき
    - 区画線がない、または消えかかっている
    - 区画線が黄色で描かれている
    - 区画線の色が路面の色と似ていて見えにくい
    - 区画線が二重に描かれている
    - 区画線の幅が細いなど
    - 区画線以外の線が路面に描かれている
    - 区画線に壁やポールが隣接している
  - 区画線の形状が急激に変化するとき（カーブの出入り口、クランク、カーブが連続している道路など）



S03217

  - 路肩に縁石や側壁があるとき
  - トンネルの出入り口や高架下など明るさが変化するとき
  - フロントウォッシャーの使用中または使用後で、フロントガラスが十分に拭き取れていないとき

– 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
– 路面に雪や水溜り、融雪剤が残っているとき
– 先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土埃、または風に舞う砂や煙、水蒸気が前方にあるとき
– フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃などの付着や傷などがついて、ステレオカメラの視界を遮っているときや、その汚れなどに光が当たっているとき
– フロントガラス上の雨滴や水滴、汚れが十分に拭き取れていないため、ステレオカメラが車線を認識できないおそれがあるとき
– ルーフ上に積載したカヌーなどがステレオカメラの視界を遮っているとき

⚠ 注 意

次の場合、車線逸脱警報は作動しないまたは作動しにくい場合があります。

- 自車速が約40 km/h未満のとき
- ハンドルを大きくまたは速く切ったとき
- 急カーブを走行しているとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- 方向指示器作動中とレバーを戻した後の約3秒間
- 車線逸脱警報作動後、車線の内側に戻っていないとき
- 路面勾配が急激に変化するとき（上り坂、下り坂）

知 識

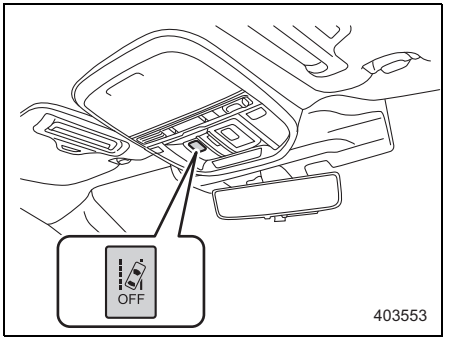
- 次の場合、車線を誤って認識し、車線逸脱警報が作動することがあります。
  – ぬれた路面や積雪路でのタイヤの跡などがあるとき
  – 雪とアスファルトの境目や道路の補修跡などがあるとき
  – ガードレールの影などがあるとき
  – 区画線が二重に描かれているとき
  – 道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、路面に線状のペイントがあるとき
- 車線逸脱警報は区画線への接近速度など車両状態から逸脱するタイミングを判断しているため、警報が作動する位置が変動することがあります。
- 車線逸脱警報OFF表示灯が点灯しているときは、車線逸脱警報は作動しません。

☞P.538参照

■車線逸脱警報をOFFにするとき

車線逸脱警報 OFF スイッチを長押しすると、ブザー（ピッ）が鳴り、車線逸脱警報がOFFになります。OFFにすると、メーター内の車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯します。

ON に戻すときは再度車線逸脱警報 OFF スイッチを長押ししてください。ON になると、ブザー（ピッ）が鳴り、車線逸脱警報OFF表示灯が消灯します。



●車線逸脱警報OFF表示灯

プッシュエンジンスイッチを ON にすると点灯し、エンジン始動後約 10 秒後、プッシュエンジンスイッチをOFFにする前の状態に応じて消灯、または点灯します。

車線逸脱警報およびふらつき警報をOFFにすると点灯します。

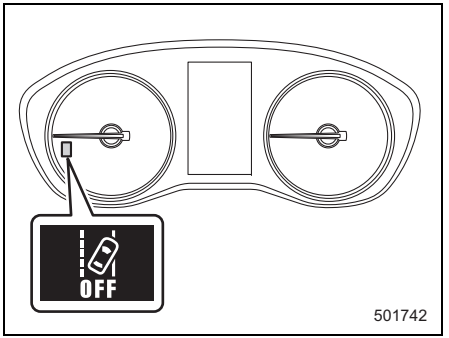
また、次の場合にも点灯します。

- EyeSightシステムが故障したとき

☞P.571参照

- EyeSightシステムが一時停止したとき

☞P.572参照

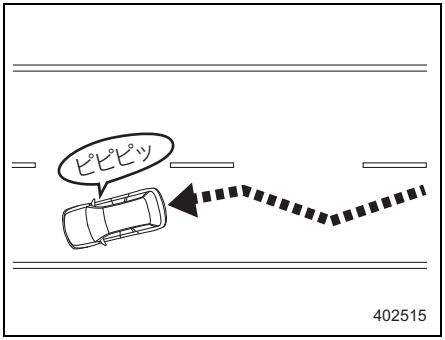


知 識

- 車線逸脱警報をOFFにすると、ふらつき警報もOFFになります。
- プッシュエンジンスイッチを OFF にしてから、再度エンジンを始動しても、プッシュエンジンスイッチを OFF にする前の状態を保ちます。

ふらつき警報

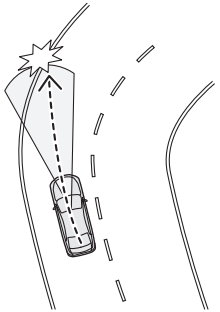
車線内での車両の蛇行パターンからふらつきを認識し注意を促します。ふらつき警報が作動するとブザー（ピピピッ）が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面を表示します。
車速が約60 km/hを超えると作動可能になります。車速が約40 km/hを下回ると作動を停止します。その後車速が約60 km/hを超えると、再び作動可能になります。



次ページへ ⇒

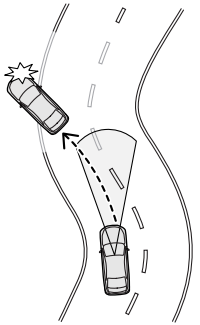
⚠ 警 告

- ふらつき警報はあらゆる状況で作動するものではない。また、ふらつきを自動的に修正するものでもない。自車がふらつかないようにすることをふらつき警報のみに頼っていると、思わぬ事故につながるおそれがある。
- 次に挙げる状況などでは、ステレオカメラでの区画線の認識が困難な場合があり、システムが適切に動作できないおそれがある。
  - 夜間、またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
  - 悪天候時（雨天、降雪、濃霧など）
  - 路面がぬれて光が反射しているとき
  - 車線内に道路標示（矢印や文字など）が存在しているとき
  - 車間距離が短く、区画線が見づらいとき
  - 隣車線から車が割り込んできたとき、または前方の車が車線変更したとき
  - カーブの形状が急激に変化するとき



S02856

  - 区画線の上にガードレールなどの影が重なっているとき
  - 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき
  - 車線の幅が狭いとき、あるいは広いとき
  - 車線の幅が変化したとき
  - 車線がステレオカメラの認識性能から見て認識しづらいとき
    - 区画線がない、または消えかかっている
    - 区画線が黄色で描かれている
    - 区画線の色が路面の色と似ていて見えにくい
    - 区画線が二重に描かれている
    - 区画線の幅が細いなど
    - 区画線以外の線が路面に描かれている
    - 区画線に壁やポールが隣接している
  - 区画線の形状が急激に変化するとき（カーブの出入り口、クランク、カーブが連続している道路など）



S03217

  - 路肩に縁石や側壁があるとき
  - トンネルの出入り口や高架下など明るさが変化するとき
  - フロントウォッシャーの使用中または使用後で、フロントガラスが十分に拭き取れていないとき
  - 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
  - 路面に雪や水溜り、融雪剤が残っているとき

– 先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土埃、または風に舞う砂や煙、水蒸気が前方にあるとき
– フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃などの付着や傷などがついて、ステレオカメラの視界を遮っているときや、その汚れなどに光が当たっているとき
– フロントガラス上の雨滴や水滴、汚れが十分に拭き取れていないため、ステレオカメラが車線を認識できないおそれがあるとき
– ルーフ上に積載したカヌーなどがステレオカメラの視界を遮っているとき

⚠ 注 意

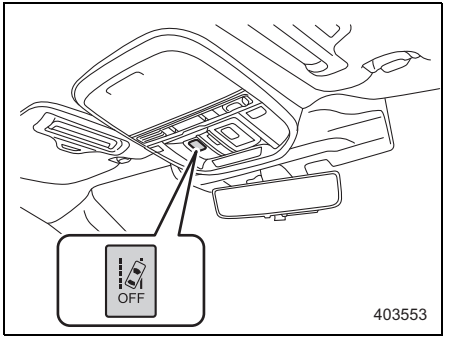
次の状況では、作動しない場合があります。
- カーブが連続する道を走行しているとき
- 車速が大きく変動するとき
- 車線変更をした直後のとき
- 路面勾配が急激に変化するとき（上り坂、下り坂）

知 識

- ふらつきは過去数分間の走行データをもとに認識しています。ふらつきはじめてもすぐには認識できません。また、ふらつきがおさまった後もしばらくふらつき警報の作動が続くことがあります。
- ふらつき警報は運転者に注意を促す機能です。疲れたときやよそ見など、運転への集中力が落ちた際は、必要に応じてこまめに休憩をとることをお奨めします。
- 次の場合、ふらつき警報は作動しません。
  – 車線中央維持・先行車追従操舵機能が作動しているとき
☞P.487、501参照
  – 車線逸脱警報OFF表示灯が点灯しているとき
☞P.538参照

■ふらつき警報をOFFにするとき

車線逸脱警報OFFスイッチを長押しするとブザー（ピッ）が鳴り、ふらつき警報がOFFになります。OFFにすると、メーター内の車線逸脱警報OFF表示灯が点灯します。
ONに戻すときは再度車線逸脱警報OFFスイッチを長押ししてください。ONになると、ブザー（ピッ）が鳴り、車線逸脱警報OFF表示灯が消灯します。



●車線逸脱警報OFF表示灯

プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約10秒後、プッシュエンジンスイッチをOFFにする前の状態に応じて消灯、または点灯します。
車線逸脱警報およびふらつき警報をOFFにすると点灯します。

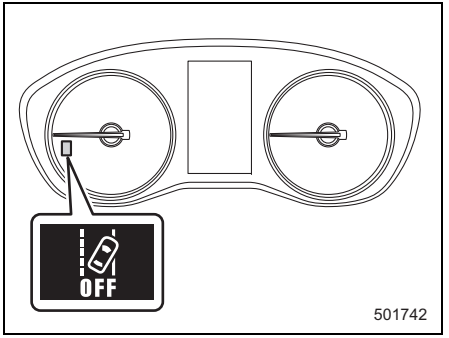
また、次の場合にも点灯します。

- EyeSightシステムが故障したとき

☞P.571参照

- EyeSightシステムが一時停止したとき

☞P.572参照



知 識

- ふらつき警報をOFFにすると、車線逸脱警報もOFFになります。
- プッシュエンジンスイッチを OFF にしてから、再度エンジンを始動しても、プッシュエンジンスイッチを OFF にする前の状態を保ちます。

青信号お知らせ

前方の信号が赤から青に変わった後も、自車が停止し続けた場合、ブザーと表示でお知らせします。先行車がいない状態で信号停止線で停車（信号距離約12 m～60 m、かつ自車がしばらく停車）すると信号が赤から青に切り替わり一定時間経過しても自車が発進しないときに作動します。
この機能はセレクトレバーが“D”、“M”または“N”のとき作動します。
この機能が作動するとブザー（ポピッ）が鳴り、割り込み画面を表示します。

501741

⚠ 警 告

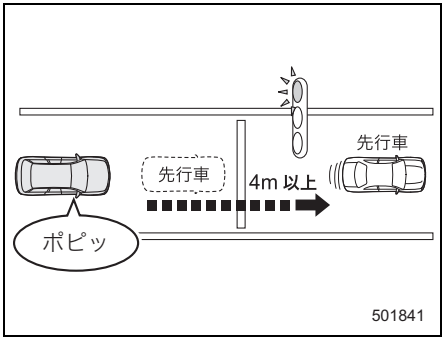
ブザーと表示でお知らせがあった場合でも、周囲の状況をよく確認してから自車を発進させてください。青信号お知らせのみに頼っていると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

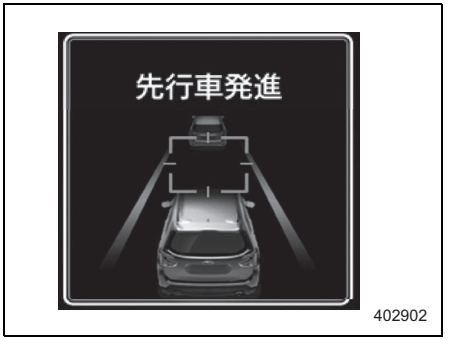
知 識

- 青信号お知らせのON／OFFの設定を変更できます。
☞P.158参照
- 次のような状況では、信号が切り替わっていなくても青信号お知らせが働いてしまう場合や、青信号が切り替わっても青信号お知らせが働かない場合があります。
  - 前方信号との間にオートバイなどが割り込んできたとき
  - 天候や道路形状などにより、信号を認識できないとき
  - ステレオカメラが信号を認識しなくなったとき
  - 信号機の周囲に赤もしくは青の発光体があるとき
- 次の場合、青信号お知らせは作動しません。
  - EyeSightシステムが故障したとき
☞P.571参照
  - EyeSightシステムが一時停止したとき
☞P.572参照
  - 矢印信号では作動しません

先行車発進お知らせ

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、ブザーと表示でお知らせします。先行車に続いて停車（車間距離が約12 m以内、かつ自車がしばらく停車）すると先行車を認識し続け、先行車が発進して約4 m以上進んでも自車が発進しないときに作動します。
この機能はセレクトレバーが“D”、“M”または“N”のとき作動します。
この機能が作動するとブザー（ポピッ）が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面を表示します。





⚠ 警 告

ブザーと表示でお知らせがあった場合でも、周囲の状況をよく確認してから自車を発進させてください。先行車発進お知らせのみに頼っていると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知 識

- 先行車発進お知らせをOFFに設定できます。

☞P.158参照

- 次のような状況では、先行車が発進していなくても先行車発進お知らせが働いてしまう場合や、先行車が発進していても先行車発進お知らせが働かない場合があります。
  - 停止した先行車との間にオートバイなどが割り込んできたとき
  - 天候や道路形状などにより、先行車を認識できないとき
  - ステレオカメラが先行車を認識しなくなったとき
- 次の場合、先行車発進お知らせは作動しません。
  - EyeSightシステムが故障したとき

☞P.571参照

  - EyeSightシステムが一時停止したとき

☞P.572参照

定速クルーズコントロール

定速クルーズコントロールは、高速道路や自動車専用道路でのドライブをより快適に行っていただくための運転支援システムです。運転者が設定した車速を保ちながら、一定の速度で走行することができます。

次ページへ ⇒

⚠ 警 告

定速クルーズコントロール中は車間距離を保つ追従走行を行いません。
先行車との車間距離、周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転を心がけてください。

次の状況では、システムが正しく動作しません。定速クルーズコントロールを使用しないでください。

- ホイールバランスが異常なとき（バランスウェイトの脱落、ずれなど）※
- ホイールアライメントが規定値から外れているとき※

※ ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。
☞P.799参照

次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので定速クルーズコントロールを使用しないでください。

- 交通量の多い道や急カーブのある道を走行しているとき
  － 道路状況にあった速度で走行できないため事故につながるおそれがあります。
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行しているとき
  － タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。
- 急な下り坂の道を走行しているとき
  － セット車速を超えてしまう場合があります。
- 急な下り坂が続くとき
  － ブレーキが過熱するおそれがあります。
- 車両などをけん引しているとき
  － セット車速を維持できなくなる場合があります。

制限速度を守り、道路状況、環境に合った適切な車速範囲にセット車速を設定してください。

⚠ 注 意

クルーズコントロールを使用するときは、全車速追従機能付クルーズコントロール、定速クルーズコントロールのどちらのクルーズコントロールが選択されているかをマルチインフォメーションディスプレイの EyeSight 表示部で必ず確認してください。

- 全車速追従機能付クルーズコントロール … “ ” （全車速追従機能付クルーズ表示灯）
- 定速クルーズコントロール… “ ” （定速クルーズ表示灯）

知 識

- クルーズメインOFFの状態から （クルーズ）スイッチを押すと、全車速追従機能付クルーズコントロールになります。
- クルーズメインONのとき、 / （車間設定）スイッチ※を押すと、全車速追従機能付クルースコントロールと定速クルーズコントロールを切り替えることができます。

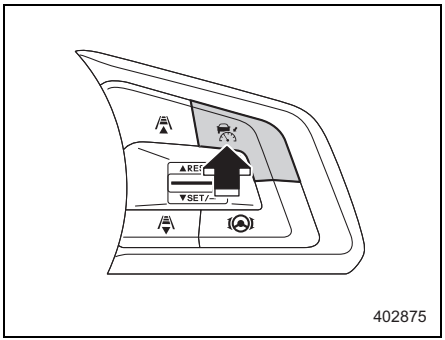
※ 定速クルーズコントロールに切り替えるときは、約２秒以上押し続けてください。

- EyeSight　システムが一時停止中でも、定速クルーズコントロールは使用できます。

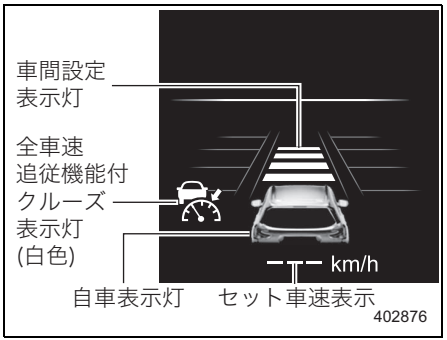
■定速クルーズコントロールの使用方法

●定速クルーズコントロールをセットするとき

1. 全車速追従機能付クルーズコントロールを作動可能（状態）にします。
   (クルーズ）スイッチを押します。全車速追従機能付クルーズコントロールがONになり、マルチインフォメーションディスプレイのEyeSight表示部に“”（全車速追従機能付クルーズ表示灯）（白色）、“”（車間設定表示灯）および自車表示灯が点灯します。
   また、“ー ー ー km/h”（セット車速表示）を表示します。
   (クルーズ）スイッチを押したときは常に全車速追従機能付クルーズコントロールとして起動します。



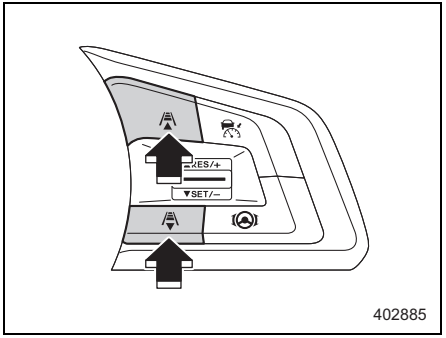
402875



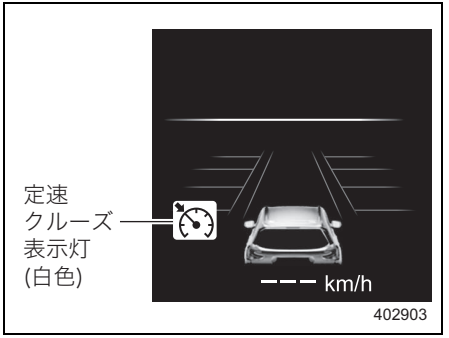
402876

2. 定速クルーズコントロールに切り替えます。
   / （車間設定）スイッチを約2秒以上押し続けると、全車速追従機能付クルーズコントロールから定速クルーズコントロールに切り替わり、ブザー（ピッ）が鳴ります。
   このときEyeSight表示部の車間設定表示灯が消灯し、“”（定速クルーズ表示灯）（白色）に切り替わります。

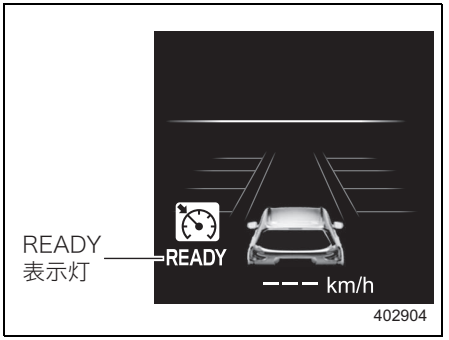
次ページへ ⇒



402885



402903

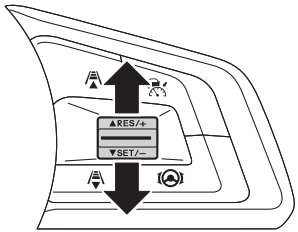


402904

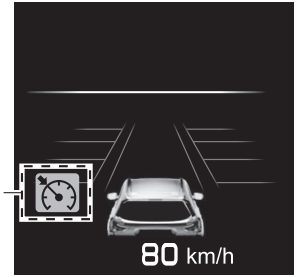
定速クルーズコントロールは、次の条件をすべて満たすとセット可能になり、EyeSight表示部に“READY”（READY表示灯）が点灯します。

- 運転席・助手席・後席のすべてのドアが閉まっている
- 運転席シートベルトを着用している
- 電動パーキングブレーキを解除している（電動パーキングブレーキ作動灯消灯）
- セレクトレバーが “D” または “M” に入っている
- ブレーキペダルを踏んでいない
- 急な坂道でない
- ハンドルを大きく切っていない
- X（エックス）モードをONにしていない（X（エックス）モード表示灯消灯）
- 自車速が約30 km/h～約120 km/hのとき
- エンジン回転数が高回転ではない
- VDC機能およびTCS機能が作動していないとき

3. アクセルペダルを加減して希望する速度にします。
4. 希望する速度になったら、SET/－またはRES/＋スイッチを押します。
   スイッチを押したときの車速がセット車速となり、定速走行します。
   EyeSight表示部にセット車速が表示され、“ ”（定速クルーズ表示灯）が白色から緑色に変わります。また、EyeSight表示部の“READY”（READY表示灯）が消灯します。



402879



402905

⚠ 警 告

- 定速クルーズコントロール作動中は、ブレーキ踏み増し要求警報は作動しない。
- 制限速度を守り、道路状況、環境に合った適切な車速範囲にセット車速を設定する。

⚠ 注 意

- 定速クルーズコントロールでは、必要に応じてアクセル、ブレーキ操作をする。
  － 先行車に合わせたアクセル、ブレーキ制御を行いません。

知 識

- 下り坂などでは、セット車速を保つため定速クルーズコントロールの制御によりブレーキが作動することがあります。
- カーブ走行中はセット車速が自車速より高いときであっても、加速しない、または減速することがあります。
- 全車速追従機能付クルーズコントロールに戻したいときは、定速クルーズコントロールを解除して、 / （車間設定）スイッチを押します。切り替わるとブザー（ピッ）が鳴ります。
- クルーズコントロール加速レベルを４段階に設定できます。

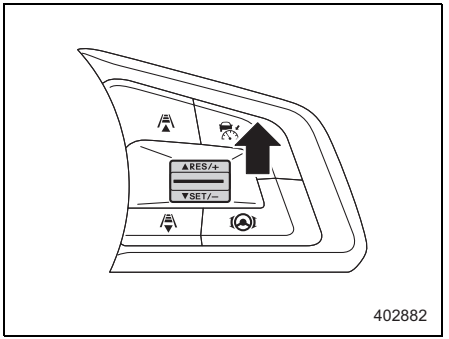
☞P.158参照

●セット車速を上げるとき

▼RES/＋スイッチによる方法

- RES/＋スイッチを1回ずつ押します
  押すごとにセット車速が 5 km/h ずつ上がります。
- RES/＋スイッチを押し続けます
  押している間、セット車速が1 km/hずつ上がります。

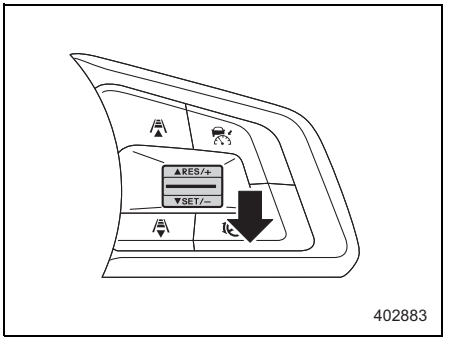
スイッチを操作するごとに EyeSight 表示部のセット車速が変わります。



402882

▼アクセルペダルによる方法

1. アクセルペダルを踏み、速度を上げます。
2. 希望の速度になったらSET/−スイッチを押します。
   スイッチを押したときの車速に再セットされ、EyeSight表示部に新しいセット車速を表示します。



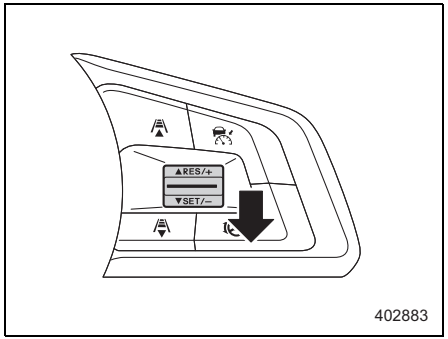
402883

●セット車速を下げるとき

▼SET/－スイッチによる方法

- SET/－スイッチを1回ずつ押します
  押すごとにセット車速が 5 km/h ずつ下がります。
- SET/－スイッチを押し続けます
  押している間、セット車速が1 km/hずつ下がります。

スイッチを操作するごとに EyeSight 表示部のセット車速が変わります。



▼ブレーキペダルによる方法

1. ブレーキペダルを踏み、速度を下げます。
   定速クルーズコントロールが解除され、“ ”（定速クルーズ表示灯）が緑色から白色に戻ります。
2. 希望の速度になったらブレーキペダルから足を離し、SET/－スイッチを押します。
   スイッチを押したときの車速にセットされ、EyeSight表示部に新しいセット車速を表示します。

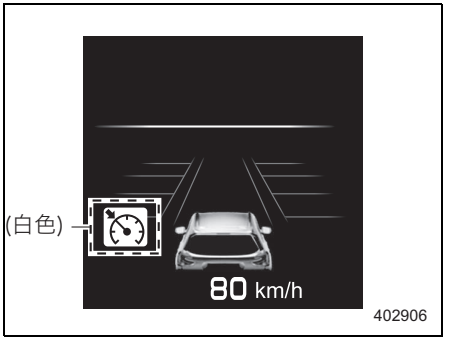
●一時的に加速したいとき

一時的に加速したいときは、アクセルペダルを踏みます。
アクセルペダルを離すと、セット車速まで戻ります。

●一時的に減速したいとき

一時的に減速するときは、ブレーキペダルを踏みます。
このとき、定速クルーズコントロールは解除されます。
EyeSight 表示部にセット車速を表示したまま、“ ”（定速クルーズ表示灯）が緑色から白色に戻ります。

セット車速に再びセットする場合はブレーキペダルから足を離し、RES/＋スイッチを押します。

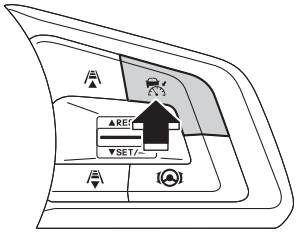


●定速クルーズコントロールの解除方法

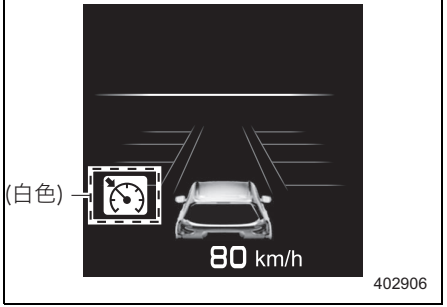
▼運転者の操作による解除

次のいずれかの操作で定速クルーズコントロールが解除されます。

- ブレーキペダルを踏む。
- (クルーズ) スイッチを押す。
  – EyeSight 表示部は、セット車速を表示したまま、“ ”（定速クルーズ表示灯）が緑色から白色に戻ります。



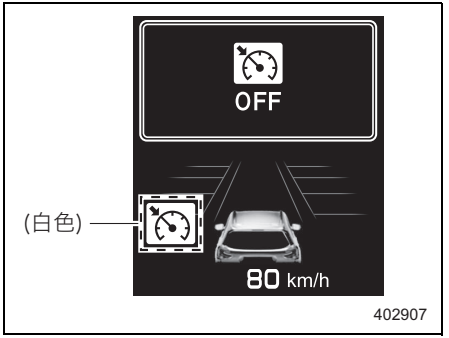
402875



402906

▼システムによる自動解除

次の場合、ブザー（ピピーン）が鳴り、定速クルーズコントロールが自動的に解除され、割り込み画面が表示されます。



- セレクトレバーを “D” または “M” 以外にしたとき
  – セレクトレバーを “D” または “M” に戻すと、再度使用できます。
- X（エックス）モードをONにしたとき（X（エックス）モード表示灯点灯）
  – X（エックス）モードをOFFにすると、再度使用することができます。
- 自車速が約25 km/h以下になったとき（急な登り坂など）
- 自車速が約145 km/h以上になったとき
- VDC機能またはTCS機能が作動したとき
- 運転席・助手席・後席のいずれかのドアを開けたとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- 電動パーキングブレーキがかかっているとき
- EyeSight システムが故障したとき（“EyeSight”（EyeSight 警告表示灯；黄色）が点灯しているとき）
- ハンドルを大きく回したとき
- 道路の勾配が急なとき
- プリクラッシュ 2次ブレーキが作動したとき
- 長時間連続でアクセル操作があったとき
- エンジン回転数が高回転になったとき

⚠ 警 告

- 滑りやすい路面では、定速クルーズコントロールを使用しない。
  - 思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

- 緊急時以外はセレクトレバーを“N”にしない。
  - セレクトレバーを “N” にすると定速クルーズコントロールは自動的に解除されますが、エンジンブレーキが効かなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知 識

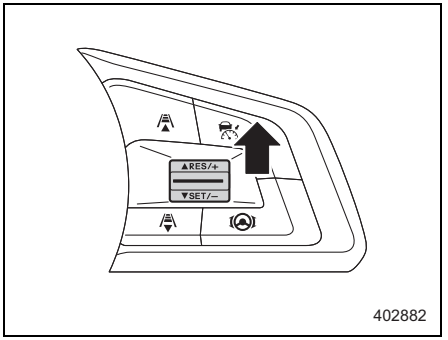
- EyeSightシステムが故障した場合は “EyeSight” （EyeSight警告表示灯）がマルチインフォメーションディスプレイに点灯し、割り込み画面を表示します。またプリクラッシュブレーキOFF表示灯および車線逸脱警報OFF表示灯が点灯します。その場合は安全な場所に停車して、一度プッシュエンジンスイッチをOFFにしてから、再度エンジンを始動してください。この操作をしても表示灯が点灯し続けるときは、定速クルーズコントロールの使用ができません。通常走行には支障はありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。

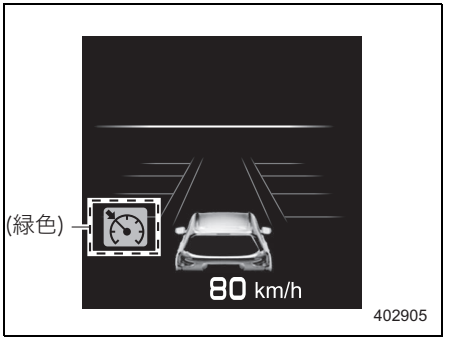
☞P.571参照

- 定速クルーズコントロールが自動で解除されたときは、解除されたときの条件が解消されてから、再びセット操作を行ってください。条件が解消されてもセットできないときは、EyeSightシステムの異常が考えられます。通常走行には支障ありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。

●一時解除の復帰（セット車速の再セット）

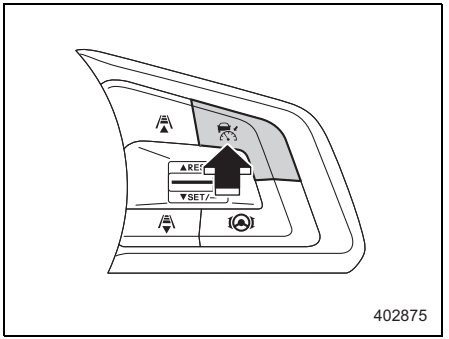
前回のセット車速がメモリーされているとき、その車速に再びセットする場合はRES/＋スイッチを押します（EyeSight表示部が再びセット状態の表示になります）。
前回のセット車速がメモリーされている場合、自車速約30 km/h以上のときにセットできます。





●定速クルーズコントロールをOFFにするとき

定速クルーズコントロール解除中に(クルーズ）スイッチを押すと(白色）が消灯し、定速クルーズコントロールがOFFになります。



知 識

- 次の場合はメモリーされているセット車速が消去されます。
  - －(クルーズ）スイッチを押してクルーズメインOFFしたとき
  - － 定速クルーズコントロールから全車速追従機能付クルーズコントロールに切り替えたとき
- セット車速に応じた車速で定速走行します。
- メモリー車速（前回のセット車速）がない場合、RES/ ＋スイッチを押すと、現在の自車速がセットされます。

☞**P.549**参照

RAB（後退時ブレーキアシスト）

RABは、後退時に壁や障害物に衝突するおそれがあるときに、マルチファンクションディスプレイやマルチインフォメーションディスプレイの表示と警報音で知らせ、必要に応じてシステムによるブレーキを作動させることで衝突を回避、または衝突の被害を軽減するシステムです。

RABは、システムによるブレーキが作動したときに、次のデータを記録します。

- 対象物からの距離
- 車速
- アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- セレクトレバーの位置
- 外気温
- ソナーセンサーの感度設定

⚠ 警 告

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。後退時には、ブレーキペダルを踏める状態で、必ず目視によって周辺状況を確認してください。
  - RABの検知性能・制御性能には限界があります。天候や周囲の状況、車両の状態により、警報音やブレーキ制御の作動が遅れたり、作動しなかったり、衝突が回避できない場合があります。
  - RABは、歩行者や動物、動いているものを認識するように設計されていません。
- RABだけに頼った後退は、絶対にしないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合、死亡事故に至るおそれがあります。

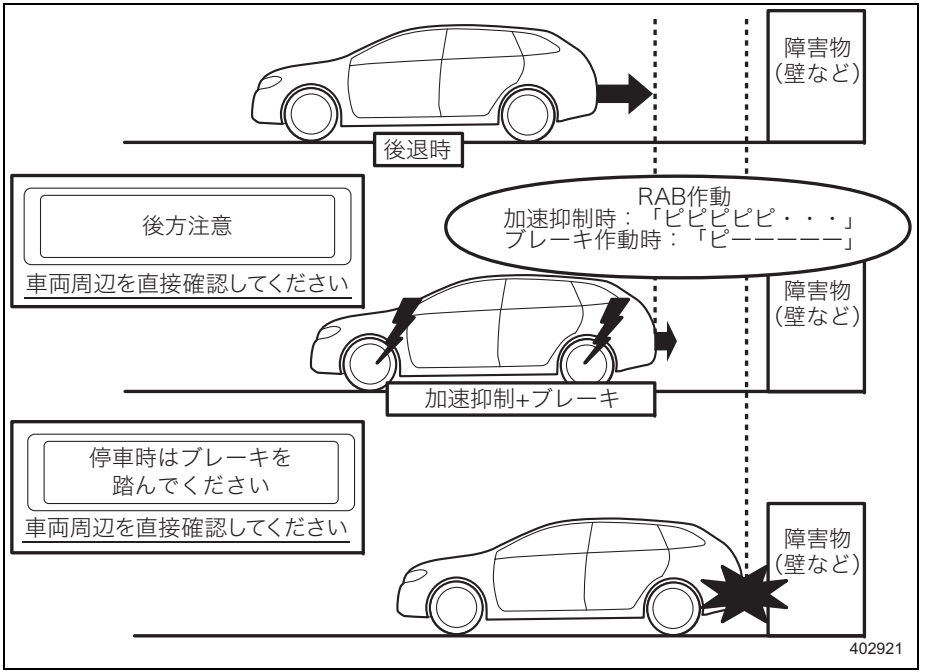
知 識

個人情報（例：氏名・性別・年齢・作動場所）や、会話その他の音声データは記録しません。

■RABの機能

RABはリヤバンパーに内蔵されたソナーセンサーにより、後退時に障害物を検知し、マルチファンクションディスプレイやマルチインフォメーションディスプレイの表示と警報音で運転者に知らせ、衝突の可能性があると判断した場合は、自動的に強いブレーキを作動させます。

■RABによる自動（被害軽減）ブレーキ機能の概要



⚠ 警 告

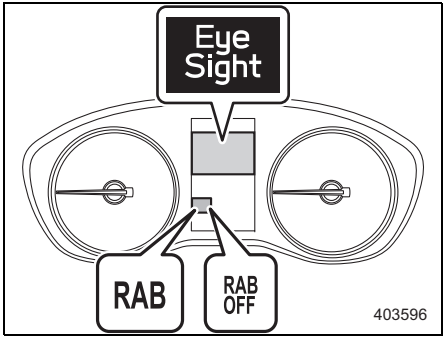
お車が踏切内に閉じ込められ、後退し遮断機を押し上げて脱出しようとした場合、システムが遮断機を障害物として検知し、ブレーキが作動することがあります。このようなときは、落ち着いてアクセルペダルを踏み続けるか、RABをキャンセルしてください。

☞P.565参照

■RABの作動条件

RABは、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- プッシュエンジンスイッチがONのとき
- EyeSight　警告表示灯が点灯していないとき
- RAB警告灯が点灯していないとき
- RAB　OFF 表示灯／一時停止表示灯が点灯していないとき
- RABの作動がONに設定されているとき
- セレクトレバーを“R”に入れたとき
- 車速約1.5 km/h～約15 km/hで後退しているとき

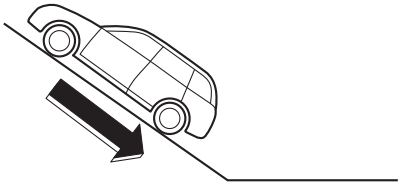


次ページへ ⇒

知 識

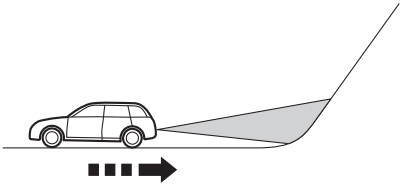
- システムに何らかの異常があるとき、RAB 警告灯が点灯し、システムの作動を停止します。
  警告灯が点灯した場合には、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- RAB OFF表示灯／一時停止表示灯が点灯している間は、RABシステムは作動しません。
- 次のような場合にはRABの検知性能が低下し、正常に作動しないことがあります。スバル販売店で点検を受けてください。
  - リヤバンパーを改造したとき
  - ソナーセンサーまたは付近のリヤバンパーにステッカーなどを貼ったり、薬品を塗ったり、塗装したりしたとき
  - リヤバンパーを取り外したり、交換したりしたとき
  - 積載や改造などにより、車高が変わったとき
  - ソナーセンサーまたは付近のリヤバンパーに傷がついたとき
  - リヤバンパーが強い衝撃を受けたり、変形したりしたとき
- 急な坂道では、システムによるブレーキの性能が低下することがあります。
- RABは車速約5 km/h以下での後退時に、システムによるブレーキで衝突を回避するように設計されていますが、衝突回避を保証するものではありません。
- 非常に遅い速度で後退した場合、システムによるブレーキが作動しないことがあります。
- 次のようなものは、認識しないことがあります。
  - ポールやフェンス、ロープ、金網などの尖ったものや細いもの
  - セレクトレバーを“R”にしたとき、すでにリヤバンパーのすぐ近くにあるもの
- 次のようなものは、認識しません。
  - 歩行者
  - 車両などの動いているもの
  - 布や雪など音波を吸収するもの
  - 表面の角度が斜めになっているもの
  - 駐車ブロックなど低い位置にあるもの
  - 吊り下げられているものなど高い位置にあるもの
  - 車両や壁などよりも小さいもの
- 次のような高周波音が近くにある場合は、システムが正常に作動しないことがあります。
  - 他の車両のホーン音
  - 他の車両のエンジン音
  - エアブレーキ音
  - 他の車両の車両検知システムの音
  - RABのソナーに近い周波数の音
- 次のような天候などでは、システムが正常に作動しないことがあります。
  - ソナーセンサー付近が極端に暑いとき、または寒いとき
  - 大雨などでソナーセンサーまたは付近のリヤバンパーに大量の水がかかったとき
  - 霧や雪、強風、砂嵐などのとき
- リヤバンパーに次のような部品を取り付けたときは、システムが正常に作動しないことがあります。
  - フォグランプ、フェンダーポール、ラジオアンテナなどの部品
  - ホーンやスピーカーなどの高周波音を出す部品
- 車両が次のような状態のときは、システムが正常に作動しないことがあります。
  - ソナーセンサーまたは付近のリヤバンパーに雪、氷、泥が多量についたとき
  - 車体が極端に傾いているとき
  - 積載などにより、車高が極端に低くなっているとき
  - 衝突や事故などにより、ソナーセンサーの位置がずれているとき

• 次のような状態のときは、システムが正常に作動しないことがあります。
  – 布製の横断幕や旗、枝つり、遮断桿などが後退方向にあるとき
  – 草や砂利が多い道路などを後退しているとき
  – 狭いトンネルや狭い橋、狭い道路、狭いガレージなど、物や壁が車両に隣接した場所で後退しているとき
  – 後退方向の地面に穴やわだちがあるとき
  – マンホールのフタの上などを後退しているとき
  – 極端な上り坂を後退しているとき



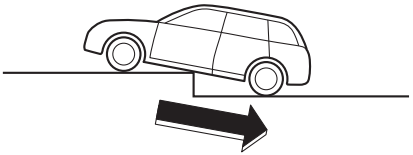
501181

  – 極端な上り坂が後退方向にあるとき



403250

  – 後退方向に縁石があるとき
  – 下り坂を後退しているとき
  – 段差を後退しているとき



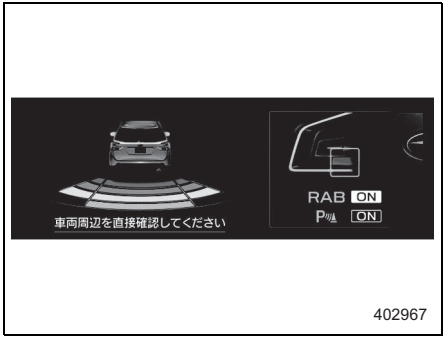
501182

次ページへ ⇒

- 次のような状態のときは、システムが正常に作動しても衝突を回避できないことがあります。
  - 路面が滑りやすいとき
  - タイヤの空気圧が適正でないとき
  - タイヤが摩耗しているとき
  - 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
  - パンク修理キットで応急修理をしたとき
  - サスペンションを改造したとき
  - タイヤチェーンを装着しているとき
  - 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
  - ブレーキ警告灯（赤色）が点灯しているとき

■RABの作動

後退時に障害物を検知すると、マルチファンクションディスプレイに障害物との距離の範囲が表示され、3段階の警報音が鳴ります。



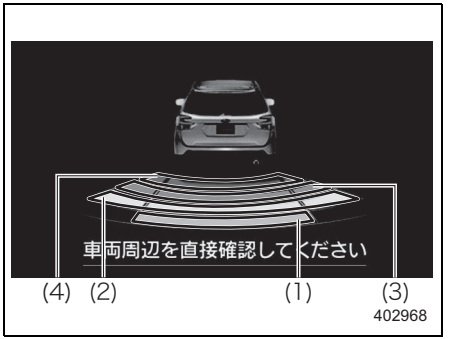
●障害物の検知と警報パターン

警報パターン	障害物との距離の範囲	障害物との距離の表示	ソナー警報音
遠距離警報	90 cm以上	緑	—
中距離警報	70 cm～90 cm	黄+緑	ポッポッポッポッポッ・・・
接近警報	50 cm～70 cm	橙+黄+緑	ポポポポポ・・・
最接近警報	50 cm以下	赤+橙+黄+緑	ポーーー

知 識

サイドビューモニターを表示していた場合、またはカメラセレクトレバー連動をONにしている場合は、RAB画面とサイドビューモニターを同時に表示します。

(1) 遠距離警報：緑
(2) 中距離警報：黄
(3) 接近警報：橙
(4) 最接近警報：赤

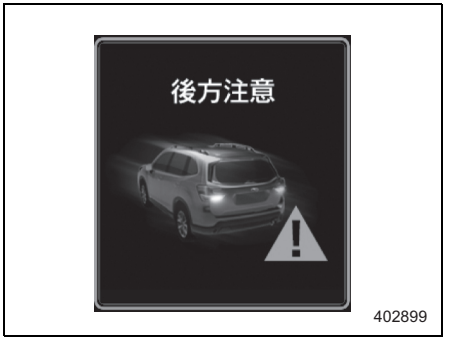


●障害物接近警報とシステムによるブレーキ

お車が後退を続け、システムが衝突の危険があると判断した場合、マルチファンクションディスプレイとマルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面が表示され、警報音が鳴ります。また、衝突を回避するために、自動的に強いブレーキが作動します。
☞P.141参照

＜マルチファンクションディスプレイ＞

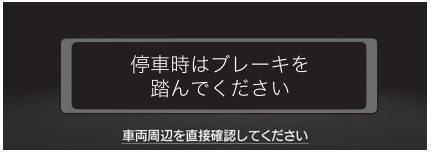
＜マルチインフォメーションディスプレイ＞



システムによるブレーキで停車した後は、安全のためブレーキペダルを踏んでください。ブレーキペダルを踏むまでマルチファンクションディスプレイとマルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面が表示され、警報音が鳴ります。

☞P.141参照

＜マルチファンクションディスプレイ＞



501201

＜マルチインフォメーションディスプレイ＞

402548

■RABのキャンセル

次のいずれかの操作でRABの作動をキャンセルすることができます。

- 加速抑制中に、アクセルペダルを踏み続ける
- セレクトレバーを“R”以外にする
- システムによるブレーキでの停車中にブレーキペダルを踏む
- システムによるブレーキでの停車中にアクセルペダルを踏む

⚠ 警 告

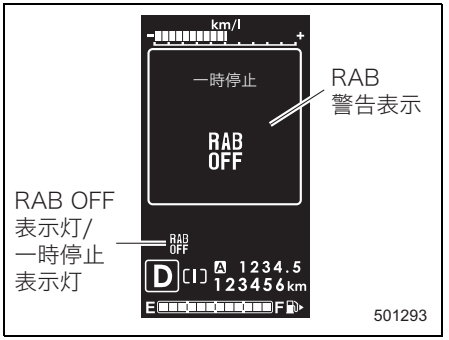
システムによるブレーキで停車した後はすぐにブレーキペダルを踏んでください。お車が動き出すおそれがあります。

知 識

障害物を検知できなくなったときもRABがキャンセルされます。

■RAB OFF表示灯／一時停止表示灯

システムによるブレーキで車両が停止後、ブレーキペダルを踏むと、RAB OFF表示灯／一時停止表示灯が点灯し、RABが一時停止状態となります。
セレクトレバーを “R” 以外にすると、RAB OFF 表示灯／一時停止表示灯が消灯し、次にセレクトレバーを“R”にしたときにRABが作動します。
また、次のような場合では、RABが自動的に一時停止し、RAB OFF表示灯／一時停止表示灯が点灯します。



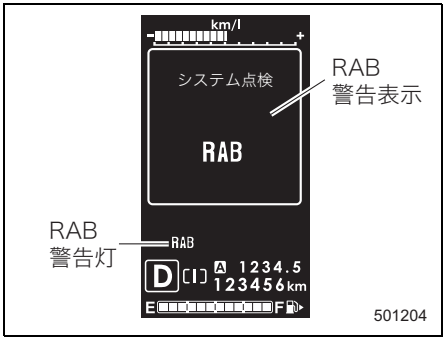
- ソナーセンサーに氷や雪、泥などが付着したとき
- リヤバンパーのすぐ近くに物がある状態でセレクトレバーを“R”にしたとき
- RABのソナーに近い周波数の音を検知したとき

知 識

- システムによるブレーキが作動した後は、ブレーキペダルを踏み続けてください。システムによるブレーキで車両が停止後、ブレーキペダルを踏むと、RAB OFF 表示灯／一時停止表示灯が点灯します。
- システムによるブレーキで車両が停止後、ブレーキペダルを踏むと、RABが一時停止します。セレクトレバーを “R” 以外にして、再度“R” にすると、復帰します。
- 次の場合は、システムによるブレーキが解除され、電動パーキングブレーキが作動します。
  - 車両が停止してから２分が経過したとき
  - いずれかのドアを開けたとき
  - RAB警告灯が点灯したとき
  - RAB OFF 表示灯／一時停止表示灯が点灯したとき

■RAB警告灯

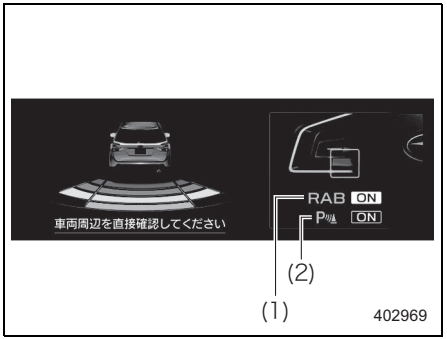
システムに異常があると点灯します。スバル販売店にご連絡ください。



■RABのON／OFF設定

セレクトレバーを“R”にしたときに、マルチファンクションディスプレイを操作することでRABによるブレーキ制御とソナー警報音のON／OFFを設定できます。

(1) RABによるブレーキ制御のON／OFF
(2) ソナー警報音のON／OFF



知 識

- INFOスイッチを押し、項目を選択します。INFOスイッチを押し続けると、選択した項目のON／OFFを切り替えることができます。

☞P.166参照

- RABによるブレーキ制御をOFFに設定したとき、マルチインフォメーションディスプレイにRAB OFF表示灯／一時停止表示灯が点灯します。
- サイドビューモニターを表示していた場合、またはカメラセレクトレバー連動をONにしている場合は、RAB画面とサイドビューモニターを同時に表示します。

システム作動音一覧

ブザー（音）	状態	参照先
ピーーー	プリクラッシュブレーキ： 2次ブレーキおよび警報が作動したとき	☞P.435
	自動（被害軽減）ブレーキ： ブレーキが作動したとき	☞P.564
	緊急時プリクラッシュステアリングが作動したとき	☞P.448
ピピーン	全車速追従機能付クルーズコントロール、定速クルーズコントロールが自動解除されたとき	☞P.479、554
	全車速追従機能付クルーズコントロールによる停止保持中に自動的に電動パーキングブレーキが作動したとき	☞P.479
	車線中央維持・先行車追従操舵機能、車線逸脱抑制機能が自動解除されたとき	☞P.496、509
ピピーン…	車線中央維持・先行車追従操舵機能がハンドル操作長時間非検出により自動解除されたとき	☞P.497
ピピピ…	プリクラッシュブレーキ： 車間距離警報が作動したとき	☞P.435
	プリクラッシュブレーキ： 1次ブレーキおよび警報が作動したとき	
	全車速追従機能付クルーズコントロールによるブレーキ踏み増し要求警報が作動したとき	☞P.483
	AT誤発進抑制制御が作動したとき	☞P.523
	AT 誤後進抑制制御の後退飛び出し抑制が作動したとき	☞P.531
	自動（被害軽減）ブレーキ： 加速抑制が作動したとき	☞P.558

ブザー（音）	状態	参照先
ポンポーン…	車線中央維持・先行車追従操舵機能のハンドル操作が長時間検出されないとき	☞P.497
	車線逸脱抑制機能が長時間作動したとき、または複数回作動したとき	☞P.501
ピピピッ	車線中央維持機能作動中に、逸脱回避要求警報が作動したとき	☞P.499
	車線逸脱警報が作動したとき	☞P.535
	ふらつき警報が作動したとき	☞P.539
ピ、ピ、ピ、ピ、ピ、ピピーン	全車速追従機能付クルーズコントロールによる停止保持が 2 分間継続し自動的に電動パーキングブレーキが作動するとき	☞P.477
ピッ	全車速追従機能付クルーズコントロールをセット中に • 先行車を認識したとき※ • 先行車を認識しなくなったとき※ • 赤信号を認識したとき	☞P.466、485
	全車速追従機能付クルーズコントロールと定速クルーズコントロールを切り替えたとき	☞P.547、549
	EyeSightシステムが故障したとき	☞P.571
	EyeSightシステムが一時停止したとき	☞P.572
	プリクラッシュブレーキ（AT 誤発進抑制制御、AT 誤後進抑制制御を含む）をOFFまたはONにしたとき	☞P.456、528、533
	車線逸脱警報（ふらつき警報を含む）を OFF またはONにしたとき	☞P.538、542
	RABが故障したとき	☞P.567
	RABが一時停止したとき	☞P.566

次ページへ ⇒

ブザー（音）	状態	参照先
ポピッ	• 先行車発進お知らせが作動したとき • 青信号お知らせが作動したとき	☞P.544、543
ポーンポーン…	後退速度リミッターが作動しているとき	☞P.532
ポッポッポッ ポッポッ・・・	ソナー警報音： 中距離警報	☞P.563
ポポポ ポポ・・・	ソナー警報音： 接近警報	
ポーーー	ソナー警報音： 最接近警報	
ピピピッ …	エマージェンシーレーンキープアシストが作動したとき	☞P.516

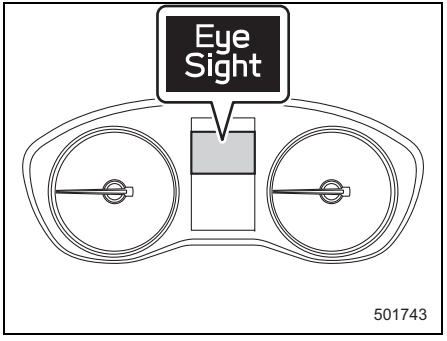
※ 先行車を認識したとき、または先行車を認識しなくなったときのブザー（先行車捕捉音）および先行車発進お知らせのON／OFFの設定を変更できます。
☞P.158参照

EyeSightシステムの故障および一時停止

EyeSightシステムの異常を検知すると、メーター内の表示灯とマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせします。表示内容を確認し、適切な処置を行ってください。

■故障（ステレオカメラの位置・角度ずれ含む）

ブザー（ピッ）が鳴り、“Eye Sight”（EyeSight警告表示灯）（黄色）が点灯、または点滅します。
また、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面を表示します。



表示画面	原因	処置
販売店で点検を 受けてください Eye Sight 501715	EyeSight システムの故障、またはステレオカメラの位置・角度ずれが考えられます。	点検、調整などが必要です。スバル販売店にご相談ください。

⚠ 注 意

走行中に“Eye Sight”（EyeSight警告表示灯）とエンジン警告灯が同時に点灯したときは、高速走行を避け、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。エンジンなどに異常がある場合、EyeSightシステムは使用できません。

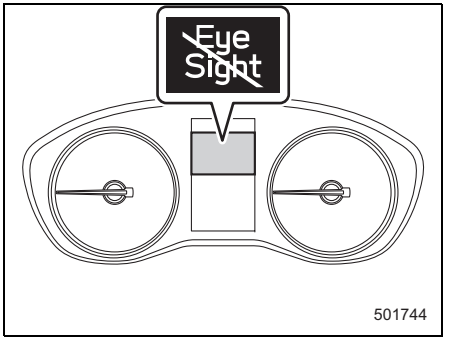
知 識

- “Eye Sight”（EyeSight 警告表示灯）が点灯、または点滅したときは、安全な場所に停車して、一度プッシュエンジンスイッチをOFFにしてから、再びエンジンを始動してください。
- エンジンを再始動しても表示灯が点灯、または点滅し続けるときは、EyeSightシステムの異常が考えられます。この場合、EyeSight システムのすべての機能が停止します。通常走行には支障ありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。

■一時停止

ブザー（ピッ）が鳴り、“Eye Sight”（EyeSight一時停止表示灯）（白色）が点灯します。
また、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面を表示します。

原因が解消されると一時停止が解除され、自動的にEyeSightが復帰します。



501744

表示画面	原因	処置
一時停止 カメラ視界不良 Eye Sight 501717	ステレオカメラが前方を認識しにくい • フロントガラスの汚れ、曇り • 悪天候時 • 前方からの強い光	• フロントガラスをきれいにしてください。 • 悪天候や前方からの光が強い場合、その状況が解消されしばらく走行すると復帰します。 状況が解消して時間がたっても復帰しない場合、スバル販売店で点検を受けてください。 • カメラ前のガラス（内側）が汚れた場合はスバル販売店で点検を受けてください。

知 識

“Eye Sight”（EyeSight一時停止表示灯）が点灯しているときは、次のような現象が発生します。

- 定速クルーズコントロールを除くすべての EyeSight システムの機能が使用できません。

表示画面	原因	処置
 501718	低温または高温時	EyeSightが使用可能な温度になると復帰します。 室内が常温でも復帰しない場合、スバル販売店で点検を受けてください。
 501719	• EyeSight起動中のとき • 車両が極端に傾いていると判断したとき • エンジン始動後、プリクラッシュ 2次ブレーキが3回作動したとき • エンジンが停止したとき（アイドリングストップによる停止を除く） • 停車中、または極めて低い速度で走行中にハンドル操作を行い、電動パワーステアリングが過熱防止状態になったとき	原因が解消されると復帰します。このとき、復帰に時間がかかる場合があります。 原因が解消して時間がたっても復帰しない場合、スバル販売店で点検を受けてください。

オープンソースソフトウェア情報

EyeSightには、オープンソースソフトウェア（OSS）を搭載しています。
使用許諾やソースコードは以下のURLから取得できます。

https://oss.veoneer.com/subaru

運転支援機能

AVH（オートビークルホールド）

AVH（オートビークルホールド）は、信号待ちなどの停止時にブレーキペダルから足を離しても、車両の停止状態を保持する機能です。保持中にアクセルペダルを踏み込む、または再度ブレーキペダルを踏むとブレーキの保持機能を解除します。

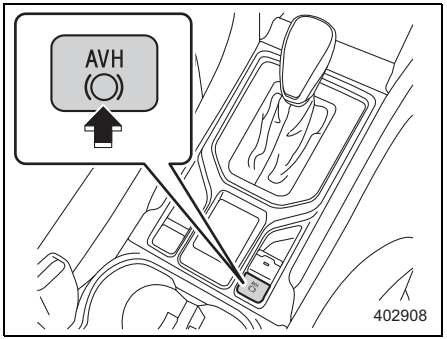
⚠ 警 告

AVHを使用する際は、次のことをお守りください。守らないと思わぬ事故や重大な傷害につながるおそれがあります。

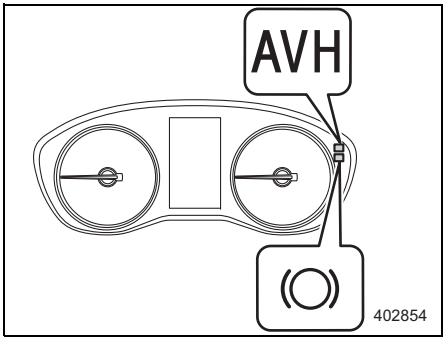
- AVH 作動灯が点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。お車が停止状態を保持できず、動き出すおそれがあります。
- 次のようなときは、AVHを使用しないでください。
  - 急な坂道を走行しているとき
  - 滑りやすい路面を走行しているとき
  - 駐車するとき
  - けん引されるとき
  - けん引するとき
  - 乗り降りするとき
  - 自動洗車機を使用するとき
  - 荷物などを積み下ろしするとき
- AVH 作動中に運転席のシートベルトを外してドアを開けるとAVHが解除され、お車がひとりでに動き出すおそれがあります。車外に出るときは、セレクトレバーを “P” にして電動パーキングブレーキを確実にかけ、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。

■AVHの使いかた

- AVHスイッチを押すと、メーター内のAVH表示灯が点灯して機能がONになります。



- AVH 表示灯が点灯しているときに AVH が作動すると、メーター内およびマルチファンクションディスプレイの予防安全画面内のAVH作動灯が点灯します。
- AVH 表示灯が点灯しているときに AVH スイッチを押すと、表示灯が消灯して機能がOFFになります。



知 識

- プッシュエンジンスイッチを OFF にすると、AVHはOFFになります。再度使用する場合は、AVHスイッチを押してください。
- AVH スイッチを 30 秒間押し続けるとメーター内のAVH表示灯が消灯し、以後の操作を受け付けなくなります。この場合は一度プッシュエンジンスイッチをOFFにし、再度ONにすれば元に戻ります。

■AVHの作動条件

AVHは、ブレーキペダルを踏んで車両が停止したとき、次の条件をすべて満たしていると作動します。

- 運転席のドアが閉まっている
- 運転席シートベルトを着用している
- シフトポジションが“P”以外

■AVHが解除される条件

次の場合、停止状態の保持が解除されます。解除されるとAVH作動灯が消灯します。

- アクセルペダルを踏む
- ブレーキペダルを踏みなおす
- 電動パーキングブレーキをかける
- ブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーを“P”にする
- ブレーキペダルを踏んだままAVHスイッチを押してAVHをOFFにする

知 識

- 停止状態を保持しているときに、次のような現象が起こることがありますが、異常ではありません。
  - ブレーキペダルを踏むと重く感じる。
  - 保持中に作動音がする。
- 停車時にブレーキペダルを強く踏み込まないと、AVHが作動しないことがあります。
- アイドリングストップの作動条件を満たしているときは、アイドリングストップも作動します。

■電動パーキングブレーキの自動作動

一定の条件を満たすとAVHが解除され、電動パーキングブレーキが自動的に作動します。

●電動パーキングブレーキが自動的に作動する条件

次の場合、停止状態の保持が自動解除された後に、電動パーキングブレーキが自動的に作動します。
このとき、メーター内のAVH作動灯が消灯し、メーター内の電動パーキングブレーキ作動灯および電動パーキングブレーキスイッチ内の作動表示灯が点灯します。

- 停止状態の保持が10分以上継続したとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- 運転席のドアを開けたとき
- 急な坂道に停車したとき
- AVHシステムに問題が発生したとき
- プッシュエンジンスイッチをACCにしたとき

●発進時の電動パーキングブレーキ解除

発進時は電動パーキングブレーキを解除してください。電動パーキングブレーキは次のいずれかの操作で解除できます。このとき、メーター内の電動パーキングブレーキ作動灯および電動パーキングブレーキスイッチ内の作動表示灯が消灯します。

- 運転席シートベルトの着用およびドアが閉まっている状態でアクセルペダルを踏む

☞P.384参照

- ブレーキペダルを踏んだまま、電動パーキングブレーキスイッチを押す

■AVHお知らせ機能

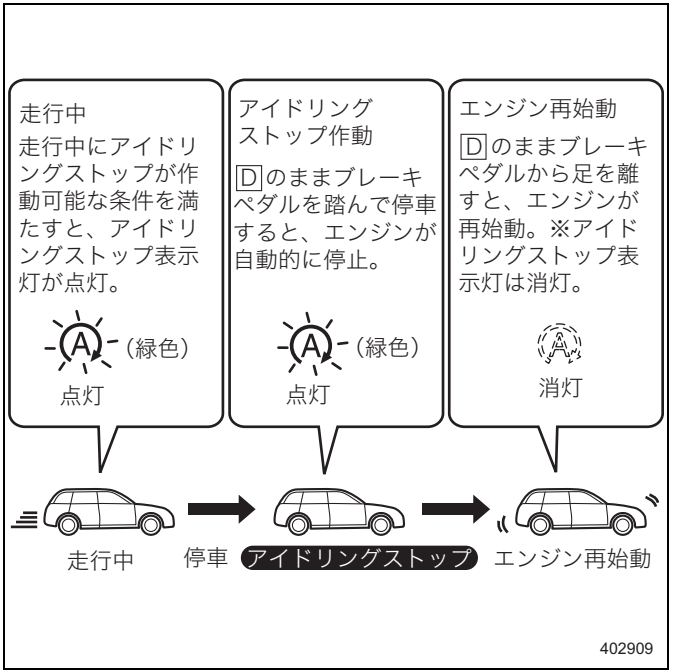
AVH の作動や解除について注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージを表示し、警告ブザーを鳴らして運転者に注意を促します。
マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された指示に従ってください。

⚠ 警 告

電動パーキングブレーキを解除するとお車が動き出しますので、解除前には必ず周囲の安全を確認してください。

アイドリングストップ

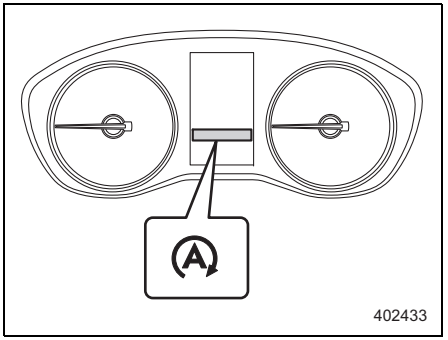
アイドリングストップとは、エンジン暖機後に運転中の信号待ちや渋滞などで車両が停止しているとき、燃費向上・排ガスの低減・アイドリング騒音低下のため、ブレーキ操作によってエンジンを自動停止させる機能です。また、解除時にエンジンを自動再始動させます。



※ 全車速追従機能付クルーズコントロールまたは AVH によって停止保持している場合は、停止保持の解除時にエンジンが再始動します。

エンジン始動後、走行せずにアイドリングを続けた場合、アイドリングストップは作動しません。また、停車中にアイドリングストップ・再始動を繰り返すこともありません。アイドリングストップは短時間のアイドリング時にエンジンを自動で停止・再始動させる機能です。長時間の駐車時はプッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。

■アイドリングストップの作動



セレクトレバーが“D”で走行中、アイドリングストップが作動する条件を満たすと、メーター内のアイドリングストップ表示灯（緑色）が点灯します。
ブレーキペダルを踏んで停車すると、アイドリングストップが作動し、エンジンが停止します。エンジン停止中、アイドリングストップ表示灯は点灯し続けます。
“D” のままブレーキペダルから足を離すと自動でエンジンが再始動し、アイドリングストップ表示灯が消灯します（AVH作動時を除く）。走行中に再度アイドリングストップする条件を満たすと、アイドリングストップ表示灯が点灯します。

知 識

- アイドリングストップ中に、セレクトレバーを“D”から“N”または“P”に操作しても、アイドリングストップは継続します。
  - ただし、セレクトレバーを“N”または“P”に操作後、他のレンジに操作するとエンジンは再始動します。
- X（エックス）モードがONのとき、アイドリングストップは作動しません。

●アイドリングストップの作動条件

次の場合、アイドリングストップは作動可能になります。

- エンジンが十分に暖機されている
- 運転席ドアが閉まっている
- 運転席シートベルトを着用している
- X（エックス）モードがOFF
- エアコンの吹き出し口が以外
- リヤウインドゥデフォッガースイッチがOFF

停車後、次の条件を満たすとアイドリングストップが作動します。

- ハンドルが直進状態のとき
- ハンドルを操作していない

知 識

- 次の場合は停車後、アイドリングストップが作動しないことがあります。
  - 急な坂道で停車したとき
  - 急ブレーキをかけて停止したとき
  - ブレーキブースターの負圧が十分でないとき
- 停車時、アイドリングストップが作動せずにアイドリングストップ表示灯が消灯したときは、ブレーキペダルの踏み込みが弱い場合があります。
- 次の場合、アイドリングストップするまで時間がかかるときがあります。
  - バッテリーが放電したとき
  - 水温が低いとき
  - バッテリー端子を再接続したとき
- スバル販売店で方向指示レバー操作時のアイドリングストップ非作動および自動解除を有効にできます。

●アイドリングストップが作動しない条件

次のいずれかの場合、アイドリングストップは作動しません。

- アイドリングストップ警告灯（黄色）／アイドリングストップOFF表示灯（黄色）が点滅または点灯しているとき
- エンジン警告灯が点灯しているとき
- 電動パーキングブレーキが作動しているとき
- ボンネットが開いているとき
- 標高約1,500 m以上のとき
- トランスミッションフルードの油温が低いとき、または高いとき
- バッテリー状態が良好でないとき
- エアコン使用時、エアコンの設定温度と車内の温度の差が大きいとき
- エアコン使用時、風量が多いとき

知 識

エンジン警告灯など、メーター内の警告灯が点灯・点滅している場合、アイドリングストップが作動しないことがあります。

●アイドリングストップが自動解除する条件

次の状態になるとアイドリングストップの作動が自動的に解除され、ブレーキペダルから足を離さなくても、エンジンが再始動します。

- 坂道でブレーキをゆるめ､車両が動きだしたとき
- ブレーキペダルを素早く踏み増ししたとき
- アクセルペダルを踏んだとき
- セレクトレバーを“R”にしたとき
- セレクトレバーを“N”または“P”から“D”にしたとき
- ハンドル操作をしたとき
- X（エックス）モードをONにしたとき
- エアコンの吹き出し口を にしたとき
- リヤウインドゥデフォッガースイッチをONにしたとき
- エアコンが設定温度を維持できなくなったとき
- 電動パーキングブレーキスイッチを操作したとき
- 運転者が車両から降りようとしたとき（運転席シートベルトを外したり運転席ドアを開けたとき）
- ブレーキブースターの負圧が低下したとき
- バッテリーの放電が進んだとき
- AVHの停止保持を解除したとき

☞P.576参照

知 識

- アイドリングストップ中は、ブレーキペダルが硬く感じることがありますが、異常ではありません。
- 次のときはエンジン停止時間が短くなることがあります。
  - エアコンが作動しているとき
  - 外気温が高いとき､または低いとき(エアコンが設定温度を維持できなくなるため)
  - 電装品などの消費電力が多いとき
- アイドリングストップからエンジンが再始動すると、電源ソケットの電圧が低下するので、使用している電装品によっては電装品の電源が一時的に OFF になることがあります。
- スバル販売店で方向指示レバー操作時のアイドリングストップ自動解除を有効にできます。

●アイドリングストップが自動解除しない条件

次の操作を行うと安全を確保するため通常のエンジン停止状態になり、エンジンは再始動しません。この場合、セレクトレバーを“P”にして周囲の安全を確認してから、通常の操作でエンジンを始動するか、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。

- ボンネットを開けたとき

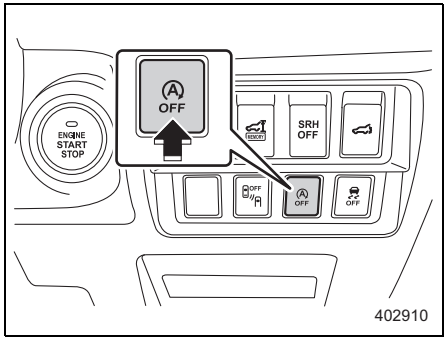
⚠ 警 告

- アイドリングストップ中にボンネットを開けない。
  - 運転者が車内でブレーキペダルを踏んでいても、安全を確保するため通常のエンジン停止状態になります。この場合、坂道でお車が動く、ハンドル操作が重くなる、ブレーキが効きにくくなるなどの可能性があり危険です。

■アイドリングストップの作動をOFFにするとき

アイドリングストップOFFスイッチを押すとアイドリングストップが作動停止状態となり、メーター内のアイドリングストップOFF表示灯（黄色）が点灯します。もう一度スイッチを押すとアイドリングストップが作動可能な状態になり、アイドリングストップOFF表示灯が消灯します。

アイドリングストップ中にスイッチを押すと、エンジンが再始動します。

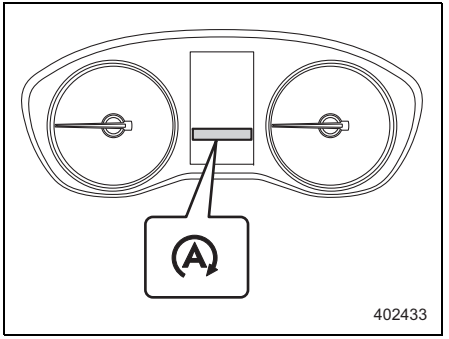


知 識

- アイドリングストップ作動停止状態でプッシュエンジンスイッチを OFF した場合、エンジンを再始動するとアイドリングストップは作動可能な状態に戻ります。
- 車から離れるときはプッシュエンジンスイッチを OFF にしてください。バッテリー上がりの原因となります。

■アイドリングストップ表示灯（緑色）

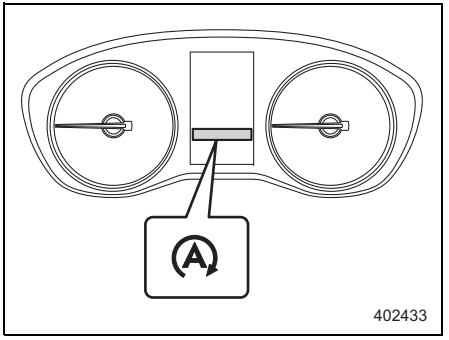
アイドリングストップの作動条件を満たしたとき、またはアイドリングストップ中に点灯します。
エンジンが再始動すると消灯します。



■アイドリングストップ警告灯（黄色）／アイドリングストップOFF表示灯（黄色）

●アイドリングストップ警告灯（黄色）

アイドリングストップシステムに異常があるとき、点滅します。すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
また、システムの異常を検知するとマルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面を表示します。



●アイドリングストップ OFF 表示灯（黄色）

アイドリングストップOFFスイッチを押してシステムを解除すると、点灯します。
通常のエンジン停止状態になったときも点灯します。

⚠ 注 意

エンジン始動後にアイドリングストップ警告灯／アイドリングストップ OFF 表示灯が消灯しない、またはアイドリングストップOFFスイッチを押しても点灯・消灯が切り替わらない場合は、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

■アイドリングストップ警告ブザー

●ブザー（ピーーー）が鳴るとき

アイドリングストップ中に次の操作を行うと安全を確保するため通常のエンジン停止状態になり、ブザーが鳴ります（メーター内のアイドリングストップOFF表示灯（黄色）も点灯します）。この場合、セレクトレバーを“P”にして周囲の安全を確認してから通常の操作でエンジンを始動するか、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。

- ボンネットを開けたとき

■アイドリングストップ表示

マルチインフォメーションディスプレイにトリップメーターをリセットしてからのアイドリングストップした積算時間と節約した燃料の目安を表示します。

☞P.112参照

203029

知 識

- トリップAまたはトリップBをリセットすると、積算時間および燃料節約量もリセットされます。
- アイドリングストップ作動によるエンジン停止中も、走行時間はカウントを続けます。

■バッテリー

充電受け入れ性能を高めた高性能な専用バッテリーを使用しています。バッテリーを交換するときは、スバル純正のアイドリングストップ専用バッテリーに交換してください。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

☞P.796参照

⚠ 注 意

- 専用バッテリー以外は使用しない。
  - バッテリーの早期劣化やアイドリングストップが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- バッテリーの端子から直接電装品の電源をとらない。
  - アイドリングストップが正常に作動しなくなります。
- バッテリーが上がったときは、救援車を依頼しブースターケーブルを接続してエンジンを始動する。
  - エンジンをかけた後は、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

☞P.773参照

VDC（ビークルダイナミクスコントロールシステム）

走行中、滑りやすい路面や障害物の緊急回避などのときには、車両が横滑りや尻振りを起こすことがあります。VDCは、ブレーキ制御、エンジン出力制御により、横滑りなど車の不安定な挙動を抑えるシステムです。

■VDCの主な機能

●トラクションコントロール（TCS）機能

トラクションコントロール（TCS）機能は、ブレーキ制御、エンジン出力制御により、滑りやすい路面などで生じる駆動輪の空転を防止して駆動力、操舵能力を確保する機能です。

この機能が作動すると、VDC作動表示灯が点滅します。

☞P.589参照

●横滑りコントロール（VDC）機能

急なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、ブレーキ制御、エンジン出力制御により車輪の横滑りなどを抑制し、車両の方向安定性を確保する装置です。この機能が作動すると、VDC作動表示灯が点滅します。

☞P.589参照

次ページへ ⇒

⚠ 注 意

- VDCを過信しないでください。VDCが作動した状態でも車両の安定性の確保には限界があり、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。
  常に安全運転を心がけてください。
- VDCが作動するような路面では車速を十分に落として運転してください。
- サスペンション構成部品およびアクスルの脱着時は、必ずスバル販売店で点検を受けてください。

次の事項は必ず守ってください。

- 雪道走行するときは、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）またはタイヤチェーンを装着して走行してください。
- タイヤチェーンを装着するときは、**P.742** の記載事項をお守りください。
- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着するときは、**P.741** の記載事項をお守りください。
- VDC装備車であってもカーブなどの手前では、十分に速度を落としてください。
- VDCが正常に機能しなくなることがありますので、次の事項をお守りください。
  また、タイヤを交換するときは、**P.705** の記載事項をお守りください。
  - 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
  - タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
  - 応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、後輪に装着してください。

☞**P.800**参照

知 識

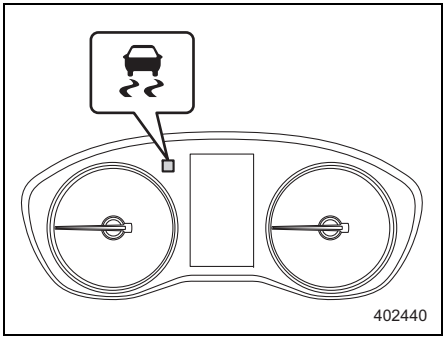
- VDCが作動したとき、ブレーキが小刻みに動いたり、車体やハンドルなどに振動や作動音を感じることがあります。これは、VDCが作動している状態で、正常です。
- エンジンを始動した後の最初の発進時に、エンジンルーム付近から一時的に作動音がします。これは、VDCの作動をチェックしている音で正常です。
- エンジンを始動した後の発進時に、ブレーキペダルを踏み込むタイミングによっては、ペダルにABSが作動したときと同じような振動を感じることがあります。これは、VDCの作動をチェックしている動きで、正常です。
- VDC　が作動しているときはハンドル操作時のフィーリング（感覚）が若干変わります。
- 応急用スペアタイヤを使用する場合、必ず車両に搭載されているものを使用してください。他のタイヤやホイールと組み合わせたもの、また、指定空気圧になっていない場合は、VDCが正常に機能しなくなることがあります。
- タイヤ交換の際は必ずプッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。
  エンジンを作動させたままタイヤ交換を行った場合は、VDCが正常に機能しなくなることがあります。

☞**P.705**参照

■VDC警告灯／VDC作動表示灯

●VDC警告灯

VDCの電子制御システムに異常があると点灯します。
また、システムの異常を検知するとマルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面を表示します。
☞P.143参照



●VDC作動表示灯

TCS機能作動時、またはVDC機能作動時に点滅します。
マルチファンクションディスプレイを予防安全画面にしている場合、画面内の表示灯が点滅します。

次ページへ ⇒

⚠ 注 意

- 次の場合は異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
  - ー プッシュエンジンスイッチをONにしても点灯しない
  - ー エンジン始動後、数分たっても消灯しない

  プッシュエンジンスイッチをOFFにし、再度エンジンをかけた後に消灯する場合は、異常ではありません。
  上記の操作を繰り返しても点灯し続ける場合はシステムの異常です。
- VDCの作動にABSの構成部品を使っているため、ABSの電子制御システムに異常があるときはABS警告灯の点灯と同時にVDC警告灯も点灯します。VDC警告灯とABS警告灯が同時に点灯したときは、VDCおよびABSも作動しません。通常のブレーキとしては作動しますので、走行上支障はありませんが、滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- VDC警告灯のみが点灯したときは、トラクションコントロール（TCS）機能および横滑りコントロール（VDC）機能は作動しませんがABSは作動します。VDCの付いていない車両と同じように扱ってください。滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

知 識

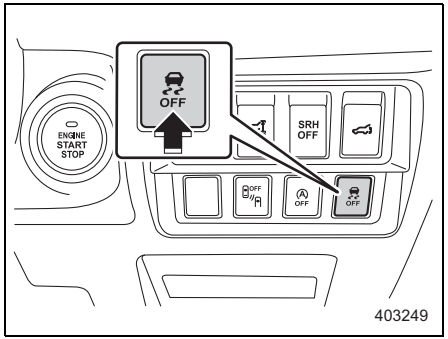
- 警告灯が次の場合は正常です。
  - ー エンジン始動後に警告灯が点灯してすぐに消灯し、その後再び点灯しない
  - ー エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中に消灯する
  - ー 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない
- 寒い朝などにエンジンを始動させた場合、消灯するまでに時間がかかる場合がありますが、これは異常ではありません。

■VDC OFFスイッチ

エンジンが作動しているとき、VDC OFFスイッチを押すとTCS機能が解除されます。

次のような特殊な状況下において、TCS機能を一時的に解除して駆動輪を適度にスリップさせた方が、発進できる場合があります。

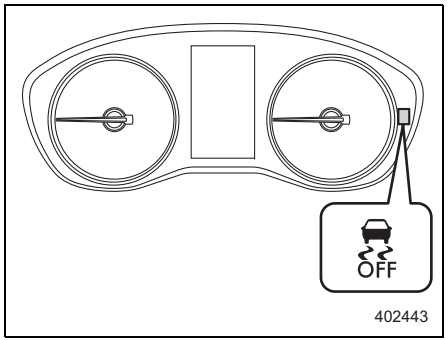
- 雪や砂利などで覆われた急登坂路で発進するとき
- ぬかるみや深い雪にタイヤが埋まった状態から脱出するとき



TCS機能が解除されるとメーター内のVDC OFF表示灯が点灯します。復帰させるときにはもう一度VDC OFFスイッチを押します。

■VDC OFF表示灯

プッシュエンジンスイッチがONで点灯し、約2秒後消灯します。
VDC OFFスイッチを押してTCS機能を解除したとき点灯します。



⚠ 注 意

TCS機能は、エンジン出力制御により車の不安定な挙動を抑えるシステムです。必要なとき以外は、TCS機能を解除しないでください。また、TCS機能を解除したときは、路面状態に応じた安全な速度で慎重な運転を心がけてください。

知 識

- TCS 機能を解除しても一部のブレーキ制御は作動します。その場合、VDC作動表示灯は点滅します。
- X（エックス）モード中は、VDC OFFスイッチを操作してもVDCのON／OFFは切り替わりません。SNOW・DIRT ではON、DEEP SNOW・MUD ではOFFのまま固定されます。
- VDC OFF スイッチを押しても切り替わらない場合、一度プッシュエンジンスイッチをOFFにし、再度エンジンを始動してください。それでも切り替えできないときは、スバル販売店にご相談ください。
- エンジンを始動すれば TCS 機能は自動的に作動可能状態になります。

SRVD（後側方警戒支援システム）

SRVD は、隣接車線の後方から接近する車両や、後退時に左右から接近する車両の存在を知らせることにより、車線変更時や後退時の後側方確認をアシストするシステムです。

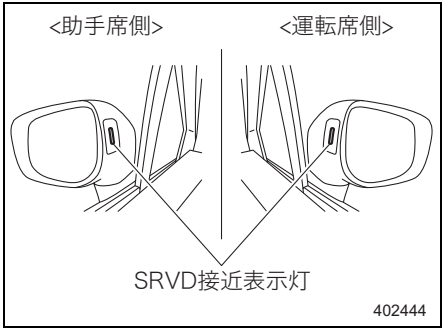
■SRVDの主な機能

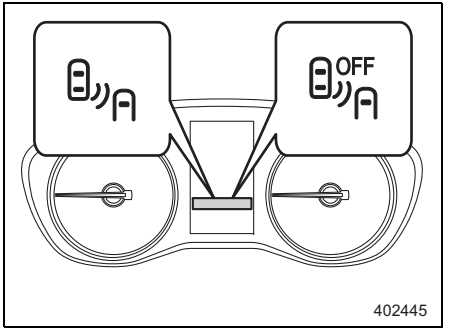
SRVDには、次の3つのアシスト機能があります。

- 死角検知：走行時における隣接車線の死角に隠れた車両を検知する
- 車線変更支援：隣接車線の後方から高速で接近してくる車両を検知する
- 後退時支援：後退時に左右から接近する車両を検知する

レーダーセンサーにより後方からの接近車両を検知して、その接近状態に応じてドアミラー本体にあるSRVD接近表示灯が点灯します。
死角検知／車線変更支援機能では、SRVD 接近表示灯が点灯した状態で、点灯した側に方向指示器のレバーを操作すると、SRVD接近表示灯が点滅し、運転者に危険を知らせます。
後退時支援では、接近状態に応じてSRVD接近表示灯が点滅するとともに、警報音によって運転者に危険を知らせます。
システムの作動状況は、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。

☞P.599、601参照





⚠ 警 告

SRVD について次のことをお守りください。守らないと思わぬけがや重大な事故につながるおそれがあります。

- 車線変更や後退時には必ず目視で周辺状況を確認する。
  - 道路、天候、交通状況などにより、隣接車線に車両が存在する場合や、左右から接近する車両が存在する場合でも、SRVD接近表示灯が点灯／点滅しなかったり、点灯／点滅が遅れる場合があります。
- システムを過信しない。
  - 安全な車線変更や後退の可否を判断したり、車両や障害物との接触を自動的に防ぐ機能ではありません。
  - システムを過信すると最悪の場合、死亡事故につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するときは、必ずSRVD OFF スイッチを OFF にしてください。SRVDが予期しない作動をする可能性があります。

■SRVDの作動条件

SRVDは、次の条件をすべて満たしているときに作動します。
死角検知／車線変更支援機能：

- プッシュエンジンスイッチがONのとき
- SRVD警告灯とSRVD OFF表示灯が点灯していないとき
- 車速約12 km/h以上で走行中のとき

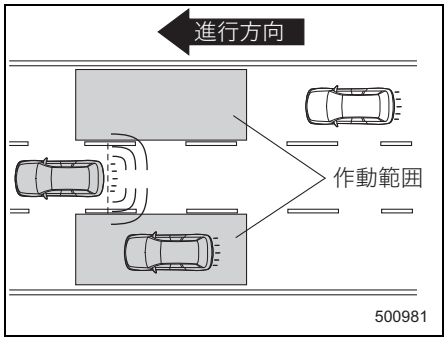
後退時支援機能：

- プッシュエンジンスイッチがONのとき
- SRVD警告灯とSRVD OFF表示灯が点灯していないとき
- セレクトレバーを“R”に入れたとき

■SRVDが作動するとき

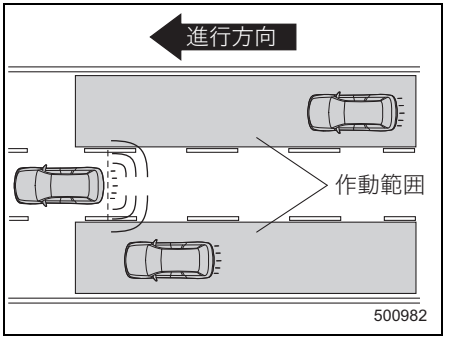
●死角検知機能

ピラー左右後方の死角にある車両を検知します。
死角エリアに車両を検知した場合は、SRVD 接近表示灯が点灯し、運転者に危険を知らせます。運転者がSRVD 接近表示灯の点灯した側に方向指示器のレバーを操作した場合は、点滅させることによって運転者に警告します。



●車線変更支援

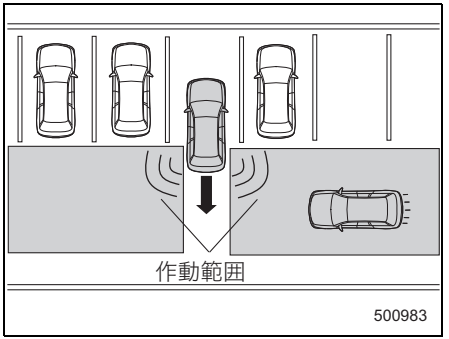
隣接する左右車線内に高速で接近する車両を検知します。
接近する車両を検知した場合は、SRVD 接近表示灯が点灯し、運転者に危険を知らせます。運転者が SRVD 接近表示灯の点灯した側に方向指示器のレバーを操作した場合は、点滅させることによって運転者に警告します。



●後退時支援

後退時に左右から接近してくる車両を検知したときに作動します。
検知した場合は、次の方法で運転者に警告します。

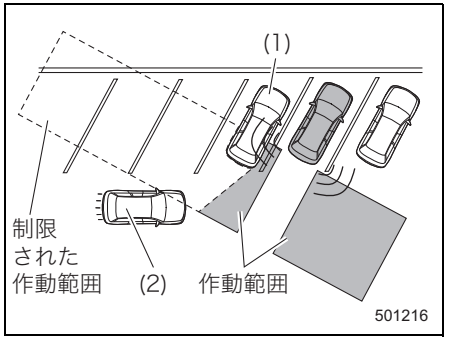
- ドアミラーの SRVD 接近表示灯による点滅
- 警報音



▼接近する車両を検知しにくいとき

後退時において、駐車枠線が斜めに引かれた駐車スペースに駐車している場合は、周囲の駐車している車両によりSRVDの作動範囲が制限されます。

(1) 駐車している車両
(2) 接近する車両



⚠ 警 告

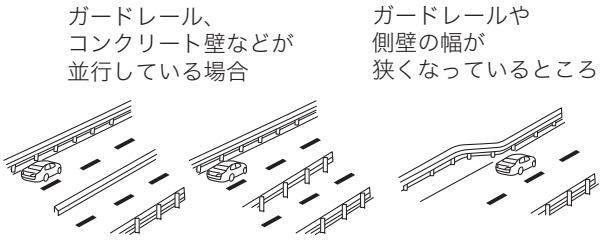
周囲の駐車している車両によりSRVDの作動範囲が制限され、接近する車両の検知ができない場合や、遅れる場合があります。必ず、運転者の責任において目視によって周辺状況を確認してください。

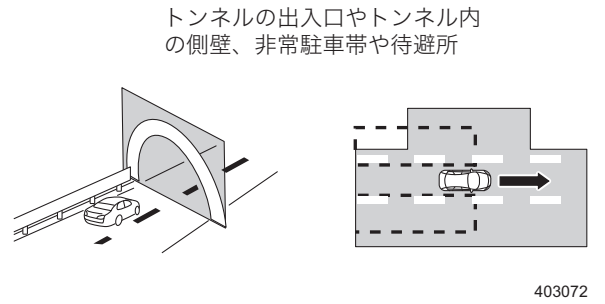
次ページへ ⇒

知 識

- SRVD 接近表示灯を含むシステムに何らかの異常があるとき、SRVD警告灯が点灯し、システムの作動を停止します。SRVD警告灯が点灯した場合には、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- 次の場合、SRVD OFF表示灯が点灯し、システムの作動を一時的に停止します。
  状況が改善されると正常復帰しますが、SRVD OFF表示灯が長時間点灯しているような場合には、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
  - レーダーセンサー付近のリヤバンパー上に雪、氷、泥が多量についたとき
  - 雪道、もしくは周囲に何もない環境を長時間走行したとき
  - レーダーセンサー付近の温度が非常に低くなったときや、非常に高くなったとき
  - バッテリーの電圧が規定より下がっているときや、上がっているとき
  - レーダーセンサーの搭載位置に大きなずれが生じたとき
- レーダーセンサーの検知性能には限界があります。次のような場合にはSRVDの検知性能が低下し、正常に作動しないことがあります。
  - レーダーセンサー付近のリヤバンパーが変形、損傷したとき
  - リヤバンパーのレーダーセンサー付近にステッカーなどが貼られているとき
  - リヤバンパーのレーダーセンサー付近に雪、氷、泥が付着しているとき
  - 雨、雪、霧など悪天候のとき
  - 雪道、水たまりなど、ぬれた路面を走行するとき
- 次のような車両などに対しては、レーダーセンサーが検知しないか、もしくは検知しにくいことがあります。
  - 小型の二輪車、自転車、歩行者、道路上および道路端の構造物
  - レーダーの電波が反射しにくい形状の車両（車高の低い空荷のトレーラー、スポーツカーなど）
  - 隣車線後方の検知エリアや、後退時の左右側方の検知エリアにいても、自車に接近してこない車両（接近車両はレーダーの検出データをもとにシステムが判断しています）
  - 自車との速度差がかなり大きい車両
  - 自車とほとんど速度差がなく、長い時間並走している車両
  - 対向車
  - 2車線隣にいる車両
  - 自車よりもかなり遅い速度で隣車線を走行中に、急激に速度を上げて自車を追い越そうとする車両
- 次のような場合は、SRVD 接近表示灯の点灯／点滅および警報音の警告が遅れるか、点灯／点滅／警報ができないことがあります。
  - 車両が、2車線隣の車線から隣車線に車線変更してきたとき
  - 急勾配を走行している、または急勾配の上り下りが連続した坂道を走行しているとき
  - 峠を越えるとき
  - 自車と隣車線の車両が、互いの車線の端を走行しているとき
  - 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近しているとき
  - 回転半径が小さいとき（急カーブや交差点を曲がるときなど）
  - 走行車線と隣接する車線間で高低差があるとき
  - SRVD OFFスイッチを押してONにした直後
  - セレクトレバーを“R”に入れた直後
  - 荷室に非常に重い荷物を載せているとき
- 後退時において、次のような場合はSRVD 接近表示灯の点滅および警報音の警告が遅れるか、点滅／警報ができないことがあります。
  - 傾斜のある駐車スペースから出るとき
  - 隣に大型車両が駐車しているとき
  - 勾配がついた路面で後退しているとき
  - 速い速度で後退しているとき

- 後退時において、駐車枠線が斜めに引かれた駐車スペースに駐車している場合は、次のような現象が発生する可能性があります。
  - SRVD　接近表示灯の点滅および警報音の警告が遅れるか、点滅／警報ができない
  - 車両前方を通過する車両を検知して、SRVD 接近表示灯が点滅し、警報音の警告が鳴る
- 次の場合は、SRVD OFFスイッチを押してシステムの機能を停止してください。レーダーセンサーの電波が遮られるため、システムが正常に作動しない可能性があります。
  - トレーラーなどをけん引するとき
  - 車両後部に自転車またはスキー・スノーボード固定用のキャリアなどを装着するとき
- 次のような場合には、2 車線横の車両を検知することがあります。
  - 自車が車線端に寄って走行しているとき
  - 2車線横の車両が車線端に寄って走行しているとき
- 道路上および道路端に構造物（ガードレール、トンネル、側壁など）があるとき、SRVD 接近表示灯が点灯することがあります。
  - ガードレール、コンクリート壁などが並行している場合
  - ガードレールや側壁の幅が狭くなっているところ
  - トンネルの出入口やトンネル内の側壁、非常駐車帯や待避所



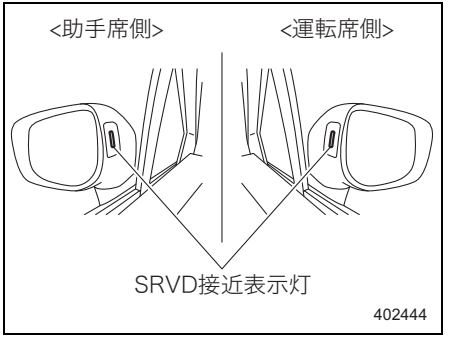


- 後退している方向に建物や路壁などがあるとき、SRVD 接近表示灯が点滅し、警報音が鳴ることがあります。
- 市街地の交差点を曲がるとき、多車線の交差点を曲がるときなどに、SRVD接近表示灯が点滅することがあります。

■SRVD接近表示灯／警報音

●SRVD接近表示灯

ドアミラーに取り付けられています。後方からの接近車両を検知すると点灯します。点灯した状態で、点灯側へ方向指示器のレバーを操作すると点滅し、運転者に危険を知らせます。また後退時には、左右からの接近車両を検知すると点滅して運転者に危険を知らせます。



●SRVD接近表示灯の減光機能

ランプ類が点灯していて周囲が暗いとき、SRVD接近表示灯が減光します。

知 識

- 強い日差しのもとでは、SRVD接近表示灯が見えにくいことがあります。
- 後方車両からのヘッドランプによって、SRVD接近表示灯が見えにくくなることがあります。
- 減光機能は、イルミネーションコントロールダイヤルの設定に連動しています。

☞P.359参照

●警報音（後退時のみ）

SRVD接近表示灯の点滅と同時に警報音が鳴り、運転者に危険を知らせます。

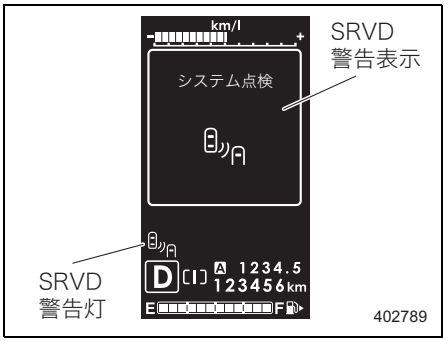
知 識

警報音の音量を設定できます。
☞P.158参照

■SRVD警告表示／警告灯

●システム点検

システムに異常が発生したときに表示されます。またSRVD警告灯が点灯します。
スバル販売店で点検を受けてください。

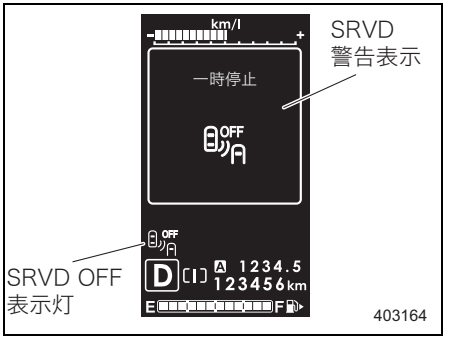


知 識

EyeSight 警告表示灯が点滅しているときは、SRVD 警告灯が点灯する場合があり、システムが停止します。

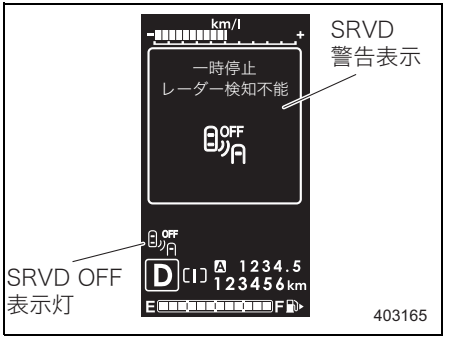
●一時停止

極めて高温または低温の環境で使用したときや、バッテリー電圧の異常が発生したとき、またはレーダーセンサーの取り付け角度が著しく変化しているとレーダーセンサーが判断したときに表示されます。またSRVD OFF表示灯が点灯します。
状況が改善されると一時停止状態から復帰して表示が消えますが、表示が長時間続く場合には、スバル販売店で点検を受けてください。



●一時停止（レーダー検知不能）

レーダーセンサーの検知性能が低下したときに表示されます。またSRVD OFF表示灯が点灯します。
状況が改善されると一時停止状態から復帰して表示が消えますが、表示が長時間続く場合には、スバル販売店で点検を受けてください。



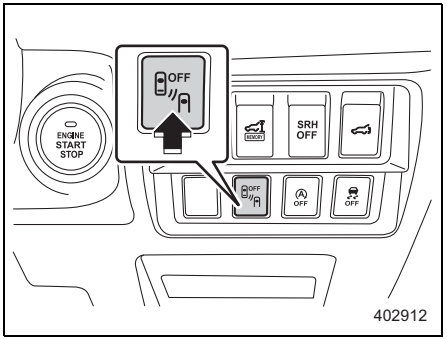
■SRVD OFFスイッチ

SRVD OFFスイッチを押すとエマージェンシーレーンキープアシストがOFFになります。

☞P.511参照

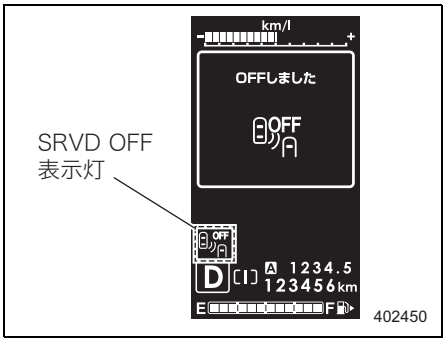
もう一度押すとSRVDがOFFになり、マルチインフォメーションディスプレイにSRVD OFF表示灯が点灯します。

復帰させるときにはもう一度SRVD OFFスイッチを押します。SRVD OFF表示灯が消灯し、左右のドアミラーのSRVD接近表示灯が数秒間点灯します。



■SRVD OFF表示灯

SRVD OFFスイッチを押してSRVDを解除したときおよび一時停止状態のときに点灯します。

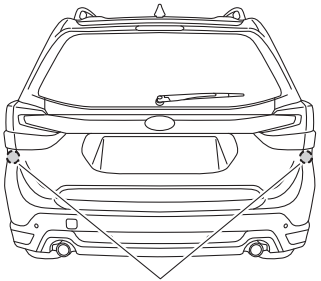


⚠ 注 意

プッシュエンジンスイッチをOFFにし、再度 ON にした場合は、OFF にする前のSRVDのON／OFF状態が保持されます。

■レーダーセンサーの取り扱いについて

SRVD のレーダーセンサーはリヤバンパーの内側に左右ひとつずつ取り付けられています。

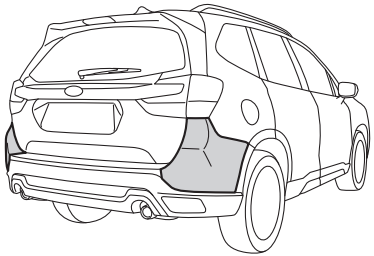


レーダーセンサー　403414

⚠ 注 意

SRVDの正しい作動のため、次のことをお守りください。

- レーダーセンサー付近のバンパー表面は、いつもきれいにしておく。
- レーダーセンサー付近のバンパー表面にステッカーなどを貼り付けない。
  - 詳しくはスバル販売店にご相談ください。



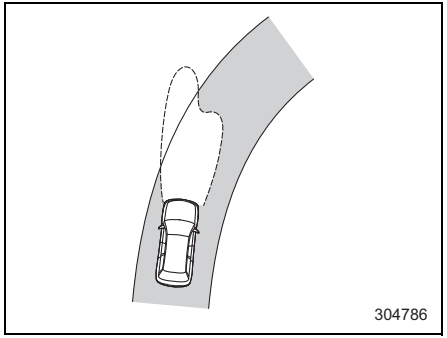
403415

- レーダーセンサー付近のバンパーを改造しない。
- レーダーセンサー付近のバンパーを塗装しない。
- レーダーセンサー付近のバンパーへの強い衝撃を避ける。
  - レーダーセンサーの取り付け位置がずれると、検知範囲に入った車両を検知できないなど、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずスバル販売店で点検を受けてください。
- レーダーセンサーを分解しない。

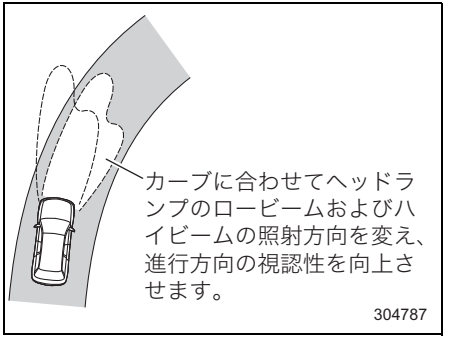
SRH（ステアリング連動ヘッドランプ）

SRH（ステアリング連動ヘッドランプ）は、車両の前進時にハンドルの操作や車速に合わせてヘッドランプの光軸を自動で調整し、コーナーや交差点で進行方向を照らして視認性を高める機能です。車速が約8 km/h以上のときに作動します。

＜SRH非装備車＞

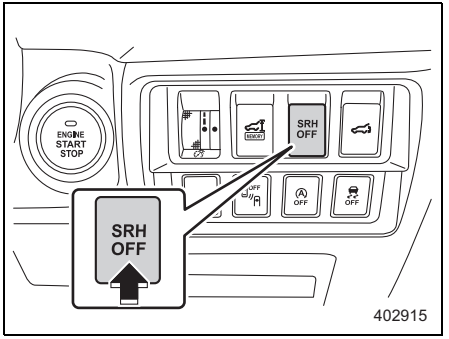


＜SRH装備車＞



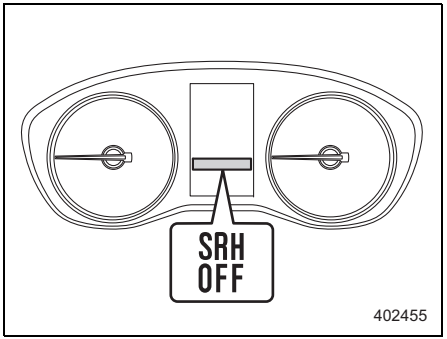
■SRH OFFスイッチ

- SRH OFFスイッチを押すと、SRHが解除されます。SRHが解除されるとメーター内のSRH OFF表示灯が点灯します。復帰させるときにはもう一度 SRH OFF スイッチを押します。
- SRHをOFFにしても、プッシュエンジンスイッチを OFF にし、再度 ON にするとSRHはONになります。



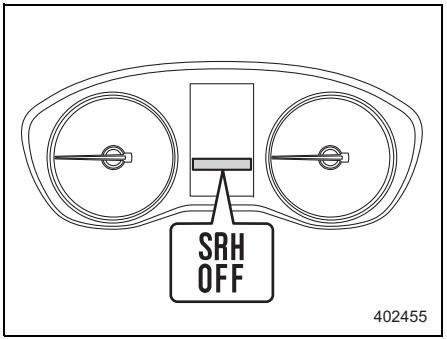
■SRH OFF表示灯

SRH OFFスイッチを押してSRHを解除したとき点灯します。



■SRH警告灯

SRHに異常が発生したときに、点滅します。スバル販売店で点検を受けてください。

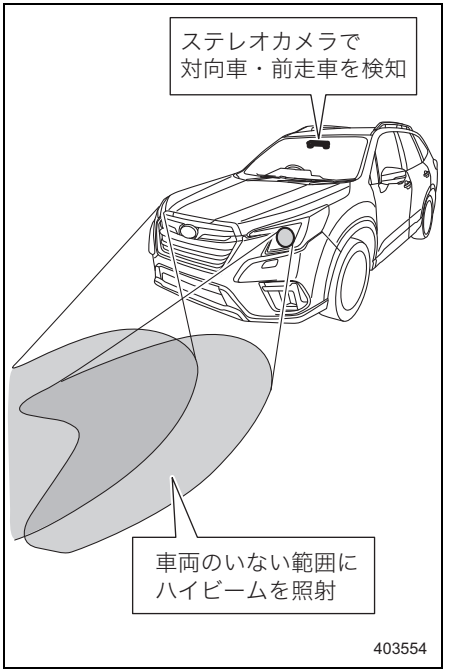


■SRHのカスタマイズ

スバル販売店でSRHを作動なしに設定できます。

ADB（アダプティブドライビングビーム）

ADB（アダプティブドライビングビーム）は、フロントガラス上部に取り付けられたステレオカメラにより、対向車や先行車など、他の車両を眩惑しないように自動的に照射範囲を制御しながらハイビームによる最大の視界を確保する機能です。



⚠ 警 告

- ADBを過信しない。
  - 運転者は常に自らの責任で周囲の状況に応じてライティングスイッチを操作してください。

⚠ 注 意

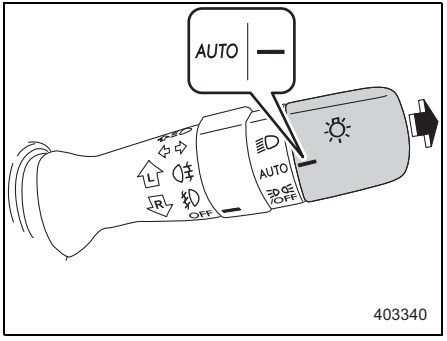
ADBを正しく作動させるために、ステレオカメラの取り扱いをお守りください。

☞P.418参照

■ADBの使いかた

次の手順で機能がONになります。

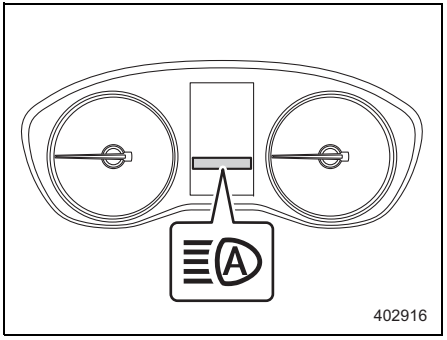
1. ライティングスイッチをAUTO位置にします。
2. ライティングスイッチのレバーを前方へ押し、ハイビームの位置にします。



403340

■ADBの作動

機能が ON のとき、オートライトによってヘッドランプが点灯すると作動し、ADB表示灯（緑色）が点灯します。
車速約 30 km/h 以上で暗い場所を走行しているとき、前方に車両がいない場合はハイビームが点灯します。先行車または対向車がランプを点灯している場合は、その部分を自動的に遮光します。
車速が約15 km/h以下になったとき、または車両前方が明るいときは、ロービームに切り替えます。高速走行時（約 100 km/h 以上のとき）は自動的に光軸を上向きに調整し、より遠くを照らします。


402916

知 識

EyeSight が故障または一時停止しているときは、ADBは作動せずにロービームとなります。

次ページへ ⇒

知 識

- 次の状況では、ADBが正しく作動しない場合があります。
  - 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
  - 他車が前方を横切ったとき
  - 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき
- 対向車のフォグランプにより、ADBが正しく作動しない場合があります。
- 街灯や信号、広告などの照明、または標識、看板などの反射物によりADBが正しく作動しない場合があります。
- 次の原因によりADBが正しく作動しない場合があります。
  - 対向車または先行車のランプの明るさや色
  - 対向車または先行車のランプが泥や雪などで汚れて見えないとき
  - 対向車または先行車の動きや向き
  - 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
  - 対向車または先行車が二輪車のとき
  - 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
  - 乗車人数や荷物の量
  - ステレオカメラ認識範囲の制約による反応遅れ
- ADB は、対向車のヘッドランプ、先行車の尾灯などの光源、あるいは街灯などの明るさをステレオカメラが認識します。したがって、遮光範囲が運転者の感覚に合わず切り替わる場合があります。
- 自転車などの軽車両のランプは検知しない場合があります。
- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが対向車や先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切り替えてください。
  - 悪天候時（霧、雪、砂嵐、大雨など）
  - フロントガラスが汚れているときや、曇っているとき
  - フロントガラスにひび割れや破損があるとき
  - 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
  - 対向車または先行車が無灯火（電球切れなど）のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
  - 急激な明るさの変化が連続するとき
  - 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
  - カーブが多い道路を走行しているとき
  - 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
  - コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
  - 自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
  - パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
  - エンジン始動直後

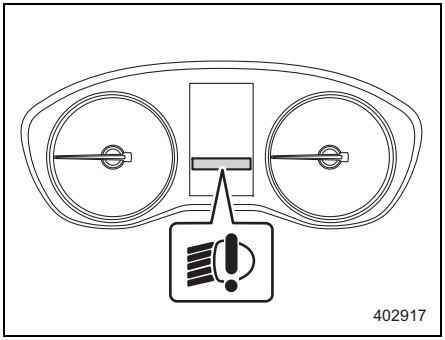
■ADBの解除

ADBを解除するには、ライティングスイッチをAUTO以外にするか、レバーをロービームの位置に戻します。

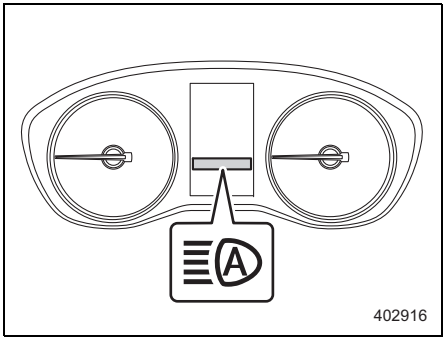
■ADB警告灯（黄色）

ADBに異常が発生したときは、LEDヘッドランプ警告灯またはADB警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面を表示します。スバル販売店で点検を受けてください。

＜LEDヘッドランプ警告灯＞



＜ADB警告灯＞



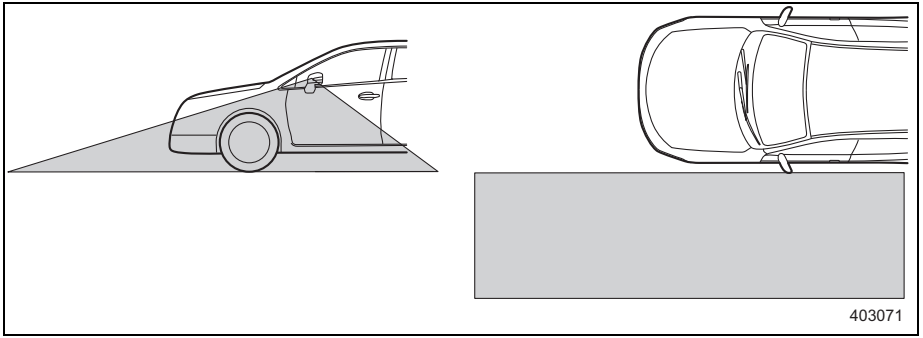
■ADBのカスタマイズ

スバル販売店でADBを作動なしに設定できます。

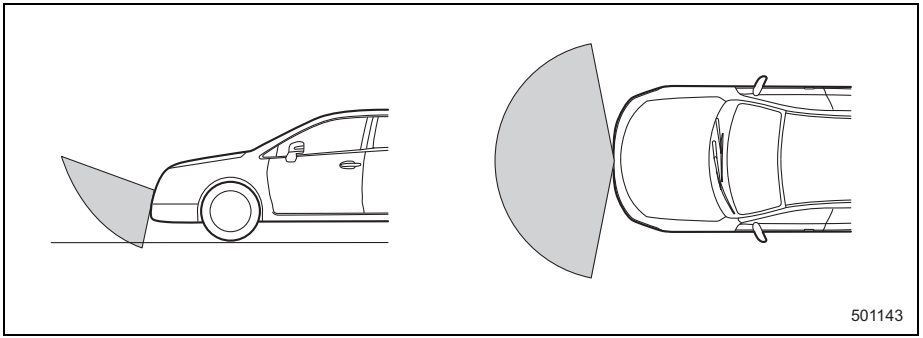
サイドビューモニター・フロントビューモニター

カメラ映像をマルチファンクションディスプレイ上に表示することにより、車両の死角を確認できます。

サイドビューモニターは、車両前側方（助手席側）の映像を表示します。



フロントビューモニターは、車両前方の映像を表示します。



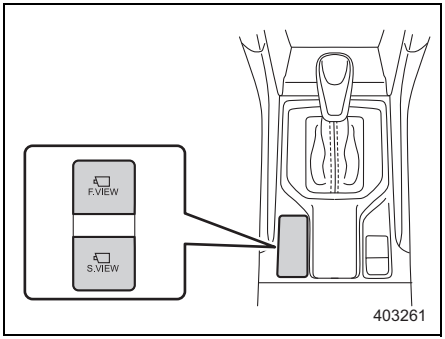
⚠ 警 告

- カメラ映像の距離感覚は、実際の距離とは異なる場合がある。
- カメラ映像の範囲には限界があるので、直接目視やドアミラーで周囲の安全を確認しながら運転する。
  - カメラ映像のみを見て運転すると、お車をぶつけるなど思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 次のような状況では、サイドビューモニターを使用しない。
  - ドアミラーを格納しているとき
  - 助手席のドアが完全に閉まっていないとき

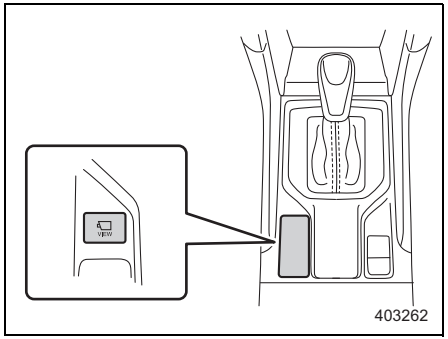
■表示のしかた

S.VIEWスイッチ、F.VIEWスイッチ、またはVIEWスイッチを操作するとカメラ映像を表示します。
また、カメラセレクトレバー連動機能により、レバー操作に連動して画面が切り替わります。

＜S.VIEWスイッチ、F.VIEWスイッチ装備車＞

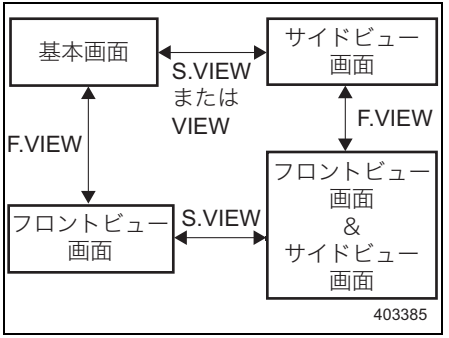


＜VIEWスイッチ装備車＞



●スイッチで表示する

マルチファンクションディスプレイに基本画面を表示中、S.VIEW スイッチ、F.VIEW スイッチまたは VIEW スイッチを押して画面を切り替えます。
カメラ映像を表示してから約 3 分間経過すると基本画面に戻ります。

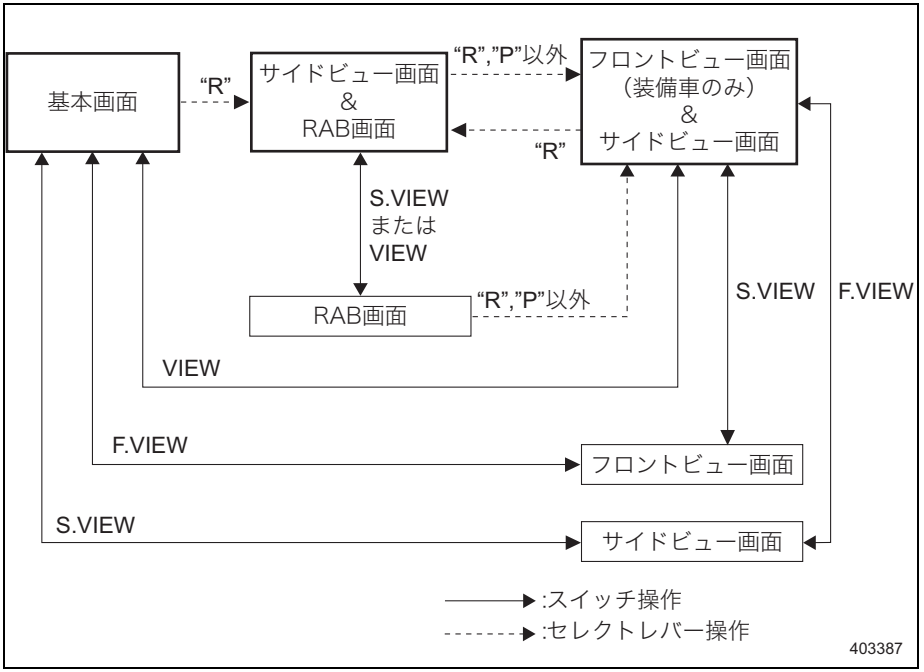


知 識

- カメラ映像を表示してから次の条件を満たすと、すぐに基本画面に戻ります。
  - 電動パーキングブレーキを作動させたとき
  - 車速が約20 km/h以上になったとき
  - INFOスイッチを押したとき
  - セレクトレバーを“P”にしたとき

●カメラセレクトレバー連動機能で表示する

セレクトレバーを“R”にするとカメラ映像を表示します。
レバーの位置によって、画面が切り替わります。
セレクトレバーを“R”以外にして表示しているときは、9秒経過すると基本画面に戻ります。



知 識

- カメラ映像を表示してからセレクトレバーを“P”にすると、すぐに基本画面に戻ります。
- セレクトレバーを“R”以外にして表示しているとき、次の場合はすぐに基本画面に戻ります。
  - 電動パーキングブレーキを作動させたとき
  - 車速が約8 km/h以上になったとき
- カメラセレクトレバー連動機能を OFF に変更することができます。

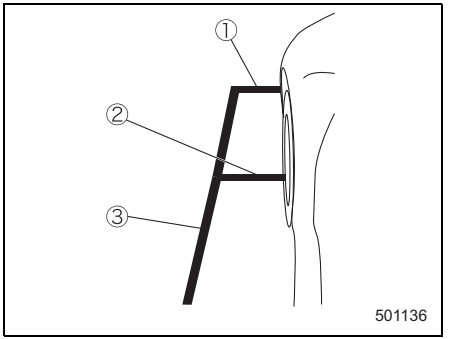
☞P.180参照

■カメラ映像の見かた

カメラ映像には、距離感覚を補助するため、実際の距離の目安となるガイド線（補助線）を表示します。

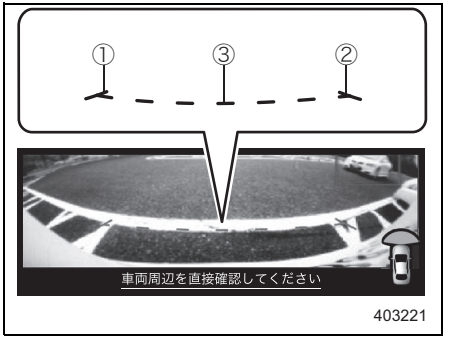
●サイドビューモニター

1. フロントバンパーの先端から約30 cm
2. フロントタイヤの中心
3. 左タイヤ外側から約30 cm



●フロントビューモニター

1. 車両左外側から約30 cm
2. 車両右外側から約30 cm
3. フロントバンパーの先端から約50 cm



⚠ 注 意

- 運転時は、ガイド線に頼らず直接目で確認する。
  - 搭乗人数や積載状態により車両が路面に対して傾いている場合など、実際の位置とガイド線の指示が異なる場合があります。

■サイドビューモニター・フロントビューモニターのカスタマイズ

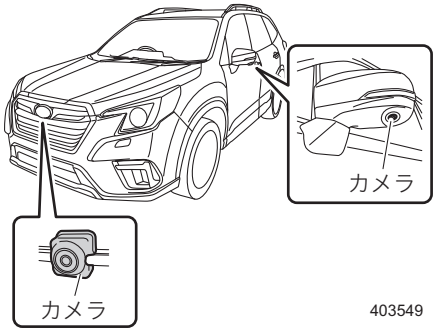
カメラ映像の明るさ・コントラストを設定することができます。

☞P.228参照

次ページへ ⇒

⚠ 警 告

- カメラ、スイッチ、配線類を分解したり改造したりしない。
  - 万一煙が出たり異臭がした場合には、スバル販売店で点検を受けてください。そのまま使用すると、事故、火災、感電の原因となります。



⚠ 注 意

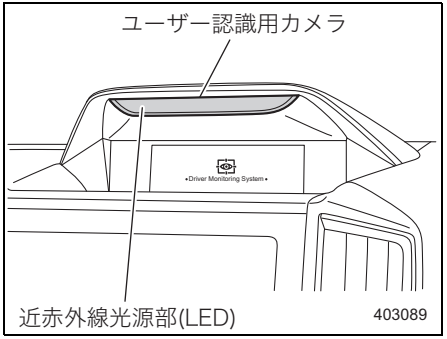
- 高圧洗車機を使用する場合は、カメラ周辺部に直接水をかけない。
  - レンズに水が入り、結露などが発生したり、故障や火災、感電の原因となります。
- カメラは精密機器のため、強い衝撃は与えない。
  - 故障や火災、感電の原因となります。
- カメラに泥などが付着して固まったり、雪などで凍り付いてしまっているときに、棒などでたたいて泥や氷を落とさない。
  - 故障や火災、感電の原因となります。水またはぬるま湯をかけて洗い流し、柔らかい布で拭き取ってください。
- カメラや配線類に火気を近づけない。
  - 故障や火災の原因となります。
- エンジン停止中に長時間使用しない。
  - バッテリー上がりの原因となります。

知 識

- アルコール、ベンジン、シンナーなどでカメラを拭かないでください。変色などの原因となります。汚れを落とすときには、薄めた中性洗剤を染み込ませた布で拭き、柔らかい布でから拭きをしてください。
- ボディワックスをかける場合は、ワックスがカメラにつかないよう注意してください。もし、ついてしまった場合にはきれいな布に水で薄めた中性洗剤を含ませ、拭き取ってください。
- レンズカバーは傷がつきにくいよう、ハードコートしていますが、ボディ洗車する場合やレンズカバーを拭き取る場合に、傷をつけないように注意してください。
- レンズカバーに洗車ブラシなどは使用しないでください。カメラ映像が見づらくなることがあります。
- 次のような場合には、カメラ映像が見づらくなることがありますが、故障ではありません。
  - 暗いところ（夜間、トンネルなど）
  - カメラ付近が極端に高温または低温のとき
  - カメラのレンズカバーが汚れているとき
  - 直接カメラに強い光が入るとき（映像に白い縦線など影響が出ることがあります）
  - 雨天時など、レンズカバーに水滴がついたとき、または湿度が高いとき
  - 蛍光灯などの照明の下
- カメラ映像は実際の色合いとは多少異なることがあります。

ドライバーモニタリングシステム

ユーザー認識用カメラにより、運転者の状態を認識して安全運転を支援する機能です。走行中に運転者が一定時間以上目を閉じたり、顔の向きを前方から大きく外したりするなどして、居眠りや脇見などをしているとシステムが判断した場合は、警報音や警告表示で注意を促します。
また、特定のジェスチャーを認識することで、エアコンの設定を操作できます。



⚠ 注 意

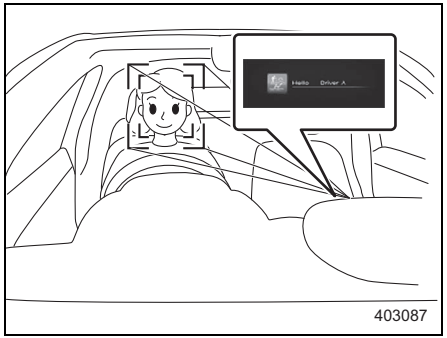
ドライバーモニタリングシステムの認識性能には限界があります。ドライバーモニタリングシステムを過信した運転は行わないでください。

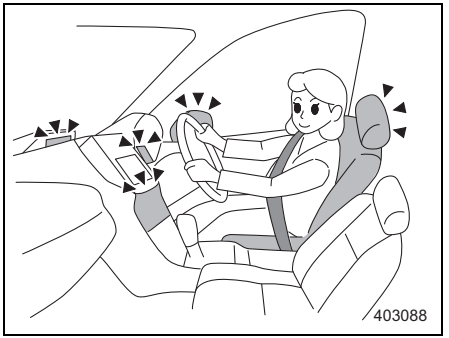
- 運転者が眠気を感じているかどうか、安全運転に集中しているかどうかを検出することはできません。
- 運転者が起きているか、眠っているか、運転能力が落ちているか、安全運転に専念しているかをシステムが判断することはできません。
- 状況によっては、システムが運転者の状態を正確に検出することができないことがあります。

知 識

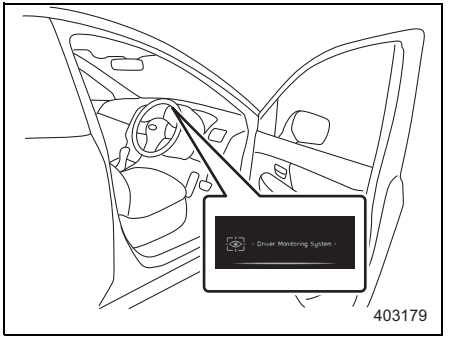
- ユーザー認識用のカメラは、写真・音声・動画の保存を行うことはありません。
- 近赤外線光源部は赤い LED 光が見えることがありますが、異常ではありません。
- 赤い LED 光は IEC62471 規格に準拠しており、人体に影響を及ぼすおそれはありません。

ユーザー登録すると、登録した運転席シート位置やドアミラーの鏡面位置などを自動的に呼び出します。





1. プッシュエンジンスイッチが OFF のとき、ドアを開けるとマルチファンクションディスプレイにスキャン画面が表示されます。



知 識

呼び出し可能な設定の詳細は「ユーザー情報連動機能」を参照してください。
☞P.628参照

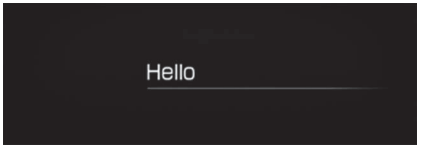
知 識

- スキャン画面表示中に INFO スイッチを押すと、マルチファンクションディスプレイは基本画面に戻りますが、スキャンは継続します。
- ドアの開閉を短時間の間に繰り返した場合は、スキャン画面が表示されないことがありますがシステムは作動しています。

2. ドライバーモニタリングシステムが運転者のスキャンを開始します。運転席に座り、正面を向いたまましばらく待ちます。

403096

3. 運転者を認識すると、マルチファンクションディスプレイに Hello 画面を表示します。



403180

次ページへ ⇒

4. 登録済みのユーザーを認識した場合は、ユーザー名を表示します。
このとき、ユーザー情報に基づいて各種設定を呼び出します。
☞**P.628**参照

403097

5. 登録済みのユーザーを認識している場合は、プッシュエンジンスイッチをOFFにしたとき、マルチファンクションディスプレイにSee You画面を表示します。

403128

知 識

- エアコン設定は走行中に調整した設定をメモリーしています。
- ユーザー情報連動機能は、ユーザー登録をして認識が完了している場合のみ作動します。

■認識されないときは

認識ができない場合、「個人認識を中止しました」と表示されることがあります。

カメラと顔の間に遮る物などがある場合は、原因を取り除いてから、再度ユーザー認識を行ってください。

☞P.204参照

知 識

登録推奨画面が表示される場合は、「ユーザーの登録・消去」を参照してください。

☞P.633参照

次ページへ ⇒

知 識

次のような場合、ドライバーモニタリングシステムが正常に動作しないことがあります。

- 車室内へ太陽光が入り込んでいる場合
  - ユーザー認識用カメラが直接（またはガラス越し）太陽光に照らされているとき
  - 太陽光（強い近赤外線成分の光を含む）により、顔に影が生じているとき
  - 顔を照らす太陽光（強い近赤外線成分の光を含む）の強さが瞬間的に大きく変動しているとき
- 車室内に近赤外線光源を搭載した機器（市販のドライバーモニタリングシステムなど）がある場合
- 目や鼻、口など顔が正常に認識できない場合
  - サングラスなどのレンズの種類によりカメラが目を認識できないとき
  - メガネやサングラスのレンズへの映り込みやフレームにより目が隠れているとき
  - 身に着けているものや髪の毛などにより顔の一部が隠れているとき
  - カバーやアクセサリーなどにより、ユーザー認識用カメラおよび近赤外線光源部（LED）と顔との間が遮られているとき
- ユーザー認識用カメラおよび近赤外線光源部（LED）に汚れや傷がついている場合
  - 汚れや指紋などがついたときは、柔らかい布でから拭きするか、固く絞った布などで軽く拭き取ってください。
  - カメラ周辺に硬いものが触れないよう注意してください。
- 助手席の方が運転席付近に身を乗り出したときなど、運転席付近に2つ以上の顔が存在する場合

次のような場合、正しく検出できず居眠り警報や脇見警報のブザーが鳴ることがあります。

- メーターやナビ画面の確認などで、伏し目となった場合
- 笑ったり、外光の眩しさなどで、目を細めた場合
- 目をしばらく閉じたり、頻繁に瞬きをした場合
- 前に乗り出したり、窓から顔を出すなど、運転姿勢をくずした場合

☞P.626参照

警報のブザーが鳴り続ける場合は、ドライバーモニタリングシステムOFFスイッチを押して、ドライバーモニタリングシステムを一度OFFにしてください。

停車中、低速走行時には、脇見をしても脇見警報のブザーは鳴りません。

次のような場合、登録済みのユーザーを正しく認識できないことがあります。

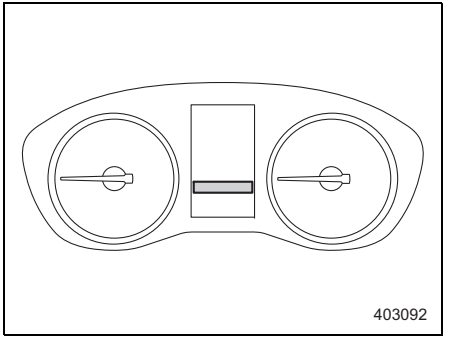
- ユーザー登録が正しくできていない場合
  - 成功頻度が低い場合は、一度ユーザーを削除し、再度登録を行ってください。
  - できるだけ目を閉じない状態で登録してください。
  - メガネとコンタクトレンズを頻繁に切り替えている場合は、それぞれでの登録をお奨めします。
- ユーザー認識中によそ見をしている場合
  - ユーザー認識は乗車した直後から開始されます。できるだけ正面を向いてください。
- 双子など、顔の特徴が似ている人物の一人が登録されている場合
  - もう一人が乗車した際に誤ってユーザー認識されることがあります。

ユーザー認識について、次のような特徴があります。

- プッシュエンジンスイッチをOFFにしてから経過した時間が短いなどの場合は、運転席ドアを開けてもスキャン画面が表示されないことがあります。この場合でもドアを閉めるとユーザー認識を開始しますが、スキャン画面は表示されません。
- ユーザー認識が完了している状態でプッシュエンジンスイッチをOFFにし、運転席ドアを開けないまま長時間経過してからプッシュエンジンスイッチをONにすると、プッシュエンジンスイッチをOFFにする前のユーザー認識状態に戻ります。
- セレクトレバーが“P”以外のときは、ユーザー認識が完了してもシート位置は切り替わりません。
- 走行中はユーザー認識を行いません。
- シート位置、ドアミラーの鏡面位置を動かしているときは、ユーザー認識が完了しても登録したシート位置、ドアミラーの鏡面位置、リバース連動チルトダウンドアミラーの鏡面位置を呼び出すことはできません。
- シート位置、ドアミラーの鏡面位置の呼び出し中に次の操作を行うと、シート位置、ドアミラーの鏡面位置の呼び出しを中止します。
  - パワーシート調整スイッチを操作したとき
  - ドアミラーの調整スイッチを操作したとき
  -「SET」ボタンを押したとき
  -「1」または「2」ボタンを押したとき
  - セレクトレバーを“P”以外にしたとき

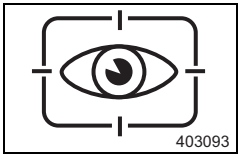
■表示灯、警告灯

マルチインフォメーションディスプレイにドライバーモニタリングシステムの状態を表示します。



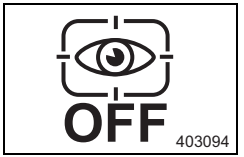
●ドライバーモニタリングシステム作動表示灯（緑色）

ドライバーモニタリングシステム作動中に点灯します。



●ドライバーモニタリングシステムOFF表示灯

ドライバーモニタリングシステムOFFスイッチを押してドライバーモニタリングシステムを作動停止状態にしたときに点灯します。



知 識

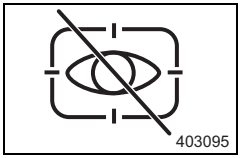
ドライバーモニタリングシステムOFF表示灯、ドライバーモニタリングシステム一時停止表示灯、ドライバーモニタリングシステム警告灯が点灯しているときには、ドライバーモニタリングシステムの機能が使用できません。また、マルチファンクションディスプレイのカスタマイズ機能で次の項目を選択できません。

- 手動再認識
- ユーザー登録
- ユーザー消去
- 全ユーザー消去
- ドライバーポジション再登録
- ドライバーポジションメモリー消去

☞P.180参照

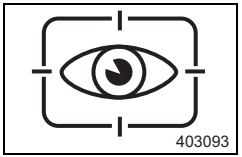
●ドライバーモニタリングシステム一時停止表示灯

ドライバーモニタリングシステムが一時停止しているときに点灯します。



●ドライバーモニタリングシステム警告灯（黄色）

ドライバーモニタリングシステムに異常があるときに点灯します。
スバル販売店で点検を受けてください。



知 識

ドライバーモニタリングシステムは次のような場合に一時停止します。

- ドライバーモニタリングシステム本体の温度が高い、または低いとき
- メガネやサングラスなどの着用により、システムが目を正しく検出できないとき
- 障害物によってシステムが眉毛、目、鼻、口のいずれかを正しく検出できないとき
- ユーザー認識用カメラおよび近赤外線光源部（LED）が障害物で覆われ、正しく運転者を検出できないとき

■脇見・居眠り警報

走行中に運転者が一定時間以上目を閉じたり、顔の向きを前方から大きく外したりするなどして、居眠りや脇見などをしているとシステムが判断したときに注意を促します。

●脇見警報

運転者が脇見をしているとシステムが判断して、運転者に注意を促します。
脇見警報が作動するとブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面を表示します。

403090

知 識

- 方向指示器が作動しているとき、またはセレクトレバーが“R”の場合は脇見警報は作動しません。
- メーター内のプリクラッシュブレーキOFF表示灯が点灯しているときは、先行車や障害物があっても通常と同じタイミングで脇見警報が作動します。

☞P.456参照

- 脇見・居眠り警報は、ユーザー情報連動機能の状態にかかわらず作動します。

●居眠り警報

運転者のまぶたの閉じ具合をシステムが判断して、運転者に注意を促します。
居眠り警報が作動するとブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイとマルチファンクションディスプレイに割り込み画面を表示します。

<table>
<tr><th>システムが判断した運転者の状態</th><th>マルチインフォメーションディスプレイ</th><th>マルチファンクションディスプレイ</th><th>警報音</th></tr>
<tr><td rowspan="2">居眠り
強い眠気</td><td rowspan="2"> </td><td rowspan="2"> </td><td>ピピピピピ・・・
（運転者が目を開けるまで鳴り続ける）</td></tr>
<tr><td>ピピピピピ</td></tr>
<tr><td>軽い眠気</td><td> </td><td>通常通り</td><td>ピッ</td></tr>
<tr><td>眠気なし</td><td>通常通り</td><td>通常通り</td><td>なし</td></tr>
</table>

403091

■ユーザー情報連動機能

ユーザー登録をしているときは、次の設定を自動的に呼び出すことができます。

●ドライバーポジション

登録したシート位置、ドアミラーの鏡面位置を呼び出します。

- シートの前後位置
- 背もたれの角度
- シートの高さ
- 座面前側の高さ
- ドアミラーの鏡面位置
- リバース連動チルトダウンドアミラーの鏡面位置

●メーター

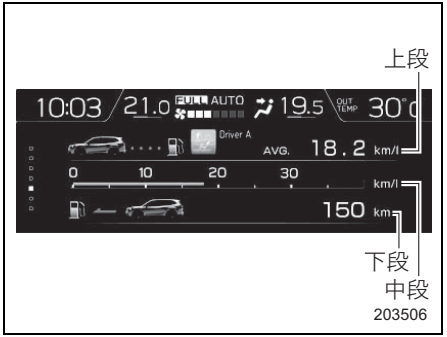
- マルチインフォメーションディスプレイ基本画面
  ユーザーが前回降車する直前に選択していた基本画面を表示します。

⚠ 警 告

シート位置、ドアミラーの鏡面位置の登録、呼び出しおよび消去は、必ず運転前に行ってください。運転中に登録、呼び出しおよび消去の操作を行うと、事故の原因になるおそれがあります。

●マルチファンクションディスプレイ

- マルチファンクションディスプレイ基本画面
  ユーザーが前回降車する直前に選択していた基本画面を表示します。
- 個人燃費計
  ユーザーが走行した平均燃費を表示できます。



- ユーザー情報連動機能に連動するカスタマイズ

設定メニュー	項目	
時刻／日時	誕生日	
	記念日	
画面／音量	画面OFF	
	Favorite	
	割り込み表示	誕生日リマインダー
		記念日リマインダー
	音量	
エアコン設定	基本設定	
	乗員連動	
カメラ設定	カメラセレクトレバー連動	

知 識

個人燃費計をリセットするときは、ユーザー情報の上書き登録を行ってください。
☞P.634参照

●エアコン

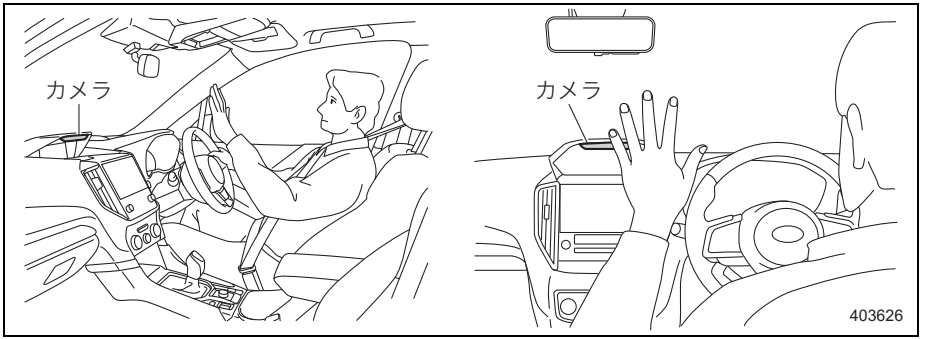
- エアコン設定
  ユーザーが前回降車する直前に選択していたエアコン送風温度や吹き出し口などの設定を呼び出します。

●ドライバーモニタリングシステムのON／OFF状態の記憶

ユーザーが前回降車する直前に選択していたドライバーモニタリングシステムの ON ／ OFF状態を呼び出します。

■ジェスチャーコントロール

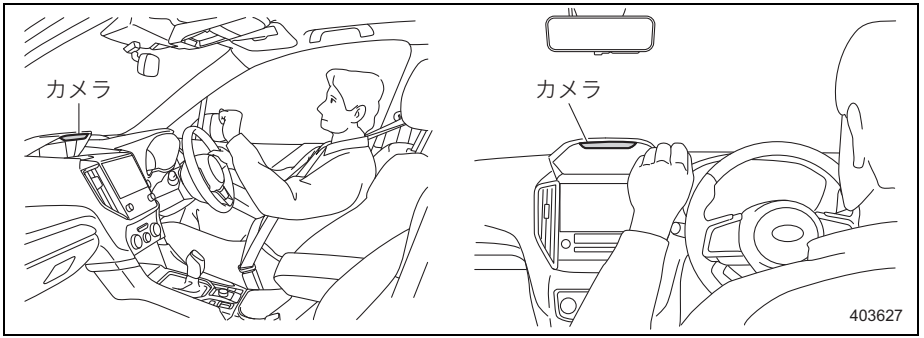
エンジンがかかっていてセレクトレバーが“P”または“R”以外でエアコンがONのときに使用します。
特定の手の形を認識すると、エアコンの運転席側設定温度を変更します。
ユーザー認識用カメラ側に手のひらを向け、指が上になるように手をパーにして、ジェスチャー認識音が鳴るまで保持します。設定温度が2上がります。



知 識

ユーザー認識が完了しているときに MAX A/CスイッチがONのままプッシュエンジンスイッチを OFF にして降車した場合は、MAX A/C スイッチを ON にする前の設定に戻ります。

ユーザー認識用カメラ側に手のひらを向け、指が上になるように手をグーにして、ジェスチャー認識音が鳴るまで保持します。設定温度が2下がります。



一度操作した後は、必ずハンドルに手を戻してください。

次ページへ ⇒

知 識

- 次のようなときはジェスチャーコントロールが作動しません。
  - ドライバーモニタリングシステムがスキャン中のとき

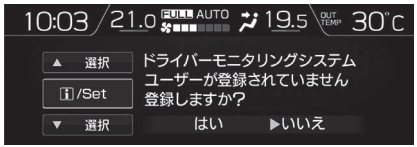
☞P.617参照

  - ドライバーモニタリングシステムが一時停止しているとき
  - セレクトレバーが“P”または“R”のとき
  - 走行中に方向指示器または非常点滅表示灯（ハザードランプ）を点滅させたとき
  - 走行中にハンドルを大きく切ったとき
  - 極低速で走行しているとき
  - 手袋などをしていて手の形が識別できないとき
  - カメラが複数の手を検知しているとき
- 次のような場合は、ジェスチャーコントロールが正常に動作しないことがあります。
  - 車室内へ太陽光が入り込んでいる場合
    - 太陽光が乗員の衣服などに強く入り込んでいるとき
    - 太陽光（強い近赤外線成分の光を含む）により、手に影が生じているとき
    - 手を照らす太陽光（強い近赤外線成分の光を含む）の強さが瞬間的に大きく変動しているとき
  - 手の動作を正常に認識できない場合
    - カメラと手の間に遮蔽物があるとき
    - カメラに手を近づけすぎているとき
    - 手を上げるなど動作を認識したとき
- エアコンがOFFのときも、手の動作により認識音が鳴りますが、音のみでジェスチャーコントロールは作動しません。
- カメラが認識しにくい場合は、手の位置を少し顔のほうに近づけてください。
- スバル販売店で、ジェスチャーコントロールをOFFに設定できます。

■ユーザーの登録・消去

知 識

- 次の条件のとき、ユーザー登録推奨画面が表示されます。
  - プッシュエンジンスイッチがON
  - セレクトレバーを“P”以外から“P”にした
  - 運転者がユーザー登録をしていない
  - ユーザー登録数が4人以下
  - ドライバーモニタリングシステム作動表示灯が点灯している
  - ユーザー情報連動がON



403134

マルチファンクションディスプレイ操作スイッチを操作して「はい」を選択すると、「ユーザー登録の設定」手順4. の画面が表示されます。登録手順にそって登録を行ってください。
☞P.208参照

- ドライバーモニタリングシステムOFF表示灯、ドライバーモニタリングシステム一時停止表示灯、ドライバーモニタリングシステム警告灯が点灯しているときには次の項目を選択できません。
  - ユーザー登録
  - ユーザー消去
  - 全ユーザー消去

●ユーザー登録のしかた

正しい運転姿勢がとれるようにシート位置、ドアミラーの鏡面位置を調整してから登録してください。

☞P.208参照

●ユーザー消去のしかた

☞P.216参照

●全ユーザー消去のしかた

☞P.218参照

知 識

リバース連動チルトダウンドアミラーの鏡面位置を登録する場合は、登録の前にセレクトレバーを“R”にして鏡面位置を調整し、“P”に戻してから行ってください。

☞P.331参照

知 識

- ユーザー消去はマルチファンクションディスプレイの工場出荷設定でも消去できます。工場出荷設定で設定リセットを行うと、すべての登録状態が消去されます。
- ドライバーモニタリングシステムがOFFのときは工場出荷設定の設定リセットを行うことができません。

■各設定を変更するには

項目		変更のしかた
ドライバーポジション	• シートの前後位置 • 背もたれの角度 • シートの高さ • 座面前側の高さ • ドアミラーの鏡面位置 • リバース連動チルトダウンドアミラーの鏡面位置	マルチファンクションディスプレイのカスタマイズ機能で再設定してください。 ☞P.638参照
メーター	マルチインフォメーションディスプレイ基本画面	画面を切り替えたり、設定を変更すると、その状態を自動的に記憶します。
マルチファンクションディスプレイ	マルチファンクションディスプレイ基本画面	
	ユーザー情報連動機能に連動するカスタマイズ	
エアコン	エアコン設定	
ドライバーモニタリングシステムのON／OFF状態		

知 識

- 次の設定は、ドライバーモニタリングシステムがOFFのときに画面を切り替えたり設定を変更しても、その状態は記憶されません。
  ドライバーモニタリングシステムをOFFにする直前の状態を記憶します。
  – メーター
  – マルチファンクションディスプレイ
  – エアコン

■各種設定と使用できる機能

ドライバーモニタリングシステムとユーザー情報連動の ON ／ OFF 状態やユーザー登録の有無により、使用できる機能や設定可能な項目が異なります。

●ドライバーモニタリングシステムとユーザー情報連動のON／OFF状態

使用できる機能

		ドライバーモニタリングシステム※1	
		ON	OFF
ユーザー情報連動※2	ON	脇見・居眠り警報 ○	脇見・居眠り警報 ×
		ユーザー情報連動機能 ○	ユーザー情報連動機能 ×
	OFF	脇見・居眠り警報 ○	脇見・居眠り警報 ×
		ユーザー情報連動機能 ×	ユーザー情報連動機能 ×

設定可能な項目

		ドライバーモニタリングシステム※1			
		ON		OFF	
ユーザー情報連動※2	ON	ドアオープン連動シート後退	○	ドアオープン連動シート後退	○
		ユーザー登録	○	ユーザー登録	×
		ドライバーポジション再登録	○	ドライバーポジション再登録	×
		ドライバーポジションメモリー消去	○	ドライバーポジションメモリー消去	×
		ユーザー消去	○	ユーザー消去	×
		全ユーザー消去	○	全ユーザー消去	×
	OFF	ドアオープン連動シート後退	×	ドアオープン連動シート後退	×
		ユーザー登録	×	ユーザー登録	×
		ドライバーポジション再登録	×	ドライバーポジション再登録	×
		ドライバーポジションメモリー消去	×	ドライバーポジションメモリー消去	×
		ユーザー消去	○	ユーザー消去	×
		全ユーザー消去	○	全ユーザー消去	×

※1: ドライバーモニタリングシステムOFFスイッチでON／OFFを切り替えることができます。
☞**P.642**参照
※2: マルチファンクションディスプレイのカスタマイズでON／OFFを切り替えることができます。
☞**P.639**参照

●ユーザー登録の有無

使用できる機能

	ユーザー登録をしている場合	ユーザー登録をしていない場合
ユーザー情報連動機能	○	×

■ドライバーポジションの登録・消去

●ドライバーポジション再登録のしかた

ユーザー登録を行ったとき、シート位置、ドアミラーの鏡面位置が同時に登録されます。
シート位置、ドアミラーの鏡面位置の設定を変更したいときは、再登録します。
☞P.213参照

知 識

脇見・居眠り警報は、ユーザー登録の有無にかかわらず作動します。

知 識

- リバース連動チルトダウンドアミラーの鏡面位置を登録する場合は、登録の前にセレクトレバーを“R”にして鏡面位置を調整し、“P”に戻してから行ってください。
☞P.331参照
- ユーザー情報連動を OFF に設定しているとき、またはドライバーモニタリングシステムOFF表示灯、ドライバーモニタリングシステム一時停止表示灯、ドライバーモニタリングシステム警告灯が点灯しているときは次の項目を選択できません。
  - ドライバーポジション再登録
  - ドライバーポジションメモリー消去
- 登録済みのユーザーが運転席に座り、ユーザー認識が完了しているときのみ、ドライバーポジションの登録・消去ができます。

●ドライバーポジションメモリー消去のしかた

☞P.214参照

■マルチファンクションディスプレイで変更可能なカスタマイズ

●ユーザー情報連動

ドライバーモニタリングシステムのユーザー情報連動機能の ON ／ OFF を切り替えることができます。

☞P.206参照

知 識

- ユーザー情報連動はユーザーごとに設定を変えることはできません。
- ユーザー情報連動の初期設定は ON、ドアオープン連動シート後退の初期設定はOFFです。
- ユーザー情報連動を OFF に設定しているときは、次の項目を選択できません。
  - 手動再認識
  - ドアオープン連動シート後退
  - ユーザー登録
  - ドライバーポジション再登録
  - ドライバーポジションメモリー消去
- ドライバーモニタリングシステムとユーザー情報連動が ON で、ユーザー認識が完了しているとき、マルチファンクションディスプレイのグッバイ画面は表示されず、See You画面が表示されます。
- ユーザー情報連動を OFF に設定すると、ドアオープン連動シート後退は自動的にOFFになります。

●ドアオープン連動シート後退

ドアを解錠し、運転席ドアを開けたときにシートが前寄りの位置にある場合、運転席シートを後退させ、乗り込みやすくする機能です。
作動のON／OFFを切り替えることができます。
☞P.207参照

⚠ 注 意

シートが後退位置まで動いてから運転席に座ってください。

知 識

- ドアオープン連動シート後退を ON に設定していても、ユーザー情報連動がOFFのときはドアオープン連動シート後退も自動的にOFFになります。
- ドライバーモニタリングシステム警告灯が点灯しているときは、ドアオープン連動シート後退は選択できません。
- ドライバーポジションメモリーでアクセスキーにシート位置を登録している場合、ドアオープン連動シート後退は作動しません。

●Favorite画面

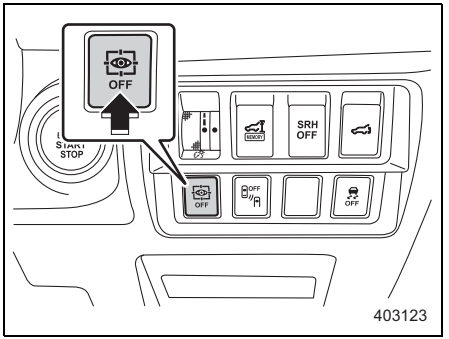
ドライバーモニタリングシステムを表示する設定にしていると、ドライバー認識状態を確認できます。
☞P.176参照

表示	ドライバーモニタリングシステムの状態	
	ユーザーの認識状況	システムの状態
緑色 403130	ユーザー認識完了 （登録済みのユーザー）	正常
緑色 403131	ユーザー認識完了 （未登録のユーザー）	正常
	ユーザー認識未完了 （ユーザー認識中止）	正常
灰色 403132	ユーザー認識完了 （登録済みのユーザー）	ドライバーモニタリングシステム一時停止状態
灰色 403133	—※	ドライバーモニタリングシステム OFF 状態／ドライバーモニタリングシステム故障状態
	ユーザー認識完了（未登録のユーザー）またはユーザー認識未完了（ユーザー認識中止）	ドライバーモニタリングシステム一時停止状態

※ ユーザーの認識状況にかかわらず表示されます。

■ドライバーモニタリングシステムOFFスイッチ

ドライバーモニタリングシステム OFF スイッチを押すと、ドライバーモニタリングシステムがOFFになります。
ドライバーモニタリングシステムをOFFにすると、マルチインフォメーションディスプレイ内のドライバーモニタリングシステムOFF表示灯が点灯します。



知 識

- ユーザー認識が完了しているときにドライバーモニタリングシステムを OFF にすると、ユーザー情報連動機能はドライバーモニタリングシステムのON／OFF状態を記憶します。

☞P.635参照

- 停車中に運転席ドアを開閉すると、ドライバーモニタリングシステムは自動的にON に切り替わります（ユーザー情報連動がONのとき）。その後、ユーザー情報連動機能に記憶しているON／OFF状態に切り替わります。
- ドライバーモニタリングシステムをOFFにした後、運転席ドアを開けたままでドライバーモニタリングシステムをON にすると、ユーザー認識が正しく行えないことがあります。
- ドライバーモニタリングシステムをOFFにしても、ユーザー情報連動およびドアオープン連動シート後退の ON ／ OFFは切り替わりません。これらの機能の設定はマルチファンクションディスプレイで変更できます。

☞P.180参照

■オープンソースソフトウェア情報

ドライバーモニタリングシステムには、フリー／オープンソースソフトウェア（FOSS）を搭載しています。
使用許諾やソースコードは以下のURLから取得できます。
http://www.embedded-carmultimedia.jp/RTOS/License/oss/DMS_0102/

5. 室内装備

エアコン

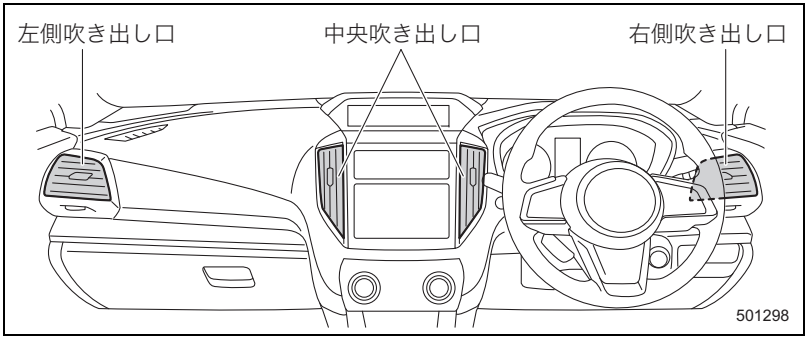
吹き出し口の調整 ····· 644
吹き出し口の場所とエアコンの使いかた ····· 647
感知センサー ····· 661
エアコンフィルター ····· 661

室内装備

カップホルダー ····· 662
ボトルホルダー ····· 663
サンバイザー ····· 664
小物入れ ····· 666
サブトランク ····· 670
トノカバー（ディーラーオプション）····· 671
電源ソケット ····· 675
USB電源 ····· 677
アシストグリップ（回転式）····· 679
カーゴフック ····· 680
買い物フック ····· 680
カーゴアッパーフック ····· 681
ユーティリティフック ····· 682
室内の照明 ····· 683

エアコン

吹き出し口の調整

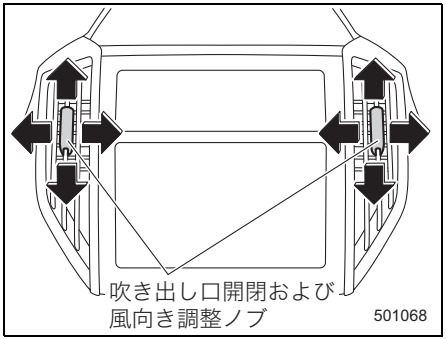


開：吹き出し口が開きます。

閉：吹き出し口が閉じます。

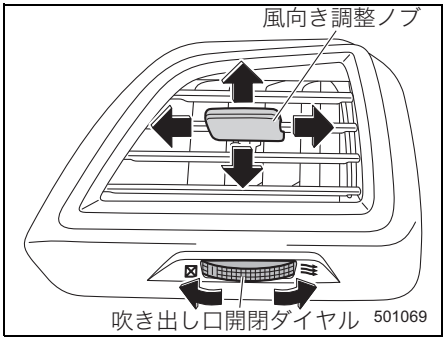
■中央吹き出し口

吹き出し口のノブを上下左右に動かして風向きを調整します。また、ノブを下に動かすと吹き出し口を閉じることができます。



■左右吹き出し口

吹き出し口のノブを上下左右に動かして風向きを調整します。
また、吹き出し口開閉ダイヤルを操作すると吹き出し口を開閉することができます。

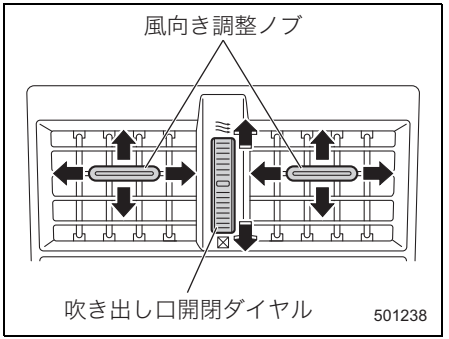


■後席用吹き出し口

コンソールボックスの後ろ側にあります。吹き出し口のノブを左右に、また、吹き出し口全体を上下に操作して風向きを調整します。また、ダイヤルで吹き出し口の開閉を切り替えることができます。

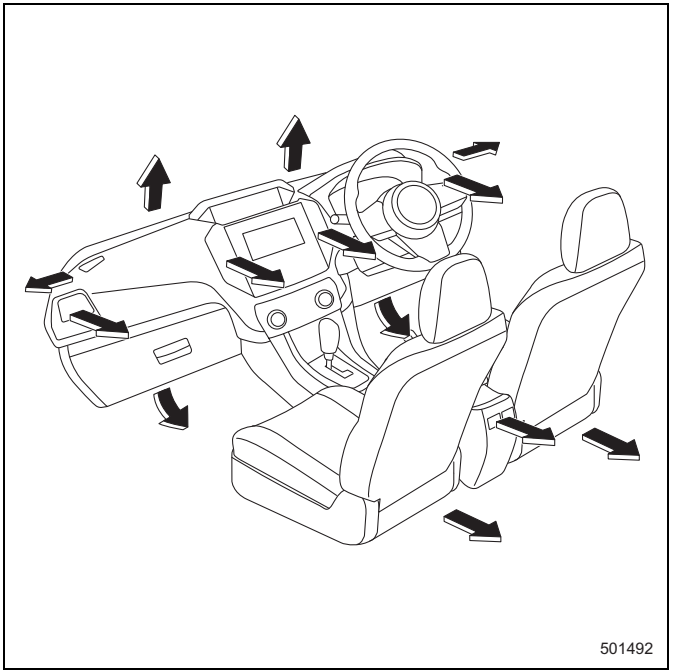
：開

：閉



吹き出し口の場所とエアコンの使いかた

使用目的に合わせて吹き出し口を選択してください。
左右および後席用の吹き出し口からは、常時送風します。
送風を止めるときは、ダイヤルを操作して吹き出し口を閉じてください。



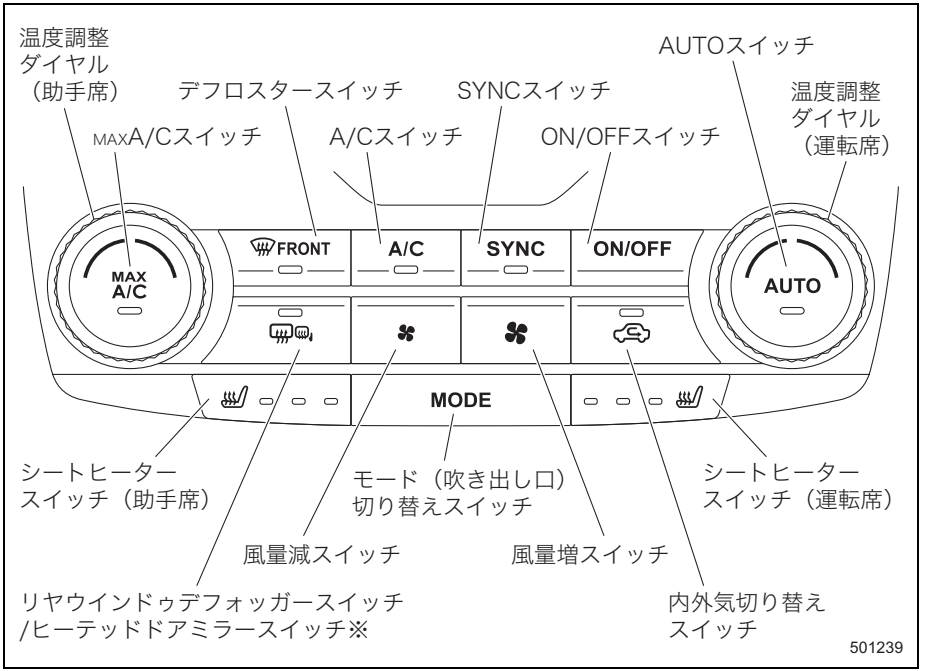
目的	吹き出し口切り替え	風量調整	A/C	温度調整	内外気切り替え	アドバイス
冷房	AUTOまたは	AUTOまたは希望風量	AUTOまたはON	希望温度(25付近より低め)	AUTOまたは外気導入	• 早く冷やしたいときは、内外気切り替えを内気循環にしてください。 • 冷房の効きを高めたいときは、内気循環にしてください。
冷房	AUTOまたは	AUTOまたは希望風量	AUTOまたはON	希望温度(25付近より低め)	AUTOまたは外気導入	足元の蒸れ感が強いときに使用してください。
暖房	AUTOまたは	AUTOまたは希望風量	AUTOまたはON	希望温度(25付近より高め)	AUTOまたは外気導入	• フロントガラス、フロントドアガラスにも少し送風されますが、これは曇りを防止するためのものです。 • 顔部が熱い場合は、温度調整ダイヤルを操作し、適温に調整してください。
曇り除去と暖房	AUTOまたは	AUTOまたは希望風量	AUTOまたはON	希望温度(25付近)	AUTOまたは外気導入	設定温度によっては曇り除去機能が低下する場合があります。

知 識

- 吹き出し口を あるいは に切り替えると、効果的に曇りを取るため、自動で除湿機能（A/Cスイッチ）がONになり、外気導入に切り替わります。
- 吹き出し口が に固定されているときは、アイドリングストップは行いません。

目的	吹き出し口切り替え	風量調整	A/C	温度調整	内外気切り替え	アドバイス
頭寒足熱	AUTOまたは	AUTOまたは希望風量	AUTOまたはON	希望温度（25付近）	AUTOまたは外気導入	温度設定を最大暖房または最大冷房にすると頭寒足熱にはなりません。冷風または温風のみの吹き出しになります。
曇り除去	AUTOまたは	希望風量	AUTOまたはON	（25付近より高め）	AUTOまたは外気導入	• 夏場にフロントガラス、フロントドアガラスの曇りを除去する場合、温度調整は中間より低めで使用してください。 • 外気温度と吹き出し風の温度差が大きいと、フロントガラス、フロントドアガラスの外側が曇る場合があります。このときは冷房機能を「OFF」にするか、温度調整ダイヤルを中間より高めで使用してください。
換気	AUTOまたは	希望風量	AUTOまたはOFF	希望温度	AUTOまたは外気導入	———

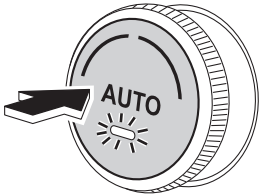
吹き出し口の設定温度を運転席側と助手席側で別々に設定することができます。



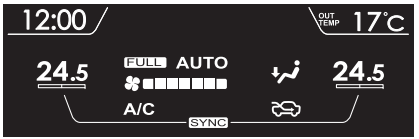
※ フロントワイパーデアイサー連動

■フルオートでの使いかた

エンジンが始動しているとき、AUTO スイッチを押します。温度調整ダイヤルで希望温度を設定します。各機能を自動的にコントロールし、室内を快適に保ちます。表示部には、“FULL AUTO”と表示します。



501240



501439

●後席乗員連動機能

後席に乗員がいない場合は、空調設定が自動的に前席優先の制御になります。

知 識

後席の乗員を直接検知する機能ではないため、乗員の有無とは関係なく作動する、または作動しない場合があります。

●カスタマイズ機能

空調の強弱（ノーマル／マイルド／エコ／パワフル）の設定を変更することができます。
☞P.181参照

- ノーマル
  工場出荷時
- マイルド
  ノーマルよりも風量が弱めで、温度変化がゆるやか
- エコ
  燃費を優先した作動
- パワフル
  ノーマルよりも風量が強く、温度変化がはっきり

知 識

設定がパワフルのとき、エアコンに連動してフロントシートヒーターがHIGHで作動することがあります。

知 識

- エンジンが始動しているときにスイッチを操作してください。
- 冬期などでエンジンが冷えているときは、しばらくの間、デフロスター吹き出しモード、外気導入になり、ファンは低速回転で作動します。
- オート作動中は、気温に応じて冷房・除湿機能が自動的に停止します。気温が低いときの曇り取りや除湿効果を高めたいときは、A/Cスイッチを押してください。ただし、A/Cスイッチの表示灯が点灯していない場合でも、制御上作動することがあります。（その場合はエンジン回転数が高くなります。）
- 設定温度を下げていくと、冷房・除湿機能は自動的に作動し、“A/C”を表示します。
- 夏場など、特に外気温が高いときに冷房効果を高めたいときは一時的に内気循環を使用してください。
- 次の場合、冷房・除湿機能が作動しない場合があります。
  - 室内の温度が低いとき
  - 外気温度が0 ℃付近まで下がったとき
- 冷房中に吹き出し口から白煙が出ているように見えることがあります。これは湿度の高い空気が急激に冷やされて起こる現象で、異常ではありません。
- プッシュエンジンスイッチをOFFにしてエアコンを止めた場合、再始動時は止める直前の状態に戻ります。
- 停車中の冷房効果を上げるため、アイドリング回転が高くなります。クリープ現象が強くなりますので、ブレーキペダルを確実に踏んでください。
- 炎天下に駐車したときには、冷房を使う前にウインドゥを全開にするなどして熱気を追い出してください。
- 長時間冷風を身体に直接あてると、体調を崩す原因となることがありますので注意してください。
- 冷房・除湿機能は装置の各部をオイルで潤滑するためにも月に2、3回程度作動させてください。また、長時間作動させていない場合は、エンジンを低回転（またはアイドリング）の状態で数分間冷房または除湿暖房を行ってください。
- 冷えない場合、冷媒不足も考えられます。スバル販売店で点検を受けてください。
- ドライバーモニタリングシステムにエアコン設定も同時登録できます。

☞P.180参照

■手動選択で使うとき

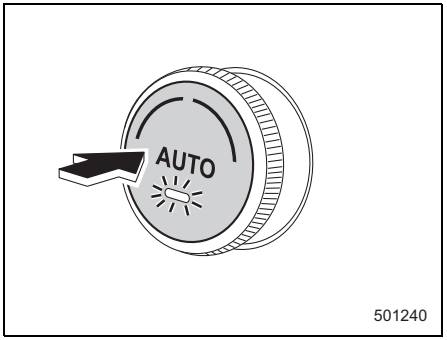
フルオート作動中に次のスイッチおよびダイヤルを操作すると、フルオートを解除し、操作した機能を固定できます。このとき、表示部の“FULL”が消えます。

- デフロスタースイッチ
- 内外気切り替えスイッチ
- 風量調整（ファン）スイッチ
- モード（吹き出し口）切り替えスイッチ
- A/Cスイッチ
- MAX A/Cスイッチ

■各スイッチの機能

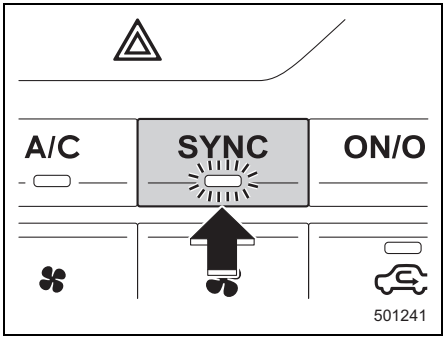
●AUTOスイッチ

フルオートで使うときに押します。
設定温度に応じて、吹き出し口切り替えやファン風量、冷房・除湿機能の作動、内外気切り替えなどをすべて自動制御します。
フルオート時は、スイッチ内の表示灯が点灯します。



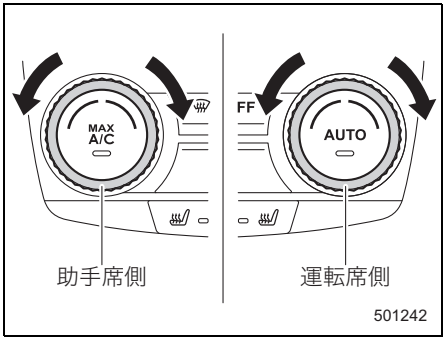
●SYNCスイッチ

SYNC スイッチ表示灯が点灯している場合は、運転席側、助手席側の送風温度を同一に設定することができます。
解除する場合、SYNC スイッチを押す、または助手席側温度調整ダイヤルを操作します。



●温度調整ダイヤル

室内温度を設定するときに使います。
温度は18.0～32.0の範囲で0.5ずつ設定できます。LOまたはHIに設定したときは、それぞれ最大冷房または最大暖房となります。
設定温度はドライバーモニタリングシステムのジェスチャーコントロールでも設定できます。
☞P.630参照



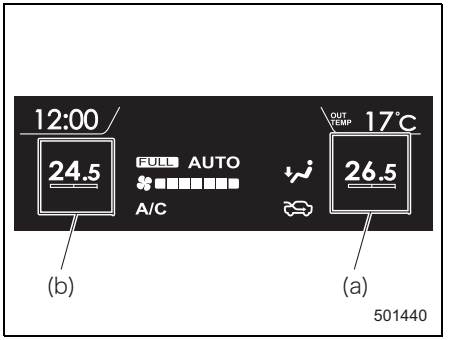
知 識

左右独立機能を解除したときは、運転席側の設定温度に切り替わります。

▼左右独立機能

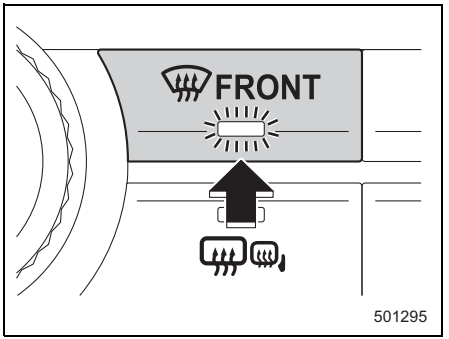
SYNC スイッチを押す、または助手席側温度調整ダイヤルを操作して表示灯が消灯した場合は、運転席側、助手席側の送風温度を別々に設定できます。
表示部には、運転席側、助手席側それぞれの設定温度を表示します。

(a) 運転席側設定温度
(b) 助手席側設定温度



●デフロスタースイッチ

フロントガラス、フロントドアガラスの曇りや霜を取るときに使います。スイッチを押すと効果的に曇りを取るために、自動的に外気導入、除湿機能作動、デフロスター吹き出しにセットされます。
デフロスター作動時は、デフロスタースイッチの表示灯が点灯します。
デフロスタースイッチをもう一度押すと、デフロスター作動前の状態に戻ります。

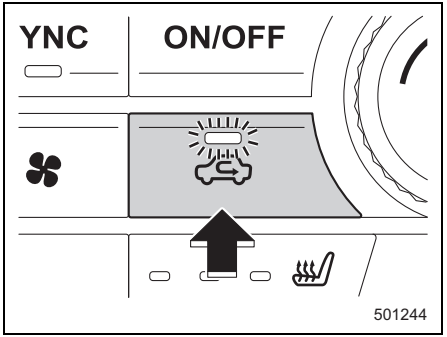


知 識

運転席側と助手席側の設定温度の差が大きい場合、温度を調整しきれないことがあります。

●内外気切り替えスイッチ

一時的に外気を遮断したい場合に使います。
スイッチを押すごとに内気循環と外気導入が交互に切り替わります。内気循環のときはスイッチの表示灯が点灯します。

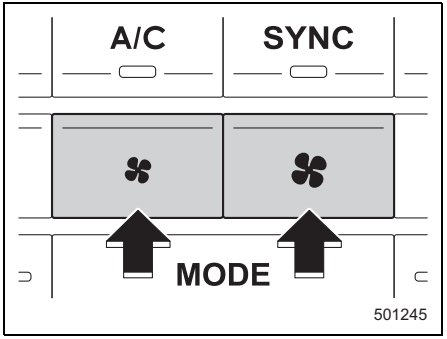


▼エアコンをOFFにしたとき

内外気切り替えがオートで作動していた場合は外気導入に固定されます。
スイッチを押して内気循環に切り替えていた場合は、内気循環の状態を保ちます。
このとき、内気循環・外気導入にかかわらず内外気切り替えスイッチの表示灯は消灯します。

●風量調整（ファン）スイッチ

風量を調整できます。
：風量増
：風量減



⚠ 注 意

- ガラスが曇りやすくなるので、内気循環は必要なときだけ使い、通常は外気導入を使う。
  - 内気循環で使用する場合は、A/Cスイッチを押して除湿機能を働かせて使用してください。

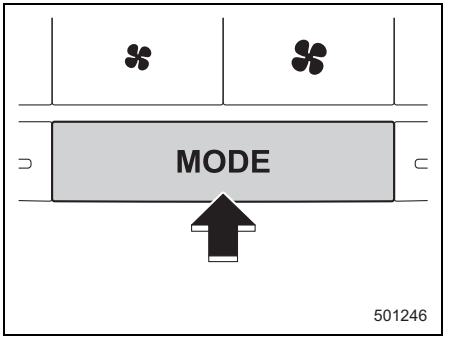
知 識

- バッテリーの接続を外したとき、またはバッテリー電圧が低下した場合は内外気切り替えスイッチ表示灯が点滅することがありますが、異常ではありません。
- エンジン始動時に必ず内外気切り替えスイッチ表示灯が点滅する場合は電気系統の異常が考えられますので、お近くのスバル販売店で点検を受けてください。

●モード（吹き出し口）切り替えスイッチ

吹き出し口を切り替えるときに使います。スイッチを押すごとに切り替わります。

☞P.647参照

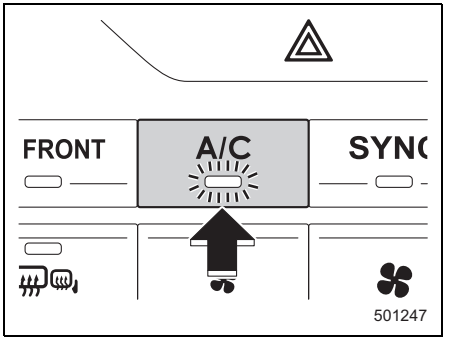


知 識

- 降雪時はフロントガラスの氷結を防止するためで走行することをお奨めします。
- を選択すると自動的に外気導入、除湿機能がONになる場合があります（内気循環を選択時は外気導入に切り替わらずに、内気循環状態を維持します）。
- エアコンをOFFにしていても、外気導入を使用していると走行風だけの空調ができます。
  - 走行風による空調では、室内を外気温度より低くすることはできません。

●A/Cスイッチ

冷房・除湿機能の作動をONまたはOFFに固定するときに使います。スイッチを押すごとにONとOFFが交互に切り替わります。暖房時でもウインドゥの曇りを取る場合や、除湿効果を高めたいときに使います。

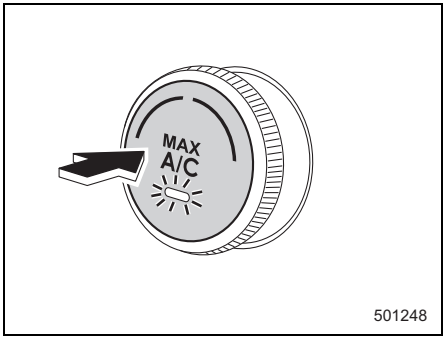


知 識

- 冷房・除湿機能はファンが作動していないときにスイッチを押しても作動しません。
- 気温が0 ℃付近まで下がったときは冷房・除湿機能が作動しない場合があります。

●MAX A/Cスイッチ

夏場など、素早く温度を下げたいときに使います。スイッチを ON にすると冷房 ON、設定温度LO、風量MAX、「VENT」モード（顔）、内気循環に自動で切り替わります。



501248

知 識

エアコンまたはプッシュエンジンスイッチをOFFにすると、MAX A/CはOFFになります。

●リヤウインドゥデフォッガースイッチ

☞P.353参照

●ヒーテッドドアミラースイッチ

☞P.334参照

●フロントワイパーデアイサースイッチ

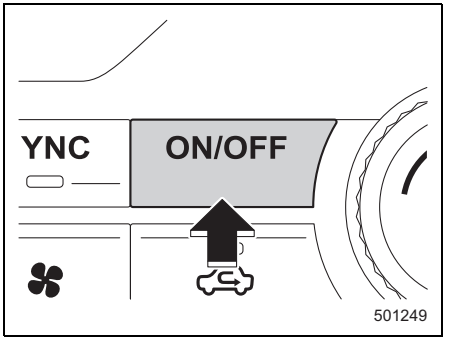
☞P.355参照

●シートヒータースイッチ

☞P.313参照

■停止するとき

エアコン使用中、ON／OFFスイッチを押すとすべての表示灯が消えエアコンは止まります。



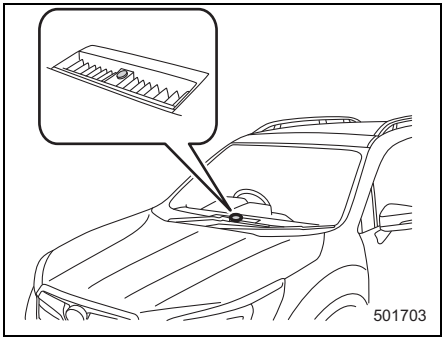
知 識

ファンが作動していない状態でON／OFFスイッチを押すと、OFFにする直前の状態を保ってエアコンが作動します。

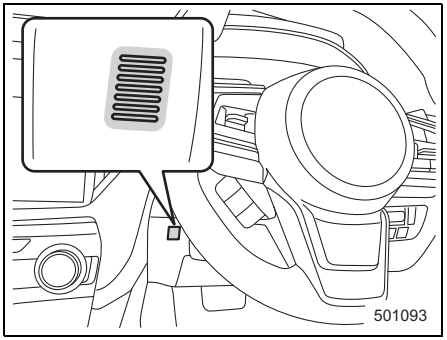
感知センサー

日差しの強さ、室内温度、室外温度を感知するセンサーが付いています。
外気温度センサーはフロントバンパー裏側にあります。

＜日射センサー＞



＜室内温度センサー＞



⚠ 注 意

室内に装備されている日射センサーおよび室内温度センサーに衝撃を与えたり、水をかけたり、上に物を置いたりしないでください。温度制御にずれが発生する原因となります。

エアコンフィルター

快適にお使いいただくため、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換時期：12,000 km走行ごとまたは1年ごと（どちらか早い方で実施）

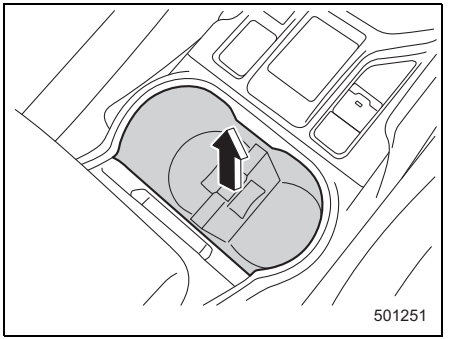
☞**P.718**参照

室内装備

カップホルダー

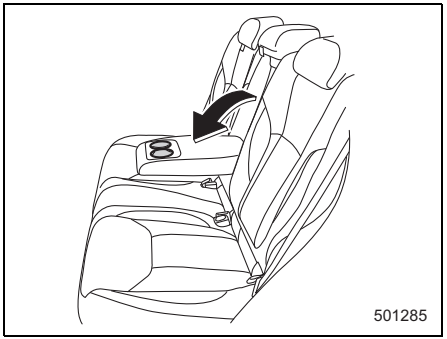
■前席用

センターコンソールにあります。
仕切りは外すことができ、空いたスペースを小物入れとして使用できます。



■後席用

アームレストにあります。
引き出して使用します。



⚠ 警 告

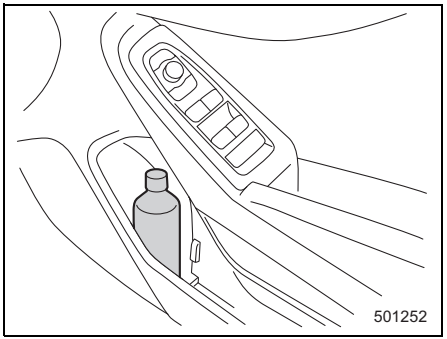
- 飲み物の出し入れは信号待ちなどの停車中に行う。
  - 走行中の使用は思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - ドアの開閉や走行中の振動、車の動きなどで飲み物がこぼれることがあります。熱い飲み物などはやけどのおそれがありますので注意してください。

知 識

後席乗降時にはアームレストを収納してください。アームレストの上に乗ったり、ぶつけたりすると損傷の原因となります。

ボトルホルダー

左右のフロントドアおよびリヤドアに各1つの小物入れ兼用のボトルホルダーがあります。

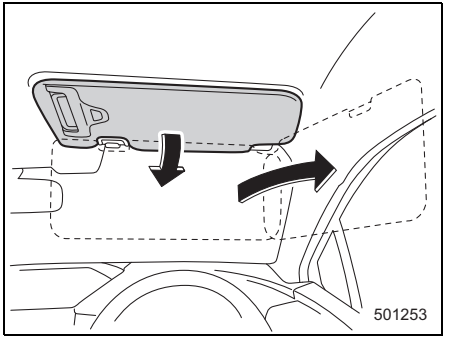


⚠ 警 告

- 飲み物の出し入れは信号待ちなどの停車中に行ってください。走行中の使用は思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ドアの開閉や走行中の振動、お車の動きなどで飲み物がこぼれることがあります。熱い飲み物などはやけどのおそれがありますので注意してください。
- 飲み物が入ったままフタをしていないペットボトル、またはフタをすることができない容器（缶やカップなど）を入れないでください。飲み物がこぼれるおそれがあります。

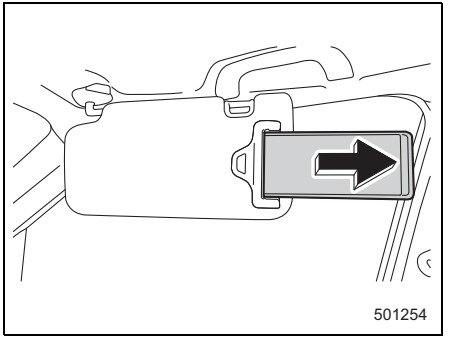
サンバイザー

太陽光がまぶしいときにサンバイザーを降ろします。
横に回すときはフックから外して使用します。
チケットホルダーが付いています。



■エクステンションプレート

太陽光を真横から受けてまぶしいときにエクステンションプレートを引き出します。
使用するときは、あらかじめサンバイザーを横にしておいてください。

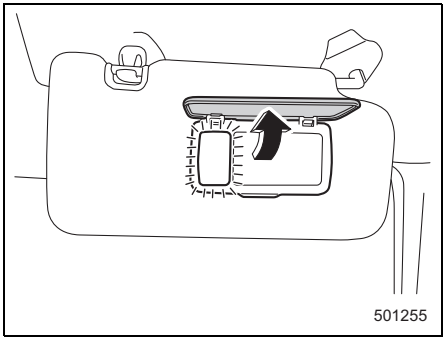


⚠ 注 意

サンバイザーを元の位置に戻すときは、エクステンションプレートを格納してください。

■バニティミラー

運転席、助手席サンバイザー裏側に鏡がついています。フタを開けると照明が点灯します。
必要のないときは、必ずフタを閉めてください。



⚠ 注 意

走行中は必ずバニティミラーのフタを閉めてください。

小物入れ

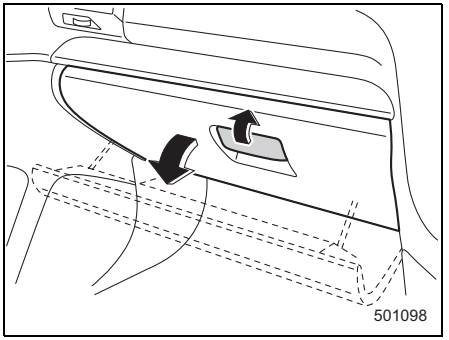
小物を収納することができます。

⚠ 注 意

炎天下での駐車は大変高温になりますので、メガネやライターなどを収納しないでください。

■グローブボックス

小物や書類を入れるのに使います。取っ手を引いて開けます。ランプ類が点灯しているとき、照明灯が点灯します。

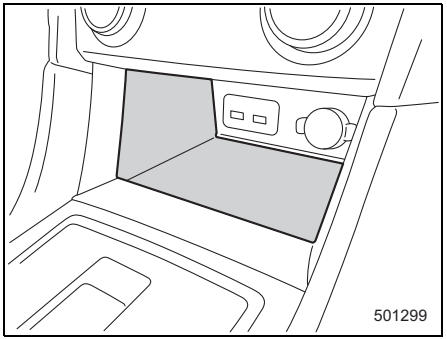


⚠ 注 意

- 走行中はグローブボックスのフタを必ず閉める。
  - 万一の場合、開いたフタに身体が当たるなどして思わぬけがをするおそれがあります。

■センタートレイ

インストルメントパネル中央下にあります。
ランプ類が点灯しているとき、照明灯が点灯します。

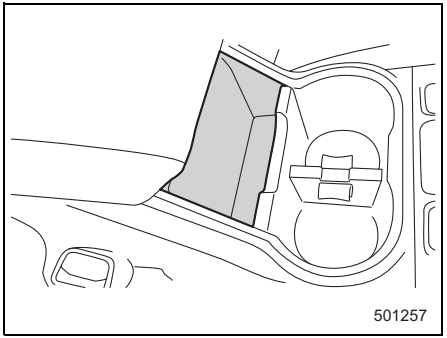


⚠ 注 意

- センタートレイ内に転がりやすい物などを入れない。
  - 走行中トレイ内の物が飛び出すなどして思わぬけがをするおそれがあります。

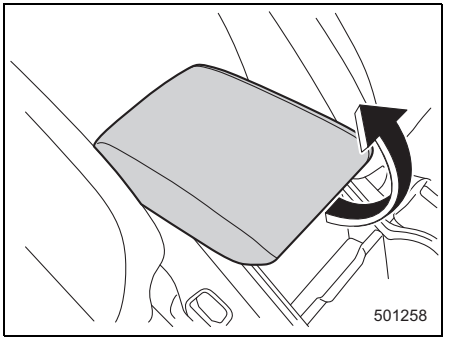
■センターコンソールトレイ

センターコンソール後側にあります。

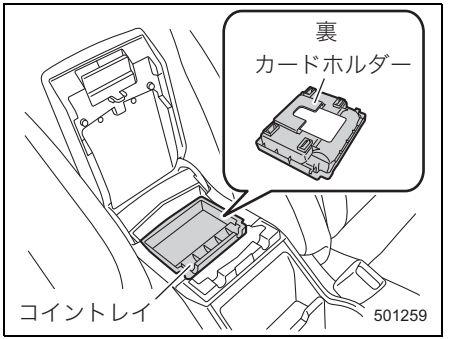


■コンソールボックス

アームレストを開けます。



取り外し可能なトレイが付いています。
トレイにはコイントレイが付いています。

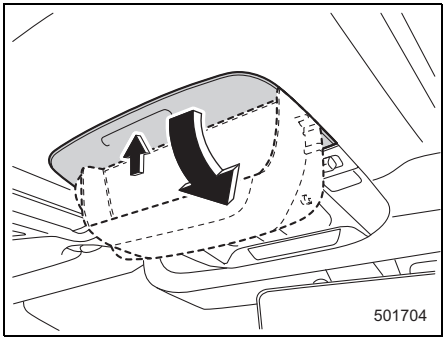


⚠ 注 意

- 走行中はアームレスト（コンソールボックスのフタ）を必ず閉める。
  - ー 走行中物が飛び出すなどして思わぬけがをするおそれがあります。
- 炎天下で駐車するときは、カードホルダーにプラスチック素材のカードを入れたままにしない。
  - ー 車内が高温になるため、カードの変形やひび割れを起こすおそれがあります。
- カードホルダーにカード以外の物を入れない。
  - ー 取り出せなくなることがあります。

■オーバーヘッドコンソールボックス

フタの後部を押すと開きます。

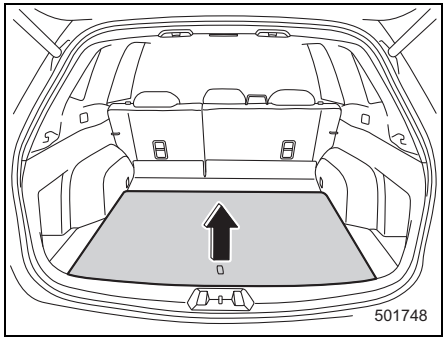


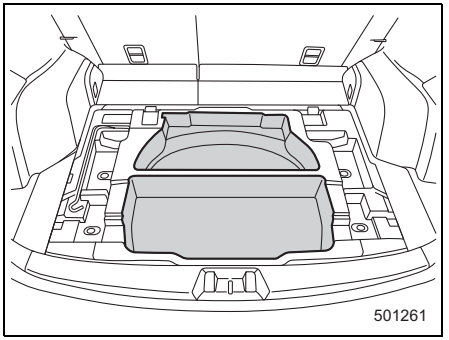
⚠ 注 意

- 走行中は必ず閉める。
  - 万一の場合、フタに身体が当たったり、中に入れた物が飛び出して思わぬけがをすることがあります。
  - 運転視界の妨げになる場合があります。

サブトランク

カーゴルームのリッド（フタ）を開けると、小さい荷物や三角停止表示板などを収納できます。
ディーラーオプションのトノカバーを取り外したときは、サブトランク内に収納できます。
☞P.674参照

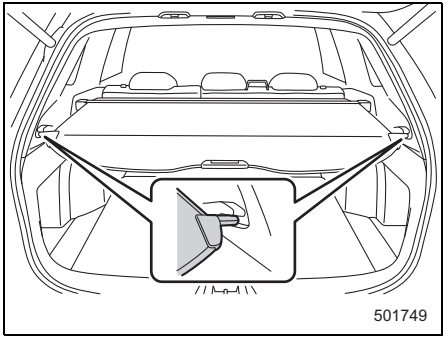




トノカバー（ディーラーオプション）

■使用するときには

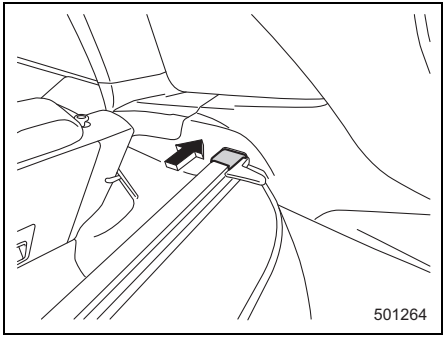
トノカバー中央部を持ち、ゆっくりとフックの手前まで引き、下げるようにして両側のフックに引っかけます。戻すときは中央部を持ち、一度手前に引いたまま持ち上げるようにしてフックから外し、ゆっくりと巻き戻します。



■取り付けるには

トノカバーの右端がスライド機構になっています。

1. トノカバーの右端を凹みに差し込みます。

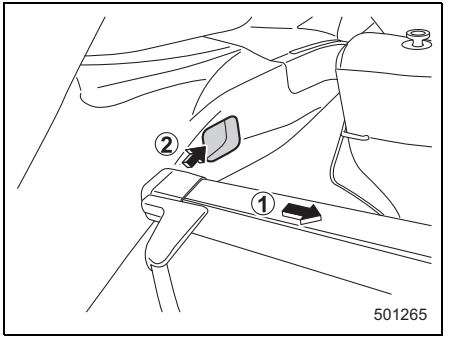


⚠ 注 意

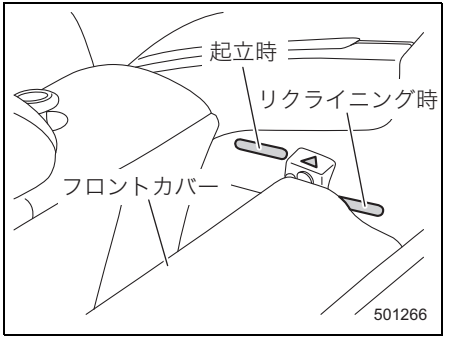
- トノカバーの上に物をのせないでください。トノカバーが損傷したり、物が落下して思わぬけがをするおそれがあります。
- リヤシートを後ろへリクライニングする場合は、フロントカバーをずらしてください。カバーが損傷するおそれがあります。

次ページへ ⇒

2. トノカバーのケースをしっかり持ち、右方向に押し込みながら、左端を凹みに固定して取り付けます。



3. フロントカバーをリヤシートの後ろ側に固定します。
   - 取り付けるとき：
     右端がスライド機構になっています。右端を▼マークに合わせて固定し、右方に押し込みながら左端を固定します。
   - 取り外すとき：
     右方向に押し込み、左端から外します。

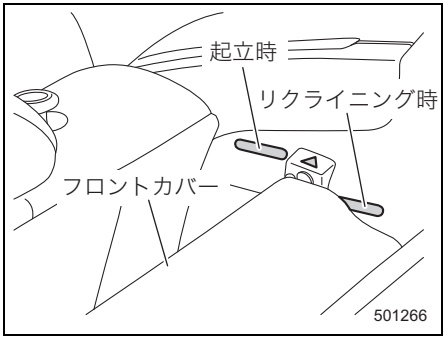


●フロントカバーの固定位置

フロントカバーの固定位置は 2 か所あります。

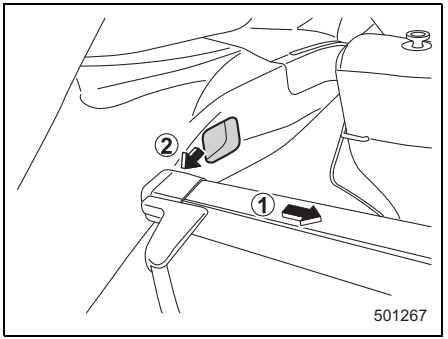
- リヤシートを後ろへリクライニングして使用する場合は、フロントカバーの固定位置2か所のうち、後ろ側で固定してください。
- リヤシートを後ろへリクライニングせずに使用する場合は、フロントカバーの固定位置2か所のうち、前側で固定してください。

☞P.316参照



■取り外すには

トノカバーを巻き戻した状態で行います。
トノカバーのケースをしっかり持ち、右方向に押し込み、左端から取り外します。

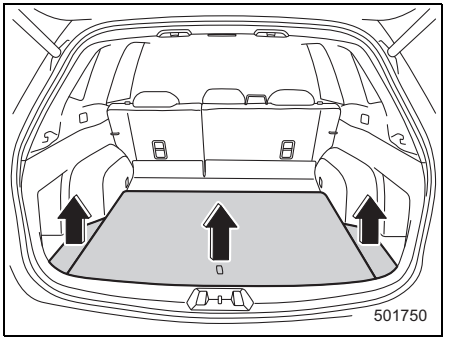


⚠ 注 意

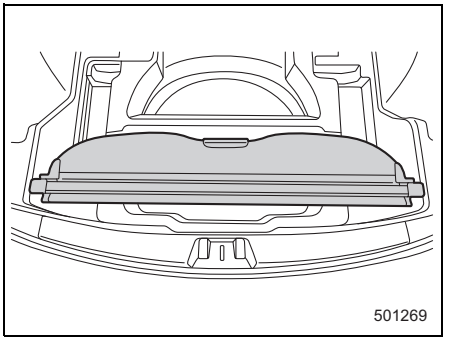
- フロントカバーの固定位置の変更は、走行前に行ってください。
- フロントカバーを前側に固定したままで、リヤシートを後ろへリクライニングすると、トノカバーが損傷するおそれがあります。
- トノカバーの上に物をのせないでください。トノカバーが損傷したり、物が落下して思わぬけがをすることがあります。

■収納するには

1. カーゴルームのリッド（フタ）を開けます。



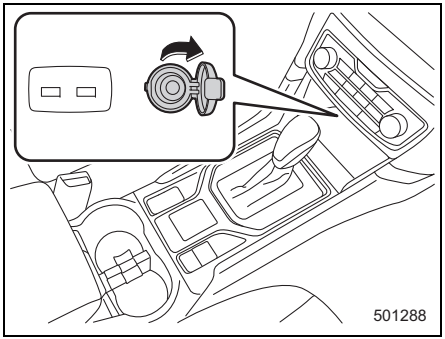
2. トノカバー全体を図のように収納します。



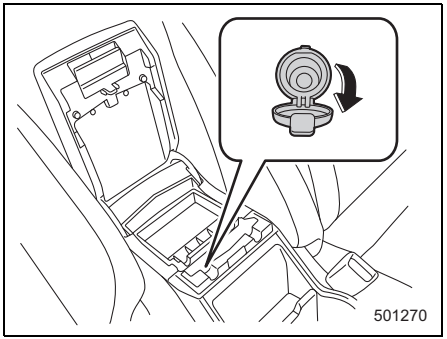
電源ソケット

プッシュエンジンスイッチがACCまたはONのとき12 V直流電源が取り出せます。
自動車用電気製品の電源ソケットとしてご使用ください。

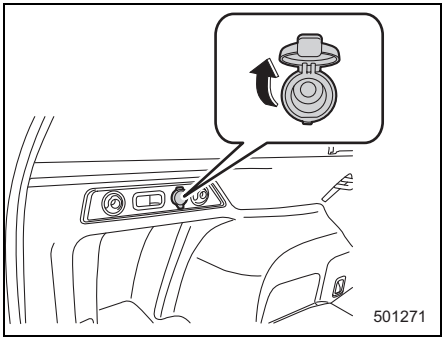
<インストルメントパネル中央下>



<コンソールボックス内>



<カーゴルーム内張り>



次ページへ ⇒

⚠ 注 意

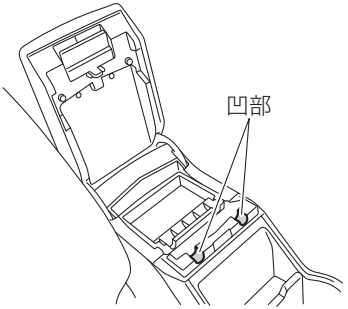
電源ソケットから電源を取るときは、スバル純正品の使用をお奨めします。

また、自動車用電気製品は必ず12 V-120 W以下のものをご使用ください。ご使用の際は次の項目をお守りください。

- タコ足配線はしないでください。発火することがあります。
- 銀紙、硬貨などの金属や異物を入れないでください。
- 電源ソケットにプラグが合わない（ガタがあったり、きつくて入らない）場合は、接触不良やプラグが抜けなくなる原因となります。ソケットに合ったプラグをご使用ください。
- エンジン停止状態またはアイドリング状態のまま電気製品を長時間使用すると、バッテリー上がりを起こすことがありますので注意してください。また、走行中の使用でも不要になったら電源を切るように心がけてください。
- 走行中はコンソールボックスを必ず閉めておいてください。走行中に物が飛び出すなど、思わぬけがをするおそれがあります。

知 識

- 電源コードを引きまわす際は、コンソールボックスの凹部から引き出してください。



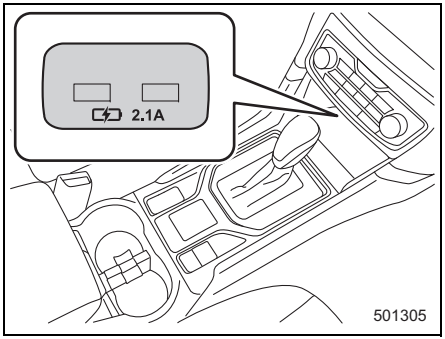
- アイドリングストップからエンジンが再始動すると、電源ソケットの電圧が低下するので、使用している電装品によっては電装品の電源が一時的にOFFになることがあります。

USB電源

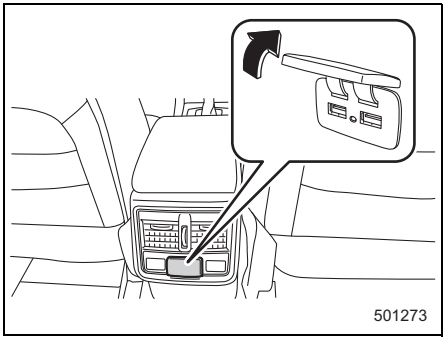
プッシュエンジンスイッチがACCまたはONのとき5 V直流電源が取り出せます。USB電源による動作／充電に対応したモバイル機器、電気製品への電源供給用途としてご使用ください。

このUSBはType-A形状です。

＜インストルメントパネル＞



＜コンソールボックス後側＞



次ページへ ⇒

⚠ 注 意

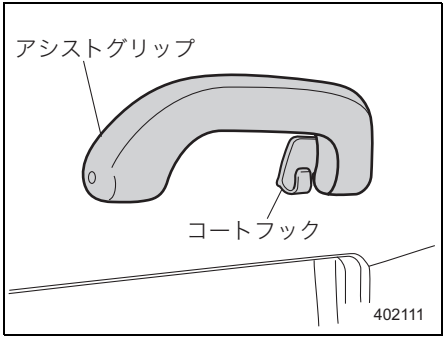
- 使用できるUSB端子の規格はType-Aです。規格外の端子を使用した場合は動作／充電が機能しない、または故障の原因になります。
- 各ポートとも最大定格5 V／2.1 A出力（合計4.2 A）を前提としています。ご使用前に、対応している機器かどうかを使用機器の取扱説明書などで必ずご確認ください。最大定格を超える電力を要求する機器を接続した場合、保護機能が働くため動作／充電できないことがあります。また、充電できた場合でも、機器の純正充電器を用いるときよりフル充電までの所要時間が長引くことがあります。
- 機器専用ケーブルでのみ動作／充電が可能な場合がありますので、そのときは必ず専用のケーブルをお使いください。
- 機器および接続ケーブルは、お客様のご負担・ご用意となります。
- 機能は電源出力のみで、データ転送などは行えません。
- 機器の種類や使用状況によっては、故障したり、データが破損や損失するおそれがあります。
- パソコン側と通信を行う機器は動作／充電できない場合があります。
- 充電完了後はすみやかに接続機器を取り外してください。
- USBハブは接続しないでください。故障の原因になります。
- USB端子内に金属類、異物を差し込んだりしないでください。感電または故障の原因になります。
- 防水ではありませんので、水などの液体をかけないでください。
- 接続したケーブルに足をとられないように注意してください。転倒するなど思わぬけがをしたり、機器が故障する原因になります。
- エンジン停止状態またはアイドリング状態のまま電気製品を長時間使用すると、バッテリー上がりを起こすことがありますので注意してください。また、走行中の使用でも不要になったら電源を切るよう心がけてください。
- 故障した機器を接続しないでください。発煙、発火の原因になります。

知 識

アイドリングストップからエンジンが再始動すると、USB端子の電圧が低下するので、使用している電装品によっては電装品の電源が一時的にOFFになることがあります。

アシストグリップ（回転式）

走行中、シートに座っている状態で身体を支えるときに使用します。
リヤシート左右のアシストグリップにはコートフックがあります。



⚠ 警 告

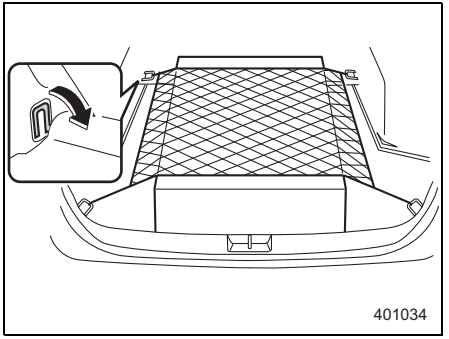
- コートフックにハンガーや鋭利な物をかけない。
  - SRS　カーテンエアバッグが作動したときにこれらの物が飛び、重大な傷害につながるおそれがあります。
    服をかけるときはハンガーを使わず、服をそのままコートフックにかけてください。
- アシストグリップ（回転式）は、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しない。

⚠ 注 意

- 重いものや大きなものをアシストグリップやコートフックにかけない。
  - アシストグリップやコートフックが折れたり、走行中に外れたりすることがあります。
    最大荷重：約5 kg（コートフック）

カーゴフック

カーゴルームに4か所取り付けてあります。
カーゴルームネットなどを引っかけるときに使用します。

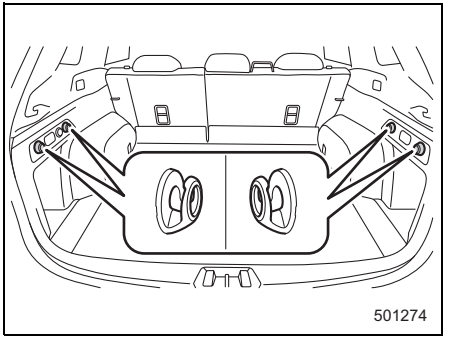


⚠ 注 意

カーゴフックを使うときは、カーゴルームネットなど軽量物の固定、引っかけの用途だけに使用してください。
許容引っ張り荷重：20 kg

買い物フック

カーゴルーム左右の内張りに片側 2 個ずつ付いています。
買い物袋などが転がらないようにするときに使用します。
袋の底を床につけ、手さげ部分をフックに巻き付けて使ってください。

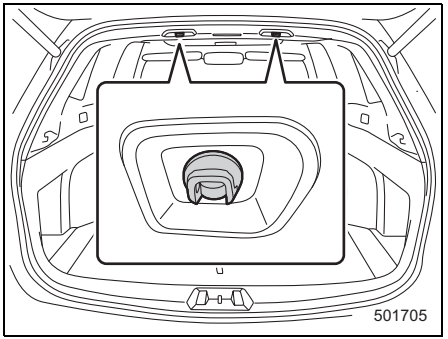


⚠ 注 意

買い物フックは、買い物袋など軽量物の引っかけの用途だけに使用してください。
最大荷重：3 kg

カーゴアッパーフック

カーゴルーム上側に2個付いています。
停車中に軽い物を引っかけたり固定したりできます。



⚠ 警 告

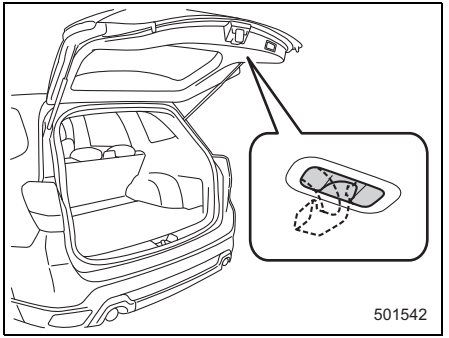
- 火気を使用する物をかけない。
  - 火災の原因となるおそれがあります。

⚠ 注 意

- 走行中は物をかけない。
  - 後方が確認できなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - 急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び、思わぬけがをするおそれがあります。
- 重い物や大きな物をフックにかけない。
  最大荷重：3 kg
- チャイルドシートの固定に使わない。
- 炎天下など、車内が高温になるおそれがあるときは、フックに物をかけたまま長時間放置しない。
  - 高温になると、フックが変形して物が落下するおそれがあります。

ユーティリティフック

リヤゲートの内張りに付いています。



⚠ 注 意

重い物や大きな物をフックにかけないでください。フックが破損するおそれがあります。

最大荷重：3 kg

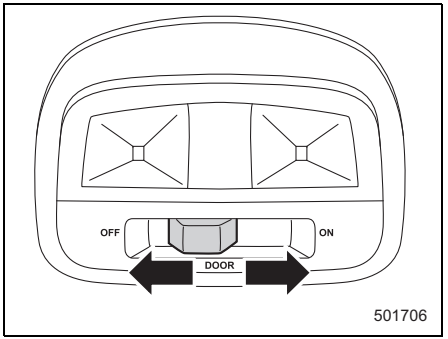
知 識

気温が低いときや荷物の重さなど使用状況によって、リヤゲートが下がってくることがあります。

室内の照明

■ルームランプ

車内の天井中央（後席上部）にあります。
スイッチの位置により切り替えができます。
ON：
常に点灯します。
DOOR：
いずれかのドア（リヤゲート含む）を開けると点灯し、閉めると一定時間点灯後消灯します。
☞P.686参照
OFF：
常に消灯します。

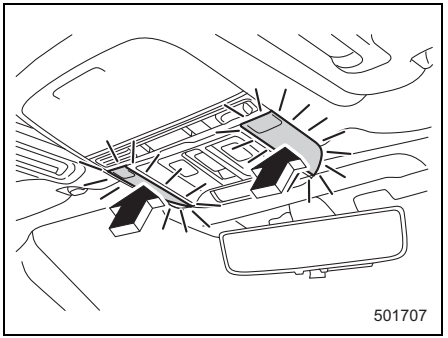


知 識

- お車から離れるときには消灯していることを確認します。
  - 長時間点灯させるとバッテリー上がりの原因になります。

■スポットマップランプ

スポットマップランプの手前側を押すとランプが点灯します。
もう一度押すと消灯します。夜間、お車を止めて地図を見るときなどに便利です。



知 識

- お車から離れるときには消灯していることを確認します。
  - 長時間点灯させるとバッテリー上がりの原因になります。

●ドア連動切り替えスイッチ

スイッチの位置により切り替えができます。

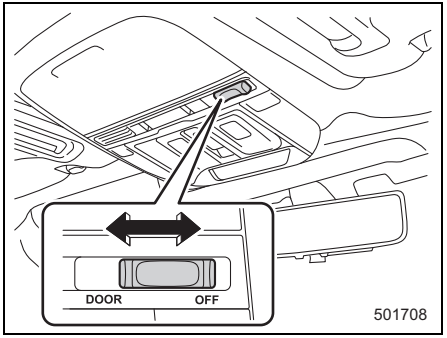
DOOR：

いずれかのドア（リヤゲート除く）を開けると点灯し、閉めると一定時間点灯後に消灯します。

☞P.686参照

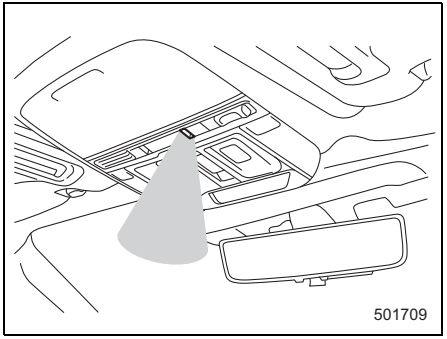
OFF：

スポットマップランプの手前側を押したときのみ点灯し、ドアの開閉などの操作では点灯しません。



●シャワーライト

ランプ類が点灯しているとき、イルミネーションが点灯します。



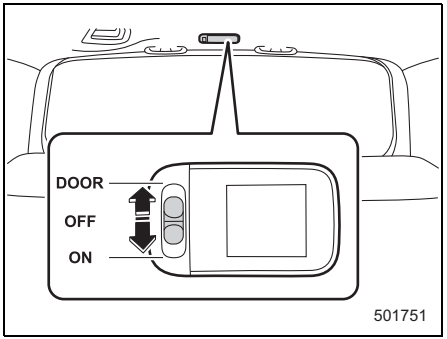
知 識

イルミネーションコントロールダイヤルで明るさを調整することができます。

☞P.359参照

■カーゴルームランプ

DOOR：
リヤゲートを開けると点灯し、閉めると一定時間点灯後、消灯します。
OFF：
常に消灯します。
ON：
常に点灯します。



■オフディレイ機能

●ルームランプ、スポットマップランプ

ルームランプ、スポットマップランプのスイッチをDOOR位置にしているとき、次の操作を行うといったん点灯し、30秒後に徐々に消えていきます。

- プッシュエンジンスイッチをONからOFFにしたとき
- いずれかのドア（スポットマップランプはリヤゲート除く）を開けて閉めたとき
- キーレスエントリー（キーレスアクセス機能、電波式リモコンドアロック、暗証コード式キーレスエントリー）で解錠したとき
- アクセスキーを携帯し車両に近づいたとき

また、次の操作を行うと消灯します。

- プッシュエンジンスイッチをACCまたはONにしたとき
- キーレスエントリー（キーレスアクセス機能、電波式リモコンドアロック）で施錠したとき
- パワーリヤゲートロックスイッチで施錠後、リヤゲートが自動閉したとき。ただし、スポットマップランプはパワーリヤゲートロックスイッチで施錠したときに消灯します。（パワーリヤゲート装備車）

●カーゴルームランプ

スイッチをDOOR位置にしているとき、次の操作を行うといったん点灯し、30秒後に徐々に消えていきます。

- リヤゲートを開けて閉めたとき

また、次の操作を行うと消灯します。

- プッシュエンジンスイッチをACCまたはONにしたとき
- キーレスエントリー（キーレスアクセス機能、電波式リモコンドアロック）で施錠したとき
- パワーリヤゲートロックスイッチで施錠後、リヤゲートが自動閉したとき（パワーリヤゲート装備車）

知 識

室内ランプのドア連動を作動なしに設定できます。また、消灯時間を10秒／20秒に設定できます。

☞P.158参照

6. メンテナンス

お車の手入れ
日常の手入れ ····· 688
外装の手入れ ····· 690
内装の手入れ ····· 694

点検整備
ボンネット ····· 698
燃料タンクの水分除去 ····· 701
バッテリー ····· 701
エンジンオイル ····· 701
タイヤの点検 ····· 702
ホイールバランス ····· 705
ホイールアライメント ····· 705
タイヤ・ホイールの交換 ····· 705
ワイパーブレードの交換 ····· 713
エアコンフィルターの交換 ····· 718
アクセスキーの電池交換 ····· 722
電球（バルブ）の交換 ····· 725
車両の整備作業やカー用品を装着するとき ····· 736

寒冷地での使いかた
走行するときは ····· 738
駐車するときは ····· 739
洗車するときは ····· 740
冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）への交換 ····· 741
タイヤチェーンの装着 ····· 742
冷却水の濃度 ····· 742
ウォッシャー液の濃度調整 ····· 743
寒冷地用ワイパーブレードの装着 ····· 744

雪や霜の除去
足まわりの点検 ····· 745
ルーフの雪の除去 ····· 745
フロントガラス下側の雪の除去 ····· 745
ガラス面の雪や霜の除去 ····· 746
ドア・リヤゲートを開けるときには ····· 746
乗るときには ····· 746
暖機運転中 ····· 746
ワイパーなどの凍結 ····· 747

日常点検
日常点検について ····· 748
バッテリー液量の点検 ····· 751
ウォッシャー液量の点検 ····· 751

お車の手入れ

日常の手入れ

■手入れのしかた

次のような場所を走行した後や、塗装面に異物が付着した場合は、必ず洗車をしてください。

- 凍結防止剤を散布した道路や海岸地帯、ぬかるみ、砂地、砂利道などの走行（錆を促進させる要因となりますので車体の下まわり、足まわりを念入りに洗ってください）。
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などが付着したとき。

また、飛び石などにより塗装面に傷がある場合、錆の原因となりますので早めに補修してください。

■保管のしかた

お車の保管、長期間の駐車には次のような場所をお奨めします。

- 直射日光が当たらない場所
- 風通しがよい場所
- 鉄道線路から離れた場所
- 農薬などの化学薬品が飛散しない場所
- 木から離れた場所
- いたずらされにくい場所

知 識

- ラフロードなどを走行し、泥や砂が床下部に付着したままで放置すると、錆の原因となります。ラフロードなどの走行後には、床下部を洗車し堆積した泥や砂を洗い流してください。なお、洗車する場合は先の尖ったものや鋭利なものを使わないでください。ブレーキホースや配線などに傷をつけるおそれがあります。
- 夏期の屋外にお車を止めると車内温度が非常に高くなります。可燃物（ライターやスプレー缶など）は置かないでください。また、インストルメントパネルの上、シートの上にゴム類を置かないでください。変色することがあります。
- 長期間お車を使用しない場合には、電動パーキングブレーキをかけずに次の要領で駐車してください。
  - セレクトレバーを“P”に入れます。
  - 輪止め（タイヤストッパー）をします。

  また、ワイパーを立てておいてください。ブレードラバーのくせ付きや汚れの付着を防止できます。
- ボディカバーについて、次の点をお守りください。
  - スバル純正品の中からお車に合ったものを選んでください。
  - ときどき水洗いして砂ぼこりなどを洗い流してください。
  - 風で飛ばされないようにしっかりかけてください。
  - 雨の後はボディカバーを外し、お車とボディカバーを乾かしてください。
  - ワイパーは立てないでください。

外装の手入れ

■洗車のしかた

月に1回程度を目安とし、汚れが目立ってきたらその都度洗車してください。
洗車を行う際は、エンジンを停止してください。

⚠ 注 意

洗車を行う際は、次のことをお守りください。守らないと車両の損傷や故障の原因および思わぬけがにつながるおそれがあります。

- ワイパースイッチをOFFにする。
  - ワイパースイッチがOFF以外の場合、洗車中に作動して思わぬけがをしたり、ワイパーが損傷するおそれがあります。
- 先の尖ったものや鋭利なものを使わない。
  - ブレーキホースや配線などに傷をつけるおそれがあります。
- 洗車後は、先行車および後続車に注意しながらブレーキの効き具合を確かめる。
  - ブレーキの効きが悪くなることがあります。

知 識

- アルミホイールはセーム皮、スポンジなど柔らかいもので洗ってください。汚れがひどいときは、中性洗剤を使って洗い、ワックスがけをしてください。
- ドアガラスまわりに勢いの強い水をかけると、ドアガラスの内側に水滴が付着することがあります。
- 雨（酸性雨）が降ったときは、塗膜上の水分が蒸発する前の洗車をお奨めします。そのままの状態で時間が経過すると、塗膜が酸で侵されることがあります。

●手洗いするとき

- 水を十分かけながら行ってください。
- ボディを洗うときは柔らかいスポンジやセーム皮を使ってください。
- 足まわり、フェンダー内側、下まわりなどを洗うときはゴム手袋を着用し、ハンドブラシなどを使って泥や砂などをよく落としてください。
- 拭き残しがないようにきれいに水を拭き取ってください。
- 汚れがひどいところは中性洗剤で洗い、水で完全に洗い落としてください。

⚠ 注 意

- ボディに乗ったり寄りかかったりしない。
- エンジンルーム内には直接水をかけない。
  - エンジン始動不良やエンジン不調、電気部品、配線部、パワーステアリングの故障、ブレーキの効き不良などの原因につながるおそれがあります。
- 足まわり、フェンダー内側下まわりまたはバンパー、排気管などを洗うときは、突起物で手などにけがをしないように注意する。
- ランプ類には、有機溶剤などを含んだ洗剤は使用しない。
  - 使用した場合には、完全に洗い流してください。
- 日常の洗車ではコンパウンド入りワックスは使用しない。
  - コーティングを損傷させるおそれがあります。

●自動洗車機を使うとき

- 洗車前に自動洗車機の使いかたをよく確認してください。
- ドアミラーを格納してください。

☞P.332参照

- 必ずワイパースイッチをOFFにしてください。ワイパーが損傷するおそれがあります。

⚠ 注 意

自動洗車機のブラシにより、傷がついて塗装の光沢が失われたり、劣化を早めたりすることがあります。スポンジやセーム皮での手洗いをお奨めします。

●高圧洗車機を使うとき

- 洗車ノズルと車体との距離を十分離してください。(30 cm以上)
- 同じ場所を連続して洗浄しないでください。
- 汚れが落ちにくい場合は手洗いしてください。洗車機から噴射される温水は機種によっては高温・高圧のものがあるので、モールなど樹脂部分が変形、損傷したり、車内に水が入ることがあります。

■ワックスのかけかた

- 洗車後は直射日光を避け、ボディの温度が冷えているとき（体温以下）に行います。ワックスがけは月に1回程度を目安に行ってください。
- ランプ類には、有機溶剤などを含んだワックスは使用しないでください。もし使用した場合には完全に拭き取ってください。ランプの損傷、または劣化を早めたりするおそれがあります。

■ガラスの手入れ

油膜などがガラスについてワイパーの拭き残しが出たときは、ガラス洗浄剤を使ってきれいに落としてください。

知 識

ワックス、コンパウンドの使用上の注意をよく読んでから使用してください。

⚠ 注 意

- フロントガラスの手入れをするためにワイパーアームを起こすときは、運転席側を先に起こしてから助手席側を起こしてください。戻すときは、助手席側のワイパーアームを先に戻してから運転席側のワイパーアームを戻してください。手順を間違えた場合、ワイパーアームが損傷する原因となります。
- フロントガラスにワックスが付かないよう注意してください。ガラスに被膜、油膜が付着していると、ワイパーの拭き取りが悪くなります。また、夜間の雨降りでは、対向車のヘッドランプでガラスが乱反射して見えにくくなり、大変危険です。このようなときは、油膜落とし専用のガラス洗浄剤で除去してください。
- リヤガラスを車内から拭くときは、ガラス洗浄剤を使わず、柔らかい布などで軽く、電熱線に沿って拭いてください。洗浄剤を使うと、リヤウインドゥデフォッガーの電熱線が損傷することがあります。

知 識

- フロントガラスにワックスが付着したり、窓ガラス用はっ水剤を使用すると、ワイパーのビビリの原因になります。
- フロントガラスにはっ水コーティングを行うと、センサーが雨滴量を正確に感知できず、オートワイパーが作動しないことがあります。

内装の手入れ

1. カークリーナーや電気掃除機などでほこりを取り除きます。
2. 水またはぬるま湯を含ませた柔らかい布で軽く拭き取ります。汚れがひどいときは中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませて、汚れを落とします。
   飲食物などをこぼしたときは、すぐに汚れを落としてください。
3. 直射日光を避け、風通しの良い日陰で乾燥させます。

⚠ 警 告

- シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤や漂白剤を絶対に使用しないでください。シートベルトの強度が低下し、衝突などのとき十分な効果を発揮せず、重大な傷害を受けるおそれがあります。清掃するときは中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。
- オーディオ、エアコンなどの電装品や各種スイッチ、ならびにこれらの周辺の清掃には、シリコーン（ケイ素高分子化合物）を含有するケミカル剤を使用しないでください。
  これらの部品にシリコーン（ケイ素高分子化合物）が付着した場合は、電装品の故障の原因となるおそれがあります。
- 室内の清掃などで車内に水をかけないでください。
  電装品やフロアカーペット下の電気部品などに水がかかると火災や故障の原因になるおそれがあります。

知 識

- 内装の手入れをするときは、ベンジンやガソリンなどの有機溶剤、酸またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。変色やシミの原因になります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがありますのでよくご確認のうえ使用してください。
- 液体芳香剤をこぼさないように注意してください。含まれる成分によっては変色やシミ、塗装はがれの原因になるおそれがあります。

■本革内装の手入れ

汚れ落としには、ウール用中性洗剤を5%濃度に薄めた液を柔らかい布に軽く含ませて拭いてください。
残った洗剤成分は、真水を含ませた柔らかい布でよく落としてください。

- 乾燥は直射日光を避け、風通しのよい日陰で行ってください。
- ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤は変色、シミなどの原因になりますので使用しないでください。
- 本革内装表面に油汚れなどがつくとカビやシミなどの原因になります。早めに落としてください。
- 本革内装表面を直射日光に長時間さらすと、変質、縮みの原因になります。駐車するときは、日よけに心がけてください。
- 夏期などにビニール類を本革内装の上に置かないでください。室内が高温になるとビニールが変質して本革内装に付着することがあります。

■シートの手入れ

汚れたときは柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどいときは、中性のクリーナーをいったん布に付けてから汚れを落とし、その後洗剤を拭き取ってください。スプレー式のクリーナーなどを直接かけたり、シンナーやアルコールなどの揮発性のもので拭くと、変色、シミの原因になります。また、硬いブラシや硬い布でこするとシート表面が摩耗するおそれがあります。

■その他の手入れ

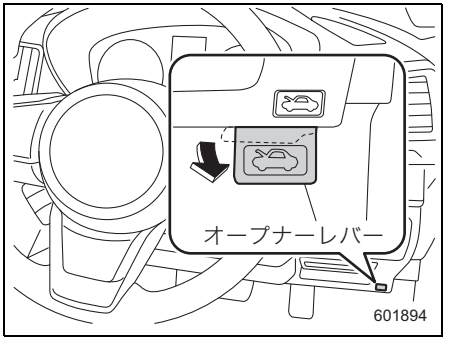
- 車内のプラスチック部品を清掃するときは、きれいで柔らかい布で軽く拭き取ってください。硬いブラシや布で強くこすると、傷がつくことがあります。
- ナビゲーションシステム装備車は、画面が汚れたときは柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどいときは、中性のクリーナーをいったん布に付けてから汚れを落とし、その後洗剤を拭き取ってください。スプレー式のクリーナーなどを直接画面にかけると、画面の構成部品に損傷を与えるおそれがあります。また、硬い布で拭いたり、シンナーやアルコールなどの揮発性のもので拭くと、傷がついたり文字が消えることがあります。

点検整備

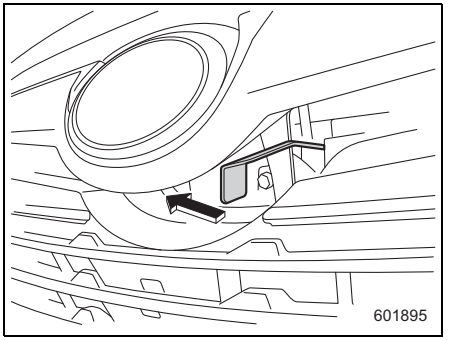
ボンネット

■開けるとき

1. 運転席側のインストルメントパネル右下にある、ボンネットオープナーレバーを引きます。
   ボンネットオープナーレバーを引くと、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面と警告灯を表示します。



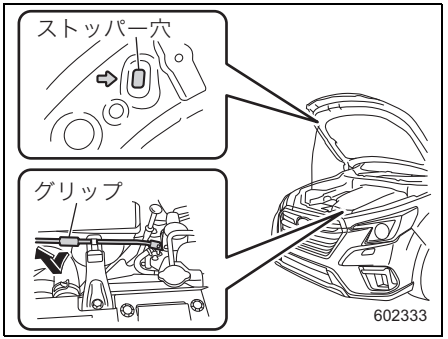
2. フロントグリルとボンネットのすき間からレバーを左に押してロックを外し、ボンネットを持ち上げます。



⚠ 警 告

- 必ず走行前にボンネットが確実にロックされていることを確認する。
  - 確実にロックされていないまま走行すると、走行中開くことがあり非常に危険です。
- ボンネットを開けるときはプッシュエンジンスイッチをOFFにする。
  - 作動中の部品に巻き込まれると重大な傷害につながるおそれがあります。

3. ステーをホルダーから外し、ボンネットのストッパー穴に入れて固定します。
ステーを持つときは、グリップ部を持ってください。



■閉めるとき

ステーを外してホルダーに収め、ボンネットをゆっくり降ろしてボディに近くなったら（約20 cm～約30 cm）手を離します。
確実にロックされていることを確認してください。

⚠ 警 告

- エンジンルーム内に物を置き忘れないよう注意する。
  - エンジンルーム内は高温になるため、車両火災につながるおそれがあり危険です。
  - 故障の原因となるおそれがあります。

次ページへ ⇒

⚠ 注 意

ボンネットを開閉するときは次のことに注意してください。守らないと思わぬ故障、事故またはけがにつながるおそれがあります。

- 走行後すぐに開けるときには、部品が熱くなっているので、やけどに注意する。
- 冷却ファンに注意する。

☞**P.27**参照

- 指や物を挟まないよう十分注意する。
- ワイパーアームを起こしたり、作動させたりしない。
  - ー ボンネットとワイパーアームが接触し傷つくおそれがあります。
- ステーを正しい位置に確実に差し込む。
- ボンネットを上から強く押し付けない。
  - ー 強く押し付けると、ボンネットがへこむことがあります。
- 風の強いときは十分注意する。
  - ー 風にあおられて必要以上に開き、ボンネットが歪んだり、ステーが外れて閉まることがあります。
- ボンネットにスバル純正品以外のアクセサリー用品を取り付けない。
  - ー ボンネットの重量が極端に重くなると、開けたときにステーが支えきれなくなるおそれがあります。

燃料タンクの水分除去

燃料タンク内の水分を除去するときは、スバル純正水分除去剤の使用をお奨めします。

バッテリー

気温が下がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがあります。必要に応じてバッテリー液の点検や補充をしてください。
詳しくは「メンテナンスノート」をご覧ください。

エンジンオイル

スバル純正エンジンオイルをご使用ください。
☞P.797参照

知 識

SUBARU MOTOR OIL ECO 0W-16のエンジンオイルの使用をお奨めします。

タイヤの点検

タイヤに大きな傷がないか、釘がささったり石が噛み込んでいないかを日常的に点検してください。タイヤが異常に摩耗していないかも併せて点検してください。
タイヤの損傷や異常摩耗が見つかったらスバル販売店にご相談ください。

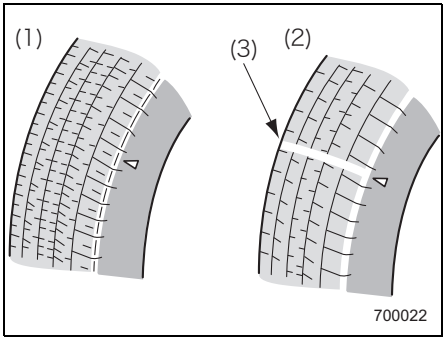
⚠ 注 意

- 縁石にぶつかったときや荒れた路面を走行したときの衝撃でタイヤやホイールが目に見えない損傷を受けることがあります。このような損傷は後にならないとわかりません。縁石に乗り上げないように心がけてください。
- やむを得ず縁石に乗り上げる際はゆっくりと、直角に乗り上げるようにしてください。また、駐車するときはタイヤが縁石に押しつけられていないか確認してください。
- 走行中いつもと違う音や振動を感じたり、車両の直進性が悪いようであれば、いずれかのタイヤおよびホイールが損傷を受けている可能性があります。お近くのスバル販売店まで安全を確かめながら走行して点検を受けてください。

■ウエアインジケーター

タイヤには、ウエアインジケーター（摩耗表示）がついています。タイヤの接地面の溝の深さが1.6 mm以下になると現れます。タイヤの接地面が摩耗してウエアインジケーターと同じ高さになったらタイヤの交換が必要です。

（1）新品タイヤ
（2）摩耗したタイヤ
（3）ウエアインジケーター



⚠ 警 告

- ウエアインジケーターが１か所でも現れたら、タイヤの摩耗が限度以上になっています。すぐにタイヤを交換してください。
- ウエアインジケーターが現れたままで雨天の高速走行をすると、ハイドロプレーニング現象を起こしやすく、その結果車両のコントロールを失い、事故につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

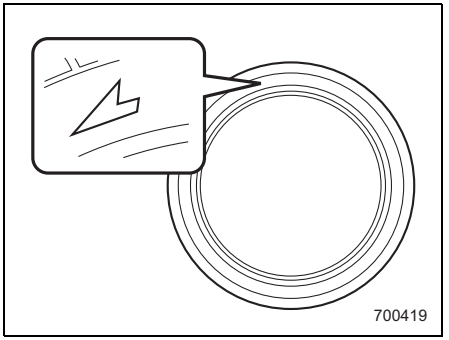
安全のため、タイヤの接地面を定期的に点検し、ウエアインジケーターが現れる前に新品と交換するよう心がけてください。

■タイヤの位置交換（タイヤローテーション）

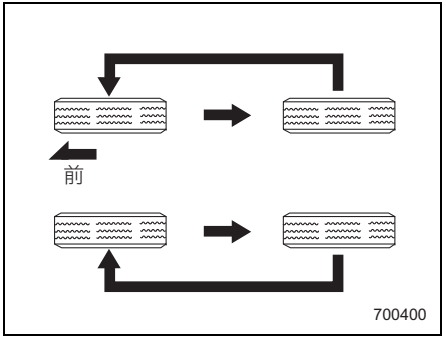
タイヤの摩耗は、各タイヤで異なります。タイヤの寿命を延ばすには、タイヤの摩耗を均一にする必要があります。5,000 kmごとに前後のタイヤの位置交換を行うことが最善です。

●回転方向指定タイヤ

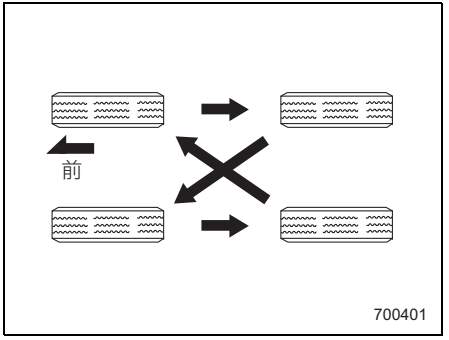
回転方向が指定されているタイヤには回転マークが表示されています。タイヤを取り付けるときには回転方向マークを前進方向に合わせてください。左右を入れ替えないでください。



＜回転方向マークがあるタイヤ＞



＜回転方向マークがないタイヤ＞



知 識

- タイヤの位置交換をする際は、タイヤの偏摩耗や損傷を確認し、必要に応じてタイヤを交換してください。
- タイヤの位置交換後、タイヤ空気圧を調整しホイールナットの締め付けを確認してください。
- 約1,000 km走行後にホイールナットの締め付け具合を点検してください。いずれかのナットがゆるんでいるようであれば締め付け直してください。
- 前輪と後輪ではタイヤ空気圧の設定が異なります。タイヤの位置交換後は、必ず空気圧を調整してください。

ホイールバランス

新車時、各ホイールのバランスは調整してありますが、しばらく使用するとタイヤの摩耗とともにホイールバランスが狂ってきます。
ホイールバランスが適正でないと、特定の速度域でハンドルが小刻みに振動したり、直進性が悪くなったりするばかりか、ステアリング系統やサスペンションの故障やタイヤの異常摩耗などの原因になります。ホイールバランスの狂いによる振動を感じたら、スバル販売店でホイールバランスを点検・調整してください。
タイヤの修理をした際、またはタイヤを交換した際もホイールバランスの調整をしてください。

ホイールアライメント

ホイールアライメントとは車の安定性を保つために設定されている、路面や車体に対するタイヤの角度です。タイヤを縁石に強くぶつけたりするとホイールアライメントが狂い、車の安定性が損なわれたりタイヤが異常に摩耗したりすることがあります。
タイヤを縁石などに強くぶつけたりした場合は、スバル販売店でホイールアライメントのチェックを行ってください。

タイヤ・ホイールの交換

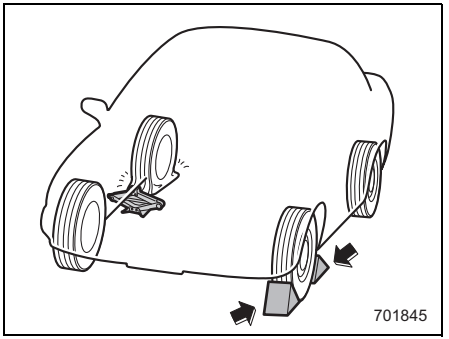
走行性能と乗り心地と寿命のバランスの取れた、お車の性格に最も合ったタイヤが標準装備として取り付けられています。タイヤを交換する際は、タイヤ空気圧ラベルに指定されているタイヤを使用してください。
☞P.800参照

■交換の前に

交通の妨げにならず、安全に作業ができる場所で行ってください。

1. エンジンを停止します。
2. 電動パーキングブレーキを確実にかけ、セレクトレバーを“P”にします。
3. 非常点滅表示灯（ハザードランプ）を点滅させます。
4. 人や荷物はすべて降ろし、三角停止表示板または停止表示灯を設置します。
5. お車が動き出さないように、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止め（タイヤストッパー）をします。

（図は運転席側後輪タイヤを交換する場合を示しています。）



⚠ 警 告

タイヤを交換するときは、次のことをお守りください。

守らないと車両火災の原因となり、また操縦性・ブレーキ性能を危険なものにし車両の損傷や思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 4輪とも必ず指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着する。
- 著しく摩耗したタイヤは使用しない。
- 摩耗差のあるタイヤを混ぜて使用しない。
- タイヤの空気圧を指定空気圧に保つ。

☞P.799参照

- 応急用スペアタイヤは、指定サイズを後輪に装着する。

なお、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着するときも同様です。

- ラジアルタイヤを装着する。

⚠ 注 意

地面が平坦で硬く、お車が安定する安全な場所を選んで止めてください。

知 識

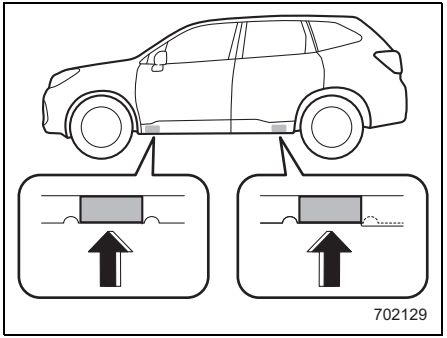
輪止め（タイヤストッパー）、三角停止表示板または停止表示灯は車載されていませんので必要に応じて準備してください。

■ジャッキアップ

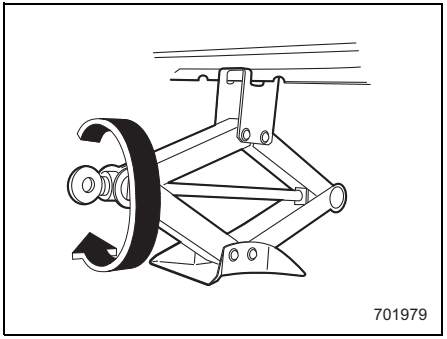
1. ジャッキハンドル、ジャッキ、ホイールナットレンチを取り出します。

☞P.754参照

2. 交換するタイヤに近いジャッキアップポイントの下にジャッキを置きます。

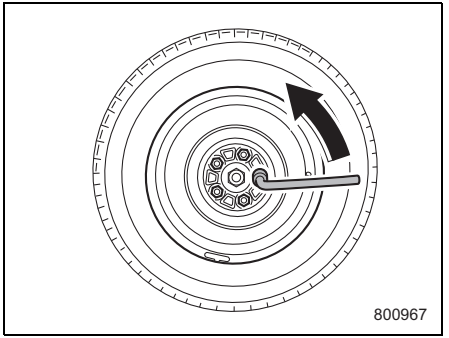


3. ジャッキ頭部の溝が車体のジャッキアップポイントにはまるまで、ジャッキハンドル取り付け部を手で回します。

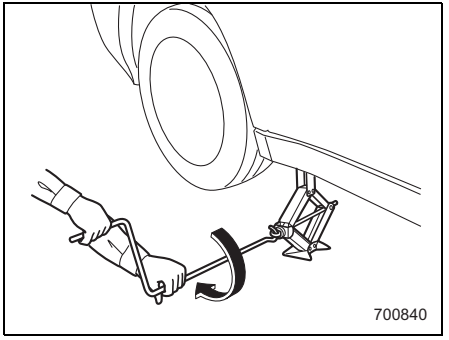


次ページへ ⇒

4. ホイールナットレンチを使い、すべてのホイールナットを約半回転ゆるめます。



5. ジャッキにジャッキハンドルを取り付けます。ジャッキハンドルを回し、タイヤが地面から少し離れるまで車体を上げます。



⚠ 警 告

ジャッキアップするときは次のことを必ずお守りください。守らないと重大な傷害を受けるおそれがあります。

- 電動パーキングブレーキを確実にかけ、セレクトレバーを“P”にしてから作業する。
- エンジンを始動しない。
  - 車が発進したり、ジャッキが外れるおそれがあります。
- 車両の下にもぐり込まない。
- ジャッキと地面や車両との間にものを挟まない。

⚠ 注 意

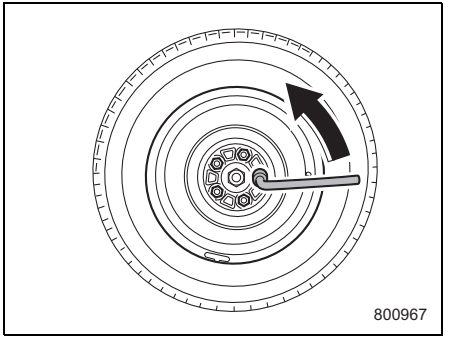
ジャッキアップするときは次のことを必ずお守りください。

- タイヤ交換あるいはタイヤチェーンの脱着以外に使わない。
- 必ず車載のジャッキおよびジャッキハンドルを使う。
  - 車載されたもの以外を使用した場合、ジャッキが外れたり、損傷したり、車体を変形させるおそれがあります。また、車載されたジャッキは他車には使わないでください。
- 平坦で硬いところに駐車して作業する。
- 輪止め（タイヤストッパー）をして車を固定する。
- 車内に入らない。
- 車体に振動を与えない。
  - ジャッキが外れるおそれがあります。
- ジャッキが確実に車体のジャッキアップポイントにかかっていることを確認する。
  - ジャッキアップポイント以外にジャッキがかかっているとジャッキが倒れてけがをしたり、車体を傷付けるおそれがあります。

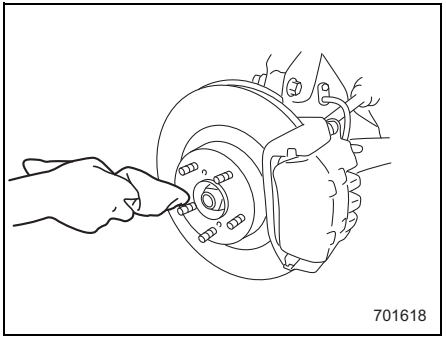
ガレージジャッキなどを使用してジャッキアップする場合、スバル販売店にご相談ください。

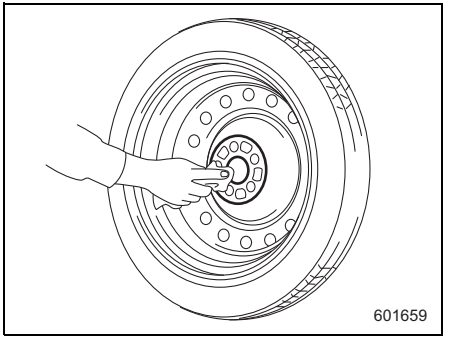
■タイヤ交換

1. ホイールナットを外します。



2. タイヤを交換します。
   このとき、ホイール取り付け部とホイールの接触面およびネジ部の汚れを拭き取ってください。また、ネジ部に傷などの異常がないか確認してください。





3. ホイールナットを手で回して取り付けます。その後ホイールがガタつかない程度までホイールナットをホイールナットレンチで仮締めします。
4. ジャッキハンドルを回し、車両を下げます。

⚠ 注 意

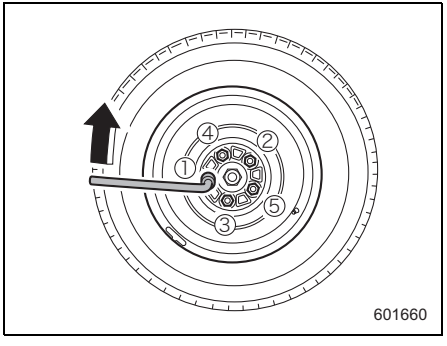
- ネジ部に異常がある場合は、直ちにスバル販売店にご相談ください。
- タイヤを交換するときは、ブレーキ周辺にぶつけない。
  - 万一ぶつけてしまった場合は、スバル販売店にご相談ください。

知 識

タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にして置いてください。
下にして置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。

5. ホイールナットレンチを使用して、図の順番に2、3回にわけてホイールナットを締め付けます。

レンチの柄の先端にかける力	締付トルク（参考）
400～500 N（40～50 kg）	120 N·m（12 kgf·m）



⚠ 注 意

ホイールナットを締め付けるときは次のことをお守りください。

- ホイールナットを締め付けるとき、ホイールナットレンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上に締め過ぎない。
- ナット、ホイールの座面、ネジ部にオイルやグリースなどがつかないようにする。

■タイヤ交換後

- ジャッキ、ジャッキハンドル、ホイールナットレンチを元の場所へ戻します。外したサブトランクは荷室に入れてください。

☞P.754参照

- 最初はゆっくり走り、異音や振動がないか確かめます。
- パンク修理後はすみやかに応急用スペアタイヤから標準タイヤ（修理したタイヤ）に交換してください。

⚠ 注 意

- タイヤを取り付けた後、1,000 km 程度走行したら、もう一度規定の力で締め付ける。

☞P.711参照

- 車体に振動がでたらスバル販売店で点検整備を受ける。
  - パンク修理、タイヤの摩耗、リムの変形などが原因でホイールバランスが狂うことがあります。

■ホイールの交換

- ホイールを交換するときは、必ず指定サイズで同一種類のホイールを取り付けてください。
- ホイールのサイズは「タイヤ・ホイール」をご覧ください。

☞P.799参照

●取り付け向き指定タイヤ

取り付け向きが指定されているタイヤには、INSIDE（内側）マーク、OUTSIDE（外側）マークが表示されています。
タイヤをホイールに取り付けるときには、OUTSIDEマークが車両外側から見えるように取り付けてください。

⚠ 警 告

- 仕様違いのホイールを装着しない。
  - ホイールがブレーキに接触したり、タイヤと車体とのすき間が変わることでハンドルを切ったときにタイヤが車体に接触し、車両のコントロールができなくなり、事故につながるおそれがあります。

知 識

次のことを行う際は、スバル販売店にご相談ください。

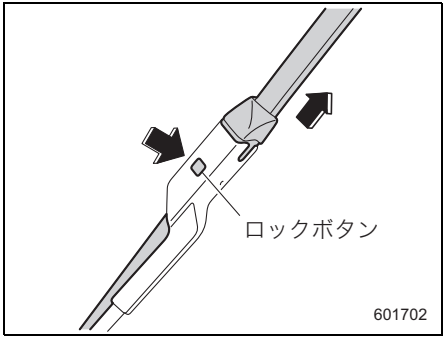
- 他の車のホイールで、ホイールのリムサイズやインセットが同じであるものを使用するとき
- アルミホイールを交換するとき
- ホイールバランスを調整したいとき

ワイパーブレードの交換

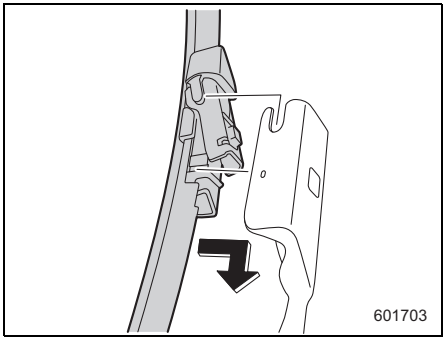
■ワイパー本体の交換

●フロント

1. 運転席側のワイパーアームを起こしてから、助手席側のワイパーアームを起こします。
2. ワイパーアームが倒れないように支えながら、ロックボタンを押し込み、ワイパーブレードを矢印の方向に引き抜きます。



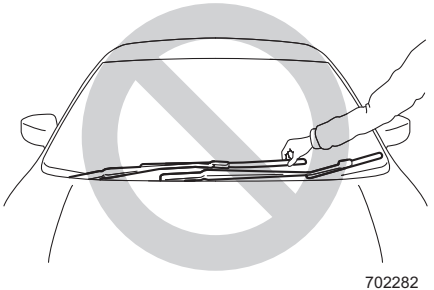
3. ワイパーアームが倒れないように支えながら、新品のワイパーブレードとアームの接続部を合わせ矢印の方向に押し込みます。
   ロックボタンが外す前と同じ状態になり、確実に固定されていることを確認します。
4. 手を添えながら助手席側のワイパーアームを元の位置に戻し、運転席側のワイパーアームも手を添えながら元の位置に戻します。



⚠ 注 意

ワイパーアームを起こす際は、次のことをお守りください。
守らないと思わぬ損傷につながるおそれがあります。

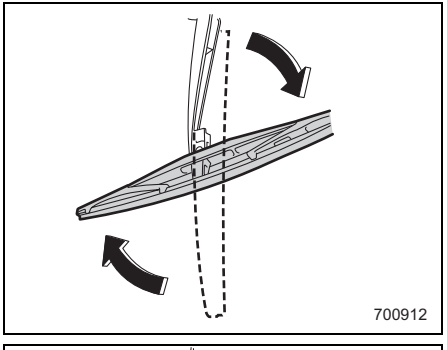
- ワイパーアームを起こすときは、ワイパーブレードを持たない。
  - ワイパーブレードを持つと、変形するおそれがあります。



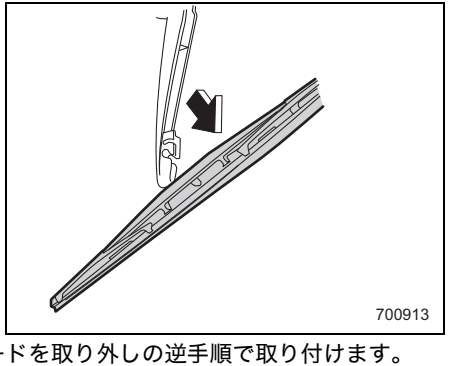
- ワイパーブレードを外したときは、ワイパーアームを倒さない。
- 起こしたワイパーを戻すときは、手を添えながらゆっくりとフロントガラス面へ戻す。

●リヤ

1. ワイパーアームを起こし、ワイパーブレードを図のように回します。



2. ワイパーアームを手で支えながら、ワイパーブレードを手前に引き、取り外します。



3. ワイパーアームに、新品のワイパーブレードを取り外しの逆手順で取り付けます。
4. 手を添えながらワイパーアームを元の位置に戻します。

知 識

- ワイパーブレード本体およびブレードラバーはスバル純正品を使用してください。純正品以外を使用すると、適切に装着できない場合があります。
- ブレードラバーは交換部品です。傷んだままのブレードラバーを使い続けると、ガラスに傷をつけるおそれがあります。払拭性能が落ちてきたり、スジつきが目立つようになったら早めに交換してください。

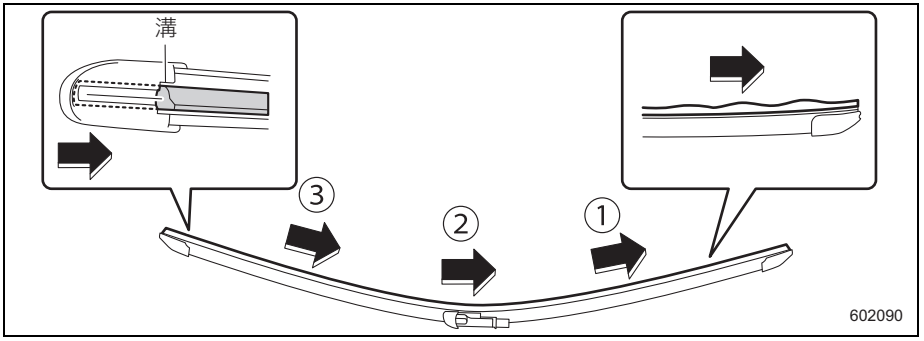
■ブレードラバーの交換方法

●フロント

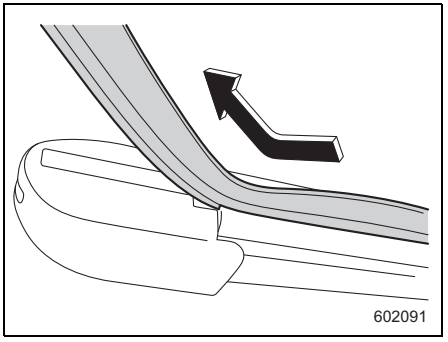
1. ワイパーブレードを取り外します。

☞P.713参照

2. ブレードラバーの端から順に引っ張り、溝が見える位置まで縮めます。



3. ブレードラバーを溝から出し、引き抜きます。

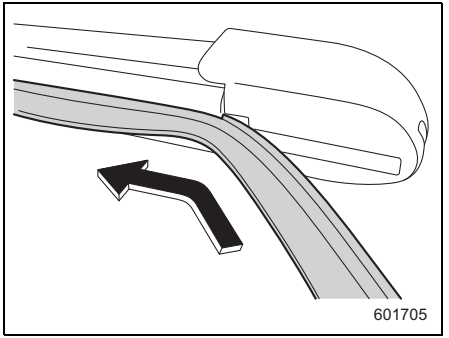


知 識

ブレードラバーを交換するときに、部品の破損などが心配な方はスバル販売店にご相談ください。

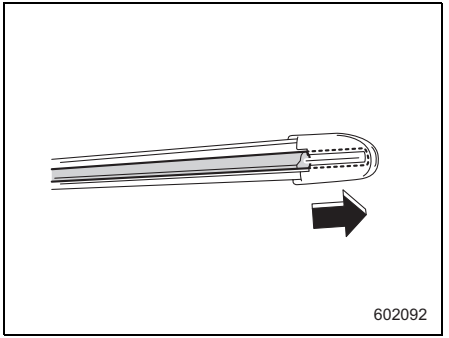
次ページへ ⇒

4. 新品のブレードラバーを挿入します。このとき、ブレードラバーの溝を間違えないように挿入してください。



5. ブレードラバーを押し込み、先端を元の位置に戻します。
6. ブレードラバーが確実に固定されていることを確認します。
   適切に装着されていないとワイパー作動時、ガラス面に傷をつけるおそれがあります。
7. ワイパーブレードを取り付けます。

☞**P.713**参照

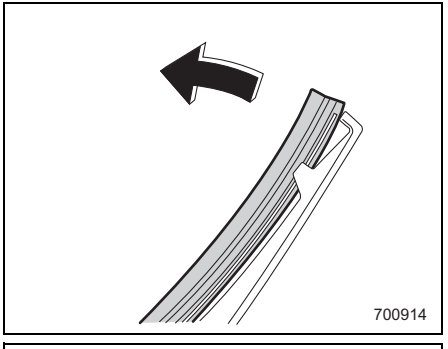


●リヤ

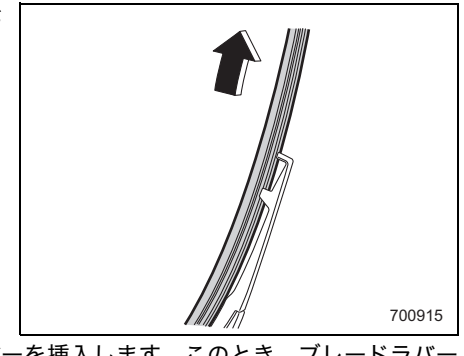
1. ワイパーブレードを取り外します。

☞P.714参照

2. ブレードラバー端部をワイパーブレードから外します。



3. ワイパーブレードからブレードラバーを引き抜きます。



4. ワイパーブレードに新品のブレードラバーを挿入します。このとき、ブレードラバーの溝部にワイパーブレードのツメ部が挿入されていることを確認します。適切に装着されていないとワイパー作動時、ガラス面に傷をつけるおそれがあります。
5. ワイパーブレードを取り付けます。

エアコンフィルターの交換

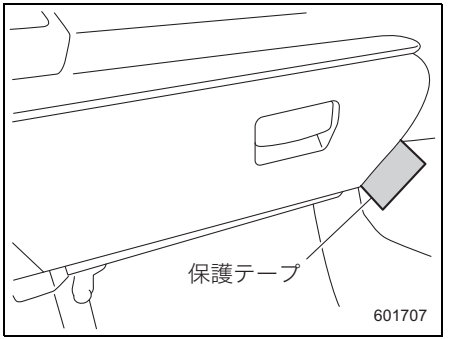
エアコンにはエアコンフィルターが装着されています。
快適にお使いいただくため定期的に交換してください。

■交換時期

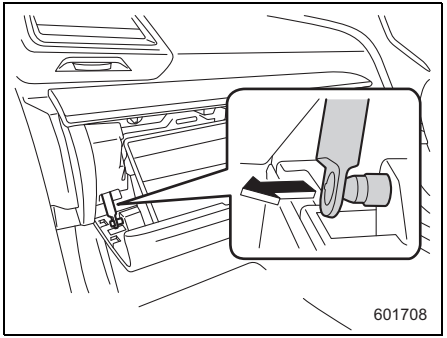
12,000 km走行ごとまたは1年ごと（どちらか早い方で実施）

■交換方法

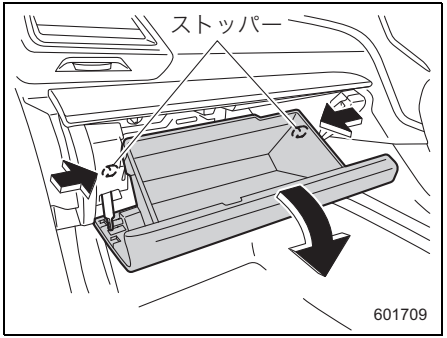
1. グローブボックス右側とセンターコンソール面がこすれて傷がつかないように、センターコンソール面に保護テープなどを貼ります。



2. グローブボックスから、グローブボックスを固定しているダンパーを引き抜いて取り外します。

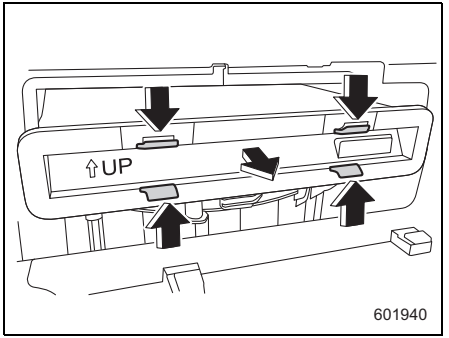


3. グローブボックスの両側面を内側に押し込んでストッパーを外し、グローブボックスを引き下げ、水平近くまで開いてからグローブボックスを取り外します。

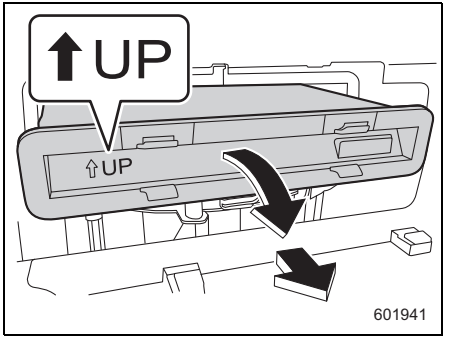


次ページへ ⇒

4. ツメを押しながらエアコンフィルターを1 cmほどまっすぐ手前に引き出します。



5. エアコンフィルターの手前を下に傾けてゆっくり引き出します。
6. 新しいエアコンフィルターは、UPマークが上に向くように取り付けます。



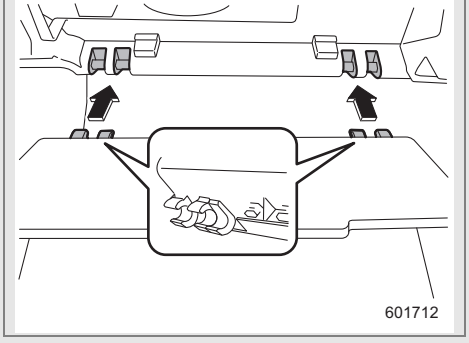
⚠ 注 意

- グローブボックス脱着のとき、ハーネス(電線)などの部品に触れないようにしてください。
- エアコンフィルターを取り外すときは、フィルター上部に付着した異物をフィルター挿入部内に落とさないように注意してください。異物がブロアファンに落下した場合、騒音や不具合の原因となります。

7. 逆の手順でグローブボックスを取り付けます。

知 識

グローブボックスを取り付けるときは、グローブボックス下側にあるツメ部とピン部を水平に合わせます。



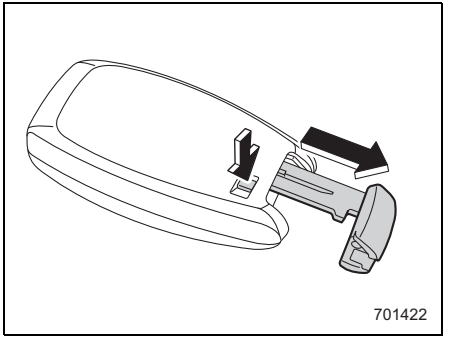
アクセスキーの電池交換

キーレスアクセス & プッシュスタートシステムの作動や電波式リモコンドアロックの作動距離が不安定になった場合は電池の消耗が考えられますので、早めに電池を交換してください。

使用電池	ボタン電池CR2032

電池交換をする場合は、必ず身体や衣類に帯電している静電気を放電してください。静電気によりアクセスキーが損傷するおそれがあります。静電気を放電する場合は、静電気が除去できる物をあらかじめ用意しておくか、金属部分などに手を触れてください。また端子部分などを曲げたり、水や油などでぬらしたり、ゴミなどの異物を入れると故障の原因となりますので、絶対におやめください。

1. ボタンを押し、メカニカルキーを取り出します。



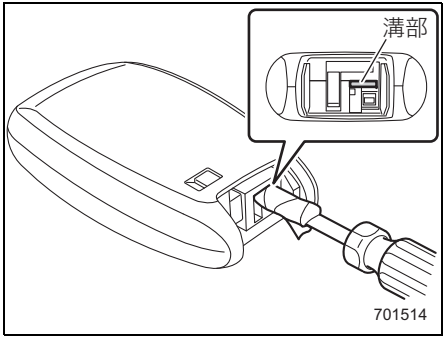
⚠ 注 意

電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意してください。

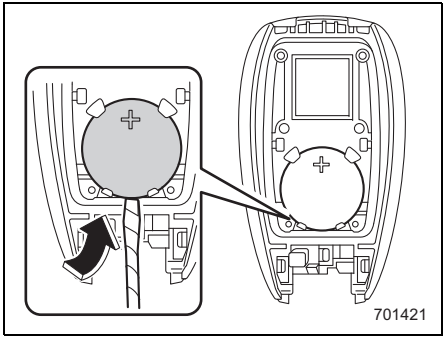
知 識

電池交換はスバル販売店に依頼することをお奨めします。

2. 溝部に絶縁テープなどを巻いたマイナスドライバーの先端を差し込んでカバーを外します。

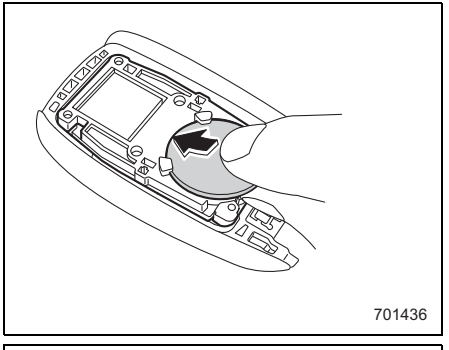


3. 電池と基板の間に絶縁テープなどを巻いたマイナスドライバーを差し込んで、電池の上側を押さえながら電池を抜き取ります。

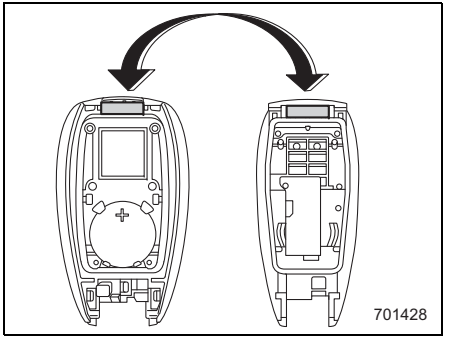


次ページへ ⇒

4. 新しい電池のプラス極を上にして図のように挿入し、確実に取り付けます。



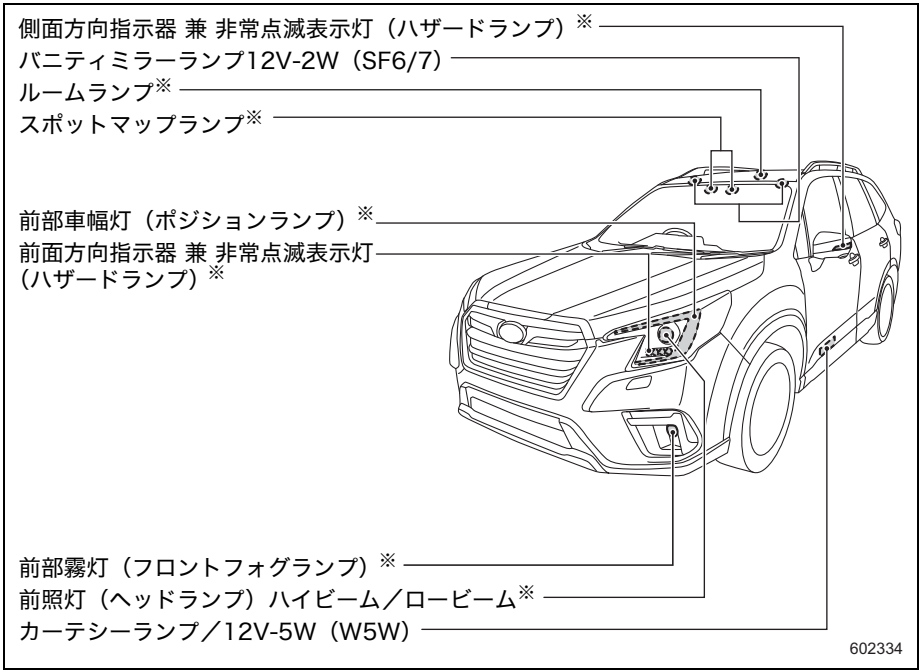
5. 凹凸を合わせてカバーを確実に取り付けます。



電球（バルブ）の交換

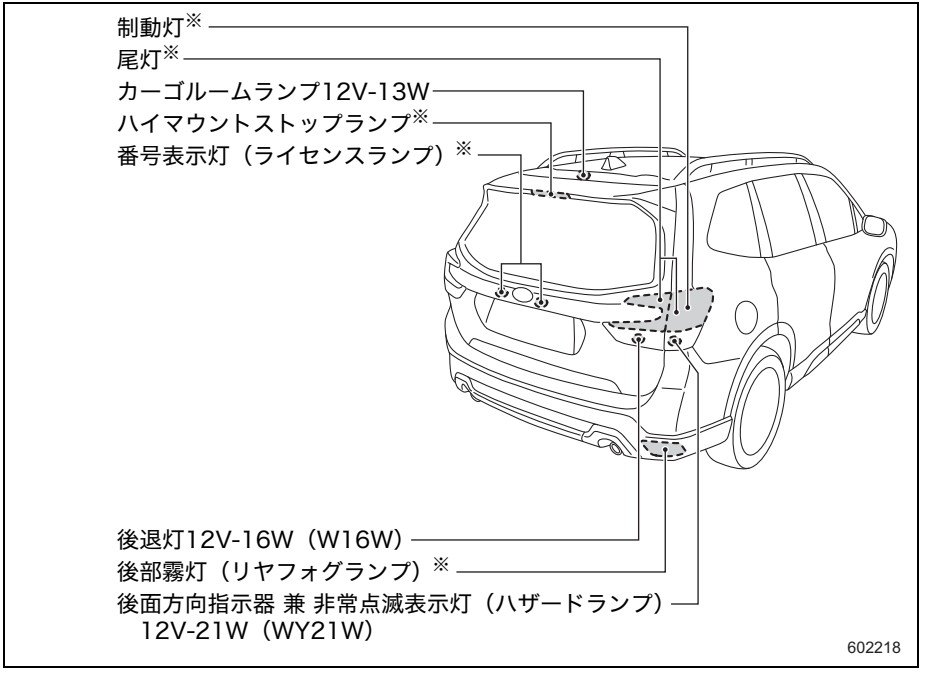
交換方法が記載されていない電球の交換につきましてはスバル販売店にご相談ください。

名称／容量およびワット数（型式）



※ LEDタイプとなっています。交換はスバル販売店にご相談ください。

名称／容量およびワット数（型式）



※ LEDタイプとなっています。交換はスバル販売店にご相談ください。

⚠ 注 意

電球を交換するときは次のことをお守りください。守らないと思わぬ事故やけがや車両火災の原因につながるおそれがあります。

- ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換する。
  - ー やけどをするおそれがあります。
- 定められたワット数のものと交換する。
- 電球の表面を素手でふれない。
  - ー やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
  - ー 油などが付着すると寿命が短くなります。素手で触れた場合は、中性洗剤の薄い水溶液を柔らかい布に含ませてよく拭き取ってください。
- 電球を傷付けたり、落下させたりしない。
  - ー 球切れや破裂することがあります。
- 電球を取り外すときは工具を使用しない。
  - ー ショートするおそれがあります。

知 識

- 電球が点灯しない場合、ヒューズが切れていることがあります。ヒューズの点検も行ってください。

☞P.777参照

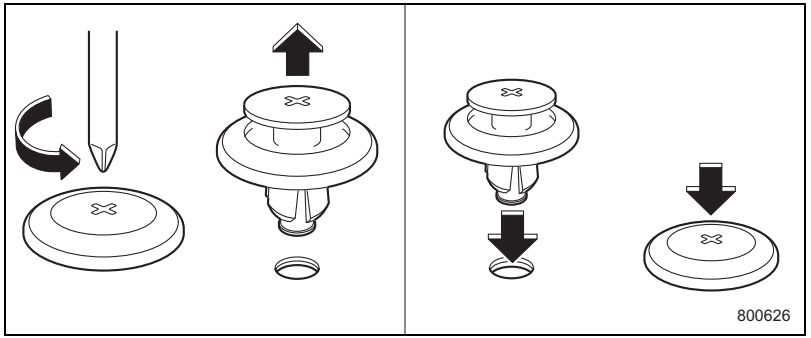
- ヘッドランプ、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差による空気中の水分が付着するもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。
  ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときや、ランプ内に水がたまっているときは、スバル販売店にご相談ください。
- 電球を交換するときに、部品の破損などが心配な方はスバル販売店にご相談ください。
- 室内灯を外す場合などでマイナスドライバーを使用するときは、傷がつかないようマイナスドライバーの先端をビニールテープや布で覆ってから作業してください。
- 取り外した部品をなくさないようにして、元どおりに取り付けてください。電球のソケットなどが確実に取り付けられていないと、水が入る原因になります。
- 電球を交換したときは、点灯、消灯、点滅を確かめてください。
- ヘッドランプを交換したときは法律で定められた光軸調整が必要となります。スバル販売店にご相談ください。
- ランプ本体をネジで締め付けるとき、締め過ぎてランプ本体を割らないように気をつけてください。

■クリップの脱着

交換電球によりクリップを外す作業があります。次の手順で取り外し、電球交換作業後は、元の状態に戻してください。

1. プラスドライバーでクリップ中央部を反時計回りに回します。
2. クリップ中央部が飛び出てきたらクリップ全体を引っ張り、外します。

クリップを取り付けるときは、外した状態のまま差し込み、クリップ中央部を押し込みます。

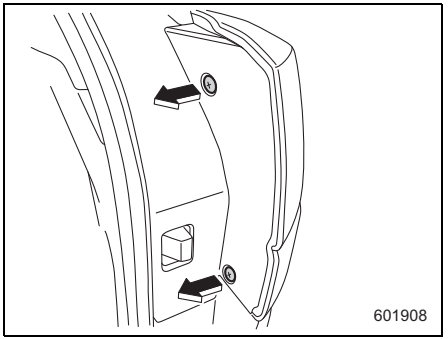


知 識

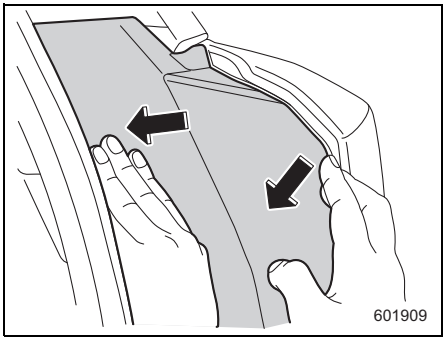
全体が回ってしまうときは、縁の部分を押さえて回してください。

■後面方向指示器 兼 非常点滅表示灯（ハザードランプ）

1. クリップを2本外します。



2. カバーの車両内側を押しながら、カバーとランプ本体のすき間に指を入れ、手前に引いてカバーのツメを外します。

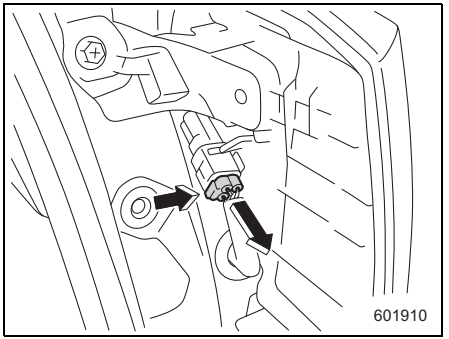


知 識

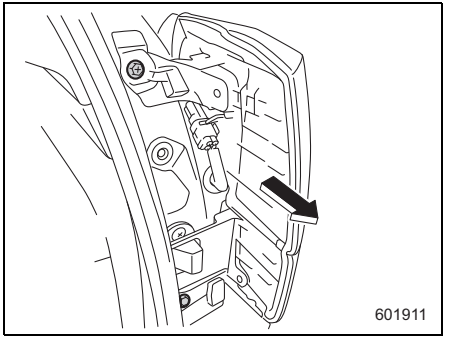
カバーを取り付けるときは、カバーの車両内側を先に取り付け、取り外すときと同様にカバーの車両内側を押しながらツメをはめこみます。

次ページへ ⇒

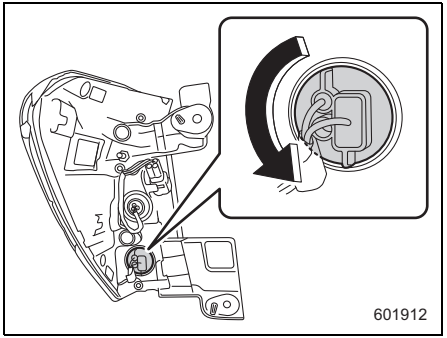
3. ツメを押しながらコネクターを外します。



4. ネジを 2 本外してランプ本体を後ろに引き、取り外します。

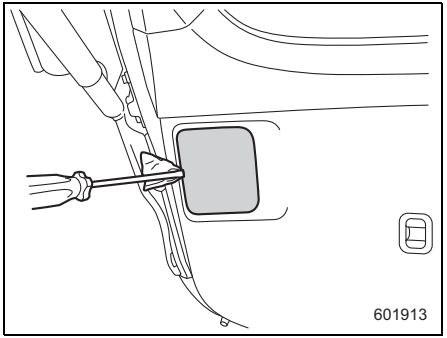


5. ソケットを反時計回りに回し、ソケットを取り外します。
6. ソケットから電球を引き抜きます。

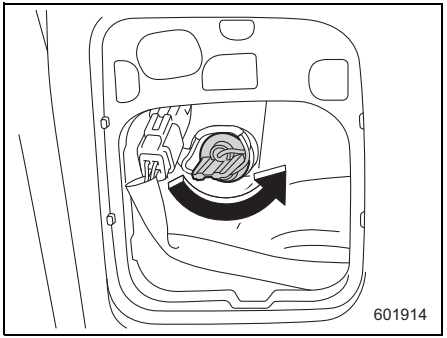


■後退灯

1. リヤゲートを開けます。
2. リヤゲート裏のトリムにマイナスドライバーを差し込み、カバーを取り外します。



3. ソケットを反時計回りに回し、引き抜きます。
4. ソケットから電球を引き抜きます。

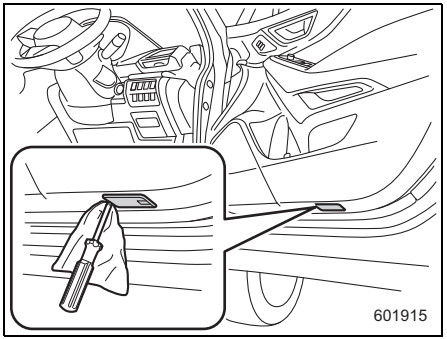


⚠ 注 意

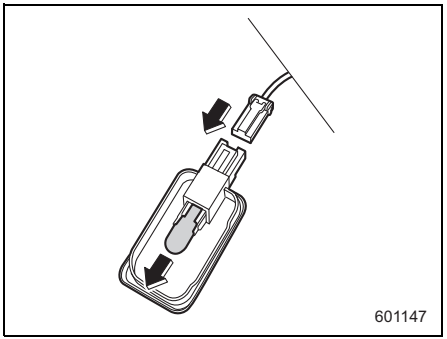
取り付ける際は、必ず配線が外す前と同じになる様に取り付けてください。

■カーテシーランプ

1. レンズの縁にマイナスドライバーを差し込み、レンズを取り外します。



2. コネクターを外してから電球を引き抜きます。

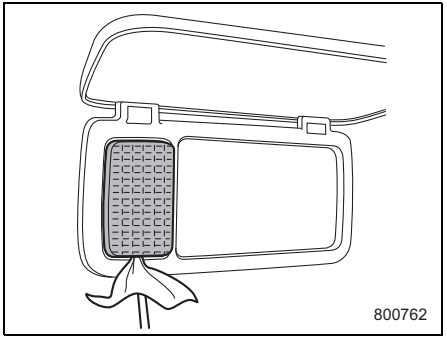


⚠ 注 意

レンズを取り外すときは傷付けないよう、なるべく細くて薄いマイナスドライバーを使い、先端に布を巻いて使用する。

■バニティミラーランプ

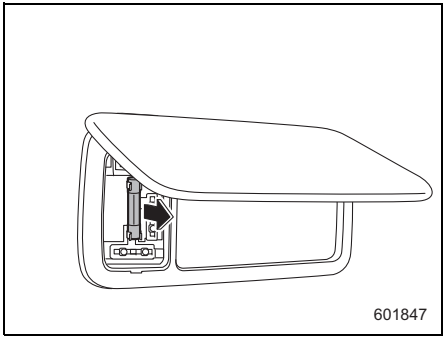
1. レンズの縁にマイナスドライバーを差し込み、レンズを取り外します。



⚠ 注 意

レンズを取り外すときは傷付けないよう、なるべく細くて薄いマイナスドライバーを使い、先端に布を巻いて使用する。

2. ソケットから電球を引き抜きます。

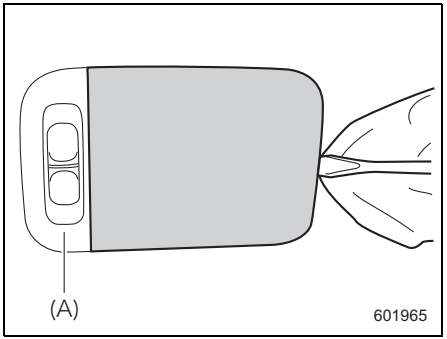


知 識

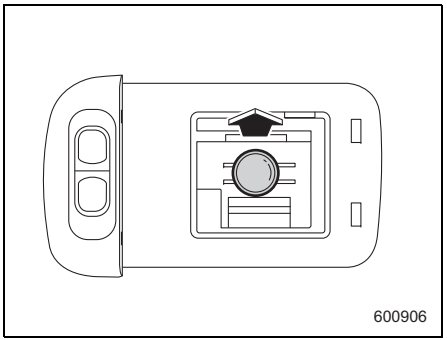
電球を交換するときは、照明が点灯しないように、フタを全開位置よりも少し下げてください。

■カーゴルームランプ

1. スイッチ部（A）を押さえながら、本体の縁にマイナスドライバーを差し込み、レンズを取り外します。



2. 電球を引き抜きます。



⚠ 注 意

- レンズを取り外すときは傷つけないよう、なるべく細くて薄いマイナスドライバーを使い、先端に布を巻いて使用する。
- 電球を交換するときは、スイッチをOFFにするか、リヤゲートを閉めて作業する。
  - スイッチがDOOR位置にある場合、リヤゲートを開けるとランプが点灯します。作業中にランプが点灯すると、やけどをするおそれがあります。

■その他のランプ

スバル販売店へ交換を依頼してください。

車両の整備作業やカー用品を装着するとき

⚠ 警 告

車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。守らないとSRSエアバッグ、歩行者保護エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動を起こし命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
これらの作業が必要なときは必ずスバル販売店にご相談ください。

- サスペンションを改造したり、指定サイズ以外のタイヤへの交換はしないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動により思わぬ傷害につながるおそれがあります。
- 車両前部にスバル純正品以外の部品などは装着しないでください。車両前部を改造するとSRSエアバッグ、歩行者保護エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動を起こし重大な傷害につながるおそれがあります。
- ハンドルまわりやインストルメントパネル、センターコンソール付近の修理、オーディオシステム、ナビゲーションシステムの交換をする場合は、必ずスバル販売店にご相談ください。SRS エアバッグシステムに悪影響を与え、誤作動により重大な傷害につながるおそれがあります。
- 車体前面（車体側面）の板金塗装や修理をする場合は、必ずスバル販売店にご相談ください。SRS エアバッグシステム、歩行者保護エアバッグに悪影響を与え、誤作動により重大な傷害につながるおそれがあります。
- フロントシートの表皮の張り替えやシートの取り外し・取り付け・分解・修理などをしないでください。
  シートに内蔵されているSRSサイドエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動により思わぬ傷害につながるおそれがあります。
- フロントピラー、センターピラー、リヤピラー、ルーフサイド部の取り外し、取り付けなどSRSカーテンエアバッグ格納部周辺を分解、修理しないでください。
- センターピラー、リヤピラー、リヤシートなどのセンサー格納部を分解、修理しないでください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。分解、修理はスバル販売店で行ってください。
- SRS エアバッグが格納されているパッド部およびフロントピラー、リヤピラー、ルーフサイド部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せずスバル販売店で交換してください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。
- 歩行者保護エアバッグが格納されているパッド部、およびフロントバンパー部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用しないでください。正常に作動しないおそれがあります。スバル販売店で交換してください。
- ボンネットを強く閉めたり、ボンネット上部に荷重を加えたり、強く叩くなどしないでください。歩行者保護エアバッグが損傷し、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- バンパー・ボンネット・サスペンション・エアロパーツ・ホイール、カウルなどの加工や純正品以外に交換しないでください。また、ナンバープレートベースなどのバンパーアクセサリー部品も純正品以外装着しないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム、歩行者保護エアバッグの部品・配線を取り外したり修理しないでください。また、電気テスターを使ってシステムの回路診断をしないでください。誤って作動したり、正常に作動しなくなるおそれがあります。必ずスバル販売店で点検を受けてください。
- 作業中、カウル付近やフロントバンパー付近で手をついたり、強く押したりしないでください。衝突したときなどに誤作動したり、正常に作動しないおそれがあります。

- エンジンが始動しているときにバンパー周辺部品に触れない、よりかからないでください。予期せぬ作動でけがをしたり、部品が損傷してシステムが正常に作動しないおそれがあります。
- お車やSRSエアバッグ、歩行者保護エアバッグを廃棄するときは必ずスバル販売店にご相談ください。SRS エアバッグ、歩行者保護エアバッグが思いがけなく作動して重大な傷害につながるおそれがあります。
- 純正品の取り付けはスバル販売店にご相談ください。

寒冷地での使いかた

走行するときは

■控えめな運転を心がけてください

冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着していても、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは避けてください。
エンジンブレーキを使って速度をコントロールするように心がけてください。なお、滑りやすい路面ではシフトダウンによる急激なエンジンブレーキを避けてください。タイヤがスリップするおそれがあります。

☞P.25、26参照

■ブレーキの効きを点検してください

ブレーキに雪や氷が付着して効きが悪くなることがあります。
走行を開始するとき、お車や道路の状況に注意してブレーキの効きを確認してください。
効きが悪い場合には、回復するまでブレーキペダルを軽く踏み続けてください。
ブレーキの効きが回復しないときはブレーキの異常が考えられますので、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■ハンドルの切れを点検してください

走行中、足まわりに雪が付着するとハンドルの切れが悪くなることがあります。ときどきお車を止め、足まわりを確認し、雪を取り除いてください。

☞P.745参照

知　識

雪道や凍結路など滑りやすい道では、2 速ギヤでの発進をお奨めします。

- セレクトレバーを“M”にし、パドルシフトレバーで2速にします。

☞P.397参照

■ランプ類を点検してください

ヘッドランプが汚れていたり雪が積もっていたりすると、正常に照らせません。
また、方向指示器や制動灯などが汚れていると、自車の状況を周囲に知らせることができず、思わぬ事故につながるおそれがあります。走行前にランプ類がきれいか確認してください。
雪や霜、氷が付着している場合は取り除いてください。

■積雪などにより、ワイパーが途中で止まったとき

お車を安全な場所に止めてワイパースイッチをOFF、プッシュエンジンスイッチをOFFにし、ワイパーが作動できるように積雪などの障害物を取り除いてください。

駐車するときは

■ブレーキの凍結に気をつけてください

電動パーキングブレーキをかけておくと、電動パーキングブレーキが凍結することがあります。
電動パーキングブレーキをかけずに次の要領で駐車してください。
- セレクトレバーを“P”にします。
- 輪止め（タイヤストッパー）をします。

■ボンネット側を風下に

風の当たる部分は、予想以上に低温となります。バッテリー上がりを防ぐためにもボンネット側を風下に向けて駐車してください。

■屋外に駐車するときは、ワイパーアームを立てておいてください

ワイパーブレードがガラスに凍りつくことを防ぎます。

知 識

輪止め（タイヤストッパー）は車載されていませんので必要に応じて準備してください。

洗車するときは

■凍結防止剤を散布した道路を走ったとき

早めに洗車してください。洗車するときは下まわりと足まわりも十分に洗ってください。放置すると錆を促進させる要因となります。

■洗車のしかた

☞P.690参照

■洗車後の注意

洗車後、ボディまわりの水分をよく拭き取ってください。特にドアまわりは凍結しやすいところです。

また、ブレーキも凍結することがありますので、後続車や道路の状況に注意して効きを確認してください。

☞P.690参照

冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）への交換

雪道や凍結路では、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着して走行してください。雪道や凍結路の走行が事前に予測される場合には、あらかじめ冬用タイヤを装着しておいてください。装着についての条例は地域によって異なることがあります。走行する地域の条例に従ってください。

⚠ 警 告

- 装着のときは、次の事項をお守りください。
  - 4 輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
  - タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
  - 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
  - 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
  - タイヤチェーンを装着するときは、「タイヤチェーンの装着」を参照してください。
  - タイヤチェーンを取り付けるときに着用する手袋なども準備しておくことをお奨めします。

☞P.742参照

⚠ 注 意

タイヤを交換するときは、ブレーキ周辺にぶつけないように注意してください。万一ぶつけてしまった場合は、スバル販売店にご相談ください。

タイヤチェーンの装着

- タイヤチェーンは、予測できない降雪や雪道に遭遇した場合などの非常用装備品です。タイヤチェーンは、前輪に装着してください。後輪にはタイヤチェーンを装着しないでください。
- タイヤチェーンは付属の取扱説明書に従って、正しく取り付けてください。
- タイヤチェーンを装着しても路面の状況によっては極低速でスリップしたり、登坂能力が低下する場合があります。
- タイヤチェーンを取り付けると、ホイールが傷つく場合があります。

■タイヤサイズに合ったものを使用してください

タイヤチェーンは「スバル純正チェーン」を使用してください。
詳しくは、スバル販売店にご相談ください。

⚠ 注 意

- タイヤチェーンを取り付けると前後輪の接地力のバランスが変わるため、後輪が滑りやすくなります。急発進、急ブレーキ、急ハンドルなどを避けて、路面の状況に合った安全な速度（30 km/h以下）で慎重に運転してください。
- 乾いた路面を走行するとチェーンの寿命を短くします。できるだけ避けてください。
- 応急用スペアタイヤには、タイヤチェーンは装着できません。
  - チェーン装着時に前輪がパンクしたときは、後輪タイヤをパンクした前輪に取り付け、後輪に応急用スペアタイヤを取り付けます。そして前輪にタイヤチェーンを装着してください。
- タイヤチェーンを装着したらタイヤの内側の部分がブレーキ配管、サスペンション、車体などに触れていないか必ず確認してください。
- タイヤチェーン装着後はゆっくりと走行し（100 m程度）、異音やタイヤチェーンのゆるみがないかなどを確かめてください。

冷却水の濃度

冷却水の凍結を防ぐため、スバルスーパークーラントを希釈せずそのまま使用してください。

ウォッシャー液の濃度調整

ウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液容器に記載してある凍結温度を参考に、外気温度に応じた希釈割合（濃度）にしてください。

⚠ 注 意

- 外気温度と希釈割合を合わせてください。希釈割合が適切でないとフロントガラスに噴射した液が凍結し、視界不良になるおそれがあります。また、タンク内で凍結することがあります。
- ウォッシャー液注入時、ゴミ、異物などが入らないように注意してください。ポンプが詰まるなどの作動不良を起こすおそれがあります。

知 識

ウォッシャー液補充後は、ウォッシャータンクからウォッシャーノズル間に残っている補充前の（濃度の低い）ウォッシャー液を除去するため噴射してください。濃度の低いウォッシャー液が残ったままだとノズルが凍結し、ウォッシャー液が出なくなる場合があります。

寒冷地用ワイパーブレードの装着

- 寒冷地用ワイパーブレードは、ブレードの金属部分への雪の付着を防ぎ、降雪期の視界確保ができます。
- 寒冷地用ワイパーブレードは、お車のサイズに合ったスバル純正部品を使用してください。

⚠ 注 意

高速走行時には、通常のワイパーブレードより拭き取りにくくなることがあります。その場合には、速度を落として走行してください。

知 識

寒冷地用ワイパーブレードを必要としない時期は、通常のワイパーブレードに交換してください。

雪や霜の除去

足まわりの点検

お車の下をのぞいて足まわり（ブレーキまわり、ブレーキホース、配線）に雪や氷のかたまりが付着していないか点検してください。
雪道を走行したり、吹雪の中に駐車したときは足まわりに雪や氷が凍結し、ハンドルの切れやブレーキの効きが悪くなることがあります。
雪や氷が付着している場合は足まわりの部品に注意して取り除いてください。

⚠ 注 意

- 雪や氷を取り除く場合は鋭利なものや硬いもので叩いたりしない。
  - 各タイヤの内側にはABSの車輪速センサーを取り付けてあります。これらに傷をつけないように特に気をつけてください。

ルーフの雪の除去

走行する前にルーフに積もった雪を取り除いてください。走行中にガラス面に落下すると、視界の妨げとなり危険です。

フロントガラス下側の雪の除去

雪がたまっているとワイパーブレードが定位置まで戻れず、作動し続けることがあります。作動し続けるとワイパーが損傷する場合がありますので、雪を除去してワイパーを使用してください。

ガラス面の雪や霜の除去

プラスチックの板などを使用し、雪や霜を取り除いてください。

⚠ 注 意

金属製の板を使用するとガラスに傷がつくおそれがあります。

ドア・リヤゲートを開けるときには

ドアやリヤゲートが凍結しているときに無理に開けると、ドアまわりのゴムがはがれたり、亀裂が発生することがあります。氷を溶かしてから開けてください。その後、すぐに水分を十分拭き取ってください。
パワーリヤゲート装備車は、凍結していたり、雪が積もった状態でリヤゲートを作動させると故障の原因となります。

知 識

ドアのキー穴にはぬるま湯をかけないでください。凍結することがあります。

乗るときには

靴についた雪や氷をよく落としてください。
ペダルを操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなってガラスが曇ることがあります。

暖機運転中

アクセルペダル、ブレーキペダルなどの操作が円滑にできるかを確認してください。

ワイパーなどの凍結

ワイパー、電動リモコンドアミラー、パワーウインドゥなどが凍って動かない場合はスイッチを押し続けないでください。装置を傷めたり、バッテリー上がりを起こすおそれがあります。

- ワイパーブレードがガラスに凍りついたときは、ぬるま湯をかけるか、次の操作を行いガラスを温めてください。無理にワイパーを作動させるとワイパーブレードのブレードラバーが切れることがあります。
  - フロントガラスは、エアコンの吹き出し口を（デフロスター）にするか、フロントワイパーデアイサーを使用してください。
  - リヤガラスは、リヤウインドゥデフォッガーを使用してください。

☞P.353、355、656参照

⚠ 注 意

- 降雪時、寒冷時には、フロントおよびリヤガラスが温まるまでウォッシャー液を使用しないでください。
  - ウォッシャー液がガラスに凍りつき視界不良を起こすおそれがあります。
- 降雪時、寒冷時には、ウォッシャー液を外気温度に合わせた濃度にしてください。濃度が薄いと液がタンク内で凍りつくことがあります。

☞P.743参照

日常点検

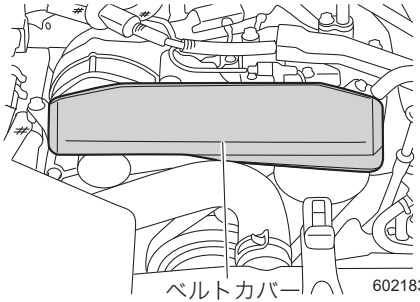
日常点検について

日常点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。
日常点検は、簡単に点検できる項目になっていますので、長距離走行前や洗車時、給油時などを目安に実施してください。ここでは、お車特有の点検内容を説明しています。
その他の点検方法および実施時の注意事項は、「メンテナンスノート」をお読みください。

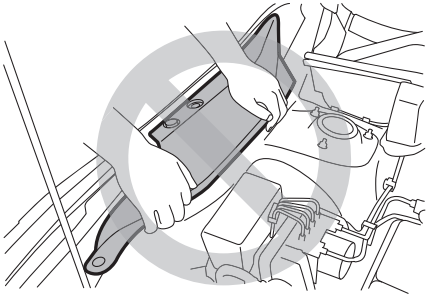
⚠ 注 意

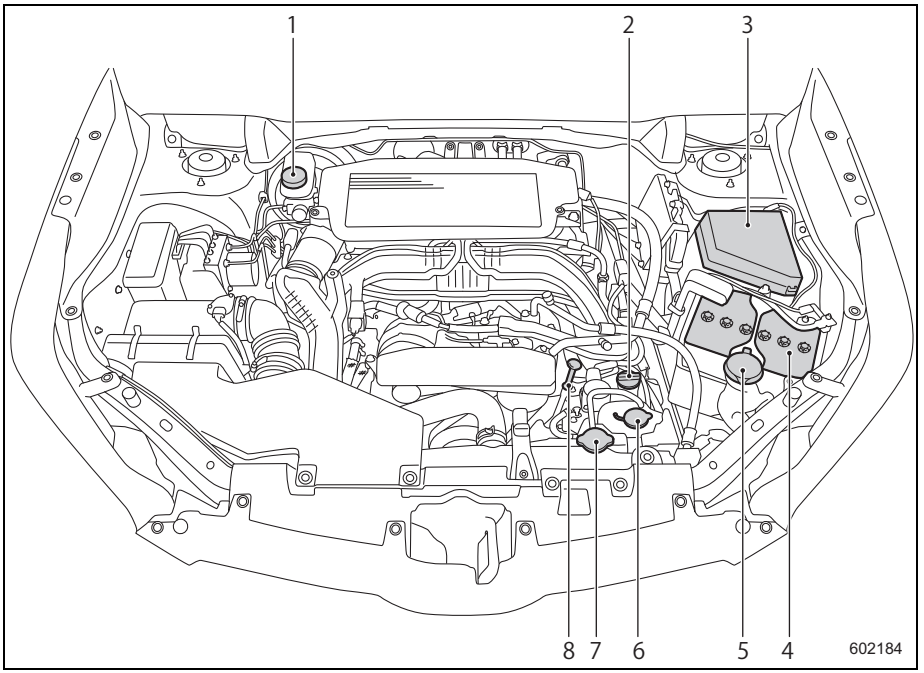
- 日常点検整備でエンジンルーム内の点検をするときは、プッシュエンジンスイッチがOFFでエンジンが冷えていることを確認してください。やむを得ずプッシュエンジンスイッチがONでエンジンルーム内の点検を行う際は、電動パーキングブレーキを確実にかけて、お車が動かないようにしてください。
- エンジン温度が高いときにプッシュエンジンスイッチを ONにすると、冷却ファンが回ることがあります。
- エンジン高温部、回転しているプーリーやベルト、自動的に回転する冷却ファンに十分注意してください。思わぬけがをすることがあります。また、ベルトカバーに触れないでください。手がすべるなどして、やけどやけがをするおそれがあります。

ベルトカバーおよびその周辺部



- フェンダーカバーに手を置くなど力を加えないでください。フェンダーカバーおよび車体側の取り付け部が変形するおそれがあります。





※ 車の仕様によりエンジン形状が一部異なります。

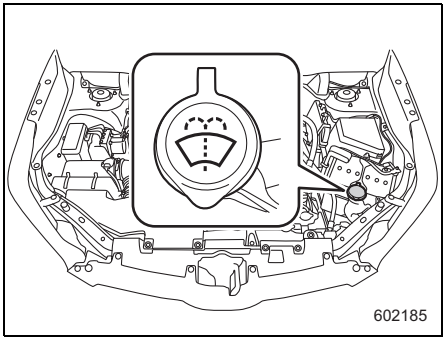
番号	名称	参照ページ	番号	名称	参照ページ
1	ブレーキフルードリザーバータンク	**798**	5	ウインドゥウォッシャータンク	**751**
2	エンジンオイル注入口	**797**	6	冷却水リザーバータンク	**789**
3	ヒューズボックス	**777**	7	冷却水注入口	**789、798**
4	バッテリー	**751**	8	エンジンオイルレベルゲージ	**797**

バッテリー液量の点検

バッテリーの液量が下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電すると、バッテリーが爆発するおそれがあります。バッテリーの液量はときどき点検し、不足しているときは上限（UPPER LEVEL）まで補充してください。

ウォッシャー液量の点検

運転前にウォッシャー液の量を点検してください。
ボンネットを開けると、向かって右側のヘッドランプ後ろに給水口があります。タンクはフロントおよびリヤウォッシャーとヘッドランプウォッシャー共用になっています。



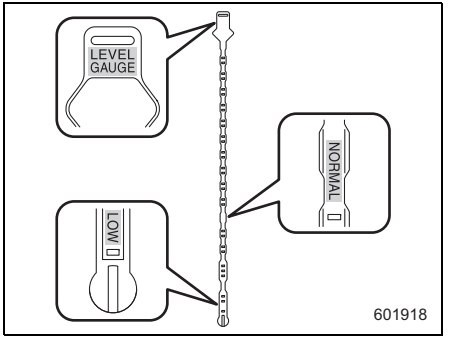
⚠ 注 意

- 降雪時、寒冷時には、フロントおよびリヤガラスが温まるまでウォッシャー液を使用しないでください。
  - ウォッシャー液がガラスに凍りつき視界不良を起こすおそれがあります。
- 降雪時、寒冷時には、ウォッシャー液は外気温度に合わせた濃度にしてください。濃度が低いとウオッシャー液がタンク内で凍りつくことがあります。

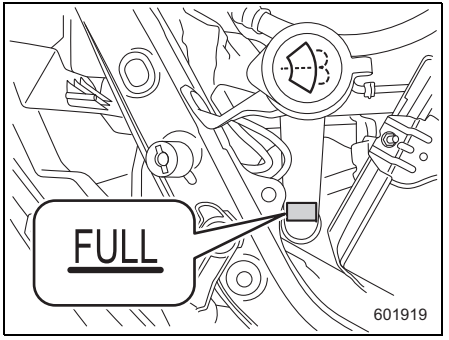
☞P.743参照

- ウォッシャー液注入時、ゴミ、異物などが入らないよう注意してください。ポンプが詰まるなどの作動不良を起こすおそれがあります。

キャップを外し、レベルゲージで液量を点検します。
レベルゲージ下部の LOW より上に液の膜が付着していることを確認してください。
付着していない場合、ウォッシャー液をFULLの位置まで補給してください。



FULL 位置以上にウォッシャー液を入れないでください。



7. 万一の場合

車載工具
格納場所 …… 754

パンクしたとき
応急用スペアタイヤ …… 757

発炎筒
発炎筒について …… 761

故障したとき
踏切で動けなくなったとき …… 763
高速道路、自動車専用道路で動けなくなったとき …… 764
路上で動けなくなったとき …… 766
故障時の対応方法と連絡先 …… 766
セレクトレバーが動かないとき …… 767
パワーリヤゲートが動かなくなったとき …… 768
リヤゲートが開けられなくなったとき …… 769
サンルーフが閉まらないとき …… 770
フューエルリッド（燃料給油口）が解錠できないとき … 770
アクセスキーが正常に作動しないとき …… 771
バッテリーが上がったとき …… 773
ヒューズの点検・交換 …… 777

けん引のとき
けん引について …… 781
けん引してもらうとき …… 781
他車をけん引するとき …… 787

オーバーヒートしたとき
オーバーヒートについて …… 789
対処のしかた …… 789

事故が起きたとき
対処のしかた …… 792

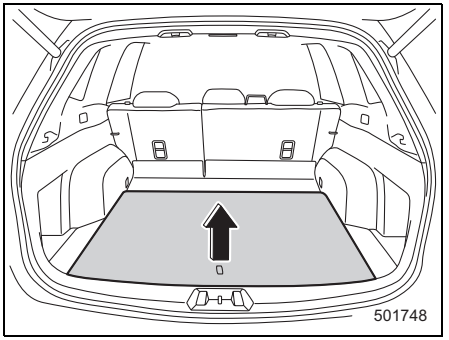
水没したとき
対処のしかた …… 794

車載工具

格納場所

次の工具類が搭載されています。
- ドライバー（＋、－両方に使えます）
- ホイールナットレンチ
- ジャッキ
- ジャッキハンドル
- けん引フック

1. カーゴルームのリッド（フタ）を取り外します。

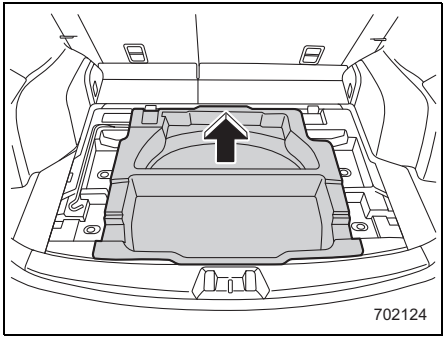


知　識

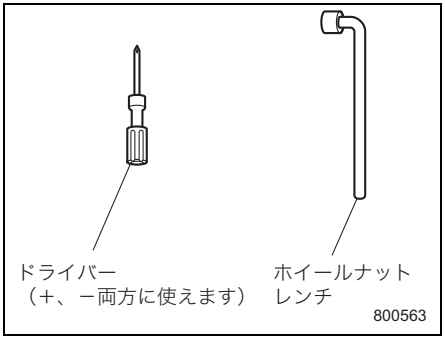
- 工具は定めた場所に置いておくと、万一のときすぐに取り出せます。使用後は元の場所に戻してください。
- ジャッキを使用する場合は、「ジャッキアップ」を参照してください。

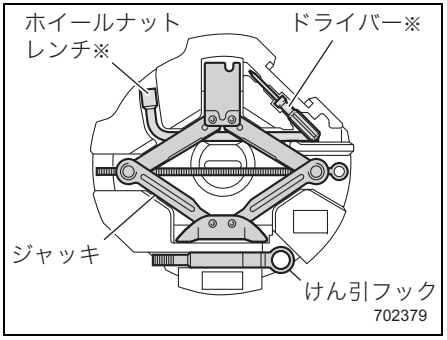
☞P.707参照

2. サブトランクを取り出します。



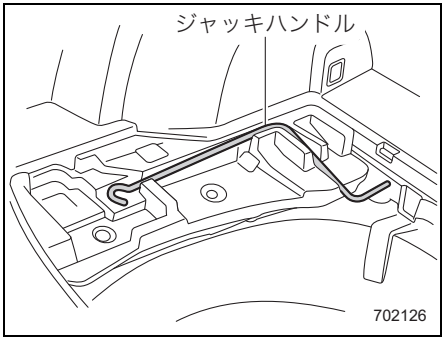
3. ジャッキホルダーに格納されています。





※ ドライバーとホイールナットレンチはジャッキホルダーに格納することができます。

次ページへ ⇒


ジャッキハンドル
702126

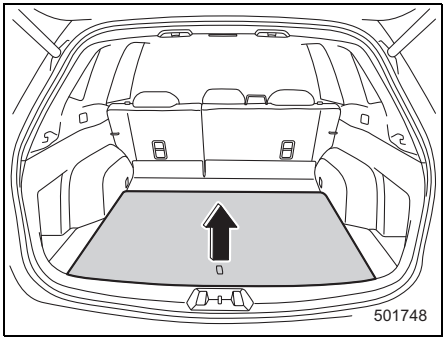
パンクしたとき

応急用スペアタイヤ

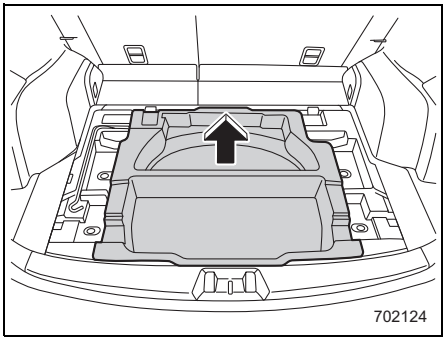
■スペアタイヤの取り出しかた

カーゴルームの床下に収められています。

1. カーゴルームのリッド（フタ）を開けます。

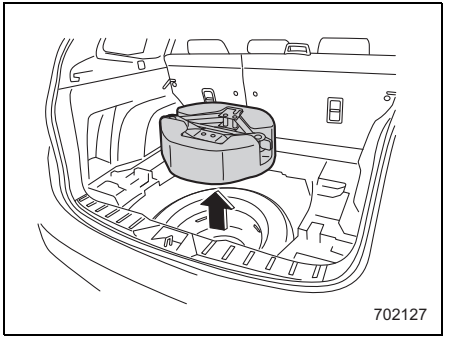


2. サブトランクを取り出します。

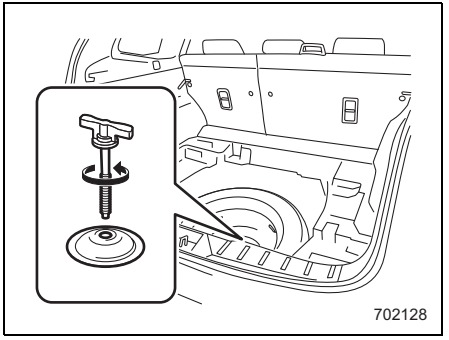


次ページへ ⇒

3. ジャッキホルダーを取り出します。



4. スペアタイヤを固定しているネジを外し、スペアタイヤを取り出します。



⚠ 注 意

応急用スペアタイヤは、標準タイヤがパンクしたとき応急用としてのみ使用するタイヤです。応急用スペアタイヤのホイールに貼ってある注意書をよく読み、使用するときは次のことをお守りください。守らないと思わぬ事故につながるおそれがあります。

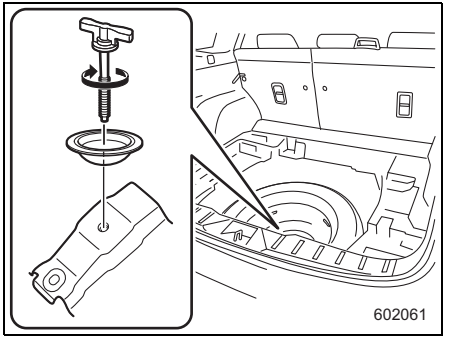
- 応急用スペアタイヤの空気圧は空気圧ゲージを使用して必ず点検してください（月1回程度）。空気圧が不足している状態で走行しないでください。
  空気圧：420 kPa（4.2 kgf/cm^2）（走行前のタイヤが冷えているとき）
- 指定（車載）の応急用スペアタイヤを使ってください。
  応急用スペアタイヤとホイールはこの車の専用品です。他のタイヤやホイールと組み合わせたり、他の車に使用しないでください。
- パンクしたタイヤは直ちに修理し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- 応急用スペアタイヤを装着したときは、80 km/h以下の速度で走行してください。
- 前輪がパンクしたときは、後輪のタイヤを前輪につけ、後輪に応急用スペアタイヤを装着してください。
- 応急用スペアタイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。雪道、凍結道路で前輪がパンクした場合も同様に応急用スペアタイヤを後輪に使用し、外した後輪を前輪につけてからタイヤチェーンを装着してください。
- 応急用スペアタイヤを装着しているときは、標準タイヤ装着時に対し車高が低くなります。突起物などを乗り越えるときは、同じ感覚で運転すると下部をぶつけるおそれがあります。
- ウエアインジケーターが現れたら新品の応急用スペアタイヤと取り替えてください。
- 応急用スペアタイヤを交換するときはスバル販売店にご相談ください。
- 同時に2つ以上の応急用スペアタイヤを装着しないでください。

■交換のしかた

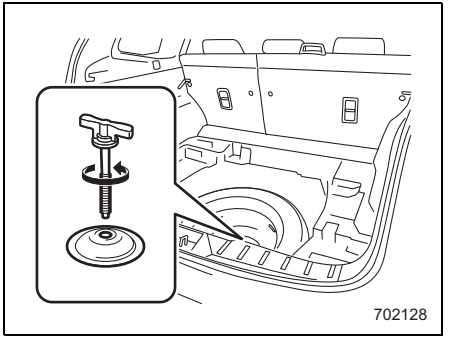
手順に従ってパンクしたタイヤを応急用スペアタイヤと交換します。
☞P.706参照

■パンクしたタイヤの格納

- ホイールのセンターキャップを取り外してください。
- スペアタイヤが格納されていた場所にしまいます。スペーサーを必ず図の向きにし、ネジをブラケットに取り付けます。



- パンク修理後、応急用スペアタイヤを戻すときはスペーサーを必ず図の向きにし、ネジをブラケットに取り付けます。



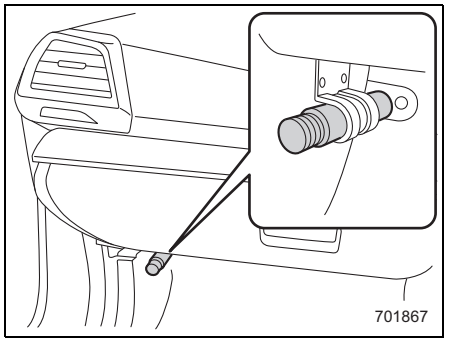
知　識

ホイールに傷がつかないように、注意して格納してください。

発炎筒

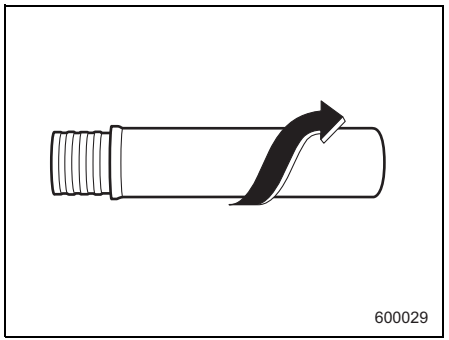
発炎筒について

グローブボックス左下に発炎筒を備え付けています。
発炎筒の外筒に書いてある使用方法を、あらかじめ確認しておいてください。



■発炎筒の使いかた

1. ケースをひねり、本体からケースを取り外します。



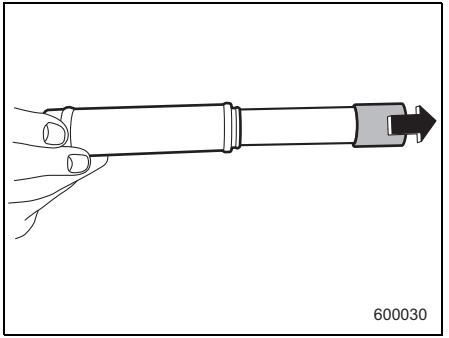
⚠ 警 告

- 発炎筒をお子さまには触れさせないでください。いたずらなどにより発火し、やけどや火災につながるおそれがあります。
- 燃料など可燃物のそばで使わないでください。引火することがあります。
- 筒先を顔や身体に向けたり、人に近づけたりしないでください。やけどをすることがあります。
- トンネルの中で使わないでください。煙が視界を悪くするので危険です。トンネルの中では非常点滅表示灯（ハザードランプ）を使用してください。

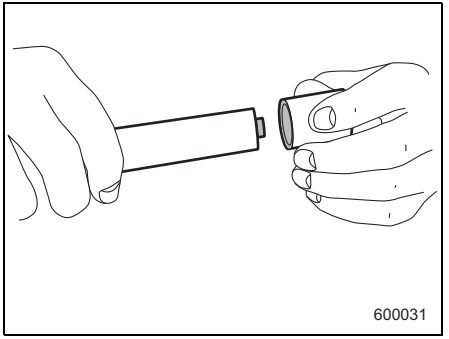
☞P.357参照

次ページへ ⇒

2. ケースを本体の後部に取り付け、本体の白いキャップを取り外します。



3. 本体の先端を、キャップ頭部のすり薬でこすると着火します。



知 識

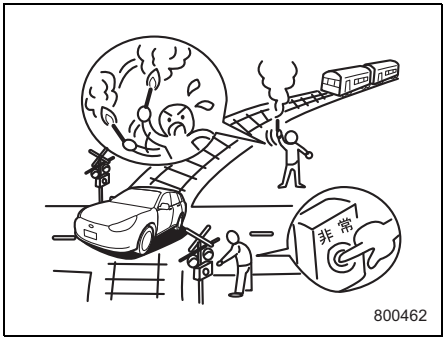
- 発炎筒は常に使えるようにしておいてください。
- 発炎筒には有効期限が明記されています。有効期限が切れる前にスバル販売店でお求めください。

故障したとき

踏切で動けなくなったとき

踏切で脱輪などにより脱出できない場合は、踏切の非常ボタンを押してください。非常ボタンがない場合、位置がわからない場合、緊急を要する場合は、発炎筒を使い合図をしてください。

☞P.761参照

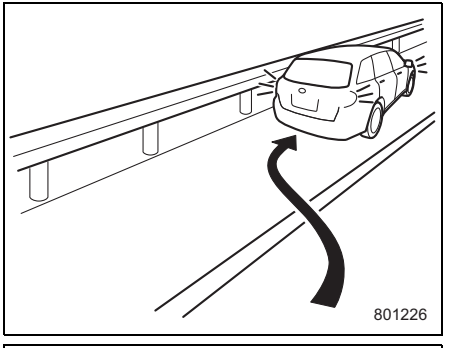


知 識

プッシュエンジンスイッチを押し続けても（スターターを回そうとしている状態）、一時緊急的にお車を動かすことはできません。セレクトレバーが“P”または“N”以外ではスターターは回りません。

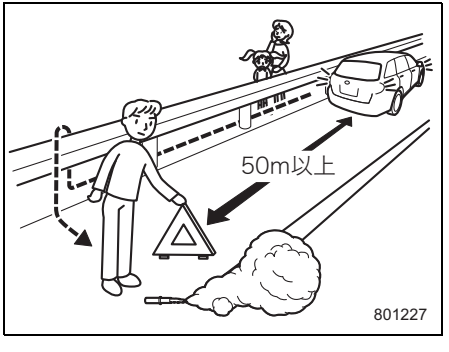
高速道路、自動車専用道路で動けなくなったとき

1. 非常点滅表示灯（ハザードランプ）を点滅させ、お車を路肩など安全な場所に止めてください。



2. 同乗者をガードレールの外側などに避難させ、お車の50 m以上後方へ三角停止表示板と発炎筒を置くか、停止表示灯を使用してください。

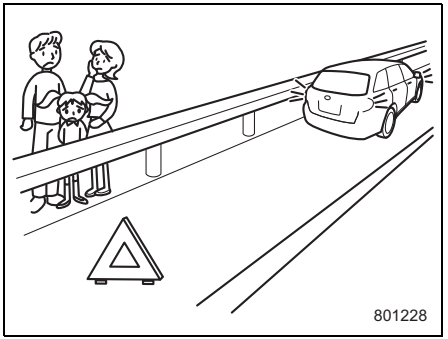
☞P.761参照



知 識

- 三角停止表示板または停止表示灯の設置は法律で義務付けられています。
- 三角停止表示板または停止表示灯は車載されていませんので、必要に応じて準備してください。

3. 運転者もガードレールの外側などに避難してください。
4. 安全を確保した後、非常電話などで救援をたのみます。



路上で動けなくなったとき

1. あわてず、もう一度エンジンを始動してみてください。

☞P.369参照

2. エンジンが始動しないときは、同乗者や付近の人に押してもらって安全な場所へ移動してください。
   移動するときはセレクトレバーを“N”にします。

☞P.390参照

故障時の対応方法と連絡先

1. お車を安全な場所に移動するなど、可能な範囲で安全を確保してください。
2. お買い求めのスバル販売店または最寄りのスバル販売店に連絡し、ご相談ください。
3. スバル販売店に連絡が取れない場合は JAF ロードサービスなどに連絡し、ご相談ください。

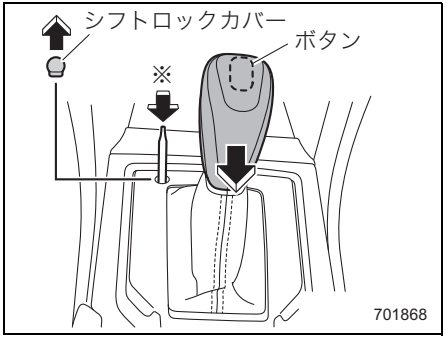
知 識

万一のために、JAFに入会されることをお奨めします。JAFロードサービスの連絡先は巻末に記載されています。

セレクトレバーが動かないとき

セレクトレバーを“P”から動かすことができないまたは“P”へ動かすことができないときは、次の手順でシフトロックを解除してください。

1. 電動パーキングブレーキが確実にかかっていることを確認します。
2. シフトロックカバーを外します。
   マイナスドライバーを使用する場合は、傷がつかないようマイナスドライバーの先端をビニールテープや布で覆ってから作業してください。
3. ブレーキペダルを踏みます。
4. シフトロック解除ボタンをグリップを外したドライバー※などで押しながら、セレクトレバーのボタンを押してレバーを操作します。



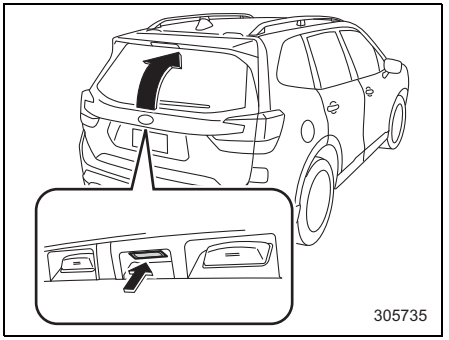
知 識

- セレクトレバーが動かないときは、シフトロックシステムの故障が考えられます。直ちにスバル販売店にご連絡ください。
- バッテリーが上がったときは電動パーキングブレーキを解除できません。
  - 電動パーキングブレーキがかかったままのときは、セレクトレバーを“P”以外にしても車は動きません。

パワーリヤゲートが動かなくなったとき

パワーリヤゲートが開かないときは、もう一度解錠操作をしてください。それでも開けられない、または開いたまま作動を停止したときは、次の操作で復帰します。

1. リヤゲートオープナースイッチを約 5 秒間押し続けます。パワーリヤゲートが閉まっている場合は手で支えたままゆっくり開けます。



2. 半ドアの位置までゆっくり閉めます。リヤゲートオートクロージャーが作動してパワーリヤゲートが閉まると復帰します。
3. パワーリヤゲートを操作し、正常に作動することを確認します。

知 識

約５秒間以上押し続けてもパワーリヤゲートが閉まったままのときは、車内から応急処置用解錠レバーで開けます。

☞P.769参照

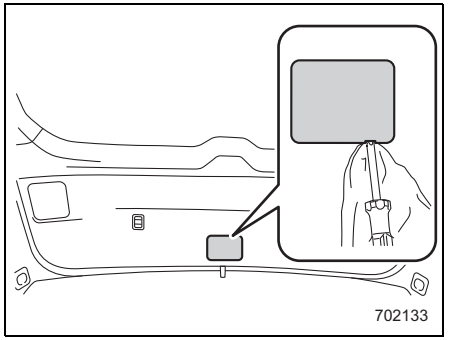
⚠ 注 意

- 閉まらない、または閉まってもパワーリヤゲートが正常に作動しない場合は、スバル販売店で点検を受けてください。
- パワーリヤゲートを手動で閉めるときは、無理な力を加えないでください。故障の原因となります。

リヤゲートが開けられなくなったとき

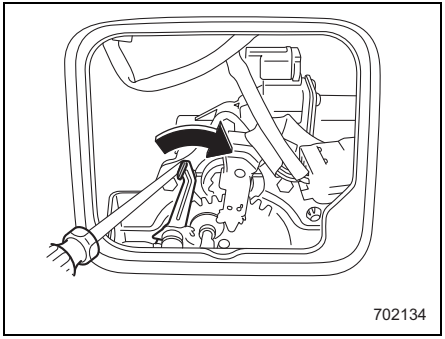
バッテリー上がりや故障などでリヤゲートが開けられなくなった場合は、応急処置用解錠レバーを操作して車室内から開けることができます。

1. リヤゲートトリムのカバーを外します。

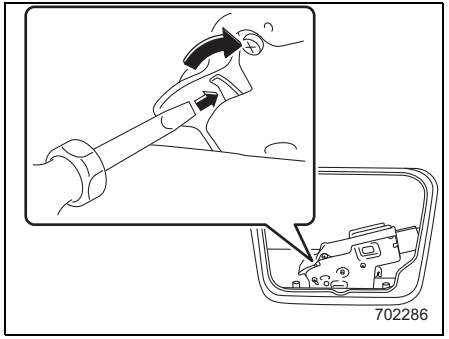


2. マイナスドライバーなどを使用してレバーを矢印の方向に動かし、リヤゲートを開けます。

＜パワーリヤゲート装備車＞



＜パワーリヤゲート装備車以外＞



⚠ 注 意

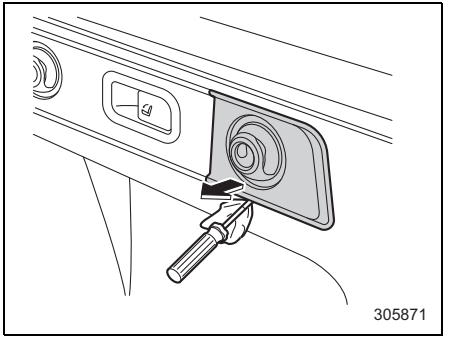
応急処置用解錠レバーは指で操作しないでください。けがをするおそれがありますので、必ずドライバーなどを使用してください。

サンルーフが閉まらないとき

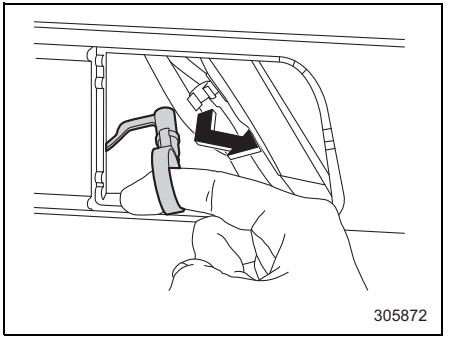
スバル販売店で点検整備を受けてください。

フューエルリッド（燃料給油口）が解錠できないとき

カーゴルーム右側の買い物フックパネルを、ドライバーを使って外します。



レバーを外して、力を入れずに車両後方へ引く（1センチ位）と解錠します。



知　識

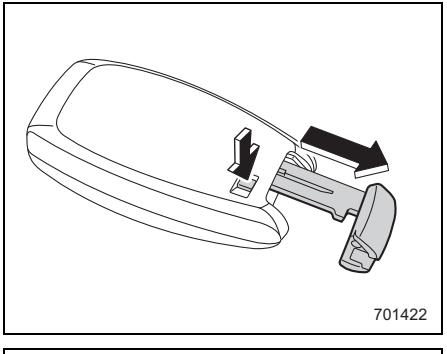
- 解錠後は通常のフューエルリッド操作で開閉できます。
- フューエルリッドの施錠装置が故障している場合は、解錠後に集中ドアロックスイッチで施錠することができない場合があります。すみやかにスバル販売店にご相談ください。

アクセスキーが正常に作動しないとき

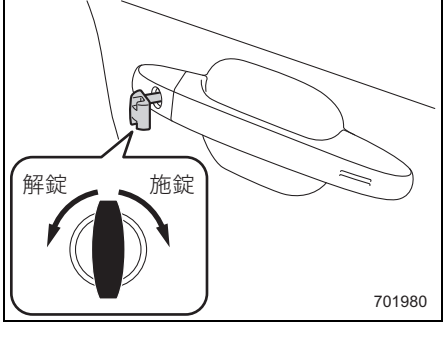
強い電波またはノイズがある場合や、アクセスキーの電池残量が少なくなり施錠・解錠およびエンジン始動ができなくなった場合は、次の方法で施錠・解錠およびエンジン始動をしてください。また電池がなくなった場合はアクセスキーの電池を交換してください。
☞P.722参照

■メカニカルキーによる施錠・解錠

ボタンを押し、メカニカルキーを取り出します。



メカニカルキーを確実に差し込んでお車の後ろ側に回すと解錠され、前側に回すと施錠されます。メカニカルキーは差し込み方向に指定のある内溝キーです。差し込めない場合は向きを改めて差し込んでください。



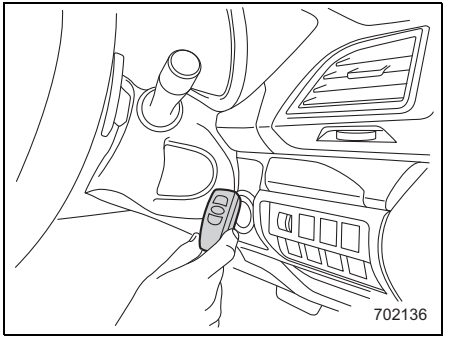
知識

- 盗難警報装置が監視状態のときは警報が鳴ります。
  アクセスキーの電池が少ない状態で警報が作動した場合は「アクセスキーが正常に作動しないときのエンジン始動」を参照してプッシュエンジンスイッチの操作またはエンジン始動をしてください。
  ☞P.772参照
- 紛失防止のため、使用後は必ずメカニカルキーをアクセスキーに装着してください。
- メカニカルキーによる施錠では、盗難警報装置は作動しません。
  ☞P.299参照
- メカニカルキーは運転席ドアのみ施錠・解錠します。
  他のドアは連動しません。

■アクセスキーが正常に作動しないときのエンジン始動

強い電波またはノイズがある場合や、アクセスキーの電池が少なくなった場合、次の方法でプッシュエンジンスイッチの操作またはエンジン始動が行えます。

1. 電動パーキングブレーキが確実にかかっていることを確認します。
2. セレクトレバーが“P”であることを確認します。
3. ブレーキペダルを踏みます。
4. アクセスキーのボタン側を手前に向けて、アクセスキーをプッシュエンジンスイッチに触れるまで近づけます。アクセスキーと車両の通信が完了するとブザー（ピッ）が鳴り、プッシュエンジンスイッチがACCまたはONになります。
   ただし、スイッチの状態は、車両状態により次のように異なります。
   - 電池切れまたは電波妨害のとき、プッシュエンジンスイッチは ON になります。
   - キーレスアクセス機能が停止状態のとき、プッシュエンジンスイッチはACCになります。



5. プッシュエンジンスイッチがACCまたはONになってから次の操作を行います。
   - エンジンを始動するときは、ブレーキペダルを踏んだままプッシュエンジンスイッチを押します。
   - プッシュエンジンスイッチをONにするときは、ブレーキペダルから足を離してプッシュエンジンスイッチを押します（プッシュエンジンスイッチがACCのとき）。

⚠ 注 意

アクセスキーとプッシュエンジンスイッチの間には金属、磁気を帯びた物、信号発信機などを近づけないでください。アクセスキーと車両の通信に障害が出ることがあります。

知 識

- ドアの開閉後、しばらくして操作するとブザーが鳴らない場合があります。ブザーが鳴らない場合は、運転席ドアを開閉した後、15 秒以内にアクセスキーをプッシュエンジンスイッチに近づけてください。
- アクセスキーのボタン側をプッシュエンジンスイッチに近づけた場合、反応しないことがあります。

バッテリーが上がったとき

次のようなときは、バッテリー上がりです。

- スターターが回らないか、回っても回転が弱くエンジンが始動しないとき
- ランプがいつもより極端に暗かったり、ホーンの音が小さいとき

■対処のしかた

押しがけによる始動はできません。
救援車を依頼しブースターケーブルを接続してエンジンを始動してください。

次ページへ ⇒

⚠ 警 告

- ブースターケーブルをつなぐ前にバッテリー液量を確認してください。
  バッテリーの液量がバッテリー側面に示されている下限（LOWER LEVEL）以下で充電または使用を続けると、容器内の各部位の劣化を早め、バッテリーの寿命を縮めたり、発熱や破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。バッテリー補充液を補充してから行ってください。
- ブースターケーブルを接続するときは、必ず次のことをお守りください。
  火花が発生し、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。また、電子機器やエンジン部品を傷めます。
  - ⊕端子と⊖端子を間違えないでください。
  - ⊕端子と⊖端子を接触させないでください。
  - 自車のバッテリーの⊖端子にケーブルを接続しないでください。

☞P.775参照

- バッテリーに火気を近づけないでください。バッテリーからは、可燃性のガスが発生しているので、引火爆発するおそれがあります。
- バッテリーを充電するときには、すべてのキャップを外し、通気のよい場所で充電してください。発生したガスが充満すると引火爆発するおそれがあります。
- バッテリー液は希硫酸です。バッテリー液が身体につかないように気をつけてください。目や皮ふにつくと重大な傷害につながるおそれがあります。万一付着したときは、すぐに大量の水で洗浄し、医師の診断を受けてください。

⚠ 注 意

ブースターケーブルを接続するときは、次のことを必ずお守りください。

- 12 Vのバッテリーと接続してください。
- ケーブルがオルタネーターベルトなどの可動部品に接触しないようにしてください。
- エンジン回転中にバッテリー端子を外さないでください。電子機器が損傷するおそれがあります。
- バッテリー上がりおよびバッテリー交換後は、ステアリングロックシステムの初期化を行わないとエンジンが始動しない場合があります。始動しない場合は、ステアリングロックの初期化を行ってください。

☞P.367参照

- アイドリングストップに対応した専用バッテリーを使用しています。バッテリーが上がったときは、スバル販売店で点検を受けてください。

☞P.586参照

知 識

- バッテリー交換などでバッテリー端子を再接続した直後は、エンジンが始動しないことがあります。
  - その場合はプッシュエンジンスイッチをONにし、10秒以上経過してからエンジンを始動してください。
  - エンジン始動直後はアイドリングが不安定になることがありますが、異常ではありません。

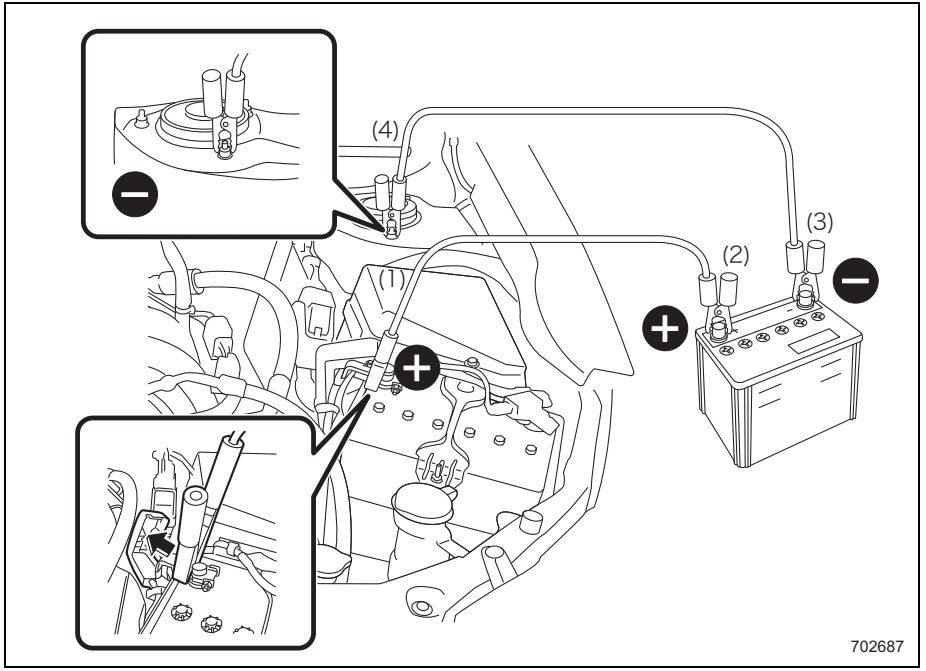
●ブースターケーブルの接続手順

1. ⊕端子のカバーを外し、赤いブースターケーブルの一方を自車のバッテリーの⊕端子につなげます。(1)
2. 赤いブースターケーブルのもう一方を救援車のバッテリーの⊕端子につなげます。(2)
3. 黒いブースターケーブルの一方を救援車のバッテリーの⊖端子につなげます。(3)
4. 黒いブースターケーブルのもう一方を自車の車体（バッテリーから離れたボルトなど）につなげます。(4)
5. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。
6. 自車のエンジンを始動します。
7. ブースターケーブルをつないだときと逆の順番で外します。

知　識

早めに最寄りのスバル販売店で点検を受けてください。

次ページへ ⇒


(4)
(3)
(2)
(1)
702687

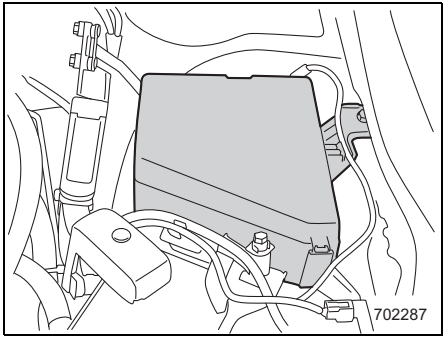
ヒューズの点検・交換

バッテリーが上がっていないのに電気装置が動かないときは、ヒューズ切れが考えられます。
プッシュエンジンスイッチをOFFにし、ヒューズを確認してください。

■ヒューズボックスの開けかた

●エンジンルーム

ボンネットを開け、ヒューズボックスカバーを取り外します。

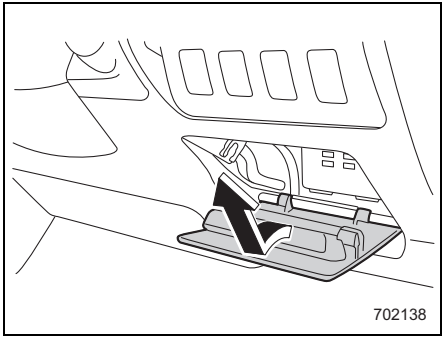


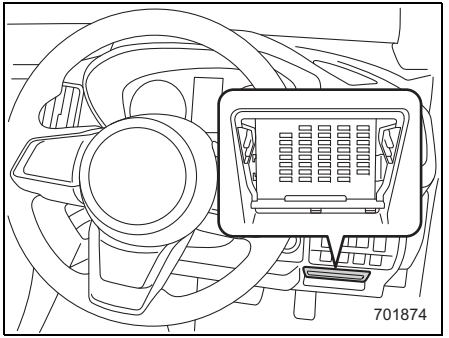
知 識

ランプ類が点灯しないときは、電球が切れていることがあります。
☞P.725参照

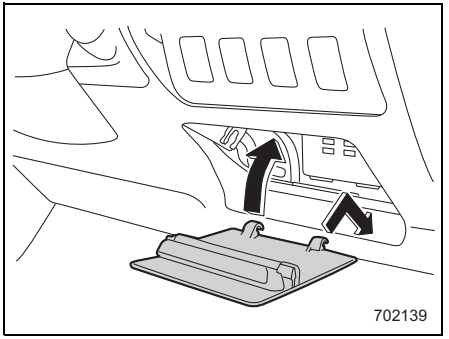
●室内

ヒューズボックスカバーを開け、取り外します。



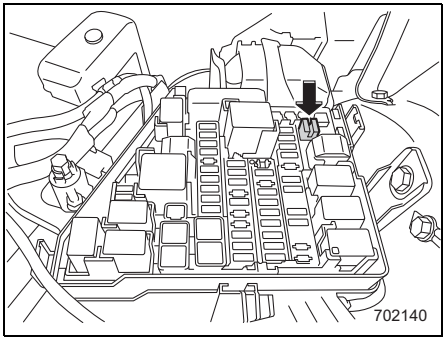


取り付けるときは、下側のツメを確実に合わせて取り付けてください。

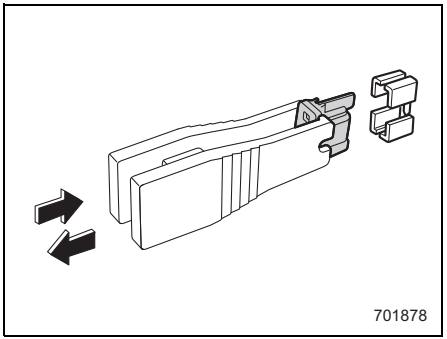


■交換のしかた

1. ヒューズプラーをつまんで、エンジンルーム内のヒューズボックスから抜き取ります。



2. ヒューズプラーでヒューズをつかみ、抜きます。

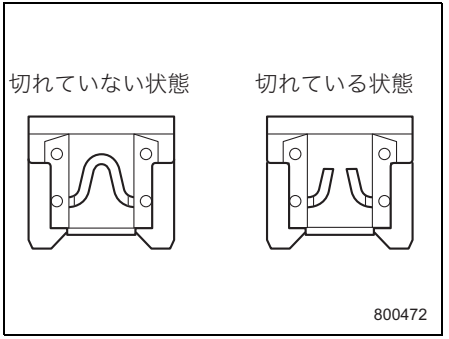


知 識

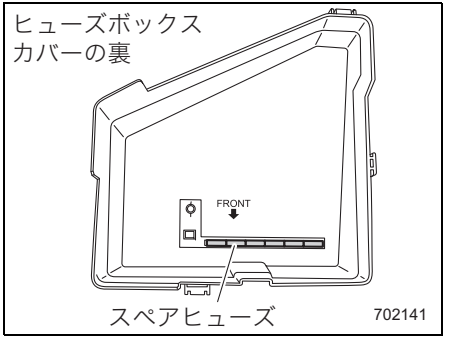
- ヒューズの使用回路と指定容量（アンペア数）については、ヒューズボックスカバーの裏側をご覧ください。
- ヒューズがわからないときや、作業に不安がある場合は、スバル販売店にご相談ください。

次ページへ ⇒

3. ヒューズを確認します。



4. ヒューズが切れているときは、指定容量（アンペア数）のスペアと交換します。スペアはエンジンルーム内のヒューズボックスカバーの裏側に 7.5 A、10 A、15 A、20 A、25 A、30 A各1個が装備されています。



⚠ 注 意

ヒューズを交換するときは必ず次のことをお守りください。

- 必ずプッシュエンジンスイッチをOFFにする。
  - ONやACCの場合、ショートするおそれがあり危険です。
- ヒューズの代わりに針金や銀紙などは絶対に使わない。

知 識

ヒューズが切れていない場合や交換してもヒューズが切れる場合は、電気系統の異常が考えられますので、スバル販売店で点検を受けてください。

5. ヒューズを交換した後はすみやかにスバル販売店で点検を受け、スペアヒューズを補充してください。

けん引のとき

けん引について

お車の故障などでけん引が必要な場合は、安全のため必ずスバル販売店に依頼してください。
最寄りのスバル販売店がわからない場合は、JAF ロードサービスなどに依頼してください。

けん引してもらうとき

■けん引方法の違い

次の方法でのけん引が可能です。

- 車載（4輪持ち上げ）
  トランスミッションや駆動装置が故障したと思われる場合は車載してください。
- ロープによるけん引
  次の条件をお守りください。お守りいただかないと、駆動装置が損傷するおそれがあります。
  – 速度30 km/h以下で走行してください。
  – 走行距離は30 kmを超えないでください。

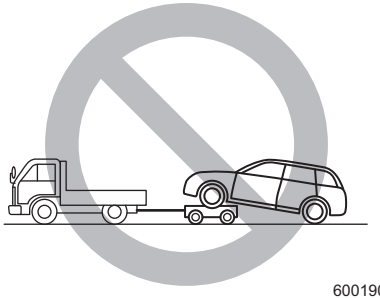
知 識

キャリアカーに車両を載せたとき、車両が自動で光軸を調整している場合があります。
照射方向が気になる場合はスバル販売店で点検を受けてください。

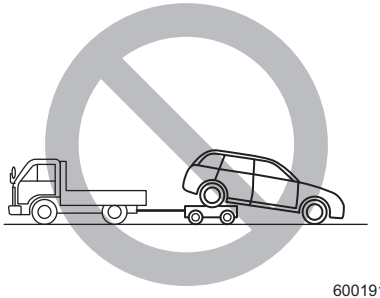
次ページへ ⇒

⚠ 注 意

前輪のみを持ち上げてのけん引および後輪のみを持ち上げてのけん引は、絶対にしないでください。駆動装置が損傷したり、お車がトレッカー（台車）から飛び出すことがあります。



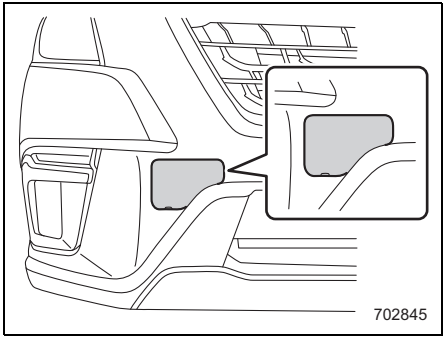
600190



600191

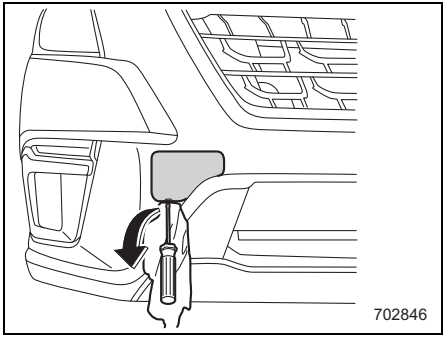
■ロープによるけん引

やむを得ず４輪を接地させてロープでけん引を行う場合は、フロントバンパーにけん引フックを取り付けます。
けん引時は、けん引フックにソフトロープをかけて行ってください。



●けん引フックの取り付けかた

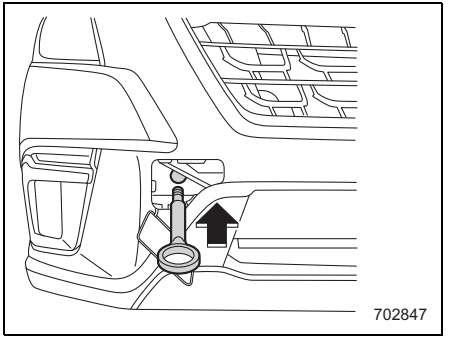
1. バンパーに傷がつかないようマイナスドライバーの先端をビニールテープや布で覆い、カバーの切り欠きに差し込み、てこの原理でカバーを取り外します。



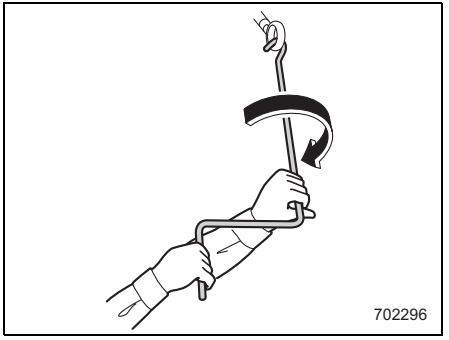
次ページへ ⇒

2. けん引フックを取り出し、取り付け部にねじ込みます。

☞P.754参照

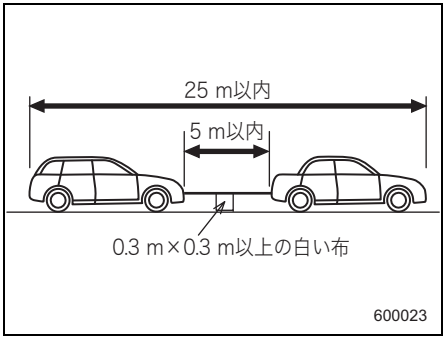


3. ジャッキハンドルなどを使って、確実にけん引フックを締め付けます。



●けん引方法

1. ロープをけん引フックにかけ、ロープ中央部に白い布（0.3 m×0.3 m以上）をつけます。
2. プッシュエンジンスイッチを ON にします。
3. セレクトレバーを“N”にします。
4. 電動パーキングブレーキを解除し、けん引します。けん引中は、けん引している車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。



知 識

- けん引時は、フックにソフトロープをかけて行ってください。
- バンパーフェース下面の傷つきを防止するため、ソフトロープとバンパーフェース下面のロープとのこすれ部分にガムテープなどを貼りつけたり、布を巻くなどの保護処置をしてください。

次ページへ ⇒

⚠ 警 告

- プッシュエンジンスイッチをOFFにしない。
  - ハンドル操作ができなくなり思わぬ事故につながります。
- けん引フックはけん引時以外に使用しない。
- けん引フックはけん引後、必ず取り外す。
  - そのままにしておくと衝撃を受けたときSRSエアバッグおよび歩行者保護エアバッグが正常に作動しないことがあります。

⚠ 注 意

四輪接地でけん引してもらうときは次のことをお守りください。

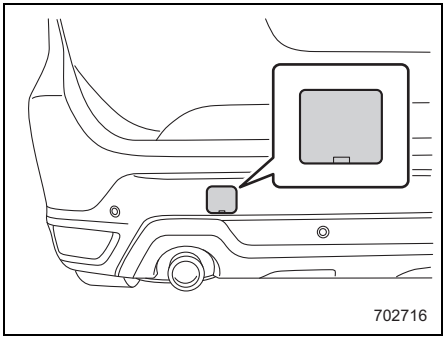
- プッシュエンジンスイッチを ON にしてハンドルが自由に動くことを確認する。
- セレクトレバーを“N”にする。
- 移動の途中に長い下り坂や急な下り坂があるときは、車載（4輪持ち上げ）でのけん引を依頼する。
  - ロープけん引中はエンジンブレーキがまったく効かないため、下り坂でブレーキペダルを踏み続けるとブレーキが過熱して効かなくなるおそれがあります。
- 急発進などでロープに衝撃を与えないよう運転する。
- エンジンを止めてけん引する場合は、次のような現象が発生するため、十分注意して操作する。
  - ブレーキ倍力装置が働かず、ブレーキの効きが悪くなります。
  - パワーステアリングが働かず、ハンドル操作が重くなります。
- 電動パーキングブレーキを確実に解除する。
- トランスミッションおよび駆動装置、走行装置が故障したと思われるときは必ず車載で（4輪を持ち上げて）けん引する。
- 故障の内容によりけん引できない場合がある。

他車をけん引するとき

やむを得ず故障車をけん引するときは、自車より重い車のけん引は避けてください。
また、溝に落ちた車の引き上げは行わないでください。

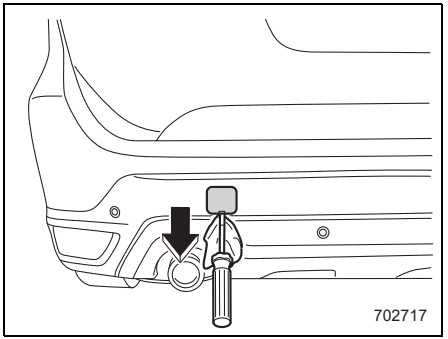
■けん引フックの取り付け位置

リヤバンパー左下にあります。



■けん引フックの取り付けかた

1. バンパーに傷がつかないようマイナスドライバーの先端をビニールテープや布で覆い、カバーの切り欠きに差し込み、てこの原理でカバーを取り外します。



⚠ 警 告

- けん引フックはけん引時以外に使用しないでください。
- けん引フックはけん引後、必ず取り外してください。
  - そのままにしておくと衝撃を受けたときフューエルポンプ燃料漏れ制御機能が正常に作動しないことがあります。
- SRVD OFF スイッチを押して SRVD を解除してください。
  - けん引車により、レーダー波が妨げられ、システムが正常に機能しません。

☞P.601参照

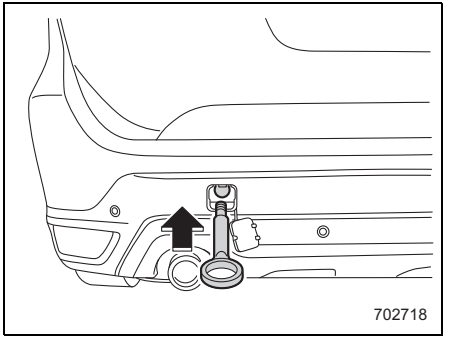
知 識

- けん引時は、フックにソフトロープをかけて行ってください。
- バンパーフェース下面の傷つきを防止するため、ソフトロープとバンパーフェース下面のロープとのこすれ部分にガムテープなどを貼りつけたり、布を巻くなどの保護処置をしてください。

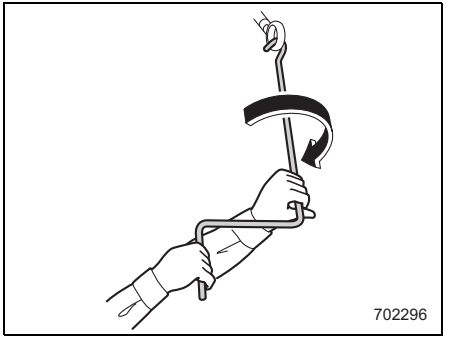
次ページへ ⇒

2. けん引フックを取り出し、取り付け部にねじ込みます。

☞P.754参照



3. ジャッキハンドルなどを使って、奥まで確実にけん引フックを締め付けます。



オーバーヒートしたとき

オーバーヒートについて

このようなときは、オーバーヒートです。

- 水温警告灯が赤色に点滅または点灯したとき
- エンジンの力が急に落ちたとき
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっているとき

☞P.132参照

対処のしかた

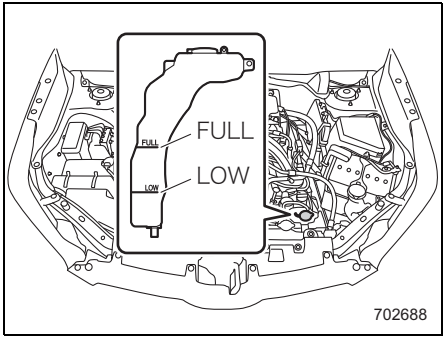
1. 後続車に注意して安全な場所にお車を止め、エアコンを止めます。
2. 車両の状態に応じて次の処置を行ってください。
   - エンジンルームから水漏れ、水蒸気の噴き出しがあるときは、すぐにプッシュエンジンスイッチをOFFにしてスバル販売店にご連絡ください。
   - エンジンルームから水漏れ、水蒸気の噴き出しがないときは、エンジンを始動したままボンネットを開けて風通しをよくします。冷却ファンが回っている場合は水温警告灯が消灯し、時間が十分経過してからプッシュエンジンスイッチをOFFにします。冷却ファンが回っていない場合は、すぐにプッシュエンジンスイッチをOFFにしてスバル販売店にご連絡ください。
3. エンジンが冷えてから、冷却水量、水漏れなどを点検します。

⚠ 警 告

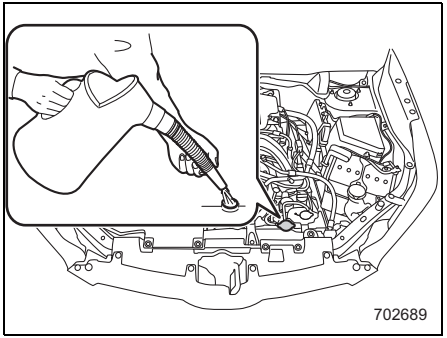
- エンジンルームから水漏れ、水蒸気の噴き出しがあるとき、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンが高温になっているため、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- ラジエーターが熱いときはキャップを外さないでください。蒸気や熱湯が噴き出して、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあり危険です。キャップを開けるときは、ラジエーターが十分に冷えてから、布きれなどでキャップを包みゆっくりと開けてください。

次ページへ ⇒

4. リザーバータンク内の液量を確認し、冷却水が不足しているときは、補給します。冷却水は FULL 位置まで補給してください。



5. ラジエーターキャップを開け、冷却水を補給してください。



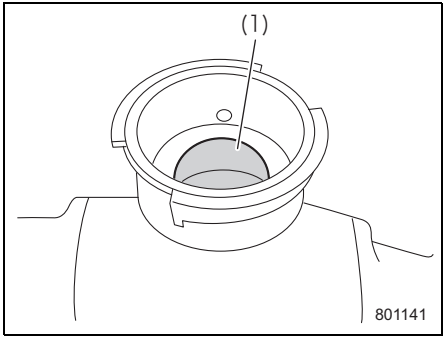
⚠ 注 意

冷却水は、エンジンが熱いときに入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆっくりと入れてください。

知 識

冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。補給する水は、軟水または水道水を使用してください。

冷却水は注入口の口元（イラストの（1）の位置）まで補給します。



6. 早めに最寄りのスバル販売店で点検を受けてください。

事故が起きたとき

対処のしかた

あわてず次の処置をしてください。

- 続発事故の防止につとめてください
  ー 他の交通の妨げにならないような安全な場所にお車を移動させ、エンジンを止めます。
- 負傷者の救護につとめてください
  ー 負傷者がいる場合は、医師、救急車が到着するまでの間、可能な応急手当を行います。
- 警察へ届け出をしてください
  ー 事故が発生した場所、状況、負傷者の有無や負傷の程度などを連絡します。
- 相手方の確認とメモをおとりください
  ー 相手方の氏名、住所、電話番号などを確認してメモします。
  同時に事故状況もメモしておいてください。
- スバル販売店と保険会社へ連絡してください
  ー ご購入されたスバル販売店とご加入の保険会社へ連絡をします。

SRS エアバッグが作動する、または車両後方から大きな衝撃を受けると、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料漏れを最小限に抑えます。エンジンを始動する必要がある場合は、次の手順で行ってください。

1. プッシュエンジンスイッチをACCまたはOFFにします。
2. エンジンを始動します。

⚠ 注 意

エンジンを始動する前に、燃料が漏れていないことを十分確認してください。地面にぬれた跡があるなど燃料漏れの可能性がある場合は、直ちにスバル販売店にご連絡ください。

■緊急時のオートドアロック・アンロック機能

SRS エアバッグが作動するような強い衝撃を受けたときは、緊急避難ができるようにすべてのドア（リヤゲート含む）が自動で解錠されることがあります。また、通常は車両後方から衝撃を受けた場合、SRS エアバッグは作動しませんが、強い衝撃を受けたときは、すべてのドア（リヤゲート含む）が自動で解錠されることがあります。これらの状況ではこのとき車両オートドアロック・アンロック機能はアンロック状態で一時停止します。機能を復帰させるには次の手順で行ってください。

1. プッシュエンジンスイッチをOFFにします。
2. プッシュエンジンスイッチをONにします。

⚠ 注 意

次の場合、システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

- 走行中、勝手にドアが解錠される場合
- すべてのドアが閉まっているときに、集中ドアロックスイッチの🔒（施錠）を押しても解錠してしまう場合
- オートドアロック機能が作動しない場合

水没したとき

対処のしかた

お車が水没するおそれがあるときは車内に留まるとたいへん危険です。落ち着いて車外に脱出してください。

- ドアが開く場合は、すみやかにドアから脱出してください。
- ドアが開かない場合は、パワーウインドゥが作動すればドアガラスを開けて脱出してください。
- ドア、ドアガラスともに開かない場合は、車内外の水位が同程度になるまで待って、ドアを開けて脱出してください。

緊急脱出用ハンマーなどを使用するときは、ドアガラスまたはリヤガラスを割ってください。

知　識

- 車内外の水位に差があると、水圧によってドアを開けることができなくなります。
- フロントガラスとサンルーフには合わせガラスを使用しています。合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーなどで割ることができません。
- 緊急脱出用ハンマーは車載されていませんので必要に応じて準備してください。

8. 仕様一覧

仕様一覧
サービスデータ ····· 796
タイヤ・ホイール ····· 799

カスタマイズ機能
カスタマイズ一覧 ····· 801

仕様一覧

サービスデータ

交換時期については、舗装路を1年に10,000 km程度走行する車を前提に定めてあります。走行距離の多いお車や、未舗装路を走行するなど厳しい使われかたをしたお車については、「メンテナンスノート」をご覧ください。

<table>
<tr><td colspan="2">オルタネーターベルトのたわみ量</td><td colspan="3">自動調整式のため点検不要</td></tr>
<tr><td rowspan="2">スパークプラグ</td><td rowspan="2">指定スパークプラグ</td><td>品番</td><td>メーカー</td><td>電極すき間</td></tr>
<tr><td>SILKFR8B7SY※</td><td>NGK</td><td>0.62～0.68 mm</td></tr>
<tr><td></td><td>交換時期</td><td colspan="3">100,000 km</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ブレーキペダル</td><td>遊び</td><td colspan="3">0.5～2.7 mm</td></tr>
<tr><td>踏み込んだときの床板とのすき間</td><td colspan="2">約300 N（約30 kgf）の力で踏み込んだとき</td><td>85 mm以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">タイヤ空気圧</td><td colspan="3">P.800参照</td></tr>
<tr><td colspan="2">ウォッシャータンク容量</td><td colspan="3">4.0 L</td></tr>
<tr><td>燃料タンク容量</td><td>無鉛レギュラーガソリン使用</td><td colspan="3">63 L</td></tr>
<tr><td rowspan="2">エアクリーナーエレメント</td><td>使用部品</td><td colspan="3">純正エアクリーナエレメント</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="3">50,000 kmごと</td></tr>
<tr><td colspan="2">バッテリー型式</td><td colspan="3">Q-85</td></tr>
</table>

※ イリジウムプラグは、次のことに注意してください。
電極材料に貴金属を使用しています。電極を損傷するおそれがあるため、プラグクリーナーなどによる清掃やプラグギャップ（電極すき間）調整は行わないでください。

<table>
<tr><td rowspan="5">エンジンオイル※1</td><td rowspan="3">使用オイル</td><td colspan="2">SUBARU MOTOR OIL ECO 0W-16※2</td></tr>
<tr><td colspan="2">SUBARU MOTOR OIL ECO 0W-20</td></tr>
<tr><td colspan="2">SUBARU MOTOR OIL SN 0W-20</td></tr>
<tr><td rowspan="2">規定量</td><td>オイルのみ交換</td><td>オイルとフィルター同時交換</td></tr>
<tr><td>約4.0 L</td><td>約4.2 L</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="2">10,000 kmごと、または12か月ごと（どちらか早いほうで実施）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">エンジンオイルフィルター</td><td>使用部品</td><td colspan="2">純正オイルフィルター</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="2">10,000 kmごと
エンジンオイルと一緒に交換することをお奨めします。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">フューエルフィルター</td><td>使用部品</td><td colspan="2">純正フューエルフィルター</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="2">100,000 kmごと</td></tr>
<tr><td rowspan="3">トランスミッションフルード</td><td>使用オイル</td><td colspan="2">スバルCVTフルードリニアトロニック3</td></tr>
<tr><td>規定量</td><td colspan="2">約11.3 L</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="2">無交換</td></tr>
</table>

※1: エンジンオイル消費量は新車時から数千km走行すると安定しはじめます。
また、厳しい運転条件（悪路、山道、登降坂路、交差点などでの急加減速の繰り返し、またはエンジンの高回転使用頻度が高いなど）での走行時は、通常に比べてエンジンオイルの消費が早くなることがあります。このような使用の頻度が高い場合、1,000 km走行あたり0.5 L〜1 L消費する場合があります。早めの点検・補給をお奨めします。

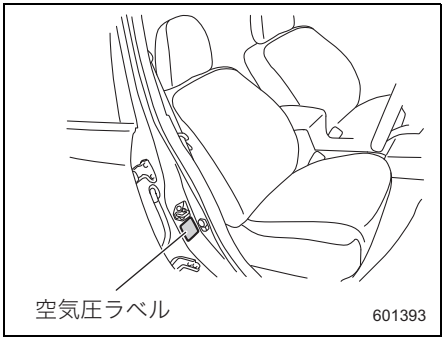
※2: 0W-16は使用オイルの中で、最も省燃費性に優れるオイルです。

次ページへ ⇒

フロントデファレンシャルオイル	使用オイル	スバルギヤオイルエクストラMT　75W-80	
	規定量	約1.3 L	
	交換時期	40,000 kmごと	
リヤデファレンシャルオイル	使用オイル	スバルギヤオイルエクストラMT　75W-80	
	規定量	約0.8 L	
	交換時期	40,000 kmごと	
冷却水	使用冷却水	スバルスーパークーラント	
	規定量	約9.1 L	
	交換時期	1回目	220,000 kmまたは11年目（どちらか早いほうで実施）
		2回目以降	120,000 kmごと、または6年ごと （どちらか早いほうで実施）
ブレーキフルード	使用フルード	スバル純正ブレーキフルードまたはDOT3 （銘柄の異なるブレーキフルードを使用しないこと）	
	交換時期	初回3年、以降2年ごと	
ディスクブレーキのパッドの摩耗限度	前輪	使用限度：1.5 mm	
	後輪	使用限度：1.5 mm	
ブレーキディスクの摩耗限度	前輪／後輪	ブレーキディスクの使用限度値とその測定方法に関する情報が必要な場合は、 スバル販売店にご相談ください。	
点火時期［アイドリング時：エアコンOFF時］		BTDC8°/675 rpm	

タイヤ・ホイール

標準装着タイヤ、応急用スペアタイヤおよび装着可能なタイヤのサイズと空気圧は、車種・グレードにより異なりますので、運転席ドアを開けたボディ側に貼ってある「タイヤ空気圧」のラベルをご覧ください。



■ホイールサイズ

タイヤサイズ	ホイールサイズ		
	リムサイズ	P.C.D（mm）	インセット量（mm）
225/55R18	18×7J	114.3	48
T145/80D17 （応急用タイヤ）	17×4T	114.3	20

■タイヤ空気圧

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 単位：kPa（kgf/cm^2）	
	前輪	後輪
225/55R18	250（2.5）	240（2.4）
T145/80D17（応急用タイヤ）	420（4.2）	

■タイヤの位置交換と交換時期

タイヤの位置交換（タイヤローテーション）時期	5,000 kmごと
タイヤの交換時期	ウエアインジケーターが現れたとき（タイヤの溝の深さが1.6 mm以下）

カスタマイズ機能

カスタマイズ一覧

■お客様がマルチインフォメーションディスプレイで変更可能な機能

☞P.158参照

■お客様がマルチファンクションディスプレイで変更可能な機能

☞P.180参照

■スバル販売店でのみ変更可能な機能

項目	機能の内容	設定	初期設定
盗難警報装置	警報の監視開始時間の設定	0秒／30秒	30秒
	次のランプの警報作動時点灯作動 • ルームランプ • スポットマップランプ • カーゴルームランプ	作動あり／作動なし	作動なし
キー閉じ込み防止	キー閉じ込み防止の作動	作動あり／作動なし	作動あり
半ドア対策機能	半ドアのバッテリー上がり防止機能の作動	作動あり／作動なし	作動あり
オートライト	感度調整	1（弱）～4（強）	2（標準）
オートワイパー	ワイパー作動	AUTO／間欠作動	AUTO
発進時1回払拭機能	発進時1回払拭機能の作動	ON／OFF	ON
リバース連動リヤワイパー	リバース連動リヤワイパーの作動	作動あり／作動なし	作動あり
キー連動格納ドアミラー	展開タイミング	ACC ON／ドアアンロック	ドアアンロック
リバース連動チルトダウンドアミラー	作動対象	助手席のみ／両側	助手席のみ
	ラスト位置保持機能	ON／OFF	OFF
アイドリングストップ	方向指示レバー操作時アイドリングストップ非作動および自動解除	有効／無効	無効
ウェルカムライティング	ウェルカムライティングの作動時間（乗車時、降車時それぞれに設定可能）	作動あり／作動なし	作動あり
		10秒／20秒／30秒	30秒
前席ウインドゥリモート開閉機能	アクセスキー操作での前席パワーウインドゥ開閉	作動あり／作動なし	作動なし
ワイパー連動ヘッドランプ	ワイパー連動ヘッドランプの作動	作動あり／作動なし	作動あり
キーレスアクセス／電波式リモコンドアロック	アンサーバックブザーの音量	OFF／1（小）～7（大）	5（標準）

項目	機能の内容	設定	初期設定
エマージェンシーストップシグナル	エマージェンシーストップシグナルの作動	作動あり／作動なし	作動あり
SRH（ステアリング連動ヘッドランプ）	SRH（ステアリング連動ヘッドランプ）の作動	作動あり／作動なし※1	作動あり
ADB（アダプティブドライビングビーム）	ADB（アダプティブドライビングビーム）の作動	作動あり／作動なし	作動あり
オートディマーキャンセル	感度調整	OFF／1（弱）～5（強）	3（標準）
パワーリヤゲート開閉機能※2	アクセスキーによるパワーリヤゲート開閉の作動	OFF／2回押し／長押し	長押し

※1: カスタマイズで「作動あり」に設定していても、SRH OFFスイッチを押すと「作動なし」にすることができますが、プッシュエンジンスイッチをONにするたびに「作動あり」に復帰します。カスタマイズで「作動なし」に設定している場合は常時「作動なし」となり、SRH OFFスイッチを押してもプッシュエンジンスイッチをONにしても、「作動なし」のままとなります。
※2: パワーリヤゲート装備車

困ったときのQ&A

	アクセスキーでドアが開かない
	電波ノイズの影響または電池切れが考えられます。 お車に近づいて再度操作してください。 お車の周囲約 1 m 以内で何度か操作をしても開かない場合は、アクセスキーの電池の消耗あるいは故障が考えられます。スバル販売店にご相談ください。 ☞**P.240**参照 ☞**P.722**参照

	エンジンが始動しない
	ブレーキペダルの踏み込みが弱いことが考えられます。 プッシュエンジンスイッチ内の作動表示灯が緑色に点灯するまでブレーキペダルを踏み込み、プッシュエンジンスイッチを押してください。 なお、エンジン始動前はブレーキペダルが重くなることがありますが、異常ではありません。 ☞**P.369**参照
	ハンドルがロックされていることが考えられます。 ハンドルを軽く左右に回しながら、ブレーキペダルを踏み、プッシュエンジンスイッチを押してください。 表示灯が緑色に点滅しているときはエンジンが始動しません。 ☞**P.367**参照

後席ドアが中から開けられない

お子さまの誤操作防止機能（チャイルドプルーフ）が作動していることが考えられます。
車外からドアハンドルを引いて開けてください。
お子さまの誤操作防止機能（チャイルドプルーフ）を解除するときは、レバーを「LOCK」と反対側に動かしてください。
☞**P.261**参照

ハンドルが急に重くなった

電動パワーステアリングの保護システムが作動していることが考えられます。
車庫入れなどでハンドル操作を何度も繰り返すと、保護システムが作動することがあります。このときハンドルが重くなりますが、故障ではありません。通常の操作力に戻るまで、しばらくハンドル操作を控えてください。
☞**P.375**参照

アイドリングストップしない

アイドリングストップが作動する条件を満たしていないことが考えられます。
走行中、アイドリングストップする条件が揃うとアイドリングストップ表示灯（緑色）が点灯します。
☞**P.578**参照

停車時または停車後のブレーキおよびハンドルの操作が、アイドリングストップが作動する条件を満たしていないことが考えられます。
- ブレーキの踏み込みが弱いとアイドリングストップしないことがあります。停車後、ブレーキを踏み増ししてください。
- ハンドルは曲がっていませんか？
  停車時にハンドルが直進状態でなかった場合、または停車後ハンドルを操作しているときはアイドリングストップしません。

☞**P.580**参照

アイドリングストップした後、ブザーが鳴りエンジンが始動できない

アイドリングストップ中、安全を確保するため、強制的にエンスト状態になります。
セレクトレバーを“P”にし、通常の操作でエンジンを始動してください。
☞**P.585**参照

パワーリヤゲートが開閉できない
(パワーリヤゲート装備車)

ブザー（ピピピッ）が鳴ったときは、パワーリヤゲートが作動する条件を満たしていないことが考えられます。

- セレクトレバーは“P”になっていますか？
- 人や物に当たっていませんか？
- パワーリヤゲートは解錠されていますか？
  走行後は、オートドアロック機能によって施錠されている場合があります。

☞**P.279**参照

スイッチを正しく操作していないことが考えられます。
アクセスキーの 🚗 ボタンおよびパワーリヤゲート運転席スイッチで開閉するときは、パワーリヤゲートが動き始めるまで押し続けてください。

パワーリヤゲートが一番上まで開かない
(パワーリヤゲート装備車)

メモリーハイトスイッチが ON になっていることが考えられます。
運転席のメモリーハイトスイッチを OFF にしてください。

☞**P.287**参照

パワーリヤゲートが突然停止した
(パワーリヤゲート装備車)

パワーリヤゲートの開作動中にバッテリー電圧が一時的に下がったことが考えられます。
パワーリヤゲートの作動中は、エンジンを始動したり、他の電装品を使用したりしないようにしてください。

後退時、カメラ映像が映らない

カメラセレクトレバー連動機能を OFF に設定していませんか？

☞**P.181**参照

カメラ映像の映りが悪い

レンズカバーが汚れていませんか？
太陽の強い反射光や周辺の車のヘッドランプの光が直接レンズにあたっていませんか？

故障と思う前に

	全車速追従機能付クルーズコントロールがセットできない
	(クルーズ）スイッチを押し忘れていませんか？ 押し忘れているときは “ ”（全車速追従機能付クルーズ表示灯）は点灯しません。
	EyeSightシステムが一時停止状態になっていませんか？ EyeSightシステムが一時停止状態のときは、マルチインフォメーションディスプレイに “ ”（EyeSight一時停止表示灯）が点灯します。 一時停止状態の要因を解消した後、再度設定操作を行ってください。
	READY表示灯が点灯していますか？ 全車速追従機能付クルーズコントロールは、READY表示灯が点灯していないとセットできません。READY表示灯が点灯しているときセット操作をしてください。

	READY表示灯が点灯しない
	セットできる条件ですか？ READY 表示灯が点灯する条件については下記を参照してください。 ☞**P.463、547**参照

	先行車を認識しない、認識するのが遅い、すぐに認識しなくなるなど
	停止車両、極端に遅い車両ではありませんか？ 停止車両や極端に遅い車両は認識が遅れる場合があります。
	フロントガラスに曇りや汚れがありませんか？ ステレオカメラ前のガラスの外側が汚れている場合は、清掃をしてください。カメラのレンズ部周辺が汚れている、または曇りが晴れない場合はスバル販売店にて点検を行ってください。
	先行車が遠い距離にいませんか？ ステレオカメラの最大の認識距離は約130 mです。それ以上の距離が開いていると認識しません。
	カーブ路ではありませんか？ 認識範囲は左右に限界があります。
	上り下りが連続した道路（陸橋など）、またはバンク路面（路面が傾いている道路）ではありませんか？ 認識範囲は上下に限界があります。
	先行車が入れ替わっていませんか？ 入れ替わった場合は、認識が遅れることがあります。
	先行車が水や雪などを巻き上げて走行していませんか？ 水や雪を巻き上げている場合、先行車を認識できないことがあります。

	先行車がいないのに全車速追従機能付クルーズコントロール制御を行う
	隣車線に車両はありませんか？ 道路状況によっては隣車線の車両を先行車として認識する場合があります。
	カーブ付近を走行中ではありませんか？ カーブ走行中は、ガードレール、路側の構造物に対してブレーキ制御を行う場合があります。

	先行車がいないのに、先行車発進お知らせが作動する
	車両前方の周辺物や交通環境、天候によって先行車以外の物に対して先行車発進お知らせが作動する場合があります。

	EyeSightシステムが一時停止から復帰しない
	雨天の中を、性能が悪化したワイパーのままや、フロントガラスに油膜が付着した状態で走行していませんか？ ワイパーを新品に替え、フロントガラスの油膜を取り除いてください。
	太陽が真正面（西日など）にあったり、夜間対向車の強いヘッドランプをあびていませんか？ この場合、EyeSightシステムが一時停止状態になります。
	低温または高温の場所に駐車していませんか？ この場合、ステレオカメラが使用可能な温度になるまで、EyeSightシステムが一時停止状態になります。
	フロントガラスに曇りや汚れがありませんか？ ステレオカメラ前のガラスの外側が汚れている場合は、清掃をしてください。カメラのレンズ部周辺が汚れている、または曇りが晴れない場合はスバル販売店にて点検を行ってください。

	ブレーキ踏み増し要求警報のタイミングが早いとき、または遅いときがある
	ブレーキ踏み増し要求警報は、先行車との距離や速度差などから、システムが踏み増し要と判断したときに作動するため、先行車のブレーキのかけかたによってはタイミングが変わる場合があります。

	先行車がいなくなった後や、先行車との距離が離れた後の加速が遅いとき、または速いときがある
	自車や先行車の走行状態や周囲の道路状況によっては、システムの判断が遅くなる場合があり、加速するタイミングが遅く感じる可能性があります。
	システムが赤信号を認識していませんか？ 赤信号を認識しているときは不要な加速を抑えることがあります。
	クルーズコントロールはどの加速レベルを選択していますか？ 選択したモードによりクルーズコントロール※の特性が変わるため、加速が異なります。 ※ 全車速追従機能付クルーズコントロールおよび定速クルーズコントロール

	クルーズコントロールが勝手に解除された
	クルーズコントロールを解除する操作をしていませんか？ ☞**P.479**、**554**参照
	EyeSight システムが一時停止状態になっていませんか？ ※ 全車速追従機能付クルーズコントロールを使用している場合

	システムによるブレーキが作動すると音がする
	システムによるブレーキの作動音で異常ではありません。

	渋滞走行時、ブレーキ制御を行う頻度が高い
	人の運転と異なり先行車の動きのみにあわせての制御ですので、頻繁な加減速となる場合があります。なお、このような状況で車間距離が保ちにくい場合は使用を控えてください。

	停止保持中に電動パーキングブレーキが勝手に作動した
	次の場合は電動パーキングブレーキがかかります。 • 停止保持状態で約2分経過したとき • 自動解除条件を満たしたとき ☞**P.476**、**479**参照

	全車速追従機能付クルーズコントロールの停止保持中にエンジンが停止した
	アイドリングストップ表示灯（緑色）が点灯していませんか？ これはアイドリングストップの作動によるもので異常ではありません。

全車速追従機能付クルーズコントロールの停止保持中にアイドリングストップしない

アイドリングストップの作動条件については下記を参照してください。
☞P.581参照

(レーンキープ) スイッチを押したけど、車線中央維持・先行車追従操舵機能が働かない

全車速追従機能付クルーズコントロールをセットしていますか？
車線中央維持・先行車追従操舵機能は全車速追従機能付クルーズコントロールが作動しているときだけ働きます。

カスタマイズ機能で「レーンキープ 中央維持＋先行車追従」をONにしていますか?
カスタマイズ機能で「レーンキープ 中央維持＋先行車追従」を OFF にしているときは、車線逸脱抑制機能が働きます。

道路に白線がはっきりと描かれているのに車線中央維持・先行車追従操舵機能、車線逸脱抑制機能が働かない

車線の幅が狭い、もしくは広くありませんか？
車線の幅が約3 m～約4 mでないと、車線中央維持・先行車追従操舵機能、車線逸脱抑制機能は作動しません。

車線中央維持・先行車追従操舵機能、車線逸脱抑制機能が勝手に解除された

ハンドルから手を離していませんか？ハンドルに軽く手を添えて運転をしていませんか？
システムが運転者のハンドル操作を検知できない場合、車線中央維持・先行車追従操舵機能、車線逸脱抑制機能を一時解除します。

急なカーブを走行していませんか？
急カーブでは車線中央維持・先行車追従操舵機能、車線逸脱抑制機能は作動しません。

次のいずれかの操作をしていませんか？
☞P.496参照（車線中央維持・先行車追従操舵機能）
☞P.508参照（車線逸脱抑制機能）

先行車が自車の前方を走行中で先行車表示灯が点灯しているのに、車線中央維持・先行車追従操舵機能が働かない

先行車の幅が狭くありませんか？
自動二輪車、超小型車など幅の狭い先行車に対しては先行車追従操舵機能は作動しません。

先行車との速度差がある、もしくは先行車が自車の正面から外れていませんか？
先行車と速度差がある（先行車が離れていってしまう）、または先行車が蛇行していたり、車線の端によって走行しているなどの状況では、先行車追従操舵機能が作動しないことがあります。

	後退するときに、アクセルペダルを急に踏んでも後退飛び出し抑制が働かない
	通常の運転操作時に不必要な制限をしないように、踏み込み強さの判定値を高く設定しています。 ただし、後退飛び出し抑制が働かない場合でも、後退速度リミッター※により、急な加速を抑えます。 ※ 後退速度リミッターを作動あり（高速／中速／低速）に設定しているときのみ。
	プリクラッシュブレーキ OFF 表示灯が点灯していませんか? プリクラッシュブレーキ OFF 表示灯が点灯しているときは、AT誤後進抑制制御（後退飛び出し抑制、後退速度リミッター）は作動しません。プリクラッシュブレーキOFFスイッチを押して、機能をONにしてください。
	EyeSight システムが一時停止状態になっていませんか?

	後退飛び出し抑制が勝手に解除された
	次のいずれかの操作をしていませんか? • アクセルペダルを深く踏んだ状態が3秒以上継続した。 ー システムが運転者に速く後退したい意思があると判定し、徐々に制御を解除します。 • ブレーキペダルを踏んだ ー システムが運転者に減速したい意思があると判定し、制御を解除します。
	EyeSightシステムが一時停止状態になっていませんか? 後退飛び出し抑制が作動中に EyeSight システムが一時停止したときは、徐々に制御を解除します。

	後退速度リミッターが効かない
	設定がOFFになっていませんか？または、後退速度リミッターの制限速度が速く設定されていませんか? 後退速度リミッターの制限速度は、カスタマイズ操作で設定します。 OFFになっていたり、制限速度がお客様の通常の後退速度より速く設定されている場合は、設定を変更してください。
	プリクラッシュブレーキOFF表示灯が点灯していませんか? プリクラッシュブレーキOFF表示灯が点灯しているときは、AT誤後進抑制制御（後退飛び出し抑制、後退速度リミッター）は作動しません。プリクラッシュブレーキOFFスイッチを押して、機能をONにしてください。
	EyeSightシステムが一時停止状態になっていませんか?

	後退速度リミッターが作動中に勝手に解除された
	次のいずれかの操作をしていませんか? • アクセルペダルを深く踏んだ – システムが運転者に速く後退したい意思があると判定し、徐々に制御を解除します。 • ブレーキペダルを踏んだ – システムが運転者に減速したい意思があると判定し、制御を解除します。
	EyeSightシステムが一時停止状態になっていませんか? 後退速度リミッターが作動中にEyeSightシステムが一時停止したときは、徐々に制御を解除します。

さくいん

あ

アームレスト ····· 312、317
RAB ····· 557
　一時停止表示灯 ····· 120、566
　OFF表示灯 ····· 120、566
　警告灯 ····· 133
　RABソナーセンサー ····· 422
EyeSight一時停止表示灯 ····· 122
EyeSight警告表示灯 ····· 133
EyeSightについて ····· 415
アイドリングストップ ····· 578
　OFFスイッチ ····· 583
　OFF表示灯 ····· 120、584
　警告灯 ····· 132、584
　警告ブザー ····· 585
　作動しない条件 ····· 581
　作動条件 ····· 580
　使用上の注意 ····· 32
　表示灯 ····· 120、584
青信号お知らせ ····· 543
アクセスキー ····· 238
　エンジンの始動・停止 ····· 369
　警告音および警告表示 ····· 373
　作動エリア ····· 245、365
　正常に作動しないとき ····· 771
　電池交換 ····· 722
　ドアの施錠・解錠 ····· 245
アクティブトルクスプリットAWD ····· 364
アシストグリップ（回転式） ····· 679
暗証コード式キーレスエントリー ···· 252
アンチロックブレーキシステム（ABS） ····· 376
　警告灯 ····· 125
アンテナ ····· 360

い

逸脱回避要求警報 ····· 499
イベントデータレコーダー（EDR） ···· 36
イモビライザー ····· 295
イルミネーションコントロールダイヤル ····· 359
　オートディマーキャンセル機能 ···· 359

う

ウエアインジケーター ····· 703
ウェルカムライティング ····· 263
ウォッシャー液
　寒冷地での使いかた ····· 743
　スイッチ ····· 349
　タンク ····· 751
　濃度調整 ····· 743
運転
　雨天の走行 ····· 24
　運転支援機能 ····· 574

え

AWD（全輪駆動）
　AWD車の運転 ····· 362
　警告灯 ····· 126
AT誤後進抑制制御
　AT誤後進抑制制御をOFFにするとき ····· 533
　後退速度リミッター ····· 532
　後退飛び出し抑制 ····· 531
AT誤発進抑制制御
　AT誤発進抑制制御をOFFにするとき ····· 528
ADB ····· 606
　警告灯 ····· 131、609
　使いかた ····· 607
　表示灯 ····· 116
AT油温警告灯 ····· 127
ABS（アンチロックブレーキシステム） ····· 376
　警告灯 ····· 125
AVH ····· 574
　作動灯 ····· 575
　表示灯 ····· 575
エアコン
　エアコンフィルターの交換 ····· 718
　吹き出し口 ····· 644

エアバッグ
SRSエアバッグシステム ····· 53
SRSエアバッグシステム
（サイド・カーテン）····· 59
ECO（エコ）ゲージ·····113、134
SRH（ステアリング連動ヘッドランプ）
·····604
SRSエアバッグシステム
警告灯 ····· 71、126
作動しないとき ····· 66
作動しにくいとき ····· 64
作動するとき ····· 63
SRSエアバッグシステム
（サイド・カーテン）
作動しないとき ····· 70
作動しにくいとき ····· 69
作動するとき ····· 67
SRVD ·····592
SI-DRIVE ·····399
スイッチ ·····399
表示 ·····119
X（エックス）モード·····400
スイッチ ·····402
エマージェンシーストップシグナル
·····381
エマージェンシーレーンキープアシスト
·····511
LEDヘッドランプ警告灯 ·····131
エレクトロニックブレーキフォース
ディストリビューション（EBD）
····· 380
エンジン
警告灯····· 128
始動····· 365、369
停止のしかた····· 371
エンジンオイル····· 701、797
オイルプレッシャー警告灯····· 127
点検····· 748
エンジンブレーキ·····25

お

オートヘッドランプレベラー
（自動光軸調整機構）····· 344
オートライト····· 342
オートワイパー····· 347
オーバーヒートしたとき····· 789
オーバーヘッドコンソールボックス·· 669
応急用スペアタイヤ····· 757
格納場所····· 757
空気圧····· 800
サイズ····· 799
お車の手入れ····· 688
お子さまの安全
シートベルト·····21、39
チャイルドシート·····85
乗せるときの注意·····20
オドメーター（積算距離計）····· 111

か

カーゴアッパーフック ·····681
カーゴフック ·····680
カーゴルームランプ ·····685
電球（バルブ）の交換 ·····735
カーテシーランプ
電球（バルブ）の交換 ·····733
ワット数 ·····725
カーテンエアバッグ ····· 59
外装の手入れ ·····690
買い物フック ·····680
カスタマイズ機能 ·····801
カップホルダー ·····662
ガラスの手入れ ·····692
感知センサー ·····661
寒冷地での使いかた ·····738

き

キー ·····238
キーナンバープレート ····· 17
閉じ込み防止機能 ·····266
キーレスアクセス&プッシュスタート
エンジンの始動・停止 ·····369
警告音および警告表示 ·····373
作動エリア ·····245、365
正常に作動しないとき ·····771
施錠·解錠 ·····245
給油
給油するときには ····· 29

く

クルーズコントロール
セット車速表示 …… 118
全車速追従機能付クルーズコントロール …… 457
定速クルーズコントロール …… 545
表示灯 …… 117
クルーズスイッチ …… 428
グローブボックス …… 666

け

警告灯 ……15、123
EyeSight警告表示灯…… 133
アイドリングストップ警告灯 …… 132、584
AWD警告灯 …… 126
ADB警告灯 …… 131
AT油温警告灯…… 127
ABS警告灯 …… 125
SRVD警告灯…… 131
LEDヘッドランプ警告灯 …… 131
エンジン警告灯 …… 128
オートヘッドランプレベラー警告灯 …… 132
オイルプレッシャー警告灯 …… 127
シートベルト警告灯 …… 124
水温警告灯 …… 132
ステアリング制御警告灯 …… 132
チャージ警告灯 …… 128
電動パーキングブレーキ警告灯 … 124
燃料残量警告灯 …… 129
半ドア警告灯 …… 125
ブレーキ警告灯 …… 123
歩行者保護エアバッグ警告灯 …… 127
警報装置 …… 298
作動させてしまったときには …… 301
設定 …… 302
表示灯 …… 115
けん引のとき …… 781
けん引フック ……783、787

こ

コートフック …… 679
高速道路、自動車専用道路で動けなくなったとき …… 764
後側方警戒支援システム（SRVD）
OFF表示灯 …… 116
警告灯 …… 131
後退速度リミッター …… 532
後退灯
電球（バルブ）の交換 …… 732
後退飛び出し抑制 …… 531
故障したとき …… 763
故障時の対応方法と連絡先 …… 766
故障と思う前に …… 807
小物入れ …… 666
コンソールボックス …… 668
コンビネーションメーター…… 108
警告灯……15、123
表示灯……13、114
メーター…… 108

さ

サービスデータ…… 796
サイドエアバッグ……59
サイドビューモニター…… 610
サブトランク…… 670
サンバイザー…… 664
サンルーフ…… 292
サンシェード…… 294
閉まらないとき…… 770
操作…… 292

し

シート
正しい運転（乗車）姿勢…… 303
パワーシート…… 308
フロントシート…… 306
リヤシート…… 315
シートヒーター…… 313、321
シートベルト……38
警告灯…… 124
警報……49
正しい着用……38
プリテンショナー……52
シートベルトで固定するチャイルドシートについて…… 103

CVT車 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・390
運転手順 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・408
セレクトレバー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・390
マニュアルモード ・・・・・・・・・・・・・・・・・・395
油温警告灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・127
事故が起きたとき ・・・・・・・・・・・・・・・・・・792
自車表示灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・117
システム作動音一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・568
自動光軸調整機構
（オートヘッドランプレベラー）
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・344
警告灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・132
シフトポジション表示 ・・・・・・・・・・・・・・・116
シフトロックシステム ・・・・・・・・・・・・・・・394
解除ボタン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・767
車間設定
表示灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・118
車間設定スイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・429
車間設定を変える ・・・・・・・・・・・・・・・・・・473
車載工具 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・754
車線逸脱警報 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・535
OFF表示灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・121
車線逸脱警報をOFFにするとき
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・538
車線逸脱抑制機能 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・501
車線表示灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・121
車幅灯
ワット数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・725
シャワーライト ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・684
集中ドアロック ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・265
信号認識機能 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 485

す

水温警告灯／水温表示灯 ・・・・・・・・・・・・・ 132
スイッチ
アイドリングストップOFFスイッチ
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 583
クルーズスイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 428
車間設定スイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 429
車線逸脱警報OFFスイッチ ・・・・・・・・ 430
ステアリングスイッチ ・・・・・・・・・・・・・ 427
SET/－スイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 428
プリクラッシュブレーキOFFスイッチ
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 430
マルチインフォメーションディスプレイ
操作スイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・ 135
RES/＋スイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 428
レーンキープスイッチ ・・・・・・・・・・・・・ 429
スタッドレスタイヤ（冬用タイヤ）
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 741
ステアリング制御警告灯 ・・・・・・・・・・・・ 132
ステアリングヒーター ・・・・・・・・・・・・・・ 358
ステアリング連動ヘッドランプ（SRH）
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 604
OFF表示灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 605
ステレオカメラの取り扱いについて
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 418
スパークプラグ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 796
スピードメーター ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 110
スペアタイヤ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 757
スポットマップランプ
シャワーライト ・・・・・・・・・・・・・・・・・・684
使いかた ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・683
スマートリヤビューミラー ・・・・・・・・・・324
スライド調整（前後の調整）・・・・・・・・・309

せ

セキュリティシステム ・・・・・・・・・・・・・295
イモビライザー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・295
盗難警報装置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・298
表示灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・115、297
節電機能 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・251
SET/－スイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・428
セット車速を変える ・・・・・・・・・・469、550
背もたれの角度調整
（リクライニング調整）
フロントシート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・309
リヤシート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・316
セレクトインジケーター ・・・・・・・・・・・・・115
セレクトレバー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・390
レバーが動かないとき ・・・・・・・・・・・・・767
先行車発進お知らせ ・・・・・・・・・・・・・・・544
先行車表示灯 ・・・・・・・・・・・・・・・117、466
全車速追従機能付クルーズコントロール
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・457
解除 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・478
使用方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・463
全車速追従機能付クルーズ表示灯
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・117
洗車のしかた ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・690

センタートレイ ····· 667
全輪駆動（AWD）
AWD車の運転 ····· 362
警告灯 ····· 126

そ

走行するときには ····· 23
速度計（スピードメーター）····· 110

た

タイヤ
ウエアインジケーター ····· 703
応急用スペアタイヤ ····· 757
空気圧 ····· 800
サイズ ····· 799
タイヤ交換 ····· 710
タイヤローテーション（位置交換）
····· 704
チェーンの装着 ····· 742
点検 ····· 702
冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）
····· 741
タイヤ・ホイール
アライメント ····· 705
バランス ····· 705
タコメーター ····· 110

ち

チャージ警告灯 ····· 128
チャイルドシート ····· 85
種類 ····· 86
適合性一覧 ····· 89
チャイルドプルーフ ····· 261
駐車
寒冷地での使いかた ····· 739
駐・停車するときには ····· 27
ブレーキ警告灯 ····· 123
チルト／テレスコピックステアリング
····· 322

つ

ツーリングアシスト ····· 424、457
車線中央維持・先行車追従操舵機能
····· 487
全車速追従機能付クルーズコントロール
····· 457
レーンキープ表示灯 ····· 118

て

定速クルーズコントロール ····· 545
解除 ····· 553
使用方法 ····· 547
表示灯 ····· 117
定速クルーズコントロールを
セットするとき ····· 547
手入れ ····· 688
電球（バルブ）
交換 ····· 725
ワット数 ····· 725、726
電源ソケット ····· 675
電源の切り替えおよびエンジン始動の
作動エリア ····· 365
電池交換
アクセスキー ····· 722
電動格納式ドアミラー ····· 332
電動ガラスサンルーフ ····· 292
サンシェード ····· 294
操作 ····· 292
電動パーキングブレーキ ····· 383
警告灯 ····· 124
作動灯 ····· 114
電動リモコンドアミラー ····· 330
電波式リモコンドアロック ····· 258

と

ドア ····· 261
開閉 ····· 261
施錠・解錠 ····· 245、258
ドアミラー ····· 330
盗難警報装置 ····· 298
作動させてしまったときには ····· 301
設定 ····· 302
表示灯 ····· 115
時計 ····· 171、177
トップテザーアンカレッジ ····· 102
トノカバー ····· 671

ドライバーポジションメモリー ……335
ドライバーモニタリングシステム ….617
トラクションコントロール（TCS）
……587
トリップメーター ……112

な

内装の手入れ ……694

に

日常点検 ……748
日常の手入れ ……688

ね

燃料
指定燃料 ……796
タンクの水分除去 ……701
タンク容量 ……796
燃料給油口 ……275
燃料計 ……111
燃料残量警告灯 ……129

は

パーキングブレーキ ……383
排気ガスの換気 …… 19
ハイビーム／パッシング表示灯 ……115
ハザードランプ（非常点滅表示灯）
スイッチ ……357
バルブ（電球）の交換 ……729
ワット数 ……725
発炎筒 ……761
パッシング…… 343
バッテリー
型式…… 796
警告灯…… 128
バッテリーが上がったとき
…… 773
バッテリー上がり防止機能…… 368
パドルシフトレバー…… 396
バニティミラー…… 665
バルブ（電球）
交換…… 725
ワット数…… 725、726
パワーウインドゥ…… 269
パワーシート…… 308
パワーステアリング…… 375
パワーリヤゲート…… 278
開けられなくなったとき…… 769
動かなくなったとき…… 768
開閉…… 278
メモリーハイト機能…… 286
パンクしたとき…… 757
半ドア
警告灯…… 125
半ドア対策機能…… 267
ハンドル
ステアリングヒーター…… 358
チルト／テレスコピックステアリング
…… 322
パワーステアリング…… 375
ロックの解除…… 367

ひ

ビークルダイナミクス
コントロール（VDC）……587
OFF表示灯 ……116
ヒーテッドドアミラー ……334
非常点滅表示灯（ハザードランプ）
スイッチ ……357
バルブ（電球）の交換 ……729
ワット数 ……725
ヒューズ ……777
点検・交換 ……779
表示灯 …… 13、114
EyeSight一時停止表示灯 ……122
EyeSight警告表示灯 ……133
アイドリングストップOFF表示灯
……120、584
アイドリングストップ表示灯
……120、584
SRVD OFF表示灯……116
自車表示灯 ……117
車間設定表示灯 ……118
車線逸脱警報OFF表示灯 ……121
車線表示灯 ……121
水温表示灯 ……132
セキュリティ表示灯 ……115
セット車速表示 ……118
セレクトインジケーター ……115
先行車表示灯 ……117、466

全車速追従機能付クルーズ表示灯 …… 117
定速クルーズ表示灯 …… 117
電動パーキングブレーキ作動灯 … 114
ハイビーム／パッシング表示灯 … 115
VDC OFF表示灯 …… 116
プリクラッシュブレーキOFF表示灯 …… 121
フロントフォグランプ表示灯 …… 115
方向指示器表示灯 …… 114
ライティングスイッチ表示灯 …… 115
リヤフォグランプ表示灯 …… 115
レーンキープ先行車表示灯 …… 118
レーンキープ表示灯 …… 118
READY表示灯 …… 117
ヒルディセントコントロール …… 404
表示灯 …… 406

ふ

VDC（ビークルダイナミクスコントロール） …… 587
OFFスイッチ …… 591
OFF表示灯 …… 116
警告灯 …… 130、589
作動表示灯 …… 115、589
フォグランプ
スイッチ …… 346
表示灯 …… 115
プッシュエンジンスイッチ …… 365、369
切り替えかた …… 366
警告音および警告表示 …… 373
踏切で動けなくなったとき …… 763
フューエルメーター（燃料計）…… 111
フューエルリッド（燃料給油口）…… 275
冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ） …… 741
プラグ（スパークプラグ）…… 796
ふらつき警報 …… 539
ふらつき警報をOFFにするとき …… 542
プリクラッシュブレーキ …… 424、432
プリクラッシュブレーキを OFFにするとき …… 456
プリテンショナー付シートベルト …… 52
ブレーキ
エマージェンシーストップシグナル …… 381
警告灯 …… 123
電動パーキングブレーキ …… 383
ブレーキアシスト …… 382
ブレーキオーバーライド …… 382
ブレーキブースター …… 381
フロントウォッシャー …… 349
フロントシート …… 306
アームレスト …… 312
シートヒーター …… 313
上下調整 …… 310
スライド調整（前後の調整） …… 309
パワーシート …… 308
ヘッドレストの角度調整 …… 307
ヘッドレストの高さ調整 …… 306
リクライニング調整 （背もたれの角度調整） …… 309
フロントシートベルト …… 41
フロントビューモニター …… 610
フロントフォグランプ
スイッチ …… 346
表示灯 …… 115
フロントワイパー …… 347
オートワイパー …… 347
デアイサースイッチ …… 355

へ

ヘッドランプ
合図のしかた（パッシング）…… 343
ウォッシャー …… 352
上下を切り替えるとき …… 343
ステアリング連動ヘッドランプ（SRH） …… 604
ハイビーム／パッシング表示灯 … 115
ライティングスイッチ …… 340
ライティングスイッチ表示灯 …… 115
ヘッドレスト …… 306、307、315

ほ

ホーンスイッチ ……357
方向指示器
表示灯 ……114
レバー ……345
ワット数 ……725
歩行者保護エアバッグ …… 72
警告灯 …… 83、127
作動するとき、しないとき …… 79
ボディカバー ……689
ボンネット ……698

ま

マルチインフォメーションディスプレイ
……134
カスタマイズ機能 ……158
画面の切り替えかた ……136
操作スイッチ ……135
割り込み画面 ……140
マルチファンクションディスプレイ
……165
カスタマイズ機能 ……180
画面の切り替えかた ……170
操作スイッチ ……166
割り込み画面 ……235
万一の場合 ……753

み

ミラー
スマートリヤビューミラー…… 324
ドアミラー…… 330
バニティミラー…… 665
ルームミラー…… 323

め

メーター…… 108
警告灯……15、123
初期作動…… 110
表示灯……13、114
マルチインフォメーションディスプレイ
…… 134
メカニカルキーによる施錠・解錠…· 771
メモリーされている車速に
再びセットする …… 482、556

ゆ

USB電源 …… 677
ユーザー情報連動機能…… 628

ら

ライティングスイッチ…… 340
表示灯…… 115

り

リクライニング調整（背もたれの角度調整）
……309、316
RES/＋スイッチ ……428
リヤウインドゥデフォッガースイッチ
……353
リヤゲート ……290
開けられなくなったとき ……769
リヤシート ……315
アームレスト ……317
シートヒーター ……321
ヘッドレストの高さ調整 ……315
リクライニング調整
（背もたれの角度調整）……316
リヤシートベルト …… 44
リヤフォグランプ
スイッチ ……346
表示灯 ……115
リヤワイパー／ウォッシャー ……350

る

ルームミラー ……323
スマートリヤビューミラー ……324
防眩ルームミラー ……323
ルームランプ ……683
使いかた ……683

れ

レーンキープスイッチ ····· 429
冷却水 ····· 798
　濃度 ····· 742
READY表示灯 ····· 117

ろ

ロアアンカレッジ方式で固定する
　チャイルドシートについて·····98
路上で動けなくなったとき ····· 766

わ

ワイパー &ウォッシャースイッチ ··· 347
ワイパーデアイサー ····· 355
ワイパーブレードの交換 ····· 713
ワンタッチ機能（方向指示器）····· 345

A

ABS（アンチロックブレーキシステム）
　····· 376
　警告灯 ····· 125
ADB ····· 606
　警告灯 ····· 131、609
　使いかた ····· 607
　表示灯 ····· 116
AT誤後進抑制制御
　AT誤後進抑制制御をOFFにするとき
　····· 533
　後退速度リミッター ····· 532
　後退飛び出し抑制 ····· 531
AT誤発進抑制制御
　AT誤発進抑制制御をOFFにするとき
　····· 528
AT油温警告灯 ····· 127
AVH ····· 574
　作動灯 ····· 575
　表示灯 ····· 575
AWD（全輪駆動）
　AWD車の運転 ····· 362
　警告灯 ····· 126

C

CVT車 ····· 390
　運転手順 ····· 408
　セレクトレバー ····· 390
　マニュアルモード ····· 395

E

EBD（エレクトロニックブレーキフォース
　ディストリビューション）···· 380
ECO（エコ）ゲージ····· 113、134
EDR（イベントデータレコーダー）···· 36
EyeSight一時停止表示灯 ····· 122
EyeSight警告表示灯 ····· 133
EyeSightについて ····· 415

L

LEDヘッドランプ警告灯 ····· 131

R

RAB ····· 557
　一時停止表示灯····· 120、566
　OFF表示灯 ····· 120、566
　警告灯····· 133
　RABソナーセンサー ····· 422
READY表示灯 ····· 117
RES/＋スイッチ ····· 428

S

SET/－スイッチ····· 428
SI-DRIVE····· 399
　スイッチ····· 399
　表示····· 119
SRH（ステアリング連動ヘッドランプ）
　····· 604
SRSエアバッグシステム ·····53
　警告灯·····71、126
　作動しないとき·····66
　作動しにくいとき·····64
　作動するとき·····63
SRSエアバッグシステム
　（サイド・カーテン）·····59
　作動しないとき·····70
　作動しにくいとき·····69
　作動するとき·····67
SRVD····· 592

T

TCS（トラクションコントロール）·· 587

U

USB電源・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・677

V

VDC（ビークルダイナミクスコントロール）
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・587
OFFスイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・591
OFF表示灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・116
警告灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・130、589
作動表示灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・115、589

X

X（エックス）モード・・・・・・・・・・・・・・・400
スイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・402

ご意見、ご感想、お問い合わせはお近くのスバル販売店
または弊社「SUBARUお客様センター」へお願いいたします。

＊ お乗りのお車に関してお電話等でお問い合わせをいただく際は、お客さまへ正確・迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証等をご準備いただきますようご協力をお願いしております。

①車検証記載事項
　型式・車台番号・登録番号・登録年月日
②走行距離
③販売店・担当者名

SUBARUお客様センター

SUBARUコール 0120−052215

受付時間 【平　日】9:00 ～17:00　/　【土日祝】9:00 ～12:00、13:00 ～17:00
※平日の 12:00 ～ 13:00 および土日祝は（1）のインフォメーションサービスのみとなります。

SUBARUお客様センターでは下記の内容を承っております。
（1)ご意見／ご感想／ご案内（カタログ、販売店、転居お手続き 他）
（2)お問合せ／ご相談

株式会社SUBARU
〒150-8554　渋谷区恵比寿1-20-8（エビススバルビル）

JAF ロードサービス 救援コール

全国共通・24時間年中無休

ナビダイヤル 0570-00-8139
通話料は有料。
ただし、一部のIP電話等からはご利用になれません。
※携帯電話からおかけの場合
　基本使用料金に含まれる無料通信分の対象とはなりません。

または 短縮ダイヤル #8139
通話料は有料。
ただし、固定電話［ダイヤル回線］からはご利用になれません。

スバルオフィシャルサイトから
取扱説明書がダウンロードできます。

編集・発行　株式会社SUBARU
禁複製・転載

スマートフォン用アプリでもご覧いただけます。ダウンロードはこちら

株式会社SUBARU

発行 2023年3月 Printed in Japan DT
Publication No.A8310JJ-E